北埋調報　第 356 集

厚真町

オコッコ１遺跡(2)

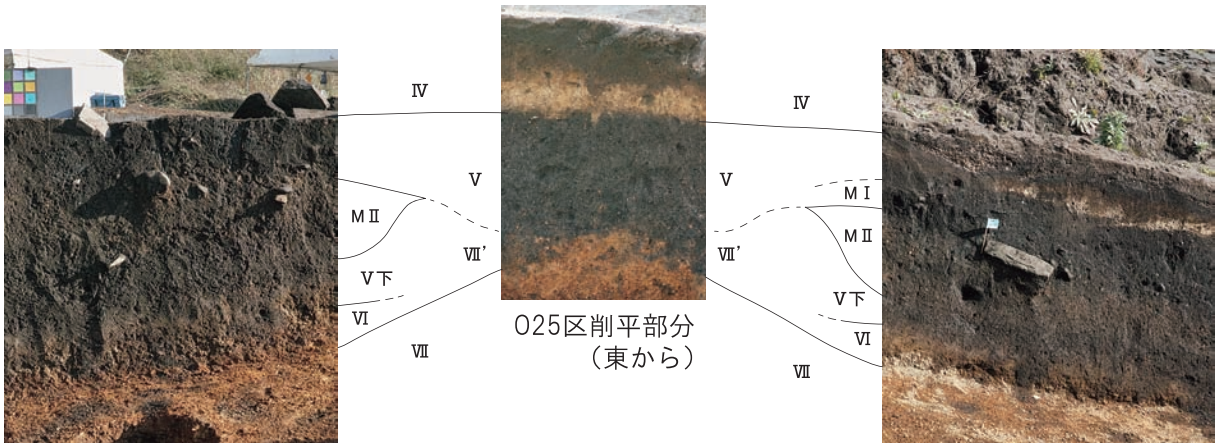
―勇払東部（二期）地区厚幌導水路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書―

平成 30 年度

公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター

調査区遠景（マルチコプター撮影）　（北西から）

北盛土遺物出土状況（パノラマ合成）　（北東から）



O25区削平部分
（東から）

J20区付近北盛土（北から）

U20区付近南盛土（西から）

口絵 2

Ⅱ群 a 2S 類復元土器

石斧群

例　言

1．本書は、国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部が行う勇払東部（二期）地区厚幌導水路工事に伴い、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成27年度に実施した厚真町オコッコ１遺跡の埋蔵文化財調査報告書である。
2．調査は第２調査部第３調査課が担当した。
3．本書の報告に関する遺物整理、執筆、編集は立田　理が担当した。
4．調査写真は立田・新家水奈・阿部明義、第１調査部第１調査課中山昭大が撮影した。遺物写真撮影は中山と立田が行った。なおマルチコプターを使用した空中写真については、森田産業株式会社の協力を得た。
5．保存処理・各種分析・同定は下記に委託した。
　放射性炭素年代測定：株式会社　加速器分析研究所、パリノ・サーヴェイ株式会社
　土器胎土分析：アースサイエンス株式会社
　動物遺存体同定・炭化種実同定：株式会社パレオ・ラボ
　金属製品の成分分析と保存処理：パリノ・サーヴェイ株式会社
6．調査にあたっては下記の諸機関、各氏から御指導、御協力をいただいた。
　北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課
　厚真町教育委員会　乾　哲也　奈良智法
　石狩市教育委員会　工藤義衛
　岩見沢市教育委員会　杉浦章一郎
　様似町教育委員会　髙橋美鈴
　斜里町立知床博物館　松田　功
　新ひだか町教育委員会　斉藤大朋　小野寺　聡
　千歳市教育委員会　松田淳子
　苫小牧勇武津資料館　赤石慎三
　根室市歴史と自然の資料館　猪熊樹人
　平取町教育委員会　森岡健治
　北海道文教大学　白幡知尋
　札幌市　大沼忠春
　株式会社高橋建設
　森田産業株式会社

記号等の説明

1．本文中および図、表中では以下の記号を用い、原則として確認順に番号を付した。
　H：住居跡　P：土坑　TP：T ピット　F：焼土　S：遺物集中域　SP：柱穴状小土坑
　HP：住居跡に付属する（小）土坑
2．遺構平面図において用いた方位は真北。小数字および土層断面図の数値は標高（単位 m）である。
3．遺構の規模は、「確認面の長軸長×短軸長、床面（坑底面）の長軸長×短軸長／確認面からの最大深」を単位 m で示してある。なお、一部破壊されているものは数値に（　）を付した。
4．基本土層はローマ数字、それ以外の土層はアラビア数字を用いて表した。
5．火山灰について以下の略号を用いている部分がある。層位的な検出状況と外見から判断しており、分析による同定は行なっていない。
　Ta-b：樽前 b テフラ（1667 年）　B-Tm：白頭山－苫小牧火山灰（10 世紀）
　Ta-c：樽前 c テフラ（2,500 年前）　Ta-d：樽前 d テフラ（8,000～9,000 年前）
6．掲載した遺構図、遺物実測図の縮尺は原則として以下のとおりである。なお遺構図のうち平地住居跡平面図（80 分の 1）、盛土遺構の出土状況（125 分の 1）等に下記以外の倍率を用いた。個々にスケールを付している。出土状況図に表示した遺物実測図は任意の倍率である。
　～遺　構　図～　遺構実測図　1：40　　遺物出土状況図　1：20
　～遺物実測図～　土器　1：3　剥片石器・石斧関連遺物・鉄製品・石製品　1：2
　礫石器（石皿以外）・石製品の一部（円盤状石製品）　1：3
　石皿　1：5　　骨角器　1：1
7．石器の大きさは「最大長×最大幅×最大厚」で記してある。なお、破損しているものについては、現存の最大幅を（　）で示した。
8．遺物実測図中でたたき痕は∨―∨、すり痕は｜――｜で範囲を表した。また、自然面はドットで表現しているが、石皿においては稜線、剥離、使用痕のみ表現した。
9．出土遺物分布図に以下の記号を用いた部分がある。
　土器：◎、剥片石器：▲、礫石器（石斧含む）：■、礫・礫片：●、金属製品：★、剝片：△
　板状礫：■（赤色）、円礫・棒状礫：■（青色）、その他の遺物：×
10．出土状況実測図中、取上げ番号を緑で示した部分がある。
11．（財）、（公財）北海道埋蔵文化財センター発行調査報告書については（北埋調報○○）と記した。
12．石器の石材について、一覧表について以下の略号を用いた。
　Sa：砂岩、Sh：頁岩、Si：珪化岩、Obs：黒曜石、Ch：チャート、Qua：珪岩、Ag：メノウ、MS：泥岩、Tu：凝灰岩、Rh：流紋岩、Gra：花崗岩、Tor：トロニエム岩、Da：デイサイト、An：安山岩、Bs：玄武岩、Ga：斑糲岩、Dol：粗粒玄武岩、Ser：蛇紋岩、Sch：片岩、Sl：粘板岩、Qu-Sch：石英片岩、Grs：緑色片岩（＝いわゆるアオトラ石）、G-Tu：緑色凝灰岩　Gls：藍閃石片岩、Rod：ロジン岩

目　次

口絵
例言
記号等の説明
目次
挿図目次
表目次
図版目次
Ⅰ章　緒言
1　調査要項 …… 1
2　調査体制 …… 1
3　調査に至る経緯 …… 2
4　調査結果の概要 …… 4
5　本書の内容 …… 4
Ⅱ章　周辺の遺跡と地質
1　周辺の遺跡 …… 5
2　周辺の地質 …… 8
Ⅲ章　調査の方法
1　発掘区の設定 …… 11
2　調査の方法 …… 11
3　遺物整理の方法 …… 13
4　遺物の分類 …… 14
5　基本層序 …… 16
Ⅳ章　Ⅲ層の遺構と出土遺物
1　概要 …… 17
2　Ⅲ層検出の遺構 …… 17
3　Ⅲ層出土の遺物 …… 37
Ⅴ章　Ⅴ層の遺構と出土遺物
1　概要 …… 49
2　Ⅴ層検出の遺構 …… 49
3　出土遺物 …… 108
Ⅵ章　自然科学的分析
1　放射性炭素年代測定（1）…… 255
2　放射性炭素年代測定（2）…… 262
3　胎土分析 …… 264
4　動物遺存体同定 …… 279
5　炭化種実同定 …… 285
6　金属製品の成分分析および保存処理 …… 292

Ⅶ章　総括
1　はじめに …… 301
2　遺構 …… 301
3　遺物 …… 307
引用文献 …… 319

挿図目次

図Ⅱ－1　周辺の遺跡と地質図 …… 6
図Ⅲ－1　発掘区設定図 …… 11
図Ⅲ－2　調査方法 …… 12
図Ⅲ－3　基本土層模式図 …… 16
図Ⅳ－1　Ⅲ層遺構位置図 …… 18
図Ⅳ－2　H－1 …… 19
図Ⅳ－3　S－10・11　礫 …… 20
図Ⅳ－4　H－2（1）…… 21
図Ⅳ－5　H－2（2）…… 22
図Ⅳ－6　H－3（1）…… 24
図Ⅳ－7　H－3（2）…… 26
図Ⅳ－8　H－4（1）…… 27
図Ⅳ－9　H－4（2）…… 28
図Ⅳ－10　H－4（3）…… 29
図Ⅳ－11　P－1 …… 30
図Ⅳ－12　F－9～13 …… 32
図Ⅳ－13　S－4・5・16 …… 34
図Ⅳ－14　S－9・12 …… 35
図Ⅳ－15　S－5・9・12・16礫、土器集中1・2 …… 36
図Ⅳ－16　Ⅲ層出土の土器（1）…… 38
図Ⅳ－17　Ⅲ層出土の土器（2）…… 39
図Ⅳ－18　鉄製品（1）…… 41
図Ⅳ－19　鉄製品（2）・Ⅲ層出土の石器 ‥ 42
図Ⅴ－1　Ⅴ層遺構位置図 …… 50
図Ⅴ－2　盛土・削平部分ベルト設定図 …… 51
図Ⅴ－3　メインセクション（1）…… 52
図Ⅴ－4　メインセクション（2）…… 53
図Ⅴ－5　メインセクション（3）…… 54
図Ⅴ－6　メインセクション（4）…… 55
図Ⅴ－7　メインセクション（5）…… 56
図Ⅴ－8　Ⅴ層・Ⅶ層上面の地形 …… 57
図Ⅴ－9　北盛土遺物出土状況図（1）…… 60
図Ⅴ－10　北盛土遺物出土状況図（2）…… 61
図Ⅴ－11　北盛土遺物出土状況図（3）…… 62
図Ⅴ－12　北盛土遺物出土状況図（4）…… 63
図Ⅴ－13　北盛土遺物出土状況図（5）…… 64
図Ⅴ－14　北盛土東西エレベーション図（1）…… 65
図Ⅴ－15　北盛土東西エレベーション図（2）…… 66
図Ⅴ－16　北盛土東西エレベーション図（3）…… 67
図Ⅴ－17　北盛土南北エレベーション図（1）…… 68
図Ⅴ－18　北盛土南北エレベーション図（2）…… 69
図Ⅴ－19　北盛土南北エレベーション図（3）…… 70
図Ⅴ－20　北盛土土器出土状況図（1）…… 71
図Ⅴ－21　北盛土土器出土状況図（2）…… 72
図Ⅴ－22　北盛土土器出土状況図（3）…… 73
図Ⅴ－23　北盛土土器出土状況図（4）…… 74
図Ⅴ－24　北盛土土器出土状況図（5）…… 75
図Ⅴ－25　南盛土遺物出土状況図（1）…… 78
図Ⅴ－26　南盛土遺物出土状況図（2）…… 79
図Ⅴ－27　南盛土遺物出土状況図（3）…… 80
図Ⅴ－28　南盛土遺物出土状況図（4）…… 81
図Ⅴ－29　南盛土遺物出土状況図（5）…… 82
図Ⅴ－30　柱穴状小土坑位置図 …… 84
図Ⅴ－31　柱穴状小土坑（SP）（1）…… 85
図Ⅴ－32　柱穴状小土坑（SP）（2）…… 86
図Ⅴ－33　柱穴状小土坑（SP）（3）…… 87
図Ⅴ－34　H－5 …… 89

図Ⅴ－35　H－６ …… 91
図Ⅴ－36　H－７ …… 92
図Ⅴ－37　H－８ …… 93
図Ⅴ－38　H－９・10 …… 94
図Ⅴ－39　P－２ …… 96
図Ⅴ－40　P－10 …… 97
図Ⅴ－41　P－３～８ …… 99
図Ⅴ－42　P－９・11・12 …… 100
図Ⅴ－43　P－13～16 …… 103
図Ⅴ－44　TP－１・２ …… 104
図Ⅴ－45　TP－３・４ …… 107
図Ⅴ－46　S－17・18 …… 108
図Ⅴ－47　Ⅱ群ａ２Ｓ類復元土器（１）…… 109
図Ⅴ－48　Ⅱ群ａ２Ｓ類復元土器（２）…… 110
図Ⅴ－49　Ⅰ群ｂ類～Ⅱ群ａ２類土器（１）112
図Ⅴ－50　Ⅱ群ａ２類土器（２）…… 113
図Ⅴ－51　Ⅱ群ａ２類土器（３）・Ⅱ群ａ３類土器・Ⅱ群ｂ類土器（１）…… 114
図Ⅴ－52　Ⅱ群ｂ類土器（２）・Ⅲ群土器 …… 116
図Ⅴ－53　Ⅳ・Ⅴ群土器 …… 117
図Ⅴ－54　剥片石器（１）石鏃① …… 119
図Ⅴ－55　剥片石器（２）石鏃②・石槍① 120
図Ⅴ－56　剥片石器（３）石槍② …… 122
図Ⅴ－57　剥片石器（４）石錐・スクレイパー① …… 123
図Ⅴ－58　剥片石器（５）スクレイパー② 125
図Ⅴ－59　剥片石器（６）つまみ付きナイフ① …… 126
図Ⅴ－60　剥片石器（７）つまみ付きナイフ② …… 127
図Ⅴ－61　剥片石器（８）つまみ付きナイフ③ …… 128
図Ⅴ－62　剥片石器（９）つまみ付きナイフ④ …… 129
図Ⅴ－63　剥片石器（10）つまみ付きナイフ⑤ …… 130
図Ⅴ－64　剥片石器（11）両面調整石器・Ｒフレイク・石核 …… 131
図Ⅴ－65　磨製石器（１）石斧① …… 133
図Ⅴ－66　磨製石器（２）石斧② …… 135
図Ⅴ－67　磨製石器（３）石斧③ …… 136
図Ⅴ－68　磨製石器（４）石斧④ …… 137
図Ⅴ－69　磨製石器（５）石斧⑤・石斧加工品① …… 138
図Ⅴ－70　磨製石器（６）石斧加工品② ‥ 139
図Ⅴ－71　磨製石器（７）石斧加工品③ ‥ 140
図Ⅴ－72　磨製石器（８）石斧加工品④ ‥ 141
図Ⅴ－73　磨製石器（９）石斧再加工品① 142
図Ⅴ－74　磨製石器（10）石斧再加工品②・擦切残片・石斧原材① …… 143
図Ⅴ－75　磨製石器（11）石斧原材② …… 145
図Ⅴ－76　磨製石器（12）石斧原材③・接合資料① …… 146
図Ⅴ－77　磨製石器（13）接合資料② …… 148
図Ⅴ－78　磨製石器（14）接合資料③ …… 149
図Ⅴ－79　磨製石器（15）接合資料④ …… 150
図Ⅴ－80　磨製石器（16）接合資料⑤ …… 151
図Ⅴ－81　磨製石器（17）接合資料⑥ …… 152
図Ⅴ－82　磨製石器（18）接合資料⑦ …… 153
図Ⅴ－83　礫石器（１）たたき石① …… 155
図Ⅴ－84　礫石器（２）たたき石② …… 156
図Ⅴ－85　礫石器（３）たたき石③ …… 157
図Ⅴ－86　礫石器（４）たたき石④ …… 158
図Ⅴ－87　礫石器（５）たたき石⑤ …… 159
図Ⅴ－88　礫石器（６）たたき石⑥ …… 160
図Ⅴ－89　礫石器（７）たたき石⑦ …… 161
図Ⅴ－90　礫石器（８）たたき石⑧ …… 162
図Ⅴ－91　礫石器（９）たたき石⑨ …… 163
図Ⅴ－92　礫石器（10）たたき石⑩ …… 164
図Ⅴ－93　礫石器（11）たたき石⑪・すり石① …… 165
図Ⅴ－94　礫石器（12）すり石② …… 167
図Ⅴ－95　礫石器（13）扁平打製石器・北海道式石冠① …… 168
図Ⅴ－96　礫石器（14）北海道式石冠② ‥ 170
図Ⅴ－97　礫石器（15）北海道式石冠③ ‥ 171
図Ⅴ－98　礫石器（16）北海道式石冠④ ‥ 172
図Ⅴ－99　礫石器（17）北海道式石冠⑤ ‥ 173
図Ⅴ－100　礫石器（18）北海道式石冠⑥　174

図Ⅴ－101　礫石器（19）北海道式石冠⑦　175
図Ⅴ－102　礫石器（20）北海道式石冠⑧　176
図Ⅴ－103　礫石器（21）北海道式石冠⑨　177
図Ⅴ－104　礫石器（22）北海道式石冠⑩　178
図Ⅴ－105　礫石器（23）北海道式石冠⑪　179
図Ⅴ－106　礫石器（24）北海道式石冠⑫　180
図Ⅴ－107　礫石器（25）石鋸・砥石① …… 181
図Ⅴ－108　礫石器（26）砥石② …… 183
図Ⅴ－109　礫石器（27）砥石③ …… 184
図Ⅴ－110　礫石器（28）砥石④ …… 185
図Ⅴ－111　礫石器（29）石錘① …… 187
図Ⅴ－112　礫石器（30）石錘② …… 188
図Ⅴ－113　礫石器（31）石錘③・加工痕ある礫① …… 189
図Ⅴ－114　礫石器（32）加工痕ある礫②　190
図Ⅴ－115　礫石器（33）加工痕ある礫③　191
図Ⅴ－116　礫石器（34）加工痕ある礫④　192
図Ⅴ－117　礫石器（35）加工痕ある礫⑤　193
図Ⅴ－118　礫石器（36）加工痕ある礫⑥　194
図Ⅴ－119　礫石器（37）加工痕ある礫⑦　195
図Ⅴ－120　礫石器（38）加工痕ある礫⑧　196
図Ⅴ－121　礫石器（39）石皿① …… 198
図Ⅴ－122　礫石器（40）石皿② …… 199
図Ⅴ－123　礫石器（41）石皿③ …… 200
図Ⅴ－124　礫石器（42）石皿④ …… 201
図Ⅴ－125　礫石器（43）石皿⑤ …… 202
図Ⅴ－126　礫石器（44）石皿⑥ …… 203
図Ⅴ－127　礫石器（45）石皿⑦ …… 204
図Ⅴ－128　礫石器（46）石皿⑧ …… 205
図Ⅴ－129　礫石器（47）石皿⑨ …… 206
図Ⅴ－130　礫石器（48）石皿⑩ …… 207
図Ⅴ－131　礫石器（49）石皿⑪ …… 208
図Ⅴ－132　礫石器（50）石皿⑫ …… 209
図Ⅴ－133　礫石器（51）石皿⑬ …… 210
図Ⅴ－134　礫石器（52）石皿⑭ …… 211
図Ⅴ－135　礫石器（53）石皿⑮ …… 212
図Ⅴ－136　土製品・石製品① …… 214
図Ⅴ－137　石製品② …… 215
図Ⅴ－138　骨角器 …… 216
図Ⅴ－139　グリッド別遺物点数（１）…… 219
図Ⅴ－140　グリッド別遺物点数（２）…… 220
図Ⅴ－141　グリッド別遺物点数（３）…… 221
図Ⅴ－142　グリッド別遺物点数（４）…… 222
図Ⅴ－143　グリッド別遺物点数（５）…… 223
図Ⅴ－144　グリッド別遺物点数（６）…… 224
図Ⅴ－145　グリッド別遺物点数（７）…… 225
図Ⅴ－146　グリッド別遺物点数（８）…… 226
図Ⅴ－147　グリッド別遺物点数（９）…… 227
図Ⅴ－148　グリッド別遺物点数（10）…… 228
図Ⅴ－149　グリッド別遺物点数（11）…… 229
図Ⅴ－150　グリッド別遺物点数（12）…… 230
図Ⅵ－１　暦年較正年代グラフ（参考）…… 259
図Ⅵ－２　暦年較正年代グラフ（マルチプロット図、参考）…… 261
図Ⅵ－３　偏光顕微鏡写真（１）…… 266
図Ⅵ－４　偏光顕微鏡写真（２）…… 267
図Ⅵ－５　偏光顕微鏡写真（３）…… 268
図Ⅵ－６　XRD チャート（１）…… 272
図Ⅵ－７　XRD チャート（２）…… 273
図Ⅵ－８　蛇紋岩関連鉱物の反応関係と安定条件 …… 275
図Ⅵ－９　空知－エゾ帯の超苦鉄質岩類の分布 …… 276
図Ⅵ－10　酸化物― SiO_2 図 …… 277
図Ⅵ－11　分析機器 …… 278
図Ⅵ－12　オコッコ１遺跡の動物遺存体 …… 280
図Ⅵ－13　オコッコ１遺跡の炭化種実 …… 291
図Ⅵ－14　袋状鉄斧（オコ１－５）の顕微鏡組織・EPMA 調査結果 …… 295
図Ⅵ－15　鏨（オコ１－７）の顕微鏡組織・EPMA 調査結果 …… 296
図Ⅵ－16　保存処理前・処理後遺物写真（１）…… 297
図Ⅵ－17　保存処理前・処理後遺物写真（２）…… 298
図Ⅵ－18　X 線写真（１）…… 299
図Ⅵ－19　X 線写真（２）…… 300
図Ⅶ－１　H－３土壌採取位置図 …… 302
図Ⅶ－２　各遺跡の地形と「盛土遺構」…… 304
図Ⅶ－３　各遺跡の器種別石器点数 …… 306

図Ⅶ－４　胎土中の蛇紋石・撚糸 …… 308
図Ⅶ－５　胎土中の「センイ」…… 309
図Ⅶ－６　擦切痕と石鋸断面 …… 313
図Ⅶ－７　石斧長距離接合例 …… 315
図Ⅶ－８　北海道式石冠の変遷模式図 …… 317

表目次

表Ⅰ－１　年度別調査遺跡一覧 …… 4
表Ⅰ－２　出土遺物一覧 …… 4
表Ⅳ－１　Ⅲ層遺構一覧（１）…… 44
表Ⅳ－２　Ⅲ層遺構一覧（２）SP・柱穴一覧 …… 44
表Ⅳ－３　Ⅲ層遺構別出土遺物一覧 …… 45
表Ⅳ－４　Ⅳ章掲載土器一覧 …… 46
表Ⅳ－５　掲載鉄製品一覧 …… 46
表Ⅳ－６　Ⅳ章掲載石器一覧 …… 46
表Ⅳ－７　Ⅲ層フローテーション結果一覧　47
表Ⅳ－８　Ⅲ層ハンドピック動物遺存体同定結果一覧 …… 48
表Ⅴ－１　北盛土土器片集中一覧 …… 59
表Ⅴ－２　Ⅴ層遺構一覧 …… 231
表Ⅴ－３　Ⅴ層柱穴一覧 …… 231
表Ⅴ－４　Ⅴ層小柱穴一覧 …… 231
表Ⅴ－５　Ⅴ層遺構別出土遺物一覧 …… 232
表Ⅴ－６　盛土遺構出土遺物一覧 …… 232
表Ⅴ－７　Ⅴ章掲載土器一覧 …… 233
表Ⅴ－８　掲載剥片石器一覧 …… 234
表Ⅴ－９　Ⅴ章掲載石斧関連遺物一覧 …… 236
表Ⅴ－10　掲載礫石器・石製品一覧 …… 239
表Ⅴ－11　掲載骨角器一覧 …… 243
表Ⅴ－12　石斧接合資料一覧 …… 243
表Ⅴ－13　Ⅴ層フローテーション結果一覧 246
表Ⅴ－14　Ⅴ層ハンドピック動物遺存体同定結果一覧 …… 249
表Ⅵ－１　放射性炭素年代測定結果 …… 257
表Ⅵ－２　放射性炭素年代測定結果 …… 258
表Ⅵ－３　年代測定試料 …… 262
表Ⅵ－４　放射性炭素年代測定結果 …… 263
表Ⅵ－５　偏光顕微鏡観察結果 …… 264
表Ⅵ－６　各元素の測定条件（例）…… 269
表Ⅵ－７　FP 法蛍光 X 線分析結果 …… 270
表Ⅵ－８　X 線粉末回折結果一覧 …… 271
表Ⅵ－９　動物遺存体同定結果一覧 …… 281
表Ⅵ－10　試料一覧 …… 287
表Ⅵ－11　炭化種実同定結果 …… 289
表Ⅵ－12　種実同定結果（層位別）…… 291
表Ⅵ－13　種実同定結果（時期別）…… 291
表Ⅶ－１　擦文文化期とされる平地住居様遺構 …… 301

図版目次

図版１　調査区遠景（マルチコプター撮影）（南東から）
調査区遠景（マルチコプター撮影）（北西から）
図版２　調査区の状況（マルチコプター撮影）
図版３　調査風景（南東から）
調査風景（北から）
図版４　Ｈ－１全景（南西から）
SP－１土層断面（南から）
SP－４土層断面（南から）
SP－11 土層断面（南から）
SP－12 土層断面（南から）
SP－13 土層断面（南から）
SP－17 土層断面（西から）
図版５　Ｆ－４・５、S－11 検出状況（南東から）
Ｆ－４土層断面（南東から）
Ｆ－５土層断面（南東から）
S－10 検出状況（南から）
S－11 検出状況（北から）
図版６　Ｈ－２全景（北から）

SP－20 土層断面（南西から）
SP－23 土層断面（東から）
SP－26 土層断面（北から）
SP－27 土層断面（西から）
SP－28 土層断面（西から）
SP－29 土層断面（東から）
図版７　Ｆ－７土層断面（南から）
Ｓ－８検出状況（南東から）
Ｓ－13 検出状況（西から）
Ｓ－14 検出状況（南東から）
図版８　Ｈ－３全景（西から）
SP－33 土層断面（西から）
SP－37 土層断面（東から）
SP－47 土層断面（東から）
SP－48 土層断面（東から）
SP－49 土層断面（東から）
SP－50 土層断面（西から）
図版９　Ｆ－１～３土層断面（北西から）
Ｓ－２検出状況（東から）
Ｓ－６検出状況（南から）
土器集中３検出状況（北から）
図版10　Ｈ－４全景（北から）
SP－56 土層断面（西から）
SP－60 土層断面（西から）
SP－75 土層断面（東から）
SP－88・89 土層断面（西から）
SP－85 土層断面（西から）
図版11　Ｈ－４　SP－85 周辺の小柱穴群（北西から）
Ｆ－15 土層断面（北西から）
Ｓ－１検出状況（北から）
Ｓ－７検出状況（南西から）
Ｈ－４炭化材出土状況（北東から）
図版12　Ｐ－１全景（北から）
Ｐ－１確認状況（南から）
Ｐ－１土層断面（南から）
Ｆ－９検出状況（西から）
Ｆ－11 土層断面（南西から）
図版13　Ｆ－10 検出状況（東から）
Ｆ－10 土層断面（西から）
Ｆ－13 検出状況（北から）
Ｆ－12 検出状況（北東から）
図版14　Ｓ－４検出状況（北から）
Ｓ－５検出状況（北東から）
Ｓ－９検出状況（北西から）
Ｓ－12 検出状況（東から）
Ｓ－16 検出状況（南から）
土器集中１（東から）
土器集中２（東から）
図版15　Ｈ－１出土の土器
Ｈ－１（Ｓ－10）出土の土器
Ｈ－３（土器集中３）出土の土器
土器集中２出土の土器
土器集中１出土の土器
図版16　Ⅲ層出土の土器・鉄製品（１）
図版17　Ⅲ層出土の鉄製品（２）
図版18　Ⅲ層出土の鉄製品（３）・石器
図版19　Ｈ－１（Ｓ－10・11）出土の礫
Ｈ－２（Ｓ－８･13･15）、Ｓ－４出土の礫
図版20　Ｈ－２（Ｓ－14）出土の礫
Ｈ－３（Ｓ－２・６）出土の礫
図版21　Ｈ－４（Ｓ－１・７）出土の礫
Ｓ－５・９・12・16 出土の礫
図版22　北盛土ＭⅠ層検出状況（北西から）
北盛土ＭⅡ層検出状況（パノラマ合成写真）（北東から）
北盛土遺物出土状況（１）（南西から）
北盛土遺物出土状況（２）（北から）
図版23　No.458 土器出土状況（西から）
No.458 土層断面（南西から）
No.688 土器出土状況（東から）
No.572 土器出土状況（北東から）
No.692 土器出土状況（東から）
No.701 土器出土状況（東から）
図版24　No.573　土器（Ⅱa-2S）
No.689　土器（Ⅱa-2S）
No.638　土器（Ⅱa-2S）
No.335　石斧
No.336　石斧
No.366　礫片

No.391　北海道式石冠
No.396　板状礫
No.400　石皿
No.664　石皿
No.666　石皿片
No.669　石皿
図版25　南盛土ＭⅠ層検出状況（南東から）
南盛土ＭⅡ層検出状況（南西から）
南盛土ＭⅡ層検出状況（南東から）
南盛土遺物出土状況（南東から）
図版26　No.474　土器（Ⅱｂ）
No.478　石斧
No.488　石槍
No.500　擦切残片
No.501　つまみ付きナイフ
No.554　石槍
No.559　礫片
No.562　礫
No.583　石皿
No.584　礫片
No.618　北海道式石冠
No.717　石皿
図版27　削平部分完掘（北東から）
P26 区Ⅶ層下位確認状況（東から）
No.724 土器出土状況（北から）
No.709 石皿出土状況（北東から）
図版28　ベルトＡ北盛土部分（合成して作成）
ベルトＡ削平部分（合成して作成）
調査区東壁南盛土部分（合成して作成）
ベルトＣ削平部分（合成して作成）
図版29　調査区東壁（南盛土）（西から）
ベルトＢ部分拡大（北盛土）（北西から）
トレンチＣ部分拡大（削平部分）（南東から）
図版30　トレンチＢ土層断面（北盛土）（南から）
トレンチＤ遺物出土状況（南盛土）（西から）
トレンチＢ土層断面（北盛土）（東から）
図版31　トレンチＢ土層断面（北盛土）（北東から）
トレンチＡ土層断面（北盛土）（北から）
T20 区付近東壁（南盛土）（西から）
O25 区付近西壁（削平部分）（東から）
図版32　Ｈ－５全景（南から）
Ｈ－５土層断面（北から）
Ｈ－５遺物出土状況（西から）
Ｈ－５　HP－４土層断面（北東から）
図版33　Ｈ－６全景（南西から）
トレンチＡ（Ｈ－６部分断面）（南東から）
Ｈ－６　HP－１土層断面（北から）
Ｈ－６　HP－３全景（北東から）
図版34　Ｈ－７　全景（北東から）
Ｈ－７土層断面（西から）
Ｈ－７炭化物・骨片集中域（南から）
Ｈ－７柱穴土層断面（西から）
図版35　Ｈ－８検出状況（南西から）
Ｈ－８土層断面（西から）
Ｈ－８　HP－２土層断面（北から）
Ｈ－８　HP－４土層断面（北から）
図版36　Ｈ－９全景（北から）
Ｈ－９土層断面（北から）
Ｈ－９　HP－１・２土層断面（西から）
Ｈ－９　HP－１・２完掘（北西から）
図版37　Ｈ－10 全景（南西から）
Ｈ－10 土層断面（北西から）
図版38　Ｐ－２検出状況（南から）
Ｐ－２検出状況（北から）
Ｐ－２作業風景（東から）
Ｐ－２人骨検出状況（南から）
Ｐ－２人骨頭部確認状況（東から）
Ｐ－２周辺作業風景（南東から）
図版39　Ｐ－10 人骨検出状況（北東から）
Ｐ－10 土層断面（西から）
Ｐ－10 調査風景（東から）
Ｐ－10 周辺調査風景（北西から）
図版40　Ｐ－３全景（北から）
Ｐ－３土層断面（北から）
Ｐ－４～７全景（東から）
Ｓ－17・18 検出状況（北東から）
図版41　Ｐ－４・５土層断面（北から）
Ｐ－６・７土層断面（北東から）

P－８土層断面（北東から）
P－９全景（南西から）
P－11 全景（北から）
P－12 全景（北から）
図版42　P－13 土層断面（東から）
P－14 土層断面（南東から）
P－15 土層断面（北東から）
P－16 全景（北から）
TP－１土層断面（北から）
TP－１全景（北から）
図版43　TP－１～３配置状況（北東から）
TP－２土層断面（北から）
TP－２全景（北から）
図版44　TP－３全景（北から）
TP－３土層断面（北から）
TP－３杭１（北から）
TP－４土層断面（北から）
TP－４全景（北から）
TP－４杭土層断面（南から）
図版45　Ⅱ群ａ２S 類復元土器集合
Ⅱ群ａ２S 類土器
Ⅱ群ａ２S 類土器
Ⅱ群ａ２S 類土器
Ⅱ群ａ２S 類土器
Ⅱ群ａ２S 類土器
Ⅱ群ａ２S 類土器
Ⅱ群ａ２S 類土器
Ⅱ群ａ２S 類土器
図版46　Ⅰ群ｂ類・Ⅱ群ａ１類・ａ２類・ａ２S 類土器（１）
図版47　Ⅱ群ａ２S 類土器（２）
図版48　Ⅱ群ａ２S 類（３）・Ⅱ群ａ３類・Ⅱ群ｂ類土器
図版49　Ⅲ群ａ類～Ⅴ群ｂ類土器
図版50　石鏃
図版51　石槍（１）
図版52　石槍（２）・石錐・スクレイパー（１）
図版53　スクレイパー（２）
図版54　つまみ付きナイフ（１）
図版55　つまみ付きナイフ（２）
図版56　つまみ付きナイフ（３）
図版57　つまみ付きナイフ（４）・両面調整石器・Ｒフレイク・石核
図版58　石斧（１）
図版59　石斧（２）
図版60　石斧（３）
図版61　石斧加工品（１）
図版62　石斧加工品（２）
図版63　石斧加工品（３）・石斧再加工品（１）
図版64　石斧再加工品（２）・擦切残片・石斧原材（１）
図版65　石斧原材（２）・接合資料（１）
図版66　接合資料（２）
図版67　接合資料（３）
図版68　接合資料（４）
図版69　たたき石（１）
図版70　たたき石（２）
図版71　たたき石（３）
図版72　たたき石（４）
図版73　たたき石（５）
図版74　すり石・扁平打製石器
図版75　北海道式石冠（１）
図版76　北海道式石冠（２）
図版77　北海道式石冠（３）
図版78　北海道式石冠（４）
図版79　北海道式石冠（５）
図版80　北海道式石冠（６）・石鋸
図版81　砥石（１）
図版82　砥石（２）
図版83　石錘
図版84　加工痕ある礫（１）
図版85　加工痕ある礫（２）
図版86　石皿（１）
図版87　石皿（２）
図版88　石皿（３）
図版89　石皿（４）
図版90　石皿（５）
図版91　土製品・石製品
図版92　骨角器・動物遺存体

Ⅰ章　緒　言

1　調査要項

事　業　名　　勇払東部（二期）地区厚幌導水路工事用地内埋蔵文化財発掘調査
事業委託者　　国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部
事業受託者　　公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター
現地調査期間　　平成 27 年 5 月 12 日～10 月 29 日
整理期間　　平成 27 年 11 月 1 日～平成 31 年 3 月 29 日
遺　跡　名　　オコッコ 1 遺跡（道教委登載番号　J－13－107）
所　在　地　　北海道勇払郡厚真町字幌内 938－ 1
調査面積　　2,912㎡

2　調査体制

平成 27 年度
理　事　長　　越田賢一郎
副理事長　　中田　　仁
専務理事　　山田　寿雄（事務局長兼務）
常務理事　　長沼　　孝（第 1 調査部長兼務）
第 2 調査部長　　三浦　正人
第 2 調査部
　第 1 調査課　課長　　中山　昭大（発掘担当者）
　　主査　　影浦　　覚
　　主査　　福井　淳一
　　主査　　酒井　秀治
　第 3 調査課　課長　　村田　　大（発掘担当者）
　　主査　　新家　水奈（発掘担当者）
　　主査　　阿部　明義（発掘担当者）
　　主査　　立田　　理（発掘担当者）

平成 28 年度
理　事　長　　越田賢一郎
副理事長　　中田　　仁
専務理事　　山田　寿雄（事務局長兼務）
常務理事　　長沼　　孝（第 1 調査部長兼務）
第 2 調査部長　　三浦　正人
　第 3 調査課　課長　　村田　　大
　　主査　　新家　水奈
　　主査　　立田　　理

平成 29 年度
理　事　長　　越田賢一郎
副理事長　　中田　　仁
専務理事　　山田　寿雄（事務局長兼務）
常務理事　　長沼　　孝（第 1 調査部長兼務）
第 2 調査部長　　鈴木　　信
第 1 調査部
　第 1 調査課　課長　　中山　昭大
第 2 調査部
　第 3 調査課　課長　　村田　　大
　　主査　　新家　水奈
　　主査　　立田　　理

平成 30 年度
理　事　長　　越田賢一郎
副理事長　　中田　　仁
専務理事　　山田　寿雄（事務局長兼務）
常務理事　　長沼　　孝（第 1 調査部長兼務）
第 2 調査部長　　鈴木　　信
第 2 調査部
　第 3 調査課　課長　　村田　　大
　　主査　　新家　水奈
　　主査　　立田　　理

３　調査に至る経緯

（１）調査に至る経緯

遺跡の所在する厚真町は、北海道胆振総合振興局管内東部に位置する農業地帯である。営農は水稲を中心とし、水田の畑利用などによる小麦、大豆、野菜等を組み合わせた経営が行われている。町内における農業用水の主な水源の一つとして、昭和45年に完成した厚真ダムに関連して造成された用水施設が挙げられる。この用水施設は完成後40年以上が経過しており、経年的劣化が生じ、加えて小規模な施設が多いことから維持管理に費用と労力を要しているのが現状であった。

同様に厚真ダムも機能不足は明白で、厚真川は台風期や融雪期にたびたび氾濫し、流域に浸水被害を与えてきた。加えて厚真川の流況が不安定なため、用水不足や夏季の渇水も発生している。これらを受けて北海道土木現業所は昭和52年、厚幌ダム建設事業の予備調査に着手した。平成６年には厚真町が建設大臣に、厚幌ダム建設採択に関する要望書を提出した。平成７年には北海道と厚真町の間で「厚真川総合開発事業　厚幌ダム建設工事に関する基本協定」が締結され、厚真ダムの下流にダムを新設するという厚幌ダムの建設工事着工が決定された。

厚幌ダムは前述した問題、①治水（洪水調節）②利水（灌漑用水と水道用水の供給）の解決を目指した総合開発事業である。関連する事業として、北海道による厚真川広域基幹河川改修事業、農林水産省による国営かんがい排水事業、厚真町による厚真町統合簡易水道事業が合わせて行われている。

調査原因である厚幌導水路建設工事は、国営かんがい排水事業の国営勇払東部土地改良事業計画に伴う。概要は厚幌ダムから鯉沼地区までの総延長24.5km、直径最大2.2mの大型パイプラインを埋設することにより水を自然流下させるというものである。水流の効率性、また維持管理の観点から、遺跡の多い段丘縁辺を通過せざるを得ない事態が生じる結果となった。

上記本節の文は、１～３段落は国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部、及び北海道庁HP中の「厚幌ダム建設事業の検証に係る検討概要資料」「公共事業評価調書」「厚幌ダム」等の公開資料。４段落目は主に厚真町教育委員会が刊行した、厚幌１遺跡（２）、幌内７遺跡（１）を引用して作成した。

厚幌導水路建設工事に伴う事前協議書は、平成15年10月、国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部（以下、室蘭開建）から北海道教育委員会（以下、道教委）に提出された。室蘭開建から早急な対応が要求されていた路線中の一部の区間（幌内～富里間）の所在確認調査を厚真町教育委員会が行い、結果から道教委は４か所について試掘調査が必要と事業者に回答した。

その他の計画路線中の所在確認調査は道教委が行い、平成16年10月、平成17年４月に実施された。その結果ニタップナイ遺跡・幌内５遺跡・幌内６遺跡・幌内７遺跡について発掘調査が必要とされた。

これ以降道教委は、導水路の本線および支線用水路の施工路線が確定次第、順次所在確認調査および試掘調査を実施している。発掘調査が必要とされた遺跡は、20遺跡、総面積は約23,000㎡である。本遺跡、オコッコ１遺跡に係る試掘調査は平成19年の５月に行われ、約2,300㎡について発掘調査が必要と判断された。

発掘調査は町教委が平成19年から、当センターが平成25年から行い、ニタップナイ遺跡・厚幌１遺跡・幌内５遺跡・幌内６遺跡・幌内７遺跡・富里２遺跡・富里３遺跡の調査について、報告書が刊行済みである（厚真町2009b、2010a、b）（北埋調報326、336）。

以下にオコッコ１遺跡の調査、整理作業の行われた平成27～30年度の厚幌導水路建設工事に係る発掘調査について、主に調査期間、面積等大まかな調査状況を年度別に説明する。

（２）平成 27 年度の調査

平成 27 年度、道教委は当センターに対し、厚幌導水路建設工事に係る埋蔵文化財発掘調査として、富里３遺跡（303㎡）、オコッコ１遺跡（2,912㎡）、幌内６遺跡（383㎡）、幌内７遺跡（492㎡）、厚幌１遺跡（1,018㎡）、厚幌２遺跡（1,982㎡）の６遺跡、総面積 7,070㎡の調査にあたるよう指示した。調査は第２調査部第３調査課の全員および同部第１調査課から１名の計５名が行った。第１調査課は課長の中山昭大を主とするが、期間中約一か月間は第１調査課員の影浦覚、福井淳一、酒井秀治の３名と交代している。

５月９日の調査開始時点で発掘準備工が整っていたのは、オコッコ１遺跡と富里３遺跡の２遺跡であり、着手はこの２遺跡から行い、他遺跡の準備が整い次第オコッコ１遺跡の人工を振り分けていく方針で調査した。各遺跡の調査期間は表Ⅰ－１のとおりである。

オコッコ１遺跡は平成 19 年の試掘調査で発見された遺跡で、縄文時代前期の盛土遺構が確認されている。遺物は焼成を受けた礫が多く出土し、総点数で 842 点出土する地点もあった。試掘調査の結果を鑑み、発掘計画では盛土遺構の総面積を 436㎡（全面積の 15％）、層厚 40㎝、出土遺物の総点数を 35,000 点としていた。

調査当初に 28㎡の先行トレンチ調査を行い、遺跡の実態把握に努めた。結果、盛土遺構が段丘頂部を削平して斜面側に土を盛る形であること。また盛土は２枚あり、黒色土中に遺物を多く含む層と、パミスを混じる褐色土の堆積中に遺物を多く含む２層からなることを確認した。さらに盛土の残存範囲は概算で約 800㎡。遺物はトレンチ調査で約 56,000 点出土していることから盛土部分のみで約 16 万点、周囲の部分も加味すると少なく見積もっても 20 万点を超える出土量となることを想定した。盛土の面積は積算の約 1.8 倍、遺物量は約 5.7 倍である。

結果、極力急いで調査することとなったが、厚幌２遺跡の調査面積を減じることで調整され 10 月 28 日に調査を終了した。

（３）平成 28 年度の調査

平成 28 年度、道教委は当センターに対し、厚幌導水路建設工事に係る埋蔵文化財発掘調査として、厚幌２遺跡（1,083㎡）、豊沢５遺跡（729㎡）、幌内７遺跡（189㎡）、富里１遺跡（1,551㎡）の４遺跡の調査。加えて平成 27 年度調査による出土遺物の水洗を、また、厚真川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として、オコッコ１遺跡（260㎡）の調査を行うよう指示した。厚幌導水路建設工事に係る調査を第２調査部第３調査課３名および第１調査部第１調査課長が、厚真川改修工事に伴う調査を第２調査部第１調査課が行った。このオコッコ１遺跡の調査結果は、平成 28 年度内に整理作業を経て調査報告書を刊行済みである（北埋調報 338）。

整理作業は５月９日より江別市において作業員３名、写図工２名による整理作業を行った。８月より作業員２名増員し、翌年３月まで整理作業を行い、厚幌１遺跡・幌内６遺跡・幌内７遺跡の調査報告書を刊行した（北埋調報 336）。

（４）平成 29 年度の調査

平成 29 年度、道教委は当センターに対し、厚幌導水路建設工事に係る埋蔵文化財発掘調査として、厚幌２遺跡（2,038㎡）、豊沢 10 遺跡（613㎡）、豊丘２遺跡（1,034㎡）の調査、および平成 27、28 年度調査による整理作業を行うよう指示した。調査は第２調査部第３調査課３名が行った。

整理作業は４月 13 日から写図工３名、作業員５名により行った。富里１遺跡・豊沢５遺跡・豊沢 10 遺跡・豊丘２遺跡の調査報告書を刊行した（北埋調報 341）。

（5）平成 30 年度の調査

平成 30 年度、道教委は当センターに対し、厚幌導水路建設工事に係る埋蔵文化財発掘調査として、鯉沼２遺跡（1,971㎡）の調査、および平成 27～30 年度調査による、オコッコ１遺跡、厚幌２遺跡、鯉沼２遺跡の整理作業を行うよう指示した。

整理作業は４月 13 日から写図工１名、作業員３名で行い、11 月から作業員３名を増員し、オコッコ１遺跡、厚幌２遺跡、鯉沼２遺跡の調査報告書を刊行する（北埋調報 356～358）。

表Ⅰ－１　年度別調査遺跡一覧

調査年度	遺跡名	登載番号	所在地	調査面積	調査期間
H27	富里3遺跡	J-13-133	勇払郡厚真町富里322-3･4･5,325-11	303㎡	平成27年5月12日～6月30日
	オコッコ1遺跡	J-13-107	勇払郡厚真町字幌内938-1	2,912㎡	平成27年5月12日～10月29日
	幌内6遺跡	J-13-98	勇払郡厚真町字幌内197-1	383㎡	平成27年9月1日～10月29日
	幌内7遺跡	J-13-103	勇払郡厚真町字幌内938-1	492㎡	平成27年5月12日～8月28日
	厚幌1遺跡	J-13-25	勇払郡厚真町字幌内487-1	1,018㎡	平成27年8月3日～10月29日
	厚幌2遺跡	J-13-88	勇払郡厚真町字幌内487-1	1,983㎡	平成27年8月3日～10月29日
H28	厚幌2遺跡	J-13-88	勇払郡厚真町字幌内487-1	1,982㎡	平成27年8月3日～10月29日
	厚幌2遺跡	J-13-88	勇払郡厚真町字幌内487-1	1,083㎡	平成28年5月9日～7月28日
	豊沢5遺跡	J-13-109	勇払郡厚真町字豊沢284-1	729㎡	平成28年7月14日～8月10日
	幌内7遺跡	J-13-103	勇払郡厚真町字幌内938-1	189㎡	平成28年9月12日～10月7日
	富里1遺跡	J-13-37	勇払郡厚真町字富里42-1	1,551㎡	平成28年8月30日～10月28日
	オコッコ1遺跡	J-13-107	勇払郡厚真町字幌内938-1	0㎡	平成28年5月9日～10月28日
H29	厚幌2遺跡	J-13-88	勇払郡厚真町字幌内485-1、487-1	2,038㎡	平成29年5月8日～8月30日
	豊沢10遺跡	J-13-139	勇払郡厚真町字豊沢473-1	613㎡	平成29年5月8日～6月9日
	豊丘2遺跡	J-13-111	勇払郡厚真町字豊丘325-1、326-3、326-1	1,034㎡	平成29年5月8日～8月30日
H30	鯉沼2遺跡	J-13-68	勇払郡厚真町字鯉沼160-2	1,971㎡	平成30年6月5日～7月12日

4　調査結果の概要

包含層は樽前ｃ降下テフラを挟んで２枚存在する。上位をⅢ層、下位をⅤ層とした。Ⅲ層の調査では、平地住居跡４軒、土坑１基、焼土 14 か所、土器集中３か所、土器以外の遺物集中 16 か所、柱穴状小土坑 113 基が検出された。各集中と小土坑は平地住居を構成するものも含んだ数である。Ⅴ層の調査は、盛土遺構２か所、竪穴住居跡６軒、土坑 15 基（土坑墓２基を含む）、Ｔピット４基、遺物集中域２か所、柱穴状小土坑 148 基等が検出された。２基の土坑墓からは人骨が出土している。いずれも残りが悪いが横臥・仰臥屈葬の状態がわかるもので、つまみ付きナイフを胸部～腹部付近に伴う。盛土遺構、土坑墓は縄文時代前期前半頃のものとみられる。

遺物総点数は 292,839 点、うち礫・礫片が 248,323 点を占める（表Ⅰ－２）。土器はⅢ層から擦文後期、続縄文時代のものが出土し、Ⅴ層からは縄文時代前期前半縄文尖底土器が多く出土している。石器は石鏃、石槍、石錐、つまみ付きナイフなどの剥片石器、石斧は原石から未製品、再加工剥片など製作工程一連の遺物が出土している。礫石器にはたたき石、すり石、北海道式石冠、砥石、石皿等がある。

表Ⅰ－２　出土遺物一覧

層位	種別	Ⅰb-4	Ⅱa-1	Ⅱa-2	Ⅱa-2S	Ⅱa-3	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳa	Ⅳb	Ⅳc	Ⅴb	Ⅵ	Ⅶ	不明	焼成粘土塊	土器計
Ⅲ層	遺構	0	0	0	6	0	1	0	0	0	0	0	0	418	531	2	0	958
	包含層	0	1	0	27	7	2	19	1	17	0	4	3	1	204	0	1	287
Ⅴ層	遺構	0	2	0	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25
	盛土遺構	2	17	6	6275	13	17	116	4	34	6	14	5	0	1	16	3	6529
	包含層	0	23	24	690	23	65	255	47	199	53	8	16	1	4	6	4	1418
その他の層位		0	1	0	117	15	19	10	0	11	0	2	0	1	8	2	0	186
合計		2	44	30	7138	58	104	400	52	261	59	28	24	421	748	26	8	9403

層位	種別	石鏃（片）	石槍（片）	石錐（片）	スクレイパー	つまみ付きナイフ（片）	両面調整石器	楔形石器	Rフレイク	Uフレイク	フレイク	石核	石斧（片）	石斧破片	石斧加工品	石斧再加工品	石斧原材	擦切残片	たたき石（片）	すり石（片）	北海道式石冠（片）	扁平打製石器（片）	石錐（片）	砥石（片）	石錘（片）	加工痕ある礫	石皿（片）	原石	円礫・棒状礫	板状礫	有意の礫	高師小僧	有孔自然石	石製品	鉄製品	骨角器	礫	礫片
Ⅲ層	遺構	0	0	0	1	0	0	0	0	0	76	1	1	0	0	0	0	0	5	0	1	0	0	2	0	0	0	1	492	32	7	0	0	0	18	0	14	792
	包含層	40	9	3	13	67	1	0	20	0	830	4	27	6	18	4	10	0	181	9	42	8	1	64	3	46	45	1	782	63	93	0	2	1	1	0	97	15497
Ⅴ層	遺構	1	0	0	0	4	0	0	4	0	269	0	0	4	1	1	1	0	17	0	4	0	0	7	0	4	8	0	0	0	9	0	0	0	0	1	75	783
	盛土遺構	278	90	27	187	475	1	2	149	2	10830	5	275	68	149	73	99	17	2298	63	405	14	18	876	86	516	479	5	15	15	899	1	40	18	0	2	4021	95856
	包含層	245	117	15	158	445	2	0	108	2	5084	6	247	62	137	64	113	11	1829	56	333	17	10	833	39	474	300	4	12	7	946	0	27	8	0	1	3751	121848
その他の層位		23	5	0	12	41	0	0	10	0	1183	0	14	5	10	4	12	2	79	9	11	1	0	41	1	19	11	0	1	1	61	0	0	1	1	0	11	5578
合計		587	221	45	371	1032	4	2	291	4	18272	16	564	145	315	146	235	30	4409	137	796	40	29	1823	129	1059	843	11	1302	118	2015	1	69	28	20	4	7969	240354

5　本書の内容

本書は、平成 27 年度に行われた厚真町オコッコ１遺跡の調査結果を報告するものである。各章の内容は、Ⅰ章に調査に至る経緯と概要、Ⅱ章に周辺の遺跡と地質、Ⅲ章に調査の方法、Ⅳ章にⅢ層検出の遺構と出土遺物、Ⅴ章にⅤ層検出の遺構と出土遺物、Ⅵ章に自然科学的分析について述べ、Ⅶ章に調査を総括する。

Ⅱ章　周辺の遺跡と地質

1　周辺の遺跡

（1）概況

2018年４月現在、厚真町には141か所の遺跡が登載されている。その分布は平野部から山間地の厚真川の河川沿いまでほぼ町内全域に、時代は旧石器時代からアイヌ文化期までの時期に及ぶ。町内すべての遺跡については、厚真町教育委員会が発行した調査報告書に文献も網羅され記載されているので、そちらを参照していただきたい。

図Ⅱ－１は、オコッコ１遺跡を中心とした厚真川上流～中流域の遺跡位置を、５万分の１地質図幅上に示したものである。番号は北海道教育委員会の登載番号で図中の表と対応している。ここでは図の厚真川上流～中流域において、主に縄文時代から続縄文時代までの状況を時期ごとに述べる。加えて周辺の基盤層である第三紀堆積物について、地質図幅の説明を引用してその特徴を整理する。

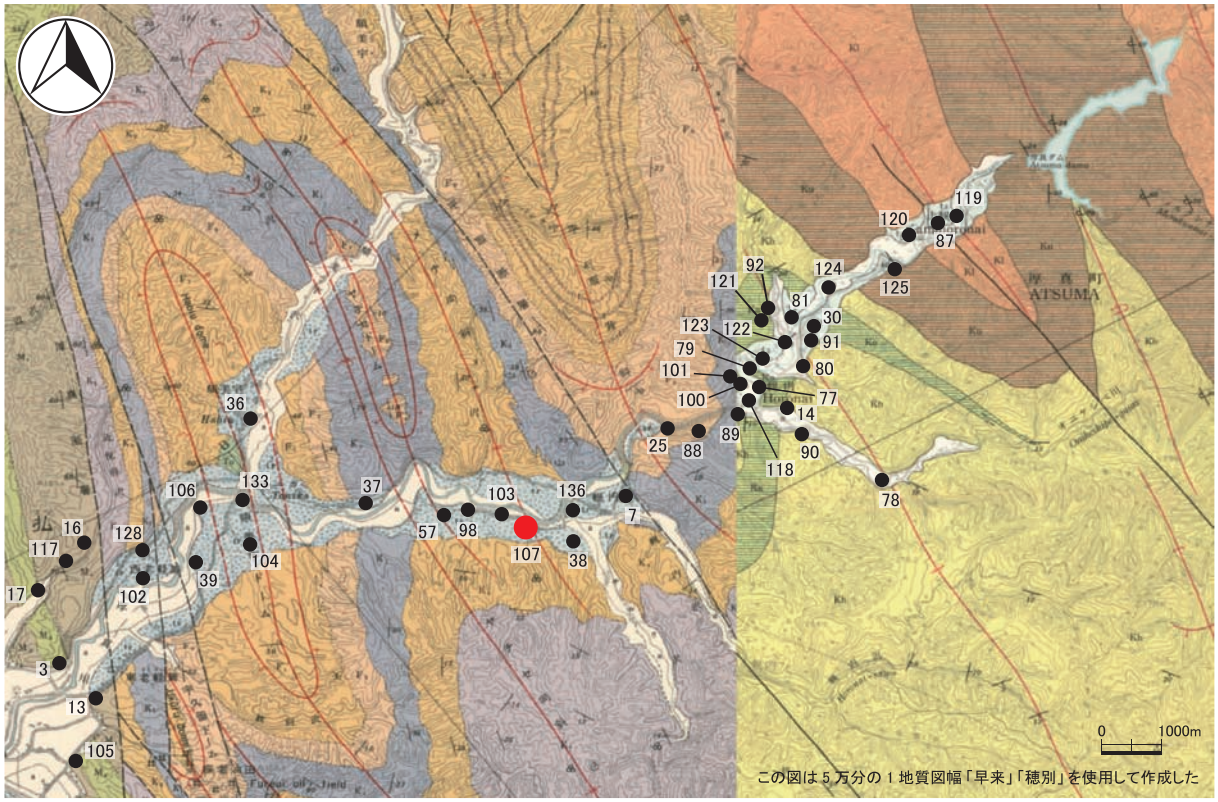
（2）周辺の遺跡

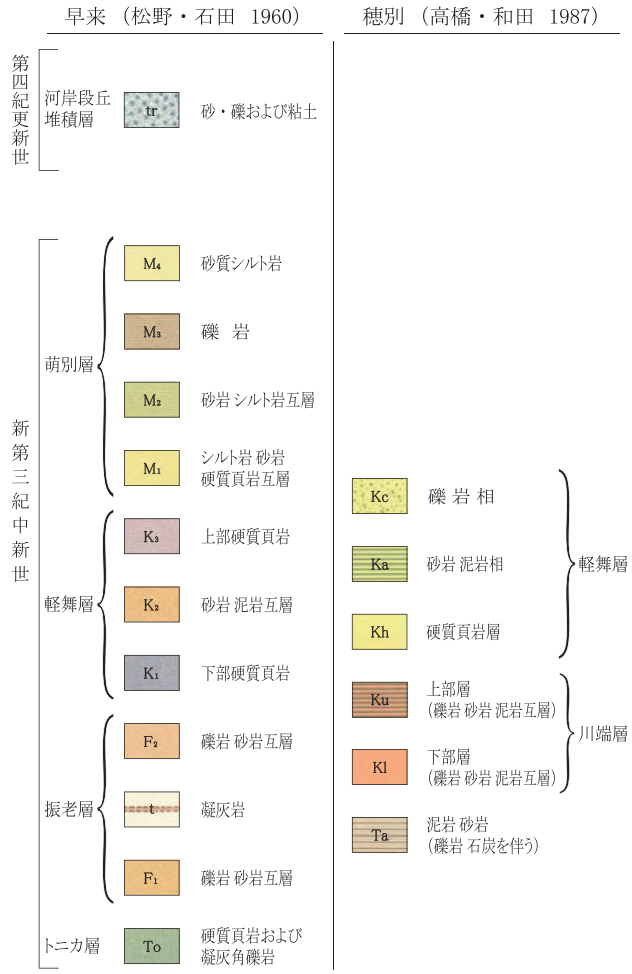
旧石器時代　上幌内モイ遺跡においてのみ遺構、遺物が検出されている。当遺跡では樽前ｄテフラの下位に堆積した黄橙色シルト層から札骨型細石刃核を含む石器群1,400点ほどが出土している。伴う遺構として焼土１か所と炭化物集中域１か所が検出される。炭化物の放射性年代測定結果は補正年代で14,560～14,650±50～80yrBP.で、出土遺物と調和的な年代が得られている。

縄文時代早期　縄文時代早期中葉にあたる時期、当地域では樽前火山の噴火によるTa-dの堆積に覆われる。ほぼ降灰軸線上に位置し、上幌内モイ遺跡での層厚は110cm前後となっている。Ta-dは東方の延長は釧路市付近まで確認されるが、厚真町南部では急激に厚さを減じ、苫東工業地帯の厚真、静川台地では軽石が点在するのみである。町内厚真川河口に近い浜厚真３遺跡でも堆積が認められず、早期の遺物で町内では最も古い東釧路Ⅱ式土器がややまとまって出土している。伴う焼土の年代は補正年代で6,890±40yrBP.である。図Ⅱ－１の範囲内、厚真川上～中流域で遺物の出土がみられるのはこれ以降のことで、東釧路Ⅲ式の可能性のあるものがオニキシベ１遺跡で、コッタロ式はショロマ２・オニキシベ４・富里１遺跡等で認められ、中茶路式となると上幌内モイ遺跡で住居跡２軒（VH-04、06）が検出されている。他に遺物の集中としてオニキシベ４遺跡（VPB-15）ショロマ１（VBB-15）などの土器や礫等の集中域が確認されている。東釧路Ⅳ式期には住居は認められないが、上幌内４遺跡では土器の集中域があり４個体が復元されている。このほか若干の資料がショロマ１・２・４・オニキシベ１・イクバンドユクチセ２・富里１遺跡で確認されている。

縄文時代前期　前期前半、綱文式土器の出土数は少ない。朝日遺跡、オニキシベ６遺跡で少数が、富里１遺跡ではややまとまった破片が出土している。土坑（P-15）は当期の可能性がある。

前期前半で遺構、遺物が最も多く確認されているのは、本遺跡も含めた静内中野式の時期である。本遺跡と幌内５遺跡では、舌状に張り出す地形の頂部を削平し、その排出土を斜面に堆積させるという形の所謂「盛土遺構」が確認されている。幌内５遺跡では大規模な攪乱を受け不明であるが、本遺跡は盛土の下位から、住居跡、土坑墓などの遺構が確認されている。土坑墓は厚幌１遺跡でも確認されている（VGP-01）。厚幌１遺跡は長楕円形の平面形でつまみ付きナイフとすり石が副葬される。本遺跡の２基（P-２、10）の平面形は小判形～ほぼ円形を呈する。副葬品はともに人骨の胸部付近につまみ付きナイフを１点伴うが、P-２にのみ配石がなされる。なお、当期に伴う可能性が高い「天都山式石冠」は、イクバンドユクチセ３遺跡でも出土している。





遺跡番登録番号	遺跡名	種別	時期	報告書
3	朝日遺跡(振老)	遺物包含地	縄文(後～晩)・続縄文・擦文	厚真村郷土研究会1956 道埋文2015a
7	幌内1遺跡	遺物包含地	縄文(中)・続縄文	亀井・池田1976
13	東和遺跡(東老軽舞)	遺物包含地	縄文・続縄文	亀井・池田1976
14	オニキシベ1遺跡	集落跡	縄文(中～後)・アイヌ期？	亀井・池田1976 道埋文2015b
16	桜岡チャシ	チャシ跡	中世アイヌ期	亀井・池田1978
17	桜岡1遺跡	遺物包含地	縄文(晩)	
25	厚幌1遺跡	集落跡	縄文(早～晩)・続縄文・擦文・アイヌ期	町教委 2004、2010a、2014a 道埋文2017b
30	上幌内1遺跡	遺物包含地	縄文(中)	町教委2016
36	高丘9遺跡	遺物包含地	続縄文	
37	富里1遺跡(楢山)	遺物包含地	縄文(中～晩)	厚真村郷土研究会1956 道埋文2018a
38	幌内4遺跡	遺物包含地	縄文(中？)	
39	チコマナイ遺跡	遺物包含地	縄文？	
57	幌内5遺跡	墳墓	縄文(前・後)・アイヌ期	町教委2010b
77	オニキシベ2遺跡	遺物包含地	縄文(中～後)・続縄文・擦文・中世アイヌ期	町教委2011
78	オニキシベ3遺跡	遺物包含地	縄文(後)	道埋文2018c
79	上幌内モイ遺跡	集落跡・墳墓	旧石器・縄文(早・中～後)・続縄文・擦文・中近世アイヌ	町教委2006、2007、2009a
80	一里沢遺跡	遺物包含地	縄文(前～中)・アイヌ期	町教委2017b
81	ショロマ1遺跡	集落跡	縄文(前・後)	町教委2015a、2018a
87	イクパンドユクチセ遺跡	遺物包含地	縄文(後)	
88	厚幌2遺跡	遺物包含地	縄文(前)	
89	オニキシベ4遺跡	遺物包含地	縄文	町教委2014b
90	オニキシベ5遺跡	遺物包含地	縄文(中)	町教委2013b
91	上幌内2遺跡	溝穴遺構	縄文・アイヌ期	町教委2017a
92	ショロマ2遺跡	遺物包含地	縄文(中)	町教委2015b
98	幌内6遺跡	遺物包含地	縄文(後)	道埋文2017b
100	ヲチャラセナイチャシ跡	チャシ跡	中世アイヌ期	町教委2013b
101	ヲチャラセナイチャシ遺跡	遺物包含地	縄文(早～後)・続縄文・擦文・中世アイヌ期	町教委2013a、2014c
102	吉野1遺跡	遺物包含地	縄文(中・晩)	
103	幌内7遺跡	遺物包含地	縄文(晩)・擦文	町教委2010a 道埋文2017b
104	ニタップナイ遺跡	遺物包含地	縄文(前～後)・続縄文・擦文・近世アイヌ期	町教委2009b、2010b
105	宇隆3遺跡	遺物包含地	縄文(中)	
106	富里2遺跡	遺物包蔵地	縄文(後・晩)・続縄文・擦文・中近世アイヌ	町教委2010b
107	オコッコ1遺跡	遺物包蔵地	縄文(早～晩)・続縄文・擦文	道埋文2017c 本書
117	桜丘2遺跡	遺物包含地	縄文(中・後)	
118	オニキシベ6遺跡	遺物包含地	縄文(後)	町教委2014d
119	イクパンドユクチセ2遺跡	溝穴遺構	縄文(後)	道埋文2015d
120	イクパンドユクチセ3遺跡	遺物包含地	縄文(中・後)・続縄文	道埋文2016b
121	ショロマ3遺跡	遺物包含地	続縄文	町教委2014e
122	ショロマ4遺跡	遺物包含地	縄文	道埋文2016a
123	上幌内3遺跡	遺物包含地	縄文(中・後)	道埋文2016d
124	上幌内4遺跡	遺物包含地	縄文(中)	道埋文2018b
125	上幌内5遺跡	溝穴遺構	縄文	道埋文2018b
128	ヲイカルマイ遺跡	遺物包含地	近世	町教委2011
133	富里3遺跡	遺物包含地	縄文(中・晩)	道埋文2016c
136	幌内8遺跡	遺物包含地	縄文(前・中)	

図Ⅱ－１　周辺の遺跡と地質図

前期後半は当地に集落を形成する。ヲチャラセナイ遺跡とショロマ１遺跡である。ヲチャラセナイ遺跡は13軒の竪穴住居からなる。うち４軒は長軸10mを超える大型の住居である。円筒下層ｃ・ｄ式、大麻Ｖ式を主とし、フゴッペ貝塚式や宮本式も出土する。ショロマ１遺跡は10軒の竪穴住居からなり、円筒下層ｄ式～上層ａ式にかけてかとみられる資料を伴う。両遺跡ともに土坑墓も検出されている。隅丸方形～長楕円形の平面形でつまみ付きナイフや北海道式石冠を副葬する例がある。ヲチャラセナイ遺跡では33基の土坑墓のうち半数近くで坑底付近に炭化材を伴う。

前期後半にはこのほか、石狩市上花畔１遺跡２群に相当する資料も確認されている。厚幌２遺跡とニタップナイ遺跡である。ともに盛土に類似する人為堆積層を確認している。厚幌２遺跡は削平部が確認できないため「捨て場遺構」と呼称されている。

縄文時代中期　中期前半は少ない。円筒土器上層式はａ式が上幌内４遺跡で、a～b式に相当するとみられるものが一里沢遺跡、オニキシベ５遺跡で復元されている。サイベ沢Ⅶ式に相当するものは、ショロマ１遺跡、上幌内モイ遺跡で出土している。上幌内モイでは当該期の住居跡も確認された。厚真１式は遺構の検出はないが、上幌内３遺跡でややまとまって出土している。萩ケ岡式は、富里１遺跡で２式に相当する可能性のある住居跡が検出されている（報文中では１式となっていた。訂正したい）。

中葉には天神山式と柏木川式が出土している。ショロマ２遺跡では天神山式の住居が４軒確認されている。オニキシベ４遺跡では柏木川式の住居が確認されている。

中期後半～後期前葉　土器型式でいう北筒式～煉瓦台式～余市式にかけての時期は、当地区で最も遺跡の多い時期である。これらの土器が全く出土しない遺跡は幌内５、富里２、上幌内５遺跡の３遺跡のみで、そのほかの27遺跡では出土しており、密度の濃い分布を示している。竪穴住居はイクバンドユクチセ３遺跡で４軒、オニキシベ３遺跡で４軒程度、ショロマ１遺跡で７軒、厚幌１遺跡で４軒、上幌内モイ遺跡で３軒となっている。特徴として二つ挙げると、竪穴を伴わない石組炉がオニキシベ３遺跡で11か所、上幌内モイ遺跡で２か所等確認されている。道南地域でよくみられる住居跡の多重重複があまり認められないことは特徴といえるかもしれない。

多くがこの時期に推定されるＴピットもほぼすべての調査で確認されている。例外は幌内５、６、富里１遺跡等が挙げられるが、厚幌導水路用地内の比較的狭い範囲の調査であるため検出されないのであろう。多数の検出例は上幌内５遺跡の421基、ショロマ１遺跡の188基、上幌内モイ遺跡の169基、厚幌１遺跡の153基がある。道内でも有数のＴピット適地であったのではなかろうか。

後期中葉の手稲式、鮏澗式にあっては極端に遺跡数が減少する。遺構の検出はなく、上幌内４・オニキシベ４・幌内７遺跡で復元個体が、富里１・ショロマ４・オニキシベ３・６朝日遺跡で破片がわずかに出土する程度である。また、ウサクマイＣ式も同様で、ヲチャラセナイ遺跡で１個体が復元されるにとどまる。

後期末様～晩期前半にかけては、若干であるが出土例が増える。特筆されるのは晩期前葉の朝日遺跡の62基の土坑墓である。このほかには上幌内２遺跡では多量の焼骨片を混じる焼土の周囲に堂林式の土器の集中が認められる。同定された焼骨にはイノシシもある。同様な焼骨を伴う焼土は、オニキシベ６・４遺跡でも、堂林式～晩期初頭の東三川Ⅰ式を伴い確認されている。また、範囲外ではあるが、豊沢10遺跡も同様なあり方と示している。このほか、堂林式にはショロマ１遺跡・富里１遺跡、御殿山式はオニキシベ３・上幌内３遺跡でも出土例がある。

晩期中葉～後葉は再び出土例の減少する時期となる。ショロマ４・上幌内モイ・厚幌１・幌内７・富里１・富里２遺跡で出土例がある。この時期に属する円形の土坑は、幌内７・富里１遺跡で検出さ

れるのみである。晩期後葉の時期には樽前ｃテフラの降下があるが、富里１遺跡の土坑にはその上下で検出され、降下前後を通じて遺跡の利用が行われたことがわかっている。

続縄文時代の前半期は、遺物の希薄な時期である。前半の土器は本遺跡、また厚幌１・上幌内モイ遺跡等で１個体だけ出土する例がある。上幌内モイ遺跡では赤穴式とみられる弥生時代の土器も出土している。遺構を伴い出土数が増えるのは後北式で、焼土、焼骨集中等を伴う「集中区」が検出される例がある。オニキシベ２・上幌内モイ・ショロマ４遺跡に認められる。また、当期とみられる土坑墓もショロマ３遺跡で見つかっている（ⅢGP-01）。３体が合葬される土坑墓で、副葬品として、片岩製の石鏃 111 本、ナイフ４点、石斧１点が出土している。

北大Ⅰ式の遺構、遺物は、朝日・幌内７・富里１遺跡で確認されている。（富里１遺跡の総括では幌内７遺跡を含めていない。北大Ⅰ式の出土を３例と訂正したい）

北大式以降擦文文化期、アイヌ文化期の当地の資料は多く、また重要なものが多い。これまでシンポジュウムを含め様々に紹介されてきているので、ここでは簡単に触れておくのみとする。特に重要なものを挙げると、13 世紀のチャシ跡である、ヲチャラセナイ遺跡。擦文文化からアイヌ文化への移行期とみられるオニキシベ４遺跡等で確認された 11 世紀にさかのぼる平地住居跡。アイヌ文化期では上幌内２・３遺跡の周溝を持つ墓があり、人骨とともに多量の刀剣類などの副葬品を伴う（厚真シンポジュウム実行委員会 2015）。等である。

２　周辺の地質

（１）地質概要

本地域の地質に関し、『早来』、『穂別』の２冊の地質図幅が刊行されている（松野・石田 1960、高橋・和田 1987）。記述はこの２冊を引用し、他の引用先がある場合明記した。

遺跡周辺の基盤は、地質年代でいう新第三紀に属する堆積岩で構成されている。遺跡はその上位、第四紀に堆積した河岸段丘堆積物や沖積錐、あるいは地震によって引き起こされた可能性が高い地すべり状堆積物（出穂 2006、岡 2018）の上に立地している。図Ⅱ－１は上記２冊の図幅を利用し、厚真川上～中流域の遺跡をドットで位置を示したものである。以下図を用いて地質の概略を説明する。

図の中央を流れる厚真川は北東側図外の夕張紅葉山地域に端を発する。厚真ダムを経て北北東- 南南西の流路をとって流下し、厚真市街地で方向を変えて南下している。厚真川は多くの支流を持つ。図中の範囲に於いて名前のつく川を挙げていくと一里沢、オニキシベ川、キウキチ沢、マッカウス沢、日高幌内川、オコッコ沢川、メナの沢川、頗美宇川、東和川がある。それぞれ合流点の周囲にはほぼ例外なく遺跡が存在している。

基盤層となる新第三紀層は、緩やかな背斜、向斜を繰り返す褶曲構造を呈している。厚真川の支流はこの比較的柔らかな基盤層を開析し、結果として樹枝状の沢型がよく発達している。

本地域で最も下位に位置する層は、**トニカ層（To）**である。富里地区の頗美宇川と厚真川の合流点に僅かに露出するものである。硬質頁岩とこれに挟有される安山岩質凝灰角礫岩が認められる。

硬質頁岩は非常に凝灰質なもので、露出面で灰白色を呈する。風化すると表面が赤褐色となる。

安山岩質凝灰角礫岩は、帯緑黒色を呈するものである。この凝灰角礫岩は、無数の石英の細脈により貫かれているとされており、幌内５遺跡報文中にも指摘される「白濁したメノウ」とみられる。本遺跡からも多く出土する、「石英質岩」の供給源の一つなのであろう。

トニカ層の上位は、板状砂岩の標識層位である川端層相当の堆積が認められる。川端層相当の堆積は早来図幅では振老層と呼称され下位から砂岩・泥岩互層、凝灰岩の薄層を挟んで上位の礫岩・礫

岩・砂岩互層の２つに区分されている。

砂岩・泥岩互層（F1）は、極めて規則的な互層である。砂岩は暗灰色ないし青灰色を呈し、概ね砂粒ないし中粒であってまれに粗粒なものもある。固結度も変化が大きく、非常に堅硬なものから粗鬆軟弱なものまである。板状の砂岩中にはしばしば炭質物の層理が平行に配列し、黒い縞模様を呈する場合がある。泥岩は暗灰色ないし黒色を呈し、板状をなして成層するものと塊状のものとがあり、粒度は緻密粘土質のものからシルト質ないし砂質のものまで種々あるとされる。

凝灰岩は幌内背斜およびショルマ向斜の西翼に４～６枚認められるが、これらは各々に特徴がなく、また厚さも一定ではない。岩質は青灰色泥質凝灰岩・黄褐色細粒凝灰岩・褐色粗粒凝灰岩・褐灰色砂質凝灰岩あるいは暗緑灰色緻密泥質凝灰岩と様々である。

礫岩・砂岩互層（F2）は、礫岩から漸移的に砂岩・泥岩互層（あるいは硬質頁岩）互層という順序で重なる典型的な堆積周期を繰り返している。礫岩は主として黒色粘板岩の礫からなり、硬砂岩・珪質岩および片岩の礫を混じえ、外観は黒色に近い色彩を呈する。砂岩は礫岩の上位にあって礫岩から移化するものと、泥岩と互層するものとがある。後者の砂岩は板状かつ一般に細粒であって砂岩泥岩互層中のものとかわらないとされている。

この振老層は、東隣の穂別図幅では川端層とされ、上位と下位の礫岩・砂岩・泥岩互層に区分されている。川端層は礫岩・砂岩・泥岩の周期的互層からなる「タービダイト」相で特徴づけられている。

下部層（Kl）は、数cm～15cm程度の細粒砂岩シルト岩の細互層を主体とし、その中に１～４ｍの間隔で厚さ20～80cmの砂岩層を挟在している。主体となる細粒砂岩シルト岩の互層は明瞭な級化が認められ、平行葉理が発達している。挟在する砂岩層は、単層の基部が指頭大の礫を混在する中粒～粗粒砂岩であるが、上部へ漸次細粒化し明瞭な級化構造が認められる。

上部層（Ku）は、一つの周期堆積相は下部から上部へ砂岩礫岩層、砂岩優勢の泥岩との互層、泥岩優勢の砂岩との互層そして最上部が成層したシルト岩から塊状のシルト岩へのそれぞれ漸移している。

振老層・川端層の上位には、軽舞層が堆積する。軽舞層は早来図幅では、下部硬質頁岩、砂岩泥岩互層、上部硬質頁岩の３相に分けられ、穂別図幅では硬質頁岩相と砂岩泥岩互層、礫岩層に区分される。早来図服の硬質頁岩はオニキシベ川で消滅していることから、上下の区分ができないとされている。早来図服の説明によれば、下部、上部の硬質頁岩相の岩質および性状は全く同様であったとのことから、下部、上部の岩石的な特徴を合わせ、穂別図幅と対応させる形で説明する。

早来図服の**下部・上部硬質頁岩相（K1・K3）**は、厚さ数cm～10数cmの硬質頁岩と２～５cmの泥岩・シルト岩あるいは細粒砂岩との互層からなり、あたかも煉瓦を積み重ねたような見事な露出面を形成する。硬質頁岩は一般に灰色ないし暗灰色を呈し堅硬緻密であり、ところにより珪質となっている。なお上部硬質頁岩の下部（すなわち砂岩泥岩互層の上位にあたるか？）は通常泥岩・シルト岩の板状互層であるが、オコウコ沢においては、厚さ数ｍの青灰色板状細粒砂岩が認められるとされている。現状では確認できなかったが、遺跡内で利用される砂岩かもしれない。

砂岩泥岩互層（K2）は、砂岩は中粒ないし細粒で青灰色あるいは暗灰色を呈し、泥岩・シルト岩は暗灰色を呈する。砂岩と泥岩は級化互層し、ところによって量比に差があるとされる。

穂別図幅の軽舞層は、硬質頁岩相と砂岩泥岩互層と礫岩層にわかれ、図Ⅱ－２内では前二者が確認されている。

硬質頁岩相（Kh）は、硬質頁岩と泥岩・シルト岩あるいは細粒砂岩との数cm～10cm間隔の板状の互層である。級化構造がみられ、いわゆる泥質タービダイトと呼ばれる層相もある。硬質頁岩は一般

に灰色～暗灰色の堅硬緻密な泥岩で、部分的であるがチャート状の珪質頁岩となっている場合がある。

砂岩泥岩互層（Ka）は、青灰色の中粒～粗粒砂岩と泥岩との、砂岩優勢か砂岩泥岩等量の互層である。級化構造が発達し川端層下部層と類似したタービダイト相を呈している。

軽舞層より上位の層は、早来図幅でのみ確認されている。萌別層がそれにあたる。萌別層は下位からシルト岩砂岩硬質頁岩互層、砂岩シルト岩互層、礫岩、砂質シルト岩に分けられ、図中には砂岩シルト岩互層と礫岩のみが分布している。

砂岩シルト岩互層（M2）は、ほぼ等量の細粒砂岩と青灰色ないし灰色のシルト岩とが互層をなし、泥岩および硬質頁岩を挟有するが硬質頁岩の量は非常に少ない。砂岩中には雲母粒が多量に認められ、シルト岩は黄灰色で珪藻質であるとされる。

礫岩（M3）は褐色ないし茶褐色を呈し、径２～５㎝のよく水磨された円礫からなる。礫種は火成岩、変成岩類及び古期堆積岩類である。

（２）地質と遺跡分布

当地域の基盤を構成する岩石は、大まかにまとめると「級化構造を持つ板状の砂岩」を主とし、このほか「硬質頁岩層」や「礫岩」が存在するというものである。

「級化構造を持つ板状の砂岩」（以下板状砂岩とする）は、振老層や川端層下部層、軽舞層の砂岩泥岩互層であり、極めて規則的な互層、典型的な堆積周期を繰り返していること。明瞭な級化が認められ、平行葉理が発達している部分もある。といった特徴が強調されている。この特徴は遺跡で出土する石皿、台石と共通するものである。

遺跡が形成された当時の状況は不明であるが、本遺跡のように多くの板状礫が出土する遺跡にあっては、おそらく近くに採取可能な場所があったと想像される。

Ⅰ・Ⅱ章引用文献（発掘調査報告書はⅦ章末尾にまとめた）

厚真村郷土研究会　1956 『厚真村古代史』

厚真シンポジュウム実行委員会　2015 『厚真シンポジュウム　遺跡が語るアイヌ文化の成立― 11～14 世紀の北海道と本州島』

出穂雅実　2006 『ジオアーケオロジー』厚真町教育委員会 2006 所収　第Ⅲ章２節

岡孝雄　2018 『厚真川上流域の地形面区分およびショロマ１遺跡に関る地質的検討』厚真町教育委員会 2018a 所収　第Ⅳ章６節

亀井喜久太郎・池田実　1976 『厚真の旧地名を尋ねて』

亀井喜久太郎・池田実　1978 『続厚真の旧地名を尋ねて』

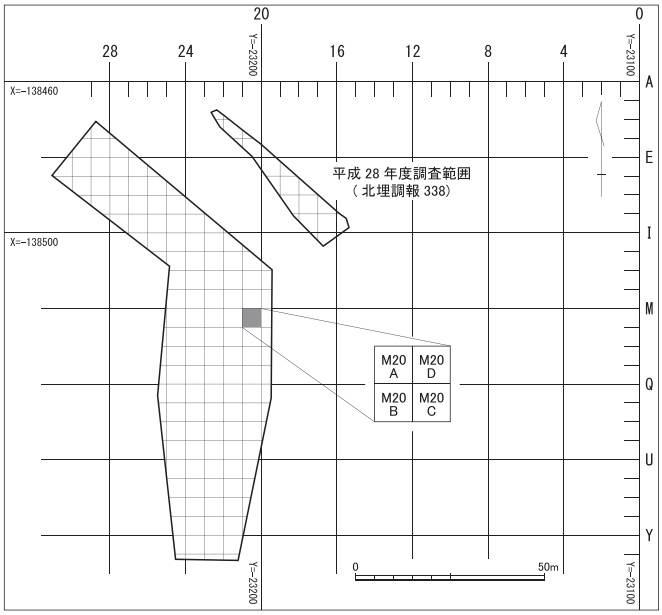
高橋功二・和田信彦　1987 「５万分の１地質図幅説明書　穂別」 北海道立地下資源調査所

松野久也・石田正夫　1960 「５万分の１地質図幅説明書　早来」 北海道開発庁

Ⅲ章　調査の方法

1　発掘区の設定

発掘区は世界測地系（平面直角座標XⅡ系）を使用した。起点をX＝－138460、Y＝－23100として、調査区を覆うように５ｍの方眼を設定した。X軸にアルファベットを、Y軸に数字を与え、X軸の起点をA、Y軸の起点を０とし、X軸は南にA、B、C…、Y軸は西に向かい０、１、２、３…と割り付けた。調査区はグリッドの交点で示され、北に向かい右上にあたる杭がそのグリッドの名称としている（図Ⅲ－１）。例えば図Ⅲ－１においてアミで記されたグリッドはM20となる。さらに、遺物集中域や規模の大きな遺構の出土遺物について、グリッドを４分割して取り上げた部分がある。その場合においては、左上から反時計回りにM20A、M20B、M20C、M20D区とした。



図Ⅲ－１　発掘区設定図

2　調査の方法

（1）調査概況

調査区は、大麦の耕作地に接するものの耕作による攪乱をほとんど受けていなかった。樽前ｂテフラの層厚は厚いところで20cm程度で、耕作地を平坦化した客土とみられる堆積に覆われる部分があったが、火山灰以下の残存状況は良好であった。

平成27年５月７日より樽前ｂテフラをバックフォーで除去し、12日から黒褐色土（Ⅲ層）上面で遺構の確認調査を行った。結果、擦文後期の平地住居跡４軒等を検出し調査を行った。Ⅲ層中にも多くの縄文時代晩期以前に属する石器の出土がみられた。Ⅲ層の調査は６月29日まで行い、６月30日～７月１日にバックフォーにより樽前ｃテフラを除去した。火山灰下位の暗褐色土（Ⅴ層）の調査は７月６日から行った。

試掘調査の結果から、縄文時代前期前半とみられる盛土遺構があることがわかっており、調査計画の策定のため、盛土のより正確な分布範囲と予想される遺物出土点数を把握する必要があった。このことから盛土を中心として調査区全体にトレンチを設定した（図Ⅲ－２）。

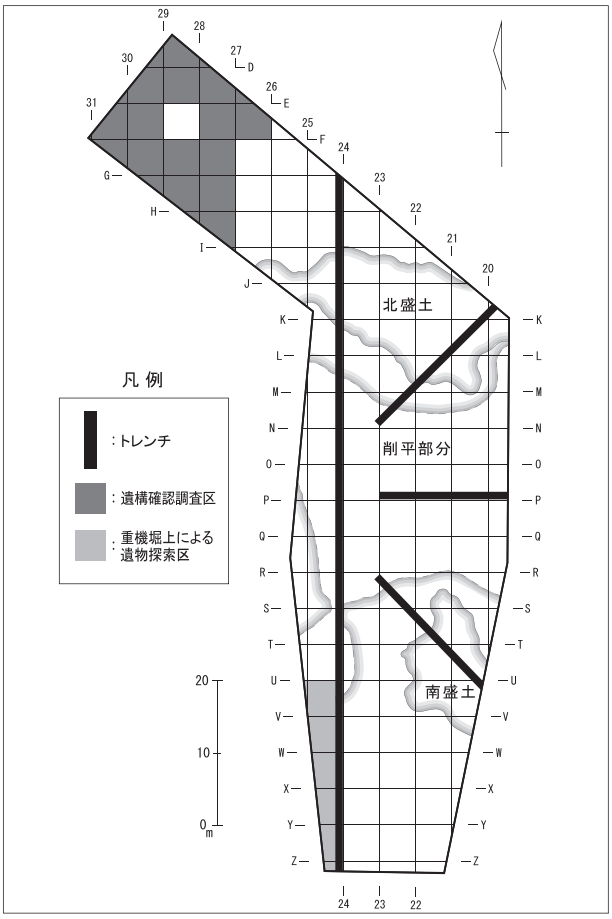
トレンチ調査の結果、盛土遺構は北と南の斜面、計２か所に形成されており、２枚の堆積からなること。また盛土に挟まれた段丘頂部は、削平された可能性があることがわかった。さらに北側トレンチの盛土層下位には、住居様の遺構の断面が確認された。

二枚の盛土遺構は上位をＭⅠ層、下位をＭⅡ層とし、各層の上面で遺物出土状況を写真、図面で記録し調査した。盛土遺構の調査終了後は、漸移層から樽前ｄテフラ上面（Ⅶ層）で遺構確認調査

を行った。結果Ⅶ層の上面において、竪穴住居跡６軒、土坑15基等の遺構を確認した。

盛土遺構の分布範囲外では、Ⅴ層の遺物出土点数が比較的少ない傾向があった。このためバックフォーを用い調査を行った地区がある。Ⅶ層まで土層を除去し、遺構確認調査に切り替えた部分、除去した土を積み上げて人力により遺物回収を行った地区がある（図Ⅲ－２）。

発掘調査は平成27年10月28日に終了した。土器、石器、礫に区分して取り上げた遺物の水洗作業は、土器と石器は平成27年度に終了したが、礫は平成28年度に行った。整理作業は平成27年度より平成29年度まで、報告書刊行は平成30年度に行った。



図Ⅲ－２　調査方法

（２）遺構調査

Ⅲ層：３～５㎝ずつ掘り下げを行い、焼土が検出された時点で周囲を精査し、平地住居跡の柱穴検出を行った。また遺物集中域の検出にあたっては、検出後、周囲を精査し、遺物を残して掘り下げ、集中状況の輪郭が明らかになった時点で写真等の記録を作成した。

Ⅴ層：a）盛土遺構の調査

盛土遺構は、ＭＩ層では検出面の写真を記録した。ＭⅡ層とＭＩ層の一部においては大礫と土器、石器について出土地点を記録した。厚く堆積する部分では小グリッドを用いた。道具は概ね移植ゴテを使ったが、特に厚く堆積する部分ではスコップを併用した。トレンチに沿った盛土遺構のベルト部分の堆積は、微細遺物、遺存体の回収を目的とした土壌採取を行っている。

b）盛土以外の遺構調査

平面形の確認の後、半截もしくはトレンチ調査により壁床を確認した。記録を作成したのち完掘した。主に床面、坑底、検出面等の重要とみられる出土遺物について出土位置を記録して取り上げた。ほぼすべての掘り下げは移植ゴテを用いて遺物を残しながら掘り下げた。

（３）包含層調査

Ⅲ層：出土遺物の多い部分、平地住居の範囲内では、移植ゴテを用いて３～５㎝ずつの掘り下げを行った。遺物の少ない斜面部分では、スコップを併用した部分がある。

Ⅴ層：盛土遺構とその周囲以外では、出土遺物は少なかった。主にスコップを用いて土に刻みをいれた後、遺物を探しながら掘り下げる方法で行った。調査区南部の遺物出土点数が少ない地区では、バックフォーによって掘り上げた土の遺物回収を行った部分もある。

３　遺物整理の方法

（１）図面

遺構、重要な遺物の出土状況について実測図を、表土除去後と調査終了時に測量図を作成した。遺構は原則縮尺 20 分の１で平面図、断面図を作成した。これらは調整して素図を作成し、この素図に墨入れをしたものを報告書の版下としている。

（２）写真

発掘現場での撮影：デジタルカメラを主として用いた。複数の遺構の全景撮影等、足場を使った広範囲の撮影については、６×７インチ、４×５インチのフィルムカメラを適宜用いた。また写真整理用としてコンパクトデジタルカメラも使用している。主に撮影対象としたものは、遺構、遺構の遺物出土状況である。

撮影機材：カメラはシグマ DP-１（デジカメ）Mamiya RZ67PROⅡ（６×７）、酒井マシンツールトヨフィールド 45A（４×５）、ソニーサイバーショット（コンデジ）である。フィルムは、富士フィルム　フジ PROVIA100F、NEOPAN ACROS100 を使用した。

室内撮影：デジタルカメラ、シグマ DP3 を用いた。露出計はセコニック L-408、ストロボはコメット CB-2400a、CLX-25miniH である。また石皿等礫石器の撮影にはデジタル一眼レフカメラ　ニコン D3000、撮影用 LED ライト　santech LG-E116c、エクセル KTDN16W を用いた。

デジタル処理：デジタルカメラ撮影の RAW データは、シグマプロフォトで TIFF に変換し、アドビフォトショップ CC にて調整した。写真図版としたものは調整後のものである。

（３）土器・石器等

一次整理：出土した遺物は取り上げの段階で土器、石器、礫石器を含めた礫にわけ、水洗後改めて分類を行った。分類された遺物は、それぞれ遺物カードを付した。出土地点を記録して取り上げたものについては、取り上げ番号を遺物番号としてそのまま記している。

この遺物カードの情報をパソコン（マイクロソフト、エクセル）に入力し、遺物点数の集計を行なった。出土遺物のうち土器、石皿、石斧関連遺物、砥石、北海道式石冠、加工痕のある礫について以下のように注記した。石斧関連遺物については、この他に細分器種名を以下のように加えた。

石斧＝石、石斧片＝片、石斧破片＝ハ、石斧加工品＝カ、石斧再加工品＝サイ、擦切残片＝スリ、石斧原材＝ゲ、とし、それぞれ〇で囲んで末尾に記してある。

	※遺跡名	遺構名	※層位	※遺物番号
遺構出土遺物 （M層点取は※のみ）	オコ１	P-１	フ２	20
包含層出土遺物	遺跡名	グリッド	層位	
	オコ１	M20	V	

Ⅱ群ａ２類土器は水洗乾燥後、新成田総合社「ナチュラルコート」により強化した。アセトンにより除去が可能である。

二次整理：土器と上記礫石器は注記の後、接合作業を行なった。そのほかの石器は分類して掲載遺物を選別した。

（４）礫・礫片

礫・礫片は約 248,000 点出土しており、最も多く出土した遺物である。これらのうちグリッド上げしたものは焼成の有無と石質、重量を記録して現地に戻した。出土地点を記録したものは、デジタルカメラを用いて個々に形状を記録している。

このほか礫には円礫・棒状礫、板状礫、有意の礫としたものがある。円礫・棒状礫、板状礫は主としてⅢ層から出土する形状の整った礫や、Ⅴ層出土の投弾様の円礫等である。有意の礫とはⅤ層から出土した礫石器素材の可能性がある石。また石英質岩と呼ばれる白色珪質な石等である。当初は蛇紋岩礫も持ち込まれたものとしていた。しかしオニキシベ川の上流に蛇紋岩体があるとの情報（加藤孝幸氏のご教示による）を得、この蛇紋岩についても礫に同じく記録した後、現地に戻すことにした。このうちクロムとみられる金属分を多く含むものや、灰クロム柘榴石を含む等の特徴を持つものは一部残している。

（５）動物遺存体

Ⅲ層は主に焼土中から、Ⅴ層は主として盛土層から焼骨片が出土している。これらは以下の二通りの方法で採取した。それぞれ台帳を作成して点数と重量をまとめている。

a）直接手で取り上げる。いわゆるハンドピック法。特に盛土層中から出土する遺存体は、はっきり視認できるほどの大きさのものもあるが散漫な分布状況であった。しかし土壌全てを回収することは現実的ではなかった。このため拾える限りの大きさの骨片を土器、石器とは別に回収し、自然乾燥の後、筆、刷毛を用いて水洗を行った。乾燥の後、点数と重量を量り、立田が同定の可能性がある大破片や骨角器とみられるものを選別した。この選別した試料について、第１調査部第２調査課長　土肥研晶と、大村幸に鑑定を依頼した。結果ニホンジカの各部位が最も多いことがわかった（表Ⅳ－８、Ⅴ－14）。ニホンジカ以外となったもの、また判定できなかったものについては、株式会社パレオラボに同定を委託している。

b）フローテーション法によるもの。Ⅲ層検出焼土の土壌について、また盛土層ではメインセクションのベルトにおいて、盛土層と削平層について土嚢袋による土壌回収を行い、フローテーション法による選別作業を行った。使用した篩は浮遊物が 2.0mm と 0.425mm、沈殿物は 1.41mm である。土嚢の総数は 185 袋、総体積は 1,854 ℓ であった。選別は焼骨に加え土器、石器、炭化種子、炭化物について行った。回収した全ての骨片と一部の炭化種子について、株式会社パレオラボに同定を委託した。

（６）収納・保管

本報告に掲載された遺物は、ポリエチレン袋に個別に入れ、掲載番号、掲載図を付し、59×39×15㎝のプラスチックコンテナ（サンボックス製　36-２B）に収納した。その他の遺物は報告書名、分類内容を明記し同コンテナに収納した。コンテナには遺跡名、報告書名、分類名、収納番号を記したラベルを貼り、収納台帳を作成した。これらの遺物は報告後、厚真町で保管する。

４　遺物の分類

（１）土器

出土遺物のうち、土器は縄文時代早期をⅠ群、前期をⅡ群、中期をⅢ群、後期をⅣ群、晩期をⅤ群とし、続く続縄文時代をⅥ群、擦文文化期をⅦ群とした。この各群にアルファベットの小文字を組み合わせ、前半（a 類）、後半（b 類）あるいは、前葉（a 類）、中葉（b 類）、後葉（c 類）に分類した。

Ⅰ群　［縄文時代早期の土器群］

a 類：貝殻文が施文される土器群＝当調査では出土していない。

b 類：縄文が施文される土器、東釧路Ⅲ、Ⅳ式、コッタロ式、中茶路式

Ⅱ群　［縄文時代前期の土器群］

a 類：縄文尖底土器。以下のように細分した。

Ⅱa-１：綱文式に相当するもの
Ⅱa-２：春日町式・静内中野式に相当するもの
Ⅱa-２S：胎土に蛇紋岩・滑石が混じるもの（一部Ⅱa-３類相当も含む）
Ⅱa-３：加茂川式に相当するもの
b類：石狩市上花畔２群、植苗式に相当するもの
Ⅲ群　［縄文時代中期の土器群］
a類：円筒上層式・厚真１式に相当するもの
b類：柏木川式・煉瓦台式に相当するもの
Ⅳ群　［縄文時代後期の土器群］
a類：余市式に相当するもの
b類：ウサクマイＣ式、手稲式に相当するもの
c類：堂林式、三ツ谷式、湯の里３式に相当するもの
Ⅴ群　［縄文時代晩期の土器群］
a類：大洞Ｂ・BC式に相当・併行するもの。東三川Ⅰ式など。＝当調査では出土していない
b類：大洞C_1・C_2式に相当・併行するもの。美々３式など。
c類：大洞Ａ・A′式に相当・併行するもの。タンネトウＬ式など。＝当調査では出土していない
Ⅵ群　［続縄文時代の土器群］
続縄文時代前期後葉（H317期）のRL斜走・横走の土器が出土している。
Ⅶ群　［擦文文化期の土器群］
塚本編年８期～９期（塚本2002）に相当する、後期の土器が出土している。

（２）石器等

石器等は以下のように分類した。

剥片石器：石鏃、石槍、石錐、スクレイパー、つまみ付きナイフ、両面調整石器、楔形石器、Ｒフレイク、Ｕフレイク、フレイク、石核、原石
石斧関連遺物：石斧、石斧破片、石斧加工品、石斧再加工品、石斧原材
礫石器：たたき石、すり石、扁平打製石器、北海道式石冠、石鋸、砥石、石錘、加工痕ある礫、石皿・台石
礫：円礫・棒状礫、板状礫、有意の礫、礫・礫片

このほか、焼成粘土塊や土製品、円盤状石製品などの石製品、玉、骨角器、有孔自然石、高師小僧が出土している。

剥片石器のうち、石鏃～つまみ付きナイフは形状により細別を行った。石斧関連遺物に関しては本遺跡独自の分類を行った。細別の詳細はⅤ章に記す。なお礫の細別と整理方法については前節３-（４）、遺物整理の方法に記してある。

（３）鉄製品

鉄製品は鉄斧、魚突鉤、釣針、刀子、鉄鍋、鏨、不明鉄製品等が出土している。

（４）その他の遺物

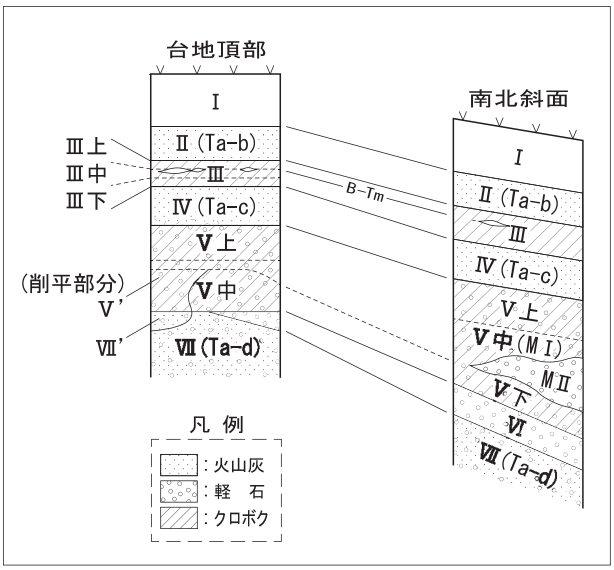
土坑墓から２体分の人骨片、前節（５）に記したハンドピックによる焼骨片、炭化物。またフローテーション作業により動物遺存体、炭化物、炭化種子が出土している。うち焼骨片、動物遺存体、人骨片、フローテーション作業の結果出土したものについては重量などの記録をおこなったが、炭化物については遺構調査において出土を記載した以外に台帳等の作成はしていない。これらは全て種別に

分けてコンテナに収納した。

焼骨と炭化クルミとみられる炭化物片については、放射性炭素年代測定を行ったものもある。結果はⅥ章に掲載した。

５　基本層序

本遺跡の土層は、町内の調査例を参考にし、色調などの特徴から以下のように区分した。



図Ⅲ－３　基本土層模式図

Ⅰ層：黒褐色土

耕作土または耕作地造成に伴う攪乱層。

Ⅱ層：灰白色砂

樽前ｂテフラ（1667年降下）。層厚20cm程度。

Ⅲ層：黒～黒褐色土

層厚20～30cm前後で不均一。上位に白頭山―苫小牧火山灰とみられる白色シルト層が部分的に認められる。遺物包含層である。

Ⅳ層：にぶい黄褐色砂

樽前ｃテフラ層（2,500年前）。層厚は10～20cmで不均一。

Ⅴ層：黒色砂礫混土

遺物包含層である。

Ⅵ層：暗褐色砂質土

漸移層、遺物包含層である。

Ⅶ層：にぶい黄褐色～褐色砂混土・粘土

樽前ｄテフラ（8,000～9,000年前）を主とする堆積層。テフラの層厚は段丘頂部で約100cm。

なお。Ⅲ層は平坦面でⅢ層上、中、下の３つに区分した部分がある。上中はB-Tmを境とし、中下は土質により区分した。特徴は以下の通りである。

Ⅲ層上：10YR 1.7/1　黒色砂質土（粘性なし　しまりなし）

Ⅲ層中：10YR 1.7/1　黒色砂質土（粘性なし　しまりなし）

Ⅲ層下：10YR 2/2　　黒褐色砂質土（粘性なし　しまりなし）やや砂質

Ⅴ層は土層の特徴から上、中に区分した。盛土層であるＭⅡ層はⅤ層中に相当するが、より樽前ｄパミスを多く含む。ＭⅡ層が観察される部分では、下位のⅤ層をⅤ下層としている。

Ⅶ層は橙色のパミスを主体とするⅦa層と、その下位の白色粘土を主とするⅦb層に区分した部分がある。また、削平部分においては、Ⅶ層が土壌化している部分がありこれをⅦ′層とした。

Ⅴ層～Ⅶ′層の詳細については、Ⅴ章２節（１）において述べる。

Ⅳ章　Ⅲ層の遺構と出土遺物

１　概要

Ⅲ層から検出された遺構は、平地住居跡４軒、土坑１基、焼土14か所、柱穴状小ピット113基、遺物集中15か所、土器集中３か所である。焼土、柱穴状小ピット、遺物集中の遺構数は、平地住居を構成するものも含む。

遺構はほとんどが台地頂部平坦面に集中している（図Ⅳ－１）。例外として焼土F-10、12、13は北側緩斜面に、土器集中１、２は南側斜面に位置する。平地住居跡４軒は平坦面の中央を避けて南北２軒ずつに分かれている。H-１、２は南側で、東西方向にほぼ接している。H-３、４は北側で南北方向に近接して検出されている。炉の長軸はH-１～３が概ね東西、H-４のみがやや西よりの南北方向となる。H-１、３の北東側にはそれぞれS-９、12の遺物集中域が存在しており、関連するものかもしれない。そのほか鉄製品を含む集中域S-２、４、５はH-１、２とH-３との間に形成される。

なおP19区付近の東壁において、検出状況からアイヌ文化期とみられる灰層を確認している。精査中に欠失してしまい記録を作成することができなかった。

遺構出土の掲載遺物については、器種、分類名と出土と接合の状況のみ記し、個々の遺物の詳細は包含層の遺物とまとめて記述する。

２　Ⅲ層検出の遺構

（１）平地住居跡

H-１　（図Ⅳ－２・３・16、表Ⅳ－１～４・７、図版４・５・16・19）

構成遺構（F-４・５・S-10・11、SP-１～19）

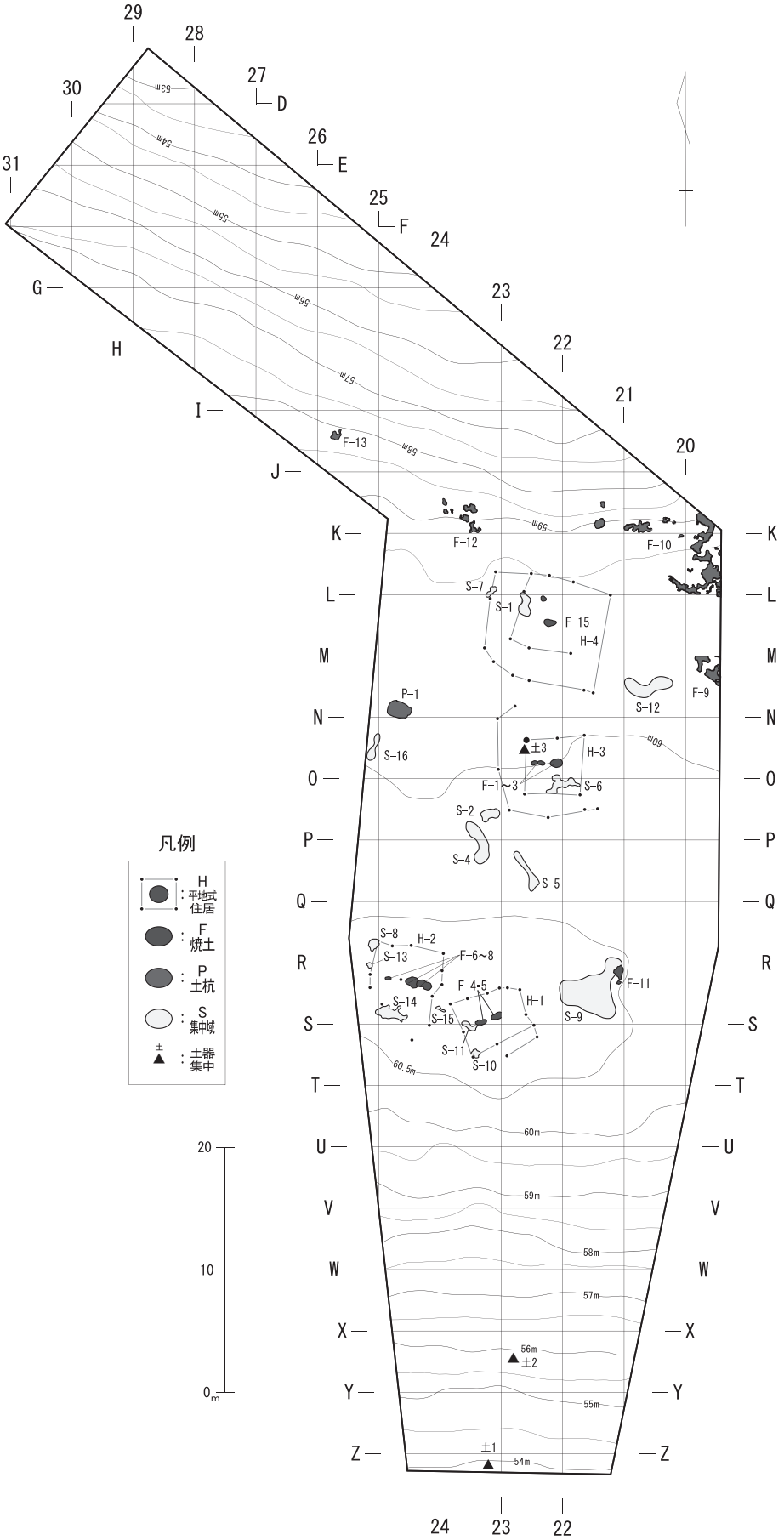
位　　置　R・S22・23区　**規　　模**　5.92×5.80m　**長軸方位**　N-66°-E

確認・調査　調査区中央やや南寄りの斜面際に位置する。Ⅲ層を調査中、焼土と板状礫が集中して出土する部分を確認した。焼土は明瞭に焼けていたことから、平地住居を想定した。焼土部分を残して周囲をⅣ層上面まで掘り下げ精査した。結果焼土を囲む小柱穴を確認できたため、平地住居跡とした。炉跡として焼土２か所（F-４、５）、板状礫の集中１か所（S-11）、棒状礫の集中１か所（S-10）、柱穴19基から構成される。西側1.2mの距離にH-２が位置する。

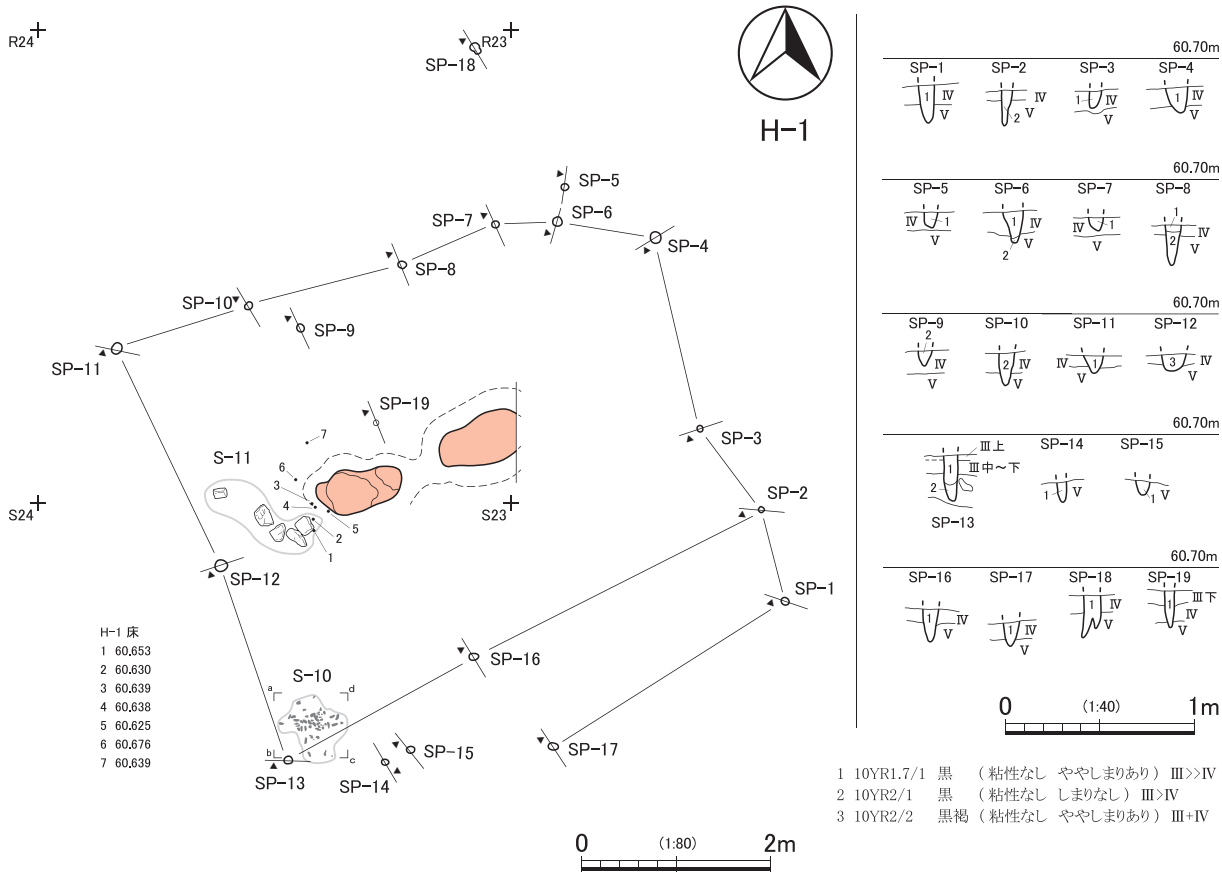
長軸は西南西―東北東方向、２か所の炉跡の平面形はともに楕円形で、長軸の中心を避けて東西に検出されている。東がF-４、西がF-５である。S-11はF-５西側に接し、S-10は南西角に位置する。柱穴は炉跡から約1.5m離れて長方形に巡る。南東側に一部二重となる部分がある。

F-４：最大厚７㎝、F-５：最大厚６㎝、いずれも土壌を採取してフローテーション法による微細遺物、遺存体の回収を行った。結果微細なフレイク・チップ、炭化物、骨片が得られた（表Ⅳ－７）。F-４出土の骨片のうち１点は、シカ中手中足骨遠位端と判断されている。

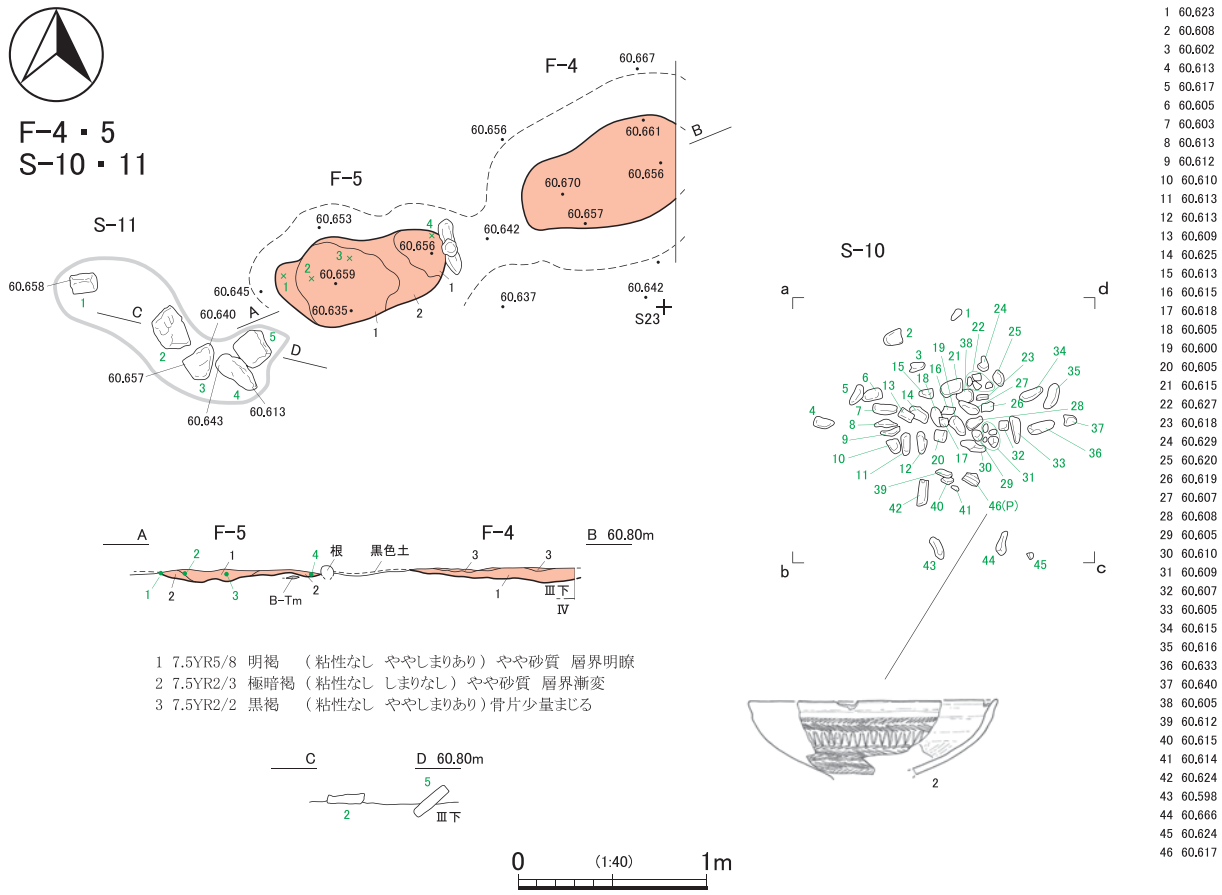
遺物出土状況　S-10：円礫・棒状礫39点、礫片６点からなる。円礫・棒状礫の石材は砂岩27点、泥岩12点である。欠損の見られない礫の平均は5.9×3.2×2.1㎝、42.6gで、全出土礫の合計重量は1511.4gである。ほかにⅦ群土器片が１点出土している。S-11：板状礫３点、礫・礫片２点からなる。５点の総重量は、14,850gである。このほか炉跡F-５床面の遺物として、礫片が４点出土している。なお、図Ⅳ－15-９A、Bの出土地点はほぼH-１の南側に位置しており、本住居に伴うものと判断される。


29
28
27
D
30
26
E
31
25
F
24
G
23
H
22
I
21
20
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U
V
W
X
Y
Z
53m
54m
55m
56m
57m
58m
59m
60m
60.5m
F-13
F-12
F-10
S-7
S-1
F-15
H-4
F-9
S-12
P-1
S-16
土3
H-3
F-1～3
S-6
S-2
S-4
S-5
S-8
H-2
S-13
F-6～8
F-4･5
H-1
F-11
S-14
S-15
S-9
S-11
S-10
56m
土2
55m
土1
54m
凡例
H：平地式住居
F：焼土
P：土杭
S：集中域
土：土器集中
20
10
0m
24
23
22

図Ⅳ－１　Ⅲ層遺構位置図



1　10YR1.7/1　黒　（粘性なし　ややしまりあり）Ⅲ>>Ⅳ
2　10YR2/1　黒　（粘性なし　しまりなし）Ⅲ>Ⅳ
3　10YR2/2　黒褐（粘性なし　ややしまりあり）Ⅲ+Ⅳ



1　7.5YR5/8　明褐　（粘性なし　ややしまりあり）やや砂質　層界明瞭
2　7.5YR2/3　極暗褐（粘性なし　しまりなし）やや砂質　層界漸変
3　7.5YR2/2　黒褐　（粘性なし　ややしまりあり）骨片少量まじる

1　60.623
2　60.608
3　60.602
4　60.613
5　60.617
6　60.605
7　60.603
8　60.613
9　60.612
10　60.610
11　60.613
12　60.613
13　60.609
14　60.625
15　60.613
16　60.615
17　60.618
18　60.605
19　60.600
20　60.605
21　60.615
22　60.627
23　60.618
24　60.629
25　60.620
26　60.619
27　60.607
28　60.608
29　60.605
30　60.610
31　60.609
32　60.607
33　60.605
34　60.615
35　60.616
36　60.633
37　60.640
38　60.605
39　60.612
40　60.615
41　60.614
42　60.624
43　60.598
44　60.666
45　60.624
46　60.617

図Ⅳ－２　H-1

図Ⅳ－３　S-10・11　礫

時　　期　同一グリッド同一層から出土した土器から、擦文後期のものである可能性が高い。

掲載遺物　図Ⅳ－16-１A、B は同一個体のⅦ群深鉢。２は S-10 から出土した破片と、周囲の包含層から出土した破片が接合した。Ⅶ群高坏である。

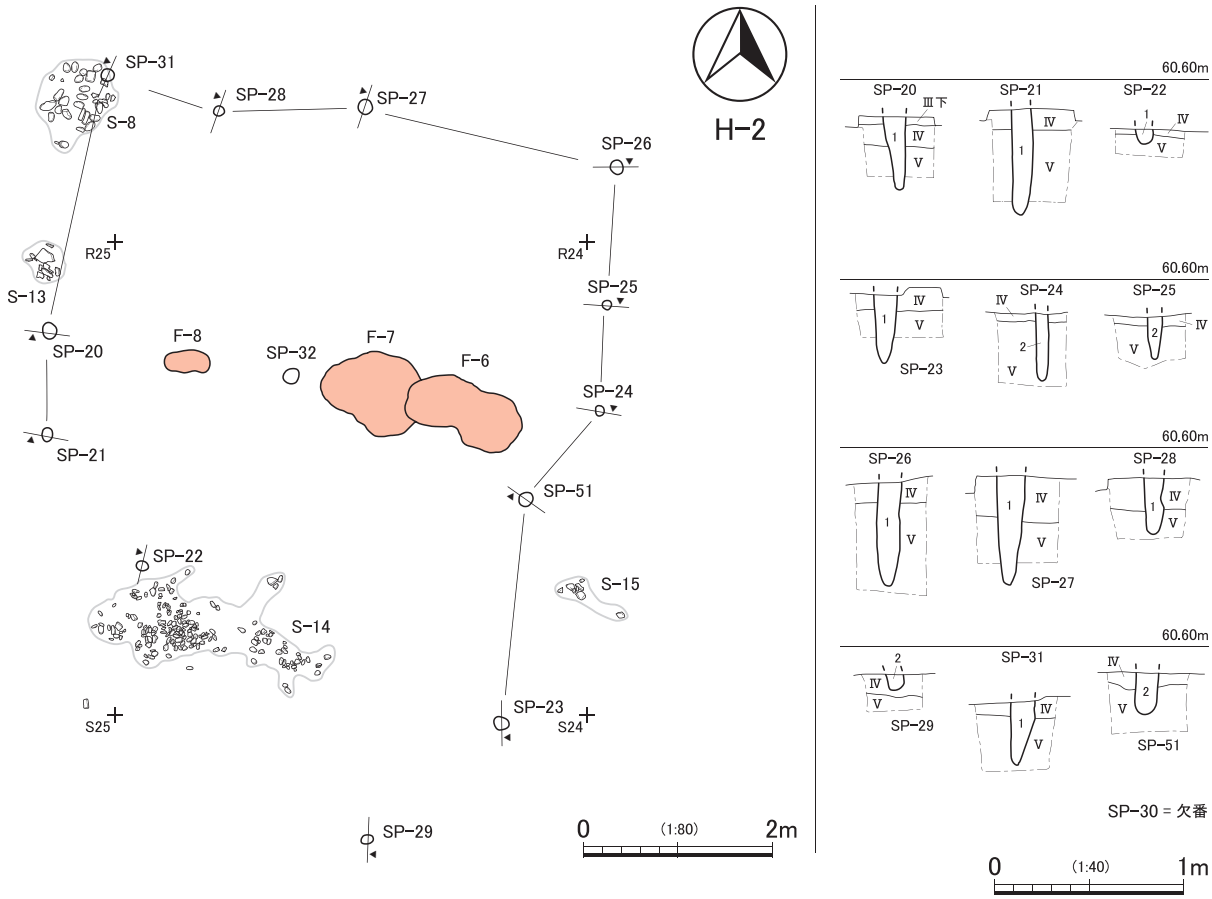
H-2　（図Ⅳ－４・５・18、表Ⅳ－１～４・７・８、図版８・９・16・19・20）

構成遺構（F-６～８・S-８・13～15、SP-20～29・31・51）

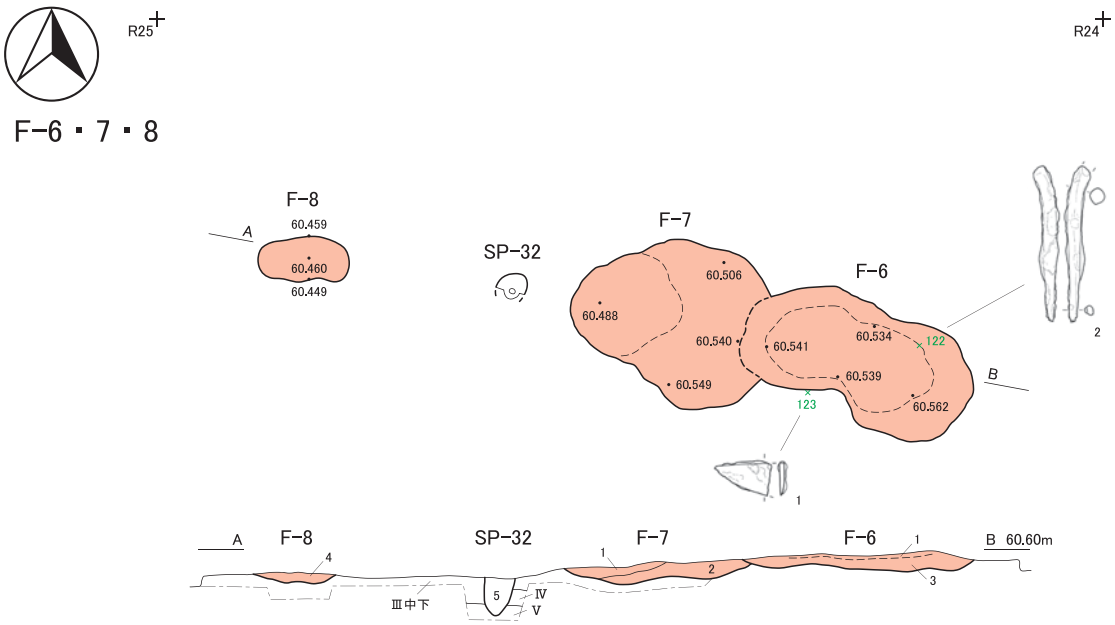
位　　置　Q・R24・25、S24 区　**規　　模**　6.68×6.00m　**長軸方位**　N-86°-W

確認・調査　調査区中央西側平坦面に位置する。Ⅲ層の調査中明瞭な焼土を確認した。周囲を精査すると、棒状礫、板状礫の集中を２か所ずつ、計４か所の集中をほぼ同一面で確認した。焼土と礫集中を残してⅢ層をⅣ層直上まで掘り下げた。結果、焼土を囲むように柱穴列を確認したので平地住居跡と判断した。炉跡３か所、棒状礫の集中２か所、板状礫の集中２か所、柱穴 12 基から構成される。東側 1.2m に H-１が位置する。

長軸は西北西―東南東、柱穴列は確認できた部分では正方形に近く、北側半分をほぼ巡る。平面形中心に小規模な柱穴（SP-32）がある。炉跡は中心を避けて東側２か所と西側１か所に分かれる。東側は明瞭な２か所が重複し∞状の平面形を呈する。土層断面の観察からより新しい東寄りを F-６とし、古い西寄りを F-７とした。焼成は良好で明瞭に赤変する焼土層が確認できる。西側の１か所は小規模で F-８とした。３か所の炉跡はすべて土壌を採取し、フローテーション法による微細遺物の回収を行っている。結果、炭化物、骨片が得られた（表Ⅳ－７）。F-６～８はいずれも哺乳綱の骨片が出土し、炭化種子は F-６よりオニグルミ核片２点、イネ３点、キハダ１点、F-７よりブドウ３点が得られている。



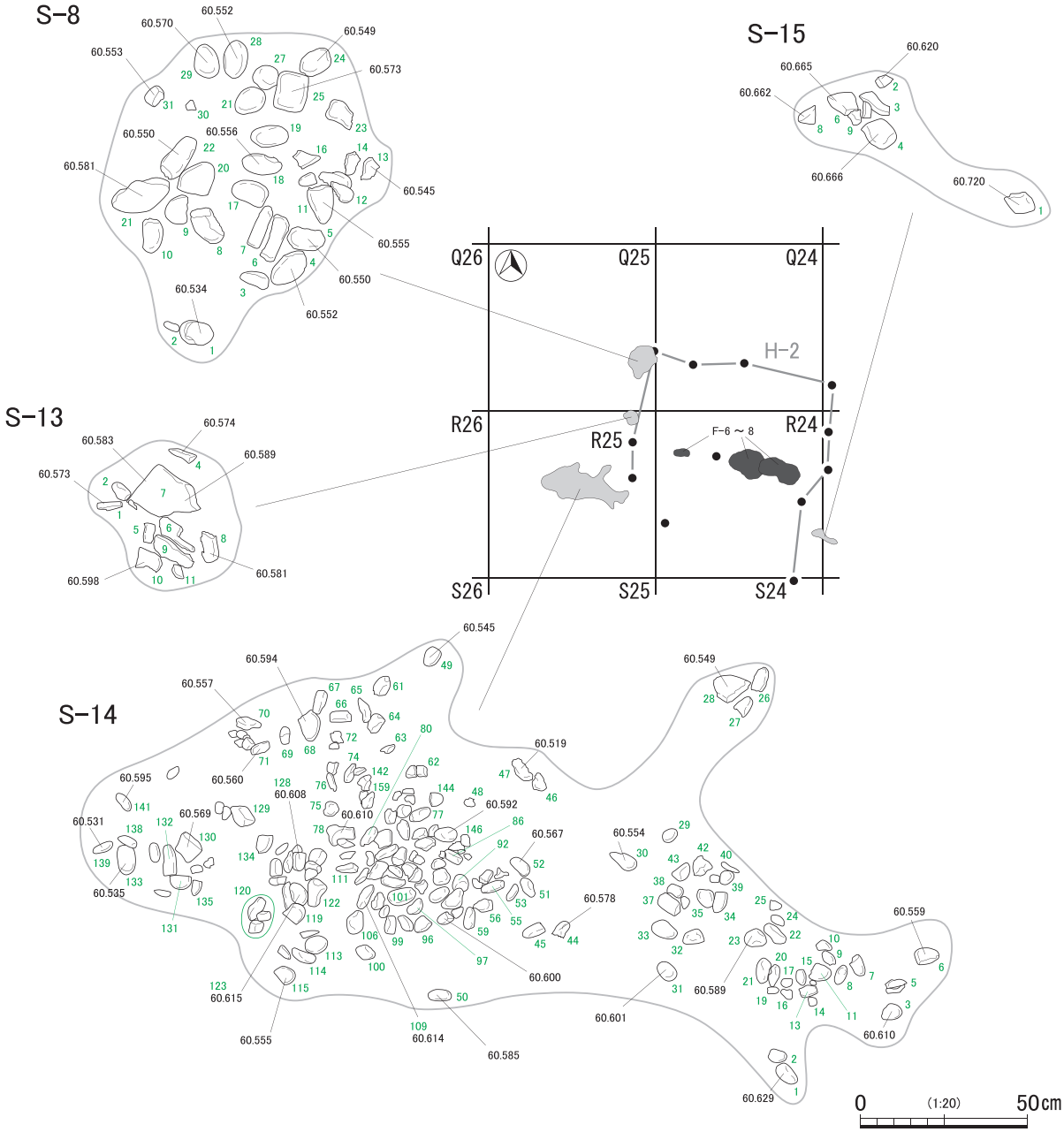
1 10YR1.7/1 黒（粘性なし しまりなし）ボソボソ 層界画然
2 10YR1.7/1 黒（粘性なし ややしまりあり）層界画然

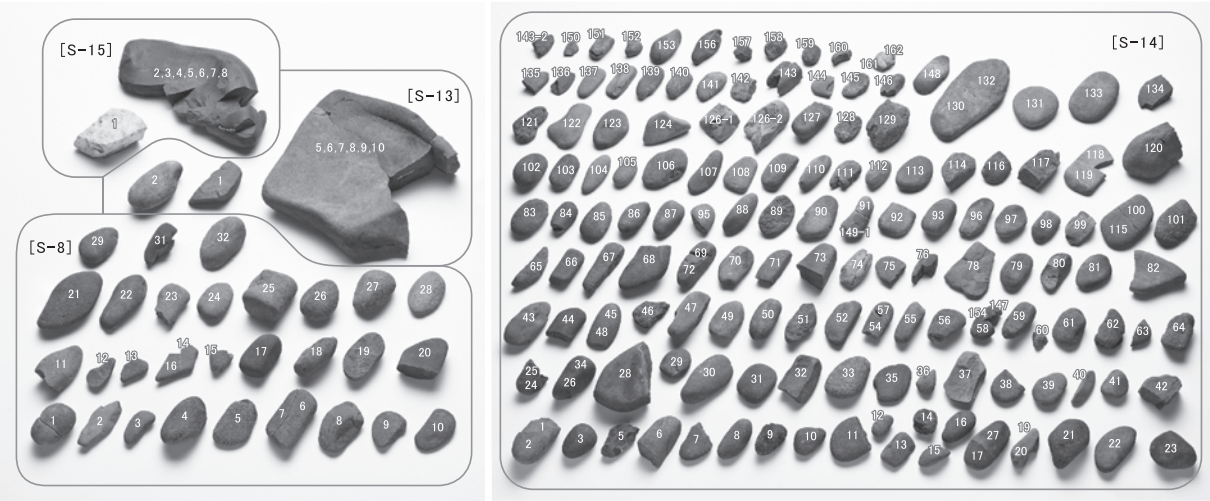


1 10YR1.7/1 黒　（粘性なし しまりなし）焼骨片 3%まじる 層界やや画然 Ⅲ上～中相当
2 7.5YR3/4 暗褐（粘性なし しまりなし）黒色土斑状に 5%まじる 層界漸変
3 7.5YR4/4 褐　（粘性なし しまりなし）黒色土斑状に 1%まじる 層界漸変
4 7.5YR5/6 明褐（粘性なし しまりなし）砂質シルト 層界画然
5 10YR2/1 黒　（粘性なし しまりなし）黒色土斑状に 5%まじる 層界漸変

0 (1:40) 1m

図Ⅳ－4　H-2（1）


S-8
S-15
S-13
S-14
Q26
Q25
Q24
R26
R25
R24
S26
S25
S24
H-2
F-6 ～ 8
0
(1:20)
50cm


[S-15]
[S-13]
[S-8]
[S-14]

図Ⅳ－５　H-２（２）

集石は柱穴列推定線に沿い、住居の北西角から南東角までの範囲にある。棒状礫の集中であるS-８、S-14　は北西角、南側に、板状礫の小規模な集中であるS-13、S-15は西側、東側に炉跡軸線に近い儒居両端に位置する。S-15は検出位置から、H-１に伴う可能性もある。

遺物出土状況　S-８：円礫・棒状礫36点、礫片１点からなる。石材の内訳は砂岩29点、泥岩８点となっている。礫の平均法量は7.4×4.7×2.5㎝282.4gである。S-13：円礫・円礫片２点、板状礫１点が出土している。板状礫は９点の破片が接合したものである。S-14：円・棒状礫を中心として210点の遺物が出土している。たたき石、石核といった縄文時代の遺物も混入する。S-15：礫・礫片８点が出土している。内７点は接合して１点の板状礫となる。F-６の検出面で鉄製品が２点出土する。

時　　期　不明であるが、周辺の出土遺物、住居構造の類似から、擦文後期のものとみられる。同期と推定されるH-１との距離が1.2mであるが先後関係は不明である。

掲載遺物　図Ⅳ－18-１、２はF-６検出面で出土した鉄製品。１は刀子の切先、２は小形魚突鉤の可能性がある。

H-３　（図Ⅳ－６・７・16、表Ⅳ－１～４・７・８、図版８・９・15）

構成遺構（F-１～３・S-２・６、土器集中３、SP-33～38・41～50・52～54）

位　　置　区M・N21～23、O21・22　**規　　模**　8.16×9.40m　**長軸方位**　N-89°-E

確認・調査　調査区中心部、平坦面に位置する。Ⅲ層の調査中、骨片の集中域が検出された。集中域は概ね楕円形に広がっていたため、平地住居の炉跡を想定した。長軸にトレンチを設定しⅣ層まで掘削を行った結果骨片の堆積の下位に明瞭な焼土を確認した。周囲を精査し、調査中であった土器集中３、集石S-６は距離が近く同一面に位置することから一連の平地住居と判断した。

床面を精査したが柱穴が確認できなかったので、焼土の長軸から住居の平面形を想定し、範囲内に出土する遺物を住居床面の遺物として取り上げた。柱穴を探索するため土層断面を作成したベルトと焼土を残しⅣ層上面まで掘り下げた。結果23基の柱穴を検出することができた。炉跡３か所、土器集中１か所、板状礫の集中２か所、柱穴23基から構成される。

長軸はほぼ東西方向で。柱穴は二重に炉跡を囲んでいる。内側のものは一辺約４ｍの正方形である。外側の柱穴はその約1.5m外側を巡るが、北～東部分はつながりが不明である。土器集中３は炉跡F-２の北西側に、板状礫の集中S-６は炉跡F-１の南にそれぞれ接して検出されている。S-２は平面形南西角に近いため伴うものとして図に含めたが、南側の遺物集中、S-４、S-５と関連するものである可能性もある。炉跡は内側柱穴列中央に１か所（F-１）、やや西よりに小規模な２か所（F-２、３）の計３か所である。いずれも明瞭な焼土層が確認され、土壌を採取しフローテーション法による微細遺物の回収を行っている。炉跡の全てから哺乳綱の骨片が出土している。F-１ではサケの椎骨１点が得られている。なお、土壌の採取は、比較検証のため、S-６検出面、床面の土層断面作成部分についても行った。結果はⅦ章に掲載する。

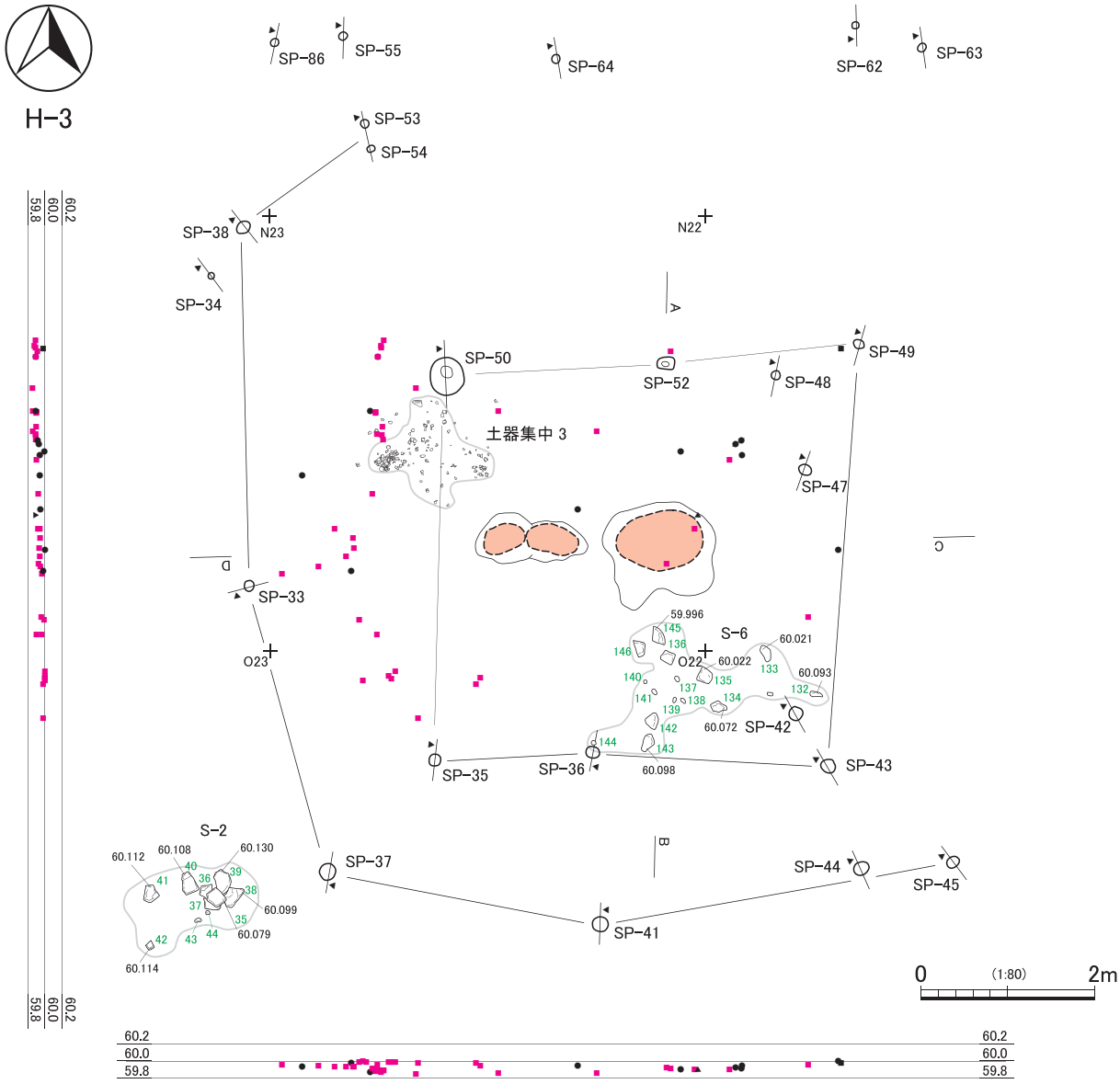
遺物出土状況　H-３の床面から出土した遺物は、Ⅶ群土器３点、円礫・棒状礫83点、礫・礫片100点等となっている。土器集中３はⅦ群土器166点からなる。S-２：板状礫７点、円礫・棒状礫２点の集中である。板状礫の平均法量は、18.7×19.1×3.7㎝、1918.4gである。S-６：円礫・棒状礫６点、板状礫８点、たたき石１点からなる集中である。

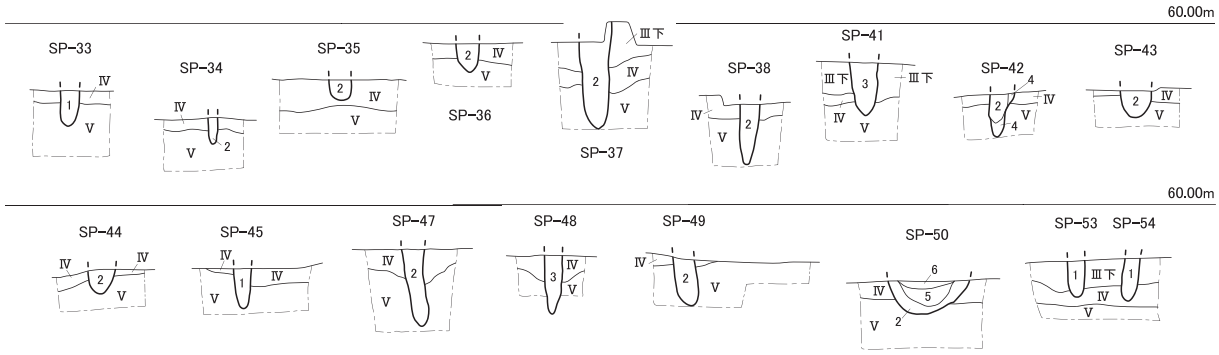
時　　期　土器集中３から出土した土器から、擦文後期のものとみられる。

掲載遺物　図Ⅳ－16-３は土器集中３の土器、ほぼ完形のⅦ群深鉢である。

H-４　（図Ⅳ－８～10・16・18、表Ⅳ－１～５・７・８、図版11・12・14・16）

構成遺構（F-15、S-１・７、SP-55～81・84～119）





SP-39・40・46＝欠番

1　10YR1.7/1　黒　（粘性なし　しまりなし）Ta-c 粒子ごくわずかにまじる　層界画然
2　10YR1.7/1　黒　（粘性なし　しまりなし）砂質シルト　層界画然
3　10YR2/1　黒　（粘性なし　しまりなし）砂質シルト　層界画然
4　10YR3/2　黒褐　（粘性なし　しまりなし）砂質シルト　層界やや画然
5　2.5Y6/3　にぶい黄　（粘性なし　しまりなし）砂　Ta-b か？
6　2.5Y5/1　黄灰　（粘性なし　しまりなし）砂　Ta-b か？

0 (1:40) 1m

図Ⅳ－６　H-３（１）

位　　置　K・L・M21～23区　**規　　模**　9.06×9.80m　**長軸方位**　N-8°-E

確認・調査　調査区中央平坦面の北側、傾斜変換点に位置する。樽前ｂテフラの除去後、地形のくぼみが認められた。規模は直径約４ｍの楕円形であったので住居跡を想定し、中心を通るようにベルトを設定し、周囲のⅢ層を10cm程掘り下げた。ベルトにトレンチを設定してⅣ層まで掘り下げたところ、交点に焼土を確認した。焼土はくぼみの中心に位置していたことから、住居跡と判断した。想定される床面で掘削を止め、焼土の周囲の遺物を床面出土の遺物として取り上げた。柱穴の確認のため、焼土を残して周囲をⅣ層まで掘り下げた。結果58基の柱穴を確認した。炉跡２か所、集石２か所、柱穴58基からなる。小規模な柱穴は位置を記録し、深さ（cm）を青数字で示した。

長軸方向は北北東-南南西で、柱穴は確認できた部分では一部二重に炉跡を囲む。内側の柱穴列は50cm以上の深さがある比較的明瞭な柱穴が多く、炉跡F-15を中央に約２ｍ離れて西～南のＬ字を呈する。外側は内側からさらに２ｍ離れて断続的に巡っているが、北側は内側列と共有する構造となるようである。径５cm程度の小規模な柱穴も24基まとまって検出されている。これらは焼土を伴う浅い土坑SP-85の周辺に分布している。この焼土は炉跡F-15の北北東1.5mに位置し、炉跡の可能性がある。２か所の炉跡は柱穴列とは異なる軸を持ち、内側柱穴列の角を結ぶように配置されている。F-15の調査にあたっては、土壌を採取しフローテーション処理を行っている。結果微細なフレイク・チップ、炭化物、骨片が得られた（表Ⅳ－７）。骨片は哺乳綱のほか、ウグイの椎骨13点、サケの椎骨６点が、炭化種子はクルミ核片４点、ブドウ１点が出土している。

焼土の検出層位が擦文後期にしてはⅣ層に近いこと、また内側の柱穴列の形が検出面のくぼみとほぼ対応していることを考慮すると、Ⅲ層を浅く掘り下げた住居である可能性がある。同様な住居は、厚真川上流域のオニキシベ４遺跡でも確認されている。

遺物出土状況　下層の混入とみられるものを除いて本住居に伴うと判断された遺物は、床およびⅢ層からⅦ群土器５点、釘とみられる鉄製品１点。板状礫（片）３点、円礫・棒状礫（片）55点、礫・礫片540点が出土している。また火打石の破片の可能性がある石英片岩のフレイクがL22B区から１点出土している。S-１：円礫・棒状礫等27点からなる集中域である。ニホンジカ中手中足骨片の大きめの破片が出土している。S-７：円礫・棒状礫等65点からなる。

覆　　土　Ⅲ層上位と中位の境界付近から掘り込まれ、Ⅲ層上位の堆積に覆われる。

時　　期　床面から出土した土器から、擦文後期である。

掲載遺物　図Ⅳ－16-４A、Bは床面、床直下から出土した破片が接合したⅦ群深鉢口縁部。図Ⅳ－18-３は内側柱穴列の南東角、床面から出土した鉄製品。釘の可能性がある。

（２）土坑

P-１　（図Ⅳ－11、表Ⅳ－１・３、図版12）

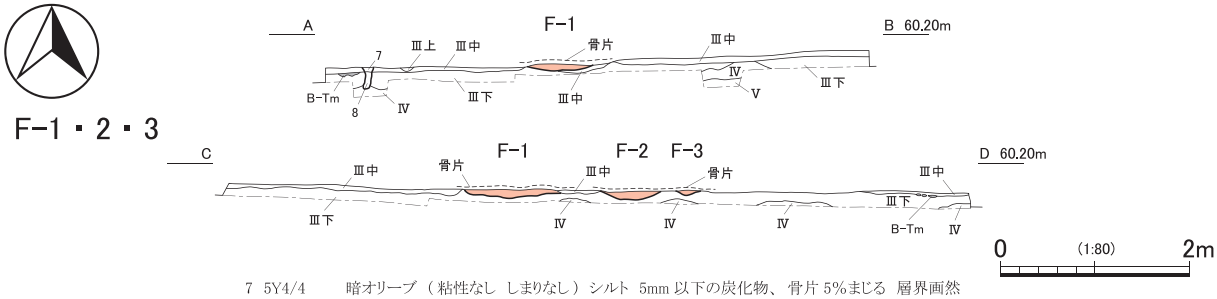
位　　置　M・N24区　**規　　模**　1.92×1.33／1.28×0.62／0.62m

平面形態　楕円形

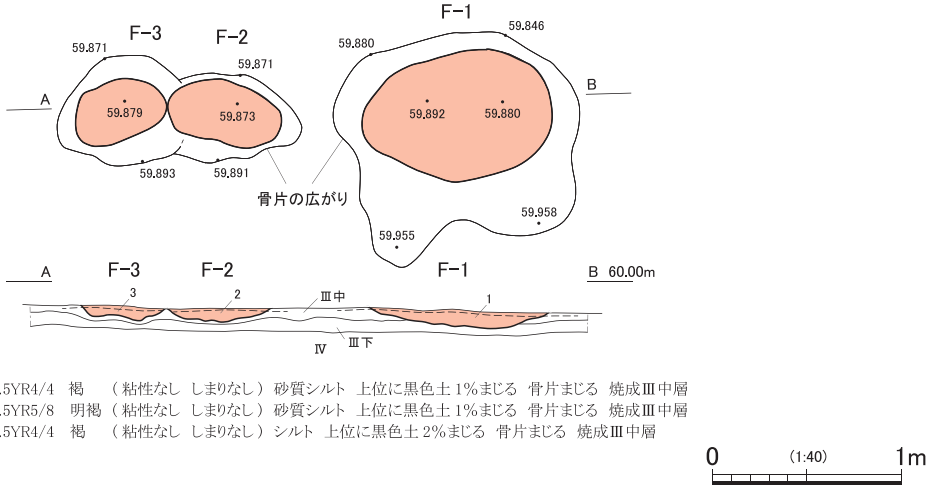
確認・調査　調査区中央平坦面西側の調査区境付近に位置する。樽前ｂテフラ除去時、火山灰の落ち込みを確認した。落ち込みは地形に沿わない不自然な形状であったので、遺構を想定してベルトを残して周囲をⅣ層の直上まで掘り下げた。結果楕円形の平面形を確認した。ベルトに沿ってトレンチを設定して坑底まで掘り下げたところ、坑底と壁の立ち上がりを確認でき、土坑であると判断した。本遺構に伴うとみられる出土遺物はない。

遺物出土状況　覆土から、緑色片岩製のフレイク２点、砂岩の円礫１点、礫・礫片20点が出土している。

F-1・2・3

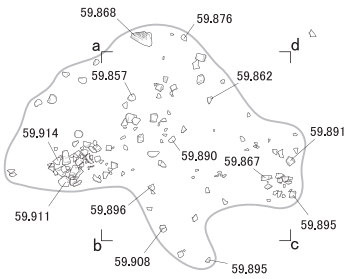


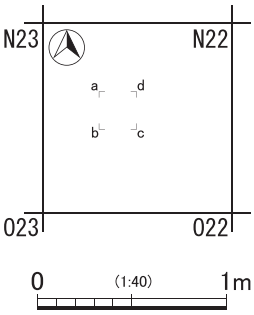
7　5Y4/4　　暗オリーブ（粘性なし　しまりなし）シルト　5mm 以下の炭化物、骨片 5%まじる　層界画然
8　10YR2/2　黒　　（粘性なし　しまりなし）砂混土　3mm 以下の小骨片 3%まじる　層界やや画然



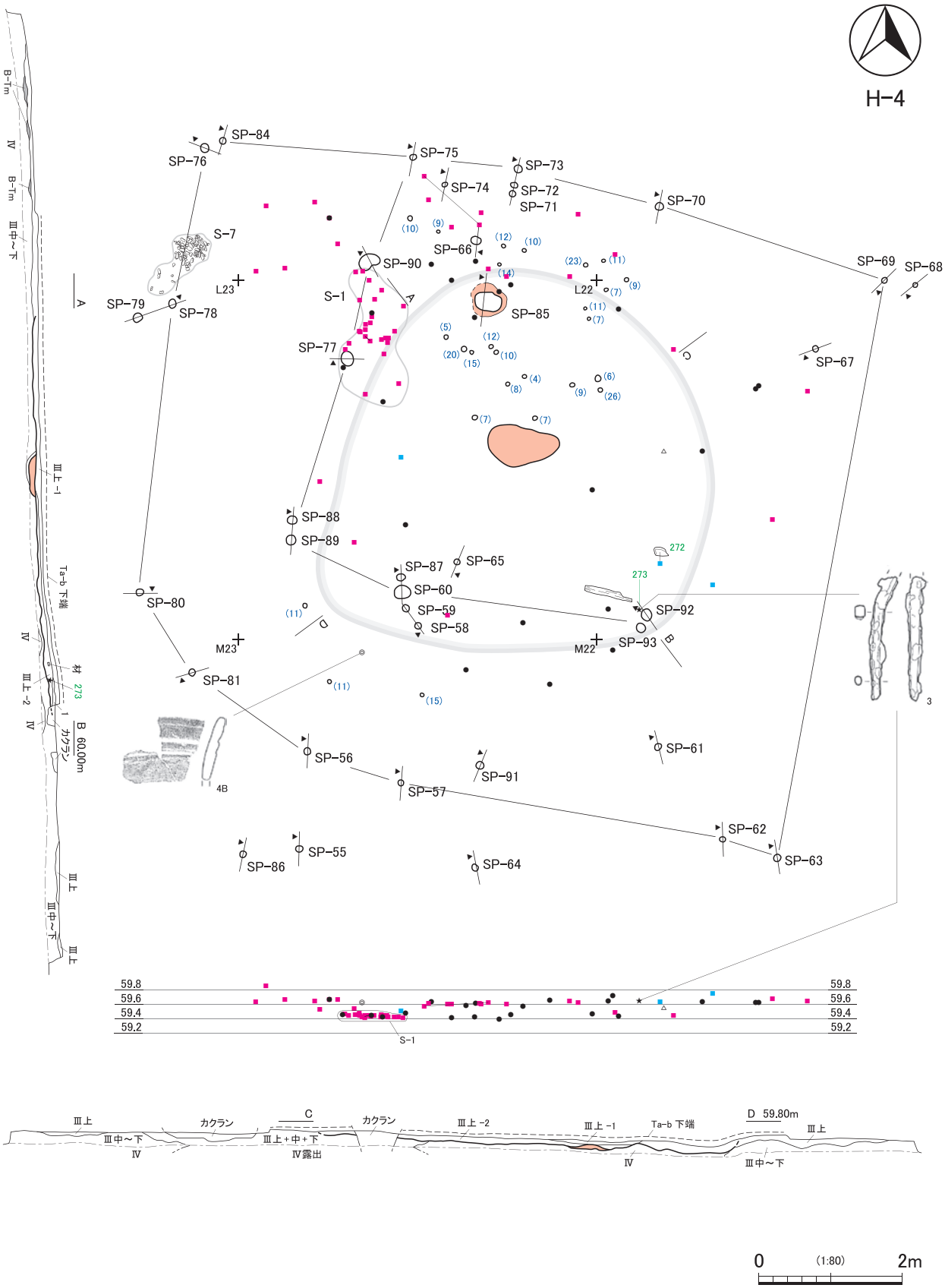
1　7.5YR4/4　褐　　（粘性なし　しまりなし）砂質シルト　上位に黒色土 1%まじる　骨片まじる　焼成Ⅲ中層
2　7.5YR5/8　明褐（粘性なし　しまりなし）砂質シルト　上位に黒色土 1%まじる　骨片まじる　焼成Ⅲ中層
3　7.5YR4/4　褐　　（粘性なし　しまりなし）シルト　上位に黒色土 2%まじる　骨片まじる　焼成Ⅲ中層

土器集中 3

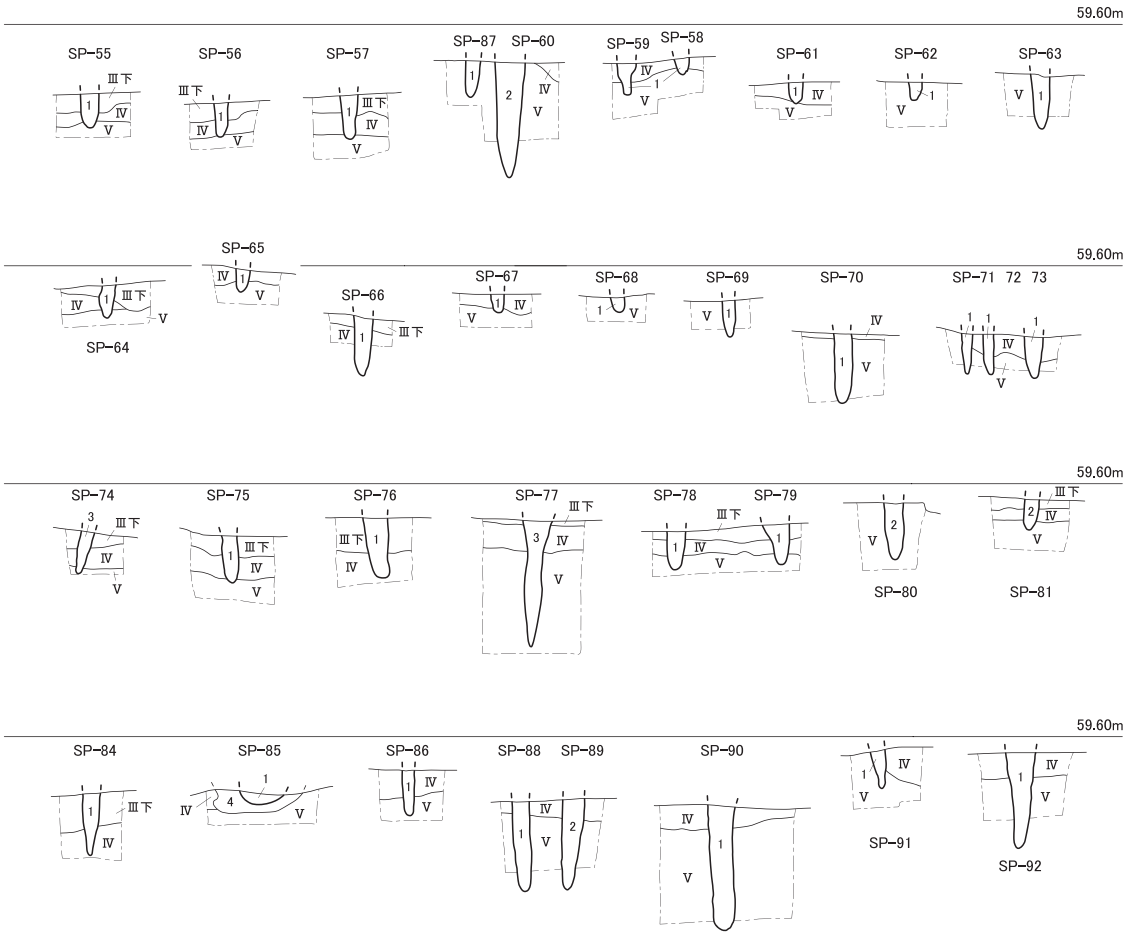




図Ⅳ－７　H-３（２）


H-4
SP-84
SP-76
SP-75
SP-73
SP-74
SP-72
SP-71
SP-70
SP-69
SP-68
SP-66
SP-90
SP-85
SP-79
SP-78
SP-77
SP-67
SP-88
SP-89
SP-87
SP-65
SP-60
SP-59
SP-58
SP-92
SP-93
SP-80
SP-81
SP-56
SP-57
SP-91
SP-61
SP-62
SP-63
SP-86
SP-55
SP-64
S-7
S-1
L23
L22
M23
M22
272
273
4B
3
59.8
59.6
59.4
59.2
Ⅲ上
カクラン
Ⅲ中～下
Ⅳ
Ⅲ上+中+下
Ⅳ露出
Ⅲ上-2
Ⅲ上-1
Ta-b 下端
D 59.80m
B 60.00m
B-Tm
Ⅲ上-1
Ⅲ上-2
Ⅲ上
Ⅲ中～下
0
(1:80)
2m

図Ⅳ－８　H-4（1）

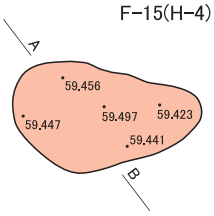


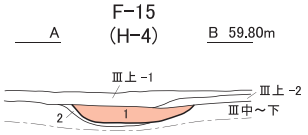
1 10YR1.7/1　黒（粘性なし　しまりなし）Ⅲ中層　砂質シルト　ボソボソ　層界画然
2 10YR2/2　黒（粘性なし　ややしまりあり）10mm以下の暗褐色土を3%まじる　層界画然
3 10YR1.7/1　黒（粘性なし　ややしまりあり）5mm以下のローム粒1%まじる　層界画然
4 7.5YR4/4　褐（粘性なし　ややしまりあり）砂質シルト　焼成Ⅲ中層　層界漸変

0　(1:40)　1m

L22

F-15

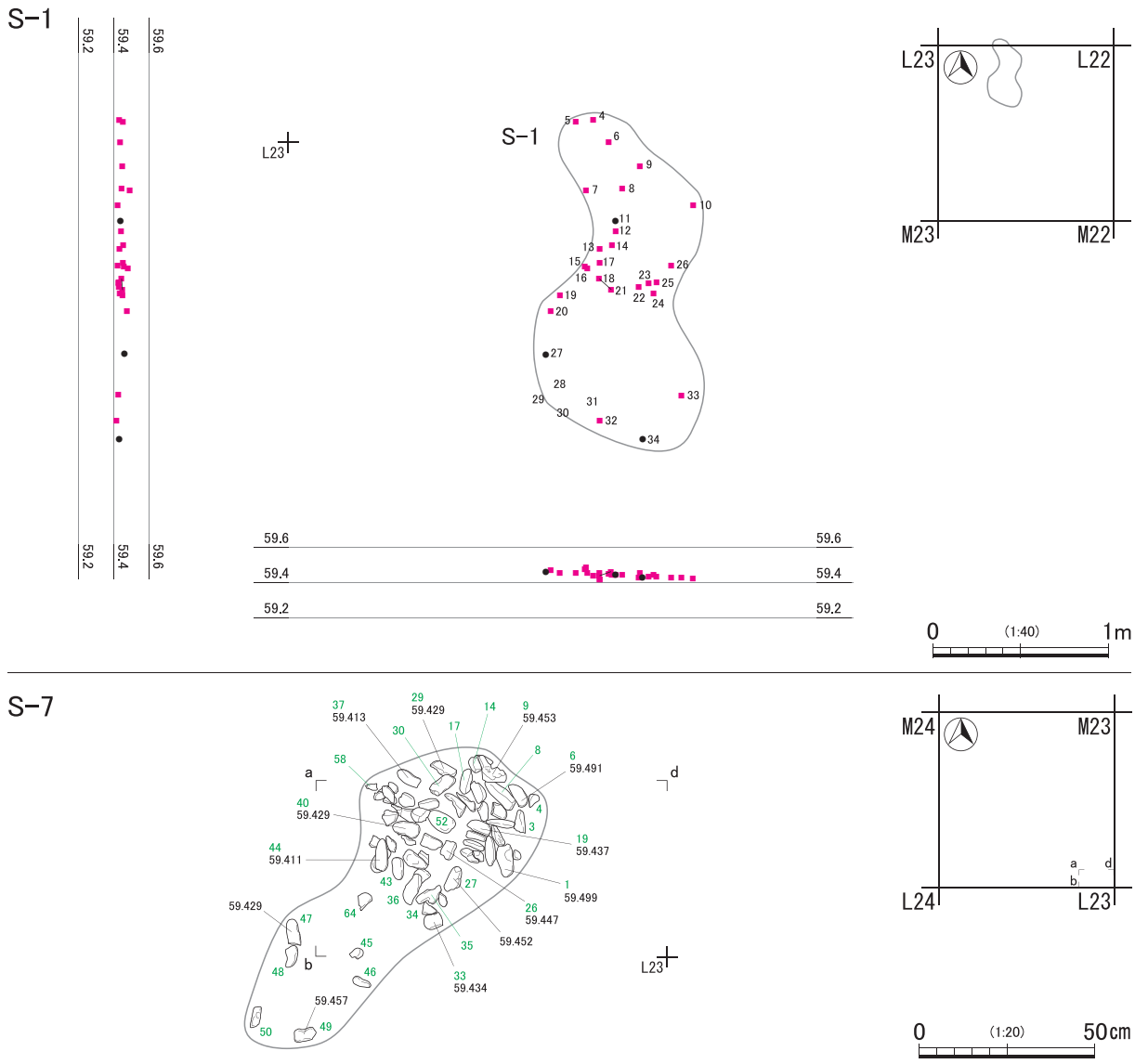




1 7.5YR3/4　暗褐（粘性なし　ややしまりあり）砂質シルト　上端に骨片、炭化物2%まじる　層界漸変
2 10YR1.7/1　黒　（粘性なし　ややしまりあり）砂質シルト　黒変　Ⅲ中～下層

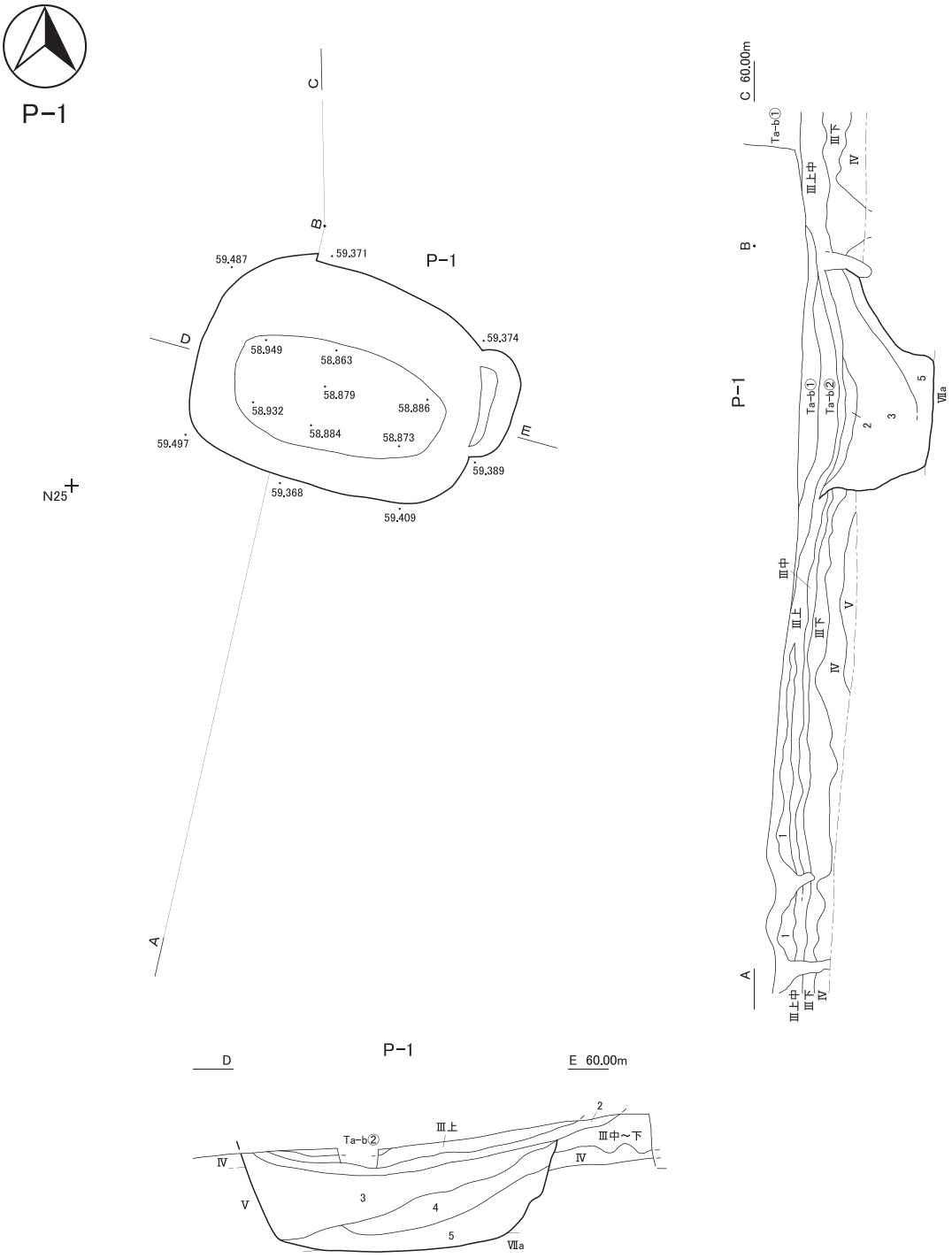
0　(1:40)　1m

図Ⅳ－９　H-４（２）


S-1
59.2
59.4
59.6
L23
S-1
L23
L22
M23
M22
0
(1:40)
1m
S-7
a
b
d
L23
M24
M23
L24
L23
0
(1:20)
50cm

[S-7]
[S-1]

図Ⅳ－10　H-4（3）



Ta-b① 10YR8/2　灰白（粘性なし しまりなし）5㎜以下の軽石層 成層ラミナを呈する部分がある 分級良 層界明瞭
Ta-b② 10YR4/1　褐灰（粘性なし しまりなし）10㎜以下の軽石をまじる 分級不良 層界明瞭
1 10YR2/1　黒　（粘性なし しまりなし）Ta-c パミス 3%まじる 砂質シルト 層界漸変
2 10YR1.7/1 黒　（粘性なし しまりなし）Ta-c パミス 5%まじる 砂質シルト 層界漸変
3 10YR2/1　黒　（粘性なし しまりなし）Ta-c パミス 1%以下まじる 砂質シルト 層界画然
4 10YR2/1　黒　（粘性なし しまりなし）5㎜以下の Ta-d1・2 パミス 1%以下、Ta-c パミス ラミナ状に 5%まじる 砂質シルト 層界画然
5 10YR2/1　黒　（粘性なし しまりなし）5㎜以 下の Ta-d1・2 パミス 1%以下、Ta-c パミス 7%まじる 砂質シルト 層界画然

0 (1:40) 1m

図Ⅳ−11　P−1

覆　　土　４層に分層した。いずれもⅣ層パミスが混じる埋戻しとみられるものである。１層とした層位は、状況から本遺構の堀上土と判断される。平面上では確認できなかった。

時　　期　掘り込み面、周囲の遺物出土状況から、擦文後期のものである。

（３）焼土

F-９・10　（図Ⅳ－12、表Ⅳ－１・３・７、図版 13）

位　　置　（F-９）M19・（F-10）J19～21、K19・20、L19

規　　模　（F-９）2.50×2.20 ／ 0.07m・（F-10）12.35×5.40 ／ 0.05m

確認・調査　調査区中央東側の平坦面から斜面傾斜変換点に位置する。樽前ｂテフラの除去後、Ⅲ層上面を精査中に確認した。不均一で不整な形状に広がる焼土である。L19 区では検出されておらず、調査区境の断面にも表れていないが、検出状況から当グリッドにも存在していた可能性が高い。この間隙のため別番号としたが、F-９、10 は状況から本来一連のものとみられる。広範囲に広がるものの明瞭な焼成部がないことから自然災害を要因としている可能性がある。F-９について焼土の土壌をフローテーション処理した結果、時期不明の土器２点、フレイク２点が出土している。

時　　期　検出層位から、樽前ｂ降下直前のアイヌ文化期に相当するものとみられる。

F-11　（図Ⅳ－12、表Ⅳ－１・３・７、図版 13）

位　　置　R21 区　　**規　　模**　1.55×0.75 ／ 0.11m

確認・調査　調査区中央平坦面のやや南よりに位置する。Ⅲ層の調査中、焼土の広がりを確認した。検出面で記録を作成し、長軸に合わせてベルトを設定して残し、周囲を掘り下げた。土層断面を記録し、土壌サンプルを採取して調査を終了した。骨片、礫等から構成される S-９の北東側に接して位置する。明瞭な焼土で、ほぼ南北に長軸がある。焼成部分は２か所に分かれ、北側が大きく明瞭である。焼成部分の中央を抉りとられたかのようにⅢ層上部で覆われている。土壌からはフローテーション法により、微細な頁岩製フレイク３点、哺乳綱の骨片が得られている。

時　　期　焼成面の層位と周囲の遺物出土状況から、擦文後期である可能性が高い。

F-12　（図Ⅳ－12・18、表Ⅳ－１・３・５、図版 13・16）

位　　置　J23 区　　**規　　模**　4.00×2.25 ／ 0.04m

確認・調査　調査区北側緩斜面に位置する。Ⅲ層中位を調査中に検出された。周囲を精査すると、焼土は J23B 区に不整な形状で６か所に分かれ広がっていた。検出状況は F-９・10 と類似するが層位的にはやや下位に位置する。最も規模の大きな焼土で断面図を作成し、調査を終了した。同一グリッド北東のⅢ層から出土した鉄製品１点を本遺構出土品として取り上げている。

時　　期　検出層位からは、擦文文化期の可能性がある。

掲 載 遺 物　図Ⅳ－18-４は、F-12 から北東２ｍのⅢ層で出土した鉄製品。釘の可能性がある。

F-13　（図Ⅳ－12、表Ⅳ－１・７、図版 13）

位　　置　I25 区　　**規　　模**　1.10×0.70 ／ 0.06m

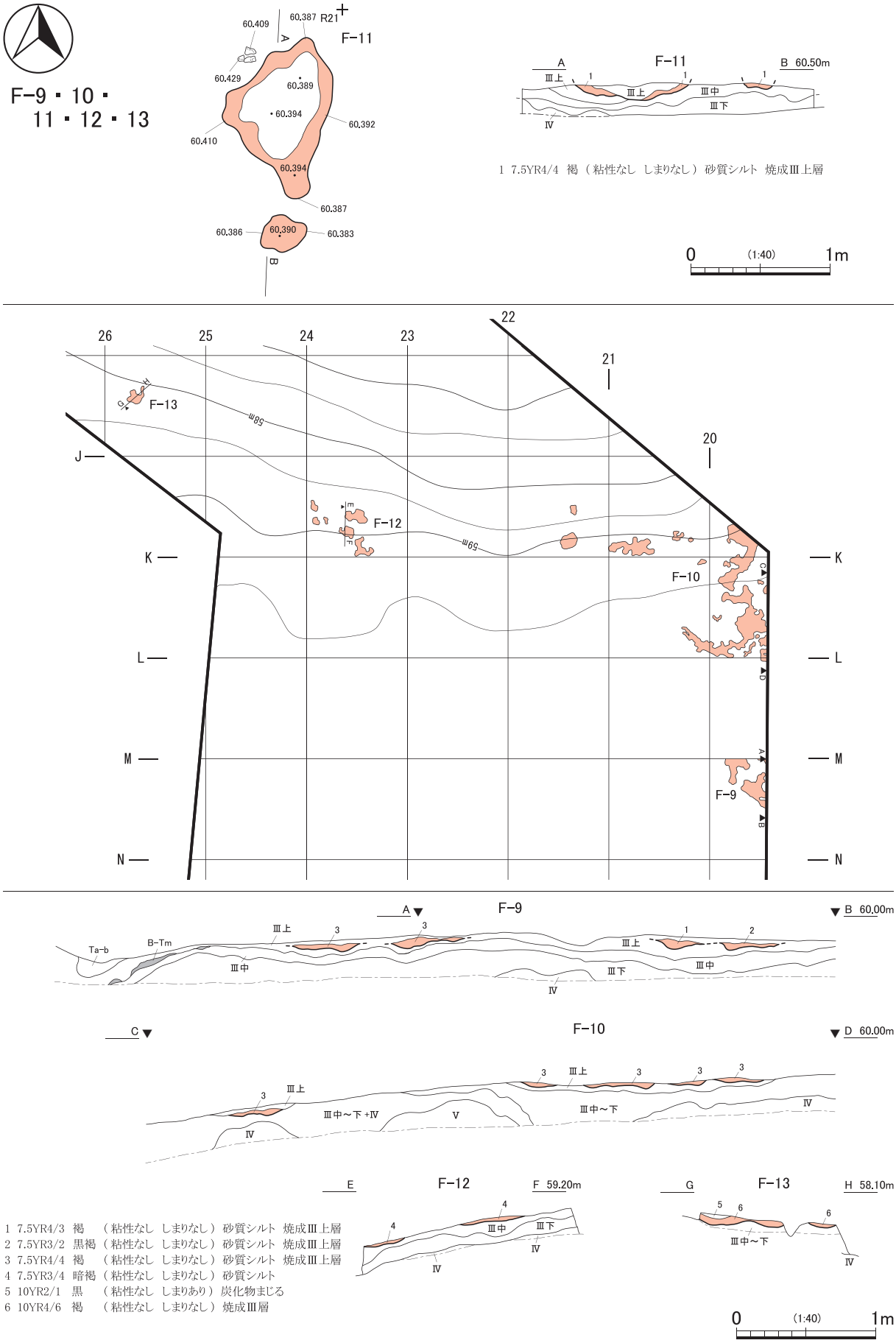
確認・調査　調査区北側緩斜面に位置する。Ⅲ層中位を掘削中に検出した比較的明瞭な焼土である。検出面で長軸にベルトを設定して掘り下げた。焼土の土壌サンプルをフローテーション処理した結果、微細な炭化物のみ得られている。

時　　期　不明であるが、検出層位からすると、擦文後期の可能性がある。

（４）土器以外の遺物集中域

S-４　（図Ⅳ－13・18、表Ⅳ－１・３・５、図版 14・17・19）

位　　置　O・P23 区　　**規　　模**　3.58×1.52m


F-9・10・
11・12・13
F-11
R21
60.409
60.387
60.429
60.389
60.394
60.392
60.410
60.394
60.387
60.386
60.390
60.383
A
B
F-11
A
B 60.50m
Ⅲ上
Ⅲ上
Ⅲ中
Ⅲ下
Ⅳ
1 7.5YR4/4 褐（粘性なし しまりなし）砂質シルト 焼成Ⅲ上層
0
(1:40)
1m
26
25
24
23
22
21
20
F-13
F-12
F-10
F-9
58m
59m
J
K
L
M
N
F-9
A
B 60.00m
Ta-b
B-Tm
Ⅲ上
Ⅲ中
Ⅲ下
Ⅳ
C
F-10
D 60.00m
Ⅲ上
Ⅲ中～下＋Ⅳ
Ⅴ
Ⅲ中～下
Ⅳ
E
F-12
F 59.20m
Ⅲ中
Ⅲ下
Ⅳ
G
F-13
H 58.10m
Ⅲ中～下
Ⅳ
1 7.5YR4/3 褐 （粘性なし しまりなし）砂質シルト 焼成Ⅲ上層
2 7.5YR3/2 黒褐（粘性なし しまりなし）砂質シルト 焼成Ⅲ上層
3 7.5YR4/4 褐 （粘性なし しまりなし）砂質シルト 焼成Ⅲ上層
4 7.5YR3/4 暗褐（粘性なし しまりなし）砂質シルト
5 10YR2/1 黒 （粘性なし しまりあり）炭化物まじる
6 10YR4/6 褐 （粘性なし しまりなし）焼成Ⅲ層
0
(1:40)
1m

図Ⅳ－12　F-９～13

確認・調査　調査区中心部平坦面に位置する。Ⅲ層調査中、棒状礫の集中を確認した。周囲を精査してまとまりの輪郭を明らかにした後、出土位置を記録して取り上げた。住居跡 H-４の南東側にあたり、S-２とは約 0.5m の距離で接している。やや散漫な遺物の集中で、南北に広く分布する。鉄製品７点は南側にまとまる。うち１点は南東約３m の距離にある S-５の袋状鉄斧と接合しており、本遺構と関連するかもしれない。鉄製品７点、Ⅶ群土器１点、円礫・棒状礫 30 点から成る。礫の 85％程が被熱し赤変するものである。

時　　期　検出状況、出土遺物の特徴から、擦文後期もしくはアイヌ文化期である。

掲載遺物　図Ⅳ－18-５～10 は鉄製品、５、６は鉄鍋片の可能性がある。７は鏨かもしれない。８は刀子片、９、10 は不明鉄製品。取上番号 69 は S-５出土の袋状鉄斧のソケット部分に接合している。

S-５　（図Ⅳ－13・15・18、表Ⅳ－１・３・５、図版 14・17・18・21）

位　　置　P22 区　　**規　　模**　3.42×1.10m

確認・調査　調査区中心部平坦面に位置する。Ⅲ層調査中、鉄製品のまとまりが検出された。鉄製品は袋状鉄斧、鏨、刀子の３点が南東側に刃先をそろえて並び、たたき石１点が添えられていた。周囲を精査すると砥石片１点、円礫・棒状礫３点とさらに不明鉄製品２点を加えた集中域となった。記録を作成して取り上げを行った。

時　　期　検出状況、出土遺物の特徴から、擦文後期もしくはアイヌ文化期である。

掲載遺物　図Ⅳ－18-11 は袋状鉄斧、12 は鏨、13 は刀子、14 は鎖状の鉄製品である。15 は不明鉄製品。22 は砥石である。

S-９　（図Ⅳ－14・15、表Ⅳ－１・３・５・７・８、図版 14・21）

位　　置　Q・R21、R22 区　　**規　　模**　5.80×4.68m

確認・調査　調査区中心部やや南よりの平坦面に位置する。Ⅲ層の調査中、シカの歯、角部分とみられる骨片の集中を検出した。周囲を精査すると、散漫な礫の集中も伴っており、範囲を精査して記録を作成して取り上げた。北東側は焼土 F-11 と接する。住居跡 H-１の長軸北側延長線上、2.7m に位置する。骨片はシカ頭骨片、歯と鑑定されている。取上げ番号を付し図示した７点の遺物は、北海道式石冠片や石斧片が含まれており、混入したものの可能性が高い。

時　　期　周囲の遺構検出状況から、擦文後期のものである可能性が高い。

S-12　（図Ⅳ－14～16・18・19、表Ⅳ－１・３・４・８、図版 14・16・18・21）

位　　置　M20 区　　**規　　模**　3.70×1.27m

確認・調査　調査区中心部平坦面東側に位置する。Ⅲ層の調査中、土器片を伴う若干の板状礫、礫のまとまりを検出した。周囲を精査し、記録を作成して取り上げた。住居跡 H-３の北東約５m、H-４の東約 2.5m に位置する。Ⅶ群土器９点、板状礫４点、礫片２点、砥石１点が出土している。

時　　期　出土土器から、擦文後期のものとみられる。

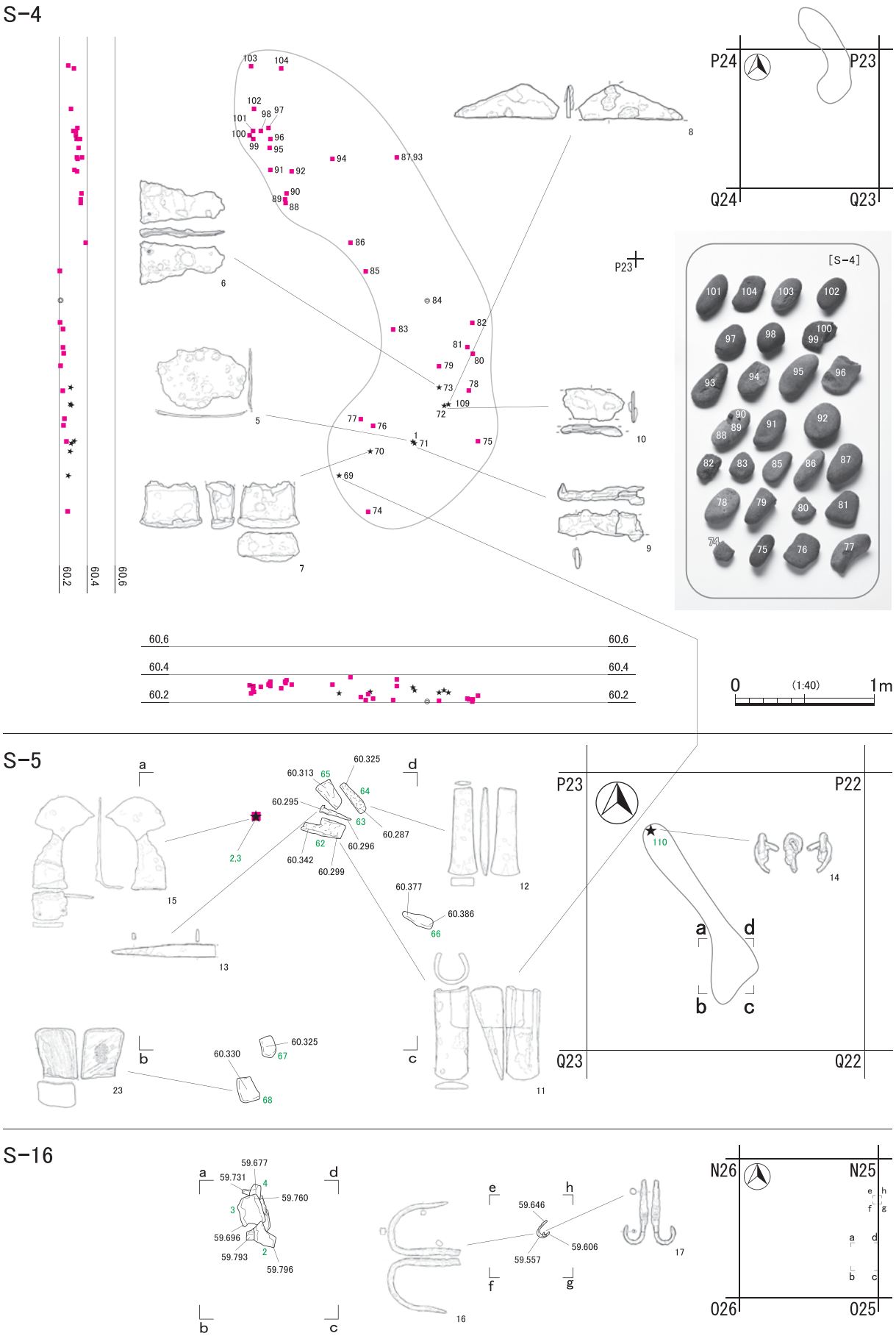
掲載遺物　図Ⅳ－16-５～７はⅦ群の深鉢。同一個体の可能性がある。図Ⅳ－19-23 は砥石である。

S-16　（図Ⅳ－13・15・19、表Ⅳ－１・３・５、図版 14・18・21）

位　　置　N25 区　　**規　　模**　2.08×0.65m

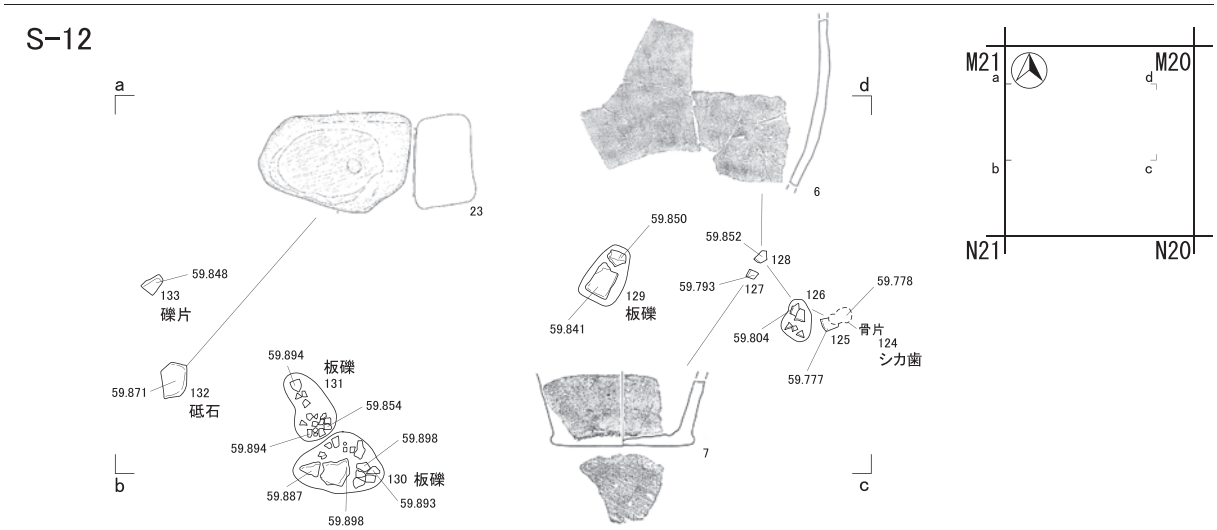
確認・調査　調査区中央平坦面、西側調査区境付近に位置する。Ⅲ層を調査中、板状礫の集中と鉄製品を確認した。両者は１m 以上離れているが、同一層であるため一か所の集中として扱った。周囲を精査し記録を作成して取り上げた。鉄製品は魚突鉤と釣針で、柄の部分を結び付けられるように接して出土している。そのほか５点の板状礫、礫３点、礫片 25 点が出土している。

時　　期　検出状況、出土遺物から擦文後期、もしくはアイヌ文化期である。

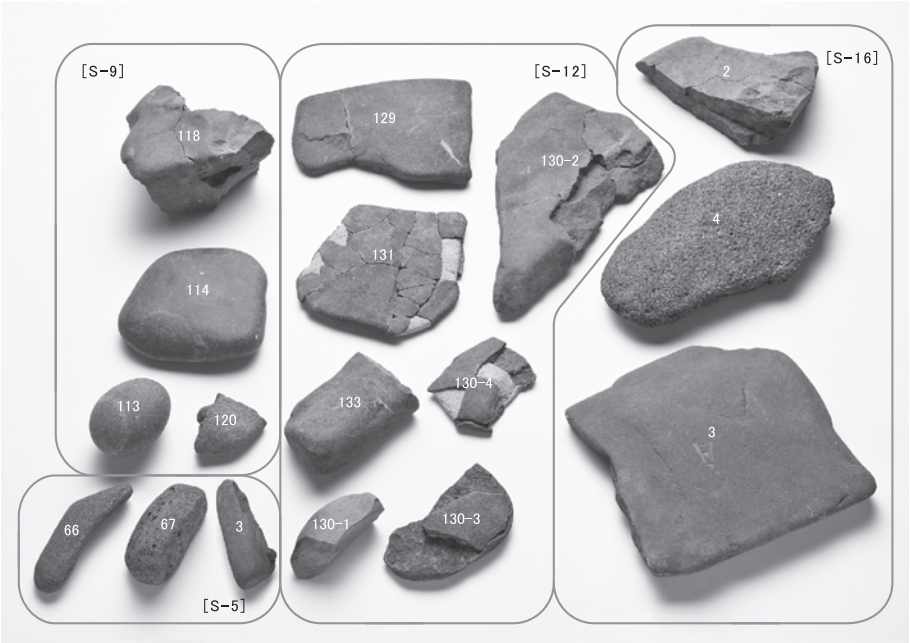

S-4
P24
P23
Q24
Q23
[S-4]
60.6
60.4
60.2
0
(1:40)
1m
S-5
P23
P22
Q23
Q22
S-16
N26
N25
O26
O25

図Ⅳ－13　S-4・5・16

S-9
R22
R21
S22
S21
F-11
石斧片
119
礫片 118
120 礫片
121
石冠片
111 原石
112
シカ頭骨・歯
骨片
シカ歯・角
円礫
113
114 礫
シカ歯 116
骨片
115
シカ歯 117
60.50
60.60
0
(1:40)
1m

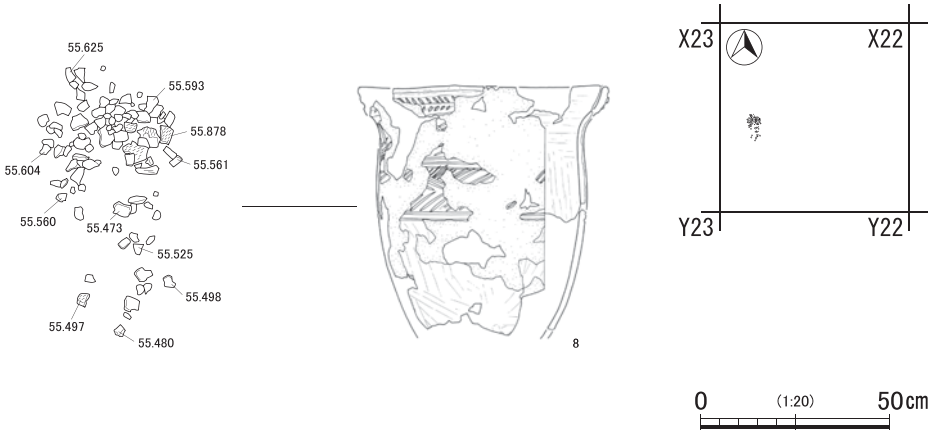

S-12
a
b
c
d
23
6
7
133
礫片
132
砥石
板礫
131
130 板礫
129
板礫
128
127
126
125
124
骨片
シカ歯
M21
M20
N21
N20

図Ⅳ－14　S-9・12



土器集中１

土器集中２



図Ⅳ－15　S-５・９・12・16礫、土器集中１・２

掲 載 遺 物　図Ⅳ－19-16 は魚突鉤、17 は釣針である。

（5）土器集中

土器集中１　（図Ⅳ－15、表Ⅳ－１・３・４、図版 14・15）

位　　置　Z23 区　　**規　　模**　1.24×0.84m

確認・調査　調査区南端の斜面に位置する。Ⅲ層を調査中、土器のまとまりを検出した。周囲を精査してまとまりの輪郭を明瞭にし、記録を作成して取り上げた。

時　　期　出土遺物より、続縄文時代前期後半とみられる。

掲 載 遺 物　９はⅥ群、続縄文時代前期後半の深鉢である。下半の破片はほぼそろうが、上半口縁部の破片は３分の１ほどしかない。

土器集中２　（図Ⅳ－15、表Ⅳ－１・３・４、図版 14・15）

位　　置　X22 区　　**規　　模**　0.72×0.38m

確認・調査　調査区南部の斜面に位置する。Ⅲ層の調査中、土器のまとまりを検出した。精査し輪郭を明らかにした後、記録を作成して取り上げた。

時　　期　出土遺物より、擦文後期である。

掲 載 遺 物　８はⅦ群の深鉢である。底部を除く器形のほぼ全体が復元できているが、表面の剥落が激しい。

３　Ⅲ層出土の遺物

Ⅲ層から出土した土器は、総点数で 1,245 点である。ここから縄文時代晩期後葉以前の明らかな混入とみられるものを除くと、続縄文時代 420 点、擦文文化期 744 点である。

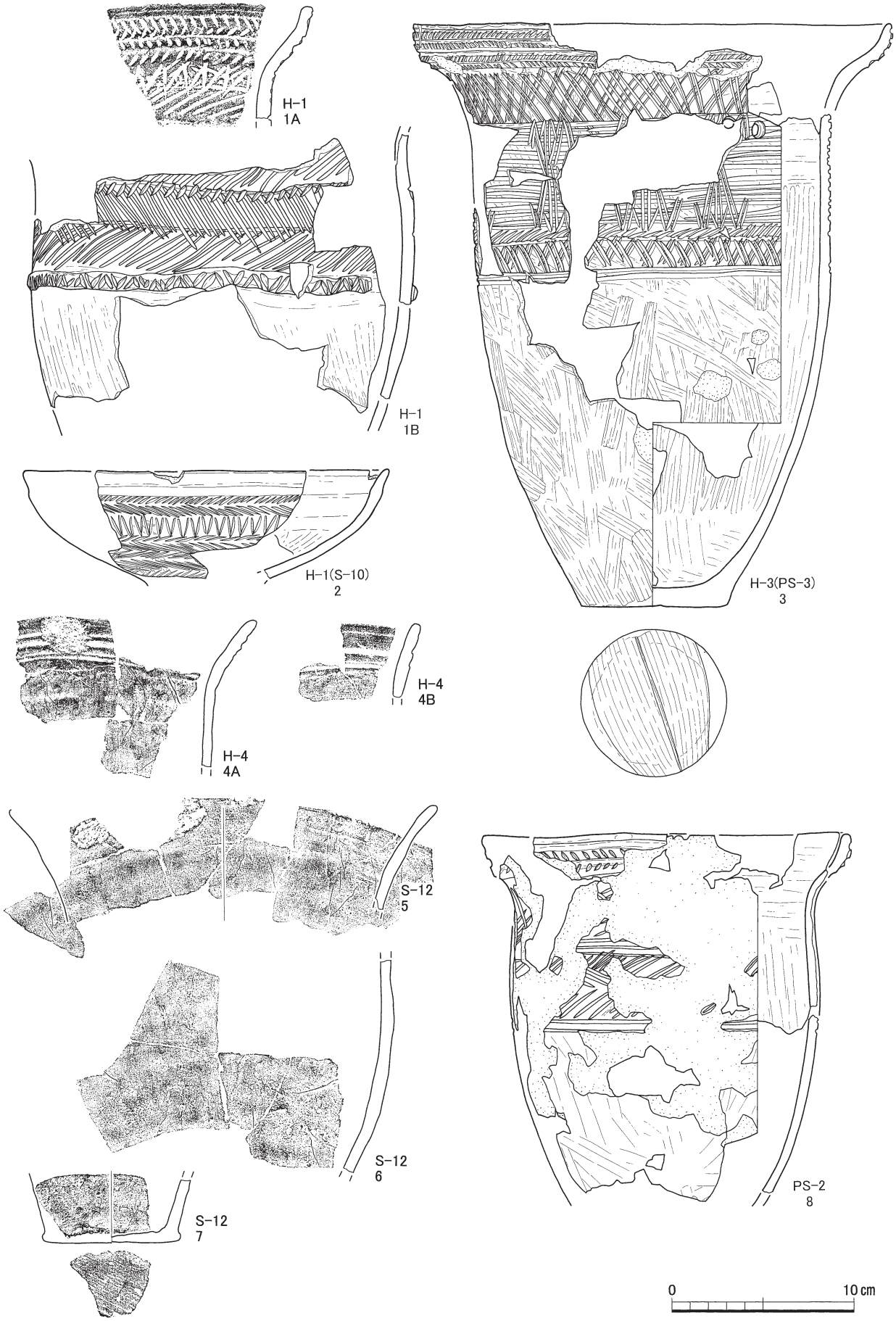
（1）土器（図Ⅳ－15・16、表Ⅳ－４、図版 15、16）

遺構出土のⅦ群土器（図Ⅳ－16-１～８、表Ⅳ－４、図版 15・16）

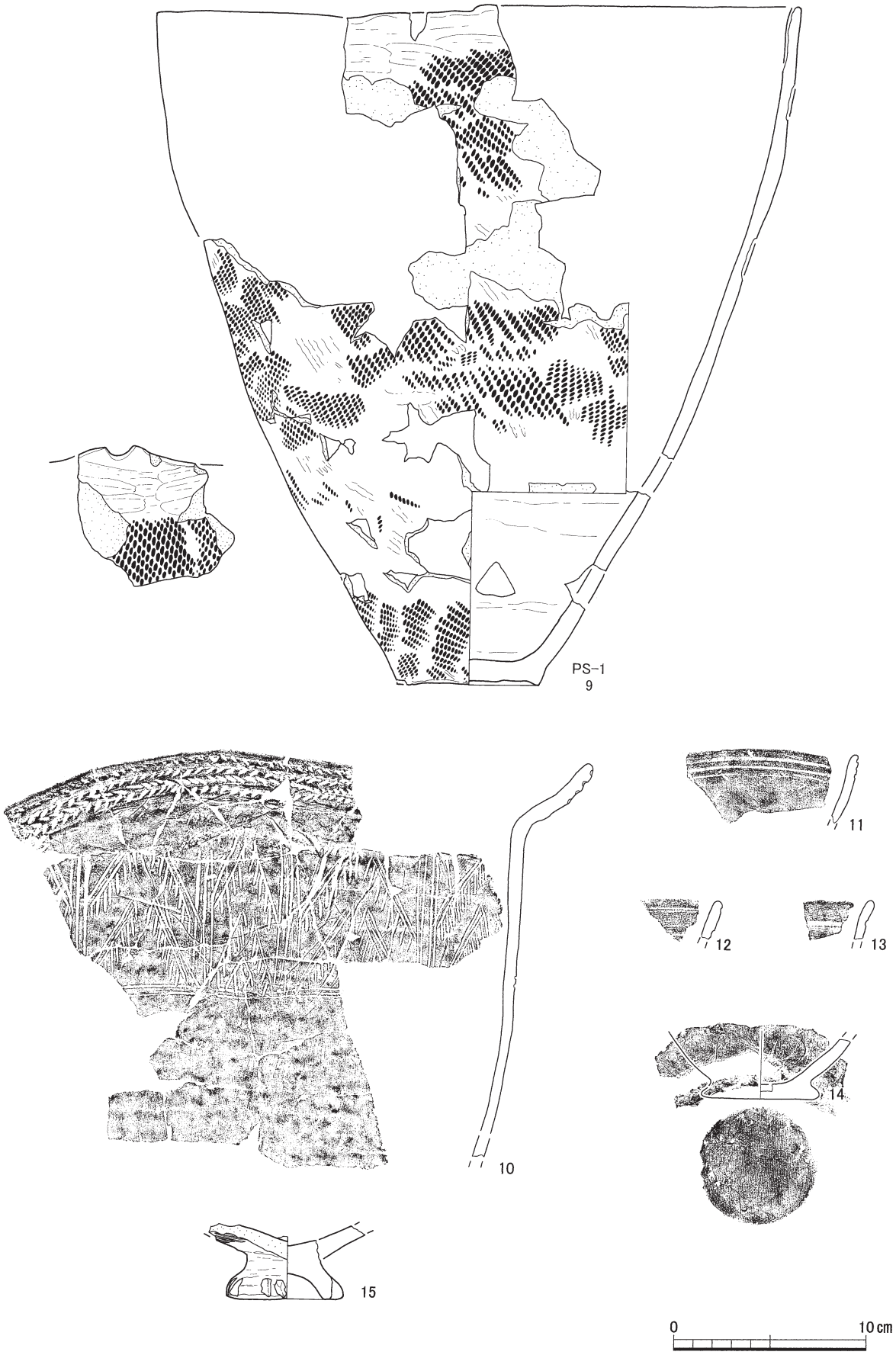
１、２は住居跡 H-１に関連する。１A、B は同一個体の深鉢。胴部上半はほぼ直立し、口縁部は屈曲し、端部は直立する。胴部最大径の位置に貼付囲繞帯がつけられ、文様帯を構成している。文様帯は無文地に横位の綾杉文が、囲繞帯上には２本一組の山形文が刻まれている。口縁部には横走する３本の沈線上および沈線間に羽状の刻みが施される。囲繞帯には沈線による下書きが認められる。内面は極めて丁寧にナデ調整され、平滑である。２は S-10 から出土した１点が接合している。脚部を欠損するが高坏とみられる。胴部は横位の綾杉状と「ハ」の字状の沈線文が描かれる。口縁部は直立し、無文である。

３は住居跡 H-３（土器集中３）から出土した深鉢である。大型で底部から急に立ち上がり、胴部上半は直立する。口縁は屈曲した後直立する。２条の沈線で区画された胴部上半は文様帯とされる。文様帯の中央は 15～16 本の多条横走沈線が巡らされ、下位に左下する連続斜行沈線がつけられる。これらの上下を２条一組の「X」字文で区画されている。口縁部は４条の沈線が深くつけられ有段となる。沈線間には羽状の刻みがつけられている。内面は極めて丁寧に調整され平滑である。底面には笹の葉圧痕に沈線を加えたものが認められる。口縁下に一組の補修孔がある。

４A、B は同一個体。いずれも住居跡 H-４出土の小片が接合する。緩やかに外反する口縁部で、口縁下に数条の沈線が巡る他は無文。内外面ともに丁寧にミガキ調整されるものである。５～７は遺物集中 S-12、およびその周辺から出土した、同一個体の可能性がある土器。中型の深鉢である。５は緩やかに外反する口縁部。直線的にやや尖る口縁部は外面がナデ調整されており、内面は横方向のミガキが顕著に認められる。６は胴部下半。細かい刷毛目がつけられた後部分的なミガキ調整がなさ



図Ⅳ－16　Ⅲ層出土の土器（１）



図Ⅳ－17　Ⅲ層出土の土器（2）

れる。７は底部。底面には笹の葉圧痕が認められる。

８は土器集中２からまとまって出土したもの。中型の深鉢である。風化剥落が激しい個体。口縁は一度屈曲して直立する受け口状を呈し、胴部はやや膨らむもので、中央やや上の位置に最大幅となる。文様は数条の横走沈線で区画された無文面上に、横位の綾杉文が施される。口縁部は横走する沈線間に羽状の刻みがつけられている。胴部下半、内面は比較的丁寧にミガキ調整が認められる。

遺構出土のⅥ群土器（図Ⅳ－17-９、表Ⅳ－４、図版 15）

９は土器集中１からまとまって出土したもの。底部のすぼまる深鉢である。RL 斜行縄文が底部まで施文される。底部付近では横走気味となる。口縁部には施文されず無文である。平板な二つ山の突起２か所が残存するが、全体の個数、配置は不明である。底部は揚げ底となる。続縄文前期後半、H317 期に相当するとみられる。

包含層出土のⅦ群土器（図Ⅳ－17-10～15、表Ⅳ－４、図版 16）

10 は O24 区を中心に破片が接合したものである。大型の深鉢である。２条の沈線で区画された胴部上半は、ミガキ調整により無文面とされた上に２条の垂下沈線が描かれ、この垂下沈線を起点として枝状に延びる沈線が、枝状沈線には短刻線が添えられ、全体として樹状の文様が描かれる。口縁は数条の沈線が巡らされ、沈線間、上には羽状の刻みが施されている。内面は丁寧なミガキ調整がなされる。

11～14 は杯。11 は半球状に近い。口唇直下に３条の沈線が巡る。12 は２条、13 は１条の沈線が巡り、13 は沈線を区切りに口唇の角度が変わる。14 は底部。張り出し、底面は平板でミガキ調整がなされている。

15 は高坏の脚部である。端部に２条一組の刻みがつけられる。胴部には横位の綾杉状沈線が残る部分がある。

（２）鉄製品・礫石器（図Ⅳ－15・16、表Ⅳ－５・６、図版 16～18）

１～20 は鉄製品。このうち１～18 までが遺構出土のものである。１、２は H-２の炉跡である F-６から出土している。３は H-４から、４は F-12 から出土している。１は刀子の切先とみられる。２は棒状の不明鉄製品であるが、小型魚突鉤の可能性が高い。３、４は釘様の鉄製品。断面が角柱状である。４は３に比しやや太く、屈曲部を持つ。

５～10 は S-４から出土している。５、６、９、10 は板状の不明鉄製品。表面の特徴から鍛造とみられる。６は穿孔が１か所認められる。７は鏨の破片を再加工したものかもしれない。８は刀子片。

11～15、22 は S-５の出土である。11～13 は一括して出土したもの。11 は袋状鉄斧。S-４から出土した破片が接合した。袋部の断面は「コ」の字に近い。横断面は楔状に尖る。12 は鏨。正面観は末広がりの鉞状を呈する。断面形はほぼ長方形である 13 は刀子。茎の部分である。14、15 は不明鉄製品。14 は鎖状に二連に連なる環状のもの。15 は L 字状に屈曲する板状の鉄製品で、一端に２か所の穿孔、一端部に刻み加工がなされている。

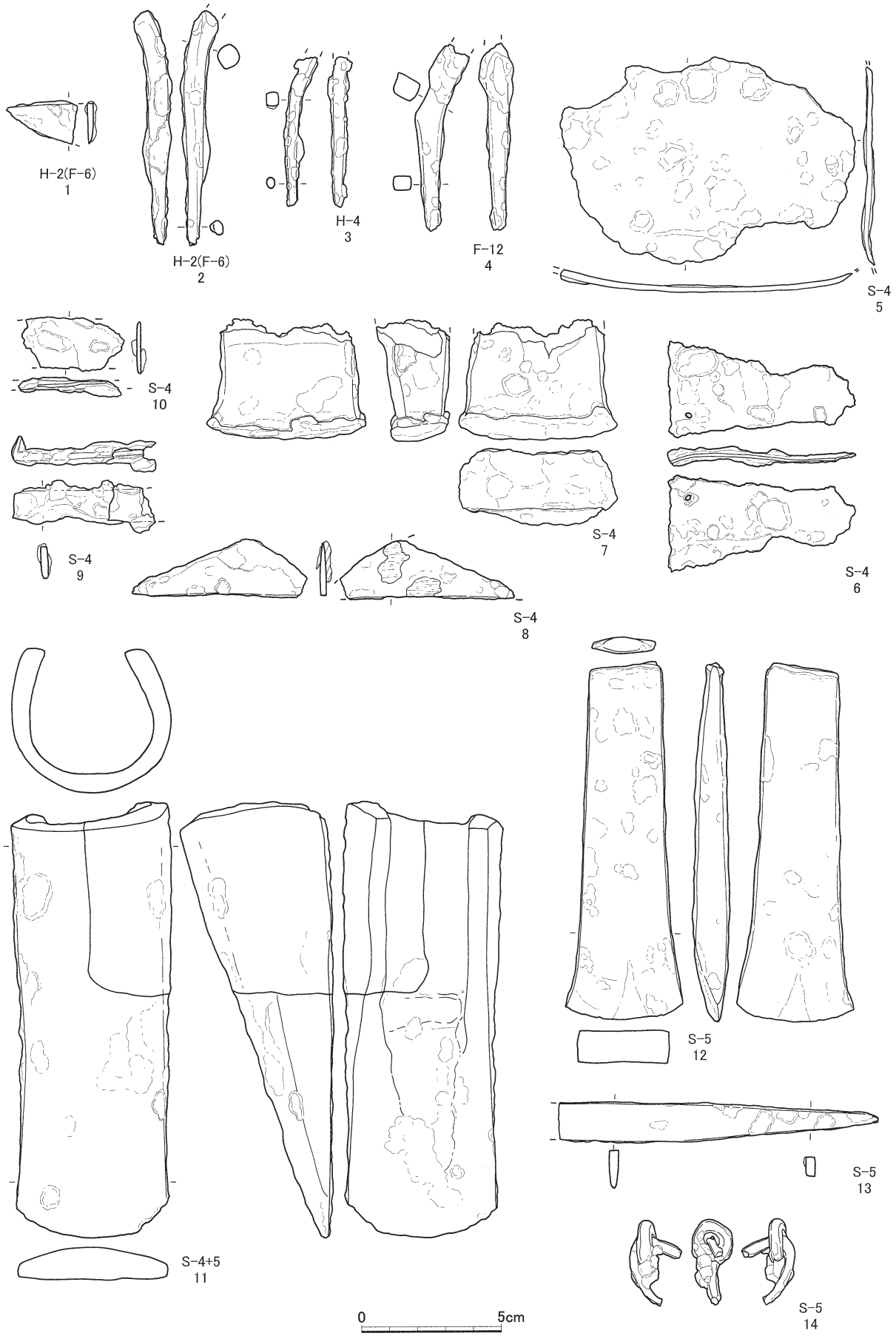
22 は袋状鉄斧等３点の鉄製品とともに出土した砥石。角柱状の礫の表面を平滑に使用するもの。正面はやや凹面で、裏面には弱い敲打痕がある。砂岩製。

16、17 は S-16 で一括して出土した。16 は魚突鉤。17 は釣針である。17 の軸部には巻きつけられた紐状のものが認められる。

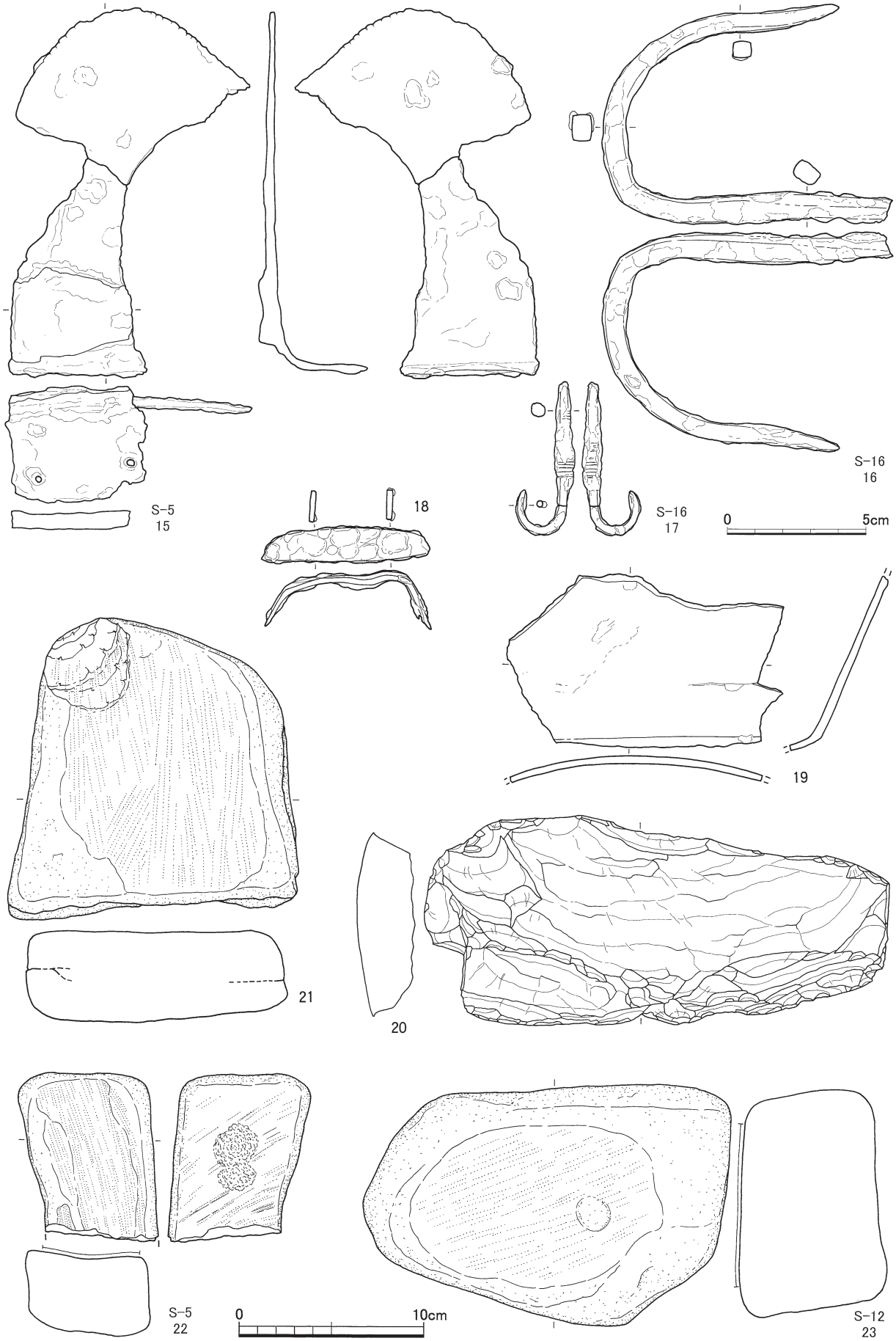
18、19 は包含層出土のもの。18 は板状の不明鉄製品。鋏状である。19 は表採の鉄鍋片。

20、21、23 はⅢ層出土の礫石器である。

20 は類例から火打石とした。石英片岩を用い周縁を打ち欠く。被熱している。21、23 は砥石とした。21 は扁平な礫を用いる。22 も含め砥石は全て砂岩製。


H-2(F-6)
1
H-2(F-6)
2
H-4
3
F-12
4
S-4
5
S-4
10
S-4
9
S-4
7
S-4
6
S-4
8
S-4+5
11
S-5
12
S-5
13
S-5
14
0
5cm

図Ⅳ－18　鉄製品（1）



図Ⅳ－19　鉄製品（２）・Ⅲ層出土の石器

（３）動物遺存体（図Ⅴ－149、表Ⅳ－７・８、図版92）

Ⅲ層の遺構、および包含層中から動物遺存体が出土している。詳細については第Ⅲ章３節、Ⅳ章４節に触れているが、フローテーション法とハンドピック法によって回収を行った。両者を合わせた遺構分の出土については、各遺構の項に述べた。遺存体のⅢ層における回収量は、フローテーションは総重量572.4g、ハンドピックは総点数1,977点、総重量は413.7gである。詳細は表Ⅳ－７、８、図版92に示した。なおⅢ層からは骨角器は出土していない。ここでは遺構出土分も含めたⅢ層における動物遺存体の傾向について、獣骨、魚骨、貝類に分けて述べる。

a）獣骨

獣骨のうち判別できたものはシカのみである。部位別に説明する。

頭蓋骨・角と歯

遺物集中区S-９、S-12で合わせて６例確認できた。本部位のみ未焼成とみられる。５例がS-９としたR21区周辺のもので、歯小片、角、頭蓋骨の一部かとみられる破片である。S-12でも歯小片が検出された。S-９、S-12はともに平地住居東側に位置しており、町内オニキシベ４遺跡で確認された事例と類似する。

指趾骨（基節骨・中節骨・末節骨）

８点確認できた。基節骨はK19区より１点、中節骨はU20区より１点、末節骨は６点、J20区で１点、L22区で２点、S19区で１点、T20区で１点、U21区で１点、U22区で１点である。

中手中足骨

８点確認できた。遺構からはH-１の炉跡F-４から１点、H-３から１点、包含層はL22区から３点、M21、T20、U21で各１点ずつである。L22区の３点は接合して１点となった。全長10㎝で検出された中で最大のものとなった。

手根骨・足根骨

１点確認できた。H-３の炉跡F-１で第１手根骨が１点認められた。

種子骨

２点確認できた。K19、M21区の各１点である。

b）魚骨

魚骨はサケ科とコイ科のウグイ属が検出されている。サケ科は10点、内訳はH-３の炉跡、床面、柱穴SP-52から椎骨の椎体１点破片３点が、H-４の炉跡F-15から、椎骨の破片６点が検出されている。

コイ科ウグイ属はその可能性が高いものも含め15点が検出されている。検出例はサケと同様で、H-３の床面と柱穴SP-52から破片１点が、H-４の炉跡F-15から椎骨破片13点が検出されている。

c）貝類

小型陸産貝類とマイマイ類の殻が、H-３の柱穴SP-52で検出されている。ただし焼成していないため、Ⅵ章４節に指摘のあるとおり現世の混入である可能性が高い。

（４）礫・礫片（図Ⅴ－148）

Ⅲ層から出土した礫は、円礫・棒状礫が782点、板状礫が63点、有意の礫が93点、礫が97点、礫片が15,497点となっている。円礫・棒状礫、板状礫についてはⅢ層に伴う遺物の可能性が高い。また有意の礫とした93点のうち、71点は、いわゆる石英質岩となっており、持ち込まれた遺物の可能性があるものである。その他の多くの礫・礫片は、本来Ⅴ層の遺物とみられるものが、自然攪乱等の何らかの影響により、Ⅲ層に露出したものと判断される。

表Ⅳ－１　Ⅲ層遺構一覧（１）

遺構名	調査区	規模(m)		深さ	確認面	時期	備考
		確認面の長径×短径	床・底面の長径×短径				
H－1	R・S22・23	5.92×5.80	－	－	Ⅲ	擦文後期	平地住居跡
H－2	Q・R24・25、S24	6.68×6.00	－	－	Ⅲ	擦文後期	平地住居跡
H－3	M・N21～23、O21・22	8.16×9.40	－	－	Ⅲ	擦文後期	平地住居跡
H－4	K・L・M21～23	9.06×9.80	－	－	Ⅲ	擦文後期	平地住居跡
P－1	M・N24	1.92×1.33	1.28×0.62	0.62	Ⅲ	擦文後期	性格不明、土坑墓の可能性あり
F－1	N22	1.01×0.68	－	0.08	Ⅲ	擦文後期	平地住居H-3を構成
F－2	N22	0.61×0.32	－	0.07	Ⅲ	擦文後期	平地住居H-3を構成
F－3	N22	0.50×0.32	－	0.06	Ⅲ	擦文後期	平地住居H-3を構成
F－4	R23	0.94×0.54	－	0.07	Ⅲ	擦文後期	平地住居H-1を構成
F－5	R・S23	0.91×0.48	－	0.06	Ⅲ	擦文後期	平地住居H-1を構成
F－6	R24	1.26×0.61	－	0.06	Ⅲ	擦文後期	平地住居H-2を構成
F－7	R24	1.08×0.86	－	0.05	Ⅲ	擦文後期	平地住居H-2を構成
F－8	R24	0.48×0.24	－	0.05	Ⅲ	擦文後期	平地住居H-2を構成
F－9	M19	2.50×2.20	－	0.07	Ⅲ	アイヌ文化期か?	広域な焼土、自然災害?
F－10	J19～21、K19・20、L19	12.35×5.40	－	0.05	Ⅲ	アイヌ文化期か?	広域な焼土、自然災害?
F－11	R21	1.55×0.75	－	0.11	Ⅲ	擦文後期?	
F－12	J23	4.00×2.25	－	0.04	Ⅲ	擦文後期?	
F－13	I25	1.10×0.70	－	0.06	Ⅲ	擦文後期?	
F－14	欠番						
F－15	L22	1.00×0.59	－	0.08	Ⅲ	擦文後期	平地住居H-4を構成
S－1	K・L22	1.92×0.96	－	－	Ⅲ	擦文後期	平地住居H-4を構成
S－2	O23	1.31×0.69	－	－	Ⅲ	擦文後期	平地住居H-3を構成
S－3	欠番				Ⅲ		Ⅴ層遺物の浮き上がりと判断
S－4	O・P23	3.58×1.52	－	－	Ⅲ	擦文後期・アイヌ文化期	南側に鉄製品集中
S－5	P22	3.42×1.10	－	－	Ⅲ	擦文後期・アイヌ文化期	袋状鉄斧、板状鉄斧、刀子
S－6	N・O21・22	2.70×1.40	－	－	Ⅲ	擦文後期	平地住居H-3を構成
S－7	L・M23	1.04×0.46	－	－	Ⅲ	擦文後期	平地住居H-4を構成
S－8	Q25	0.96×0.74	－	－	Ⅲ	擦文後期	平地住居H-2を構成
S－9	Q・R21、R22	5.80×4.68	－	－	Ⅲ	擦文後期	ニホンジカ歯
S－10	S23	6.95×6.65	－	－	Ⅲ	擦文後期	平地住居H-1を構成
S－11	R・S23	1.14×0.38	－	－	Ⅲ	擦文後期	平地住居H-1を構成
S－12	M20	3.70×1.27	－	－	Ⅲ	擦文後期	
S－13	R25	0.38×0.38	－	－	Ⅲ	擦文後期	平地住居H-2を構成
S－14	R24・25	2.50×1.36	－	－	Ⅲ	擦文後期	平地住居H-2を構成
S－15	R23・24	0.76×1.30	－	－	Ⅲ	擦文後期	平地住居H-2を構成
S－16	N25	2.08×0.65	－	－	Ⅲ	擦文後期・アイヌ文化期	魚突鉤・釣針一括出土
土器集中1	Z23	1.24×0.84	－	－	Ⅲ	続縄文時代初頭	深鉢1個体
土器集中2	X22	0.72×0.38	－	－	Ⅲ	擦文後期	底部欠く1個体
土器集中3	N22	1.54×1.37	－	－	Ⅲ	擦文後期	深鉢1個体ほぼ完形 平地住居H-3を構成

表Ⅳ－２　Ⅲ層遺構一覧（２）SP・柱穴一覧（番号のないものは欠番）

遺構名	構成遺構・重複位置	確認層位	規模(m)	深さ	遺構名	構成遺構・重複位置	確認層位	規模(m)	深さ	遺構名	構成遺構・重複位置	確認層位	規模(m)	深さ
			確認面の長径×短径					確認面の長径×短径					確認面の長径×短径	
SP-1	H－1	Ⅳ	0.08×0.08	0.20	SP-24	H－2	Ⅳ	0.10×0.08	0.35	SP-51	H－2	Ⅳ	0.16×0.14	0.22
SP-2	H－1	Ⅳ	0.06×0.06	0.18	SP-25	H－2	Ⅳ	0.10×0.10	0.22	SP-52	H－3	Ⅳ	0.20×0.14	－
SP-3	H－1	Ⅳ	0.06×0.06	0.09	SP-26	H－2	Ⅳ	0.14×0.14	0.54	SP-53	H－3	Ⅳ	0.10×0.08	0.19
SP-4	H－1	Ⅳ	0.12×0.12	0.14	SP-27	H－2	Ⅳ	0.16×0.16	0.58	SP-54	H－3	Ⅳ	0.10×0.08	0.22
SP-5	H－1	Ⅳ	0.08×0.08	0.08	SP-28	H－2	Ⅳ	0.10×0.10	0.30	SP-55	H－4	Ⅳ	0.10×0.08	0.18
SP-6	H－1	Ⅳ	0.10×0.10	0.17	SP-29	H－2	Ⅳ	0.12×0.10	0.08	SP-56	H－4	Ⅳ	0.10×0.10	0.18
SP-7	H－1	Ⅳ	0.08×0.08	0.07	SP-31	H－2	Ⅳ	0.14×0.14	0.33	SP-57	H－4	Ⅳ	0.08×0.08	0.23
SP-8	H－1	Ⅳ	0.08×0.08	0.22	SP-32	H－2	Ⅳ	0.16×0.16	－	SP-58	H－4	Ⅳ	0.10×0.08	0.09
SP-9	H－1	Ⅳ	0.08×0.08	0.08	SP-33	H－3	Ⅳ	0.12×0.12	0.18	SP-59	H－4	Ⅳ	0.10×0.10	0.16
SP-10	H－1	Ⅳ	0.08×0.08	0.17	SP-34	H－3	Ⅳ	0.08×0.08	0.14	SP-60	H－4	Ⅳ	0.24×0.18	0.61
SP-11	H－1	Ⅳ	0.12×0.10	0.09	SP-35	H－3	Ⅳ	0.14×0.14	0.11	SP-61	H－4	Ⅳ	0.10×0.08	0.11
SP-12	H－1	Ⅳ	0.14×0.12	0.09	SP-36	H－3	Ⅳ	0.16×0.14	0.15	SP-62	H－4	Ⅳ	0.08×0.08	0.10
SP-13	H－1	Ⅳ	0.08×0.08	0.24	SP-37	H－3	Ⅳ	0.20×0.18	0.51	SP-63	H－4	Ⅳ	0.10×0.10	0.28
SP-14	H－1	Ⅳ	0.08×0.06	0.10	SP-38	H－3	Ⅳ	0.18×0.14	0.32	SP-64	H－4	Ⅳ	0.10×0.10	0.17
SP-15	H－1	Ⅳ	0.08×0.08	0.08	SP-41	H－3	Ⅳ	0.18×0.16	0.28	SP-65	H－4	Ⅳ	0.08×0.08	0.12
SP-16	H－1	Ⅳ	0.10×0.08	0.17	SP-42	H－3	Ⅳ	0.16×0.16	0.22	SP-66	H－4	Ⅳ	0.14×0.10	0.31
SP-17	H－1	Ⅳ	0.12×0.08	0.12	SP-43	H－3	Ⅳ	0.16×0.16	0.14	SP-67	H－4	Ⅳ	0.08×0.08	0.10
SP-18	H－1	Ⅳ	0.12×0.10	0.22	SP-44	H－3	Ⅳ	0.18×0.14	0.12	SP-68	H－4	Ⅳ	0.06×0.06	0.08
SP-19	H－1	Ⅳ	0.06×0.06	0.19	SP-45	H－3	Ⅳ	0.16×0.12	0.21	SP-69	H－4	Ⅳ	0.08×0.08	0.19
SP-20	H－2	Ⅳ	0.18×0.14	0.38	SP-47	H－3	Ⅳ	0.14×0.12	0.40	SP-70	H－4	Ⅳ	0.12×0.12	0.37
SP-21	H－2	Ⅳ	0.14×0.12	0.56	SP-48	H－3	Ⅳ	0.10×0.10	0.31	SP-71	H－4	Ⅳ	0.08×0.08	0.21
SP-22	H－2	Ⅳ	0.14×0.10	0.08	SP-49	H－3	Ⅳ	0.12×0.10	0.24	SP-72	H－4	Ⅳ	0.10×0.08	0.22
SP-23	H－2	Ⅳ	0.16×0.14	0.36	SP-50	H－3	Ⅳ	0.44×0.36	0.17	SP-73	H－4	Ⅳ	0.12×0.10	0.22

遺構名	構成遺構・重複位置	確認層位	規模(m) 確認面の長径×短径	深さ
SP-74	H－4	Ⅳ	0.08×0.06	0.22
SP-75	H－4	Ⅳ	0.08×0.08	0.25
SP-76	H－4	Ⅳ	0.12×0.12	0.31
SP-77	H－4	Ⅳ	0.20×0.16	0.66
SP-78	H－4	Ⅳ	0.12×0.10	0.20
SP-79	H－4	Ⅳ	0.12×0.12	0.21
SP-80	H－4	Ⅳ	0.10×0.10	0.30
SP-81	H－4	Ⅳ	0.10×0.10	0.16
SP-84	H－4	Ⅳ	0.08×0.08	0.33
SP-85	H－4	Ⅳ	0.48×(32)	0.06
SP-86	H－4	Ⅳ	0.08×0.08	0.24
SP-87	H－4	Ⅳ	0.12×0.10	0.19
SP-88	H－4	Ⅳ	0.14×0.12	0.48
SP-89	H－4	Ⅳ	0.12×0.12	0.48
SP-90	H－4	Ⅳ	0.30×0.18	0.66
SP-91	H－4	Ⅳ	0.10×0.10	0.20
SP-92	H－4	Ⅳ	0.16×0.14	0.50
SP-93	H－4	Ⅳ	0.12×0.12	－
SP-94	H－4	Ⅳ	0.04×0.04	－
SP-95	H－4	Ⅳ	0.04×0.04	－
SP-96	H－4	Ⅳ	0.06×0.06	－
SP-97	H－4	Ⅳ	0.06×0.06	－
SP-98	H－4	Ⅳ	0.08×0.08	－
SP-99	H－4	Ⅳ	0.06×0.06	－
SP-100	H－4	Ⅳ	0.04×0.04	－
SP-101	H－4	Ⅳ	0.04×0.04	－
SP-102	H－4	Ⅳ	0.04×0.04	－
SP-103	H－4	Ⅳ	0.04×0.04	－
SP-104	H－4	Ⅳ	0.04×0.04	－
SP-105	H－4	Ⅳ	0.06×0.06	－
SP-106	H－4	Ⅳ	0.06×0.04	－
SP-107	H－4	Ⅳ	0.06×0.06	－
SP-108	H－4	Ⅳ	0.04×0.04	－
SP-109	H－4	Ⅳ	0.04×0.04	－
SP-110	H－4	Ⅳ	0.08×0.06	－
SP-111	H－4	Ⅳ	0.06×0.06	－
SP-112	H－4	Ⅳ	0.06×0.06	－
SP-113	H－4	Ⅳ	0.06×0.06	－
SP-114	H－4	Ⅳ	0.08×0.06	－
SP-115	H－4	Ⅳ	0.06×0.06	－
SP-116	H－4	Ⅳ	0.06×0.06	－
SP-117	H－4	Ⅳ	0.04×0.04	－
SP-118	H－4	Ⅳ	0.08×0.08	－
SP-119	H－4	Ⅳ	0.06×0.06	－

表Ⅳ－３　Ⅲ層遺構別出土遺物一覧

	Ⅱa-1	Ⅱa-2S	Ⅱb	Ⅵ	Ⅶ	不明土器	石鏃	石鏃片	スクレイパー	つまみ付きナイフ	Rフレイク	石核	フレイク	石斧片	石斧破片	石斧加工品	石斧再加工品	石斧原材	たたき石	北海道式石冠	北海道式石冠片	砥石	砥石片	加工痕ある礫	石皿	石皿片	石錘片	原石	鉄製品	骨角器	板状礫	円礫・棒状礫	円礫・棒状礫片	有意の礫	礫	礫片	総計
H-1																																				7	7
H-3					3								22																			82	1	2	6	94	210
H-4		6	1		5								3																1		3	50	5	4	1	539	618
F-1(H-3)					1																																1
F-4(H-1)													1																								1
F-5(H-1)													5																							4	9
F-6(H-2)																													2								2
F-9(H-2)						2							2																								4
F-10																																				3	3
F-11													3																								3
F-12																													1								1
F-15(H-4)													1																								1
P-1													2																			1			1	19	23
S-1(H-4)																																22	2			3	27
S-2(H-3)																															7	2					9
S-2周辺													31																								31
S-4					1																								7			22	8				38
S-5																			1				1						5			3					10
S-6(H-3)													5						1												8	6					20
S-7(H-4)									1																							38	15			12	66
S-8(H-2)					1														1													26	10			1	39
S-9														1							1							1				1			1	2	7
S-10(H-1)					1																											25	14			6	46
S-11(H-1)																															3				1	1	5
S-12					9																	1									4					2	16
S-13(H-2)																															1	1				9	11
S-14(H-2)												1							2												1	109	48		1	48	210
S-15(H-2)																																		1		7	8
S-16																													2		5				3	25	35
SP-50(H-3)											1		1																			1				4	7
SP-85(H-4)																																				6	6
SP-120																																				10	10
土器集中1				418																																	418
土器集中2					344																																344
土器集中3(H-3)					166																																166
総計	0	6	1	418	531	2	0	0	1	0	1	1	76	1	0	0	0	0	5	0	1	1	1	0	0	0	0	1	18	0	32	389	103	7	14	802	2412

表Ⅳ－４　Ⅳ章掲載土器一覧　※法量は、口径×器高×底径（cm）

掲載図番号		復元番号	接合・未接合	遺構・発掘区	層位	分類	遺物番号	点数	特徴・焼成・色調	胎土混入物
図Ⅳ-16	1A	9A	接合	S23	Ⅲ	Ⅶ		1	口縁に3条の沈線山形の刻みのつく囲繞帯で文様帯を区分横位の綾杉状の沈線文	自形輝石、石英、細粒砂
	1B	9B	接合	S23	Ⅲ			10		
			接合	T23	Ⅲ			4		
			接合	U22	Ⅲ			5		
			接合	U23	Ⅲ			1		
			接合	V22	M Ⅰ			1		
			接合	W21	Ⅲ			2		
			同一個体未接合	S23	Ⅲ			2		
			同一個体未接合	U22	Ⅲ			2		
			同一個体未接合	Y21	Ⅲ			1		
			未注記					1		
							1b	法量:	－（16.1）－cm	
	2	92	接合	S23	Ⅲ	Ⅶ		8	高坏脚部なし横位の綾杉状沈線＋「ハ」の字沈線文	石英、細粒砂
			接合	T23	Ⅲ			3		
			接合	S-10	床		46	1		
			同一個体未接合	N22	Ⅲ			1		
			同一個体未接合	Q20	Ⅲ			1		
			同一個体未接合	S21	Ⅲ			1		
			同一個体未接合	S22	Ⅲ			1		
			同一個体未接合	S23	Ⅲ			2		
			同一個体未接合	T23	Ⅲ			1		
								法量:	（20.0）（6.3）－cm	
	3	1	接合	PS-3/N22	Ⅲ	Ⅶ		121	多条横走沈線有段口縁+羽状刻み底面に沈線+笹葉圧痕	自形?石英多い
			接合	N22A	Ⅲ			4		
			接合	N23	Ⅲ			1		
			接合	N22	Ⅲ			4		
			同一個体未接合	PS-3/N22	Ⅲ			38		
			同一個体未接合	H-3②	Ⅲ			1		
			同一個体未接合	H-3⑦	Ⅲ			2		
			同一個体未接合	N22A	Ⅲ			1		
			同一個体未接合	O24	Ⅲ			1		
			同一個体未接合	Q21	Ⅲ			1		
			同一個体未接合	N22	Ⅲ			2		
			未注記					8		
								法量:	（26.0）31.8　8.0cm	
	4A	12	接合	K24	Ⅲ	Ⅶ		1	口縁部。口縁下に数条の沈線。内外面ミガキ	石英、長石（自形）・単斜輝石（自形）
			接合	H-4/L22	Ⅲ床下			2		
			接合	H-4⑫	Ⅲ			1		
	4B	97	接合	H-4/M22	床		220	1		
			接合	M22A	Ⅲ			1		
		12・97	同一個体未接合	M22A	Ⅲ			1		
	5	15	接合	L19	Ⅲ	Ⅶ		1	5～7同一個体か。無文口縁部外面：口縁部ナデ、胴部刷毛目後ミガキ内面:ミガキ	細粒砂
			接合	L20	Ⅲ			2		
			接合	M19	Ⅲ			5		
			接合	M20	Ⅲ			2		
			同一個体未接合	M20	Ⅲ			3		

掲載図番号		復元番号	接合・未接合	遺構・発掘区	層位	分類	遺物番号	点数	特徴・焼成・色調	胎土混入物
図Ⅳ-16	6	11	接合	L20	Ⅲ	Ⅶ		2	5～7同一個体か。無文胴部刷毛目後ミガキ	細粒砂
			接合	S-12	Ⅲ		126	1		
			接合	S-12	Ⅲ		128	1		
			同一個体未接合	L20	Ⅲ			1		
			同一個体未接合	S-12	Ⅲ		125	2		
	7	18	接合	S-12	Ⅲ	Ⅶ	127	1	5～7統一個体か。底部。笹の葉圧痕あり	細粒砂
	8	5	接合	PS-2	Ⅲ	Ⅶ		77	中型深鉢表面剥落激しい屈曲・直立口縁綾杉状沈線	単斜輝石（自形）細粒砂
			同一個体未接合	PS-2	Ⅲ			215		
			同一個体未接合	Ⅰ22	Ⅲ			2		
								法量:		
図Ⅳ-17	9	2	接合	PS-1/Z23	Ⅲ	Ⅵ		98	RL斜行縄文二つ山突起揚底	単斜輝石多量（自形）細粒砂
			接合未注記					1		
			同一個体未接合	PS-1/Z23	Ⅲ			162		
			未注記					156		
								法量:	（33.5）（35.3）7.5cm	
	10	8	接合	M23	Ⅲ	Ⅶ		3	大型深鉢無文面上に「樹状」沈線文。口縁はやや内湾羽状の刻線	単斜輝石（自形）細粒砂
			接合	N24	Ⅲ			4		
			接合	O24	Ⅲ			12		
			接合	P24	Ⅲ			11		
			同一個体未接合	N23	Ⅲ			3		
			同一個体未接合	N24	Ⅲ			4		
			同一個体未接合	O24	Ⅲ			2		
			同一個体未接合	O24				4		
	11	21	接合	T24	Ⅲ	Ⅶ		1	杯。半球状	石英（算盤玉状）多い
			同一個体未接合	T23	Ⅲ			1		
								法量:	－（3.9）6.1cm	
	12	19	接合	T23	Ⅲ	Ⅶ		1	杯。口縁部2条沈線	単斜輝石（自形）石英、細粒砂
	13	23	接合	U23	Ⅲ	Ⅶ		1	杯。口縁部1条沈線	単斜輝石（自形）細粒砂
	14	16	接合	P25	Ⅲ	Ⅶ		4	杯。底部底はミガキ、平板	単斜輝石（自形）細粒砂
			同一個体未接合	P25	Ⅲ			1		
			未注記	P25	Ⅲ			3		
	15	17	接合	N21C	Ⅲ	Ⅶ		1	高坏脚部胴部横位綾杉状沈線	海綿骨針細粒砂

表Ⅳ－５　掲載鉄製品一覧

掲載番号		遺構	発掘区		小グリッド	層位	遺物番号	取り上げ日	遺物名	長さ	厚さ	幅	重さ	備考	実測番号
図Ⅳ-18	1	H-2(F-6)	R	24		Ⅲ	123	2015/6/11	切先	(2.50)	0.40	(1.60)	(1.80)		16
	2	H-2(F-6)	R	24		Ⅲ	122	2015/6/11	小型魚突鉤?	(8.30)	0.90	(1.30)	(16.30)		15
	3	H-4	L	21		Ⅲ	273	2015/6/26	釘?	(5.30)	0.80	(1.30)	(3.70)		18
	4	F-12	J	23		Ⅲ上	270	2015/6/24	釘?	(6.60)	1.20	(2.00)	(13.70)		17
	5	S-4	P	23		Ⅲ	1	2015/5/13	鍛造不明鉄製品	(7.50)	(0.80)	(10.50)	(44.40)		3
	6	S-4	P	23		Ⅲ	73	2015/6/1	鍛造不明鉄製品	6.70	0.70	3.50	12.80	穿孔あり	12
	7	S-4	P	23		Ⅲ	70	2015/6/1	鑿？	(4.30)	(2.70)	5.70	(212.60)	再加工か	9
	8	S-4	P	23		Ⅲ	109	2015/6/2	刀子	(6.20)	0.60	(2.10)	(10.00)		13
	9	S-4	P	23		Ⅲ	71	2015/6/1	不明鉄製品	(5.10)	1.30	1.90	(6.60)		10
	10	S-4	P	23		Ⅲ	72	2015/6/1	不明鉄製品	(3.60)	0.60	(1.90)	(3.30)		11
	11	S-5 S-4	P P	22 23		Ⅲ Ⅲ	62 69	2015/6/1 2015/6/1	袋状鉄斧	15.60	5.50	5.70	740.80	一括出土	5 8
	12	S-5	P	22		Ⅲ	64	2015/6/1	鑿	12.80	1.30	4.20	215.30	一括出土	7
	13	S-5	P	22		Ⅲ	63	2015/6/1	刀子	(11.40)	0.40	1.50	(22.50)	一括出土	6
	14	S-5	P	22		Ⅲ	110	2015/6/3	不明鉄製品	3.10	1.50	1.90	6.00	刻み、穿孔あり	14
図Ⅳ-19	15	S-5	P	22		Ⅲ	2	2015/5/22	不明鉄製品	13.40	4.20	8.80	89.60		4
	16	S-16	N	24		Ⅲ	1	2015/8/28	魚突鉤	10.50	1.00	7.90	59.00	一括出土	1
	17	S-16	N	24		Ⅲ	1	2015/8/28	釣針	5.50	0.50	2.10	2.80	一括出土	2
	18	包含層	S	20		Ⅲ		2015/5/22	不明鉄製品(鋌?)	6.00	2.10	1.40	7.90		19
	19	表採	表採					2015/7/29	鉄鍋片	(6.30)	(3.00)	(9.90)	(91.50)		20

表Ⅳ－６　Ⅳ章掲載石器一覧

掲載番号		遺構	発掘区		小グリッド	層位	遺物番号	取り上げ日	遺物名	細分記号	石材	長さ	厚さ	幅	重さ	備考	実測番号
図Ⅳ-19	20	包含層	Q	25		Ⅲ		2015/6/1	Rフレイク(火打石)		Qu-sch	7.60	2.10	16.80	313.40		168
	21	S-3	U	21		Ⅲ	45	2015/5/29	砥石	1	Sa	(16.30)	5.00	15.70	1710.00		231
	22	S-5	P	22		Ⅲ	68	2015/6/1	砥石片	1	Sa	(9.00)	4.55	7.65	430.00	一括出土	233
	23	S-12	M	20		Ⅲ	132	2015/6/12	砥石	1	Sa	19.80	8.00	13.00	3010.00		232

表Ⅳ－7　Ⅲ層フローテーション結果一覧

+ ○　それらしきものある 数点ある

試料番号	取上日	遺構名	遺構／発掘区	層位	採取量		回収量 (g)			回収遺物															同定結果		
試料番号	取上日	遺構名	遺構／発掘区	層位	体積 (ml)	乾燥重量 (g)	残渣	浮遊物 2mm	浮遊物 0.425mm	土器 (点)	分類	石器計 (点)	石器	F Sh	F Obs	Grs/Grs Qu-sch: 丸数字	礫 (点)	礫重量 (g)	骨片 (g)	魚骨の有無	点数	炭化物 (g)	炭化種子(g)	クルミ有無	同定結果 骨	同定結果 種子	その他の遺物
オコ1-5	2015/6/10	H-1	(H-1)F-4	焼土上面	2,100	1,140	24.7	0.0	0.6			0							11.2			0.3	0.0		哺乳綱		
オコ1-6	2015/6/10	H-1	(H-1)F-4	焼土中	3,100	1,850	28.0	0.0	0.5			1	0	0	1	0			3.8			0.0			哺乳綱		
オコ1-10	2015/6/12	H-1	(H-1)F-4	焼土中	5,900	3,930	68.1	0.0	1.6			0							10.2			0.1	0.0		哺乳綱 シカ/中手・中足遠位端		
オコ1-7	2015/6/10	H-1	(H-1)F-5	焼土上面	950	600	44.6	0.0	0.3			3	0	2	1	0	3	5.9	0.3			0.1	0.0		哺乳綱	菌核×1	
オコ1-8	2015/6/10	H-1	(H-1)F-5	焼土中	1,050	800	51.7	0.0	0.2			1	0	0	1	0			0.4			0.0			哺乳綱		
オコ1-11	2015/6/12	H-1	(H-1)F-5	焼土中	800	620	52.4	0.0	0.2			1	0	0	1	0			0.7			0.0	0.0		哺乳綱	菌核×1	
オコ1-13	2015/6/19	H-2	(H-2)F-6	焼土	5,000	3,420	57.2	1.1	5.1			0					1	6.6	0.0			1.9	0.2		哺乳綱	オニグルミ核片×2 キハダ　1 イネ　3	
オコ1-14	2015/6/19	H-2	(H-2)F-7	焼土	3,200	1,910	70.6	1.7	3.0			0					1	1.8	0.4			0.4	0.0	○	哺乳綱	ブドウ　3	
オコ1-15	2015/6/19	H-2	(H-2)F-8	焼土	300	220	1.7	0.0	0.0			0							0.0			0.0	0.0		哺乳綱		
オコ1-16	2015/6/22	H-3	(H-3)F-1	焼土	8,200	5,400	145.1	0.8	3.6	1	Ⅶ	0							50.2			0.7	0.0		哺乳綱 サケ椎骨　1		鉄片
オコ1-17	2015/6/24	H-3	(H-3)F-1	焼土	2,100	1,310	74.9	0.2	0.4			0							59.2			0.3	0.0		哺乳綱		
オコ1-18	2015/6/24	H-3	(H-3)F-2･3	焼土	1,050	650	61.6	1.1	1.5			0							50.9			1.6	0.0		哺乳綱		
オコ1-1	2015/6/2	H-3	(H-3)S-6	Ⅲ	21,750	13,950	468.3	12.8	34.7			5	0	0	3	②			141.8			9.5	0.5		哺乳綱	ブドウ　3 イネ　1	
オコ1-20	2015/6/25	H-3	(H-3)SP-50	焼土	100	70	4.1	0.0	0.0			1	0	0	1	0			0.0	○	2	0.0			哺乳綱		
オコ1-19	2015/6/24	H-3	(H-3)SP-52	覆土1	900	500	8.7	0.4	0.9			0					1	3.2	0.4	○	5	0.4	0.0		哺乳綱 陸産貝類×31 マイマイ サケ椎骨×1 ウグイ椎骨　1		
オコ1-2	2015/6/2	H-3	H-3(N22区)	(トレンチ)	7,250	4,910	121.0	3.7	7.8			4	0	0	2	2	1	4.0	51.7			2.7	0.0		哺乳綱 シカ/中手・中足遠位端		
オコ1-3	2015/6/3	H-3	H-3(N22区)	(トレンチ)	16,300	10,020	175.4	5.0	8.6			0					3	7.3	34.9			2.3	0.1	+	哺乳綱		
オコ1-173	2015/6/24	H-3	H－3①	床	5,520	4,500	56.8	1.0	14.4			1	0	1	0	0			8.5			0.1	0.0		哺乳綱	ブドウ　1	
オコ1-174	2015/6/24	H-3	H－3②	床	9,660	7,000	78.6	3.1	23.9			1	0	0	1	0						6.0					
オコ1-175	2015/6/24	H-3	H－3③	床	8,940	7,500	110.0	7.7	38.3			0	0	0	0	0	1	0.1				2.3	1.9			ウコギ　3 菌核　3	
オコ1-176	2015/6/24	H-3	H－3④	床	6,840	5,000	34.0	5.3	3.7			1	0	0	0	①			5.4			2.4	0.2		哺乳綱	ブドウ　1 ミズキ×1	
オコ1-177	2015/6/24	H-3	H－3⑤	床	5,720	4,000	54.4	1.9	6.5			4	0	3	1	0			0.3	○	7	1.0	0.1		哺乳綱 ウグイ椎骨×1 サケ椎骨×3 硬骨魚綱		
オコ1-178	2015/6/24	H-3	H－3⑥	床	2,800	2,500	50.9	0.6	2.0			0	0	0	0	0	1	0.7	16.8			0.3			哺乳綱		
オコ1-179	2015/6/24	H-3	H－3⑦	床	3,620	3,000	50.9	0.5	3.4			0	0	0	0	0	1	1.5	9.1				0.4		哺乳綱	ブドウ　1	
オコ1-180	2015/6/24	H-3	H－3⑧	床	1,000	790	7.5	0.2	0.3			0	0	0	0	0			0.0				0.1		哺乳綱		
オコ1-181	2015/6/24	H-3	H－3⑨	床	2,400	1,790	18.7	2.2	3.5			0	0	0	0	0			0.1			1.5	0.0		哺乳綱		
オコ1-182	2015/6/24	H-3	H－3⑩	床	2,250	1,370	10.0	1.9	2.2			0	0	0	0	0	1	1.7				2.7	0.1				
オコ1-183	2015/6/24	H-3	H－3⑪	床	2,400	1,900	40.0	2.0	1.3			0	0	0	0	0			5.6			0.4	0.1		哺乳綱	イネ×1	
オコ1-184	2015/6/24	H-3	H－3⑫	床	2,500	2,030	25.9	0.5	1.1			2	0	1	1	0			0.1			0.1			哺乳綱		
オコ1-185	2015/6/24	H-3	H－3⑬	床	1,500	1,260	20.0	0.1	0.3			3	0	2	1	0						0.1	0.1				
オコ1-22	2015/6/26	H-4	(H-4)F-15	焼土	2,300	1,760	65.9	0.3	0.5			1	0	0	1	0			3.0	○	13	0.4	0.0		哺乳綱 サケ科×6 ウグイ？×13	クルミ核片×4	
オコ1-23	2015/6/29	H-4	(H-4)F-15	焼土	180	135	13.0	0.0	0.0			0							8.7			0.0	0.0		哺乳綱	ブドウ　1	
オコ1-12	2015/6/16	F-11	F-11	焼土	5,200	3,320	81.6	17.3	10.1			3	0	3	0	0	1	3.9	0.5			21.6	0.1		哺乳綱		
オコ1-21	2015/6/25	F-13	F-13	焼土	700	530	9.9	3.0	1.2			0										5.1	0.0				＊
オコ1-9	2015/6/11	F-9	F-9	焼土	7,300	3,720	61.0	19.5	9.6	2	不明	2	0	1	1	0			0.4			23.6	0.3				
オコ1-4	2015/6/8	S-9	S-9	Ⅲ	8,300	4,280	150.1	4.6	9.0			0							97.8			3.0	0.0		シカ(角)　1 哺乳綱		＊

表Ⅳ－８　Ⅲ層ハンドピック動物遺存体同定結果一覧

遺物番号	資料番号	グリッド			層位1	取り上げ日	頭骨?	鹿角	歯 F	下顎骨 L	椎骨 F	肋骨 F	肩甲骨 F	上腕骨 F	橈骨 (P R L / D R L)	尺骨 (P R L / D R L)	手根骨 (R / U / I / 2+3 / 4 / 副, R L)	脛骨 (P R L / D R L)	腓骨	膝蓋骨 (R L)	踵骨 (R L)	距骨 (R L F)	果骨 (R L)	種子骨	足根骨 (第1 / 2+3 / C+4, R L)	基節骨 (P / D, R L)	中節骨 (P / D, R L)	末節骨 (P / D, R L)	第2・5基節骨 (R L)	第2・5中節骨 (R L)	第2・5末節骨 (R L)	mc/mt (P S D)	骨角器			
	31	Ⅲ層	Ⅲ層遺構	(H-3)S-6	Ⅲ	2015/6/2																														同定部位なし
	173	Ⅲ層	Ⅲ層遺構	(H-3)F-1		2015/6/24																			第1 R: 1											完形
116	244	Ⅲ層	Ⅲ層遺構	S-9(R21)	Ⅲ	2015/6/5			○																											
112	245	Ⅲ層	Ⅲ層遺構	S-9(R21)	Ⅲ	2015/6/5	○		○																											
117	267	Ⅲ層	Ⅲ層遺構	S-9(R21)	Ⅲ	2015/6/5			○																											
124	298	Ⅲ層	Ⅲ層遺構	S-12(M20)	Ⅲ	2015/6/11			○																											
	38		J	20	Ⅲ	2015/6/16																						P L: 1								
	81		J	19	Ⅲ	2015/6/24																														同定部位なし
	136		J	20	Ⅲ	2015/6/12																														同定部位なし
	68		K	19	Ⅲ	2015/6/24																				P L: 1										
	355		K	19	Ⅲ	2015/6/24																		1												完形
	40		L	22	Ⅲ	2015/6/25																									L: 1					
	45		L	22	Ⅲ	2015/6/23																														哺乳綱(小型)　1
	87		L	22	Ⅲ	2015/6/25																						P R: 1								
29	222		L	22	Ⅲ	2015/5/25																										S: 1				222、223、262接合
31	223		L	22	Ⅲ	2015/5/25																										S: 1				222、223、262接合
30	262		L	22	Ⅲ	2015/5/25																										S: 1				222、223、262接合
	276		L	22	Ⅲ	2015/6/26																						P L: 1								
	339		M	21	Ⅲ	2015/6/25																		2								D: 1				
	60		R	21	Ⅲ	2015/6/5			○																											
	102		S	19	Ⅲ	2015/6/4																						D R: 1								
	46		T	20	Ⅲ	2015/5/26																														
	47		T	20	Ⅲ	2015/5/28																									R: 1					完形
	357		T	20	Ⅲ	2015/5/27																										D: 1				
	59		U	22	Ⅲ	2015/5/29																									R: 1					
	316		U	20	Ⅲ	2015/5/26																					P (middle unlabelled column): 1									
	354		U	21	Ⅲ	2015/5/27																									R: 1	D: 1				完形(末節骨R)

Ⅴ章　Ⅴ層の遺構と出土遺物

1　概要

Ⅴ層で検出された遺構は、盛土遺構２か所、竪穴住居跡６軒、土坑墓２基、土坑13基、Ｔピット４基、集石２か所、柱穴状の小土坑が148基検出されている。

盛土遺構は南北の斜面に１か所、計２か所である。これらは段丘頂部の平坦面を削平した結果堆積したものとみられ、被熱した砂岩礫片等多量の遺物を包有するものである。削平部分とした段丘頂部には、Ⅴ層下部からⅥ層の堆積がないかきわめて薄い。

Ｔピットを除いた遺構は、盛土遺構の下位で検出されるものと、削平部分もしくはそれに隣接して検出されるものがある。竪穴住居跡H-５、６、９、土坑墓P-２、10、土坑P-３、15、16、集石S-17、18は前者、竪穴住居跡H-７、８、10、土坑P-４～９、11～14は後者にあたる。前者の盛土の下位で検出される遺構は、土坑墓P-２のみが南盛土で、他は全て北盛土で検出されている。北盛土下位の竪穴住居跡３軒は全て平面形が楕円形～隅丸方形、長軸長３ｍ程度の小規模なもので、標高57.5mの等高線に長軸をそろえるように検出されている。

Ｔピット４基は、北側斜面に位置している。全て小判形の平面形を呈し、坑底には杭跡を伴うものである。調査区北部の北東斜面において等間隔に並んで検出されている。

なお、遺構から出土した掲載遺物については、遺構の記載には分類と出土状況を示すにとどめ、Ⅴ章３節出土遺物に遺物の詳細を記した。

2　Ⅴ層検出の遺構

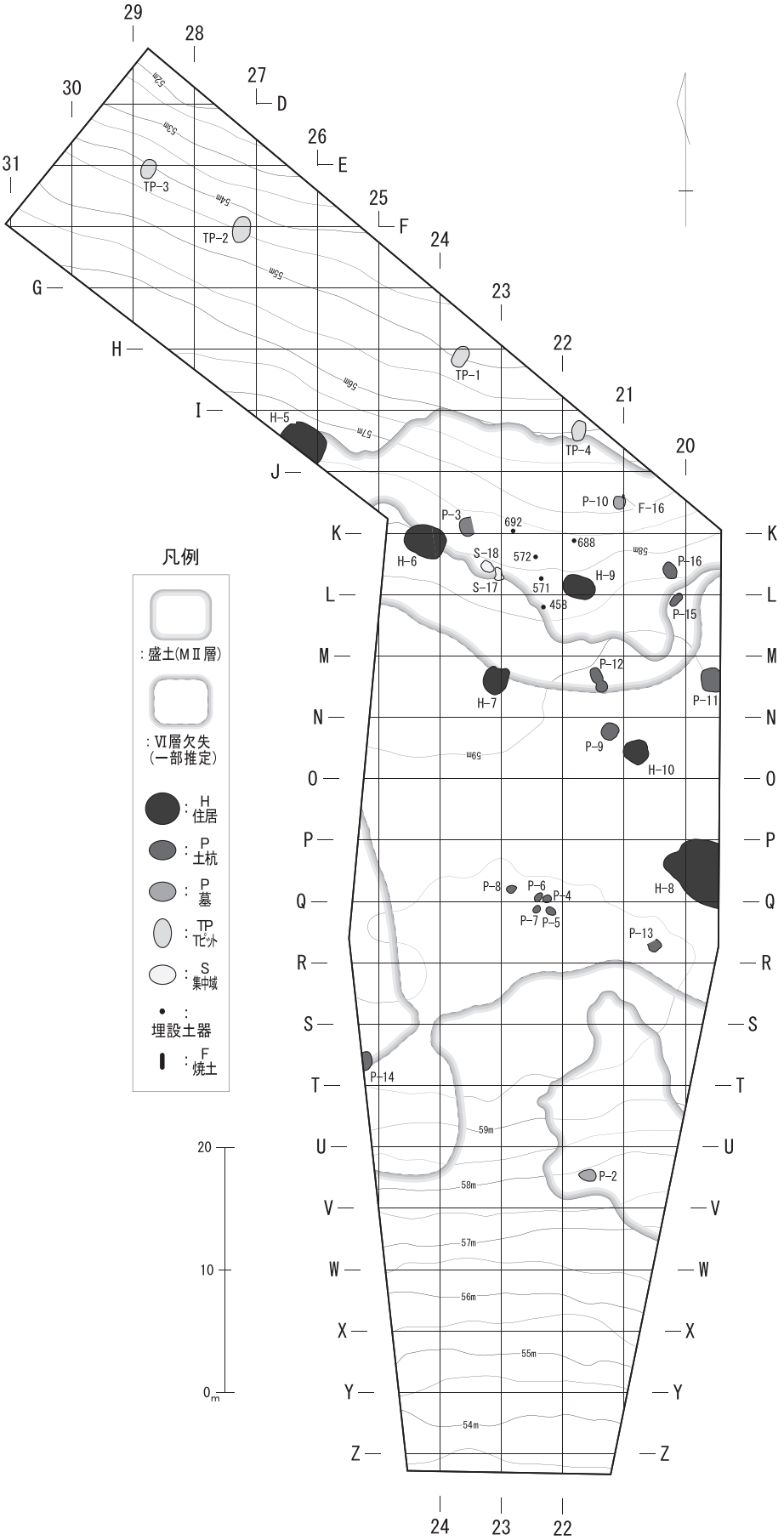
（1）盛土遺構

a）盛土遺構の認識と基本層序

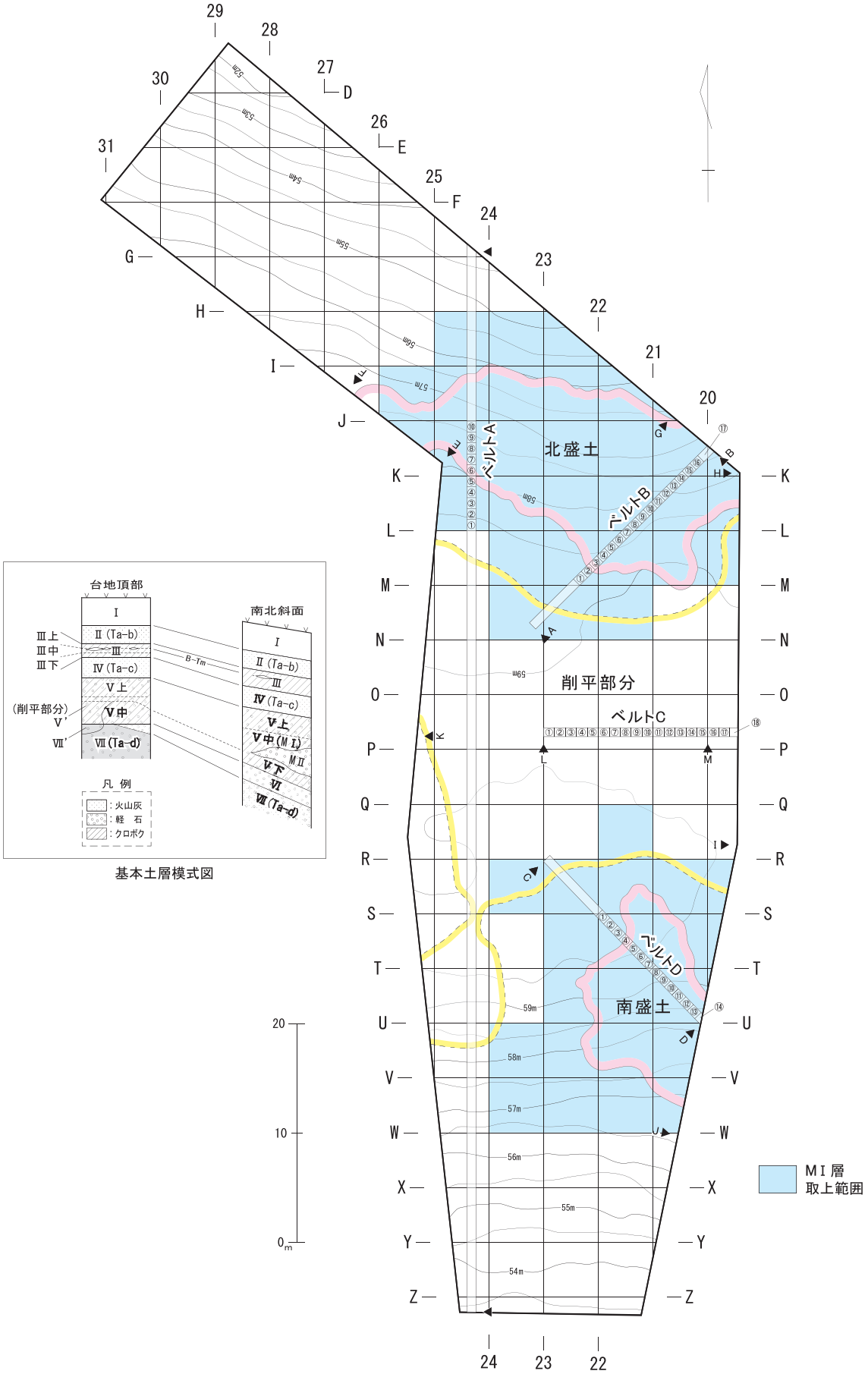
Ⅱ章において述べたように、2011年に行われた本遺跡の試掘調査時、調査区北側斜面のⅤ層中位のⅦ層パミスを多く含む成因不明の再堆積層を「盛土遺構」としていた。

本調査にあたり、この再堆積層の分布と層厚の詳細を確かめるため、調査区全体を覆うようにトレンチを４か所設定し、ベルトA、B、C、Dとして土層を記録した（図Ⅴ－２）。以下土層の状況について、図を用いて説明する（図Ⅴ－３～７）。

ベルトA：調査区の横断面となるよう設定した。Ⅴ層の層厚は、段丘頂部の平坦面（M～R間）で40.6㎝。再堆積層のない南斜面（S～Z間）で36.5㎝であった。一方で北斜面において再堆積層も含めたⅤ層の層厚は最大で110㎝であり、南斜面に比べ極端に厚い。Ⅵ層は南北両斜面部分には認められるが、段丘頂部平坦面では、Ⅵ層がほとんどなく、Ⅴ層がⅦ層上に直接堆積した結果土壌化したような漸移層が認められた。この層位をⅦ′層とした。また、このⅦ′層が認められる部分のⅤ層は、基本層序のⅤ層に比較しⅦ層偽礫ブロックをやや多く含むという特徴がある。基本層序におけるⅤ層とは異なるため、Ⅴ′層とした。北斜面のⅤ層相当の堆積は詳細に観察すると、Ⅴ層中に砂岩礫を初めとする遺物、Ⅶ層起源のパミスをⅤ層より多量に含んでおり、試掘調査で確認された再堆積層と想定された。本層をMⅡ層とした。遺物はこの層位より上位層に連続して出土している。Ⅴ層中位と見かけ上区分することができないが、遺物を多く含む部分についてMⅠ層と呼称した。南斜面においてはこれらM層に該当する堆積が確認できなかった。MⅠ、Ⅱ層は北斜面にほぼ単層で分布し、最大厚部分は不自然にくぼむことから遺構の重複（後にH-６となる）があることを確認した。


凡例
：盛土(MⅡ層)
：Ⅵ層欠失（一部推定）
：H 住居
：P 土杭
：P 墓
：TP Tピット
：S 集中域
：埋設土器
：F 焼土
TP-1
TP-2
TP-3
TP-4
H-5
H-6
H-7
H-8
H-9
H-10
P-2
P-3
P-4
P-5
P-6
P-7
P-8
P-9
P-10
P-11
P-12
P-13
P-14
P-15
P-16
F-16
S-17
S-18
692
688
572
571
458
59m
58m
57m
56m
55m
54m
20
10
0m

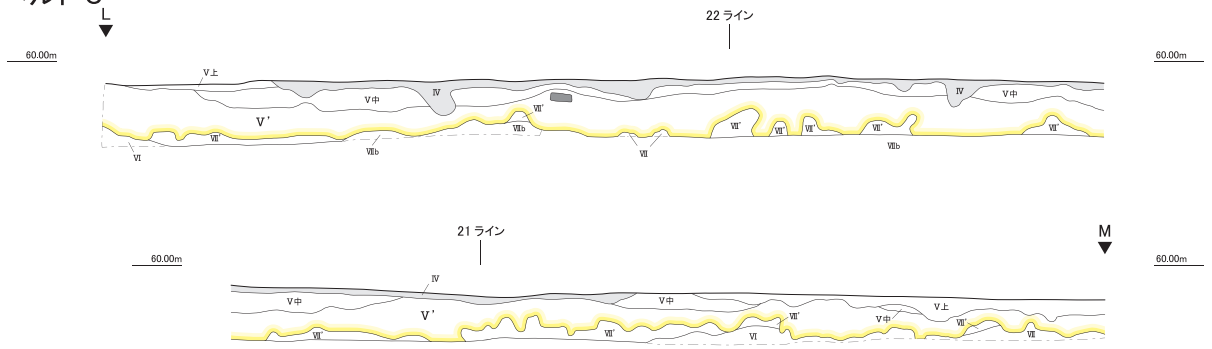
図Ⅴ－１　Ⅴ層遺構位置図



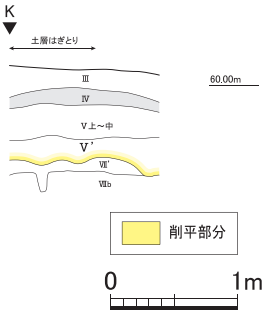
基本土層模式図

図Ⅴ－２　盛土・削平部分ベルト設定図

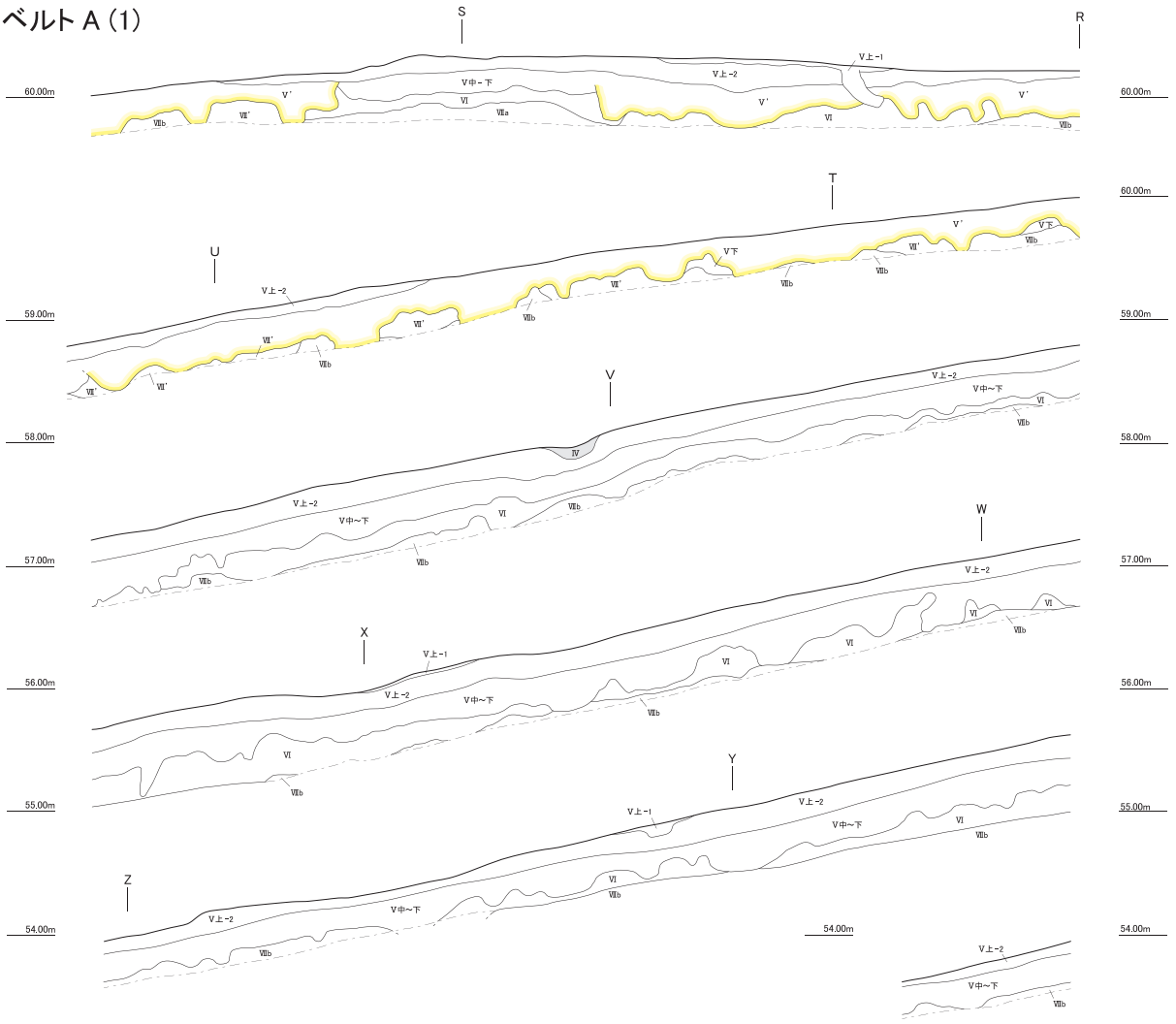
ベルトＣ



Ⅳ　：10YR5/4 にぶい黄褐（粘性なし しまりなし）砂質 層界画然
Ⅴ上-1 ：10YR2/2 黒褐　（粘性なし ややしまりあり）砂 乾燥すると灰白色になる Ⅴa 層相当 層界やや画然
Ⅴ上-1' ：10YR1.7/1 黒　（粘性なし ややしまりあり）砂混土 7mm 以下の d_1パミス５～７%まじる 層界やや画然
Ⅴ上-2 ：10YR1.7/1 黒　（粘性なし ややしまりあり）土 10mm 以下の d_1・d_2パミス 10%以下まじる 層界漸変
Ⅴ中　：10YR2/1 黒　（粘性なし ややしまりあり）砂礫混土 15mm 以下の d_1・d_2パミス 20%以下まじる 層界漸変
Ⅴ'　：10YR2/1 黒　（粘性なし しまりなし）土 20mm 以下の d_2パミス斑状に 20%まじる 層界やや画然
ⅦI　：10YR1.7/1 黒　（粘性なし しまりなし）砂礫混土 10mm 以下の d_1パミス 20～30%まじる 遺物・骨片多く混じる 層界やや画然
ⅦII-a ：10YR3/1 黒褐　（粘性なし しまりなし）砂礫混土 20mm 以下の d_2パミス 25%まじる 遺物・骨片多く混じる 層界やや画然
ⅦII-b ：10YR2/2 黒褐　（粘性なし しまりなし）砂礫混土 20mm 以下の d_2パミス 15%まじる 遺物・骨片多く混じる（北斜面以外）層界やや画然
ⅦII-c ：10YR2/2 黒褐　（粘性なし しまりなし）砂混土 10mm 以下の d_2パミス 10%まじる 遺物・骨片多く混じる 層界やや画然
Ⅴ中～下：10YR2/1 黒　（やや粘性あり しまりなし）砂礫混土 7mm 以下の d_1パミス 10%まじる 層界漸変
Ⅴ下　：10YR2/1 黒　（粘性なし しまりなし）砂混土 15mm 以下の d_2パミス 10%まじる 層界漸変
Ⅵ　：10YR3/4 暗褐　（粘性なし ややしまりあり）砂質土 Ta-d_1パミス中に暗褐色土がまじる漸移層 層界漸変
Ⅶ'　：7.5YR2/2 黒褐　（やや粘性あり しまりなし）粘質シルト Ⅴ中層とⅦ層の漸移層 層界漸変
Ⅶa　：10YR4/3 にぶい黄褐（粘性なし ややしまりあり）粘混土 Ta-d_1パミス
Ⅶb　：7.5YR4/4 褐　（粘性なし しまりなし）砂礫混土 30mm 以下のパミスからなる

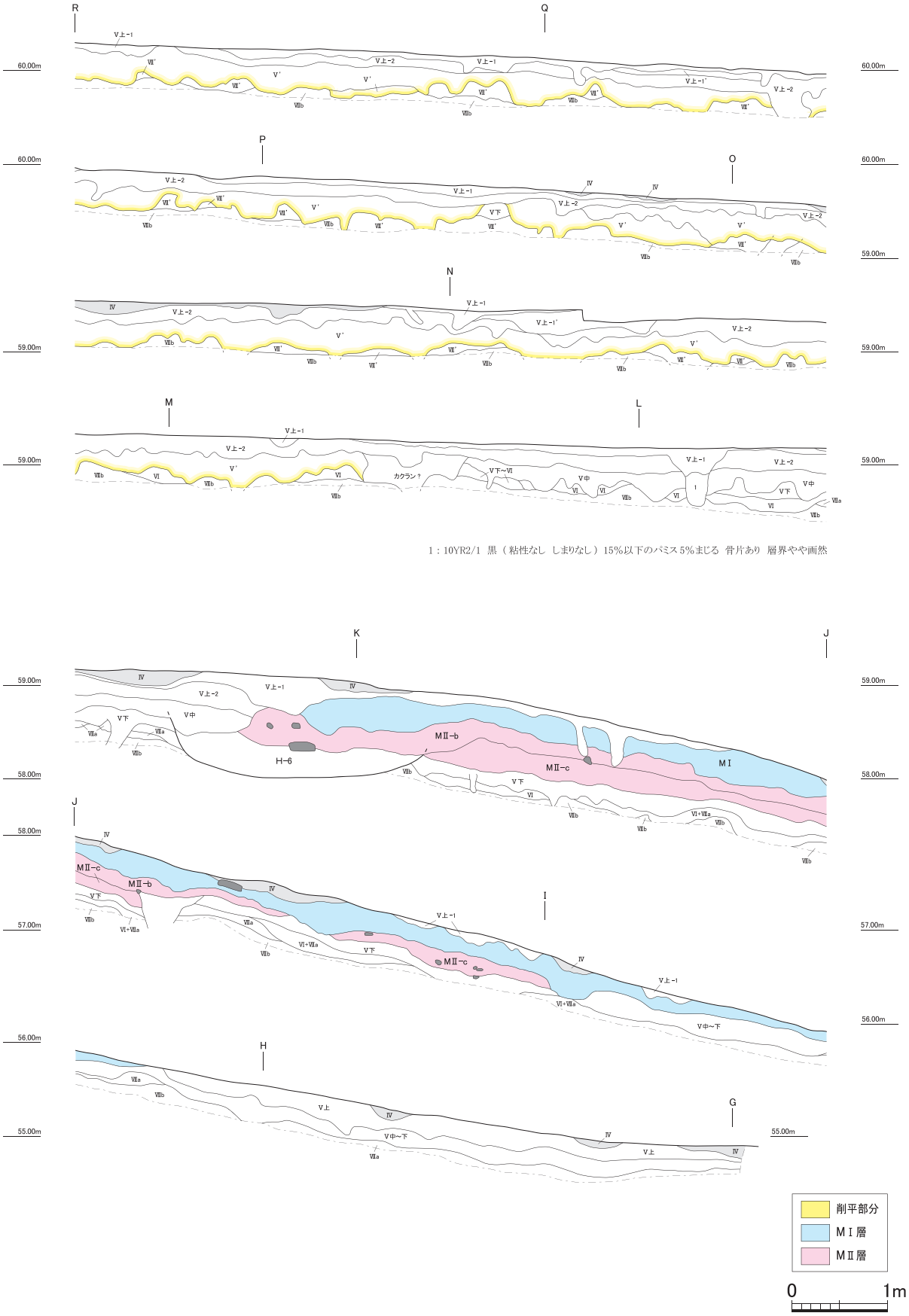


ベルトＡ（1）



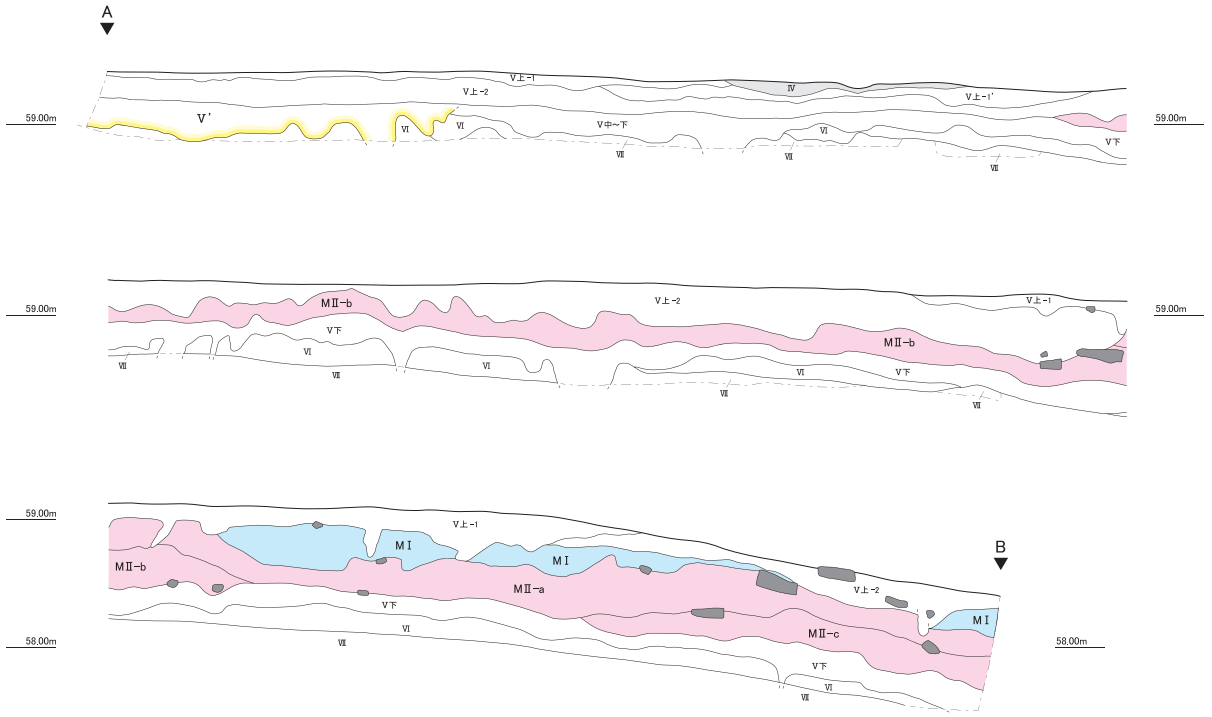
図Ⅴ－３　メインセクション（１）

ベルトＡ（2）

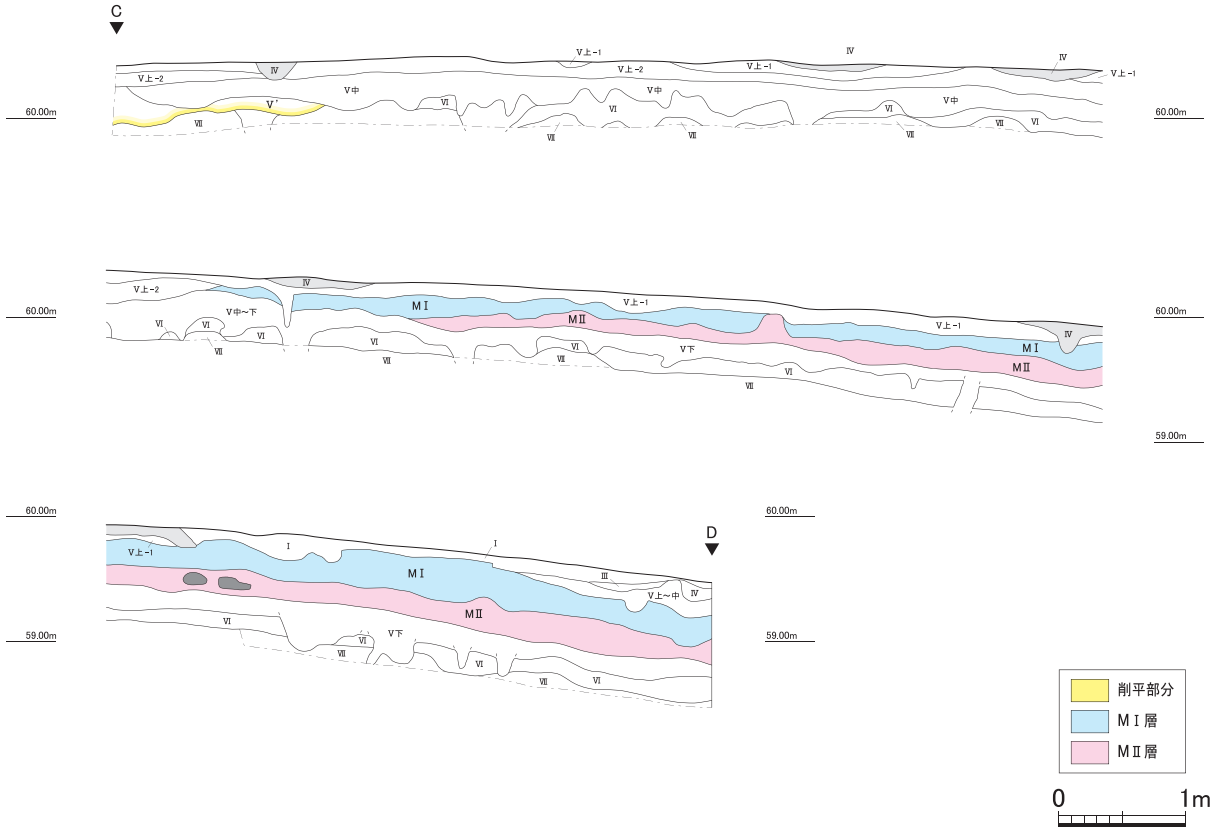


図Ⅴ－４　メインセクション（２）

ベルトＢ

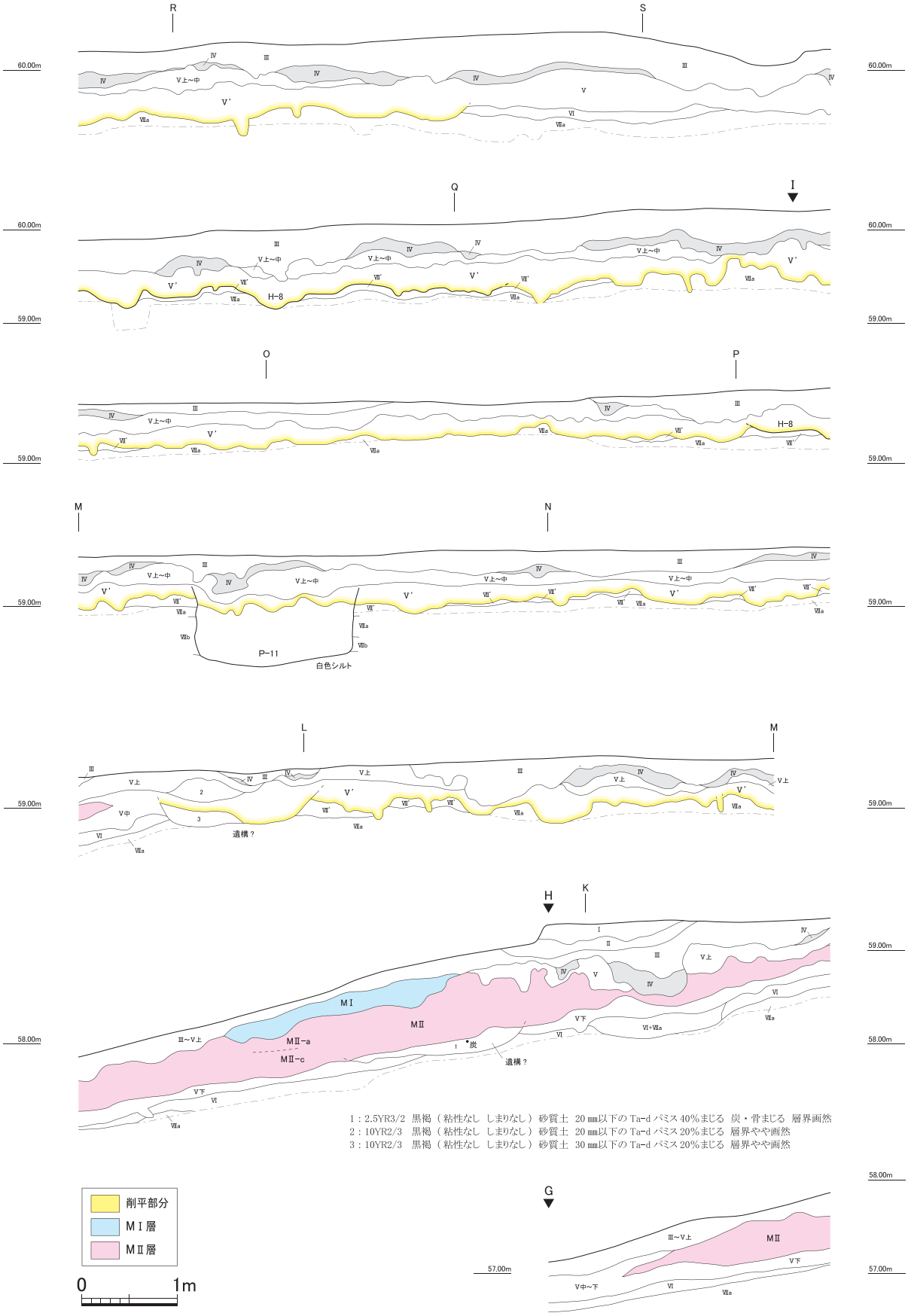


ベルトＤ



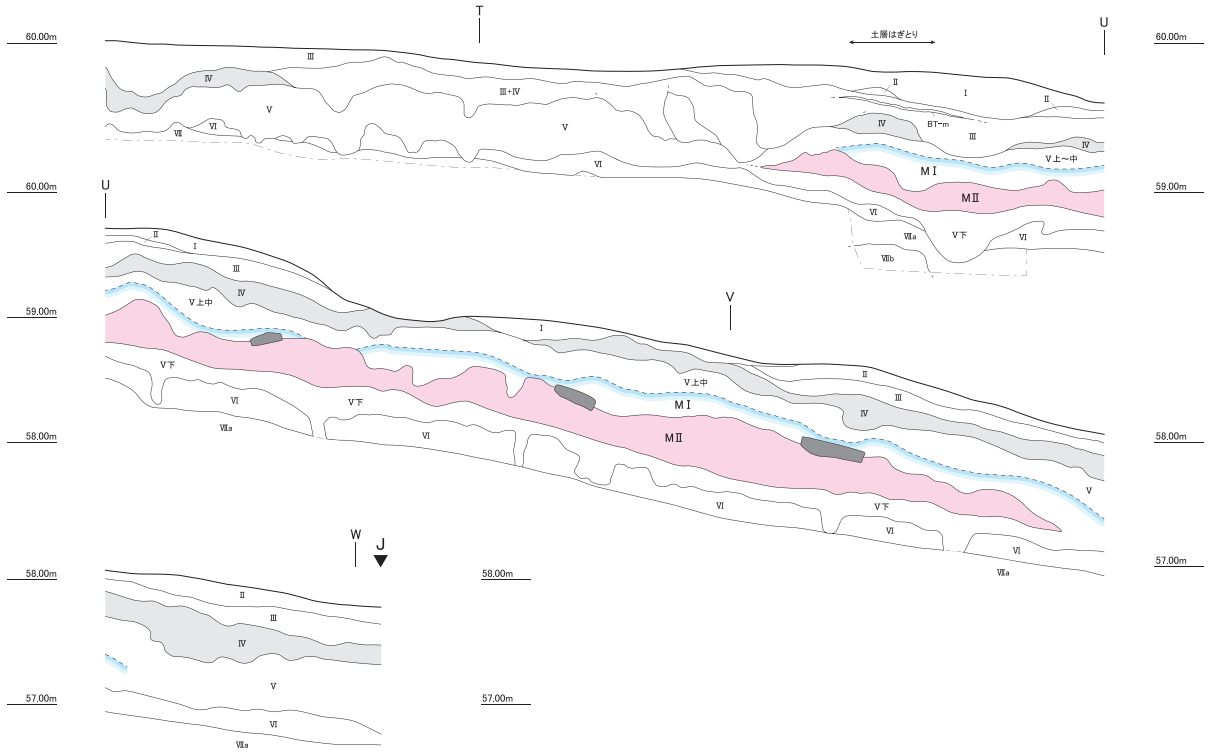
図Ⅴ－５　メインセクション（３）

東壁（1）

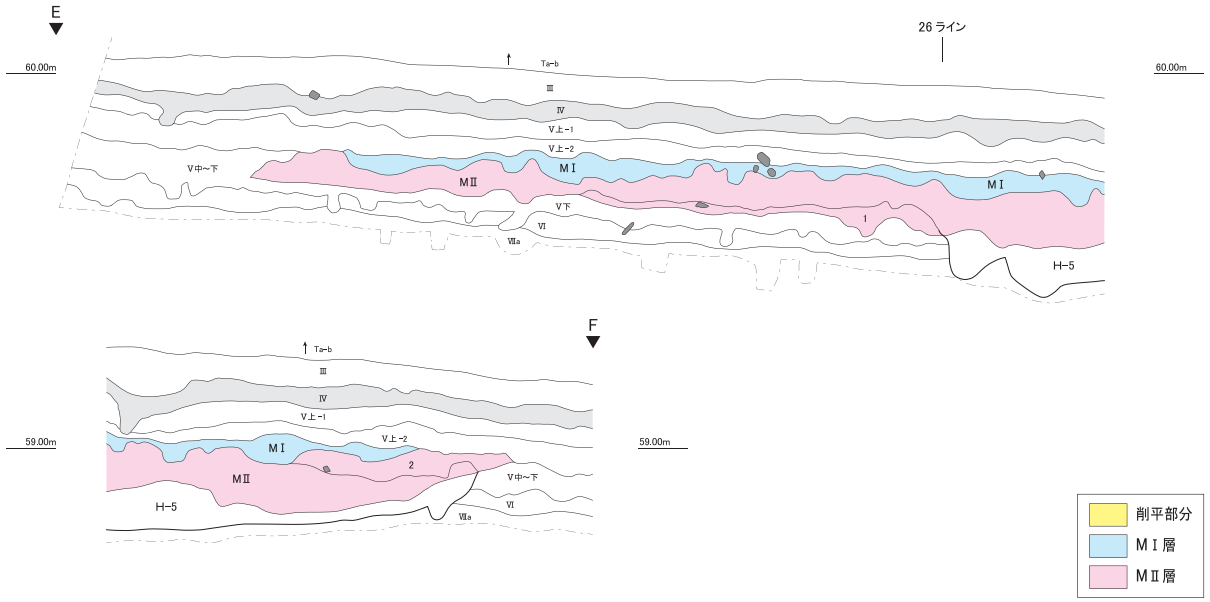


図Ⅴ－6　メインセクション（4）

東壁 (2)



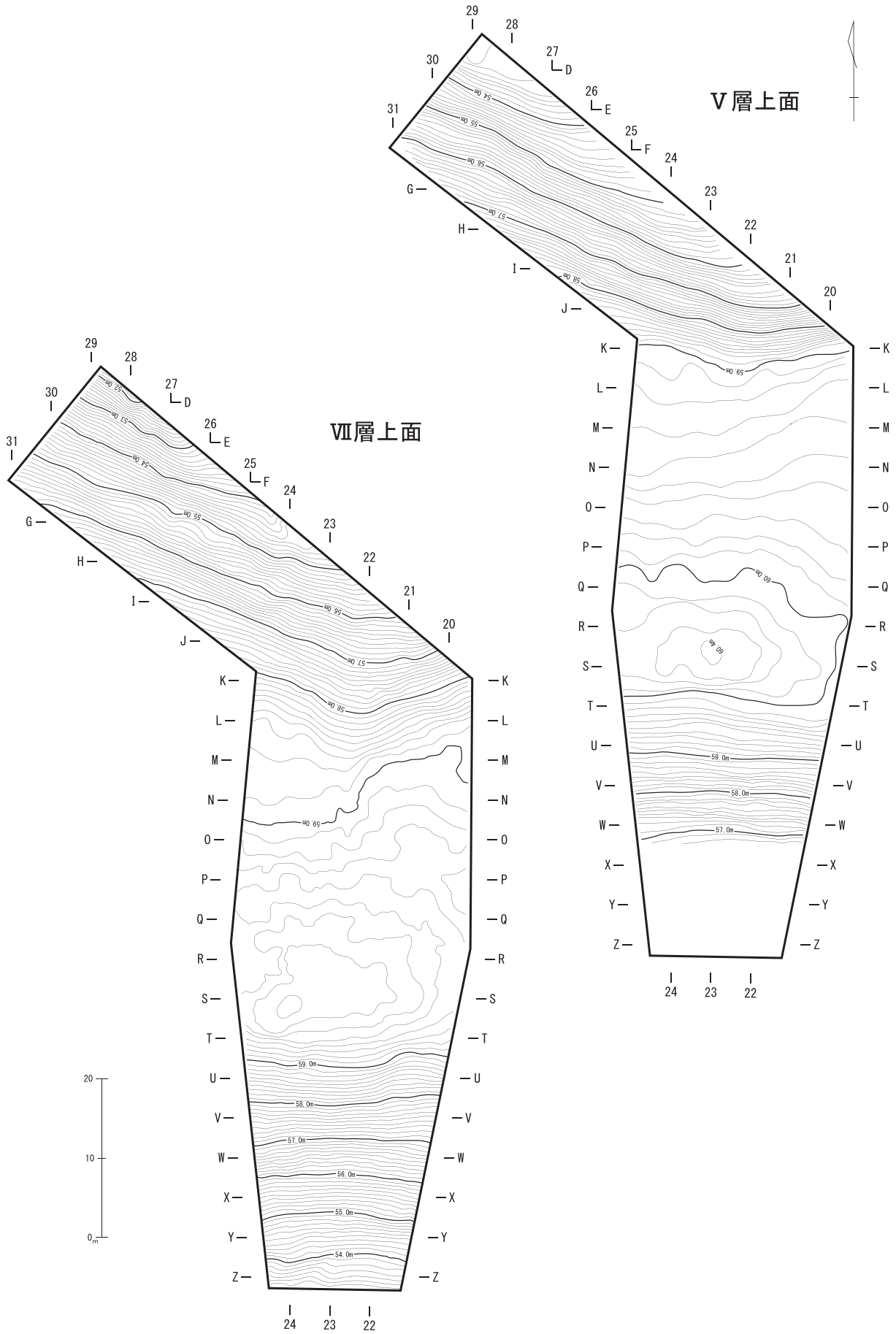
西壁



1：7.5YR2/1 黒　（粘性なし しまりなし）砂混土 10㎜以下の Ta-d₁・d₂パミス、骨片・炭化物 10%まじる 層界やや画然
2：7.5YR2/2 黒褐（粘性なし しまりなし）砂混土 20㎜以下の Ta-d₁・d₂パミス 30%、骨片わずかにまじる 層界やや画然

0　1m

図Ⅴ－７　メインセクション（５）



図Ⅴ－８　Ⅴ層・Ⅶ層上面の地形

ベルトB：調査区中央から北東方向に設定した。K22区に位置する試掘調査で確認された再堆積層（MⅡ層）の北東方向への広がりを確認するためのものである。MⅡ層はベルトA同様、ほぼ単層で北東方向に厚く変化する。最大で52cmの層厚であった。MⅠ層はベルトAに比較し明瞭ではなかった。Ⅶ′層は南西端の平坦部にのみ認められた。

ベルトC：調査区中央平坦面を東西方向に観察するよう設定した。全面にわたりⅦ′層、Ⅴ′層が確認された。Ⅴ層相当の堆積はベルトAに比し薄く、２m間隔の平均層厚は33cmであった。層位の上下端は凸凹しており極めて不均一な堆積となっている。

ベルトD：調査区中央から遺物が多く出土する南東方向へ設定した。Rライン付近にⅤ′層、Sライン以南はほぼ全域にMⅠ、Ⅱ層を確認した。単層である。両層は斜面下に向かうに従いやや厚く変化するが、北盛土より極端ではなく、S21区で26cm、最大厚とみられるT20区でも56cmとなっている。他のトレンチと同様に、Ⅴ′層の存在しない斜面部ではⅥ層が明瞭に認められる。

各層位について：各トレンチで認められた層位の状況から、再堆積層はⅤ層中～下部の堆積時において、段丘頂部のⅤ層下部～Ⅵ層の削平がなされ、その排出土がMⅡ層である。結果削平部分はⅦ層が露出した状態となり、Ⅶ層が土壌化した堆積をⅦ′層と想定した。追加して作成した東壁、西壁の状況と比較しても矛盾はない。

Ⅴ′層の分布範囲すなわち削平が想定される部分は図面からの求積で801.738㎡、これに対しMⅡ層とした盛土は北盛土353.547㎡、南盛土146.389㎡、合わせて499.936㎡である。MⅡ層の土量は平均層厚から北盛土102.18㎥、南盛土24.89㎥で合わせて127.07㎥となる。削平された層厚は調査結果からはわからないが、仮にⅤ下層の層厚平均10cm、Ⅵ層を５cmと想定すると、土量は約120㎥でほぼ整合する。想定したⅤ下層、Ⅵ層の層厚は無理のない数値といえる。

盛土形成後のⅤ層上面、および盛土形成前のⅦ層上面での測量結果を図Ⅴ－８に示した。形成後には北東方向、南東方向に平坦面が増加していることが明らかである。

b）北盛土遺構

北盛土遺構　（図Ⅴ－９～19、表Ⅴ－６、図版22～24・28～31）

下位検出遺構（H-５・６・９、P-３・10・16、S-17・18）

位　　置　R・S　22・23区　　**面　　積**　353.547㎡（描画ソフトの求積による）

確認・調査　前項で述べた過程により、北側斜面（H～Mライン間）で検出されたMⅠ・Ⅱ層について、北盛土遺構と呼称した。MⅠ層は土性の上ではⅤ層と区別ができないため、遺物が多いⅤ層をMⅠ層とした。MⅠ層として取り上げを行ったグリッドは図Ⅴ－２で示した。

MⅡ層は南北方向では概ねM～Iラインの約20m、東西方向では調査区全面に及んでいる。上記のベルトの観察による平均層厚は28.9cmで、土量は102.18㎥となる。

MⅠ層の調査にあたっては、土器、石器を出土位置に残し、礫石器を含む礫・礫片は、概ね拳より大きなものをの残しながら調査を行った。これらはMⅠ層出土として写真により記録した後、グリッドごとに取り上げている。MⅠ層の調査終了後、MⅡ層の調査を行った。MⅡ層は比較的確認できたので、掘り下げて露出させた。大礫が多かったので、礫石器を含む礫・礫片については概ね拳二つ以上の大きさのものを残すことにした。MⅡ層を露出させた時点で出土地点の記録を行った。またMⅠ層出土遺物のうち、重要とみられるものの位置も記録した。埋設土器、大きな礫石器、礫・礫片については実測したが、土器片、石器については地点のみにとどめた。記録した遺物は番号を付し、出土状況をデジタルカメラで撮影した。

出土位置の記録が終わった後グリッドごとに掘り下げを行った。遺物は大礫や埋設土器を除きグ

リッド上げとした。MⅡ層は小グリッドを用いて取り上げた。また堆積が厚い部分については、便宜的に層位を上中下に区分して取り上げたところもある。メインセクションで用いた土層の細別については、北側ベルトA、B付近で、判断できる限りMⅡa～cに区分して取り上げを行った。

遺物出土状況　出土した遺物は、M層全体で土器6,124点、石器等11,546点で、礫・礫片は最も多く出土しており点数は49,226点、総重量は約5tである。遺物の出土状況が図Ⅴ－9～13である。付した番号は取上げ番号であるが、MⅠ層出土のもののみ□で縁取りした。一部範囲外にもMⅡ層とした遺物があるが、これらはMⅠ層分布域の中で比較的下位で出土したもので、MⅡ層と同時期と判断したものである。全ての遺物に加えて、土器、剝片石器・石斧類、礫・礫石器、石皿の各種遺物毎の平面分布、東西、南北方向のエレベーションを図Ⅴ－9～19に示した。それぞれ傾向を説明する。

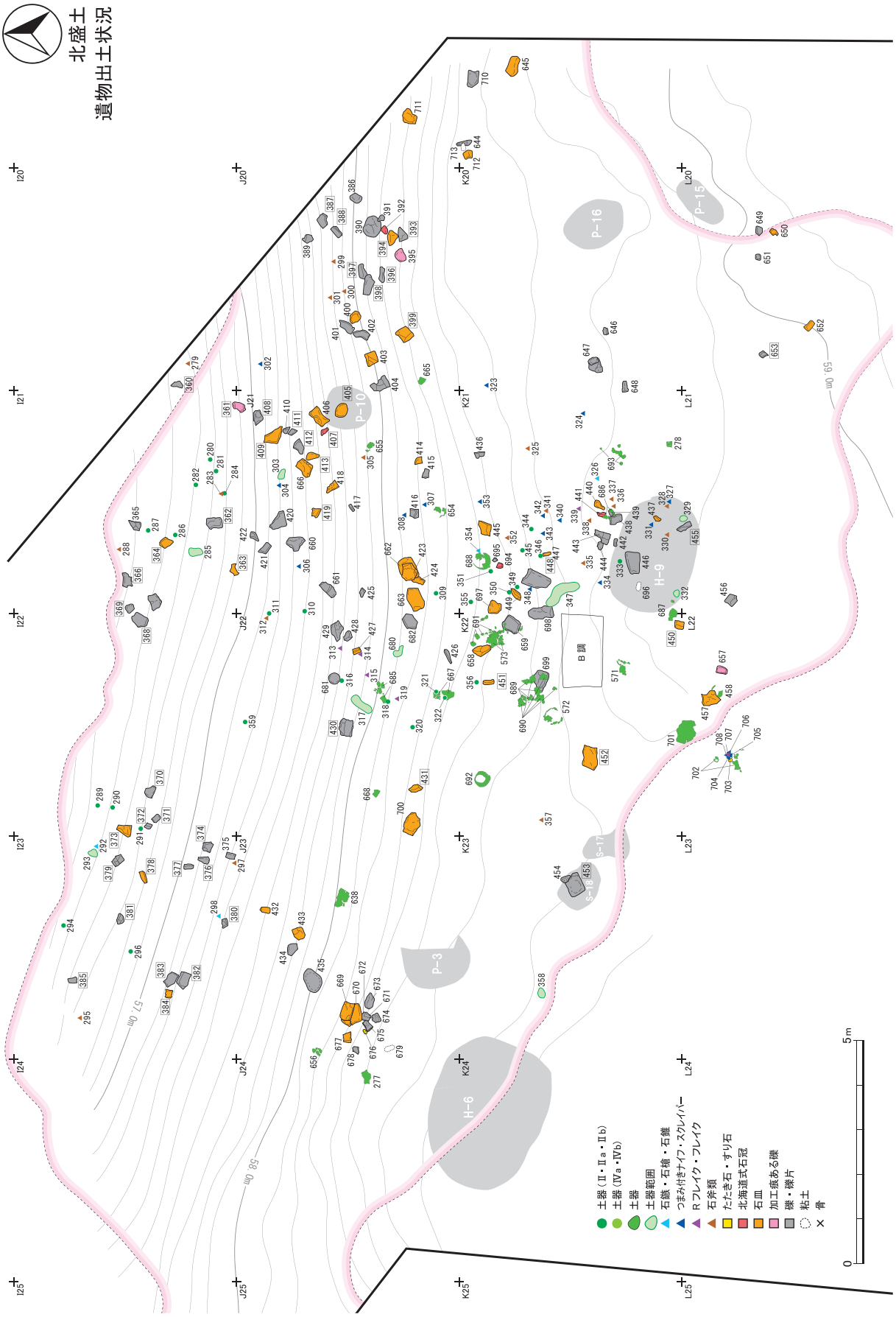
ⅰ）土器（図Ⅴ－10・14・17）

土器は比較的限られた範囲から多く出土している。総点数6,124点のうち、縄文前期前半が6,078点で最も多く、中でもⅡ群a2S類は6,059点を占める。他には後期後葉までのものが出土しているが、いずれも10点以下のわずかな出土にとどまる。一方、南盛土出土土器の総点数は405点で、1㎡あたりの出土点数を比較すると17.31（北）：2.76（南）でかなりの差異がある。

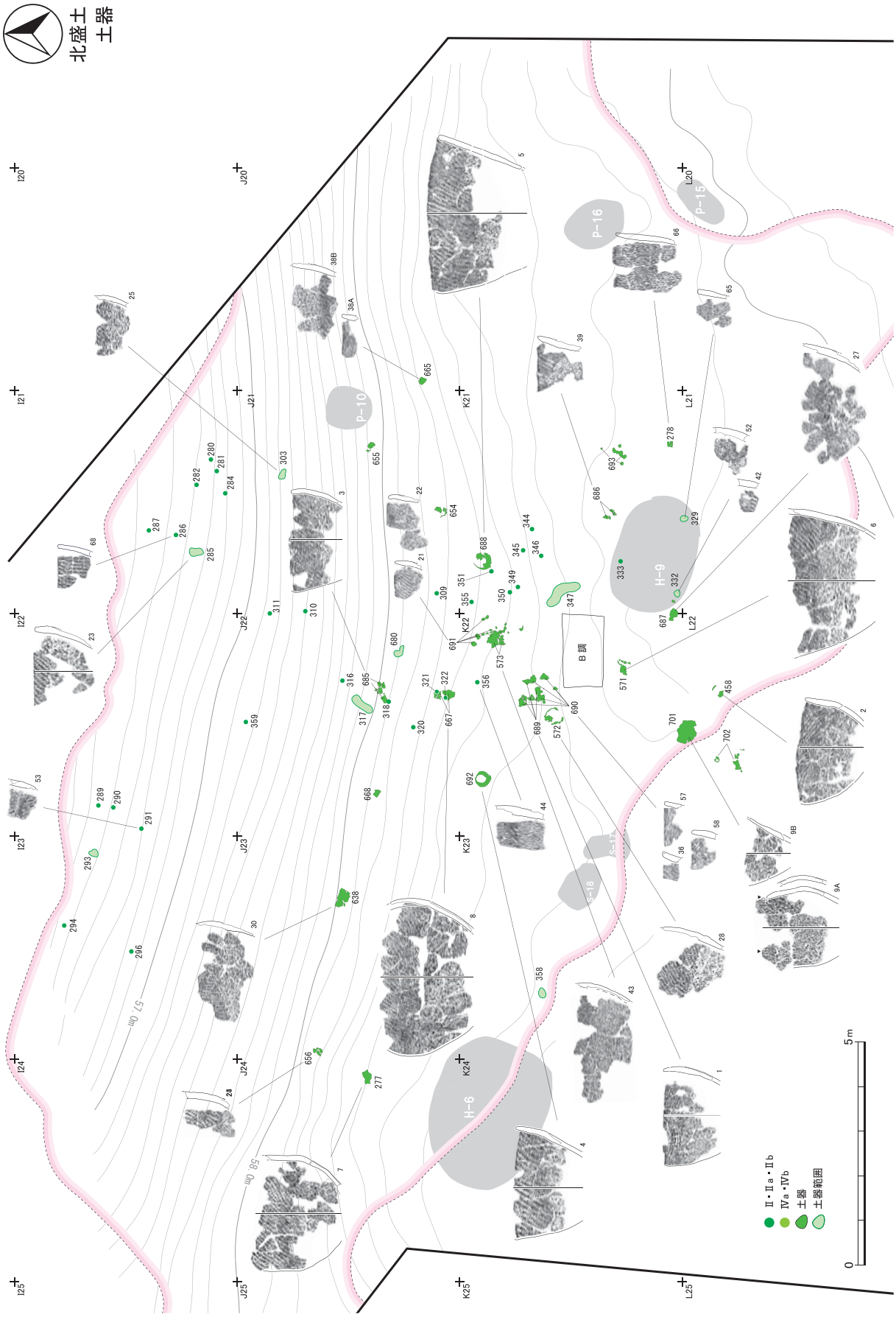
土器片の集中はまとまりごとに番号を付した。全てⅡ群a2S類土器である。中にはほぼ原形を保つものも含まれている。口縁部を地に伏せた状態の土器（いわば倒立埋設土器）が、2か所（458、692）、つぶれているがおそらく伏せた状態とみられるものが2か所（572、688）、横倒しの状態でつぶれているもの2か所（571、638）となっている。いずれも底部を欠く。周囲で土器胎土様の灰白色粘土を伴っているものが6か所ある（458、571、638、680、687、693）。うち458は土器に接して環状を呈し、687は半円状を呈するもの、638は土器本体の内側に沿って認められた。他に粘土単独の出土も5か所で確認されている。H-5・6の覆土、K19A・21B、J23B区のMⅡ層中であり、北盛土のみの出土である。この灰白色の粘土と土器のうち、土器に伴い出土するNo.458、687について胎土分析を行い、土器、粘土はともに蛇紋石を含むものであることがわかった（Ⅵ章3節）。土器片集中は下表（表Ⅴ－1）にまとめた。

表Ⅴ－1　北盛土土器片集中一覧

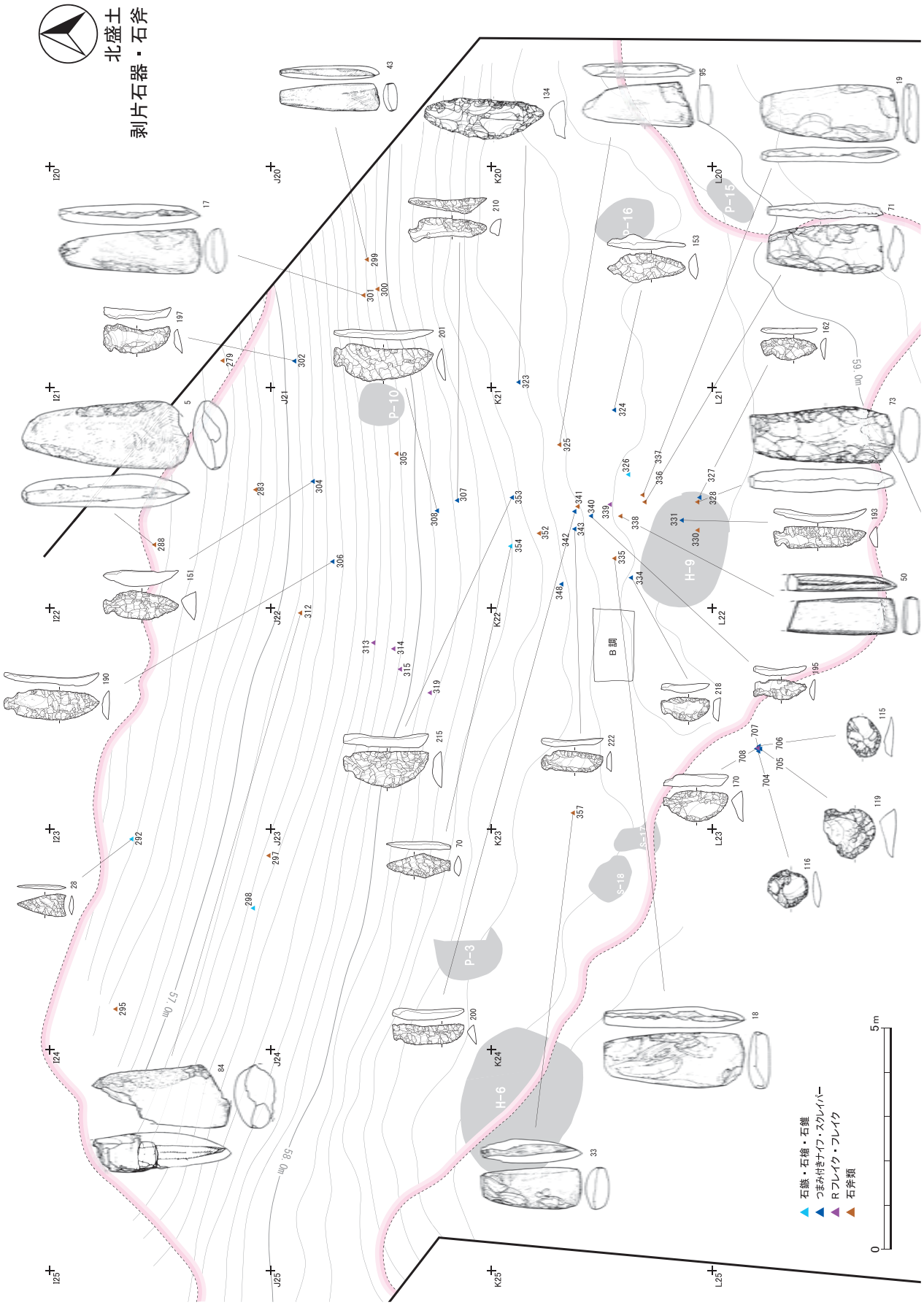
取上番号	盛土遺構	グリッド	検出層位	土器分類	集中状況	土器の諸特徴	地文・文様	図
277	北盛土	J24C	MⅡb下	Ⅱa-2S	大破片	胴部のみ	LR	図Ⅴ-48-7
278	北盛土	K21C	MⅡb上	Ⅱa-2S	大破片	口縁部　縄文施文後ナデ調整	無文	図Ⅴ-51-66
458	北盛土	L22D	MⅡ中～下	Ⅱa-2S	倒立埋設	底部欠失完形　器形碗状　環状粘土近接出土 上位に石皿出土　胎土・粘土分析№1	合撚	図Ⅴ-47-2
571	北盛土	K22D	MⅡ	Ⅱa-2S	横倒?	胴部全周　灰白色粘土伴う	LR	図Ⅴ-48-6
572	北盛土	K22D	MⅡ中	Ⅱa-2S	倒立埋設？	胴部のみ	LR	図Ⅴ-49-28
573	北盛土	K23D	MⅡ	Ⅱa-2S	大破片	胴部のみ	LR後ナデ	図Ⅴ-50-43
638	北盛土	K23C・D	MⅡ	Ⅱa-2S	横倒?	胴部のみ	LLR？	図Ⅴ-49-30
654	北盛土	J21B	MⅡ	Ⅱa-2S	破片	破片のみ	LR	掲載なし
655	北盛土	J21C	MⅡ	Ⅱa-2S	破片	破片のみ	LR	掲載なし
656	北盛土	J23A	MⅡ中	Ⅱa-2S	破片	胴部下半 同一個体未接合の付着炭化物を年代測定 5,600　30yBP(IAAA-153256)	節大LR	図Ⅴ-49-24
665	北盛土	J20B	MⅡ中～下	Ⅱa-2S	大破片	破片のみ	LR後ナデ	図Ⅴ-50-38
667	北盛土	J22B・C	MⅡ中～下	Ⅱa-2S	大破片	胴部のみ	LLR	図Ⅴ-48-8
668	北盛土	J22B・C	MⅡ中～下	Ⅱa-2S	大破片	破片のみ		掲載なし
680	北盛土	J22C	MⅡb	Ⅱa-2S	破片	破片のみ　灰白色粘土を伴う		掲載なし
685	北盛土	J22C	MⅡb	Ⅱa-2S	大破片	破片のみ		掲載なし
686	北盛土	K21B	MⅡ中～下	Ⅱa-2S	破片	破片のみ	LR後ナデ	図Ⅴ-50-39
687	北盛土	K21B	MⅡ上	Ⅱa-2S	破片	破片のみ　灰白色粘土を伴う 胎土・粘土分析№2	LR後ナデ	図Ⅴ-49-27
688	北盛土	K21A	MⅡ中～下	Ⅱa-2S	倒立埋設？	底部欠失完形	粗いRLR	図Ⅴ-47-5
689	北盛土	K22D	MⅡ中	Ⅱa-2S	大破片	上半完形　石器等伴う	押引？・撚糸文	図Ⅴ-47-1
690	北盛土	K22D	MⅡ下	Ⅱa-2S	破片	破片のみ	LR後ナデ 撚糸文	図Ⅴ-50-36 図Ⅴ-51-57、58
691	北盛土	K21C	MⅡb	Ⅱa-2S	大破片	骨片を伴う	LR	図Ⅴ-49-21、22
692	北盛土	J22B	MⅡ下	Ⅱa-2S	倒立埋設	底部欠失完形　石製品伴う	粗いLR	図Ⅴ-47-4
693	北盛土	K21C	MⅡb	Ⅱa-2S	破片	破片のみ　灰白色粘土を伴う		掲載なし
701	北盛土	K22C	MⅡ中～下	Ⅱa-2S	大破片？	土器様炭化物の集中	形を成さず	図Ⅴ-48-9
702	北盛土	L22A	MⅡ中～下	Ⅱa-2S	大破片？	土器様炭化物の集中		掲載なし
724	削平部分	M22B	Ⅶ層直上	Ⅱa-2S	大破片	大破片	LR	図Ⅴ-50-31



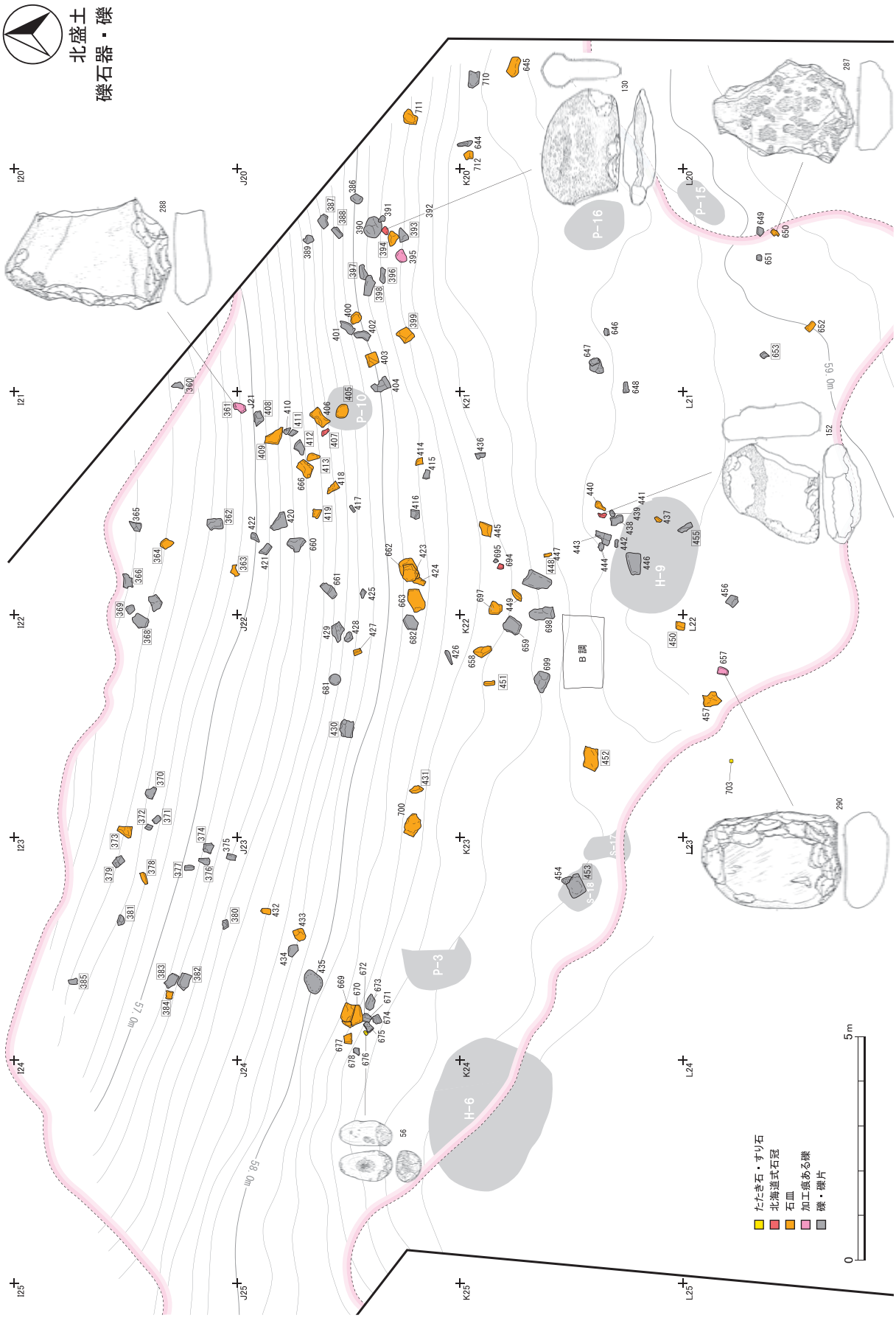
図Ⅴ－９　北盛土遺物出土状況図（１）



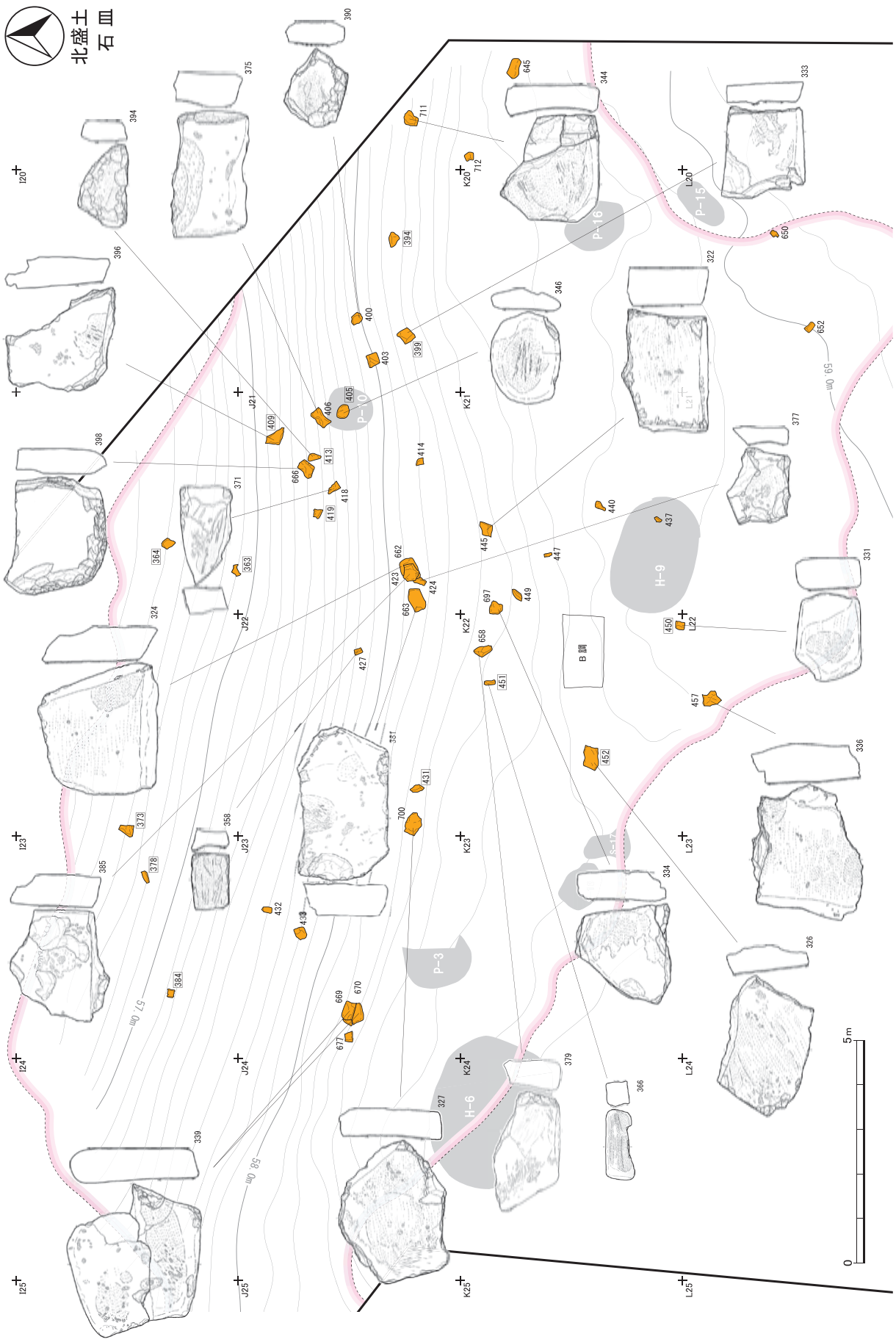
図Ⅴ－10　北盛土遺物出土状況図（2）



図Ⅴ－11　北盛土遺物出土状況図（３）

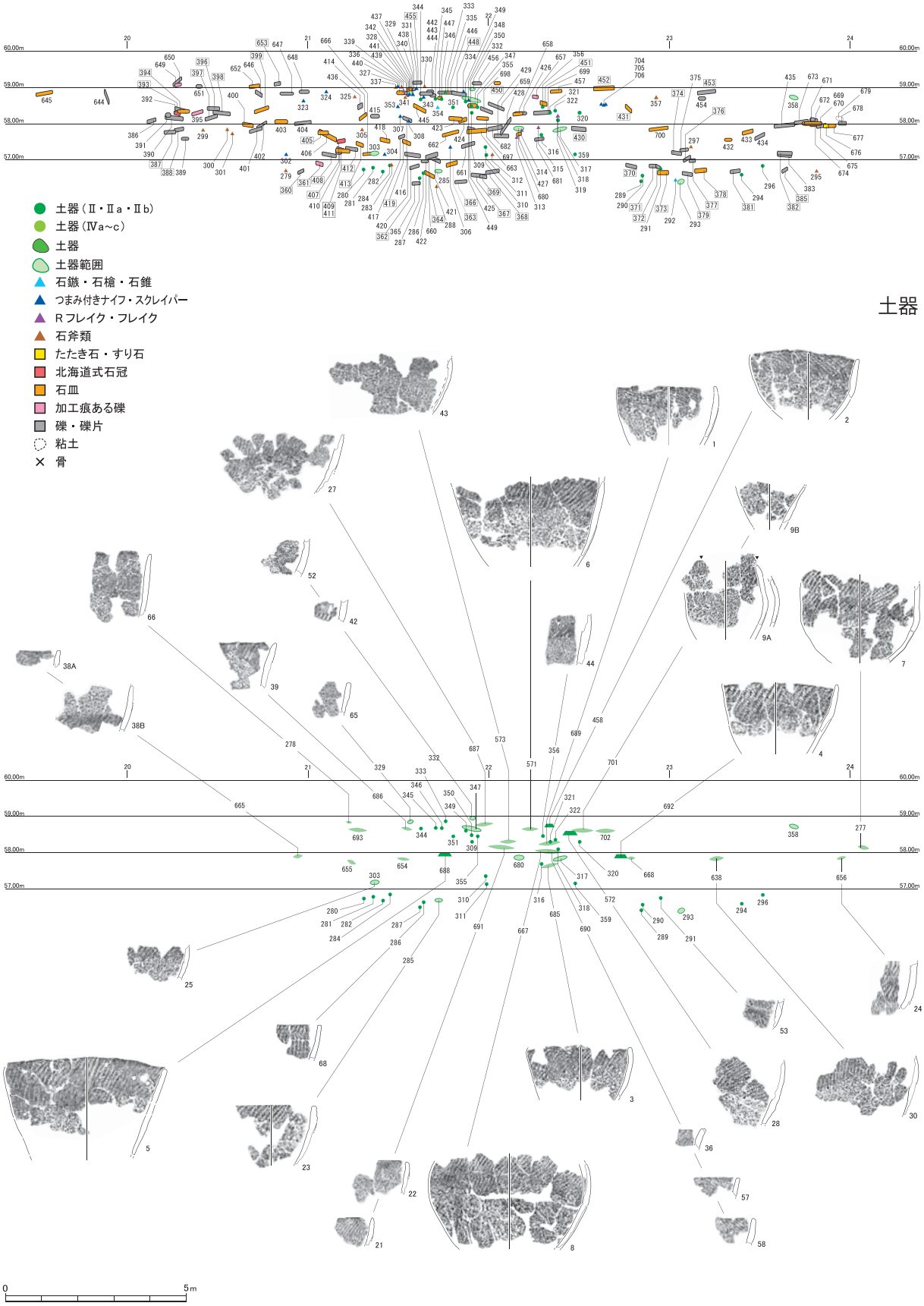


図Ⅴ－12　北盛土遺物出土状況図（4）

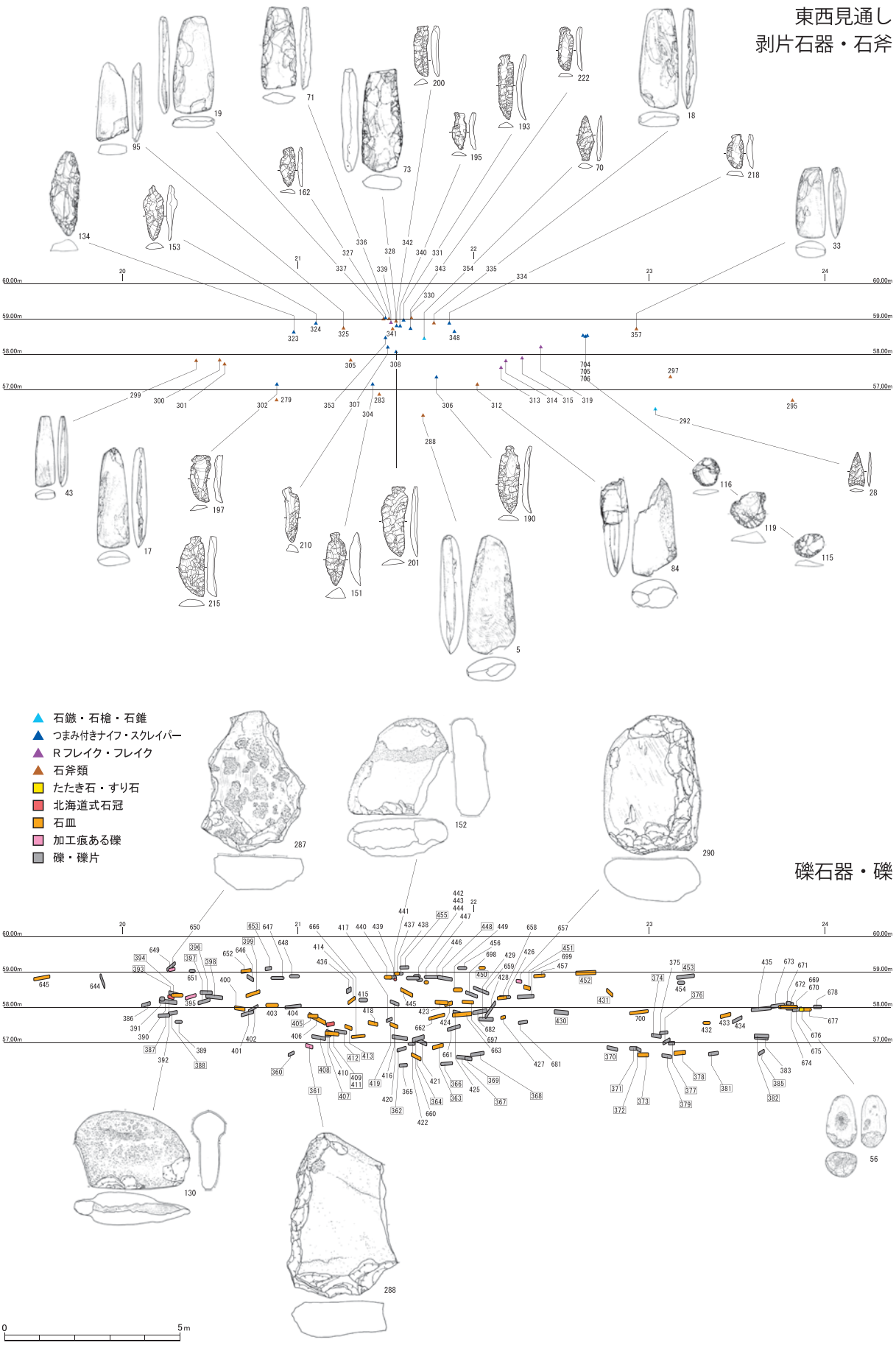


図Ⅴ－13　北盛土遺物出土状況図（５）

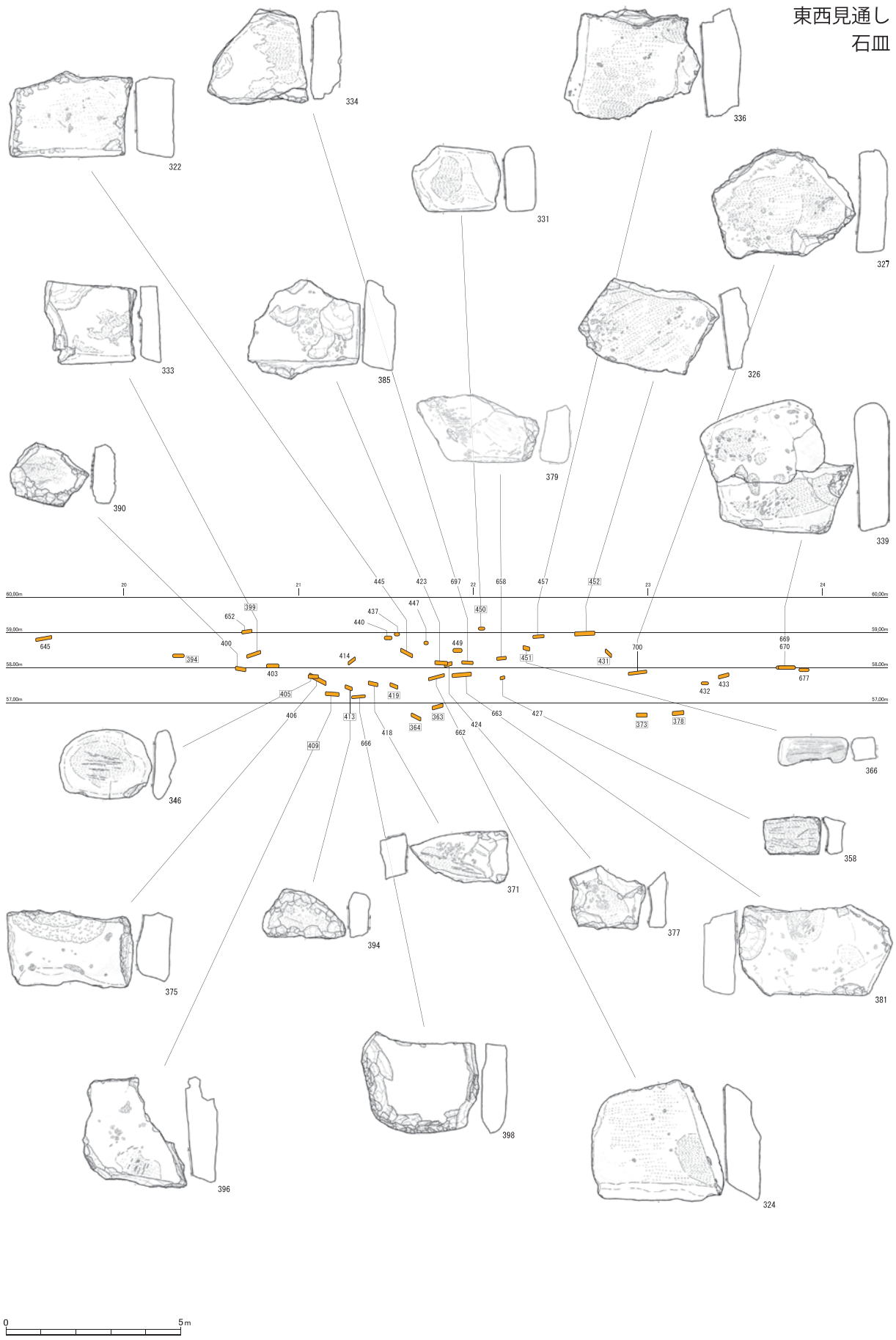
東西見通し
全体



図Ⅴ－14　北盛土東西エレベーション図（1）

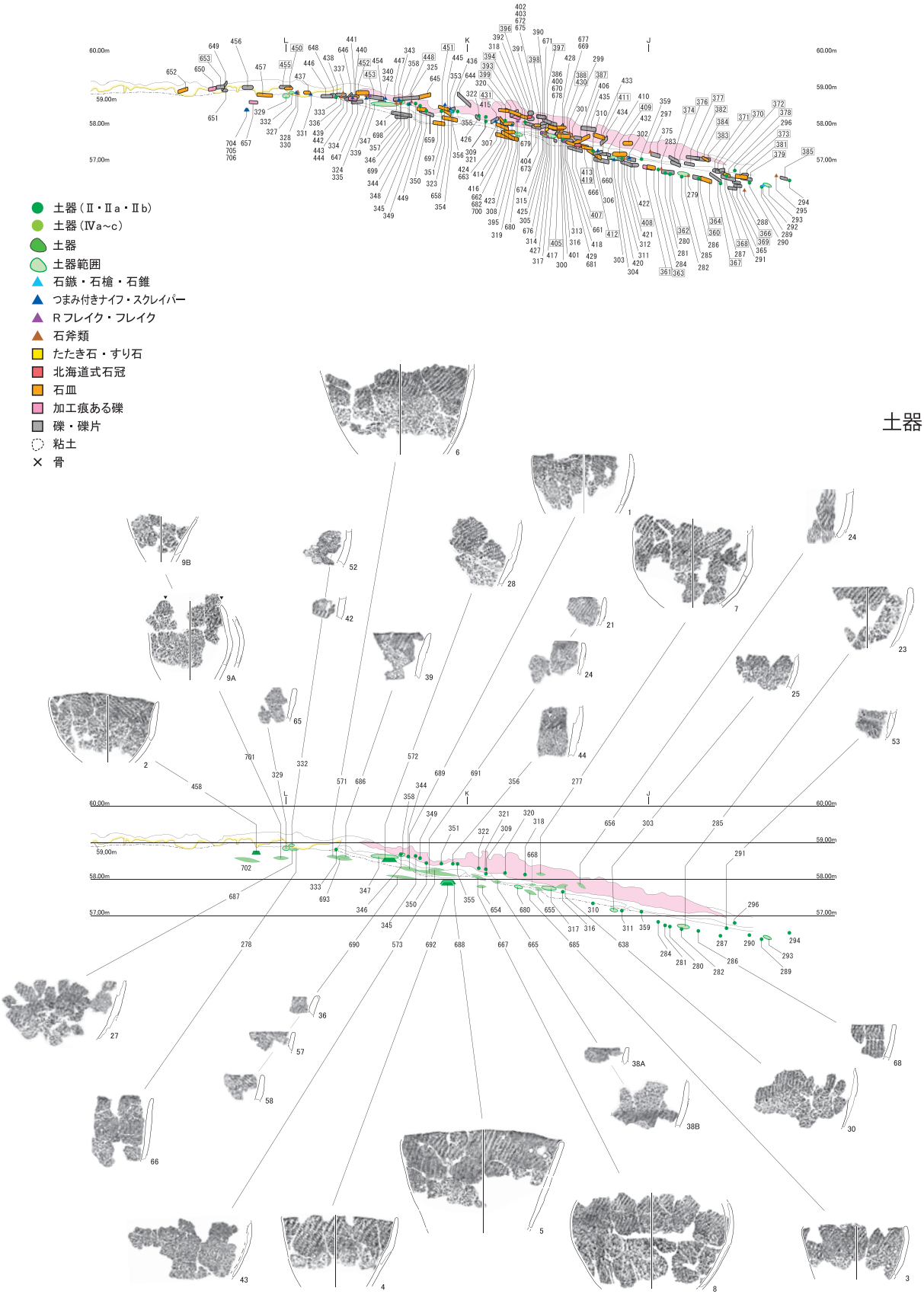


図Ⅴ－15　北盛土東西エレベーション図（２）

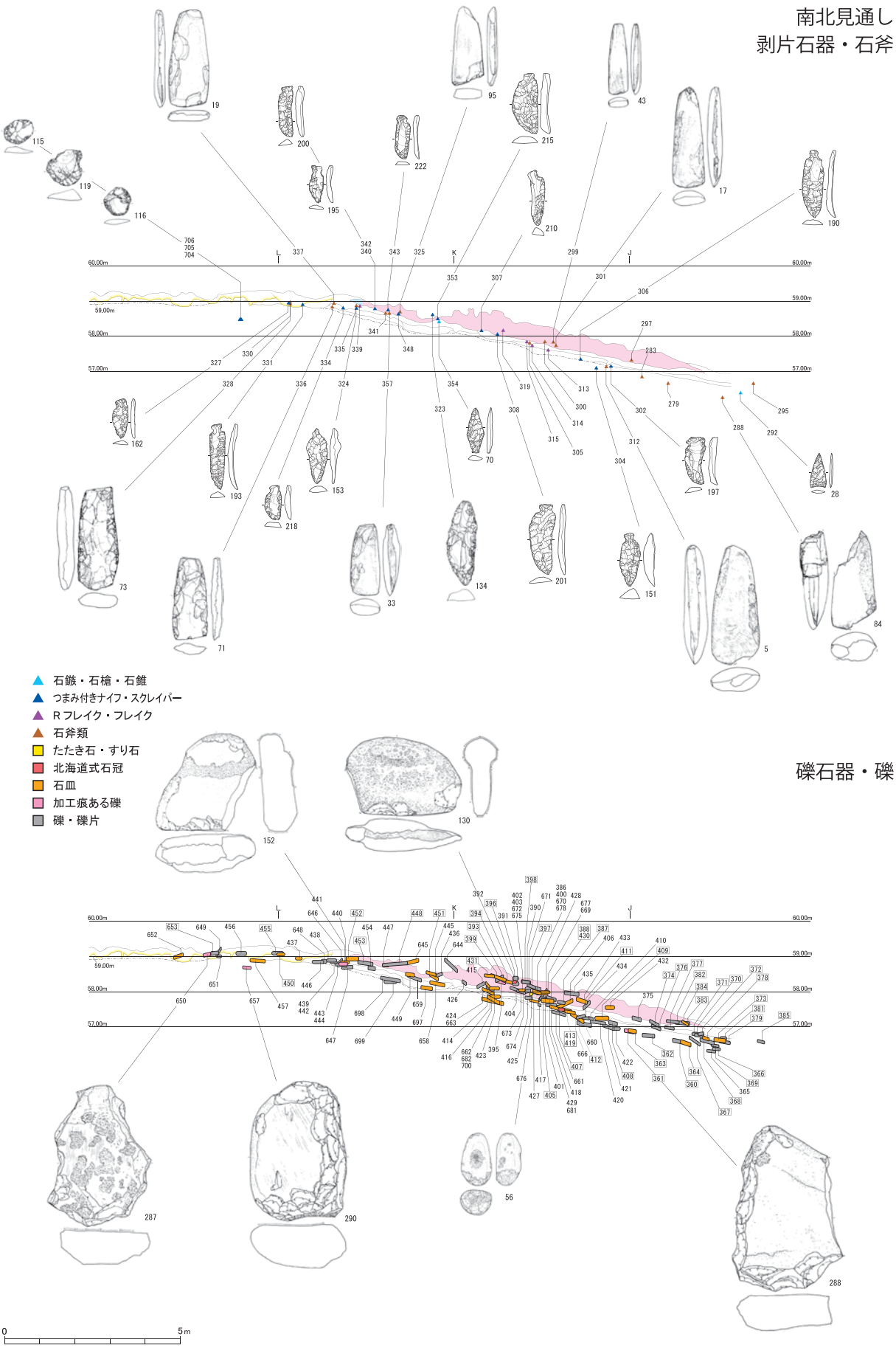


図Ⅴ－16　北盛土東西エレベーション図（３）

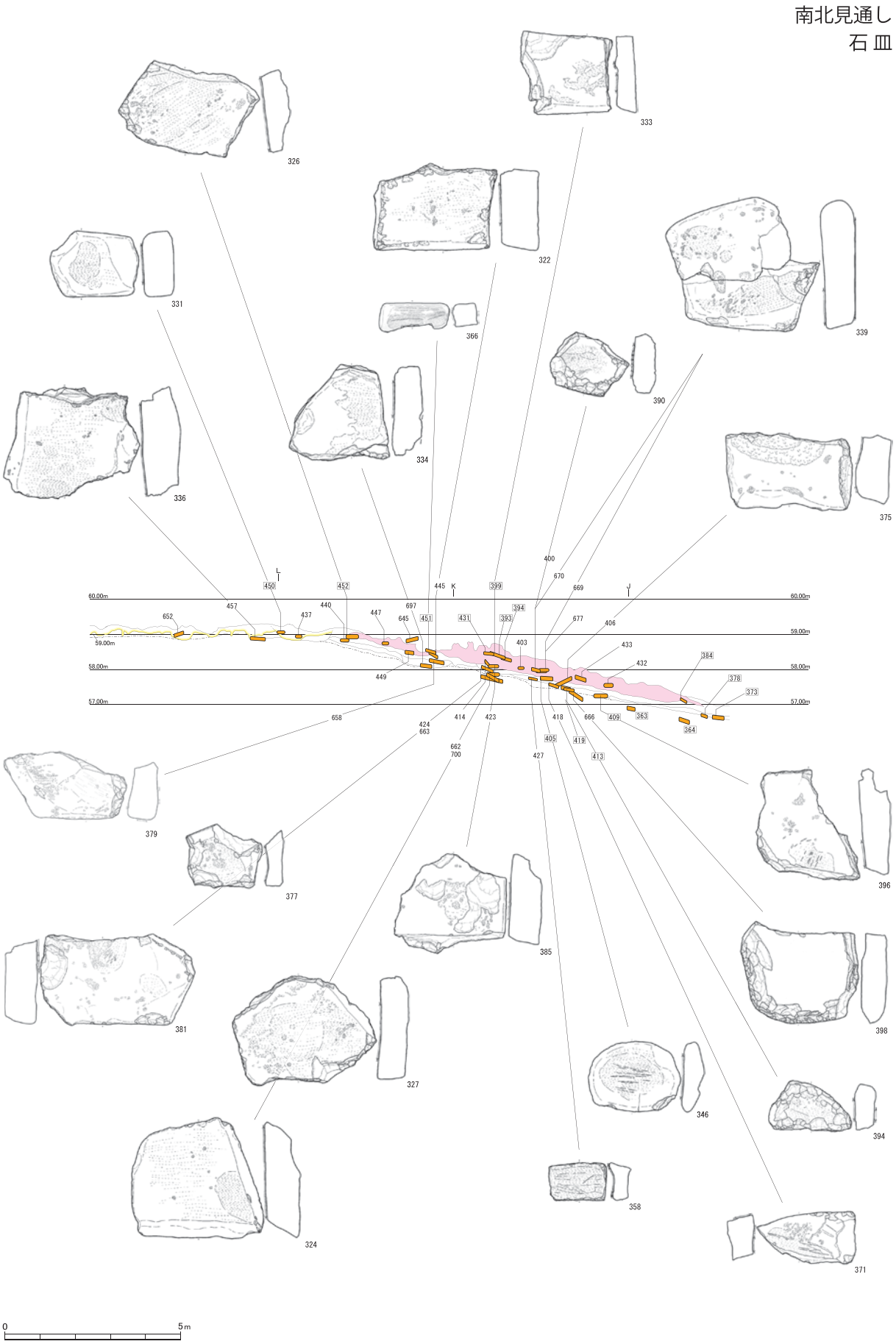
南北見通し
全体



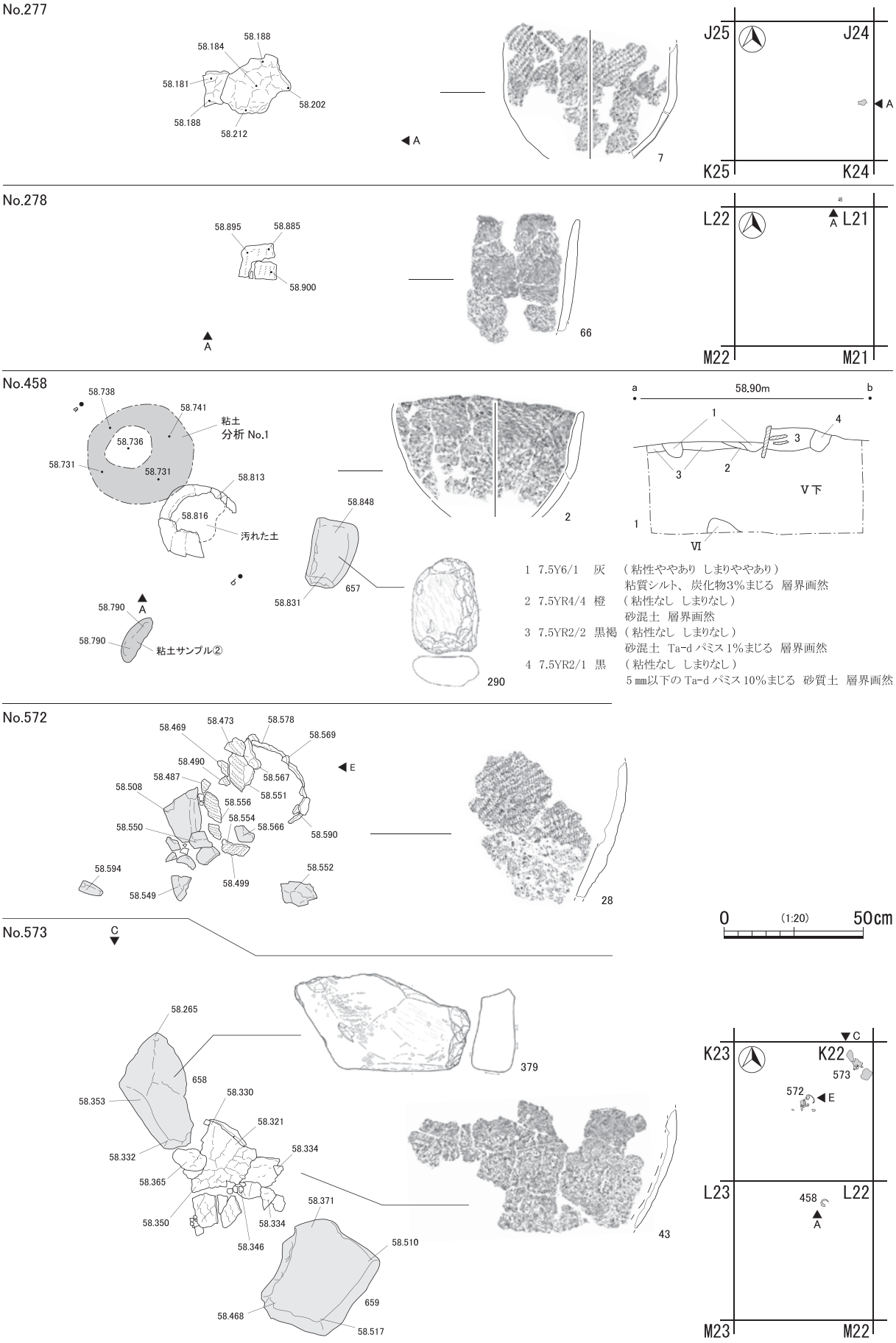
図Ⅴ－17　北盛土南北エレベーション図（１）



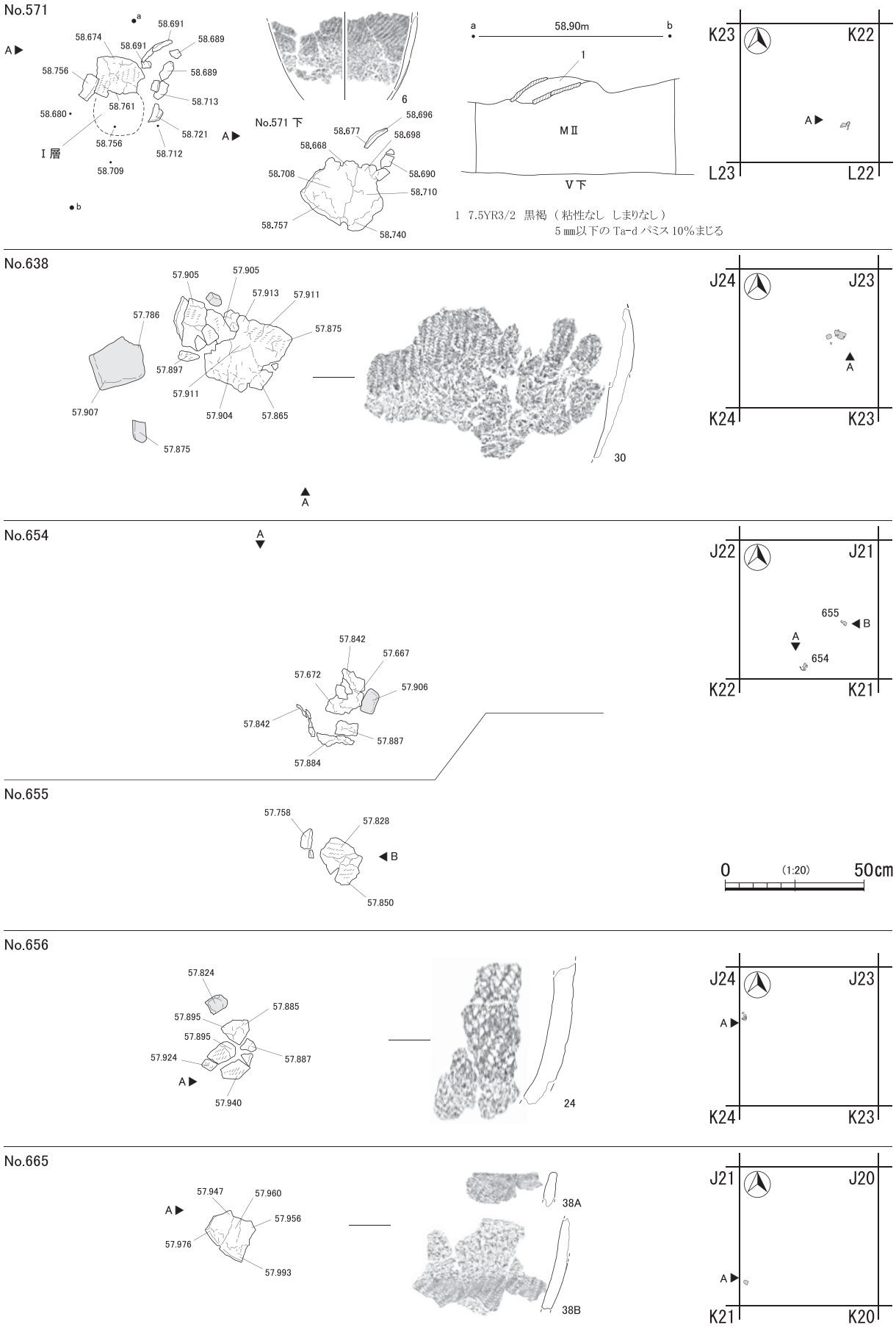
図Ⅴ－18　北盛土南北エレベーション図（2）



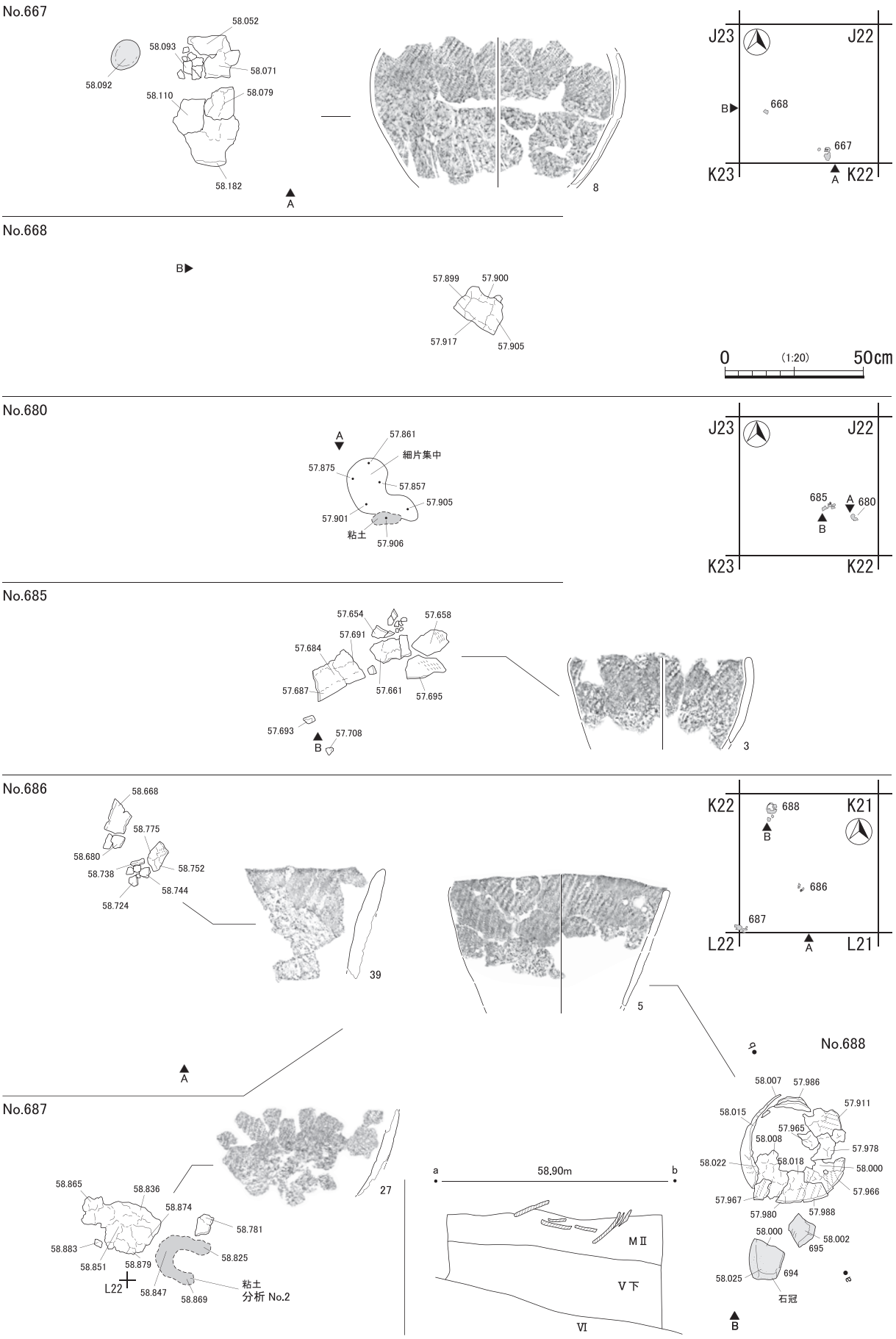
図Ⅴ－19　北盛土南北エレベーション図（３）



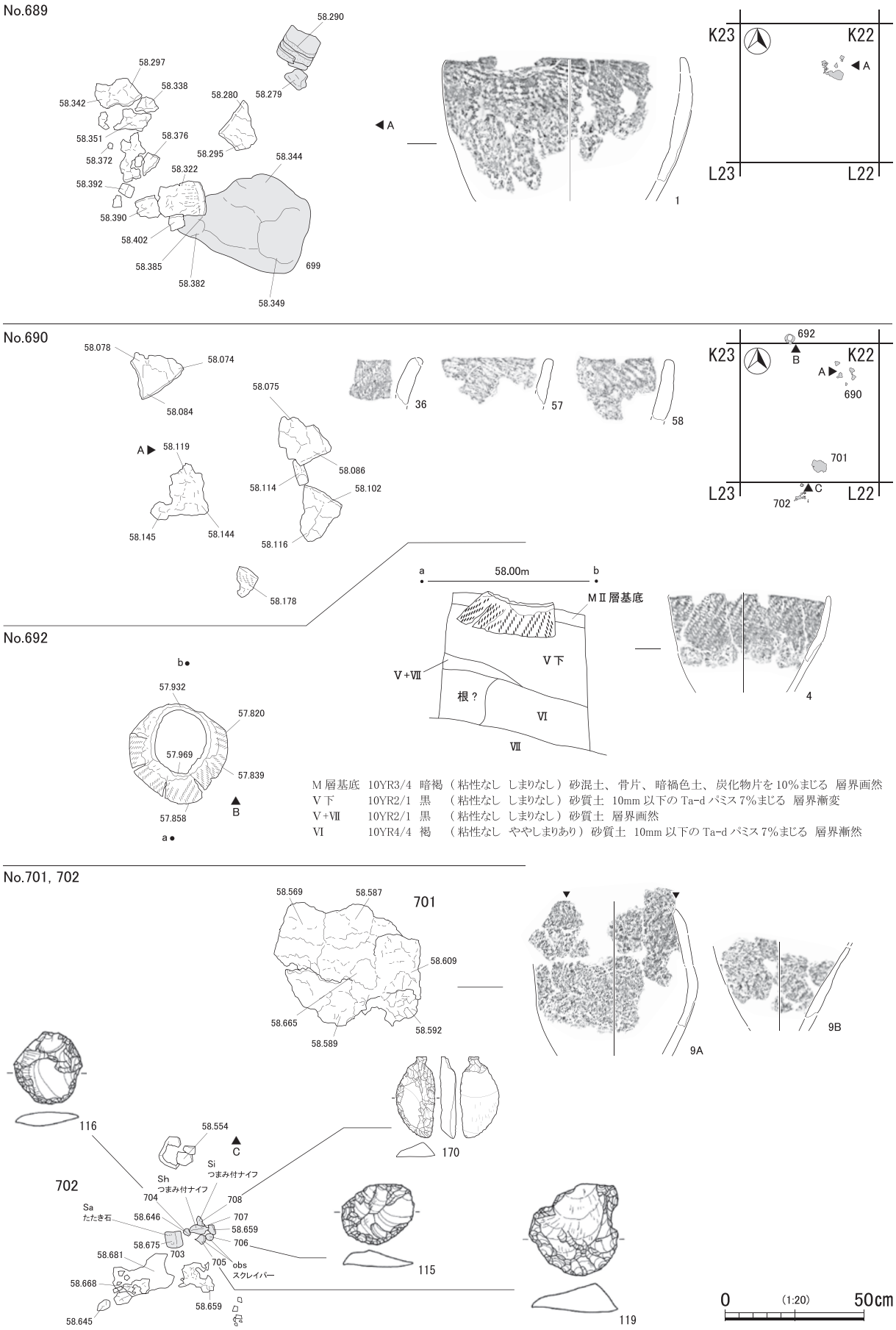
図Ⅴ－20　北盛土土器出土状況図（1）



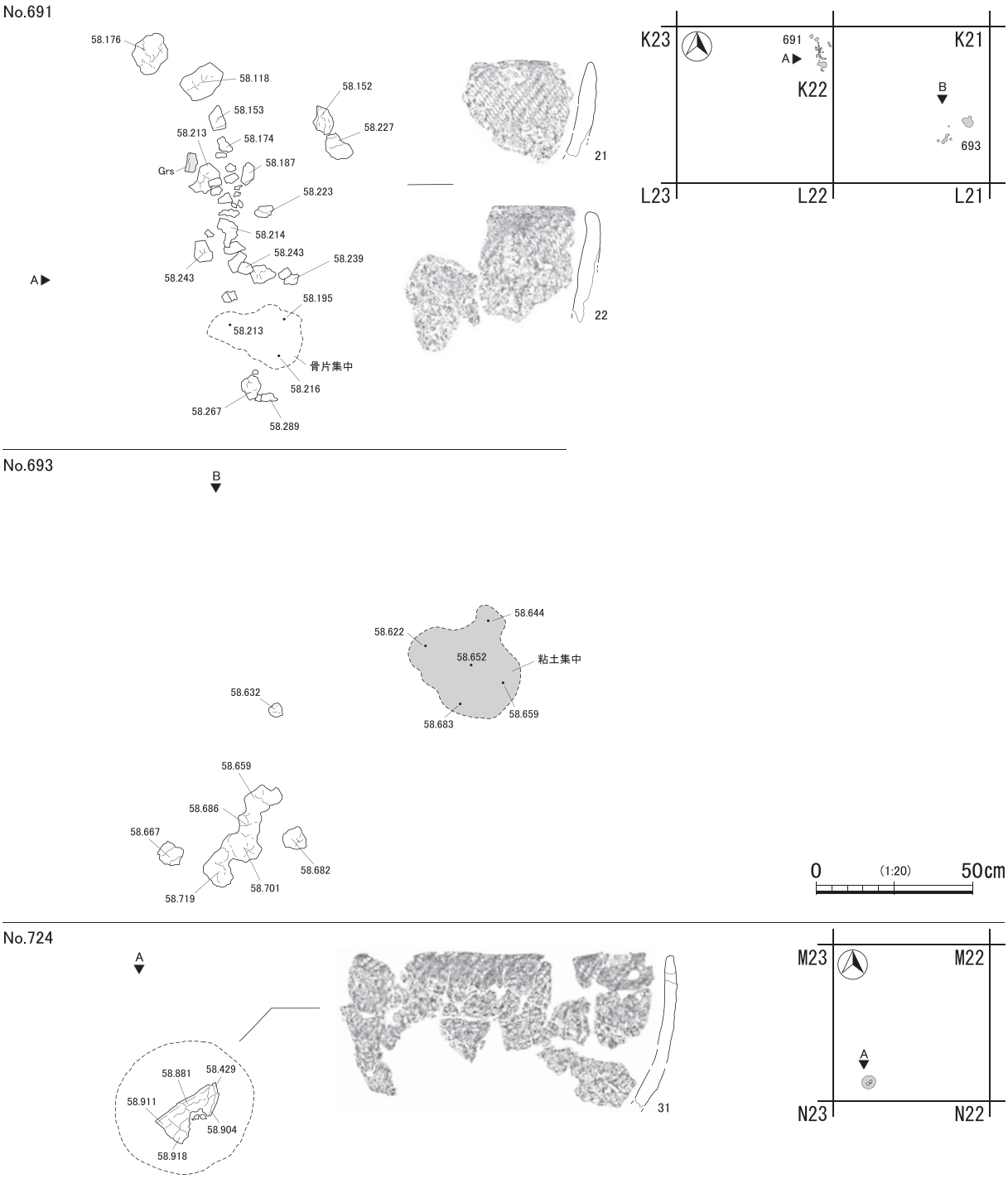
図Ⅴ－21　北盛土土器出土状況図（２）



図Ⅴ－22　北盛土土器出土状況図（3）



図Ⅴ－23　北盛土土器出土状況図（４）



図Ⅴ－24　北盛土土器出土状況図（5）

Ⅱ群ａ類以外の層位別の状況について述べる。北盛土ＭＩ層では、Ⅱ群ｂ類からⅣ群ｃ類までの土器が出土しているが、最も多いⅣ群ｂ類であっても点数は５点である。ＭⅡ層はⅡ群ｂ類５点（ＭⅡ上２点、中１点、下２点）。Ⅳ群ａ類５点（ＭⅡＡ ２点、中１点、下２点）、Ⅳ群ｂ類１点（ＭⅡ上）となっている。

ⅱ）剝片石器・石斧類（図Ｖ－11・15・18）

剥片石器・石斧類は総数で 8,223 点出土している。つまみ付きナイフが最も多く 230 点である。ついで石鏃は 161 点、石槍 52 点等となっている。つまみ付きナイフについては、J・K21 区付近に多く、両区で 87 点が出土する。取上番号 704～706 のスクレイパーはＭⅡ中～下の同一層でまとまって出土したものである。拇指大の剝片を用いたエンドスクレイパーで、形状がよく似る。石斧、石斧加工品、再加工品、擦切残片といった石斧関連の遺物は合計 387 点出土している。またフレイクの内 1,016 点は緑色片岩等の石斧の調整に伴うものである。

南北盛土における出土点数差は、面積差を考慮すると北が多くなるのが当然であり、ほぼこの傾向に沿った点数といえる。ただし、つまみ付きナイフは北 230：南 243 点で、１㎡当たりの点数は 0.65：1.66 で南にやや多い傾向がみられる。

ⅲ）礫石器・石皿（図Ｖ－12・13・15・18・19）

礫石器は合計で 2,819 点出土している。図Ｖ－12・13 は平面の出土状況である。図Ｖ－12 には礫石器と礫の出土位置を示しているが、礫石器を含む大礫には不明瞭であるが二つの集中域がある。盛土北西側、H-６を起点に北東方向に延びる直線状のものが一つ、もう一方は盛土の東半分にあり、L22・23 区あたりから K19 に至るまで半円を描くように広がる。特に後者の J20・21、K21・22 における集中は顕著で、土器の集中域と重なる傾向がある。

器種別点数の傾向は、たたき石が突出しており、1,351 点である。次いで砥石が 549 点である。砥石の内 487 点は破片とみられるものである。加工痕ある礫が 321 点等となっている。

南北盛土において、前述のように面積から北に多く出土するのが普通である。たたき石の南北比は北 1,351：南 943 点である。１㎡あたりでは＝3.82：6.44。加工痕のある礫の南北比は北 321：南 192 点。１㎡あたり 0.91：1.31 で南がやや多いが突出した傾向ではない。やや特徴があるのは北海道式石冠で北 185：南 218＝0.52：1.48 であり、南に破片がやや多く出土している。石錘は北 51、南 50 点のほぼ同数が出土しており、南盛土にやや多いといえる。

時　　期　ＭⅡ層については、若干の混入があるが埋設土器等の出土状況から縄文時代前期前半、Ⅱ群ａ２類土器期の堆積とみられる。ＭＩ層についてはＭⅡ層がその後の植生により土壌化したものを主とし、縄文時代後期後葉までの堆積と判断する。

年代測定結果は概ね前期前半の値を示す。ＭⅡ中層から出土した土器 No.656 の付着炭化物は 5,600±30yBP（IAAA-153256）、ＭⅡc 中層から出土したシカ四肢骨片が 5,200、5,270±30yBP（IAAA-153257 153258）ベルトＡのＭⅡ中層から出土したクルミ片は 5,140、5,215±30、25yBP（pal-10913、10914）ベルトＢのＭⅡ層下位から出土したクルミ片は 5,045、5,315±25yBP（pal-10915 10916）という結果であった。

c）南盛土遺構

南盛土遺構　（図Ｖ－25～29、表Ｖ－６、図版 25・26・28・30）　下位検出遺構（土坑墓 P-２）

位　　置　R・S22・23 区　　**面　　積**　146.389㎡（描画ソフトの求積による）

確認・調査　前項で述べた過程により、南側斜面（Q～W ライン間）で検出されたＭＩ・Ⅱ層について、南盛土遺構と呼称した。ＭＩ層は土性の上ではＶ層と区別ができないため、Ｖ層で遺物が多く

出土する部分をＭＩ層とした。ＭＩ層として取り上げを行ったグリッドは図Ⅴ－２で示した通りである。

ＭⅡ層は南北方向では約 30m、東西方向では約 13m の範囲である。土層断面の１m 間隔の測定による平均層厚は 17.0㎝で、土量は 24.89㎥となる。

ＭＩ層の調査にあたっては、土器、石器を出土位置に残し、礫石器を含む礫・礫片は、概ね拳より大きなものをの残しながら調査を行った。これらの出土遺物はＭＩ層出土として写真により記録したのちグリッドごとに取り上げている。ＭＩ層の調査終了後、ＭⅡ層の調査を行った。ＭⅡ層は比較的確認できたので、掘り下げて露出させた。ＭＩ層に同じ条件で遺物を残しながら調査したが、大礫が多かったので、礫石器を含む礫・礫片については概ね拳二つ以上の大きさのものを残すことにした。ＭⅡ層を露出させた時点で出土地点の記録を行った。またＭＩ層出土遺物のうち、重要とみられるものの位置も記録した。礫石器を含む礫・礫片については大まかに輪郭をとらえて出土状況を描いたが、土器片、石器については地点のみの記録にとどめている。記録した遺物は番号を付し、出土状況をデジタルカメラで撮影した。

記録を作成した後グリッドごとに掘り下げを行った。ＭⅡ層については、１グリッドを４分割した 2.5m の小グリッドを用いて取り上げた。また層位が厚い部分については、便宜的に上中下に区分して取り上げたところもある。

遺物出土状況　出土した遺物は、Ｍ層全てで土器 405 点、石器等 6,907 点、礫・礫片は 50,525 点が出土している。礫、礫片の総重量は約 4.5t である。ＭⅡ層範囲外にもＭⅡ層出土とした遺物があるが、これらはＭＩ層の比較的下位で出土しており、ＭⅡ層と同時期と判断したものである。全ての遺物に加えて、土器・剝片石器、石斧類、礫・礫石器、石皿の各種遺物毎の平面分布と南北方向のエレベーションを図Ⅴ－25～29 に示した。各遺物の傾向を説明する。

ⅰ）土器・剝片石器（図Ⅴ－26）

土器の出土総数 405 点の内訳は、Ⅱ群ａ２Ｓ類が 216 点で最も多く、Ⅲ群ａ類 114 点がこれに次ぐ。Ⅳ群土器はａ類が 26 点、ｃ類が 12 点出土している。さらに少数のものではⅤ群ｂ類が５点、Ⅰ群ｂ４類の土器が２点で、明らかな混入であるが、Ⅶ群もＭＩ層から１点が出土している。主体を占めるのは北盛土に同じくⅡ群ａ類で、総点数の 55％を占めている。

層位別の状況を示す。ＭＩ層でⅡａ２類以降の土器が多く、Ⅲ群ａ類は 114 点中 112 点が、Ⅳ群ａ類では 26 点中 20 点が出土する。ＭⅡ層ではⅡ群ａ２Ｓ類が 101 点と最も多く、他にⅣ群ｃ類が４点（ＭⅡ上）、Ⅴ群ｂ類が２点（ＭⅡ上）ある。

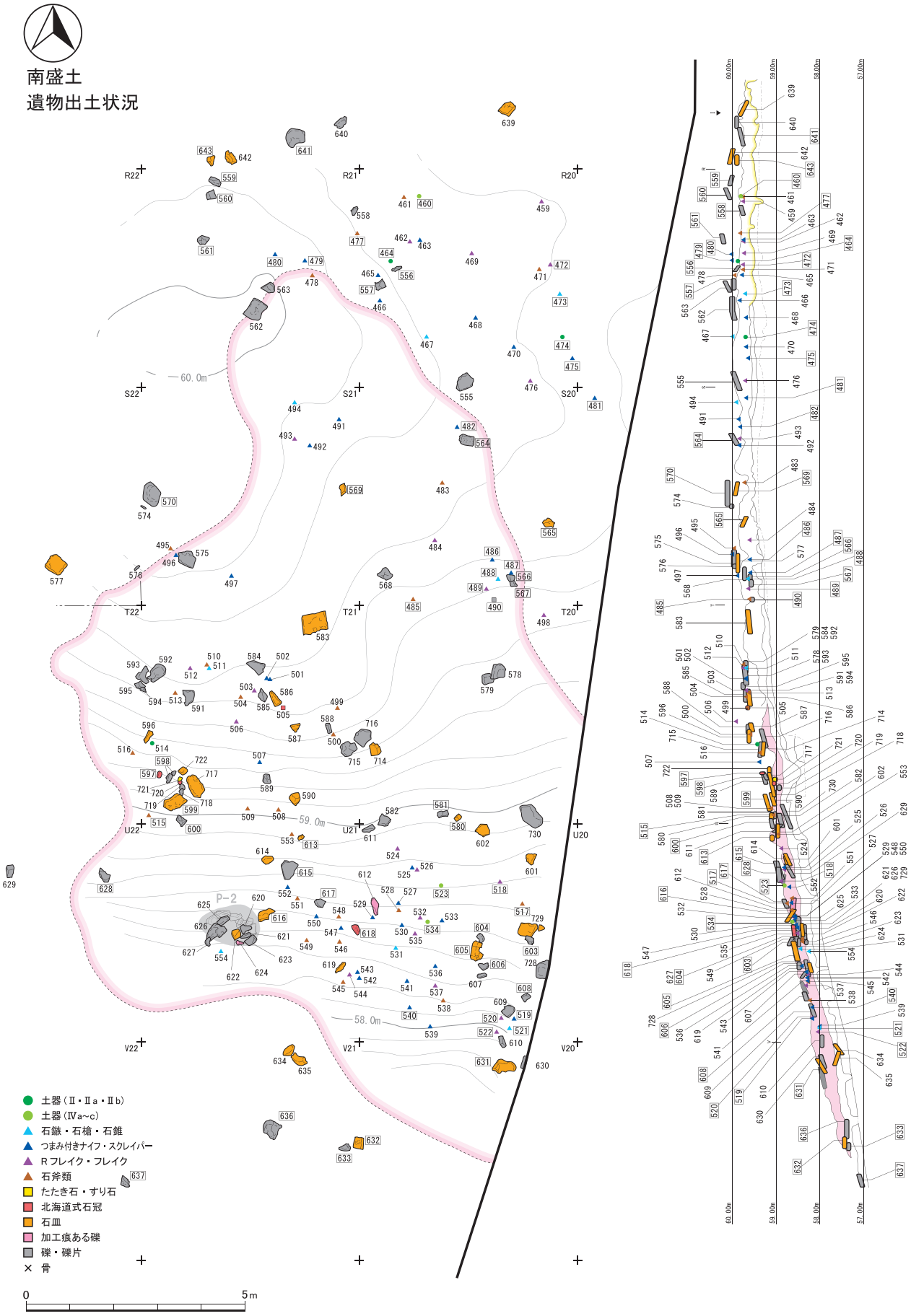
剥片石器は 4,194 点が出土した。内訳は石鏃が 117 点、石槍が 27 点、石錐 14 点、スクレイパー 72 点、つまみ付きナイフは 243 点、フレイクが 3,646 点となっている。出土器種と点数の大まかな比率は北盛土とほぼ同じであるが、北盛土にはない両面調整石器１点、楔形石器が２点出土している。

ⅱ）石斧類（図Ⅴ－27）

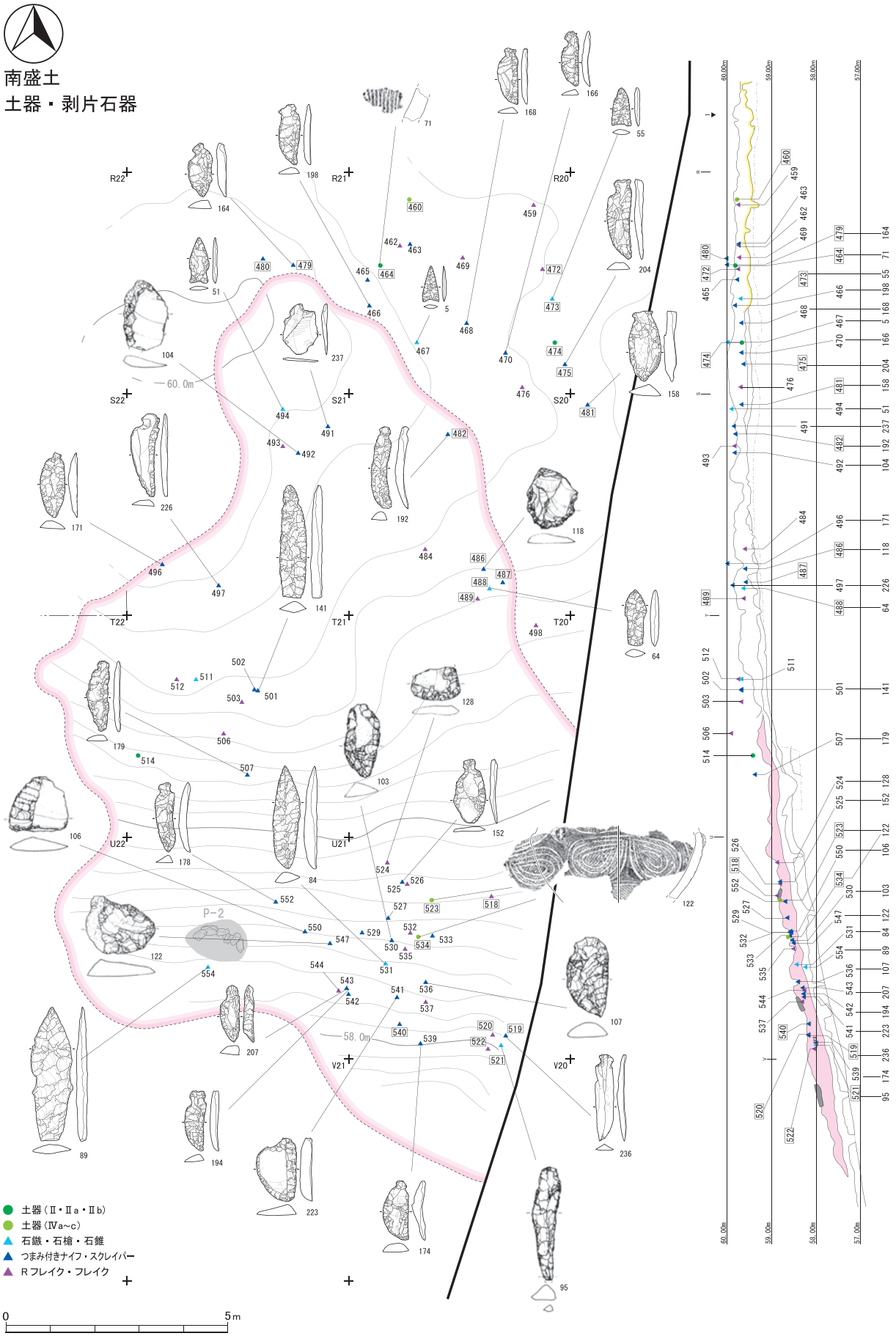
石斧、石斧加工品、再加工品、擦切残片等の石斧類は、291 点出土している。内訳は石斧 77 点、石斧片 42 点、石斧破片 33 点、石斧加工品 64 点、石斧再加工品 24 点、石斧原材 46 点、擦切残片５点となっている。また、フレイク 3,646 点のうち 546 点は緑色片岩等石斧製作に伴うとみられるフレイクである。

ⅲ）礫石器・石皿（図Ⅴ－28・29）

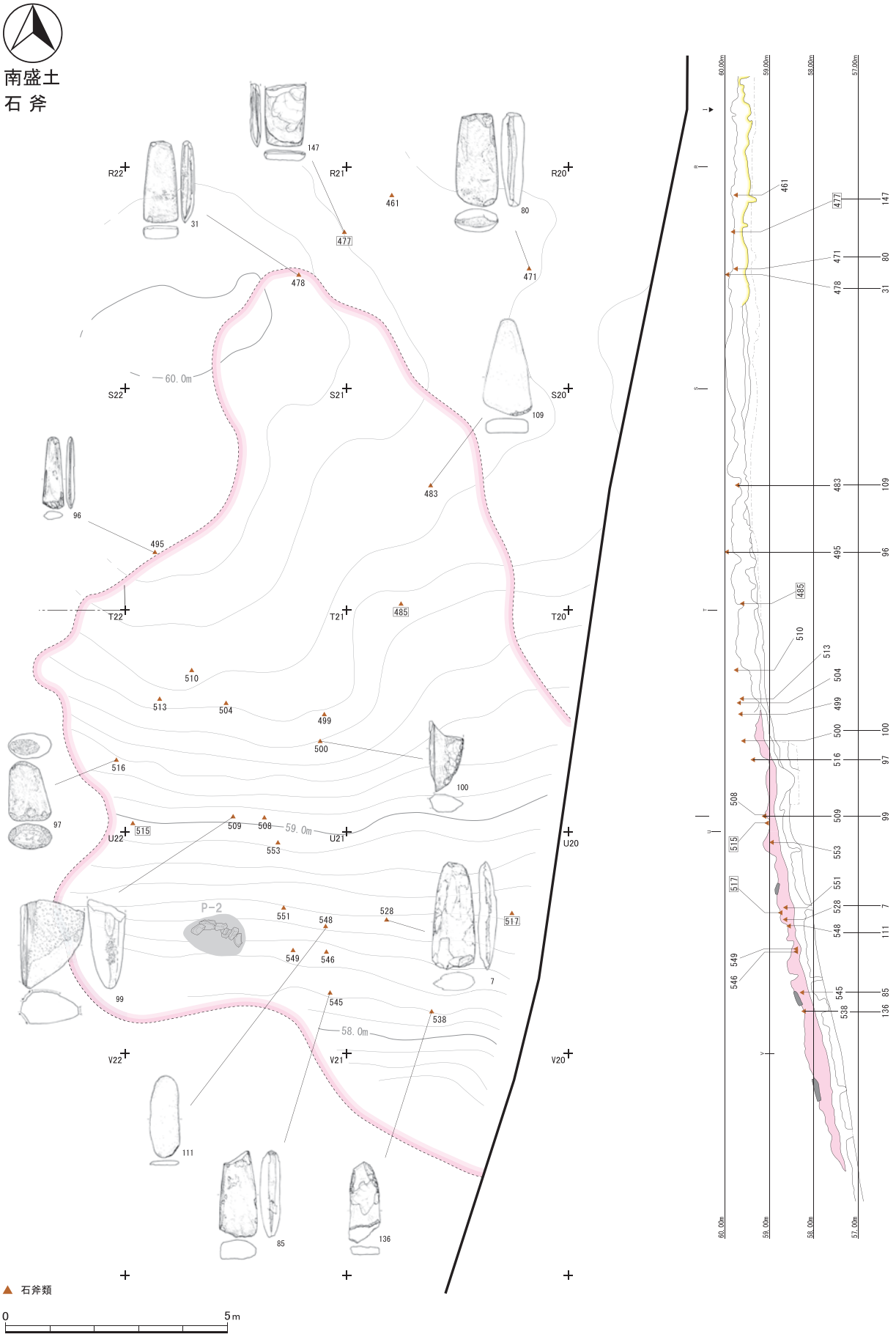
礫石器は 1,937 点出土している。多いものはたたき石が 944 点、砥石が 327 点、北海道式石冠が 218 点、加工痕ある礫が 192 点の順である。礫を含めた大きな礫石器は南盛土の南半部分にややまと



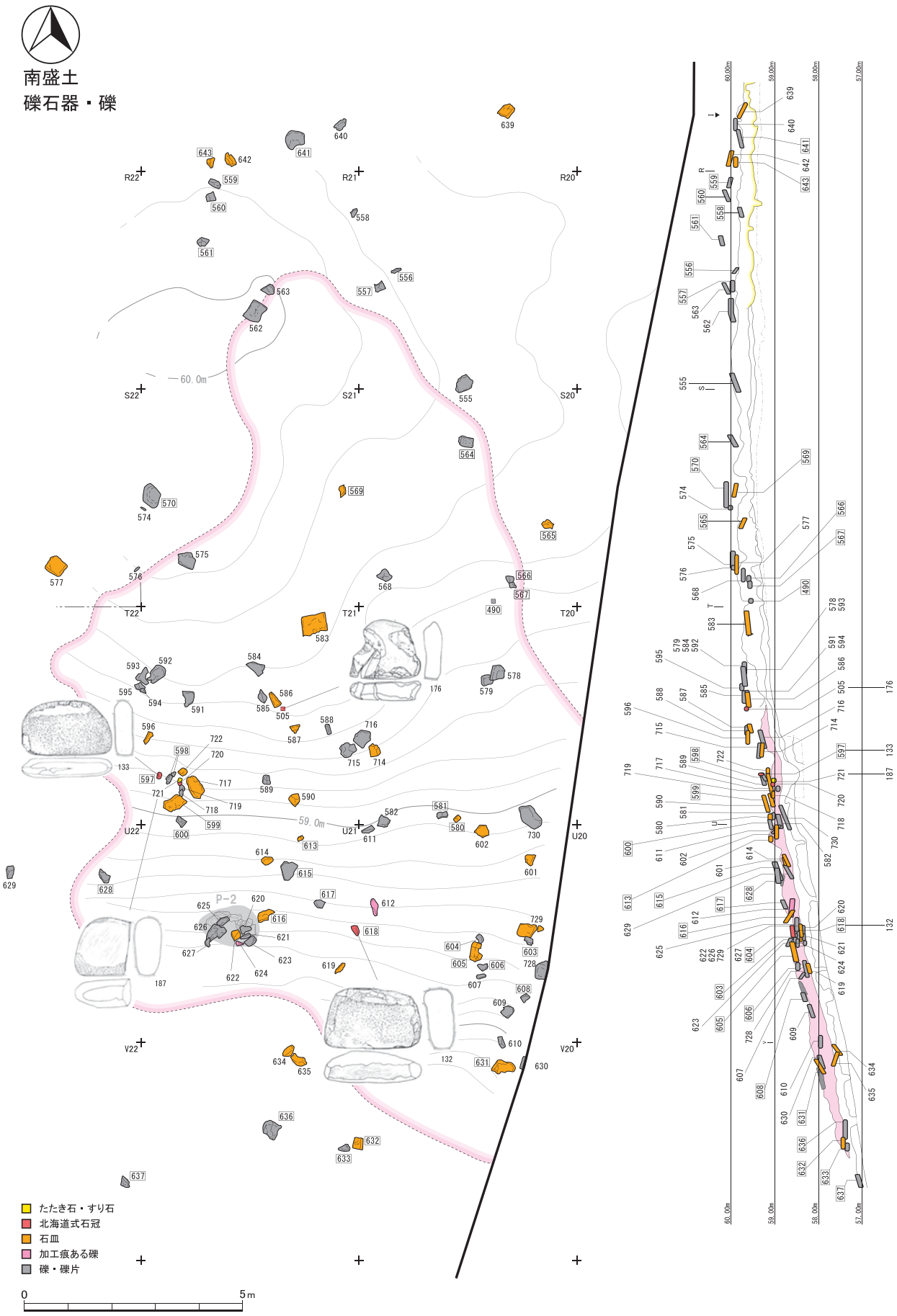
図Ⅴ－25　南盛土遺物出土状況図（１）



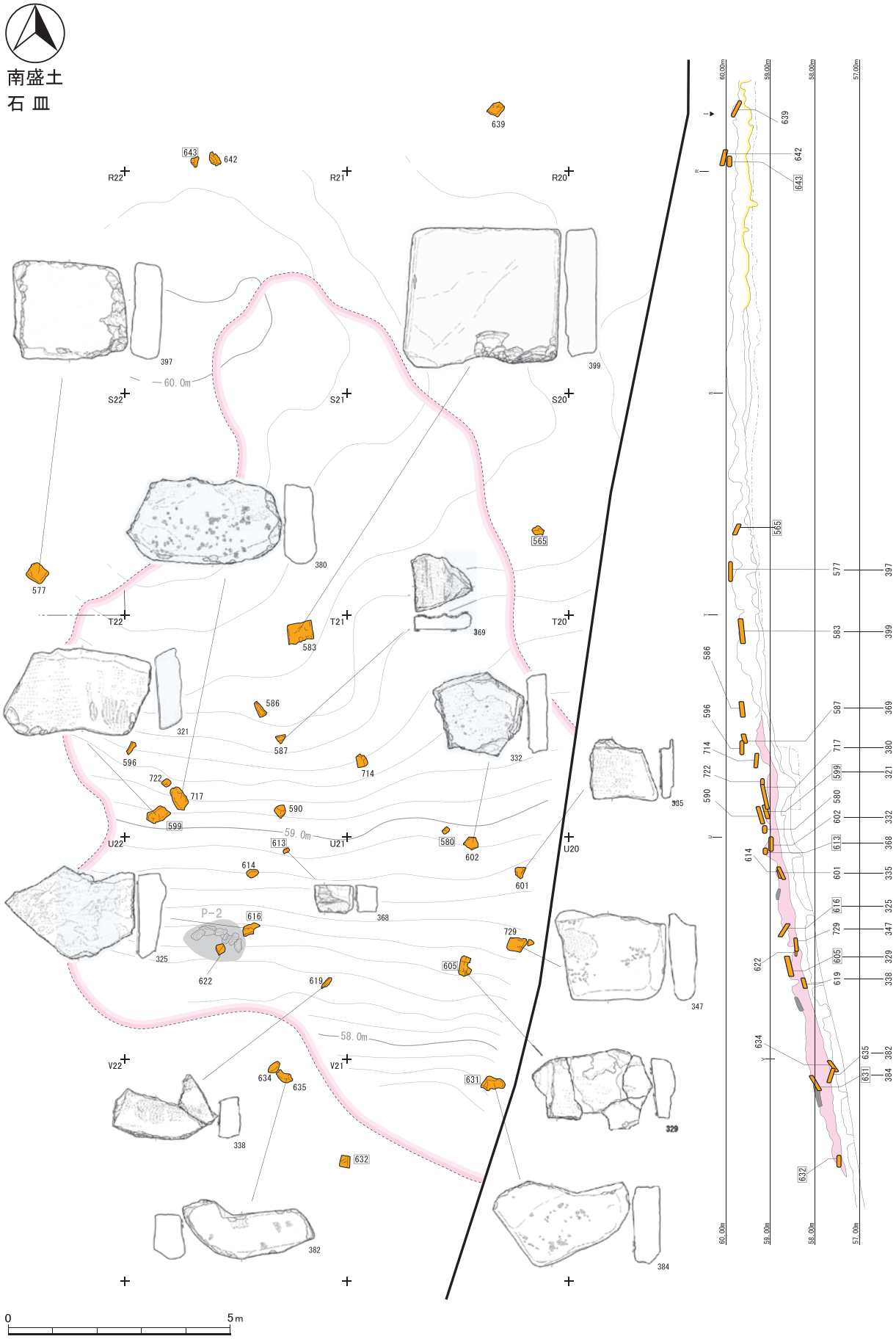
図Ⅴ－26　南盛土遺物出土状況図（2）



図Ⅴ－27　南盛土遺物出土状況図（３）



図Ⅴ－28　南盛土遺物出土状況図（4）



図Ⅴ－29　南盛土遺物出土状況図（５）

まっている。配石を伴う土坑墓であるP-２の上位にも、礫、石皿、礫石器が集中している。これらの遺物についても、配石を構成していた可能性もある。

北盛土の項でも記したが、北海道式石冠、石錘については南に多いといえる。

時　　期　MⅡ層においては、主として出土する遺物から、北盛土同様Ⅱ群ａ２類の時期とみられる。MⅠ層についてもその後の植生により縄文時代晩期中葉までに堆積したものと考えられるが、炭素年代の結果とも合わせ、Ⅲ群ａ類や、Ⅳ群さらにはⅥ群に相当する時期にMⅡ層上面に達するような改変が一部おこなわれた可能性がある。ただし出土点数が少ないことから大規模なものではなかったと推定される。

炭素年代の結果は、MⅡ中層の炭化物5,230±30yBP（IAAA-153255）MⅡ中、下層から出土したシカ四肢骨は、5,160、5,050±30yBP（IAAA-153259、153260）と前期前半でまとまるが、ベルトDのMⅡ層から出土したクルミ片の年代は大きく下り1,980、1,935±20yBP（pal-10919、10920）で続縄文時代の値となっている。

d）削平部分

削 平 部 分　（図Ⅴ－２、図版27）　範囲内検出遺構（H-７・８・10、P-４～９・11・13）

位　　置　R・S　22・23区　**面積**　146.389㎡（描画ソフトの求積による）

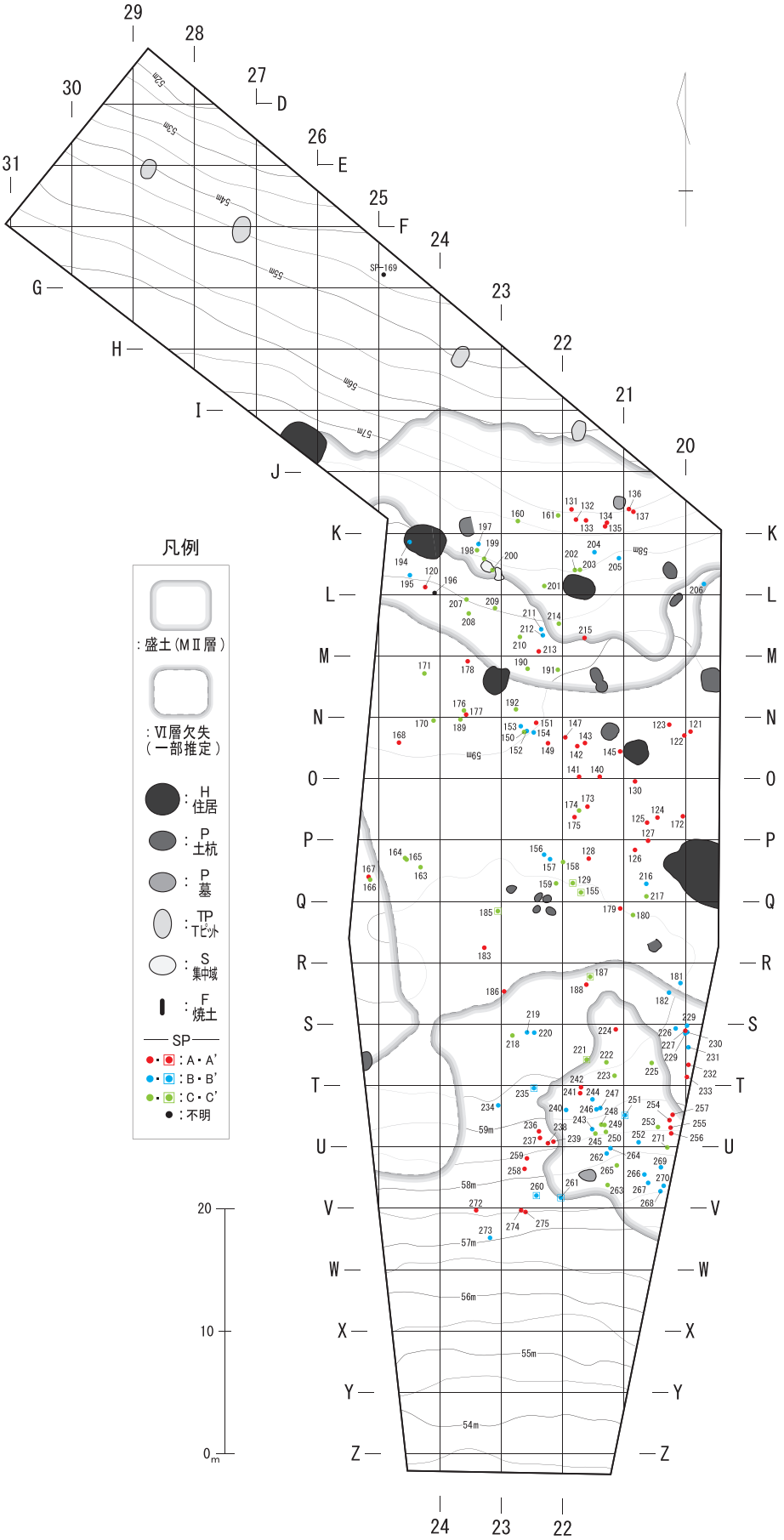
確認・調査　確認の経緯はすでに前節で記した。Ⅴ′層、Ⅶ′層の分布範囲は、削平され、掘り返された可能性が高いものであった。トレンチ調査の結果からこの部分では比較的遺物量が少なく、層厚も薄いことを確認していた。調査にあたってはⅤ′層を含めたⅤ層を掘り下げ、Ⅶ′層もしくはⅥ層の上面で遺構確認を行った。削平部分の範囲は土層断面図の記録から復元したものである。ほぼ段丘頂部全体を覆っているが、調査区西側境のP25～S25間の周囲では確認できていない。

削平部分から検出された遺構は竪穴住居跡３軒、土坑８基、柱穴状の小土坑48基が確認されている。削平行為との先後関係がわかる遺構は少ないが、調査区壁面で検出されている住居跡H-８が削平後、土坑P-11は削平と同時か、削平間もない時期である。その他の遺構は覆土の堆積状態からの類推となるが、竪穴住居跡２軒（H-７・10）、６基の土坑（P-４～９）は覆土の色調にⅤ層の影響がほとんどみられないことから、P-11同様、削平同時か間もない時期とみられる。

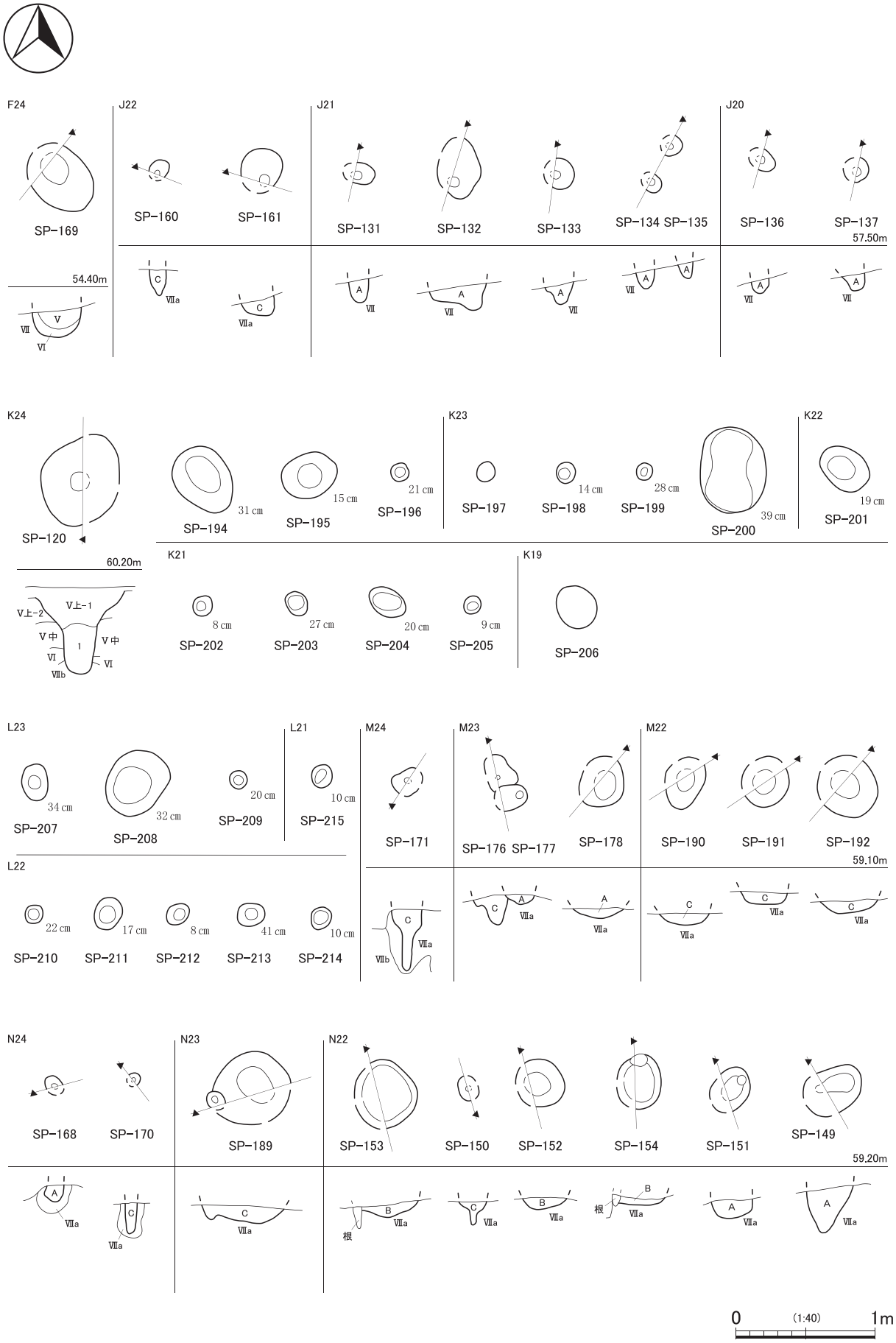
遺物出土状況　Ⅶ′層から出土する遺物について、Ⅶ層直上の出土遺物として他と区別した。土器は、Ⅱ群ａ２S類土器が80点、Ⅱ群ａ３類土器が16点、Ⅱ群ｂ類土器が14点、Ⅲ群ａ類土器が４点、Ⅳ群ａ類土器が８点、不明１点となっている。石器等は、石鏃11点、石槍（片）３点、つまみ付きナイフ（片）20点。スクレイパー８点、Rフレイク６点、石斧３点を含む石斧類は24点出土し、フレイク886点の内、166点が緑色片岩などの石斧石材である。礫石器はたたき石37点、すり石（片）３点、北海道式石冠片８点、扁平打製石器、石錘１点、石皿（片）４点、加工痕ある礫10点、砥石（片）21点等となっている。赤色顔料の残る石皿（図Ⅴ－129-373）はP-８の南東側で、使用面を下にして出土している。

時　　期　南北盛土の調査結果から、削平は縄文時代前期前半ごろに行われたものと推定される。Ⅶ層直上で造成以後にあたるⅡ群ｂ類、Ⅲ群ａ類、Ⅳ群ａ類土器がわずかであるが出土していることから、H-８のような遺構の築造が一部行われていた可能性を示す。しかし、H-８以外には輪郭をとらえられたものは少ない上、出土点数の上でもⅡ群ａ２類土器が多数を占めているため、前期以降の改変は、前期に行われた削平の規模を大きく超えることはないと考えられる。

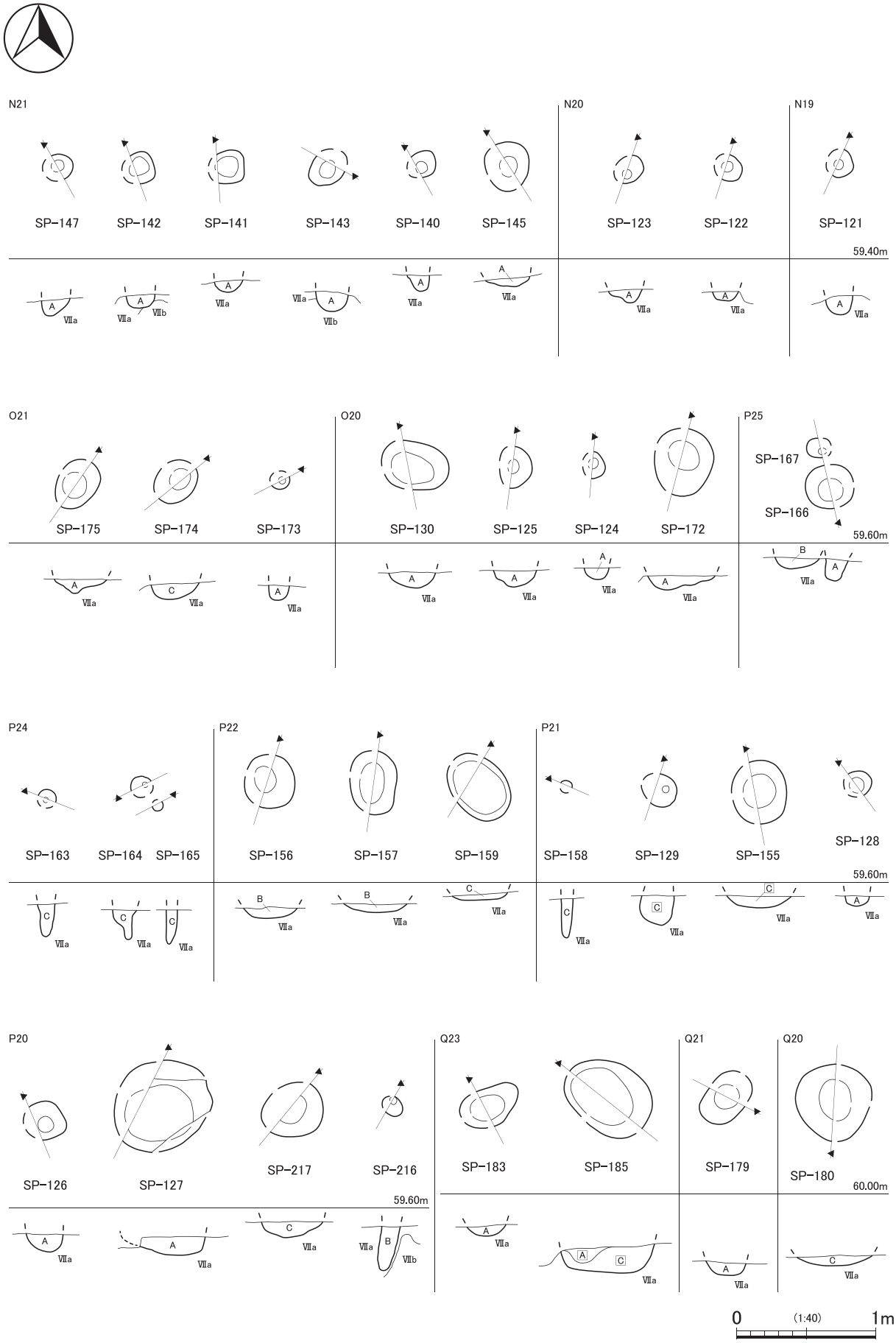
炭素年代結果も、その状況を示すもので、ベルトCのⅦ層直上で得られた炭化材は3,430、5,050±25yBP（pal-10917、10918）とまとまりがない。



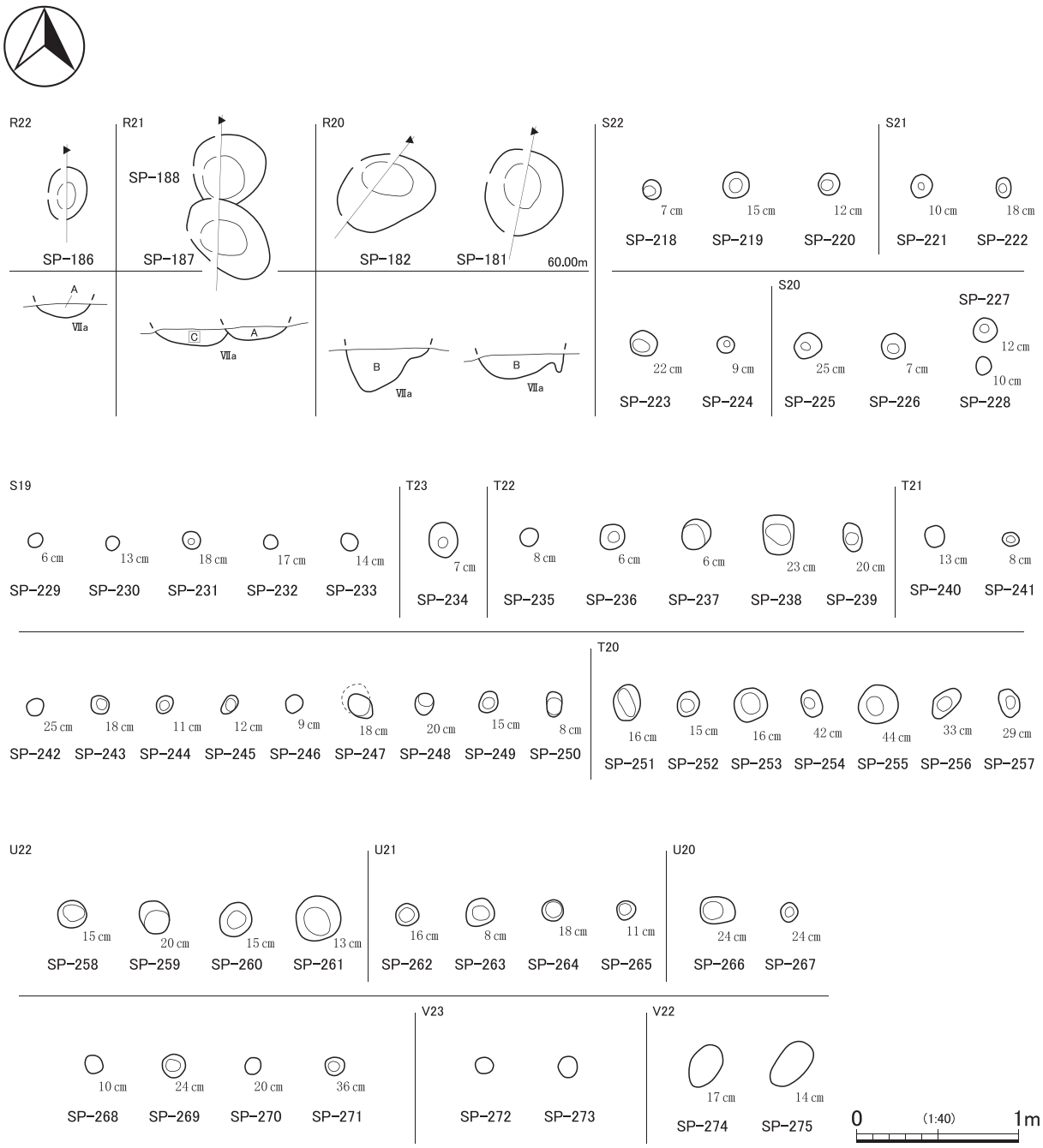
図Ⅴ－30　柱穴状小土坑位置図



図Ⅴ－31　柱穴状小土坑（SP）（1）



図Ⅴ－32　柱穴状小土坑（SP）（２）



図Ⅴ－33　柱穴状小土坑（SP）（３）

e）柱穴状土坑

南北両盛土遺構、削平部分において、Ⅶ層上面で遺構確認調査を行った。検出された遺構数と一部の概要は各節ですでに述べた。柱穴状小土坑については一括してここに扱う。

柱穴状小土坑（SP）（図Ⅴ－30～33、表Ⅴ－６）

確認・調査・類別　Ⅶ層上面で検出された柱穴状のⅤ層の広がりのうち、検出面での輪郭が明瞭であるものを半截した。断面観察の結果形状が明瞭で屈曲していないことを条件に遺構とした。条件を満たさないものは、掘りぬいて遺物回収を行ったが、調査後に明らかに柱穴状を呈するものも含めた。図Ⅴ－30は柱穴状小土坑の位置を示したものである。大きさに関わりなく位置をシンボルで示し、３色の色調は覆土の状態を表した。凡例は以下のとおりである。覆土に骨片が混じるものについて

は、シンボルを四角で囲み表現している。

A（＝赤）：５YR1.7/1～2/1 黒～黒褐（粘性なし　しまりなし）シルト質～砂混土　20mm 以下の Ta-d 亜角パミス 20～30％混じる。層界やや画然～画然

B（＝青）：10YR3/2 黒褐（粘性なし　しまりややあり～なし）砂混土　20mm 以下の Ta-d 亜角パミス 30％程度混じる。層界やや画然～画然

C（＝緑）：10YR3/1 黒褐（粘性なし　しまりややあり～なし）砂混土　20mm 以下の Ta-d 亜角パミス 30％程度混じる。層界やや画然～画然

分布と想定　柱穴状小土坑は、北側斜面 F24 に位置する SP-169 を例外とし、南北両盛土と削平部分に重なり分布する。詳細にみると、北盛土の削平部との境界、南盛土西側の盛土周縁でも検出される。

この分布には３か所に空白域がある。①北盛土北側部分、②削平部分南西側の張り出し部分、③O22～24 の削平部分中央である。③に注目すると、空白域は O22～24 を中心として楕円形を呈している。この空白域では他の遺構も検出されず、礫を含めたすべての遺物の出土点数においても、周囲に比較しやや少なくなっている。

これらの小柱穴は、明瞭な配列が認められないこと、斜面に位置することから杭や小屋状の小規模構築物が想定されるが、留意しておきたい事項に植生や土壌の影響がある。図版 27 左下の写真は P26 区の調査区西側壁面である。写真左端にⅦ層に到達する柱穴状土坑によく似たⅤ層の広がりの輪郭が認められる。この広がりはⅦa 層とⅦb 層の起伏に合わせて形成されているようにも見え、さらにその輪郭は上位に堆積するⅣ層（Ta-c）を切っているようにも観察される。この土層の状況からは、元来存在した氷期の影響とみられる細かい起伏に、縄文晩期以降近世以前の植生の影響により落ち込みが形成されているとみることができる。前述した基準により小土坑と自然攪乱を峻別しているが、小土坑としたものの中にも自然攪乱が含まれている可能性は残る。

時　　期　不明であるが、削平、盛土遺構と関連するとみられることから、縄文時代前期前半Ⅱ群 a ２類期のものである可能性が高い。

（２）竪穴住居跡

H-５　（図Ⅴ－34、表Ⅴ－２・３・５・10、図版 32）

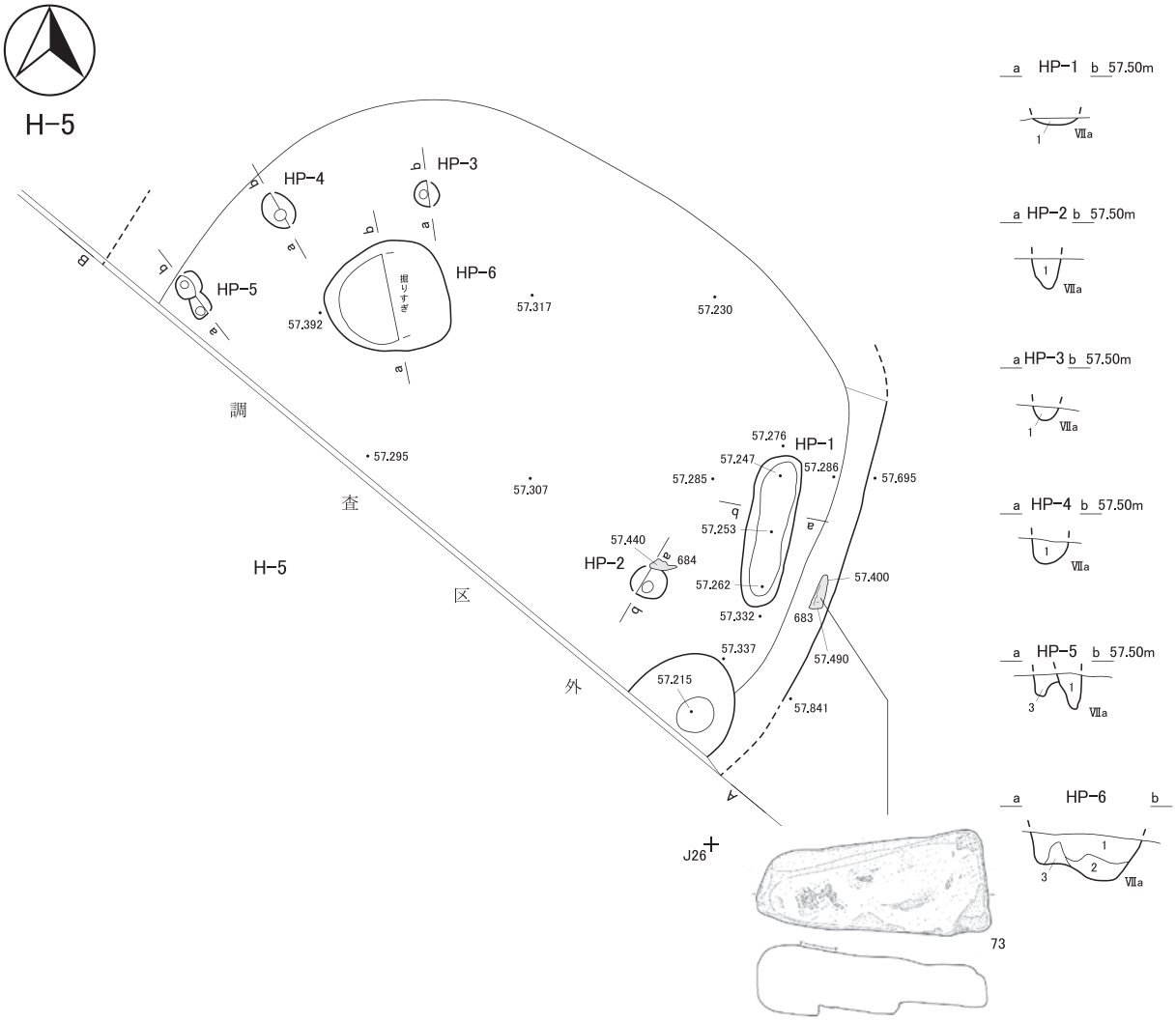
位　　置　I25・26 区　　**規　　模**　4.40×－／3.98×(2.25)／0.54m

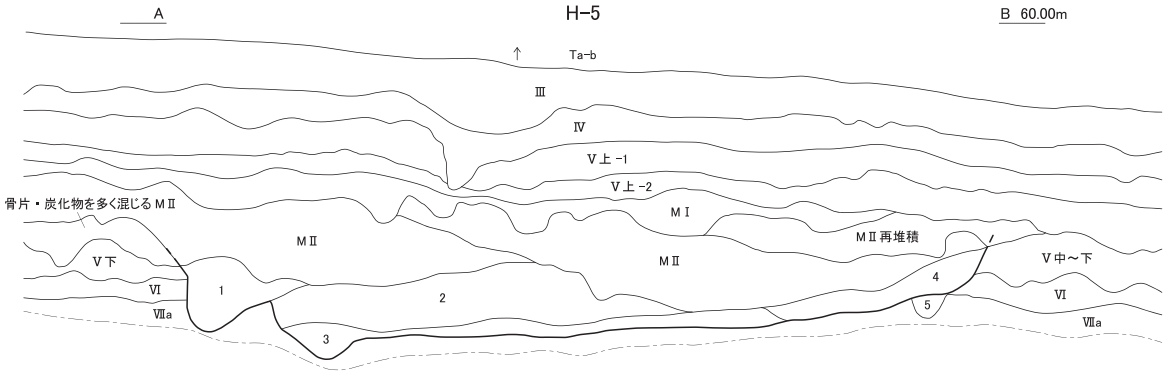
確認・調査　調査区北西部に位置する。Ⅴ層下位調査中、黒褐色土の広がりを確認した。周辺を精査すると、広がりは半円形で南側は調査区外に延び、すでに広がりの北側を掘削していることがわかった。調査区に沿ってトレンチを設定しⅦ層まで掘り下げると、ほぼ平坦な床、緩やかに立ち上がる壁を確認できた。床は長辺で２m を超えていたので、竪穴住居とした。

付 属 遺 構　柱穴６基である。東側壁際付近に短い溝状の柱穴 HP-１が、また中央よりやや北西寄りに円形の土坑 HP-６が確認できた。HP-６は坑底の把握が難しく半截時に掘り抜いている。そのほかの４基は小規模なもので、床面の縁を巡るように検出されている。柱穴としなかったが、南東側壁際に落ち込みが認められた。

遺物出土状況　覆土から、石鏃１点、R フレイク３点、フレイク８点、たたき石４点、北海道式石冠２点（破片１点）、砥石片１点、石皿１点、有意の礫が４点、礫・礫片 222 点（26.5kg）が出土している。床面からは、たたき石１点、灰白色粘土塊が１点出土している。

覆　　土　５層に分層した。本住居はＭⅡ層に相当するⅦ層起源パミスが大量に混じるⅤ層で床面まで覆われている。５層は全てⅦ層パミスの混じる砂および砂礫層である。掘り込み面は不明瞭ではあるが、Ⅴ下層か、ＭⅡ層の堆積後間もないころとみられる。



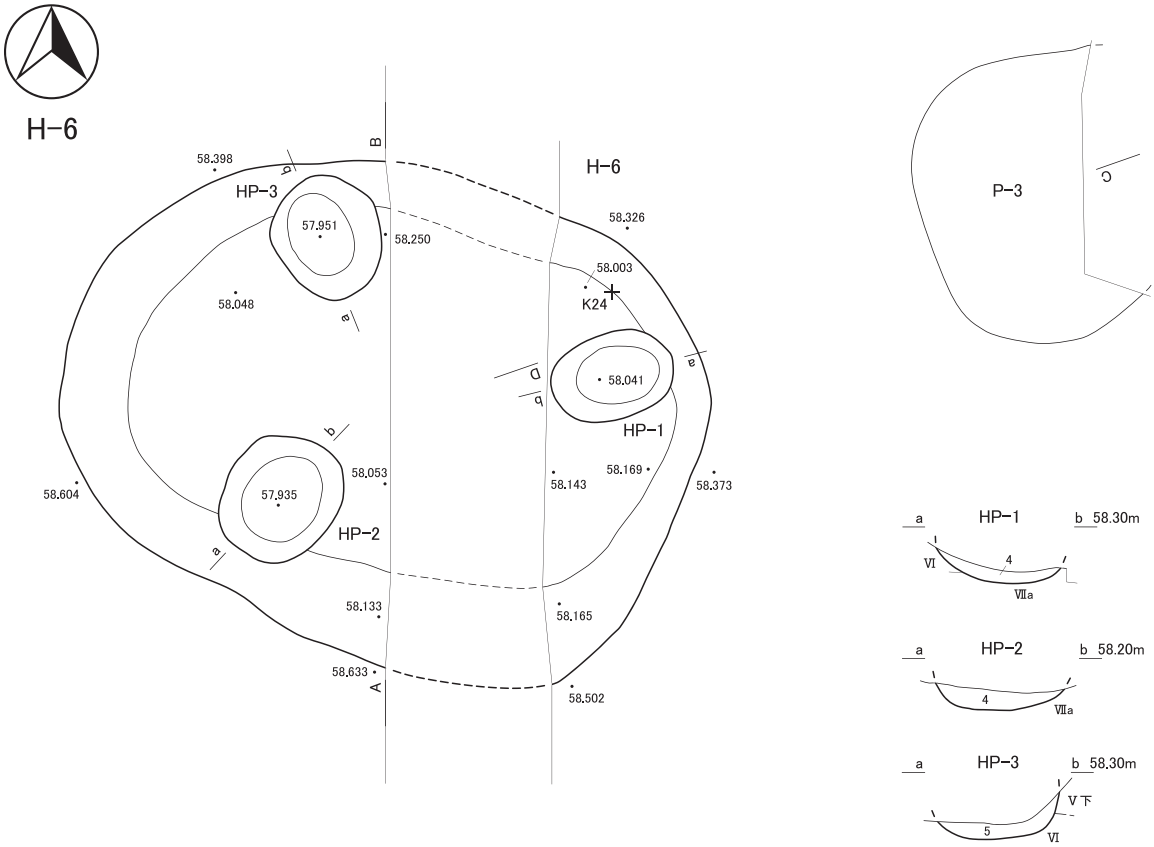


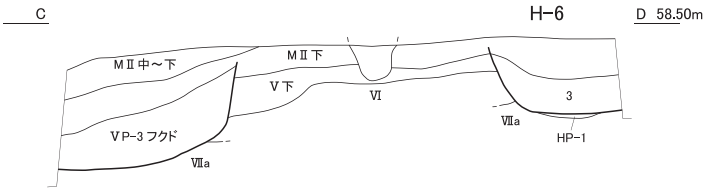
1　7.5YR2/1　黒　　（粘性なし　ややしまりあり）20㎜以下の Ta-d1・2 パミス 40%まじる　砂礫　層界画然
2　7.5YR2/3　極暗褐（粘性なし　ややしまりあり）40㎜以下の Ta-d1・2 パミス 30 ～ 40%まじる　砂礫　層界画然
3　10YR2/3　黒褐　（粘性なし　ややしまりあり）30㎜以下の Ta-d2 パミスと分級のよい砂粒で構成される　砂　層界画然
4　7.5YR2/1　黒　　（粘性なし　しまりなし）30㎜以下の Ta-d2 パミス 20%まじる　砂混土　層界画然
5　10YR2/2　黒褐　（粘性なし　しまりなし）20㎜以下の Ta-d2 パミス 30 ～ 40%まじる　砂礫　層界画然

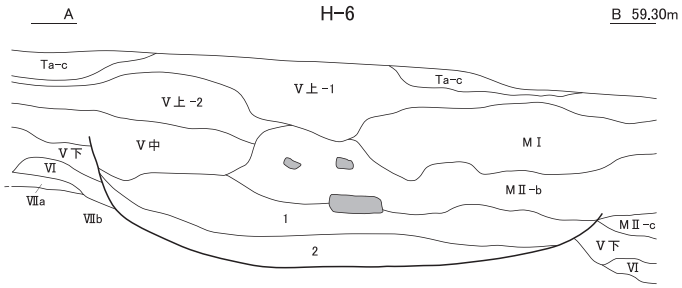
0　(1:40)　1m

図Ⅴ－34　H-5

時　　期　掘り込み面から、縄文時代前期前半である。
掲載遺物　図Ⅴ－90-73 は床面出土のたたき石である。
H-6　（図Ⅴ－35、表Ⅴ－２・３・５・７～10・12、図版 33）
位　　置　J・K23・24 区　　**規　　模**　3.32×2.57 ／ 2.69×1.83 ／ 0.55m
確認・調査　調査区北側緩斜面に位置する。ベルトＡのトレンチ調査で確認した竪穴住居である。北盛土の南東側端部にあたる。北盛土の調査終了後、周囲のⅤ層を徐々に下げ、落ち込みの輪郭を確認できた時点で覆土を掘り下げた。結果急激に立ち上がる壁を確認できた。平面形は楕円形。床面は緩やかな碗形を呈し壁と連続している。
付属遺構　柱穴３基を確認した。いずれも長軸 50cm程度の良く似た楕円形を呈する浅い土坑で、壁際をめぐって分布し中心から放射状に長軸を持つ。
遺物出土状況　覆土からⅡ群ａ２Ｓ類土器が９点、つまみ付きナイフ１点、フレイク 54 点、石斧破片１点、たたき石６点、石錘片１点、砥石片１点、加工痕ある礫１点、石皿（片）２点の他礫・礫片が 139 点（18.2kg）が出土している。なお、覆土中に骨片を多く含む堆積土があり、フローテーション法による微細遺物の回収を行っている。結果シカ中節骨１点、小型哺乳類の指骨骨端１点、ウグイ椎骨２点等の骨片、クルミ核が得られた。
覆　　土　覆土は２層に分層した。２層ともⅦ層パミスの混じる黒褐色の砂質層であるが、床面直上に堆積する下位の層はパミスがラミナを呈して堆積する部分がある。覆土はＭⅡ層の堆積に覆われている。掘り込み面はⅤ層下位である。HP-１～３の覆土も、Ⅶ層パミスの量比が異なるのみで住居の覆土とほぼ同じ性質のものである。
時　　期　堆積状況、遺物出土状況から縄文時代前期前半のものとみられる。
掲載遺物　Ⅱ群ａ２Ｓ類土器（図Ⅴ－50-55）、つまみ付きナイフ（図Ⅴ－60-161）、石斧（図Ⅴ－80-138）、たたき石（図Ⅴ－90-72）石皿片（図Ⅴ－128-364）、石皿（図Ⅴ－132-389）は覆土から出土したもの。なお、石斧は覆土から出土した基部片と、南盛土（T22 区ＭⅠ層）から出土した先端部との接合資料である。
H-7　（図Ⅴ－36、表Ⅴ－２・３・５・10・13、図版 34）
位　　置　M22・23 区　　**規　　模**　2.40×2.00 ／ 2.16×1.68 ／ 0.50m
確認・調査　調査区中央の削平部分に位置する。Ⅶ層上面で遺構確認作業を行っていたところ、黒褐色土の広がりを確認した。広がりの輪郭はほぼ明瞭であったので、西側を半截した。結果平坦な床と急激に立ち上がる壁を確認した。長軸が２ｍを超えていたので竪穴住居とした。
付属遺構　細い小柱穴を３基確認している。住居を東西に二分するように等間隔に並んで検出されている。
遺物出土状況　覆土から、石斧原材１点、たたき石２点、フレイク 24 点が、床面からは礫片が１点出土している。覆土から、礫・礫片 49 点（8.9kg）が出土している。なお、炭化物・骨片集中域と図示した部分について、土壌を採取しフローテーション法による微細遺物の回収を行った。結果、哺乳綱の骨片と炭化物片が得られている。
覆　　土　７層に分層した。Ⅴ層相当の黒褐色土とⅦ層起源パミスとの互層状となっている。３、４層は炭化物が混じる堆積で、住居の北東側に４層に相当する炭化物、焼骨の集中域が形成されている。
時　　期　不明であるが、覆土に混在するⅤ層の色調から、縄文時代前期前半のものである可能性がある。



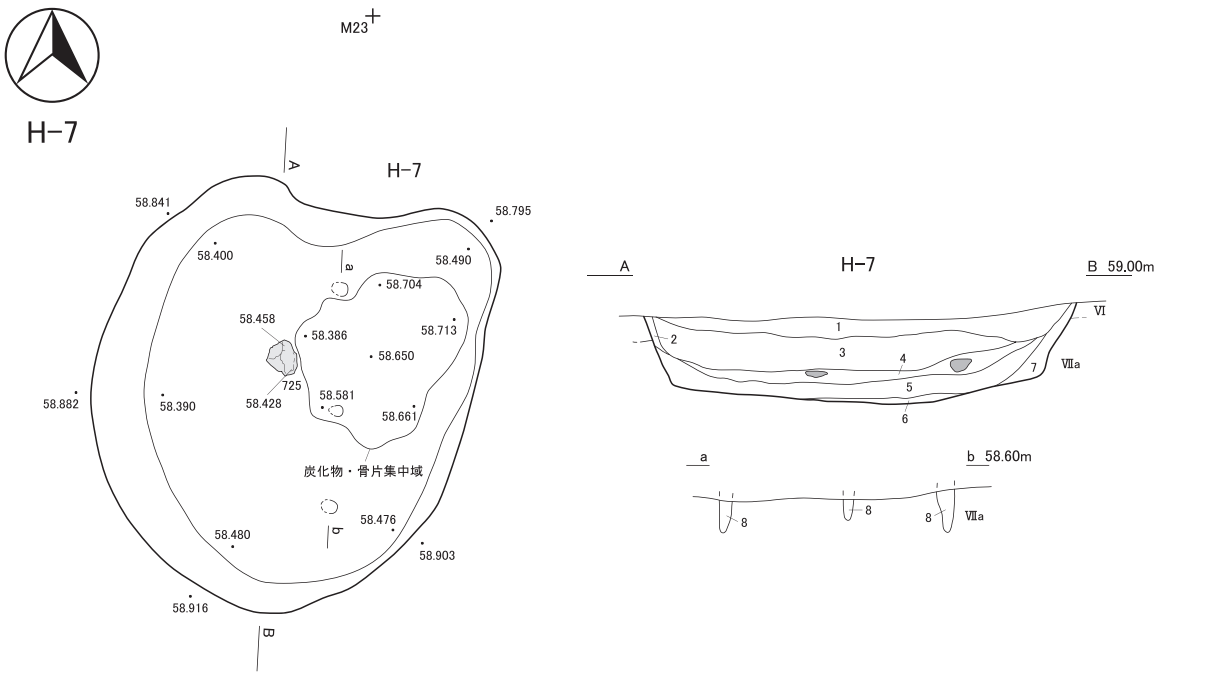




1　7.5YR2/2　黒褐（粘性なし　しまりなし）20㎜以下のTa-d1・2パミス15%まじる　砂混土　層界やや画然
2　7.5YR2/2　黒褐（粘性なし　しまりなし）20㎜以下のTa-d1・2パミス30%ラミナ状にまじる　砂混土　層界画然
3　10YR2/3　黒褐（粘性なし　しまりなし）20㎜以下のTa-d1・2パミス15%まじる　砂混土　層界画然
4　10YR2/2　黒褐（粘性なし　しまりなし）20㎜以下のTa-d1・2パミス10%まじる　砂質土　層界画然
5　10YR3/1　黒褐（粘性なし　しまりなし）20㎜以下のTa-d1・2パミス30～40%まじる　砂混土　層界画然

0　(1:40)　1m

図Ⅴ－35　H-6



1 7.5YR2/2　黒褐　（粘性なし　ややしまりあり）20㎜以下の Ta-d2 パミス 10%まじる　砂混土　層界画然
2 7.5YR1.7/1　黒　（粘性なし　ややしまりあり）砂質土　層界画然
3 7.5YR2/3　極暗褐（粘性なし　ややしまりあり）30㎜以下の Ta-d2 パミス 60 ～ 70%で構成される　炭化物わずかにまじる　軽石層　層界画然
4 7.5YR2/2　黒褐　（粘性なし　ややしまりあり）30㎜以下の Ta-d2 パミス 15 ～ 20%まじる　炭化物わずかにまじる　軽石層　層界画然
5 5YR3/6　暗赤褐（粘性なし　ややしまりあり）30㎜以下の Ta-d2 パミス 50 ～ 60%まじる　軽石層　層界画然
6 5YR2/1　黒褐　（粘性なし　ややしまりあり）50㎜以下の砂礫、Ta-d2 パミス 60 ～ 70%で構成される　軽石層　層界画然
7 5YR3/6　暗赤褐（粘性なし　ややしまりあり）30㎜以下の Ta-d2 パミス 80%、暗褐色土 20%で構成される　軽石層　層界画然
8 7.5YR2/1　黒　（粘性なし　しまりなし）20㎜以下の Ta-d2 パミス 20%まじる　砂混土　層界やや画然

0　(1:40)　1m

図Ⅴ－36　H-7

掲載遺物　図Ⅴ－91-76 は、覆土から出土したたたき石。

H-8　（図Ⅴ－37、表Ⅴ－２・３・５、図版 35）

位　　置　P19・20 区　　**規　　模**　(5.28)×(4.12)／(4.00)×(3.78)／ 0.32m

確認・調査　調査区中央の削平部分に位置する。Ⅶ層上面を精査中、Ⅴ′層の広がりを確認した。広がりは東側調査区外に延びていたが、大まかに半円形であったので、住居跡を想定して調査を行った。床面に小規模な起伏が多く凸凹であるが、全体として浅いⅢ状を呈していたため、竪穴住居と判断した。

付属遺構　柱穴５基が検出された。いずれも浅く、配列を示さない。

遺物出土状況　HP-５の覆土から、フレイク１点が出土している。覆土から、礫・礫片４点（6.4kg）が出土している。

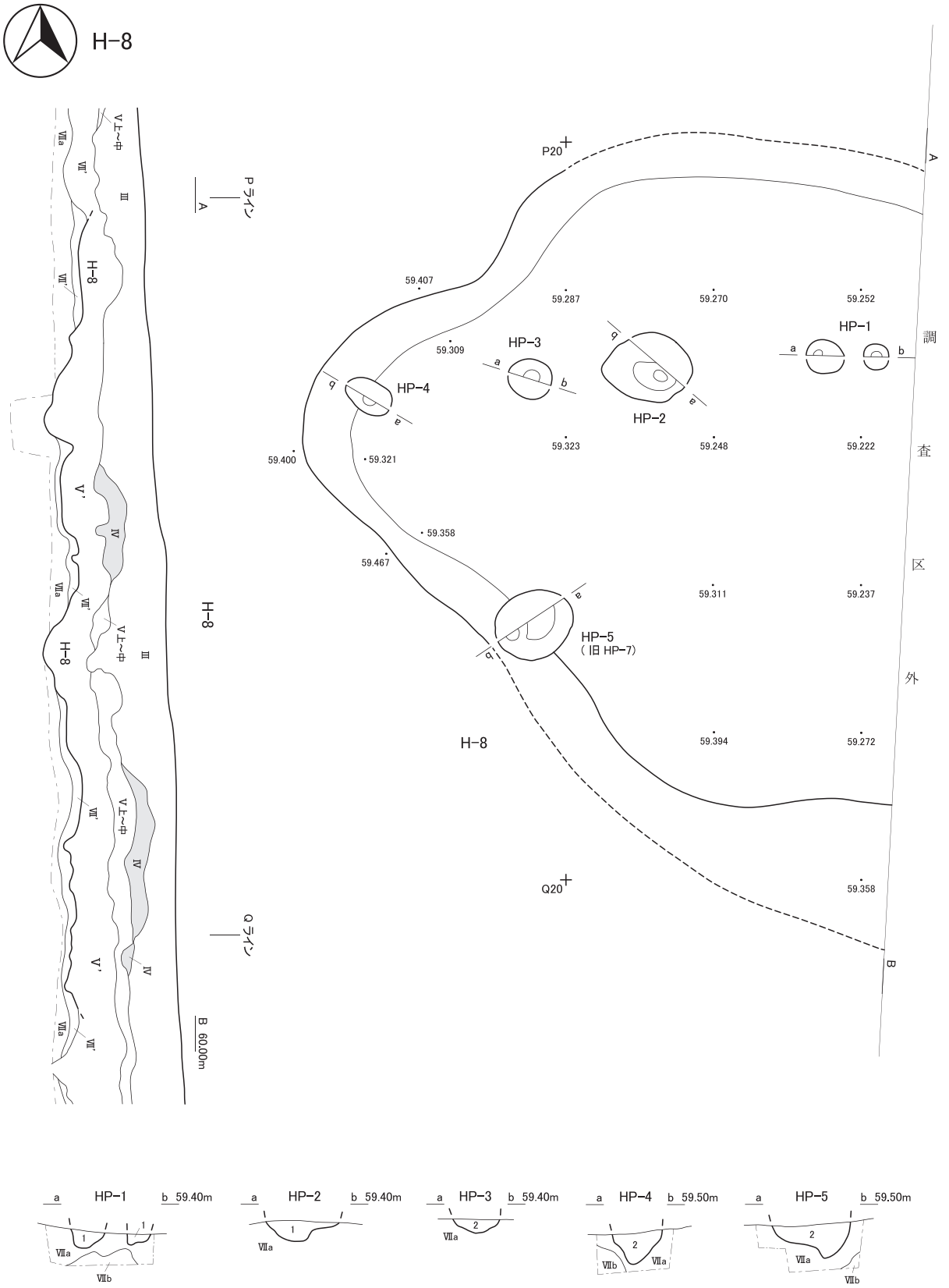
覆　　土　Ⅴ′層である。掘り込み面は樽前ｃテフラ降下以前のⅤ層中である。

時　　期　不明であるが、周囲の遺物出土状況から縄文時代中期もしくは後期のものである可能性がある。

H-9　（図Ⅴ－38、表Ⅴ－２・３・５、図版 36）

位　　置　K・L21 区　　**規　　模**　2.68×1.82 ／ 2.29×1.67 ／ 0.20m

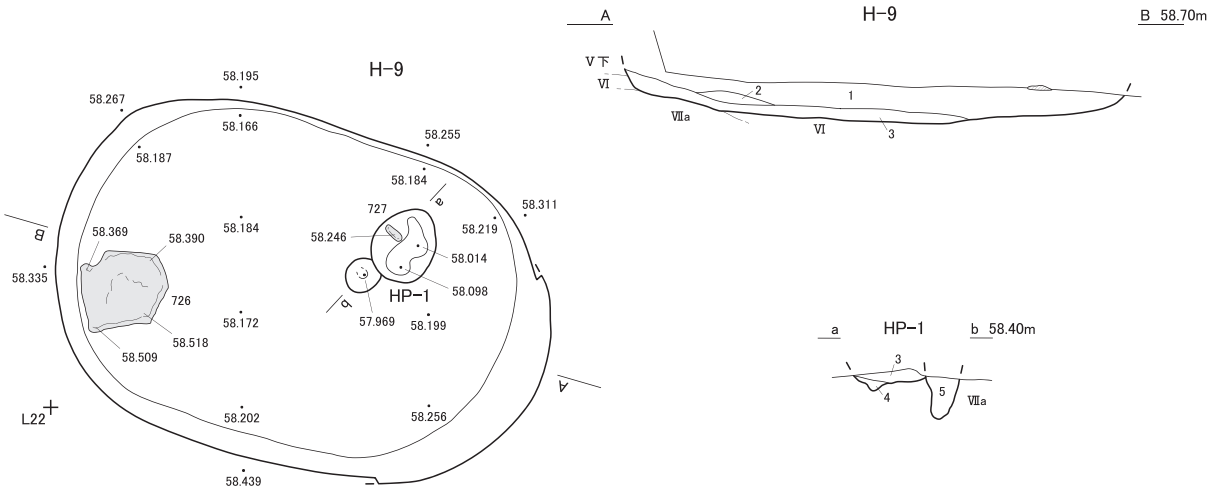
確認・調査　調査区北側緩斜面、北盛土範囲内に位置する。MⅡ層下部からⅤ下層を調査中、黒色土



1　5YR1.7/1 ～ 2/1　黒～黒褐（粘性なし　しまりなし）20 ㎜以下の Ta-d2 パミス 20 ～ 10%まじる　シルト質土～砂混土　層界やや画然～画然
2　10YR3/1　　黒褐　　（粘性なし　ややしまりあり～しまりなし）20 ㎜以下の Ta-d2 パミス 30%程度まじる　砂混土　層界やや画然～画然

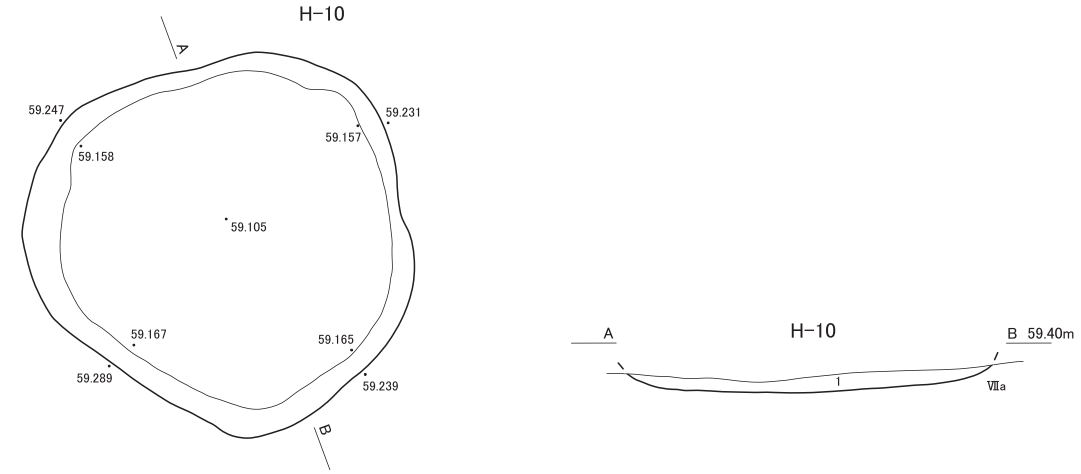
図Ⅴ－37　H-8

H-9



1　10YR2/1　黒　（粘性なし　しまりなし）5㎜以下の Ta-d1・2 パミス 10%まじる　V層下位か？　砂質土　層界画然
2　7.5YR2/3　極暗褐（粘性なし　しまりなし）5㎜以下の Ta-d1・2 パミスで構成される　砂礫層　層界画然
3　10YR1.7/1　黒　（粘性なし　しまりなし）5㎜以下の Ta-d1・2 パミス 5%まじる　砂質土　層界画然
4　7.5YR2/2　黒褐　（粘性なし　しまりなし）10㎜以下の Ta-d1 パミス 10%まじる　砂混土　層界画然
5　7.5YR3/2　黒褐　（粘性なし　しまりなし）10㎜以下の Ta-d1 パミス 30%まじる　砂混土　層界画然

H-10



1　5YR3/4　暗赤褐（粘性なし　しまりなし）30㎜以下の Ta-d2 パミス 40%まじる　砂混土　層界やや画然

O21

0　(1:40)　1m

図Ⅴ－38　H-9・10

の広がりを確認した。Ⅵ層上面で精査を行ったところ楕円形の明確な輪郭が認められた。南東側にメインベルトＢがあり、一部が接していた。長軸に沿ってベルトにかかるようトレンチを設定してⅦ層まで掘り下げた。結果浅い皿状の断面を確認できたがＭⅡ層との関係はよくわからなかった。長軸で２ｍを超える規模から、竪穴住居跡とした。

付属遺構　柱穴２基である。床面中心よりやや北東の位置に２基まとまる。小規模で不明瞭であり、自然攪乱の可能性もある。

遺物出土状況　覆土からやや大きな礫の破片１点、砥石１点、石皿１点、HP-１の検出面でたたき石が１点出土している。覆土から礫片１点（0.27kg）が出土している。

覆　　土　３層に分層した。１層はⅦ層パミスが若干混じるⅤ下層。２層はⅦ層パミスで構成される。床面に接する３層は、自然堆積の可能性がある黒色土である。

時　　期　不明であるが、形状の類似から縄文時代前期前半で、層位の状況や覆土の出土遺物が少ないことからすると盛土形成直前の可能性がある。

H-10　（図Ⅴ－38、表Ⅴ－２・５、図版 37）

位　　置　N20 区　**規　　模**　2.09×2.03 ／ 1.76×1.75 ／ 0.12m

確認・調査　調査区中央削平部分に位置する。Ⅶ層上面を精査中、やや汚れたⅦ層が分布しているのを確認した。精査するとほぼ円形を呈することがわかった。半截した結果平坦な床面を検出した。遺構の長軸長はわずかながら２ｍを超えているため、竪穴住居とした。検出面では壁の立ちあがりがほとんど認められない。覆土から礫片２点（0.12kg）が出土している。

覆　　土　わずかに暗褐色土が混じるⅦ層の単層である。

時　　期　不明であるが、堆積状態から削平と同時期と想定されるため、縄文時代前期前半である可能性が高い。

（３）土壙墓

P-2　（図Ⅴ－39、表Ⅴ－２・５・８、図版 38）

位　　置　U21 区　**規　　模**　1.42×0.96 ／ 0.50×0.41 ／ 0.86m

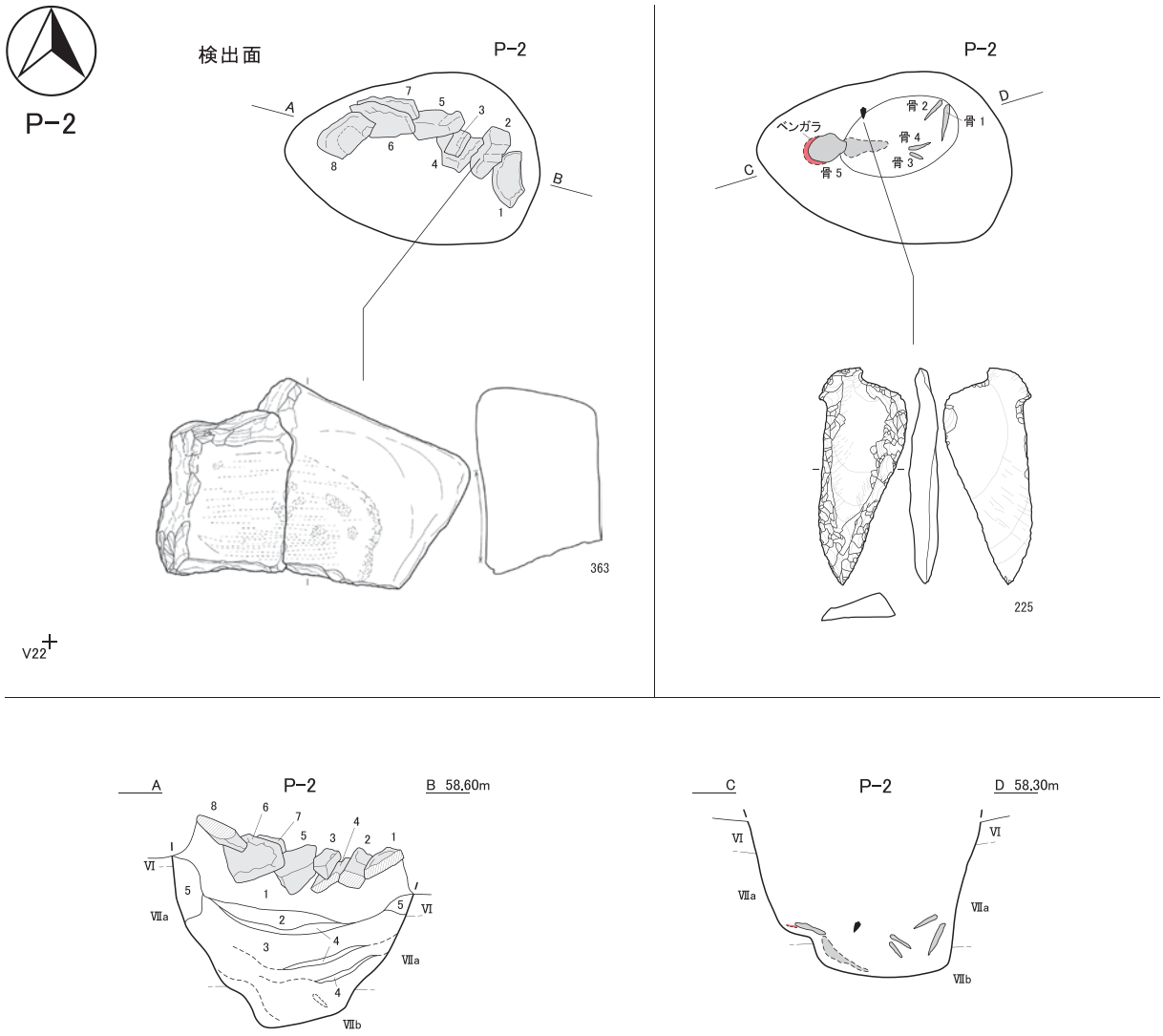
平面形態　楕円形

確認・調査　調査区南斜面、南盛土範囲内に位置する。ＭⅡ層の調査中、礫が８点重なり合って検出された。礫群は北に張り出す弧状を呈していた。周囲を精査すると、礫の集中に重なる黒色土の広がりを確認した。配石墓を想定し長軸に沿って半截を行った。結果、急激に立ち上がる壁を確認し、覆土の下位から人骨とみられる白色粉状の物質が出土したため、土坑墓と判断した。人骨の全体把握を優先し、土層断面図、上面の礫の記録を作成して箱掘りした。人骨は遺存状態が悪く粉状であったが、仰臥屈葬であり頭部の周囲にはベンガラが認められた。頭部は土ごと取り上げている。

遺物出土状況　検出面の礫は１点が石皿片となったが、他は全て板状の礫片であった。覆土からの出土遺物は、Ⅱ群ａ２Ｓ類土器５点、被熱した北海道式石冠片１点、砥石片２点、石皿片１点、石斧破片１点、フレイク４点、メノウの有意の礫２点、礫・礫片が 158 点である。坑底からは礫片４点出土する。礫・礫片の総重量は 14.1kg である。人骨と同一層から、つまみ付きナイフが１点出土している。副葬品とみられる。

覆　　土　５層に分層した。Ⅶ層起源のパミスを含む黒～黒褐色土を基調とする。配石がＭⅡ層中であることと、覆土から本来は盛土の遺物と判断される礫片等が出土していることから、盛土形成期に構築された可能性が高い。

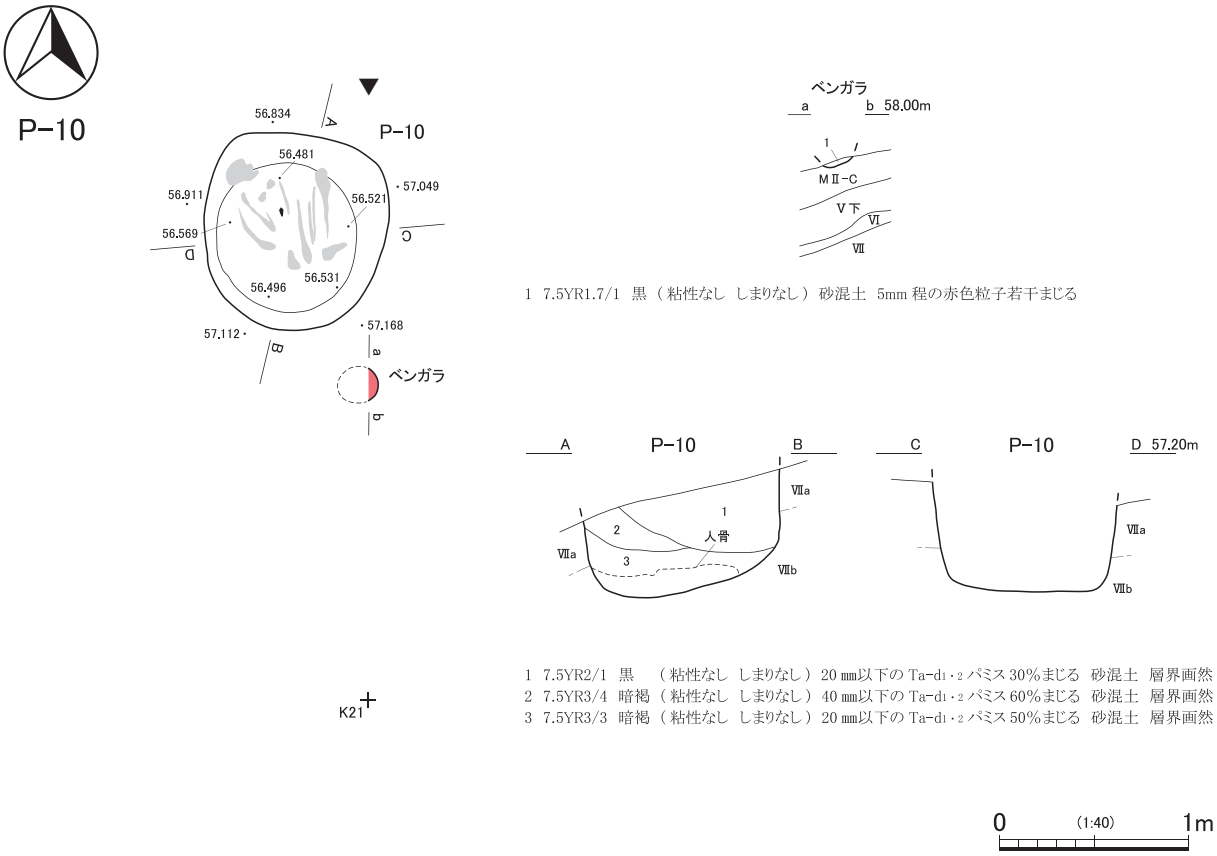
時　　期　出土遺物、検出状況から、縄文時代前期前半とみられる。



1 7.5YR1.7/1 黒 （粘性なし ややしまりあり）10 ㎜以下の Ta-d1・2 パミス 15%、骨片少量まじる 砂混土 層界明瞭
2 7.5YR2/2 黒褐（粘性なし しまりなし）20 ㎜以下の Ta-d1・2 パミス 20%まじる 砂質土 層界画然
3 7.5YR3/2 黒褐（粘性なし しまりなし）30 ㎜以下の Ta-d1・2 パミス 30%まじる 砂質土 層界明瞭
4 7.5YR2/2 黒褐（粘性なし しまりなし）10 ㎜以下の Ta-d1・2 パミス 10%まじる 砂混土 層界画然
5 7.5YR3/2 黒褐（粘性なし ややしまりあり）10 ㎜以下の Ta-d1・2 パミス 7%まじる 砂混土 層界画然

0 (1:40) 1m

図Ⅴ－39 P-2


P−10
56.834
56.481
56.911
56.521
57.049
56.569
56.531
56.496
57.112
57.168
ベンガラ
A
B
C
D
a
b
ベンガラ
a
b 58.00m
1
MⅡ−C
Ⅴ下
Ⅵ
Ⅶ
1 7.5YR1.7/1 黒（粘性なし しまりなし）砂混土 5mm 程の赤色粒子若干まじる
A
P−10
B
C
P−10
D 57.20m
Ⅶa
1
2
人骨
3
Ⅶb
K21
1 7.5YR2/1 黒 （粘性なし しまりなし）20 ㎜以下の Ta-d1・2 パミス 30%まじる 砂混土 層界画然
2 7.5YR3/4 暗褐（粘性なし しまりなし）40 ㎜以下の Ta-d1・2 パミス 60%まじる 砂混土 層界画然
3 7.5YR3/3 暗褐（粘性なし しまりなし）20 ㎜以下の Ta-d1・2 パミス 50%まじる 砂混土 層界画然
0 (1:40) 1m
P−10
E
56.697
56.579
56.628
骨 9
骨 5
56.560
骨 1
骨 8
56.679
1
56.567
骨 2
56.656
骨 7
骨 6
56.604
骨 3
骨 4
56.579
56.623
人骨出土状況図（1/20）
E
P−10
F 57.20m
1
(1/20)
175
0 (1:20) 50cm

図Ⅴ−40　P−10

掲載遺物　図Ｖ－62-225は人骨同一層出土のつまみ付きナイフ。図Ｖ－128-363は検出面の石皿である。

P-10　（図Ｖ－40、表Ｖ－２・５・８、図版39）

位　　置　J21区　**規　　模**　1.04×0.96／0.78×0.74／0.50m

平面形態　不整円形

確認・調査　調査区北側斜面、北盛土範囲内に位置する。J21区ＭⅡ層下部を調査していたところJ20区との境界壁面に赤色顔料が現れているのを確認した。周囲を精査したが伴う遺構を確認できなかったので、範囲と土層断面を記録して掘り下げた。J21区Ⅶ層上面で遺構確認を行ったところ、黒色土の明瞭な広がりを確認した。西側を半截し、やや掘り下げると白色粉状の人骨が検出された。人骨部分を残して坑底を確認し、土層断面の記録を作成して全体の調査を行った。人骨は粉状ではあったが、全身の解剖学的な位置を保っているとみられ、腕を除く大まかな位置を確認することができた。横臥屈葬である。頭位は北西、顔は北東に向けられている。

なお、P-２と本遺構の人骨について、北海道文教大学　白幡知尋氏に実見いただいた。いずれも遺存状態が不良であり、性別や年齢等の推定を行わなかった。

遺物出土状況　覆土から礫片２点が出土している。人骨と同一の覆土下部からつまみ付きナイフが１点出土している。つまみ部を上に胸付近に位置しており、副葬品とみられる。

覆　　土　３層に分層した。Ⅶ層起源のパミスを多く混じる黒褐色土の堆積を基調とする。埋戻しである。

時　　期　覆土の出土遺物が礫片２点のみであること、ベンガラがＭⅡc層に位置していることから、盛土形成中Ⅱ群ａ２類のころと判断される。

掲載遺物　図Ｖ－60-175は覆土下部から出土したつまみ付きナイフである。

（４）土坑

P-３　（図Ｖ－41、表Ｖ－２・５・７～11・13、図版40）

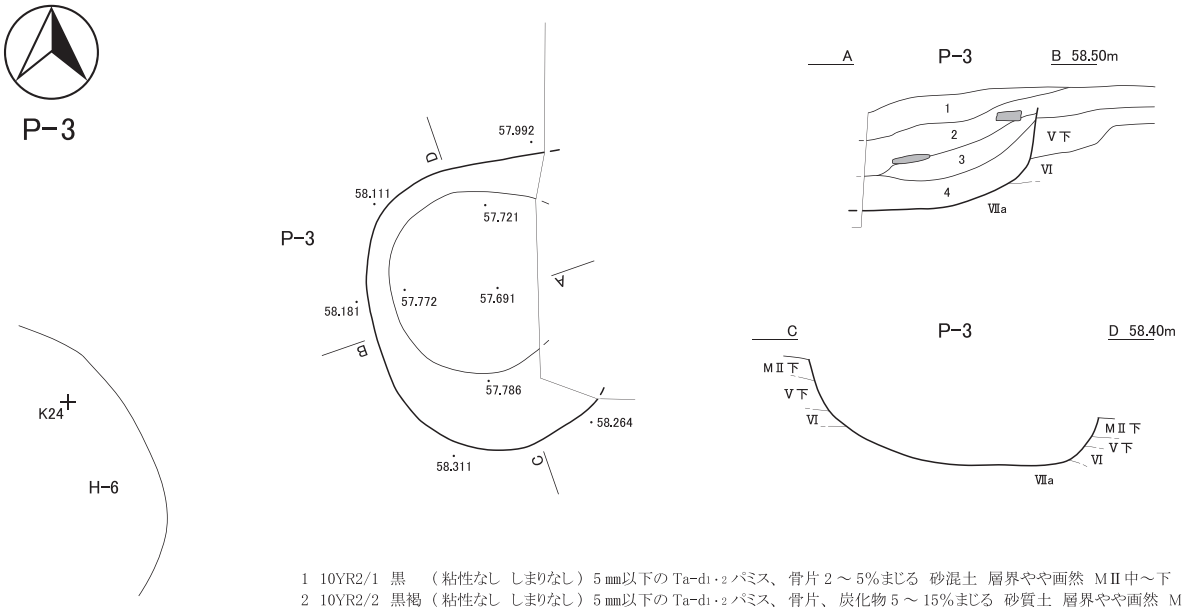
位　　置　J・K23区　**規　　模**　1.53×(0.95)／0.97×(0.82)／0.52m

平面形態　楕円形

確認・調査　調査区北側斜面、北盛土範囲内に位置する。J23区においてＭⅡ層の調査は小グリッドごとに行っていた。J23c区の調査を終了時、J23b区側の壁面を精査して土坑の断面を確認した。周辺にH-６も位置していたため、本遺構との関係がわかるよう、２遺構間にベルトを設定した。ベルトに沿ってトレンチを掘削した結果急激に立ち上がる壁と、ＭⅡ層下部が均等に両遺構を覆っていること、掘り込み面がＭⅡ層下部であることを確認した。周囲を掘り込み面まで掘り下げ、ベルト部分を残して完掘した。確認できた部分では平面形は楕円形。壁は南側で緩やかであるが、他では急。断面は皿状で斜面下に向かい傾斜している。

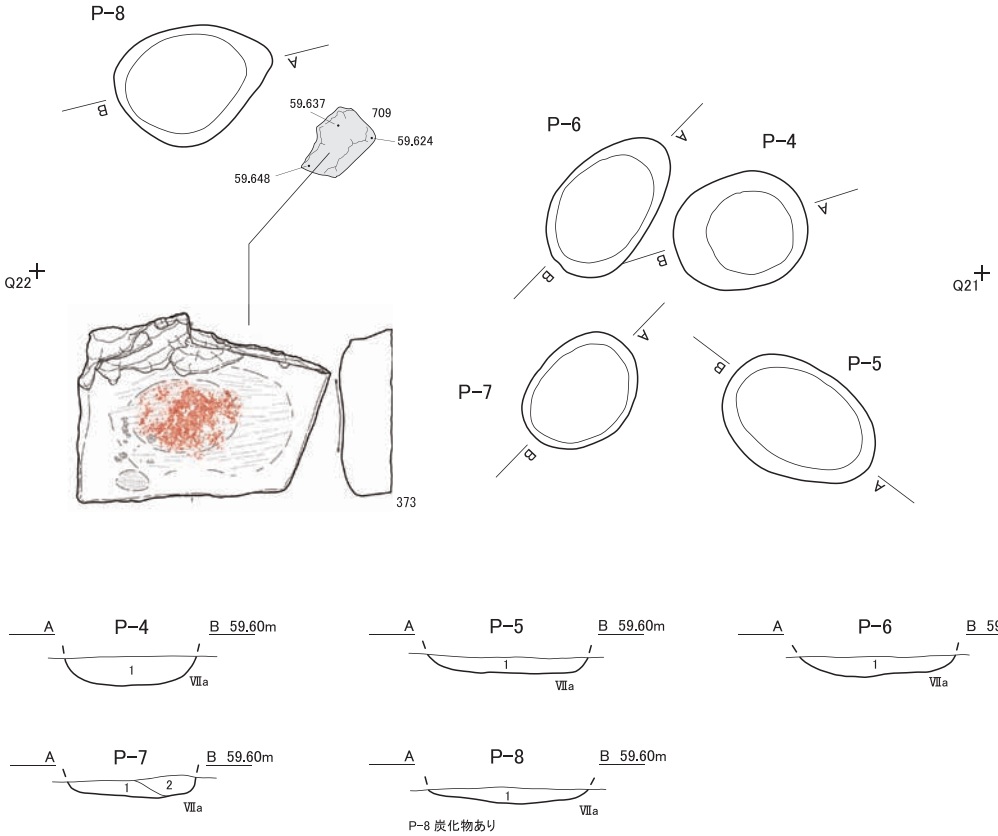
遺物出土状況　覆土から骨角器１点、Ⅱ群ａ１類土器２点、ａ２Ｓ類３点、石鏃片１点、つまみ付きナイフ１点、たたき石１点、加工痕ある礫２点、北海道式石冠１点、蛇紋岩礫１点、フレイク90点（黒曜石26、頁岩55点、緑色片岩９点）、礫・礫片64点（9.9kg）が出土している。なお覆土上位の骨片を含む堆積について土壌を採取し、フローテーション法による微細遺物の回収をおこなった。結果、シカ中節骨１点、末節骨１点、ウグイ？椎骨11点、ニシン椎骨１点等の焼骨片、クルミ核が出土している。

覆　　土　２層に分層した。Ⅶ層起源のパミスを混じる黒～黒褐色土の堆積である。覆土より上位の１、２層としたものはＭⅡ層の堆積である。この層位は覆土として取り上げており、遺物はこの



1　10YR2/1　黒　（粘性なし　しまりなし）5 ㎜以下の Ta-d1・2 パミス、骨片 2 ～ 5%まじる　砂混土　層界やや画然　MⅡ中～下
2　10YR2/2　黒褐（粘性なし　しまりなし）5 ㎜以下の Ta-d1・2 パミス、骨片、炭化物 5 ～ 15%まじる　砂質土　層界やや画然　MⅡ下
3　10YR2/1　黒　（粘性なし　しまりなし）10 ㎜以下の Ta-d1・2 パミス 10%まじる　砂混土　層界画然
4　10YR2/2　黒褐（粘性なし　しまりなし）20 ㎜以下の Ta-d1・2 パミス 10%まじる　砂混土　層界画然

P−4・5・6・7・8

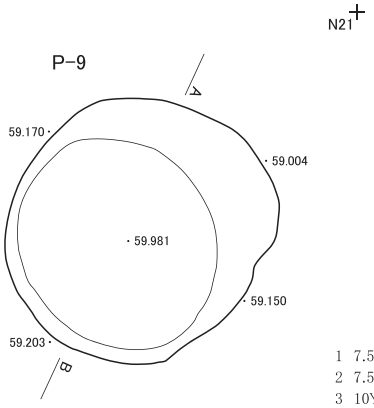


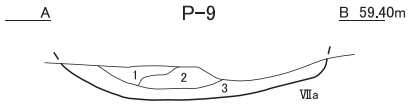
1　5YR2/1　　黒褐（粘性なし　ややしまりあり）30 ㎜以下の Ta-d2 パミス 20 ～ 30%まじる　砂混土　層界画然
2　7.5YR1.7/1　黒　（やや粘性あり　ややしまりあり）30 ㎜以下の Ta-d2 パミス 20%まじる　砂質土　層界画然

0　(1:40)　1m

図Ⅴ−41　P−3～8

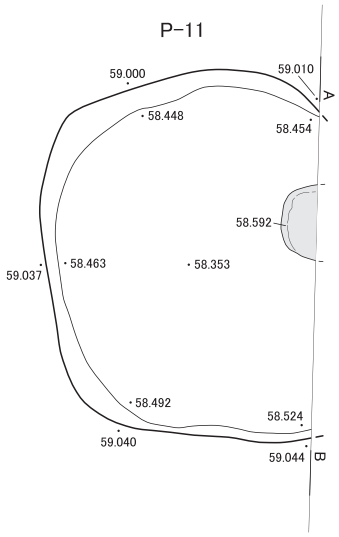
P−9

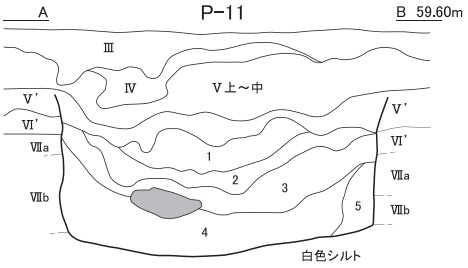




1　7.5YR4/4　褐　（粘性なし　しまりなし）10 ㎜以下の Ta-d2 パミス 40%まじる　砂混土　層界やや画然
2　7.5YR2/1　黒　（やや粘性あり　しまりなし）10 ㎜以下の Ta-d2 パミス 7%まじる　粘質土　層界やや画然
3　10YR3/1　黒褐（粘性なし　しまりなし）20 ㎜以下の Ta-d2 パミス 30%まじる　砂混土　層界やや画然

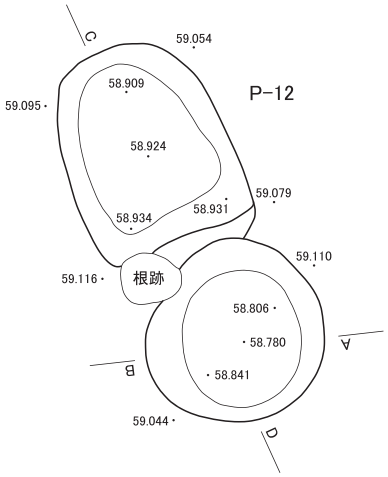
P−11

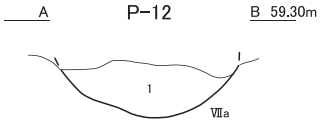


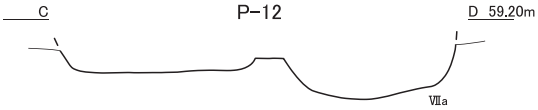


1　7.5YR2/2　黒褐
（粘性なし　ややしまりあり）20 ㎜以下の Ta-d2 パミス 30 ～ 40%焼骨片まじる　砂混土　層界画然
2　7.5YR2/1　黒
（粘性なし　ややしまりあり）20 ㎜以下の Ta-d2 パミス 10%焼骨片・遺物まじる　シルト　層界画然
3　7.5YR2/3　極暗褐
（粘性なし　ややしまりあり）30 ㎜以下の Ta-d2 パミス 50%以上まじる　砂礫　層界画然
4　7.5YR2/2　黒褐
（粘性なし　ややしまりあり）30 ㎜以下の Ta-d2 パミスで構成される　砂混土　層界画然
5　7.5YR3/4　暗褐
（粘性なし　ややしまりあり）30 ㎜以下の Ta-d2 パミス 20%まじる　シルト　層界画然

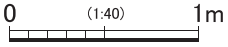
P−12







1　10YR3/2　黒褐（粘性なし　しまりなし）20 ㎜以下の Ta-d2 パミス 50%以上まじる　砂質土　層界やや画然



図Ⅴ−42　P−9・11・12

層位のものがほとんどである。土層観察により、MⅡ層下層より掘り込まれている。

時　　期　土層断面の様子から、縄文時代前期前葉である。

掲載遺物　覆土から出土した、Ⅱ群ａ１類土器（図Ⅴ－49-13)、つまみ付きナイフ（図Ⅴ－60-169)、たたき石（図Ⅴ－89-61)、骨角器（図Ⅴ－138-426）を図示している。

P-４～８　（図Ⅴ－41、表Ⅴ－２・５・10・13、図版 40・41）

位　　置　P・Q21 区

規　　模　0.71×0.61 ／ 0.45×0.44 ／ 0.14m（P-４)、0.87×0.61 ／ 0.72×0.46 ／ 0.09m（P-５)、0.83×0.52 ／ 0.63×0.45 ／ 0.11m（P-６)、0.68×0.53 ／ 0.58×0.44 ／ 0.10m（P-７)、0.85×0.63 ／ 0.65×0.51 ／ 0.07m（P-８）

平面形態　楕円形

確認・調査　調査区中央部、削平部分に位置する。Ⅶ層上面で遺構確認調査を行っていたところ、黒褐色土の広がりを５か所確認した。広がりは長径７～80cmのよく似た楕円形を呈しており、４基の集中とその北東約 1.5m にやや離れた１基で構成されている。広がりの輪郭は明瞭であったので、長軸を基準に南～南東側を半截した。結果すべて浅い皿状を呈する断面を確認し、土坑であると判断し、P-４～８とした。

遺物出土状況　P-８から南東 0.6m の位置で、石皿が出土している。石皿は使用面を下にしており、使用面には赤色顔料が残る。またP-５の覆土から礫片１点（0.1kg)、P-６から礫・礫片８点(0.2kg)、P-７の覆土から石斧破片、たたき石が各１点、礫片４点（0.2kg)、P-８の覆土からフレイクが２点出土している。なお覆土に炭化物が含まれていたP-８について、土壌を採取しフローテーション法による微細遺物の回収を行った。結果、炭化物と哺乳綱の焼骨片が得られている。

覆　　土　Ⅶ層起源のパミスの混じる黒褐色土の単層である。

時　　期　不明であるが、覆土の色調から、削平時期に近い縄文時代前期前半とみられる。

掲載遺物　図Ⅴ－129-373 は、P-８の南東側で出土した赤色顔料の残る石皿である。

P-９　（図Ⅴ－41、表Ⅴ－２・５、図版 41）

位　　置　N21 区　　**規　　模**　1.48×1.42 ／ 1.03×1.12 ／ 0.20m

平面形態　ほぼ円形

確認・調査　調査区中央削平部分東側に位置する。Ⅶ層上面において黒褐色土の広がりが検出された。周囲では調査終了に伴う広がりの掘り下げを行っており、本遺構も一部を掘り下げた状態で確認された。改めて周囲を精査すると、ほぼ円形を呈する広がりの輪郭が明瞭に認められた。概ね長軸に沿って北西側を半截した。結果浅い皿状の断面形を確認することができたため、土坑と判断した。断面の記録を作成した後完掘した。覆土から、礫片４点（0.5kg）が出土している。

覆　　土　３層に分層した。Ⅶ層パミスの混じる黒褐色土を基調とする。

時　　期　不明であるが、検出状況から削平時期に近い縄文時代前期前半とみられる。

P-11　（図Ⅴ－41、表Ⅴ－２・５・10、図版 41）

位　　置　M19 区　　**規　　模**　1.97×1.46 ／ 1.80×1.37 ／ 0.84m

平面形態　円形？

確認・調査　調査区中央削平部分東側調査区境に位置する。Ⅶ層上面で遺構確認を行っていたところ、黒褐色土の広がりを確認した。広がりは円形を呈していたが、東側は調査区外に延長していた。調査区境で断面を記録することにして西側を掘り下げた。結果壁、坑底を明瞭に確認できた。長軸はわずかではあるが２ｍを切っているので、土坑とした。壁の立ち上がりは確認できた部分では全て

直立し、坑底は平坦である。

遺物出土状況　覆土から砥石片１点、加工痕ある礫１点、石皿片２点、フレイク３点、有意の礫１点、礫・礫片 76 点（57.1kg）が出土している。

覆　　土　５層に分層した。下位は黒褐色土と崩落したⅦ層が堆積し、上位にはＭⅡ層に相当するとみられる焼骨を混じる層位、Ⅶ層相当の土層が堆積している。掘り込み面はＶ′層とみられる。

時　　期　土層の状況から、削平時期に近い縄文時代前期前半とみられる。

掲載遺物　図Ｖ－108-226 は覆土から出土した砥石である。

P-12　（図Ｖ－42、表Ｖ－２・５、図版 41）

位　　置　M21 区　　**規　　模**　2.12×0.97 ／ 0.70×0.63・0.83×0.67 ／ 0.29m

平面形態　楕円形

確認・調査　調査区中央部平坦面に位置する。Ⅶ層上面で調査終了に伴う自然攪乱の掘り抜きを行った際に検出された。掘削途中で広がりが明瞭な円形の輪郭を呈したため、周囲を精査し改めて遺構確認を行った。円形の広がりはさらに北西側に不整な隅丸方形の広がりを伴っており、一連のものと判断した。覆土から礫片２点（0.1kg）が出土している。

覆　　土　黒褐色土の単層である。Ⅶ層パミスが 50％以上を占める。

時　　期　不明であるが、覆土の色調から削平時期に近い縄文時代前期前半の可能性が高い。

P-13　（図Ｖ－43、表Ｖ－２、図版 42）

位　　置　Q20 区　　**規　　模**　1.15×1.02 ／ 0.90×0.76 ／ 0.08m

平面形態　不整円形

確認・調査　調査区中央平坦面、削平部分に位置する。Ⅶ層上面を精査していたところ、黒色土の広がりが検出された。西側を半截すると浅い皿状の断面形を確認したため土坑と判断した。坑底は概ね平坦であるが、東側は不規則にくぼんでいる。北西側の形状は自然攪乱により不明である。遺物は出土していない。

覆　　土　Ⅶ層パミスが混じる黒色土の単層である。

時　　期　不明であるが、縄文時代のものとみられる。

P-14　（図Ｖ－43、表Ｖ－２、図版 42）

位　　置　S23・24 区　　**規　　模**　1.56×(0.87)／ 1.22×(0.82)／ 0.41m

平面形態　楕円形？

確認・調査　調査区南側平坦面に位置する。Ⅶ層上面で遺構確認を行ったところ、黒褐色土の広がりが検出された。広がりは半楕円を呈して調査区外に延びていた。全面を掘り下げて断面を調査区境界で確認した。碗状を呈する断面形を認め、土坑と判断した。遺物は出土していない。

覆　　土　Ⅶ層パミスの混じる黒褐色土の単層である。南側は削平部分と連続している。掘り込み面はＶ層中～下位である。

時　　期　掘り込み面から、削平時期に近い縄文時代前期前半とみられる。

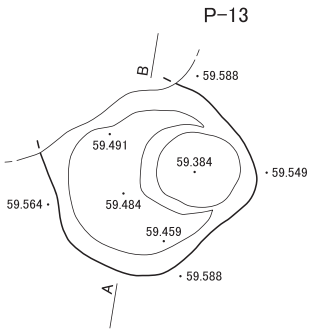
P-15　（図Ｖ－43、表Ｖ－２・５、図版 42）

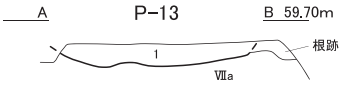
位　　置　L・M20 区　　**規　　模**　1.27×0.62 ／ 0.71×0.27 ／ 0.39m

平面形態　楕円形

確認・調査　調査区北側斜面、北盛土周辺に位置する。Ⅶ層上面で遺構確認中、黒色土の広がりを検出した。広がりの輪郭は明瞭であった。半截すると明瞭な碗状の断面形を確認したので土坑と判断した。平面形は坑口と坑底ともに長円形に近い楕円形。坑底は概ね平坦で壁は長軸斜面に向かう部分で

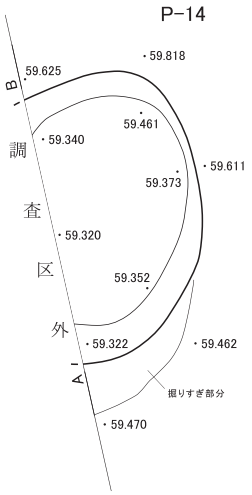
P-13

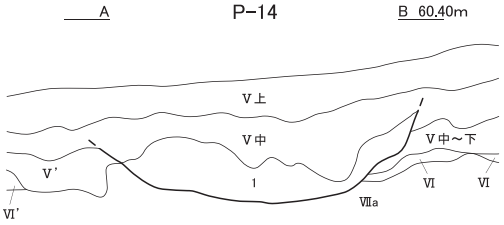




1　7.5YR2/1　黒（粘性なし　しまりなし）20㎜以下の Ta-d2 パミスまじる　砂混土　層界やや画然

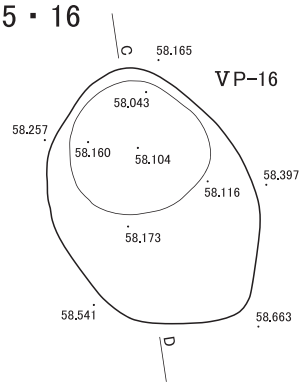
P-14

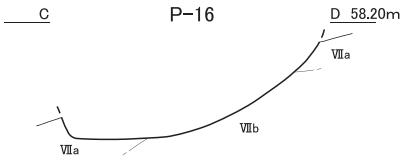


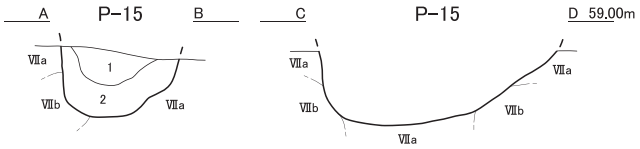


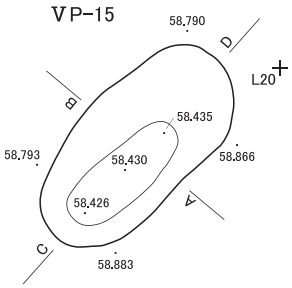
1　10YR2/2　黒褐（粘性なし　しまりなし）20㎜以下の Ta-d2 パミス 20%まじる　砂混土　層界画然

P-15・16





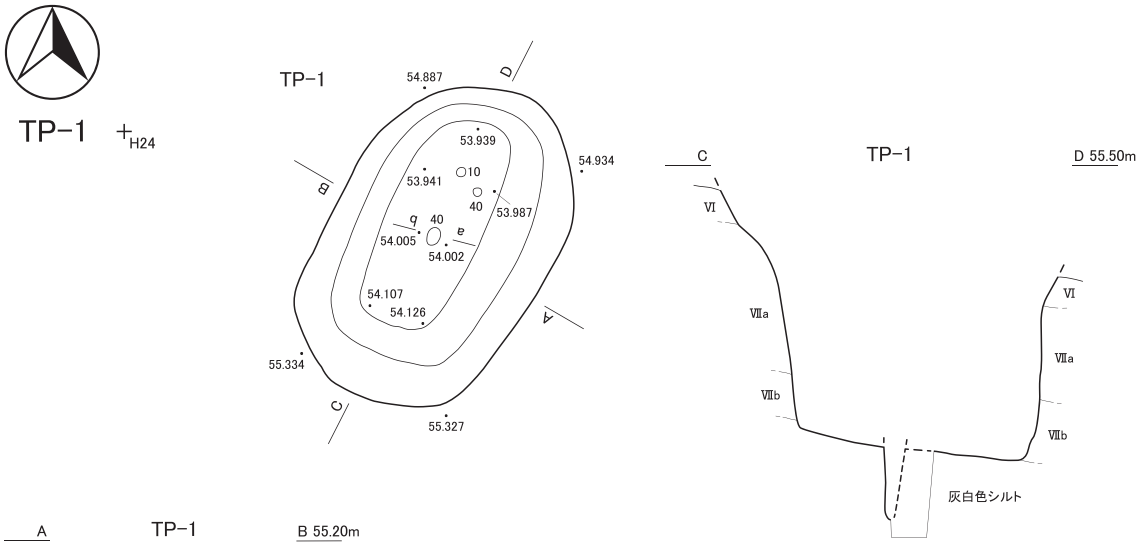


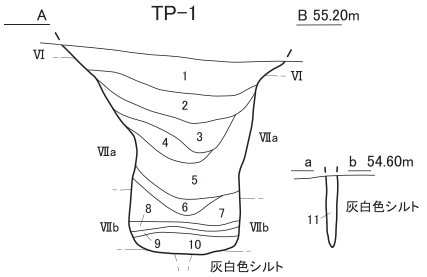


1　7.5YR2/1　黒
（粘性なし　しまりなし）20㎜以下の Ta-d2 パミス 20%・焼骨片少量まじる　砂混土　層界やや画然
2　7.5YR2/1　黒
（粘性なし　しまりなし）20㎜以下の Ta-d2 パミス 30 ～ 40%・焼骨片少量まじる　砂混土　層界画然

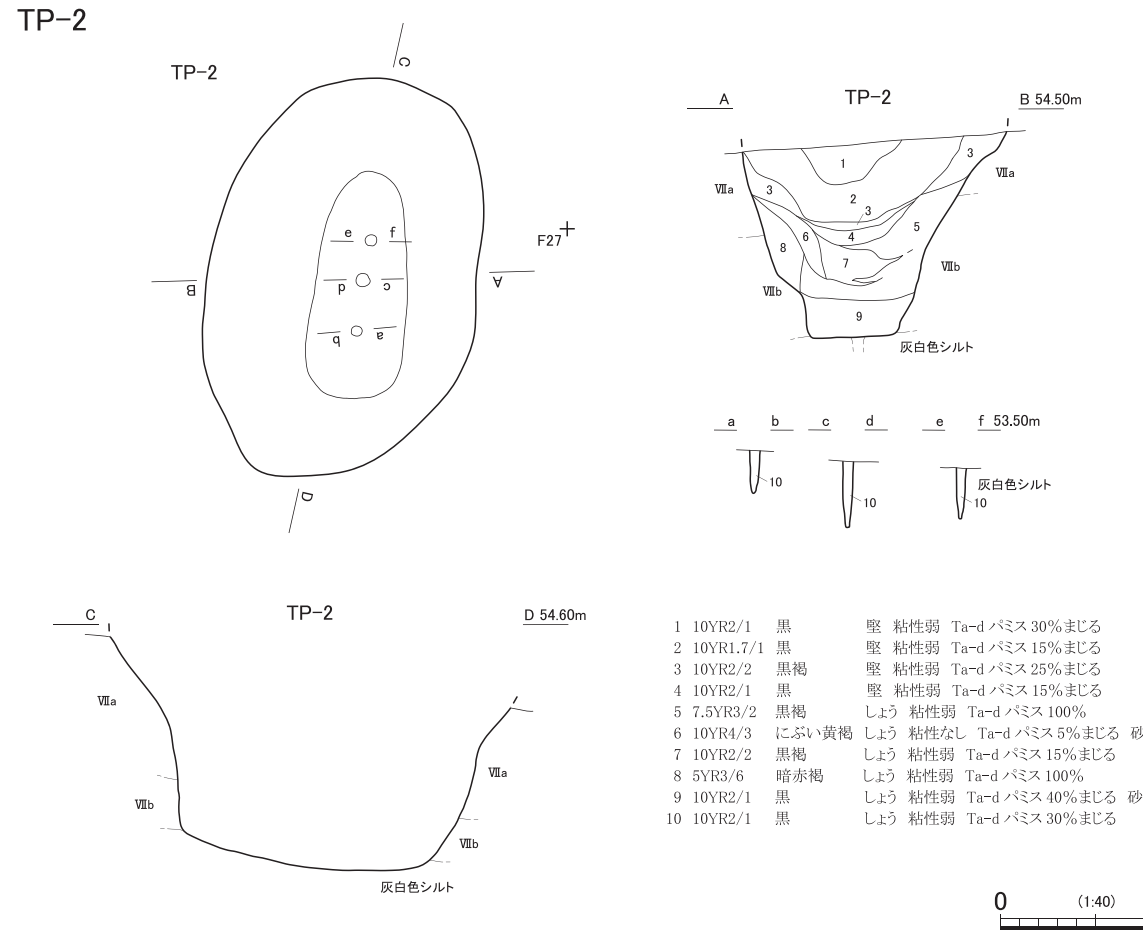
0　(1:40)　1m

図Ⅴ－43　P-13～16





1	V≫VII	7.5YR1.7/1	黒	（粘性なし しまりなし）	15 ㎜程度の Ta-d2 パミス 30%斑状にまじる 砂混土
2	VI≫V≫VII	7.5YR2/2	黒褐	（粘性なし しまりなし）	15 ㎜程度の Ta-d2 パミス 20%斑状にまじる 砂混土
3	V+VI	7.5YR1.7/1	黒	（粘性なし しまりなし）	砂質土
4	V+VII	7.5YR2/1	黒	（やや粘性あり しまりなし）	20 ㎜以下の Ta-d2 パミス 50%斑状にまじる 砂混土
5	VII>VI	7.5YR2/2	黒褐	（粘性なし しまりなし）	黒褐色土 20%斑状にまじる 砂混土
6	V>VI	7.5YR2/1	黒	（やや粘性あり しまりなし）	10 ㎜以下の Ta-d2 パミス 30%まじる 砂混土
7	VII≫VI	7.5YR3/4	暗褐	（粘性なし しまりなし）	黒色土 10%まじる 砂混土
8	V	7.5YR1.7/1	黒	（粘性なし しまりなし）	＝Ｖ層 砂混土
9	VII≫VI	7.5YR3/4	暗褐	（粘性なし しまりなし）	黒色土 10%まじる 砂混土
10	V+VII	7.5YR2/1	黒	（粘性なし しまりなし）	5 ㎜以下の Ta-d2 パミス 40%まじる 砂混土
11	V≫VII	7.5YR2/1	黒	（粘性なし しまりなし）	Ta-d2 パミス 10%まじる ボソボソ



1	10YR2/1	黒	堅	粘性弱	Ta-d パミス 30%まじる
2	10YR1.7/1	黒	堅	粘性弱	Ta-d パミス 15%まじる
3	10YR2/2	黒褐	堅	粘性弱	Ta-d パミス 25%まじる
4	10YR2/1	黒	堅	粘性弱	Ta-d パミス 15%まじる
5	7.5YR3/2	黒褐	しょう	粘性弱	Ta-d パミス 100%
6	10YR4/3	にぶい黄褐	しょう	粘性なし	Ta-d パミス 5%まじる 砂
7	10YR2/2	黒褐	しょう	粘性弱	Ta-d パミス 15%まじる
8	5YR3/6	暗赤褐	しょう	粘性弱	Ta-d パミス 100%
9	10YR2/1	黒	しょう	粘性弱	Ta-d パミス 40%まじる 砂まじり
10	10YR2/1	黒	しょう	粘性弱	Ta-d パミス 30%まじる

図Ｖ－44　TP-１・２

緩やかな他は急である。

遺物出土状況　覆土から、石斧加工品、石斧再加工品が各１点、たたき石が１点、礫片４点（0.3kg）が出土している。

覆　　土　２層に分層した。Ⅶ層パミスが若干混じる黒色土で構成されている。

時　　期　不明であるが、覆土の色調、M 層起源とみられる遺物の存在から、盛土構築以降、Ta-c 降下以前の縄文時代後期頃の可能性がある。

P-16　（図Ⅴ－43、表Ⅴ－２、図版 42）

位　　置　M20 区　　**規　　模**　1.44×1.04 ／ 0.70×0.57 ／ 0.27m

平 面 形 態　楕円形

確認・調査　調査区北側斜面、北盛土範囲内に位置する。Ⅶ層上面で遺構確認調査を行っていたところ、黒褐色土の広がりを確認した。広がりの形状がやや歪で不明瞭であったため、自然攪乱と判断し掘り下げたが、結果明瞭な壁、坑底を検出したため、土坑として記録を作成することとした。平面形は坑口で楕円形、坑底では円形を呈する。坑底は平坦で、壁は斜面上手に向かって緩やかとなっている。出土遺物の有無は不明である。

時　　期　不明であるが、Ta-c 降下前の縄文時代のものとみられる。

（５）Ｔピット

TP-１　（図Ⅴ－44、表Ⅴ－２・５、図版 42・43）

位　　置　G・H23 区　　**規　　模**　1.82×1.17 ／ 1.18×0.53 ／ 1.15m

平 面 形 態　楕円形

確認・調査　調査区北側斜面に位置する。Ⅶ層上面で遺構確認調査を行っていたところ、黒色土の広がりを検出した。広がりの形状は明瞭な楕円形で、遺構である可能性が高かったため、斜面の下にあたる北側を半截した。結果、平坦な坑底とＹ字状を呈する断面形を確認したのでＴピットと判断した。坑底を精査すると、杭とみられる斑点状の黒褐色土を３か所確認した。土坑のほぼ中央にやや大きな１か所と北側に寄る小規模な２か所であった。土層の記録は中央の１か所のみ作成した。他の２か所は深さのみ記録した。

遺物出土状況　覆土から礫・礫片 22 点（1.2kg）出土している。

覆　　土　11 層に分層した。レンズ状の自然堆積（１～３、８層）と、崩落または流れ込んだ土とみられる層（４～７、９、10 層）と杭の痕跡（11 層）である。

TP-２　（図Ⅴ－44、表Ⅴ－２・５、図版 43）

位　　置　E・F27 区　　**規　　模**　2.18×1.45 ／ 1.15×0.51 ／ 1.04m

平 面 形 態　楕円形

確認・調査　調査区北西部の斜面に位置する。Ⅶ層上面で遺構確認を行ったところ、黒色土の広がりを検出した。広がりは明瞭な楕円形を呈していたことから、Ｔピットを想定し北側を半截した。結果平坦な坑底、急激に立ち上がる壁を確認することができたので、Ｔピットと判断した。平面形は坑口、坑底ともに楕円形。坑底は地形に沿って傾斜する。壁は短軸方向では崩落によるためか大きく開く。長軸方向ではＹ字状を呈している。坑底を精査すると杭跡が３か所検出された。坑底中心長軸上にほぼ等間隔に並ぶ。

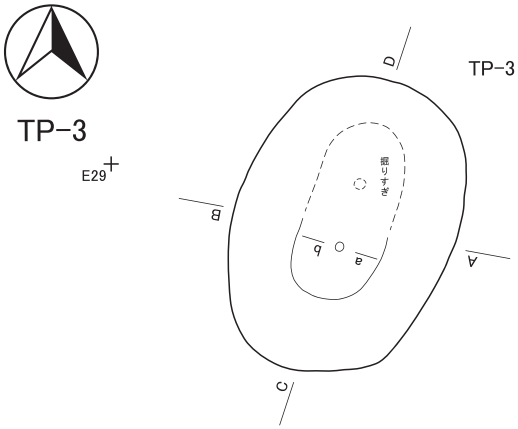
遺物出土状況　覆土から、礫・礫片８点（0.6kg）が出土している。

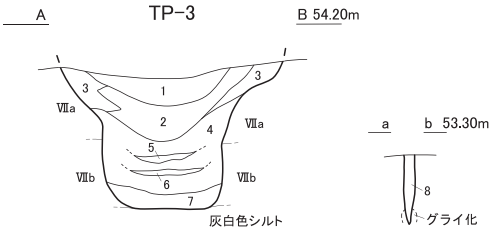
覆　　土　10 層に分層した。自然堆積（２、４層）と、流れ込み（１、３、９層）と壁の崩落（５～８層）とみられる堆積で構成されている。

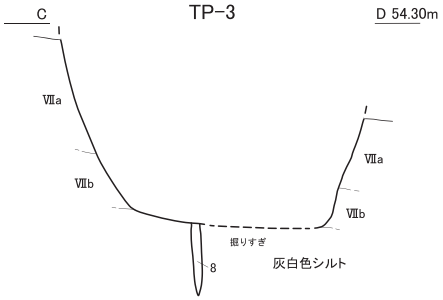
TP-3　（図Ｖ－45、表Ｖ－２・５、図版 44）
位　　置　D・E28 区　　**規　　模**　1.63×1.16 ／ 0.97×0.46 ／ 0.80m
平面形態　楕円形
確認・調査　調査区北西部の斜面に位置する。Ⅶ層上面で遺構確認を行っていたところ、黒色土の広がりを確認した。広がりは明瞭な楕円形を呈していたため、Ｔピットを想定して斜面の下方にあたる北側を半截した。結果Ｙ字状を呈する断面形を確認し、Ｔピットと確定した。半截時に坑底を掘りぬいている。坑底で杭跡を１か所検出した。坑底から 36cmの深さで先端が尖る。平面形の長軸上にあり、位置関係から、掘りぬいた部分にもあった可能性が高い。
遺物出土状況　覆土から、礫片１点（0.05kg）出土している。
覆　　土　８層に分層した。自然堆積（１、２、５、６、８層）と、流れ込み（３層）と壁の崩落（４層）とみられる堆積で構成されている。
TP-4　（図Ｖ－45、表Ｖ－２・５、図版 44）
位　　置　I21 区　　**規　　模**　1.68×1.13 ／ 1.07×0.48 ／ 0.99m
平面形態　楕円形
確認・調査　調査区北側斜面に位置する。Ⅶ層上面で遺構確認を行っていたところ、黒色土の広がりを検出した。広がりは明瞭な小判形を呈しており、形状からＴピットであることが予想された。斜面下方にあたる北側を半截すると平坦な坑底と急激に立ち上がる壁を確認できたので、Ｔピットと確定した。平面形は坑底ともに小判形を呈するが、斜面に合わせて傾斜している。坑底を精査すると杭跡を２か所検出した。長軸上、中心を外して並んでいる。坑底からそれぞれ 32、45cm打ちこまれている。
遺物出土状況　覆土から、砥石片、石斧破片、フレイク、有意の礫（蛇紋岩）各１点、礫片 44 点（2.92kg）が出土している。
覆　　土　６層に分層した。自然堆積（１～３層）崩落または埋戻しの可能性のある堆積（４、６層）、流れ込みか自然堆積（５層）とみられる堆積で構成されている。

（６）集石

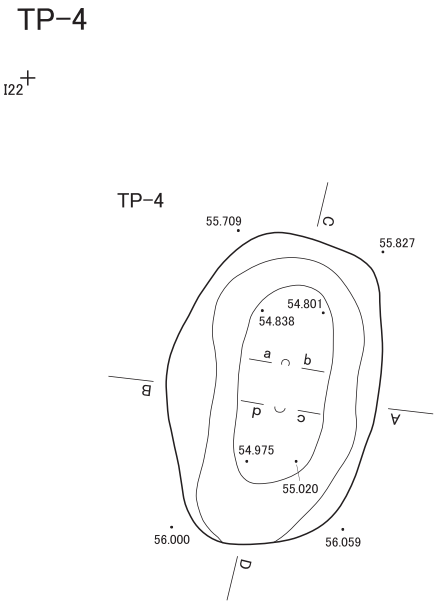
S-17　（図Ｖ－46、表Ｖ－２・５、図版 40）
位　　置　K21・22 区　　**規　　模**　1.10×0.78m
確認・調査　調査区北部斜面、北盛土範囲内に位置する。ＭⅡ層を調査中、骨片の集中する部分を検出した。周囲を精査して集中の範囲を明らかにし、記録を作成して取り上げた。土壌は回収してフローテーション作業を行った。結果Ⅱ群ａ２Ｓ類土器片３点、フレイク 61 点、（頁岩 37 点、黒曜石 23 点、緑色片岩１点）のほか、シカ中節骨２点、ウグイ椎骨３点が得られた。小砂利の集中域である S-18 は北西に 10cmの距離でほぼ接している。
時　　期　検出層位、出土遺物から、縄文時代前期前半とみられる。
S-18　（図Ｖ－46、表Ｖ－２・５、図版 40）
位　　置　K22 区　　**規　　模**　1.08×0.84m
確認・調査　調査区北部斜面、北盛土範囲内に位置する。ＭⅡ層を調査中、小砂利の集中する部分を検出した。周囲を精査して集中の範囲を明らかにし、記録を作成して土壌を回収した。土壌はフローテーション処理を行っている。南東側 10cmの距離に S-17 が位置している。フローテーション選別の結果、砂利の他にⅡ群ａ２Ｓ類土器片３点、フレイク 21 点（黒曜石 12 点、頁岩７点、緑色片岩２点）の他、哺乳綱の焼骨が出土している。

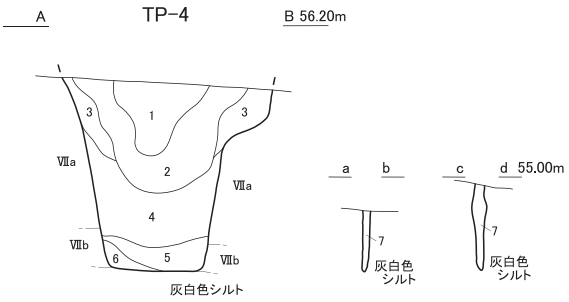




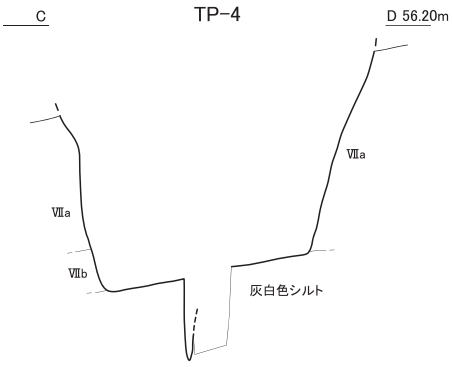


1　10YR1.7/1　黒　　堅　粘性弱　Ta-d パミス 15%まじる
2　10YR2/2　黒褐　堅　粘性弱　Ta-d パミス 25%まじる
3　7.5YR3/4　暗褐　しょう　粘性弱　Ta-d パミス 50%まじる
4　7.5YR4/4　褐　　堅　粘性なし　Ta-d パミス 100%
5　10YR2/2　黒褐　しょう　粘性弱　Ta-d パミス 40%まじる
6　10YR2/2　黒褐　しょう　粘性弱　Ta-d パミス 30%まじる
7　10YR2/1　黒　　しょう　粘性弱　Ta-d パミス 40%まじる
8　10YR2/1　黒　　しょう　粘性弱　Ta-d パミス 30%まじる



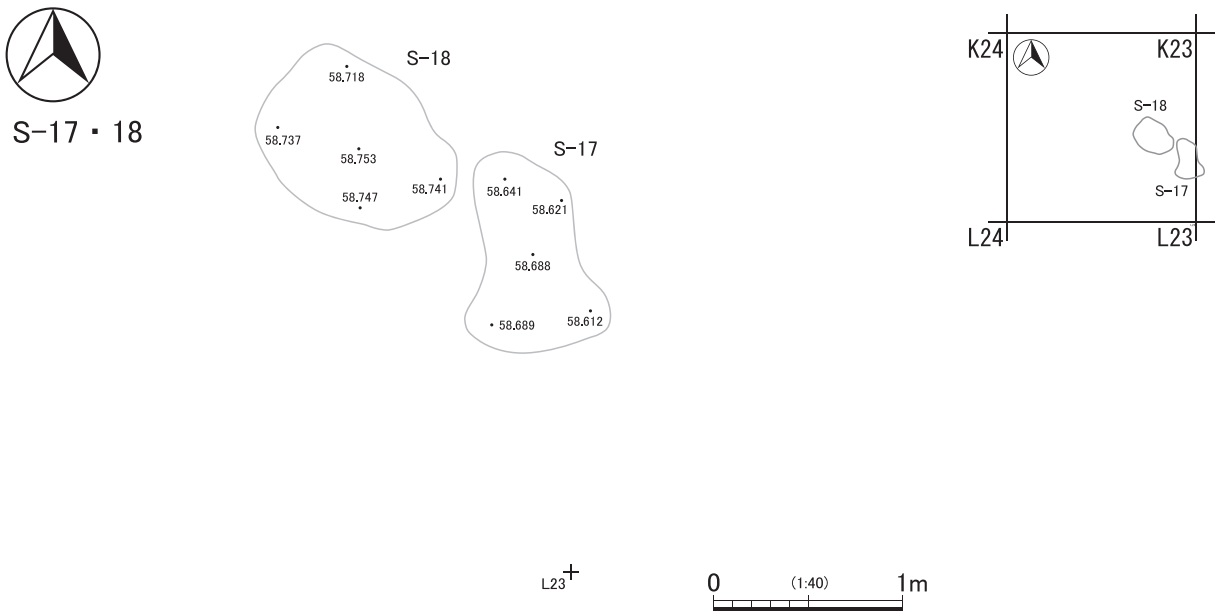


1　5YR1.7/1　黒　　（粘性なし　ややしまりあり）10 ㎜以下の Ta-d_2 パミス 30%まじる　砂混土　層界画然
2　5YR1.7/1　黒　　（粘性なし　ややしまりあり）10 ㎜以下の Ta-d_2 パミス 15%まじる　砂混土　層界画然
3　5YR2/1　黒褐　　（粘性なし　ややしまりあり）5 ㎜以下の Ta-d_2 パミス 10%まじる　砂混土　層界画然
4　5YR2/3　極暗赤褐　（粘性なし　しまりなし）30 ㎜以下の Ta-d_2 パミスで構成される　砂質土　層界画然
5　5YR2/2　黒褐　　（粘性なし　しまりなし）30 ㎜以下の Ta-d_2 パミス 15%まじる　砂混土　層界画然
6　5YR4/3　にぶい赤褐（粘性なし　しまりなし）30 ㎜以下の Ta-d_2 パミスで構成される　砂質土　層界画然
7　7.5YR2/2　黒褐　　（粘性なし　しまりなし）5 ㎜以下の Ta-d_2 パミス 10%まじる　砂混土　層界画然



0　(1:40)　1m

図Ⅴ－45　TP-3・4



図Ⅴ－46　S-17・18

時　　期　検出層位、出土遺物から、縄文時代前期前半とみられる。

３　出土遺物

本節で掲載する遺物は、盛土遺構を含むⅤ層検出遺構と包含層から出土した遺物である。Ⅲ層から出土したものであってもⅤ層相当の遺物とみられるものは含めた。分類ごとに掲載し、出土点数は断りのない限り遺跡出土総点数とした。なお、図中には遺構の出土遺物について遺構名と層位を掲載番号に添えて示した。

（１）土器（図Ⅴ－49～53、表Ⅴ－７、図版 45～49）

Ⅲ層に相当するⅥ、Ⅶ群土器を除き、出土土器の総点数は、8,208 点である。Ⅰ群ｂ４類２点、Ⅱ群ａ１類 44 点、Ⅱ群ａ２類 30 点、Ⅱ群ａ２Ｓ類 7,138 点、Ⅱ群ａ３類 58 点、Ⅱ群ｂ類 104 点、Ⅲ群ａ類 400 点、Ⅲ群ｂ類 52 点、Ⅳ群ａ類 261 点、Ⅳ群ｂ類 59 点、Ⅳ群ｃ類 28 点、Ⅴ群ｂ類 24 点、焼成粘土塊８点である。

Ⅰ群ｂ類土器（図Ⅴ－49-10、11、図版 46）

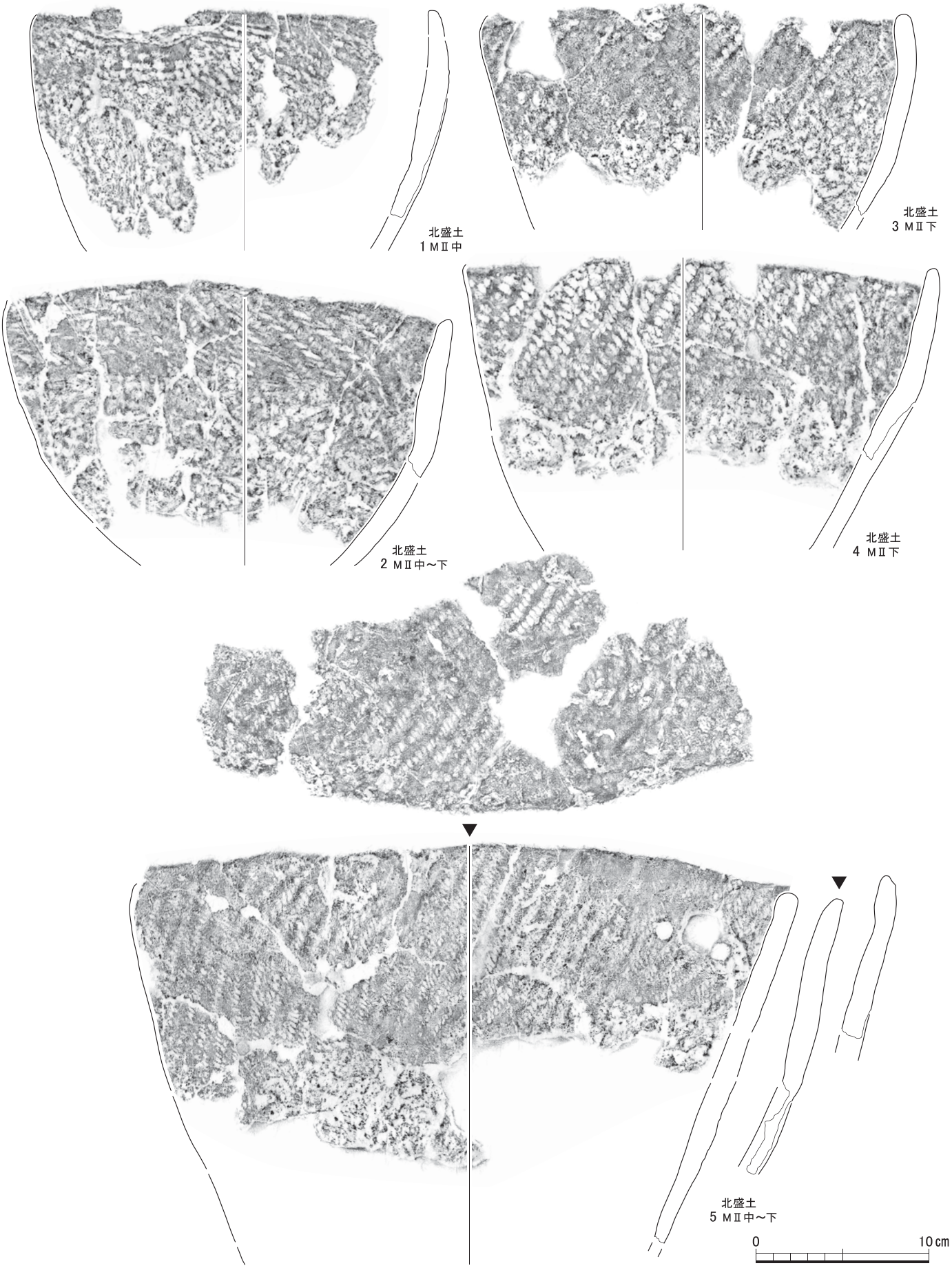
２点出土している。全て図化した。10、11 はともに撚糸文による羽状縄文がつけられる。10 には短縄文が加えられる。11 の胎土は石英、自形輝石等の砂粒が多く混じる。東釧路Ⅳ式である。

Ⅱ群ａ１類土器（図Ⅴ－49-12～17、図版 46）

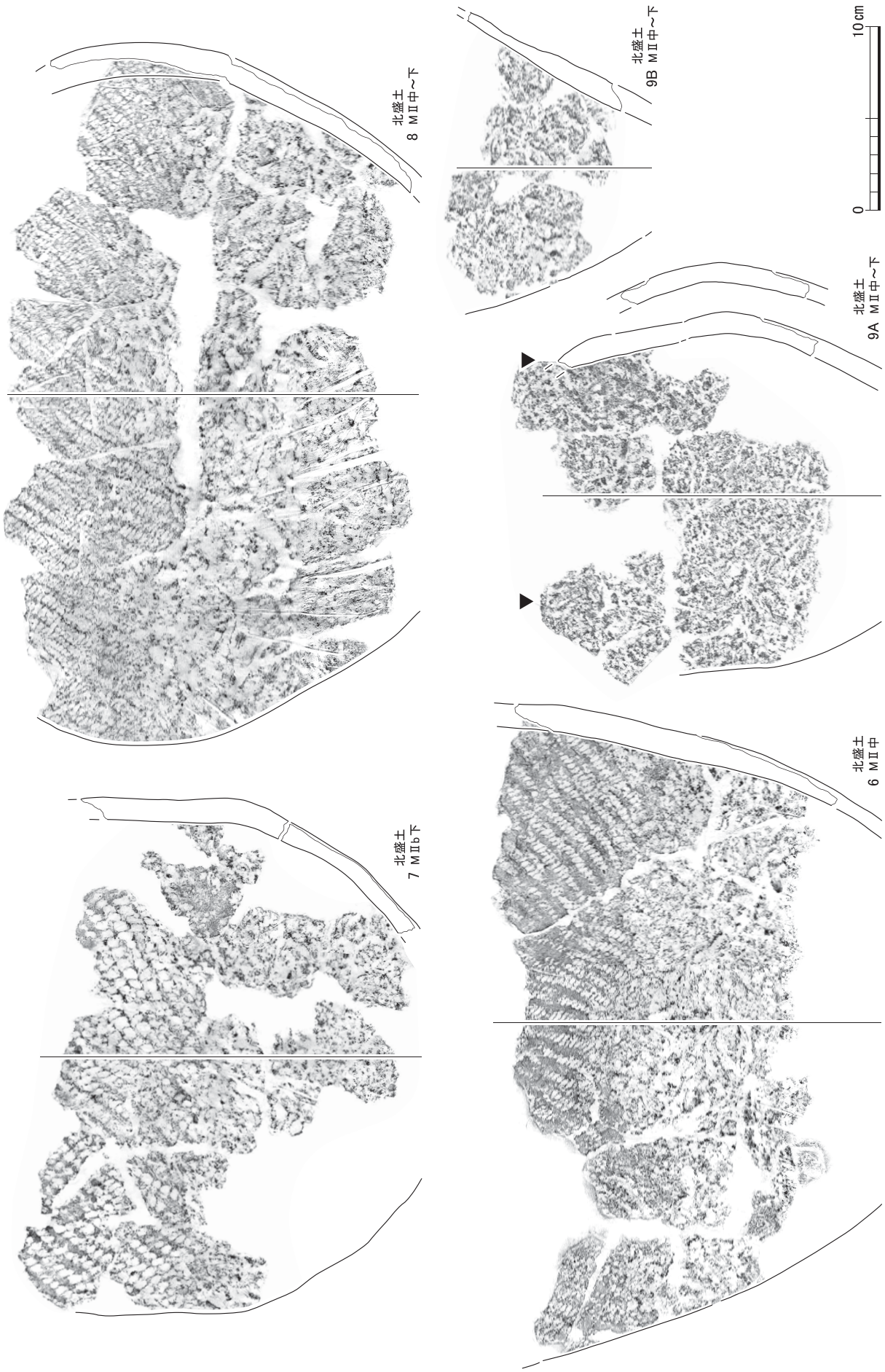
12～17 は綱文式に相当するもの。12～16 は比較的太い RL 斜行縄文を地文とする。胎土には多量の繊維の他、僅かに砂粒、細粒の岩片等が混じる。15、16 は地文の施文後、節をすり消すように条がなで調整されている。17 は組紐回転文。この１点のみ出土している。

Ⅱ群ａ２類土器（図Ⅴ－47～51-１～９・18～67・84、図版 45～48）

主に斜行縄文のみが施文される。ａ１類との区分は、地文の条の角度で分けた。ａ１類がほぼ横走するのに対し、ａ２類は 25° 以上の角度があるものとした。さらに、ａ２類のうち、胎土に蛇紋石が入り黒色～灰色に焼成され、滑りのある質感を呈し、見かけ比重が軽いものをａ２Ｓ類とした。ａ２Ｓ類がほぼ全てを占める。以下記載のないものは、蛇紋石を含むａ２Ｓ類である。



図Ⅴ－47　Ⅱ群ａ２Ｓ類復元土器（１）



図Ⅴ－48　Ⅱ群ａ２Ｓ類復元土器（２）

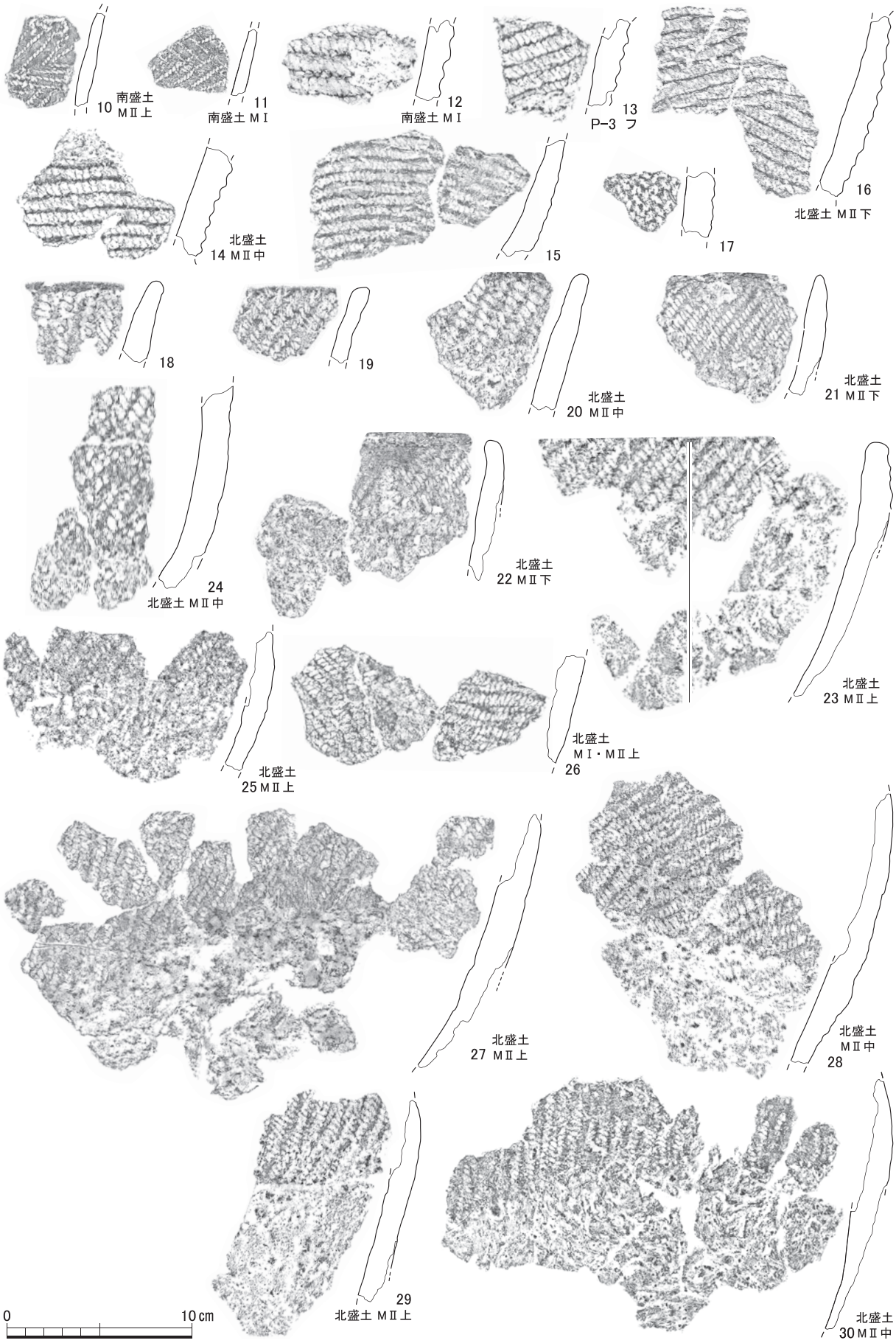
１、２は特殊な地文。器形は底部を欠くいびつな碗形で、手こね様の粗い整形がなされる。１は撚糸文が地文とみられるが、押引文の可能性のある部分が認められる。押引文は３～４本単位で弧状を呈しているが、判然とせず、粗い撚糸かもしれない。２はＬとＲの撚糸をＲに合撚した縄文を地文とする。１、２ともに地文は口縁から５～６㎝の範囲にしか認められない。

７、８、18～30は斜行縄文が施文される。７、８は器形が復元できた。いずれも半周程度の胴部片で、実測部分を反転させた推定復元である。７は胴部中央で器壁は直立するが、底部は急激に丸みを帯びる。８は胴部全体が丸く、全体としてつぶれた球体を呈する。地文は７がLR斜行縄文。８が直前段反撚LLR縄文である。18～23は口縁部。19の口唇端部が明瞭に平坦な他は、手こね様の粗い整形によるものである。23は器形がわかるもので、碗形を呈する。地文は全て粗いLR斜行縄文。胎土は19のみ蛇紋石を含まず、自形高温石英を含む透明な石英粒が多量に混じる。24～30は胴部片。地文は26が直前段反撚LLR、判然としないが27、29、30は同様とみられる。他は比較的粗いLR斜行縄文である。

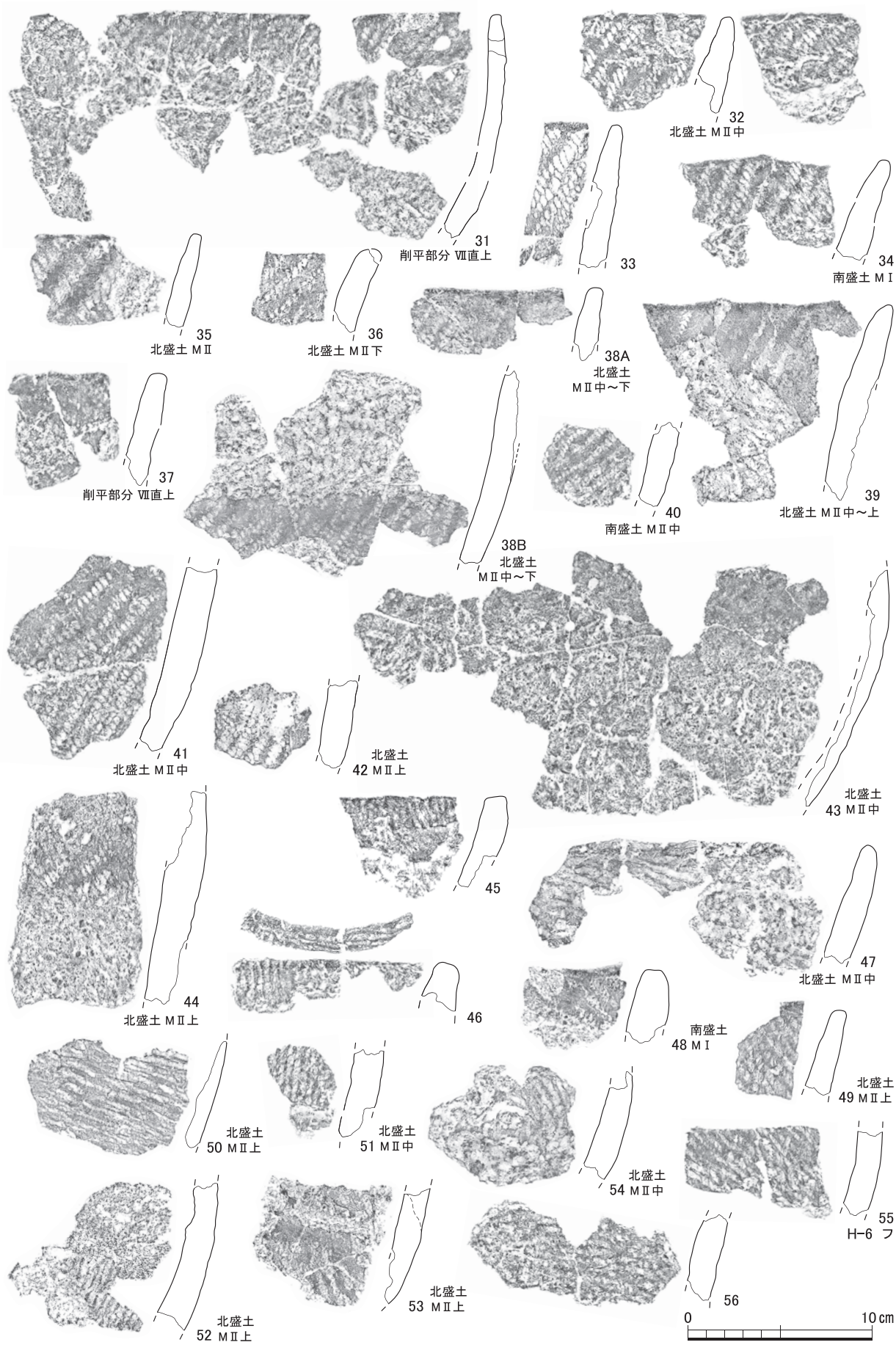
３～６、31～44は斜行縄文施文後、顕著に器面調整される。３～６は器形が復元できたもの。３、４は概ね碗形。５、６は底部に向かい急角度ですぼまる。いずれも手こね様の粗い整形である。地文は全て粗いLR斜行縄文。３はほとんどすり消されており不明瞭。５、６はやや条の間隔があく。31～39は口縁部。口唇の形状は31、32に若干平坦な面が作り出されている他は、概ね手で大雑把に成形されたのみの緩やかな丸みを帯びる形状である。35、39はやや先端が細くなる。地文は37にRLの可能性があるほかは全てLR斜行縄文。35の原体は他と比較し粗く太い。全て縄文はその後の調整により条の間隔があくか不明瞭となっている。40～44は胴部片。地文は同様にLR斜行縄文が調整され、条の間隔があくもの。41、44は内面も丁寧な調整がなされる。

９、45～67は撚糸文とそれに類する地文、原体不明、無文のもの。45～49は撚糸文の口縁部。45、46は同一個体の可能性がある。口唇端部の平坦面にも撚糸文が付けられる。47～49はなで消され不明瞭。口唇の形状は平坦面が作られる（45、46、48）か、比較的丁寧な整形によるもの（49）、粗い整形のもの（47）がある。50～56は胴部片。47、49、50、55は無節の撚糸文かもしれない。57～61はなで消されて原体が不明瞭となる口縁部。57、58は撚糸文。同一個体かもしれない。59は短刻線状、60は小波状の条が認められるが、原体はわからない。口唇はいずれも手こね様の粗い作りである。62～67は無文。器表面はなで調整されるが粘土の起伏のみが認められる。いずれも粗い作りである。９は一括土器701として取り上げた遺物であるが、復元したところ接合するものの土器の形状をなさない。しかし明らかに土壌とは異なる胎土で、炭化した焼成粘土であるので、土器として図化したものである。器表面には調整や施文はされず、胎土混入物の繊維や粘土が露出した状態で、器形は環状を呈するものの土器とはかけ離れている。胎土は蛇紋石が混じるが、他と比較し明らかに量が少ない。

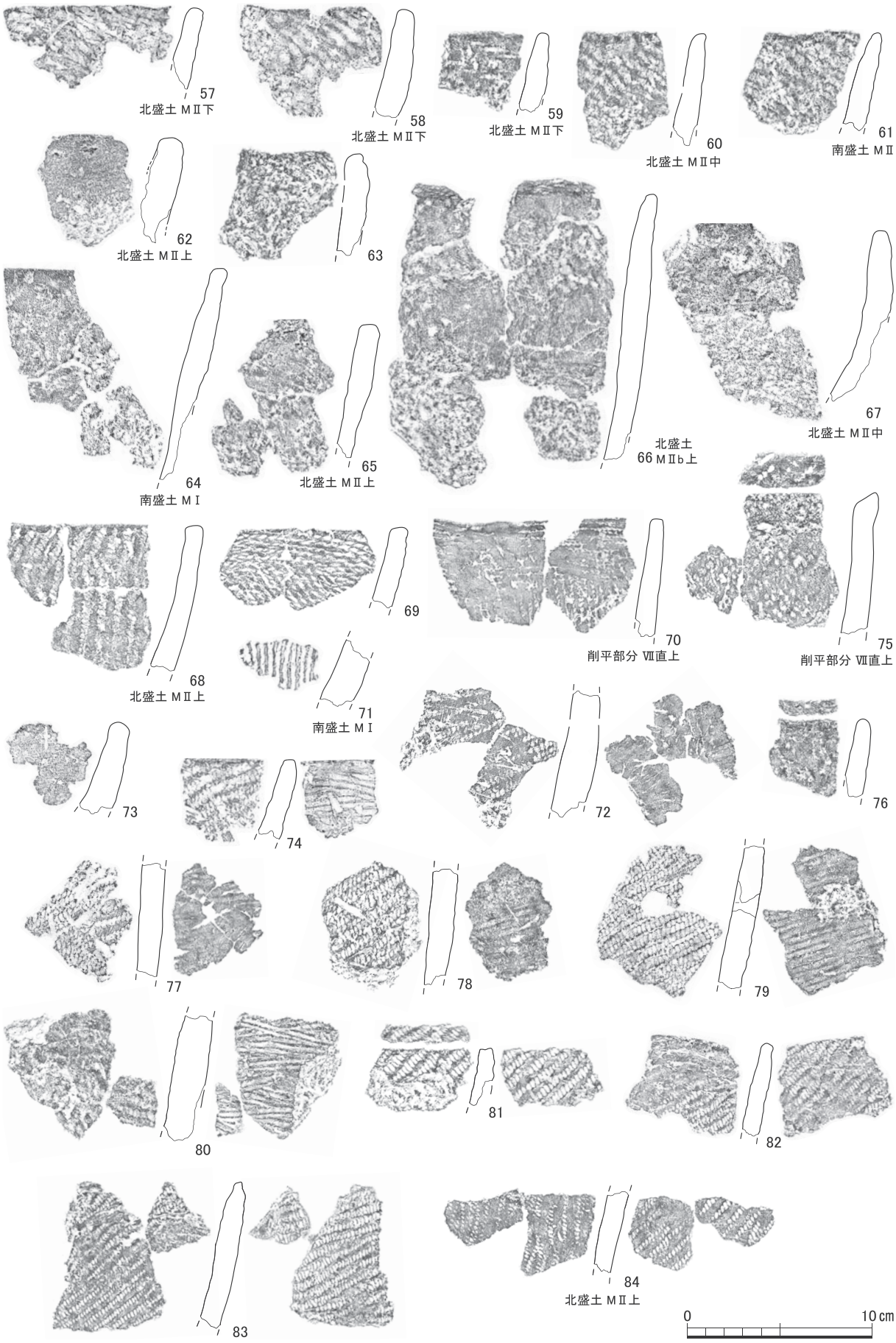
84はａ２類である。LR斜行縄文が内外面に施文される胴部片。施文後平滑に調整される。胎土は繊維がなく、一段Ｌの撚糸が器体に平行して多量に含まれる。焼成は良好で器表面は褐色を呈する。胎土中の撚糸の存在から本類に含めた。



図Ⅴ－49　Ⅰ群ｂ類～Ⅱ群ａ２類土器（１）



図Ⅴ－50　Ⅱ群ａ２類土器（２）



図Ⅴ－51　Ⅱ群ａ２類土器（３）・Ⅱ群ａ３類土器・Ⅱ群ｂ類土器（１）

Ⅱ群 a ３類土器（図Ⅴ－51-68～72、図版 48）

68～72 は胎土に蛇紋石を含まず、黄褐色～黄橙色で良好な焼成を呈するもの。68 は口縁部が斜行、胴部が縦走する LR 縄文。条の間隔が開く。69、70 は口縁部に細い撚糸文が横走、胴部にかけて斜行（69）、縦走（70）する。68～70 の器表面は丁寧に整形、調整され、口唇端部は明瞭な平坦面が作られている。71、72 は胴部片。71 は撚糸文、72 は撚糸文もしくは条の間隔があく LR 斜行縄文。72 の内面は条痕が認められる。69～72 の胎土には、石狩市上花畔 1 遺跡で「センイ」とされる茎状の混和物が混じる（石橋孝夫 1992）。

Ⅱ群 b 類土器（図Ⅴ－51、52-73～83・85～90、図版 48）

73～90 を本類とした。73 は無文の口縁部。胎土には「センイ」が多量に混じる。74 は地文が LR 斜行縄文。内面には条痕がつけられる。75 は口縁下に 1 条の縄線がめぐらされる。地文は LR 斜行縄文で、口縁頂部にも施文される。施文後に器壁は調整される。76 は無文の口縁部。小型のコップ形とみられる。焼成状態の類似から本類に含めた。77～80 は地文が斜行縄文で内面に条痕がつくものをまとめた。77～79 の地文は LR、80 は RL 縄文。79 の中央には補修孔がある。81～85 は内外面に同一原体による縄文がつけられるもの。81～83 は口縁部。81 は口唇端部にも LR 斜行縄文が施文される。82 は口唇と口縁部のみ無文となる。83 はやや条の間隔のあく LR。口唇が細くなる器形。85 は胴部片。条の間隔の開く LR。内面底部付近まで施文される。86～88 は複節の斜行縄文がつく。86 は肥厚帯がある。87 は内面が平滑に調整される。89 は格子目状撚糸文。胎土は高温石英と雲母が混じるいわゆる「富良野盆地系」土器である。90 は結束第 2 種斜行縄文である。73、74、77～80 は上花畔 2 群。75、81～83・85 は植苗式。86～89 は円筒下層 b～c 式に相当すると判断した。

Ⅲ群 a 類土器（図Ⅴ－52-91～103、図版 49）

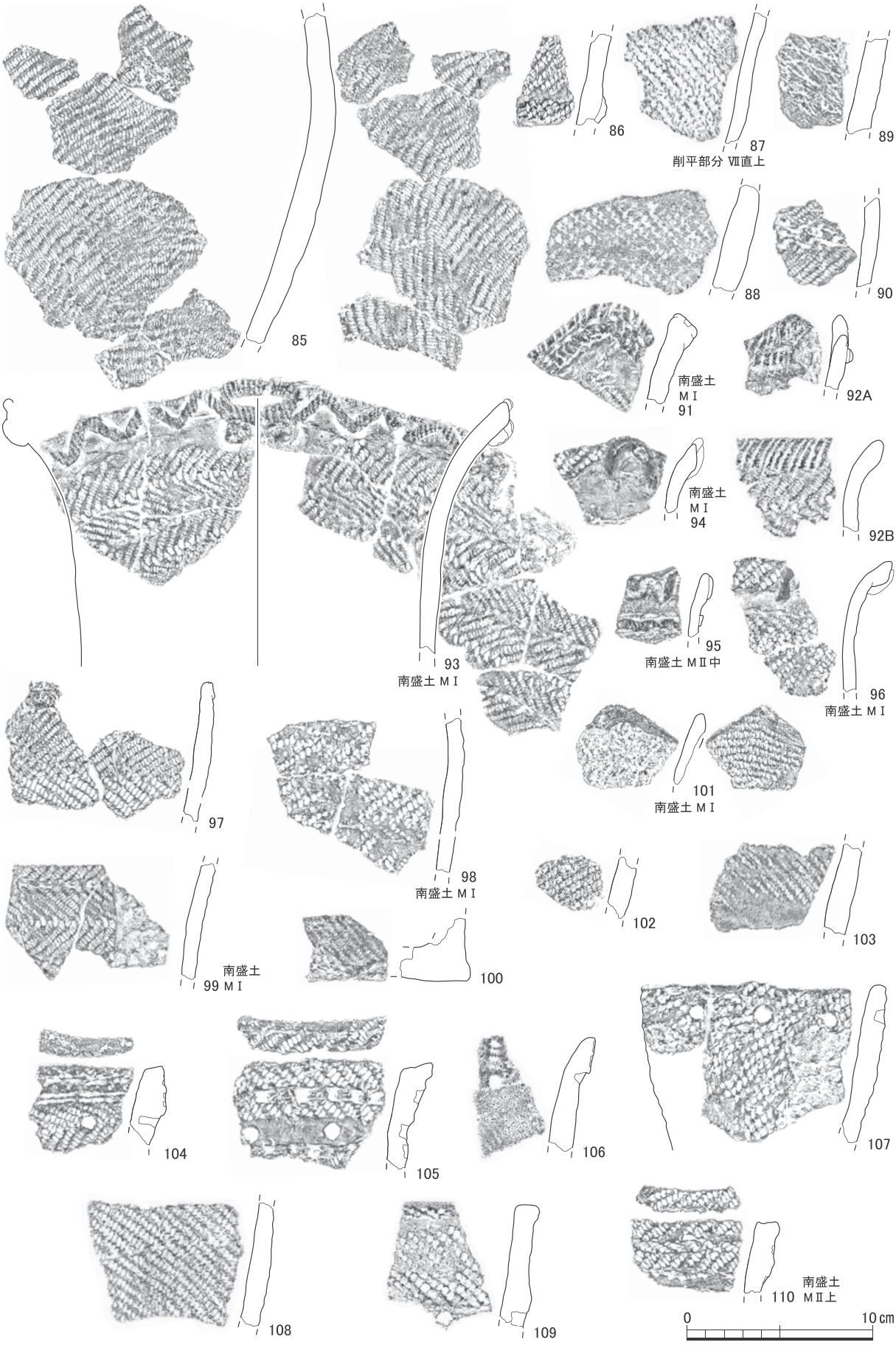
91、92 は山形突起がつく土器。口唇に貼付帯に縄線の刻み、91 には刺突文による文様がつけられている。93～96 は平縁とみられる。93 は口縁部がラッパ状に広がる器形が復元できた。口唇には貼付帯が鋸歯状に巡り、おそらく 4 か所となる円形文と、対となるボタン状の貼付けが添えられている。貼付帯は細い縄線で刻みがつけられている。地文は結束第 1 種羽状縄文。94～97 は口縁部の破片。貼付帯による文様がつけられる。97 は 2 種の原体による羽状縄文。口唇の形状は判然としない。別分類の可能性があるが、色調等の類似から本類に含めた。98～100 は胴部、底部片。98、99 は結束第 1 種羽状縄文を地文とする。101～103 は便宜上ここに含めた。101 は山形突起部分。表面は剥落が激しいが、内面は RL 斜行縄文が施文されている。102 は LRL 複節の縄文、103 は RL 斜行縄文。底部付近の破片である。91～100 は円筒上層 b 式に相当するものとみられる。

Ⅲ群 b 類土器（図Ⅴ－52-104～108、図版 49）

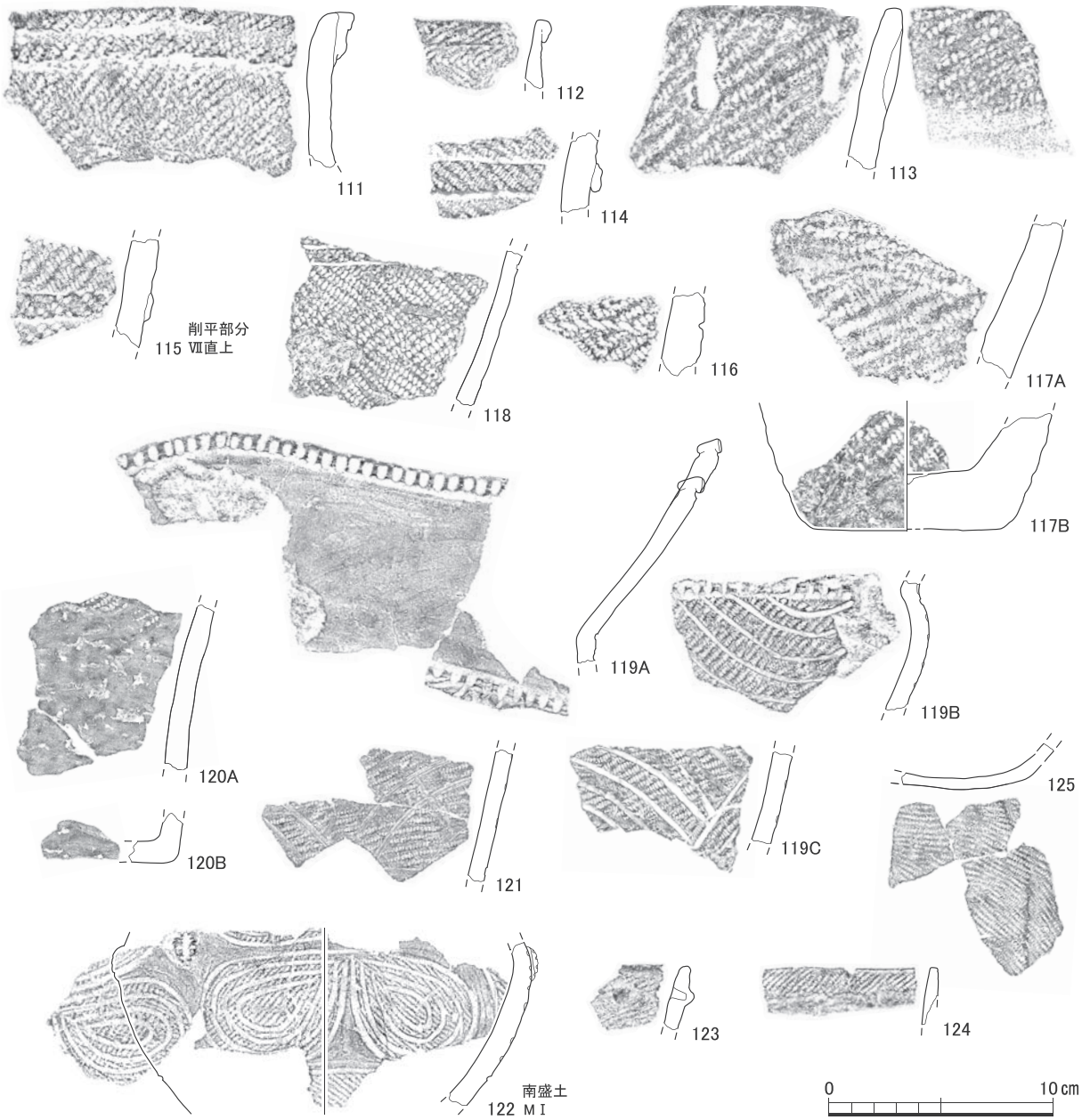
104～106 は押引文と円形刺突文がつく口縁部。105 は口縁下に縄文を磨消した無文面上に円形刺突文が囲繞する。107 の地文は RLR 複節の縦位施文。口縁に円形刺突文のみが巡る。108 は胴部。

Ⅳ群 a 類土器（図Ⅴ－52、53-109～117、図版 49）

109～113 は口縁部。109 は明瞭な口縁端面がある。口縁下に刺突文が付く。胎土は高温石英と雲母が混じるいわゆる「富良野盆地系」である。110、111 は端部が肥厚し台形状となる口縁部。110 は口縁に沿って縄線文が 1 条、111 はすり消された無文帯がつけられている。111 の地文は LRL 複節。112 は小形土器。折り返し口縁である。113 は棒状工具による垂下短刻線が刻まれている。地文の LR 縄文は口唇、内面にもつけられている。114～117 は胴部、底部片。114、115 は貼付帯部分。116 は縄線。117 は底部付近。地文は LR で、胎土には多量の細粒砂が混じる。113 と同一個体の可能性がある。109～112、114～116 は余市式。113、117 はタプコプ式に相当すると判断した。



図Ⅴ－52　Ⅱ群ｂ類土器（２）・Ⅲ群土器



図Ⅴ－53　Ⅳ・Ⅴ群土器

Ⅳ群 b 類土器（図Ⅴ－53-118～121、図版 49）

118 は沈線文が付く胴部片。地文は二種の原体による羽状縄文である。119A～C は波状口縁の深鉢。A は屈曲部より上半部分。内外面は磨き上げられ無文である。切出状の口唇部で内面側には段がつけられる。口唇端部と胴部境界の屈曲部には沈線の刻みが施されている。B、C は丸みを帯びる胴部片。LR 縄文地に 4 ～ 5 本単位の弧状沈線文が描かれている。120 は底部付近の破片。磨き上げられ無文であるが、破片上部に LR 縄文が認められる。121 は浅い沈線による文様が施文される。

Ⅳ群 c 類土器（図Ⅴ－53-122・123、図版 49）

122 は注口もしくは壺。磨消縄文で多重沈線による文様が描かれ、コーヒー豆状の貼瘤が付けられる。123 は深鉢口縁部。IO 突瘤文が付く。

Ⅴ群ｂ類土器（図Ⅴ－53-124・125、図版 49）

124、125 は細かい LR 縄文を地文とする。124 は口縁部。125 は鉢の底部付近である。いずれも精製胎土で整形も極めて丁寧である。同一個体の可能性もある。

（２）石器等概要

石器等の出土総点数は 35,129 点。礫石器が多く、たたき石が 4,409 点、砥石が 1,823 点、加工痕ある礫が 1,059 点、石皿が 843 点、北海道式石冠が 796 点等となっている。剥片石器はつまみ付きナイフが 1,032 点と突出し、石鏃は 587 点、スクレイパー 371 点、石槍 221 点等となっている。石斧関連遺物も多数出土しており、合計で 4,873 点である。うち 3,467 点はフレイクが占めている。剥片石器、石斧類、礫石器に分けて述べる。なお、石鏃のうち図Ⅴ－55-45、50 は続縄文時代、Ⅲ層に属する遺物である。

（３）剥片石器（図Ⅴ－54～64　表Ⅴ－８、図版 50～91）

石鏃（図Ⅴ－54・55-１～56、図版 50）

破片も含め 587 点出土している。五角形のもの（Ⅰ）、三角形のもの（Ⅱ）、有茎（Ⅲ）、木葉状（Ⅳ）、剝片に石鏃様の細部調整がされるもの（Ⅴ）、上記以外のもの（Ⅵ）に区分し、数量の多い三角形状には詳細な形態で３つに区分した。側縁が直線（１）、側縁に膨らみがあるもの（２）、幅広の形態（３）である。さらに基部の形状を凹基（a）、平基（b）、凸基（c）の３つに区分した。大分類の分類別点数は、Ⅲが 33 点、Ⅳが９点、Ⅴが 29 点、Ⅵが５点、Ⅰが６点で、破片等で分類不明なものが 44 点である。461 点出土したⅡの細分については本文中で点数の詳細を述べる。

１は五角形を呈するもの（Ⅰ）。６点出土している。出土石鏃中で最も小型で 1.4cm、0.2g である。薄手の剝片に入念な細部調整がなされている。半透明の黒曜石製である。

２～45 は三角形を呈するもの（Ⅱ）。461 点出土している。

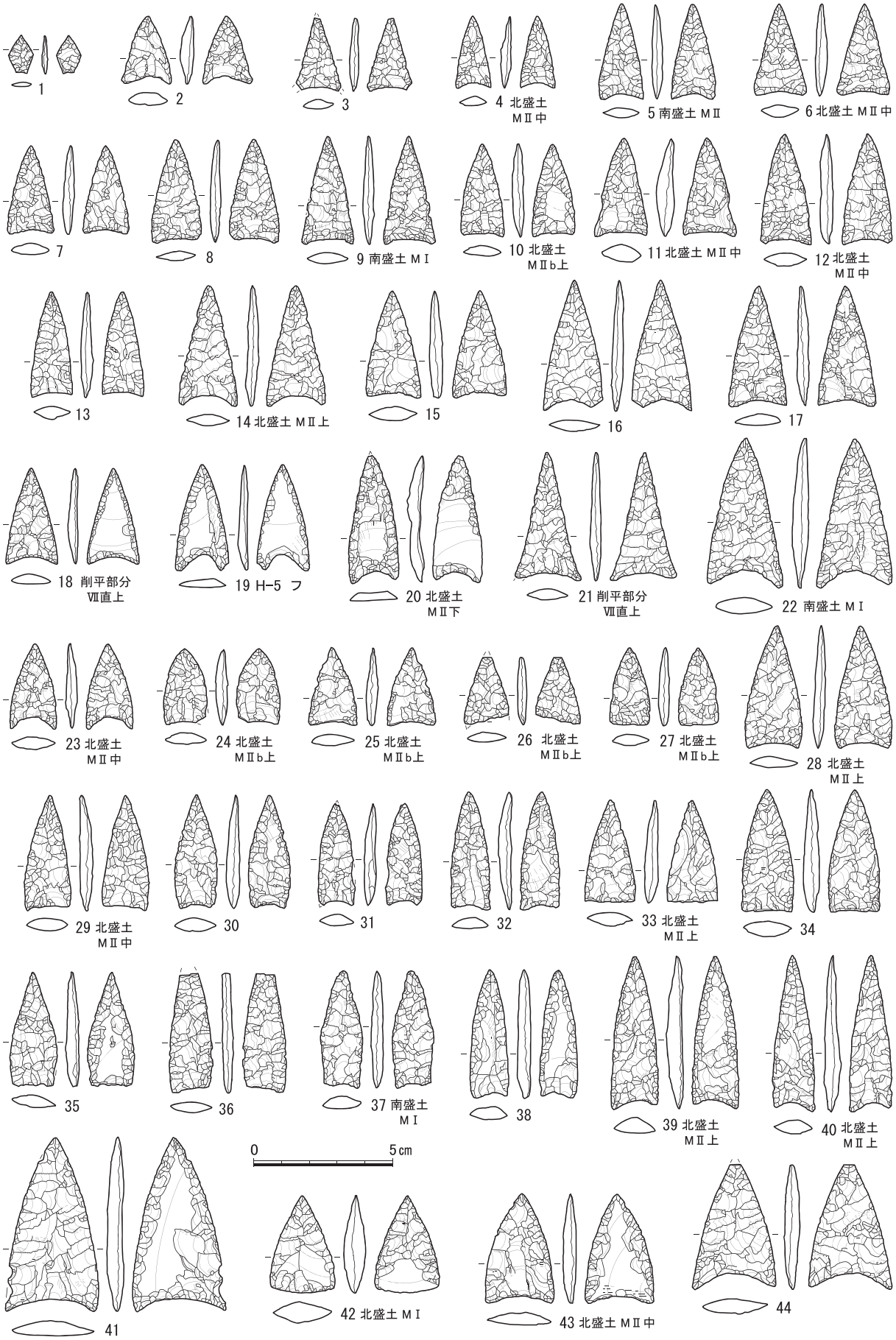
２～22 は三角形で側縁が直線を呈する。461 点中 306 点を占める。黒曜石：頁岩系石材比は 4.6：１で黒曜石が多い。最大幅は基部付近に位置する。２～４は比較的小型で長さが 2.6cm以下である。２はやや粗い細部調整で厚手であるが、３、４は入念な細部調整で薄手に仕上げられる。４は半透明のメノウ製。５～22 は中型、大型のもの。入念な加工で薄手に仕上げられている。特に 12～21 の頁岩、珪化岩製のものは薄い。頁岩製は背腹両面か片面に素材剥片の面を残し、周縁のみ加工されるものもある（18～20）。22 は比較的大型のもの。

23～40 は三角形で側縁が膨み、最大幅が基部付近以外にあるものである。461 点中 124 点ある。黒曜石：頁岩系石材比は３：１である。23～27 はやや小ぶりなもの。24～27、また 10 は同一グリッド同一層（L20 区ＭⅡｂ層）で出土している。25、26 については側縁がやや直線的である。28～40 は中型（3.5～4.6cm）のものである。平基（33～35）や平基に近いもの（29、36）、長さに比して細身の器形（32、38～40）が目立つ。28、29、37～40 は頁岩製。そのほかは黒曜石製である。36 は赤褐色の部分が多い所謂「花十勝」である。

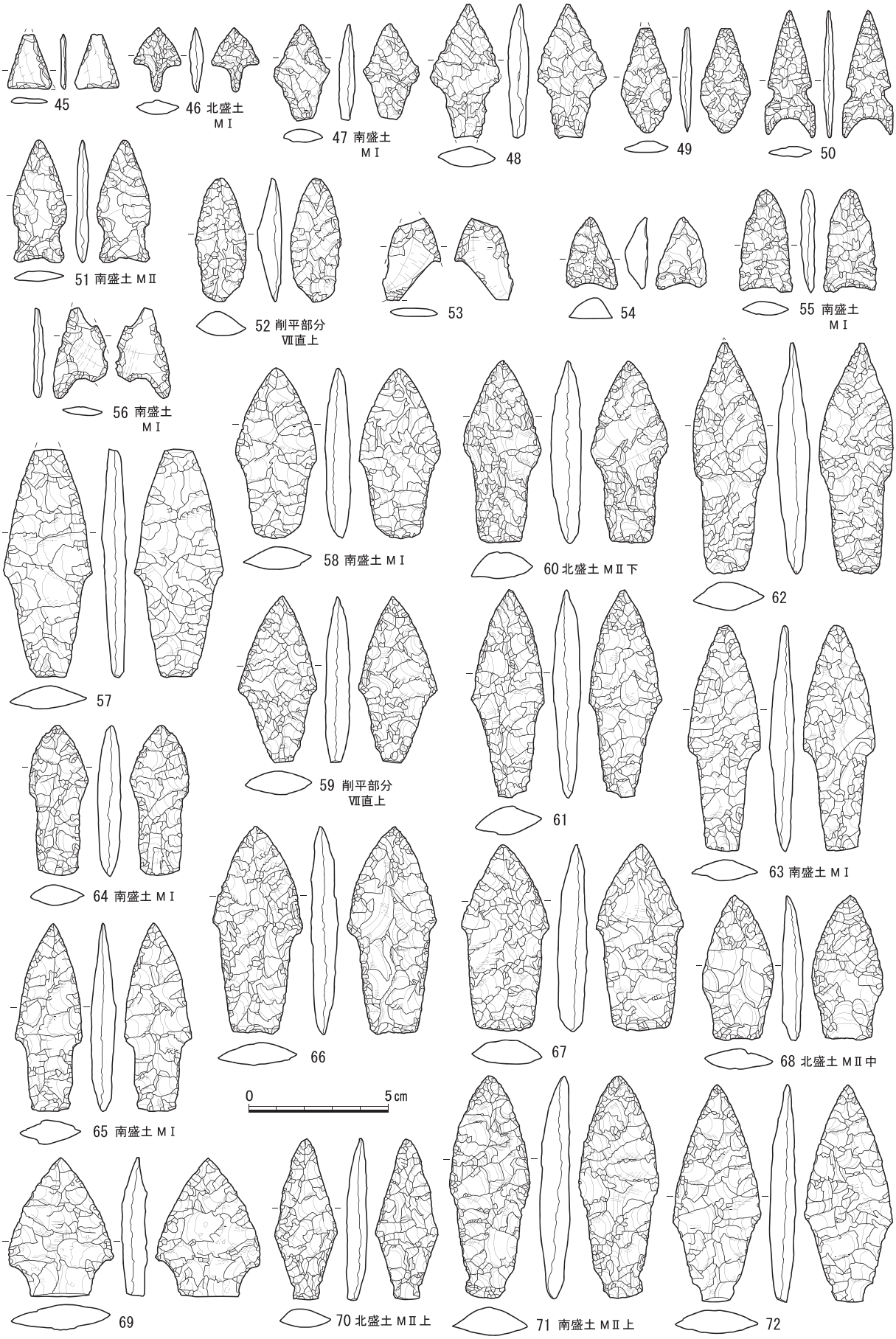
41～44 は三角形で幅広のものである。461 点中 12 点である。黒曜石：頁岩系石材比は１：２である。41 は大型のもの。入念な調整により薄手に仕上げられ、腹面は素材剥片面が残る。42～44 は中型。42 は凸基で出土は本例のみである。42、43 は素材剥片面が残る。全て頁岩製。

45 は三角形平基。粘板岩製で、続縄文時代の粗製石鏃とみられる。

46～48 は有茎。破片も含め 33 点が出土している。黒曜石：頁岩系石材比は 7.2：１である。46 は小ぶりで細い茎のもの。47、48 は幅の広いもの。石槍とは連続的に変化するが、長さ 5.0cm未満のものを石鏃とした。当分類 33 点は全てⅢ層の出土である。



図Ⅴ－54　剥片石器（1）石鏃①



図Ⅴ－55　剥片石器（２）石鏃②・石槍①

49は木葉形。９点出土している。黒曜石：頁岩系石材比は3.5：１である。入念な細部調整で薄手に仕上げられる。

50、51は上記以外の形態のもの。２点図化した。50はいわゆるアメリカ式石鏃である。続縄文時代、Ⅲ層の遺物とみられる。51も類似の基部であるが、つまみ付きナイフかもしれない。いずれも本例のみ出土した。ともに頁岩製。

52～56は未製品や転用品の可能性があるもの。52は木葉形に分類したが、やや厚手で基軸も明瞭ではない。再加工された石槍の可能性がある。53、56は細部調整が認められる剝片。54は石鏃様に調整されているが、厚手でほぼ片面のみが加工される。55は三角形凹基であるが、先端が再調整されているものである。

石槍（図Ⅴ－55・56-57～89、図版51・52）

破片を含め221点出土している。幅広の茎のもの（Ⅰ）、木葉形（Ⅱ）、全体の形状が不明なもの（Ⅲ）の三種に大きく分けた。さらに有茎はその形状により二分した。茎が角、丸のもの（a）と、基部に対となる抉りがあるもの（b）である。また石鏃と同様のフォルムでも５㎝以上あるもの（Ⅰc）は石槍として区分した。

57～69は、幅広の茎で、基部の末端が角、丸を呈する（Ⅰa）。66点出土している。黒曜石：頁岩系石材比は１：2.7で頁岩が多い。57～59は菱形に近い形状で、かえしが明瞭ではない。全て頁岩製。60～67は比較的長く明瞭な基部がある。66、67はおそらく再加工のため短くなっている。60、62が黒曜石。他は頁岩製である。68、69は小型のもの。68は頁岩製で被熱によるはじけがみられる。69は５㎝以下であるが、形状から石槍とした。流紋岩製。

70～77は、有茎で、基部の抉りが対となりつまみ状となるもの（Ⅰb）。90点出土している。黒曜石：頁岩系石材比は１：2.9である。70～72は菱形に近い形状で、抉りも明瞭でないもの。73～77は基部と尖頭部の区別、基部のえぐりも明瞭である。71、74が黒曜石、他は頁岩製。78、79は有茎であるがやや特殊なもの。78は尖頭部と基部の境界がない。頁岩製。79は基部が丸く調整されている。黒曜石製。

80～88は菱形ないしは木葉形を呈する。22点出土している。黒曜石：頁岩系石材比は、１：1.4である。80～82は比較的明瞭な菱形を呈するもの。80、81は同一グリッド、同一層で出土した。黒曜石製。83、84は頁岩製で再加工されるもの。83は石錐かもしれない。84は背面のみ再加工され、断面はＤ字形を呈する。85～87は左右非対称か尖頭部が明瞭でないもの。全て頁岩製。

88、89は黒曜石製で比較的大型のもの。88は菱形とした。比較的薄手で器体はほぼ直線状に仕上げられる。茶の挿色が混じる黒曜石を用いる。89は有茎とした。球果の多い石材を用いている。

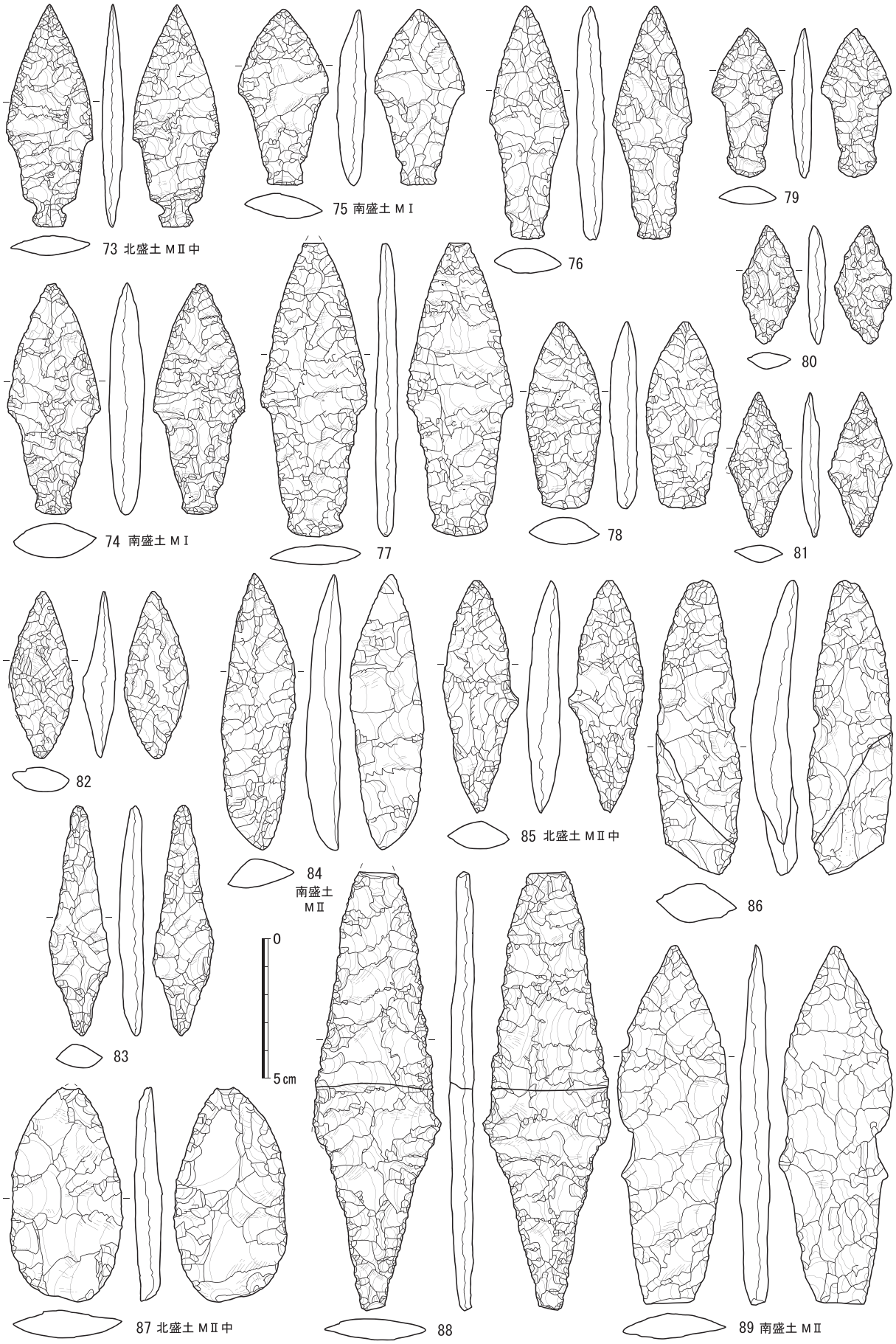
石錐（図Ⅴ－57-90～99、図版52）

破片を含め45点が出土している。棒状（Ⅰ）、つまみ部分が作出される（Ⅱ）、剝片の一部を利用したもの（Ⅲ）、転用品（Ⅳ）に４区分した。

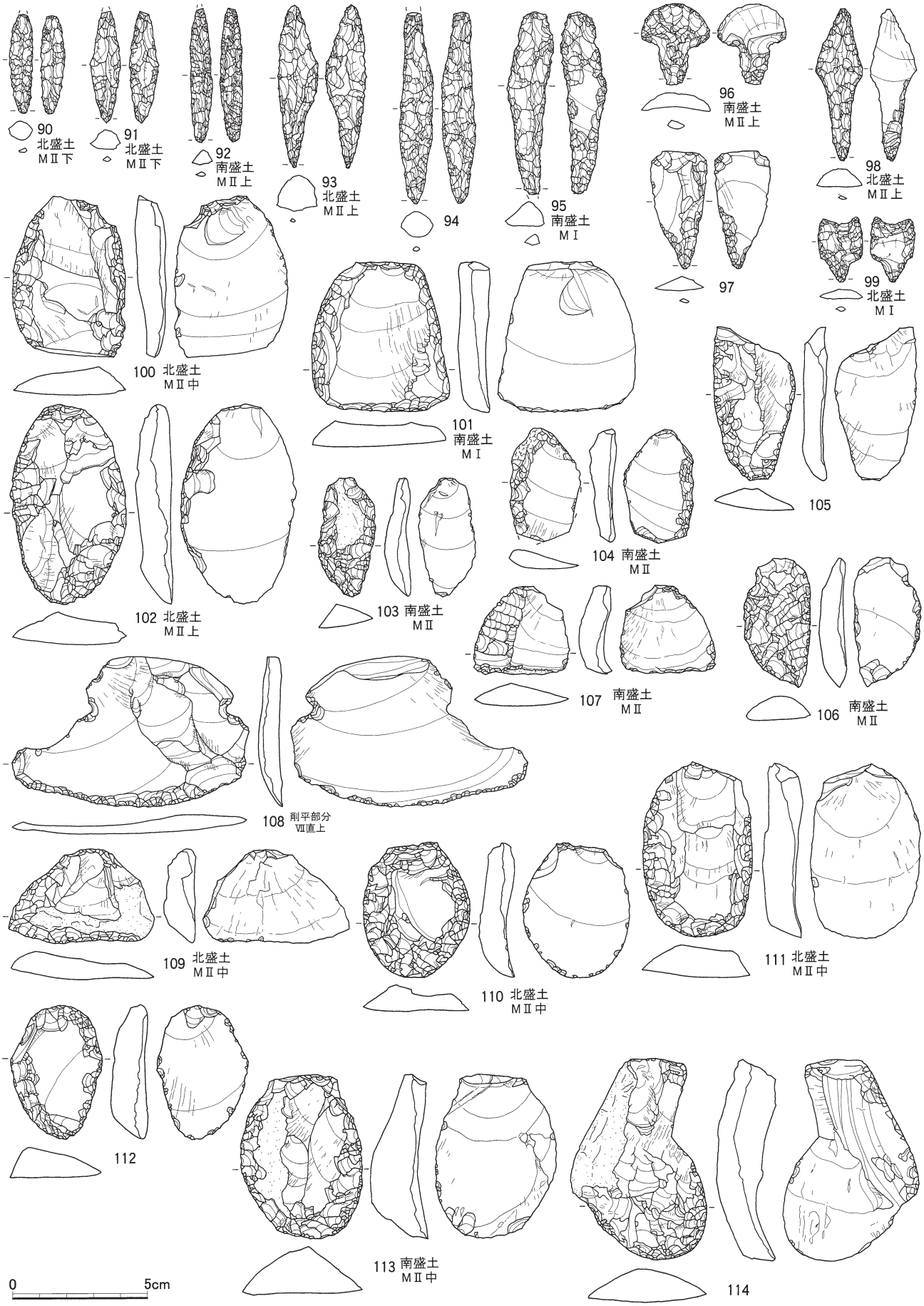
90～95は棒状を呈する。24点出土する。90～92は比較的基軸が直線であるもの。13点出土し、石材はメノウ製１点、珪化岩製１点の他は全て頁岩である。90、91は同一小グリッド同一層での出土である。93～95は棒状だが基軸にねじれが認められるもの。11点出土し、石材は黒曜石製１点、珪化岩が１点以外は頁岩である。95は腹面に素材剝片面を残し、断面は「D」字を呈する。

96はつまみ部分が作出されるもの。７点出土し１点図化した。石材の内訳は黒曜石製が４点。頁岩製が３点である。つまみ部分が半円に調整される。スクレイパーからの転用品の可能性がある。

97は剝片の一部に機能部が作出されれているもの。10点出土し１点図化した。黒曜石：頁岩比は



図Ⅴ－56　剥片石器（３）石槍②



図Ⅴ－57　剥片石器（4）石錐・スクレイパー①

４：６である。

98、99 は転用が明らかなものである。３点出土し２点図化した。98 はつまみ付きナイフ、99 は石鏃からの転用品である。ともに元の石器の一部を利用して機能部が作出される。いずれも頁岩製である。

スクレイパー（図Ⅴ－57・58-100～138、図版 52・53）

371 点出土した。剥片の側縁に刃部が作出される（Ⅰ）。剥片の端部に急角度の刃部が作出されるいわゆるエンドスクレイパー（Ⅱ）。親指大の黒曜石製で、急角度の刃部が作出されるもの（Ⅲ）。浦河町栄丘遺跡において、両面加工の石ベラ状のスクレイパーと呼称された器種（Ⅳ）。つまみ付きナイフ様の刃部があるもの（Ⅴ）。さらにこれら以外または破片で不明なもの（Ⅵ）。の６種に区分した。

100～109 は素材剥片の形状を活かし、１辺ないし２辺にやや浅い角度の刃部が作出されるもの（Ⅰ）。180 点出土する。黒曜石：頁岩系石材比は１：2.53 である。100～106 は比較的縦長の剥片を素材とし、背面側に刃部作出の細部調整がなされる。107～109 は比較的横長の剥片が用いられる。104、105 が黒曜石、103 が珪化岩、109 がメノウ、その他は頁岩製である。

110～114、124、125 はエンドスクレイパー（Ⅱ）である。58 点が出土している。黒曜石：頁岩系石材比は１：4.8 である。110～114 は頁岩製。素材剥片の端部に、急角度の刃部が作出されている。124、125 は黒曜石製。背面に原石面を残す。

115～123 は黒曜石製の拇指状のスクレイパーである（Ⅲ）。41 点出土している。長さが概ね４㎝以下に揃うが、刃部の角度は、浅いもの（115）から、かなり急角度のものまであり、一様ではない。なお 123～125 はほぼ同一地点でまとまって出土しており、原石面や黒曜石の質感が類似している。同一母岩から得られたものの可能性がある。

126～131 は、平面形は石鏃に近いが、厚手で調整が粗いものである。浦河町栄丘遺跡で石ベラ状スクレイパーとされるものに近い。石鏃とした図Ⅴ－55-54 もこの分類に含まれる可能性がある。11 点出土し６点を図化した。黒曜石：頁岩系石材比は７：４である。126～129 は黒曜石、130 は頁岩、131 は珪化岩製である。

132～137 はつまみ付きナイフと同様の刃部を持つが、つまみが作出されないもの。16 点出土し、黒曜石：頁岩系石材比は１：１である。図化したものは全て頁岩製である。

138 は上記細分に含まれないものである。黒曜石製で両面調整により２か所の突出部が作出される。石錐の可能性もあるが、背面には原石面が残る。

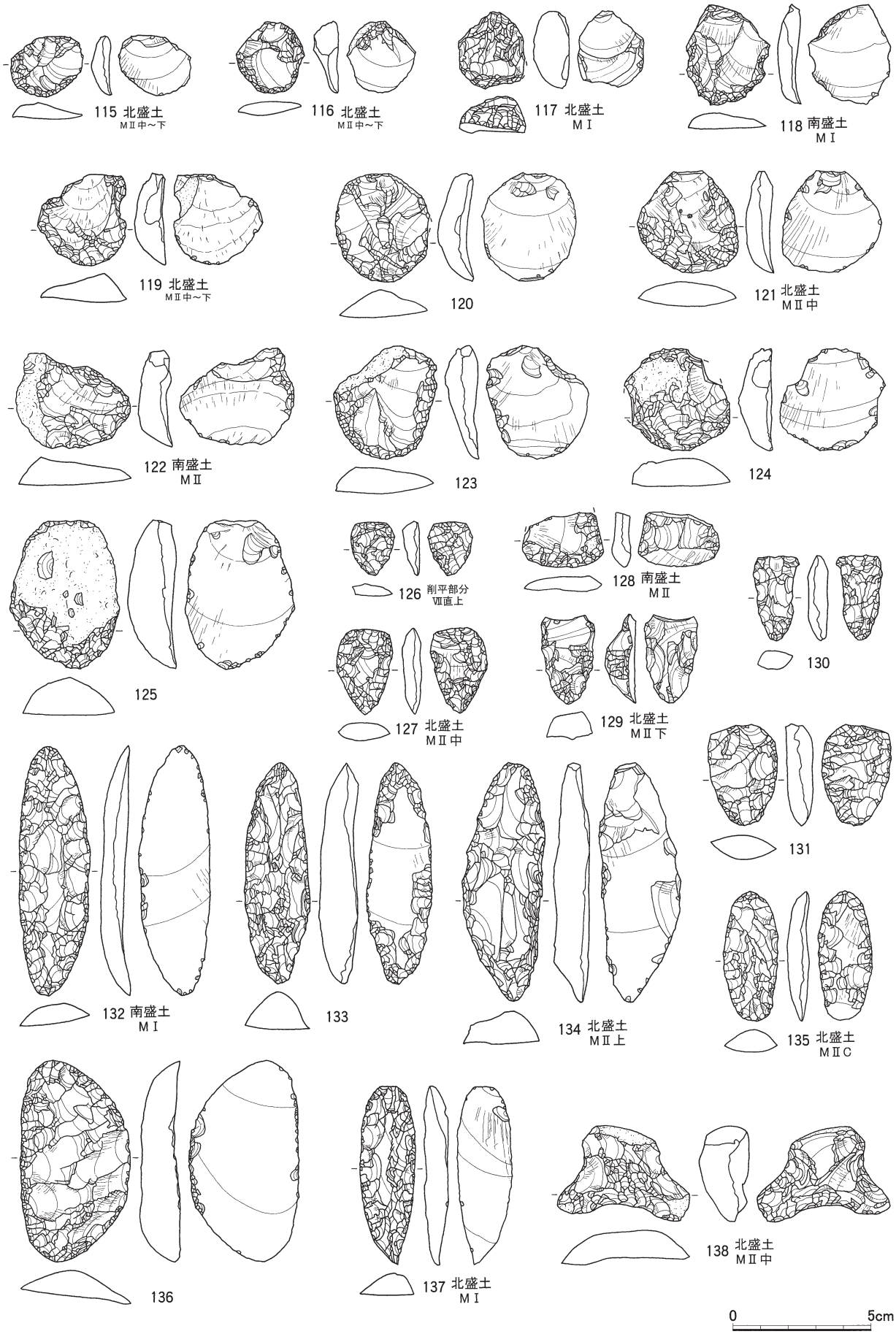
つまみ付きナイフ（図Ⅴ－59～63-139～240、図版 54～57）

破片も含め 1,032 点が出土している。黒曜石：頁岩系石材比は１：11 である。

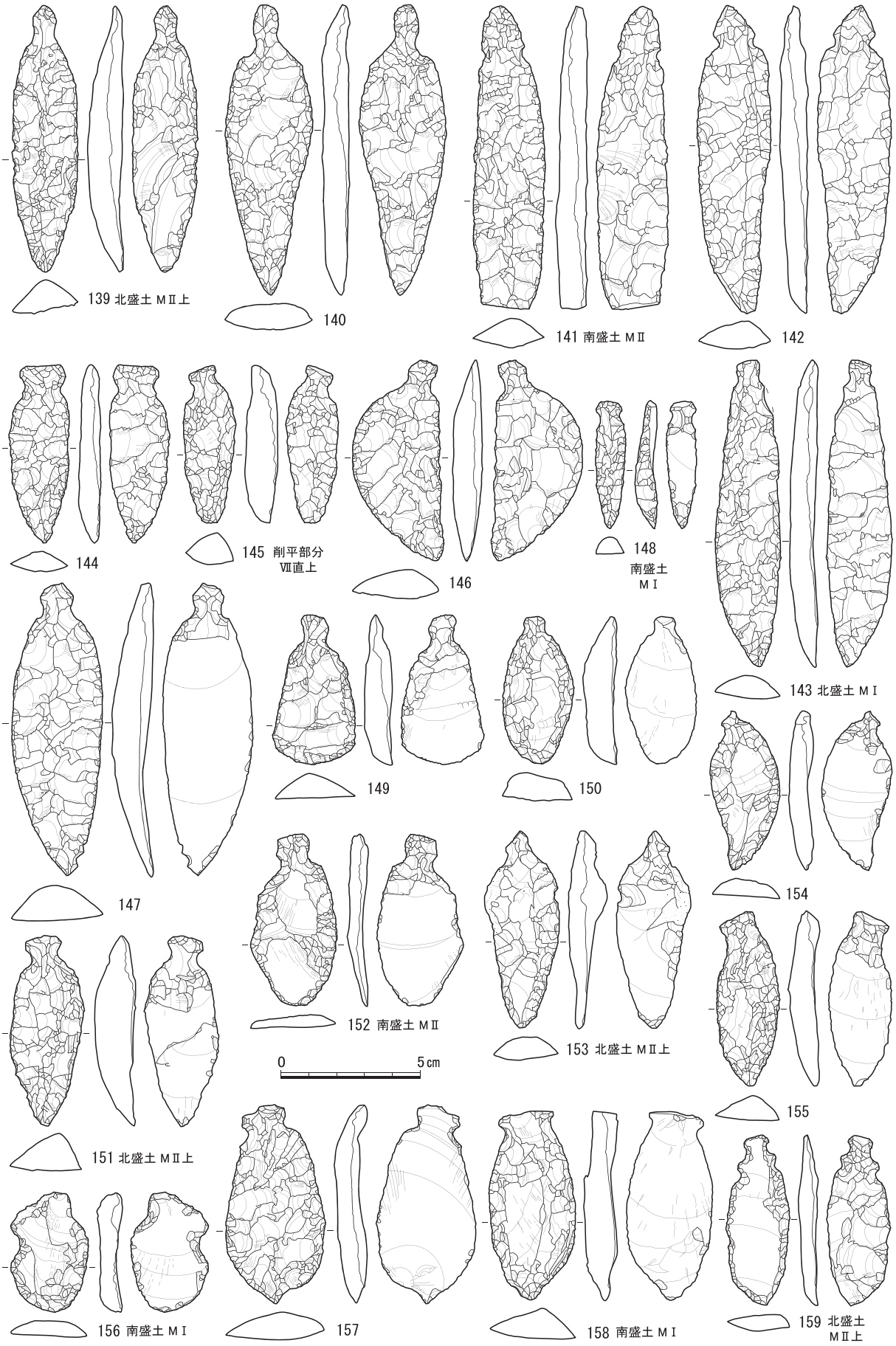
139～146 は両面調整により身部が作られるもの。46 点出土し８点図化した。黒曜石：頁岩系石材比は１：4.8 である。139～143 は長さ 9.5㎝以上の比較的大型のものである。細部調整が背面側に偏り、身部の横断面がＤ字形もしくは三角形を呈するもの（139、141～143）が多い。石槍からの転用品であろう。144～146 は中型のもの。大型のものほど顕著ではないが同様な断面形の傾向が認められる。石材は 139 が赤紫色の細脈がある黒曜石。145 が珪化岩。その他は頁岩である。

147～150 は片面加工でつまみに対し身部がほぼ垂直となる形状のもの（Ⅰ）。110 点出土し４点図化した。黒曜石：頁岩系石材比は１：7.5 である。先端を尖らせているもの（147、148）とエンドスクレイパー状の厚い刃部が作られるもの（149、150）がある。石材は 147 が頁岩、148 はメノウ、149、150 が珪化岩である。

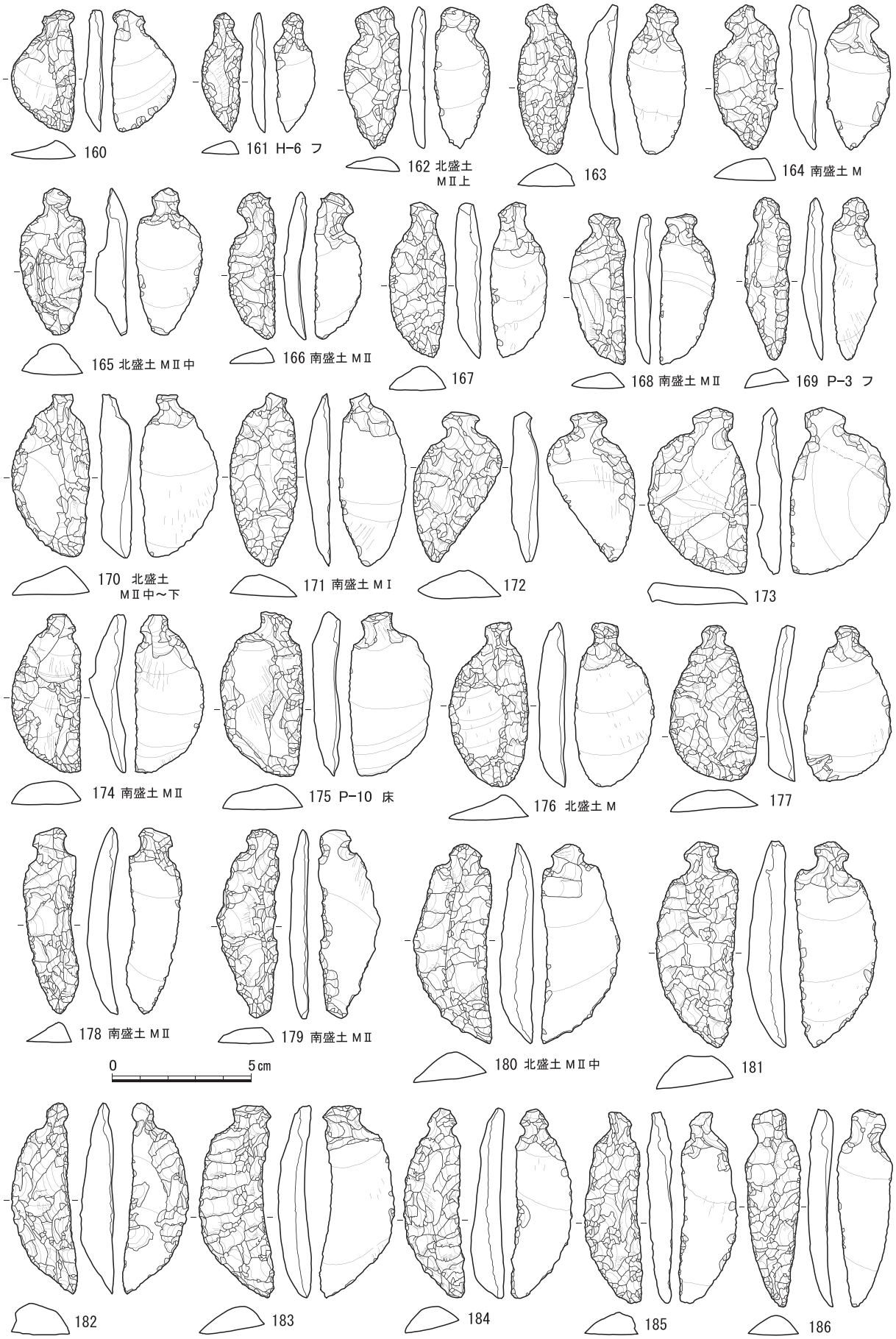
151～159 は、身部の右側縁に設けられた刃部が長く、つまみに対して先端が左向きとなるもので



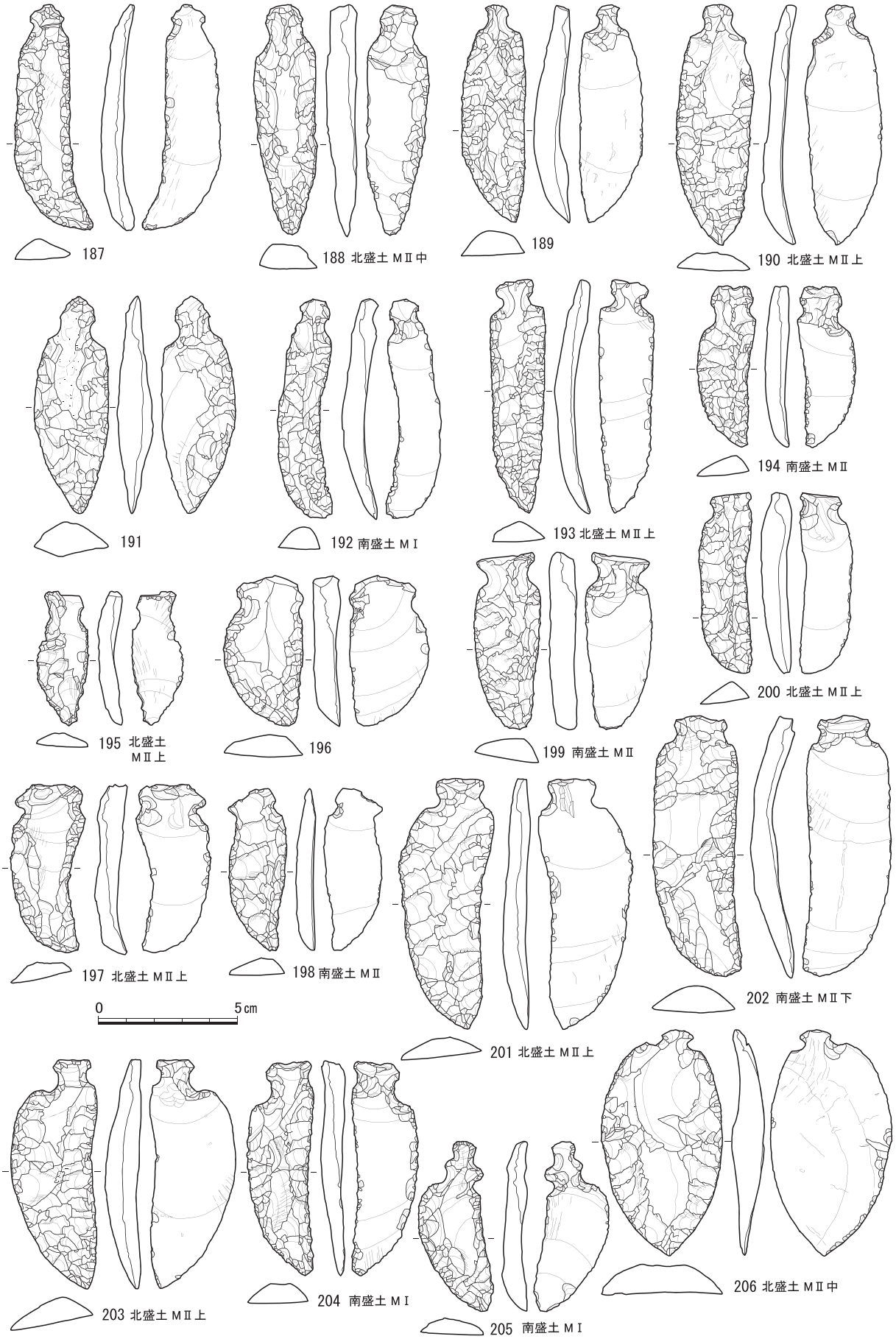
図Ⅴ－58　剥片石器（5）スクレイパー②



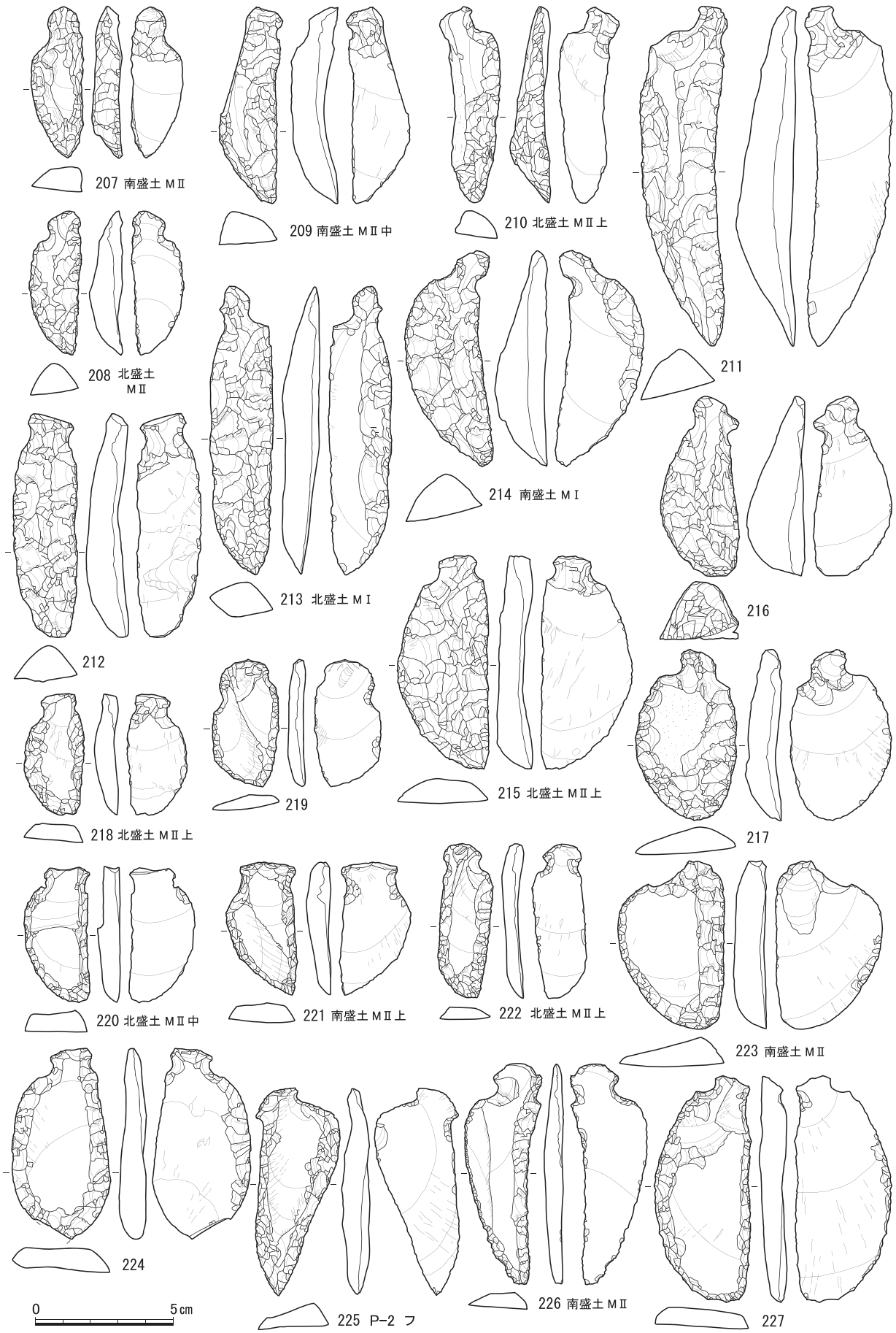
図Ⅴ－59　剥片石器（６）つまみ付きナイフ①



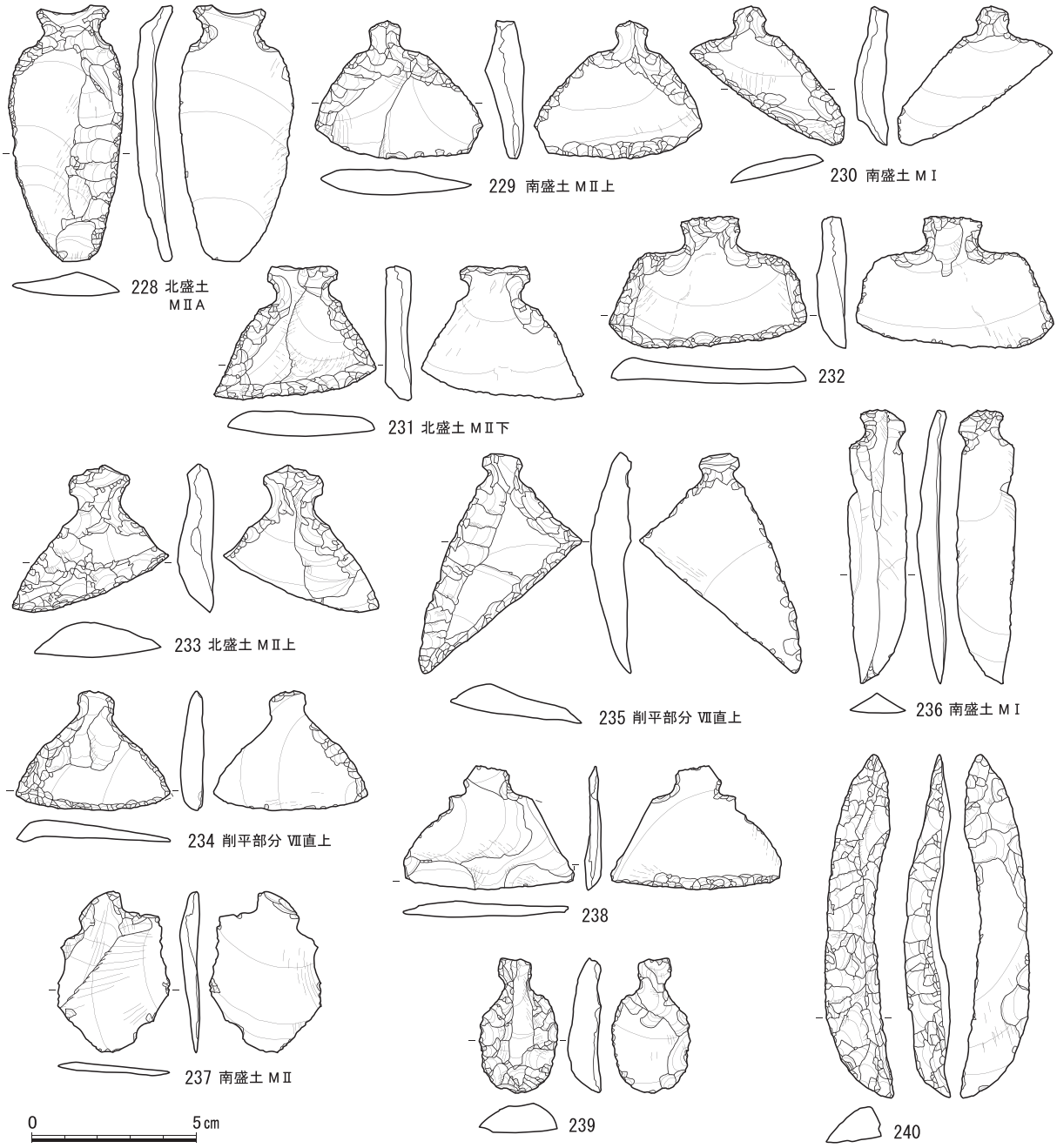
図Ⅴ－60　剥片石器（7）つまみ付きナイフ②



図Ⅴ－61　剥片石器（８）つまみ付きナイフ③



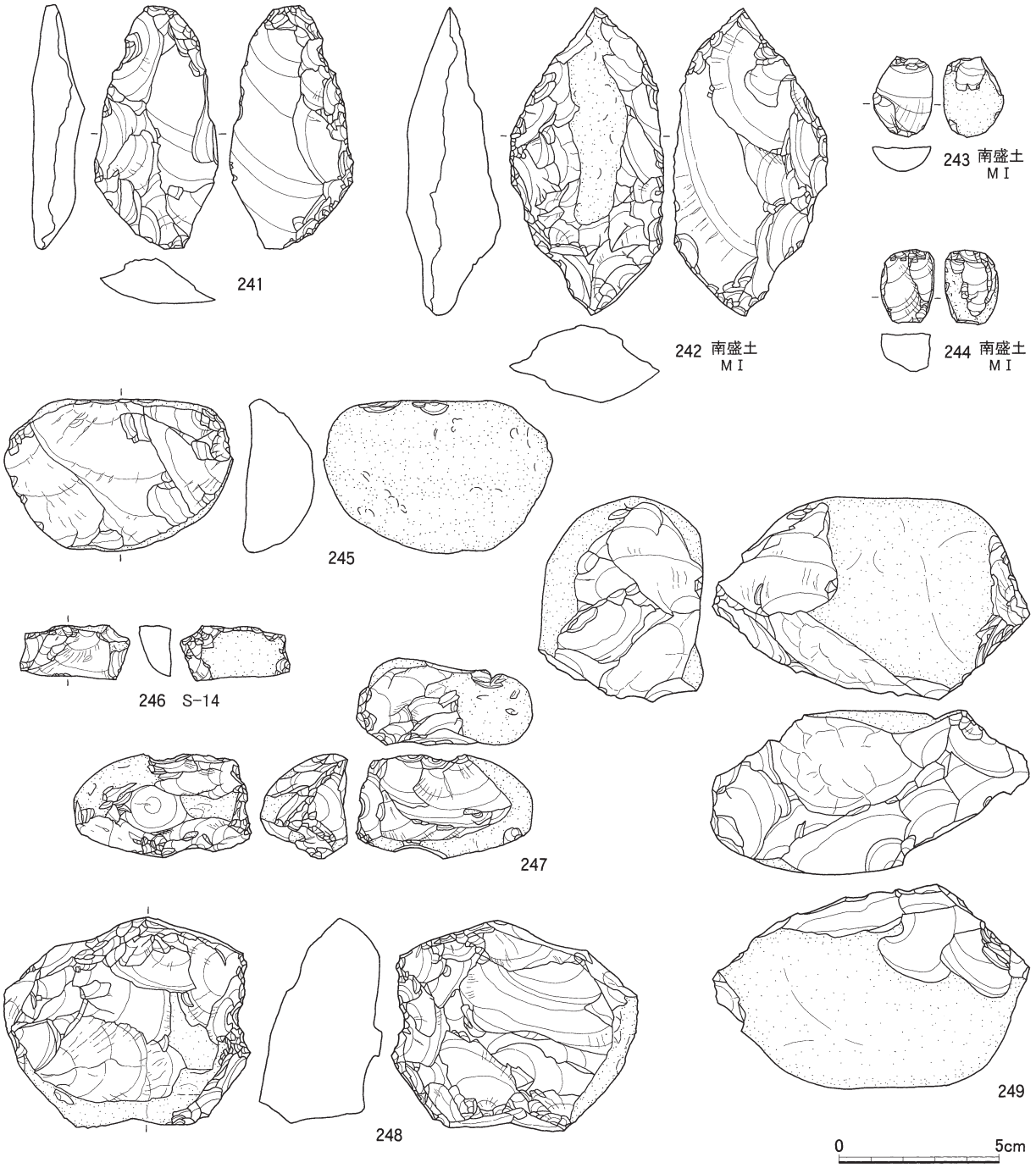
図Ⅴ－62　剥片石器（９）つまみ付きナイフ④



図Ⅴ－63　剥片石器（10）つまみ付きナイフ⑤

ある（ⅡL）。149 点出土し、黒曜石：頁岩系石材比は１：10.1 である。細部調整が浅いもの（152～154、156、158、159）が多い。石材は 156、157 が黒曜石、151、154、158、159 は珪化岩、他は頁岩である。

160～206 は左側縁の刃部がカーブしており、つまみ部に対して先端が右向きとなるものである（ⅡR）。黒曜石：頁岩系石材比は１：16.1 である。つまみ部の形状で３つに分けた。比較的小ぶりに整形されているもの（A：160～194）。上端が平らで比較的大きなもの（B：195～204）。それ以外（C：205、206）である。160～177、195～198 は小型。175 は土坑墓 P-10 の副葬品である。176、177 は端部に厚手の刃部が作られている。石材は 172、195 が黒曜石。160、164、167、176、177 が珪化



図Ⅴ－64　剥片石器（11）両面調整石器・Ｒフレイク・石核

岩。178～194、199、200 は中型。188、189 が珪化岩製。191 がメノウ製。201～204 は比較的大きなものである。全て頁岩製。205 は山形つまみ部を呈するもの。同様な例に 159 がある。206 はわずかな抉りでつまみ部が作られている。205、206 は頁岩製。

207～228 は、刃部の形態、また加工方法に特徴のあるものである。207～217 は大きさに比して極端に厚い刃部を有するものである。207～215 は先端が尖り気味で猛禽類の嘴に近い形状を成す。216、217 はエンドスクレイパー状の丸みを帯びた形状である。218～228 は周縁のみが加工され、背面に素材剥片の面を残しているもの。225 は土坑墓 P-２の副葬品。207～228 の石材は 212、217、

218、224 が珪化岩、その他は全て頁岩である。

229～238 はつまみに対して身部が横長となるもの（Ⅲ）。20 点出土している。全てが頁岩系石材である。刃部が三辺にあり、先端が尖るもの（229～231、233～235）が多い。232 は身部が台形を呈するもの。238 は周縁のみ加工されている。

239、240 は特殊なもの。239 は黒曜石製。小型でエンドスクレイパー状の刃部を持つ、240 はつまみがほとんど作出されていない。

両面調整石器（図Ⅴ－64-241・242　図版 57）

両面調整される剝片石器。石槍より粗工であり、前期後半円筒下層式に伴う「粗工両面調整石器」に類似するものが４点出土している。黒曜石：頁岩系石材比は１：３である。２点図化した。いずれも腹面側は一部の調整にとどまる。242 は原石面が残る。頁岩製。

楔形石器（図Ⅴ－64-243・244　図版 57）

図化した２点のみ出土している。ともに T21 区のＭＩ層から出土したものである。径２㎝程度の原石を両極技法で割ったものとみられる。２点はよく似た原石面が認められる。

石核（図Ⅴ－64-245～249　図版 57）

16 点出土している。黒曜石：頁岩系石材比は１：３である。うち５点図化した。245～247 は黒曜石製。245、247 は円礫、246 は棒状原石を素材とする。248 は珪化岩。249 は頁岩である。

（４）石斧類（図Ⅴ－65～82、表Ⅴ－８、図版 58～68）

石斧と石斧製作に関連する遺物を一括して述べる。石斧の細分である石斧、石のみ、石斧片、石斧破片と、石斧の加工に係るものとして石斧加工品、石斧再加工品、石斧原材、擦切残片、フレイクの種別がある。

石斧は破片から大きさの推定ができる場合が多い。石斧片、石斧破片はともに石斧の断片であるが、石斧片は概ね４分の１以上２分の１以下のもの。破片は４分の１以下のものである。石斧破片と石斧石材剝片との区別は、主要な断面が折れによるものを破片。剥離によるものをフレイクと判断している。

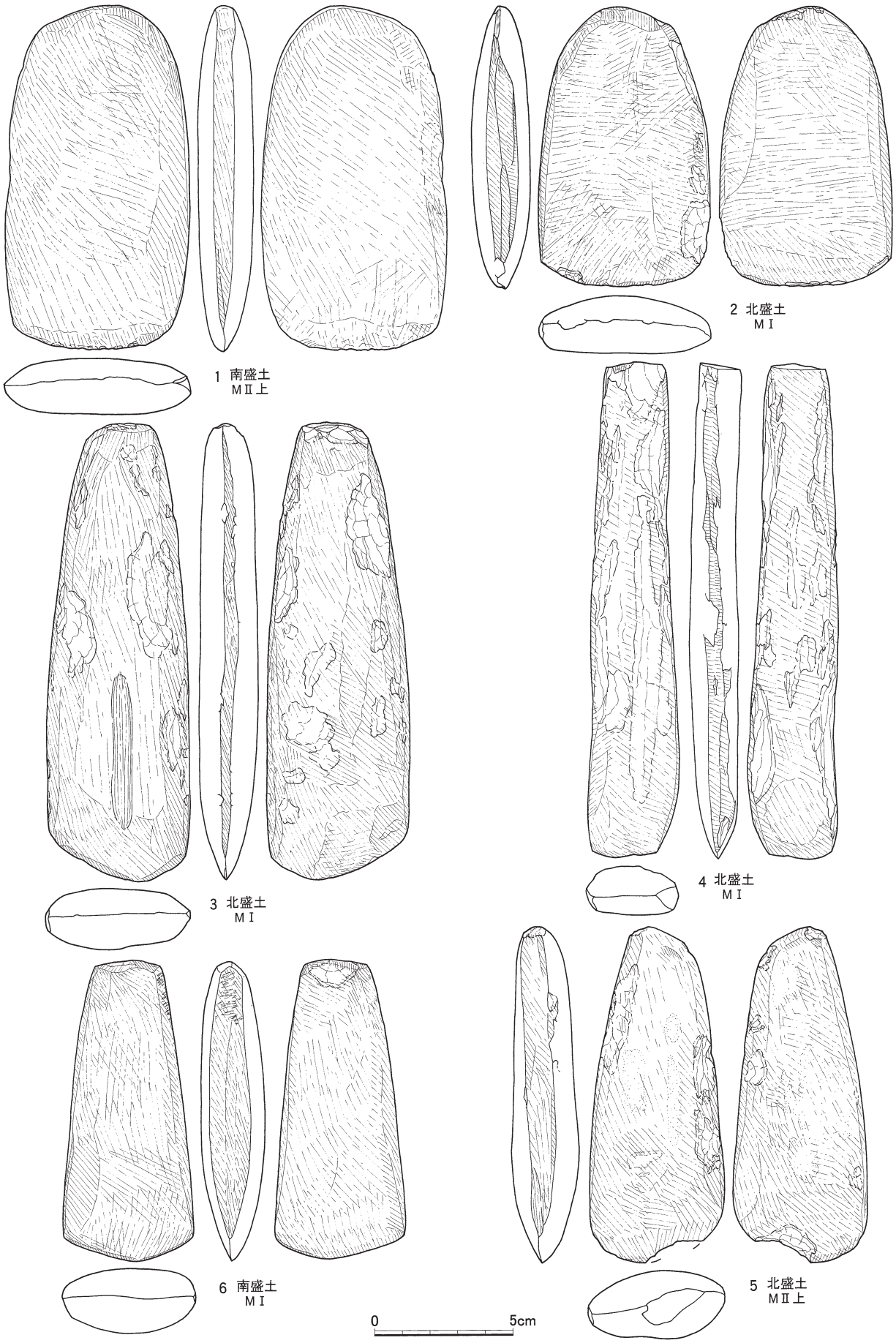
石斧加工品は、石斧原材の周縁に剥離または敲打を加えたものを指し、再加工品とは一度研磨された石材に剥離または敲打が加えられるものとした。擦切残片とは、石斧以外で擦切技法の痕跡が残るものである。石斧原材とは未加工の石材そのもの。または加工が一部にとどまり、整形加工が全面になされていないものとした。

加えて、石斧製作の実態を明らかにするため、各器種に残る技法を以下のように記録した。A：剥離痕、B：敲打痕、C：擦切痕、D：研磨痕である。各出土点数は石斧・石のみ 340 点、石斧片 224 点、石斧破片 145 点、石斧加工品 315 点、石斧再加工品 146 点、石斧原材 235 点、石斧製作にかかわる緑色片岩などの石材フレイクは 3,467 点である。

石斧・石のみ（図Ⅴ－65～69-１～56、図版 58～60）

340 点の内、56 点を図化している。１、２はロジン岩製で、元来は縄文早期の遺物であったとみられる。当該土器は破片２点が出土するのみであるので、他時期に転用された可能性もある。いずれも全面が研磨され、平板に整形されるが、擦痕が明瞭に認められるうえ刃部はやや甘く、完全には仕上げられていない。ともに被熱し赤変しており、２は被熱後に研磨されたことが明らかである。

３～５は全長 12㎝以上の大型のもの。３、５は刃部に近づくにつき広がる撥形である。刃部が左右非対称の偏刃を呈する。３の刃部は直線状で両刃に近い。正面中心やや刃部寄りに擦切りを試みた部分が認められる。石材は他に比し異質で、おそらく変質した斑糲岩とみられる。４は藍閃石片岩を



図Ⅴ－65　磨製石器（1）石斧①

用いるもの。細長で厚手に整形されている。

６～22は全長8.5～12cmの中型で概ね幅が３cm以上のもの。形状は短冊形（９、10、20、21）と撥形（６～８、11～19、22）がある。刃部が潰される、また刃こぼれ状の剥離が認められるもの（７、10、12、17、18、19）。逆に刃部が完全には研ぎだされていないもの（３、８）や、研ぎ仕上げたてのような、研磨による明瞭な稜線を残すもの（14、20）がある。擦切技法の痕跡があるものが１点（８）、原石面を一部に残すもの（15、18～20）、刃部付近のみ整形して石斧となしたものもある（22）。被熱は22にのみ認められ、黒変している。

23～30は中型に属するが概ね幅が３cm以下の細長の形状である。基部が細くなるか尖らせているものがほとんどである。厚さは1.2～1.4cm程度に収まるが、30（0.7cm）のように極めて細い例もある。刃部は24に欠け、28に刃こぼれが認められる以外はほぼきれいに研ぎだされている。ただし25は研ぎ出しが不完全である。24、27は研ぎ仕上げたてのような明瞭な稜線があり、23、30は原石面が大きく残る。原石に簡便に刃部を研ぎ出している。28にのみ焼成が認められ、黒変する。

31～36は７～8.5cmの小型で幅が３cm程度までのもの。34～36は石のみとの区別がつきがたいものである。31～33、36は短冊状。34、35は撥形である。31、35に刃こぼれ、つぶれがみられ、32、33は研ぎ仕上げたてである。34は刃部の研ぎ出しが不十分で、36はほぼ全面に原石面か剥離面が残り、刃部のみ研ぎだそうと試みられるもの。

37～40は両端に刃部状の研ぎ出しがなされる、いわゆる「両頭石斧」。主副は明らかだが両刃部は比較的丁寧に研ぎだされている。37、38、40が被熱し変色している。37は一部、38は全体が黒変し、40は赤変部分が残る。全て研磨による擦痕が明瞭で、使用されたようには見えない。39以外は石のみである。

41～56は石のみ。基準を長さ、幅、厚さの合計が10.8cm未満のものとした。使用された結果、刃こぼれやつぶれが認められるものは44、52にその可能性があるのみであるが、使ったとは思えない特徴、刃部が完全に研ぎこまれていないもの（48、54）、原石面を残すかほとんど研磨されていないもの（44、52、54）、研ぎ仕上げたてのように、研磨による稜線を明瞭に残しているもの（47～55）が多い。また、剝片や薄い原石に簡便に刃部を作出したものも目立つ（42、45）。41、47には側縁に擦切技法の痕跡が認められる。緑色片岩以外の石材は、41は緑色凝灰岩、42は粘板岩、56が細粒砂岩である。

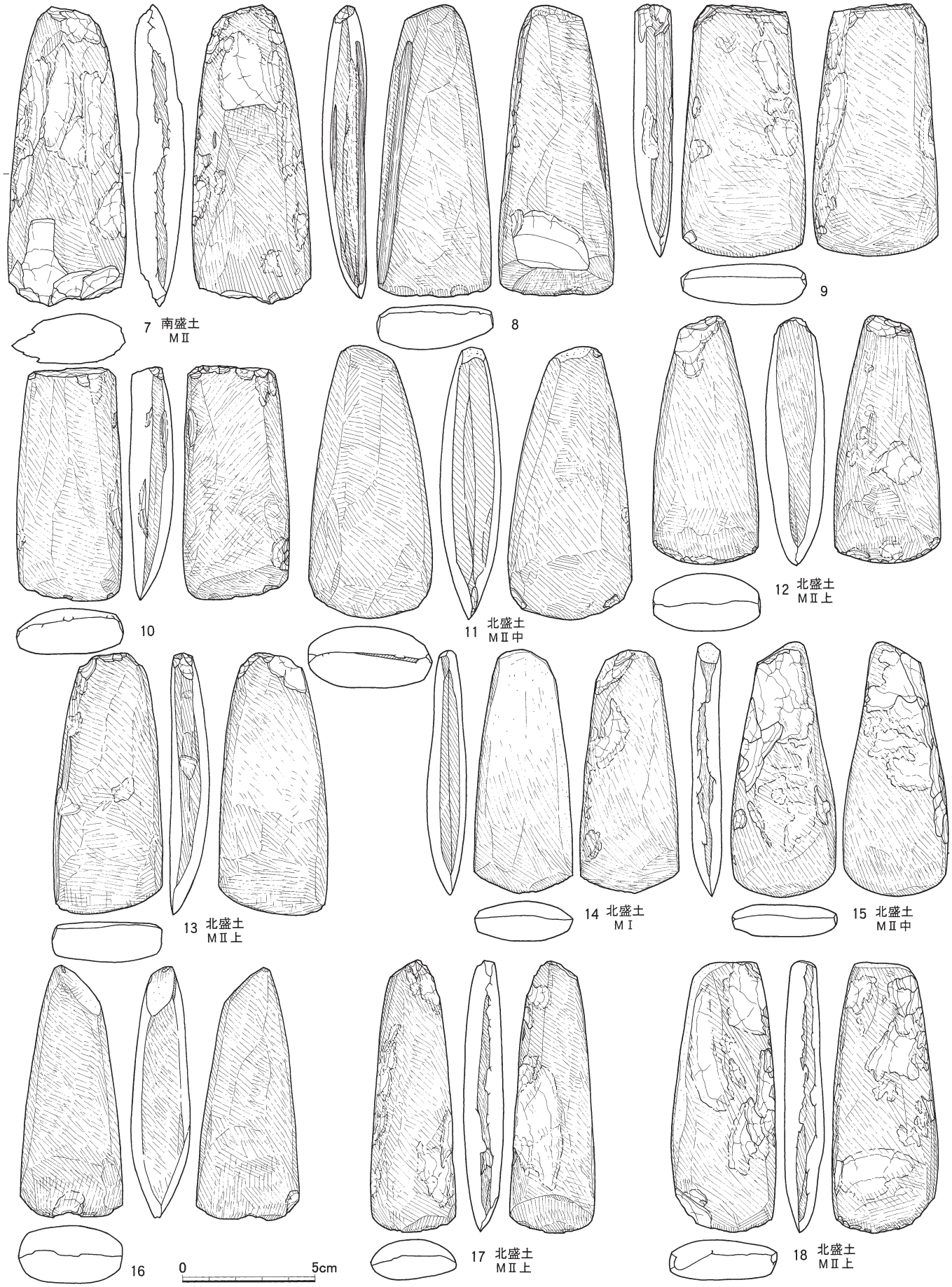
石斧加工品（図Ⅴ－69～72-57～82、図版61～63）

315点出土している。26点図化した。57、58は敲打と研磨により棒状に概ね扁平な棒状に整形されるのみのもの。59～74は敲打と剥離を主として整形が試みられているもの。59～67は比較的大型、68～73が中型、74が石のみサイズである。

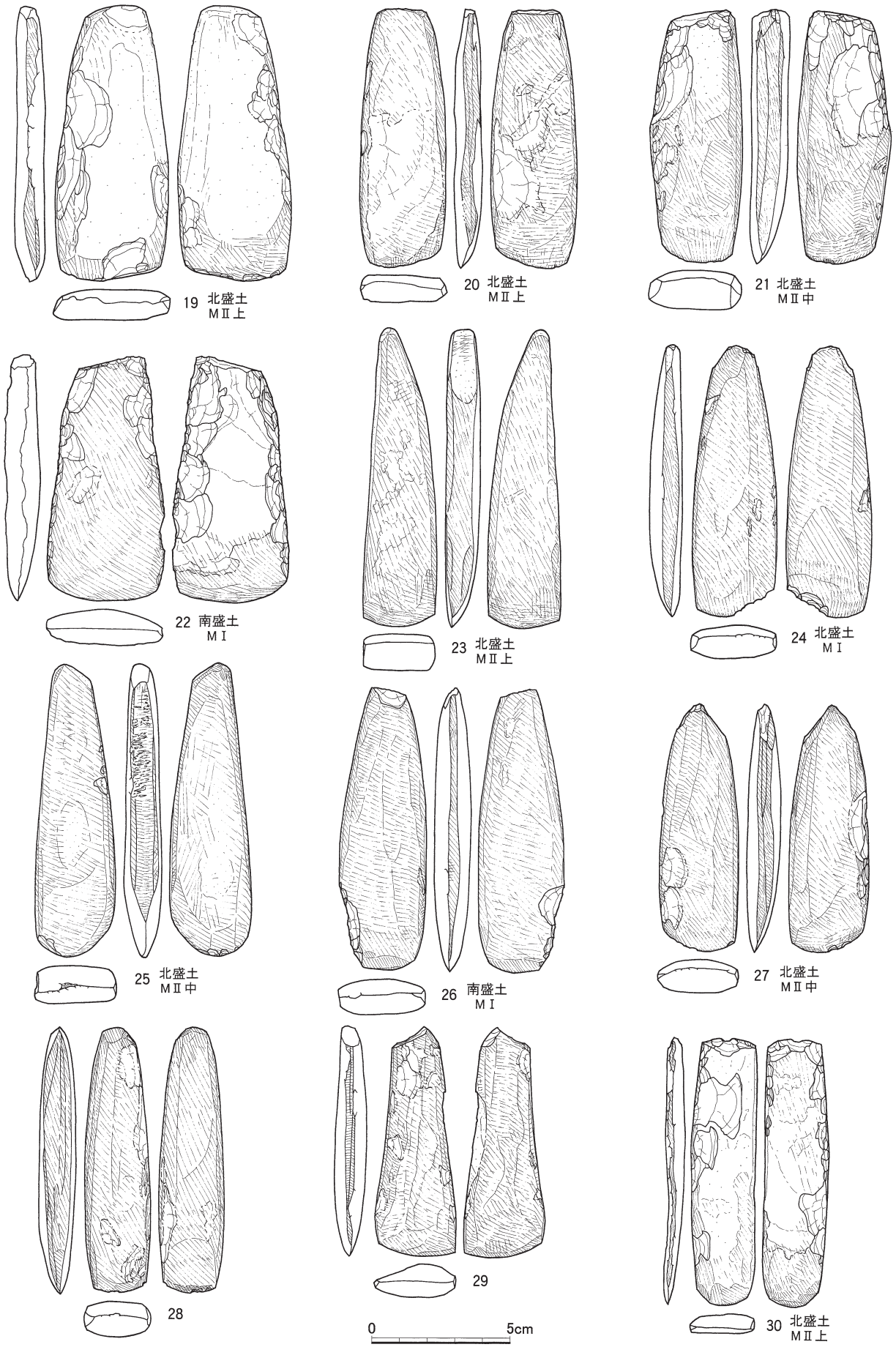
比較的大型のもののうち、節理面を利用する59以外の60～65は扁平な原石をほぼ変更せずに周囲を打ち欠きによって整形されている。61は一部わずかに研磨される部分がある。63は長さ２mm程度を単位とする線状の敲打痕が認められ、たたき石として利用されているようである。66、67は棒状に近い原石を敲打によって形を変えようと試みられている。

68～74の中・小型では、68、69、73がやや厚手の扁平礫、70、74が短冊状の原石に対しほとんど形を変えないまま利用しているのがわかる。71、72は剥離の結果一見打製石斧のように、全面が剥離面で構成されているもの。72、73は剥離後に一部研磨されている。

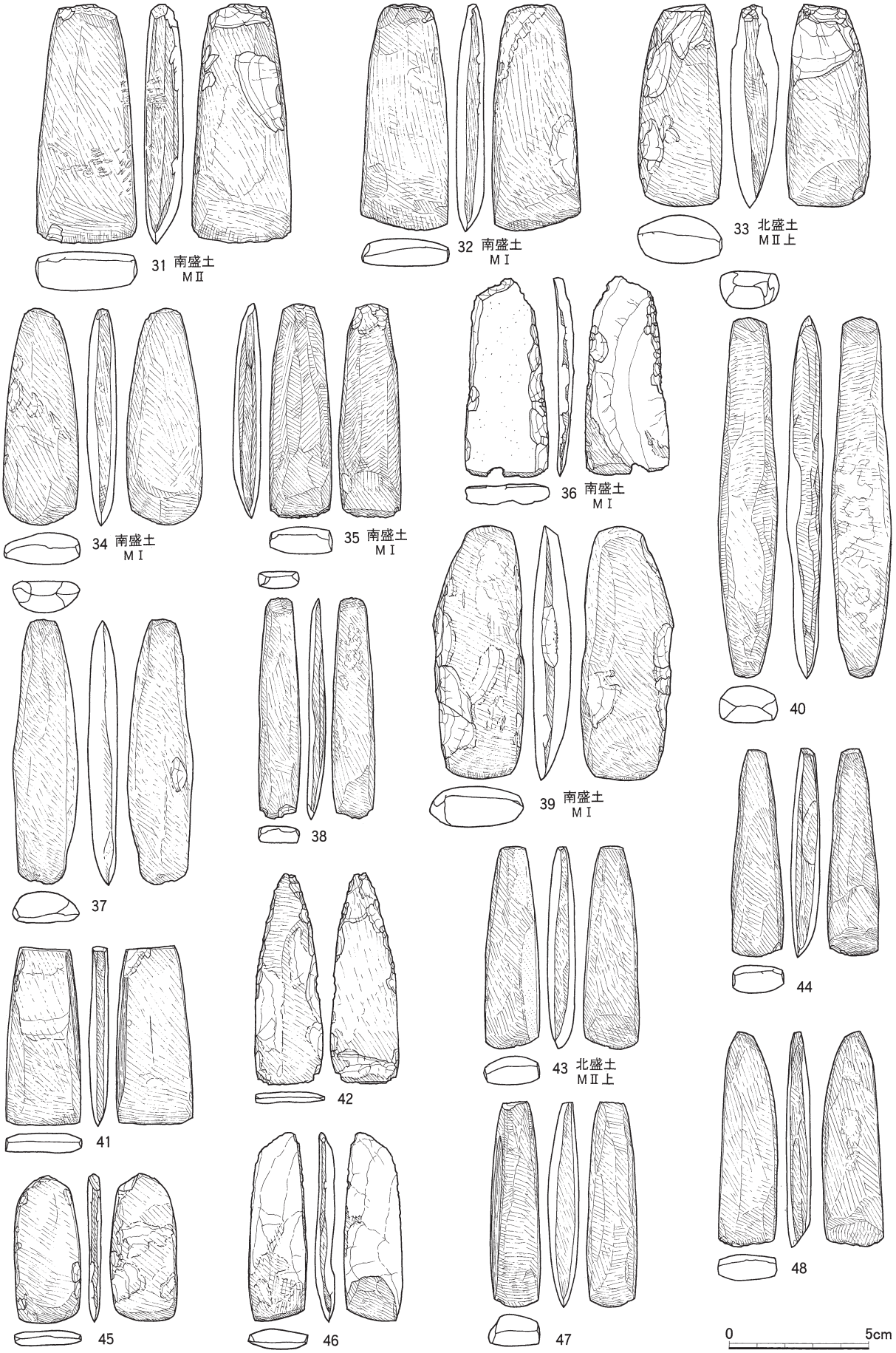
75～82は研磨が認められるもの。75～77は全長11cmを超える大型。78～82は中型である。76がやや偏平な礫を素材とする他は、やや厚みのあるごろっとした原石を用いている。ほぼ全てが敲打も



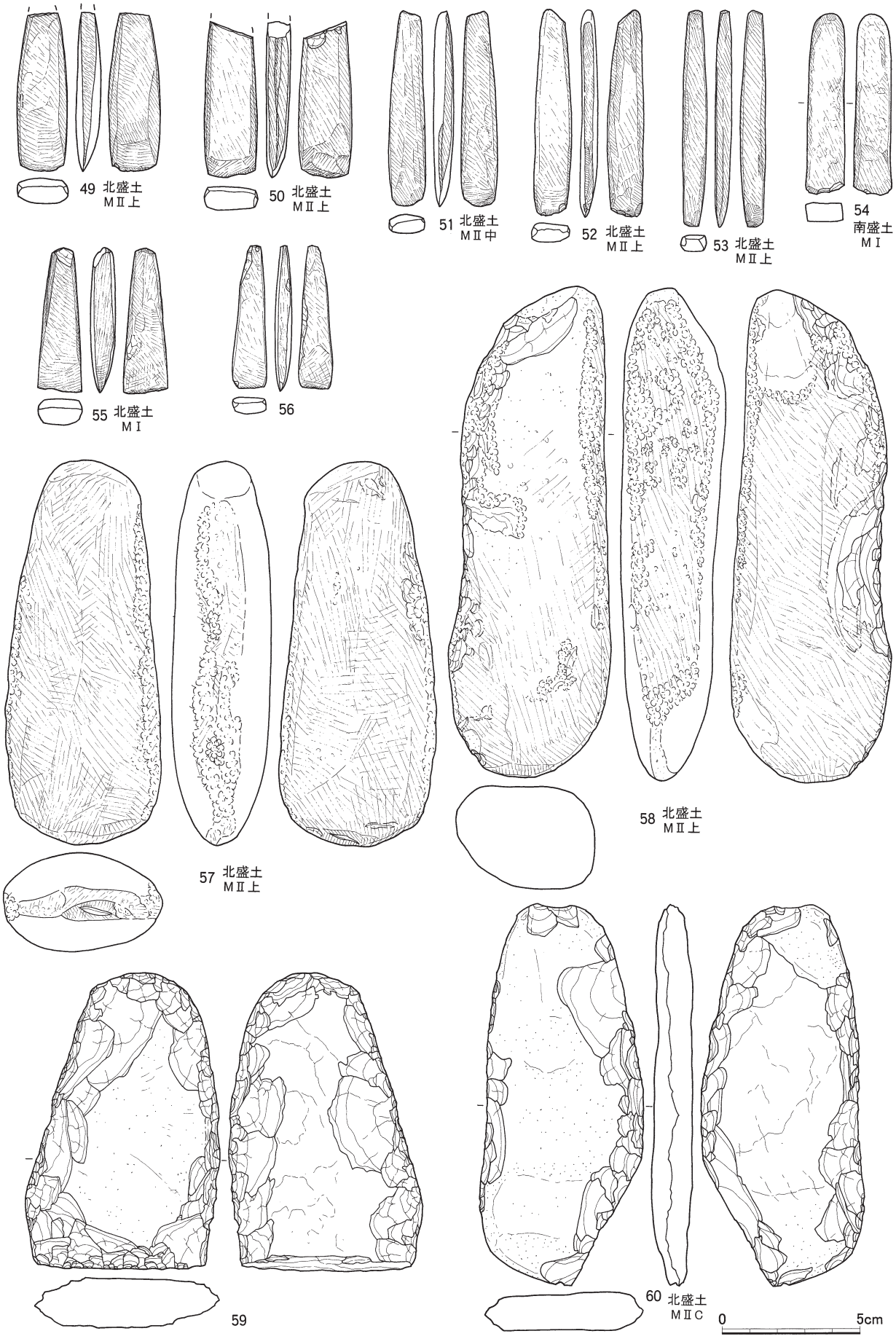
図Ⅴ－66　磨製石器（2）石斧②



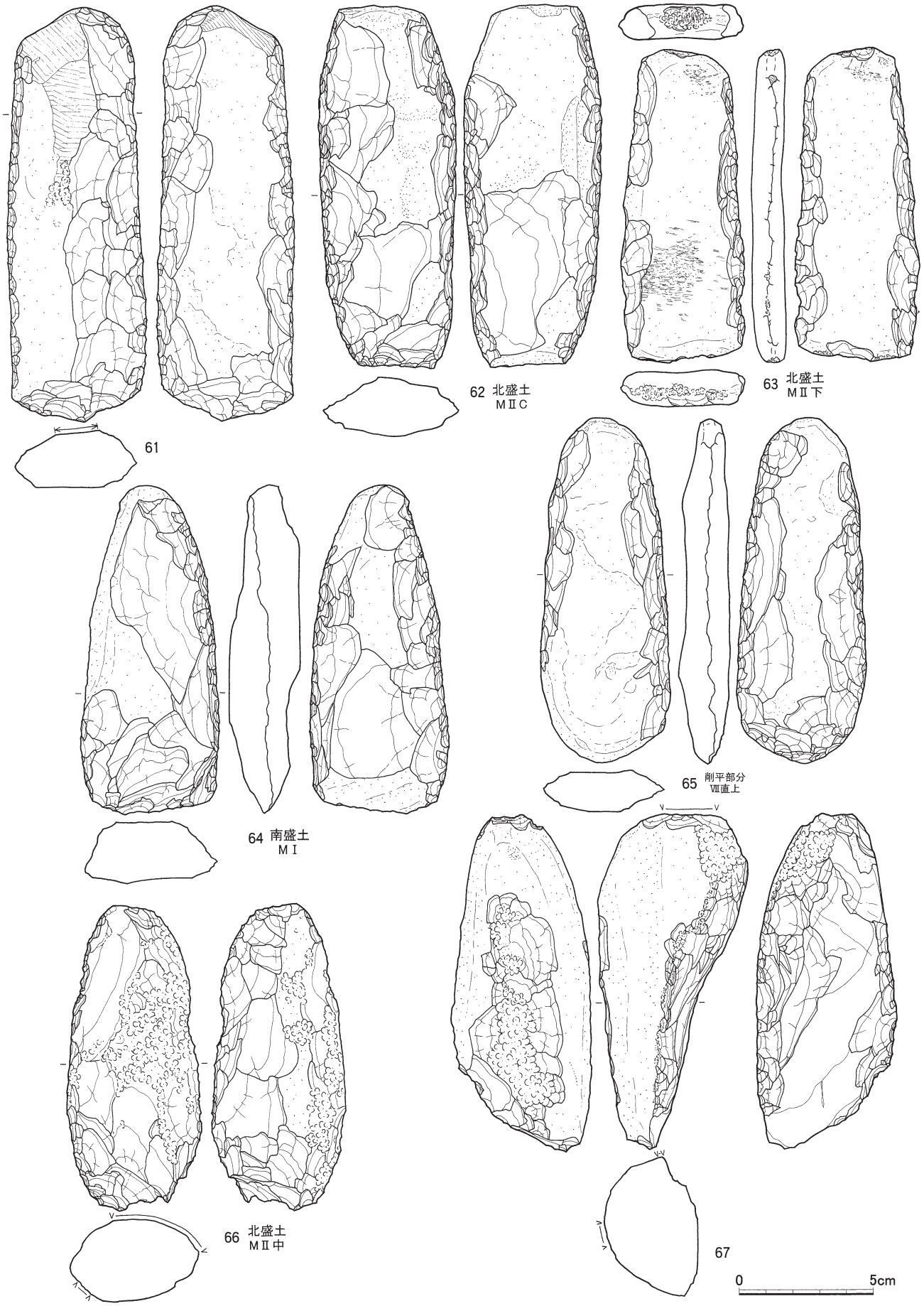
図Ⅴ－67　磨製石器（３）石斧③



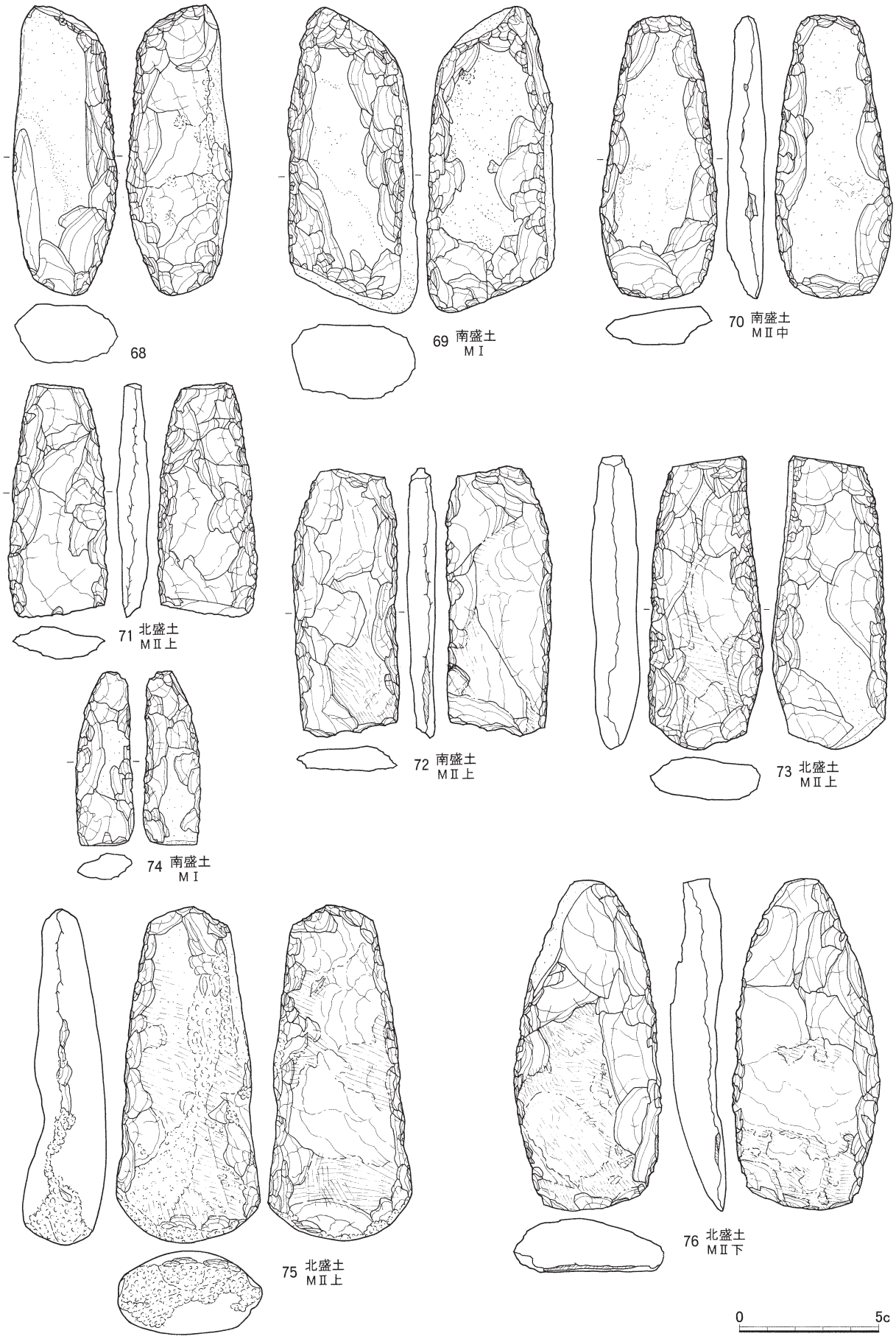
図Ⅴ－68　磨製石器（4）石斧④



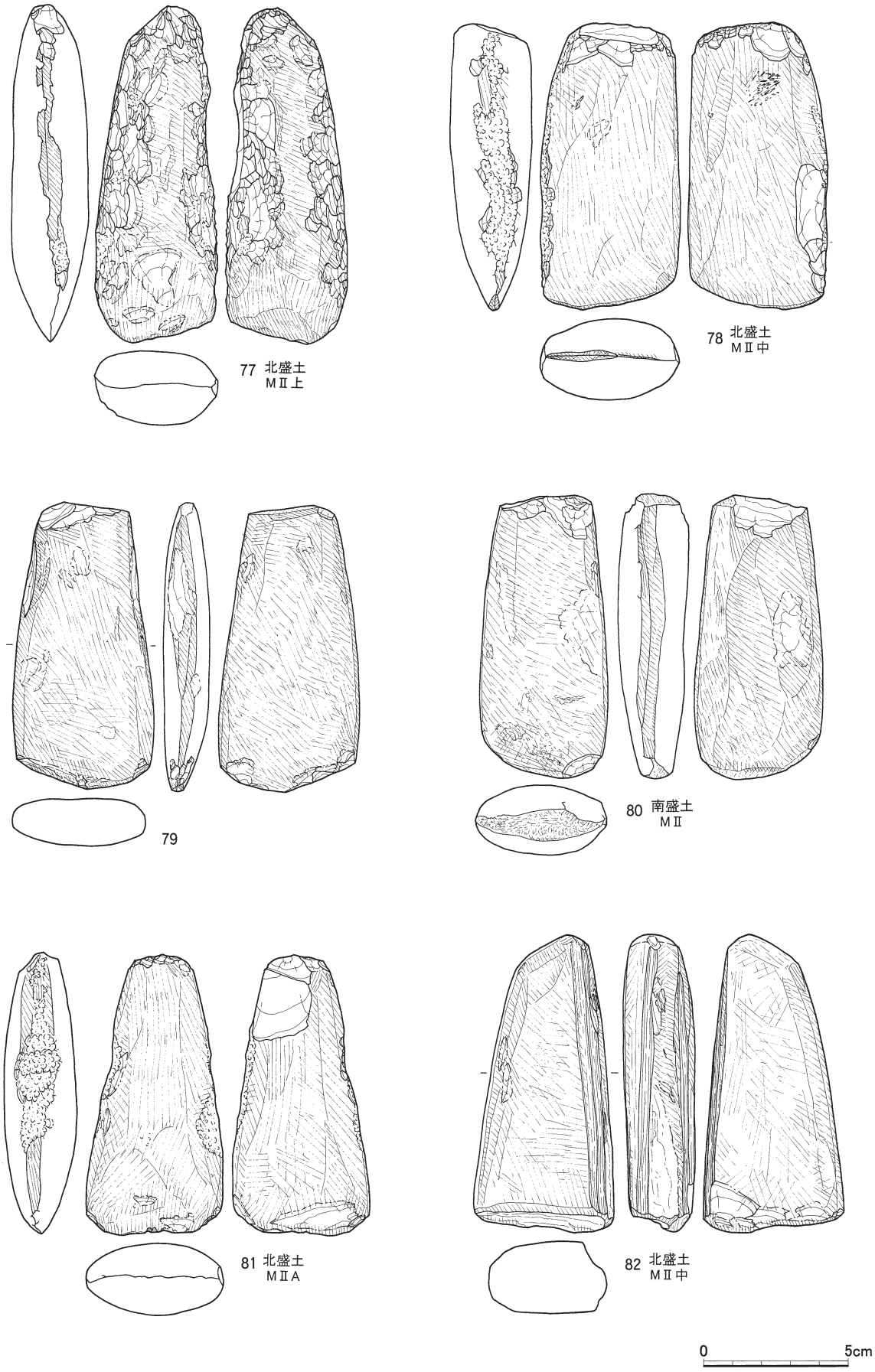
図Ⅴ－69　磨製石器（５）石斧⑤・石斧加工品①



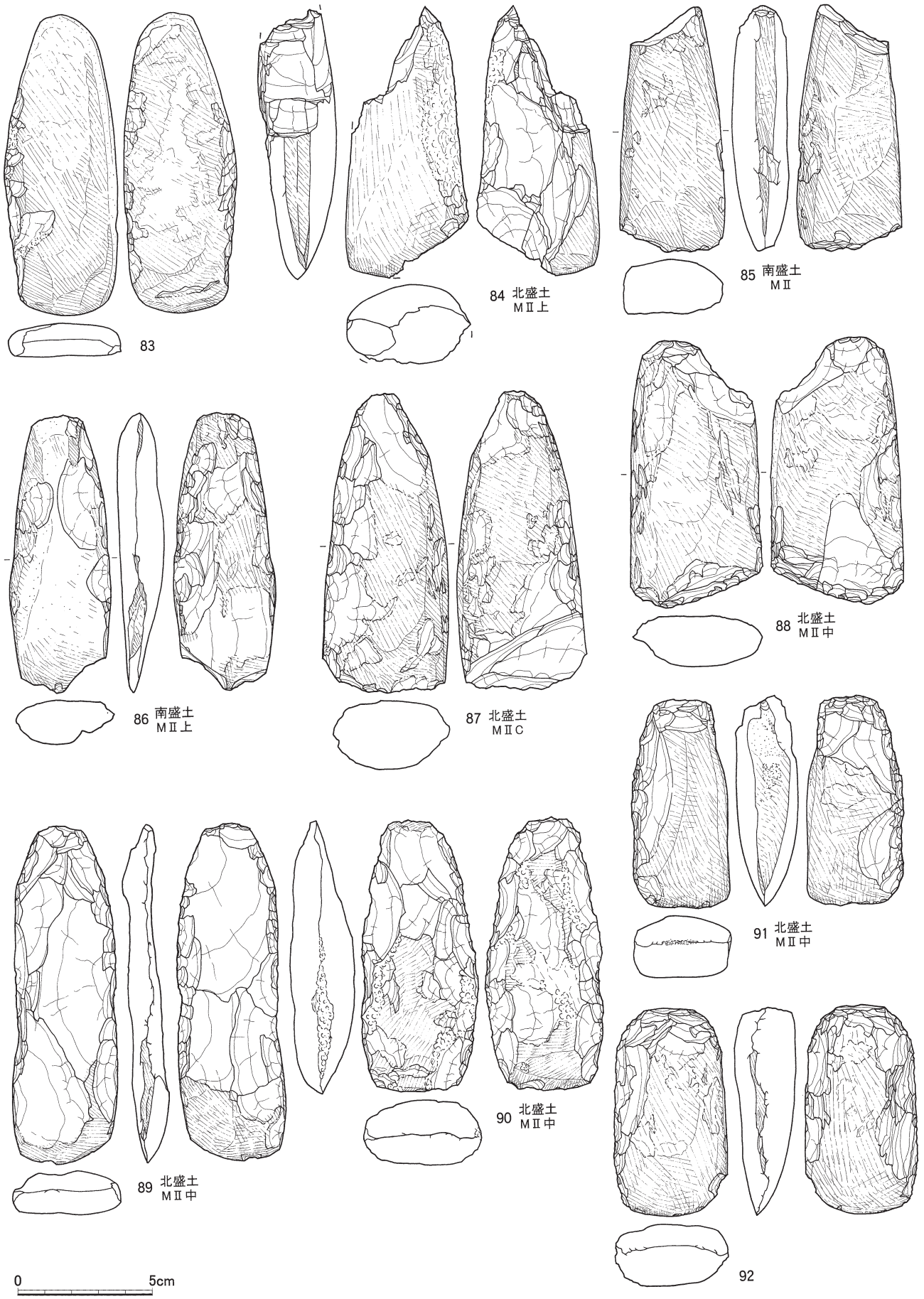
図Ⅴ－70　磨製石器（6）石斧加工品②



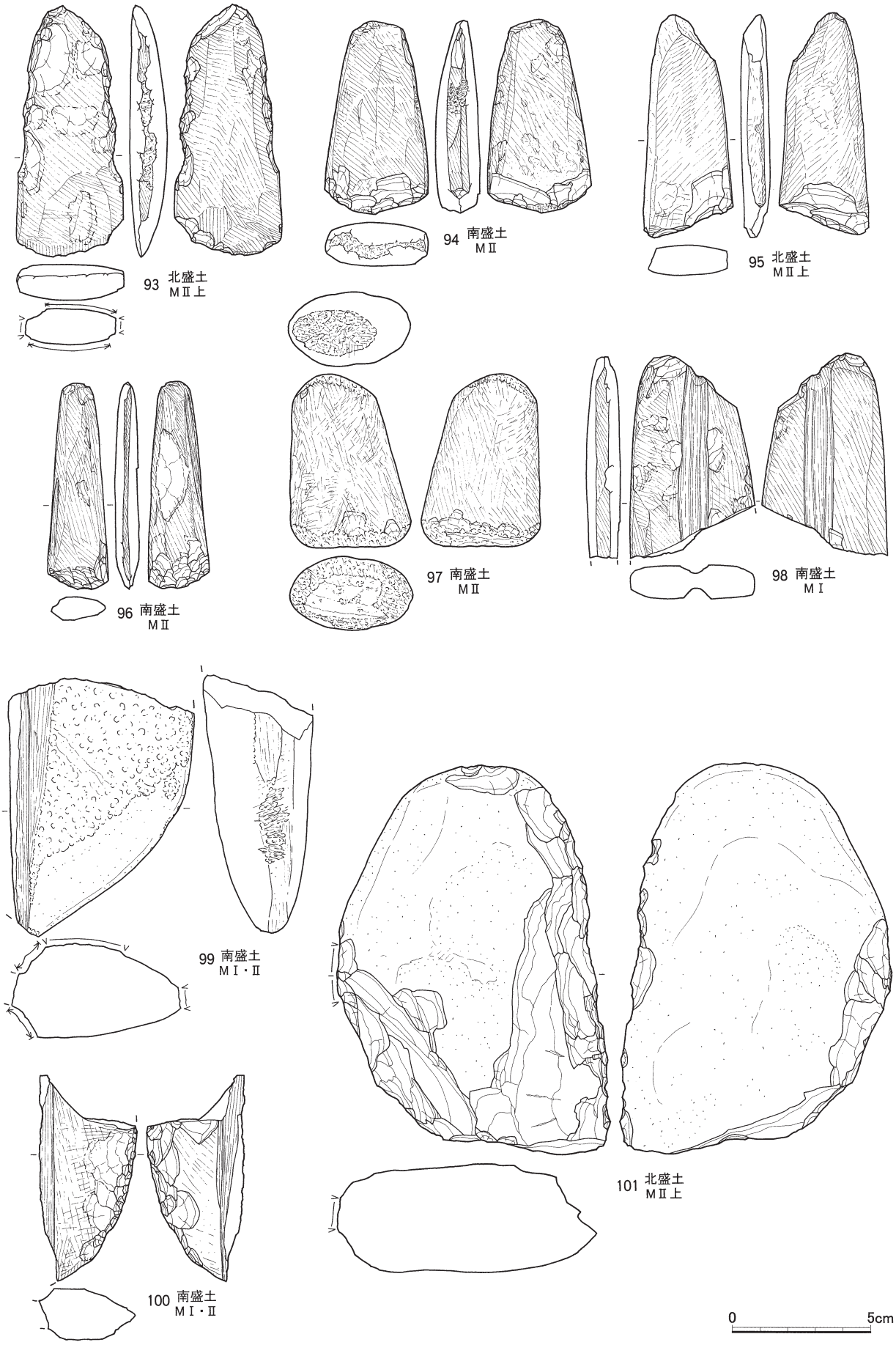
図Ⅴ－71　磨製石器（７）石斧加工品③



図Ⅴ－72　磨製石器（8）石斧加工品④



図Ⅴ－73　磨製石器（９）石斧再加工品①



図Ⅴ－74　磨製石器（10）石斧再加工品②・擦切残片・石斧原材①

しくは剥離作業の後、全面で研磨を行うが、刃部を作出するに至らないものである。78、81 には研磨後の敲打調整がみられる。81 は側面に敲打によりくぼむ。82 は擦切技法の痕跡がある。破損後に全面が研磨されるものである。

石斧再加工品（図Ⅴ－73、74-83～98、図版 63・64）

83～98 は石斧再加工品である。146 点出土し、17 点図化した。一度石斧に加工された後、調整等を行うものとしたが、それが明らかに認められるのは 84、89、93、96、97、98 で、91、92 はその可能性が高い。複数面が研磨されているものの、再加工なのか加工途中なのか判然としないものも多い。研磨による整形が明瞭な場合や刃部の研ぎ出しを行っているものを本類としたが、加工工程が明らかでないので、研磨途中の製品である可能性もある。石斧の形状をした素材から、側縁、基部、刃部を敲打、剥離して大きさを変更しようと試みられるものが全てであるが、97、98 は例外。97 は石斧の基部片を利用したたき石。98 は擦切技法の痕跡が残るものである。

擦切残片（図Ⅴ－74-99・100、図版 64）

99、100 は擦切残片。30 点出土し２点図化した。99 は表面と側面の一部に敲打痕が、100 は側縁に打ち欠きと表裏面に一部研磨痕が認められる。

石斧原材（図Ⅴ－74～76-101～115、図版 64・65）

101～115 は石斧原材である。235 点が出土し、15 点を図化した。101 は大型石斧の石材とみられる。比較的扁平な礫の周縁を打ち欠いて整形を試みているもの。102～113 は中型、小型の石斧石材である。102、103 は厚手の石材、あばた状の連続する敲打痕が広範囲に認められる。104～107 は周縁もしくは一部に打ち欠き整形が認められるもの。105 の端部は研磨される部分がある。108～110 は刃部にあたる端部のみに加工があるもの。109、110 は研磨される部分がある。111～113 はほぼ原材である。112 は周縁に擦り調整がなされる。114、115 は意図の不明瞭な加工がみられる。114 はほぼ原石を擦切技法により断ち割ろうと試みている。115 は被熱により変色した原石の一辺を磨き上げたものである。

石斧関連接合資料（図Ⅴ－76～82、図版 65～69）

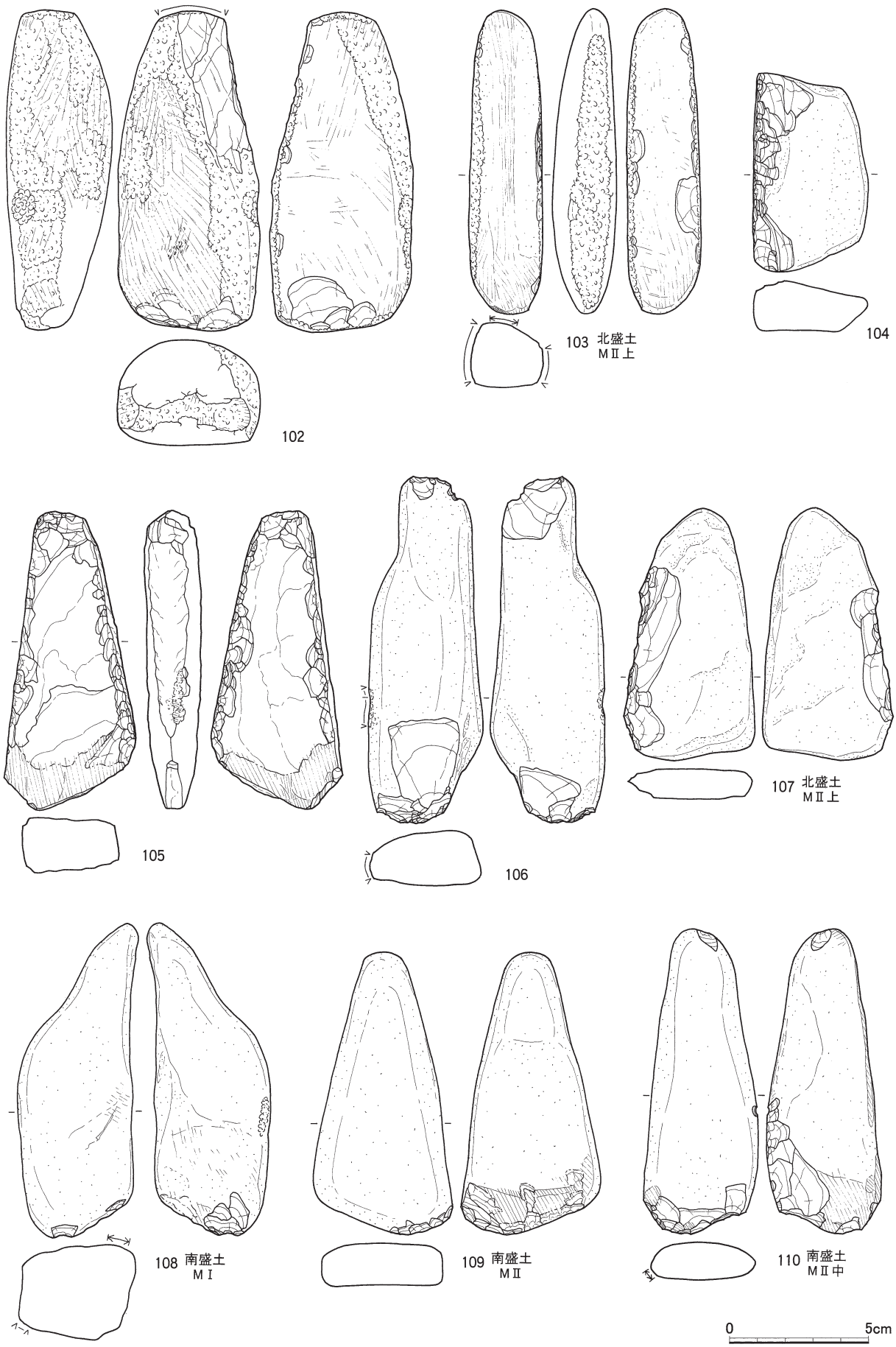
出土した石斧関連遺物（石斧、石斧片、石斧破片、石斧加工品、石斧再加工品、擦切残片、石斧原材、フレイク）について接合作業を行った。特に石斧と石斧片、石斧破片間の接合、石斧加工品、再加工品とフレイク間の接合に重点を置いた。

結果 279 点が接合し、118 個の接合資料が得られた。結果を器種ごとに述べると、石斧・石のみ 20 点、石斧片、破片 10 点、石斧加工品 34 点、石斧再加工品９点、擦切残片３点、石斧原材はその可能性があるものも含め 20 点、フレイクは 22 点ある。フレイクは剥離原因から二種に分けた。剥離背面が原石面または剥離面のものを石斧加工剝片、研磨面のものを石斧調整剝片とした。結果石斧加工剝片が 16 点、石斧調整剝片が６点である。

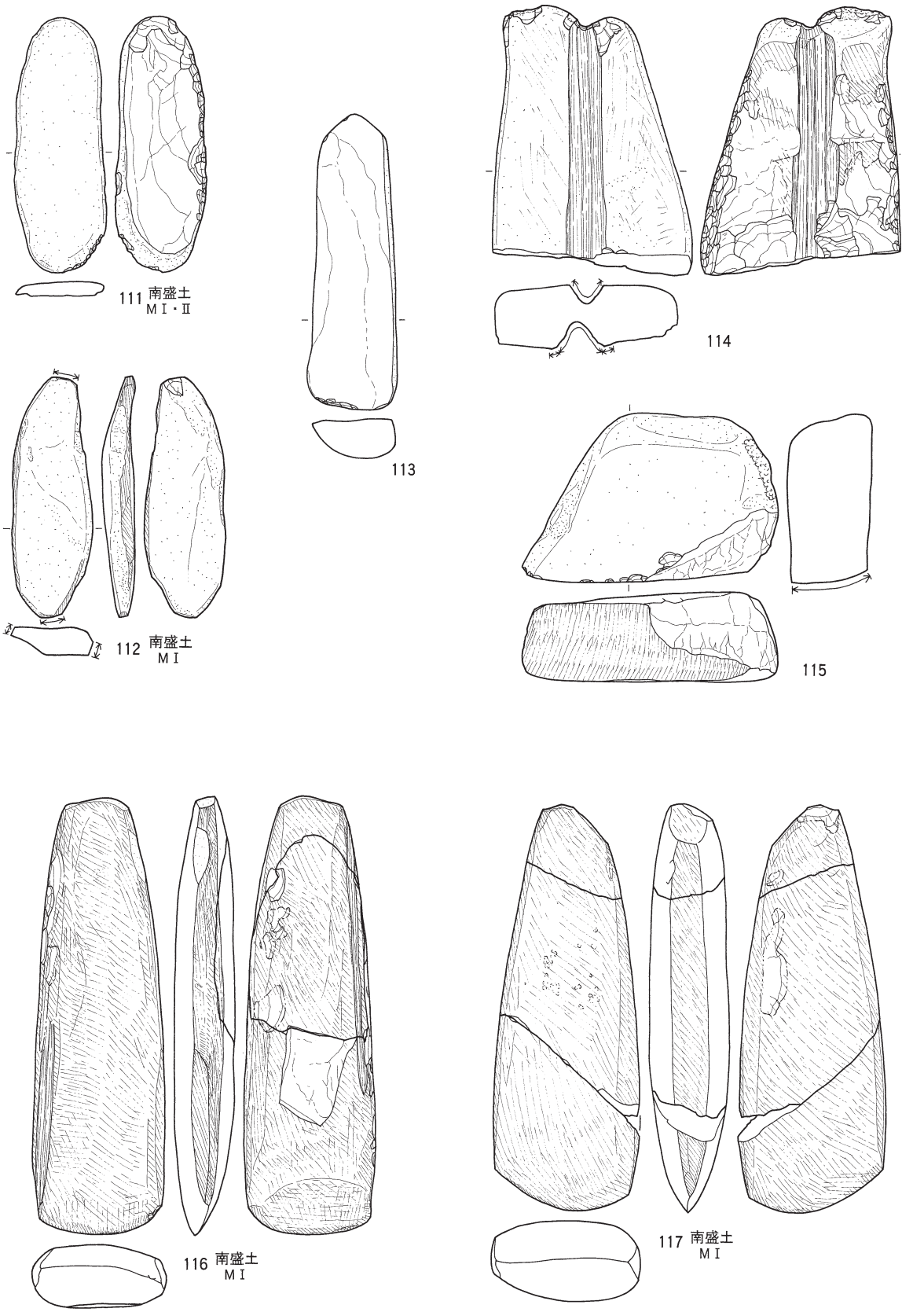
これらの中から 40 点を図化した。接合資料の出土グリッド、接合器種等の詳細については表Ⅴ－12 に掲載した。接合結果の器種順に述べる。

接合資料Ａ　石斧・石のみ（図Ⅴ－76～78-116～126、図版 65・66）

116～125 は石斧、126 は石のみである。116 は器体の剥離接合、117 は石材の節理による破断面が接合に至るもの。それ以外はほぼ中央付近の破断が接合できたものである。刃部は 124 に欠損が認められる他は、接合の結果製品となったものである。これらの内、研磨と異なる刃部に直交する線状痕や、刃こぼれ状の剥離がみられるのは、116、120、126 で、他は研磨途中（118、124）か、研磨痕跡が明瞭で、使用が認められないものである。それぞれの破損原因は、116、120、126 が使用による衝



図Ⅴ－75　磨製石器（11）石斧原材②



図Ⅴ－76　磨製石器（12）石斧原材③・接合資料①

撃、117、123、124 が被熱による節理割れ、他の４点は研磨中に折れたものと推察される。

接合資料Ｂ　石斧加工品（図Ⅴ－78～80-127～138　図版 66・67）

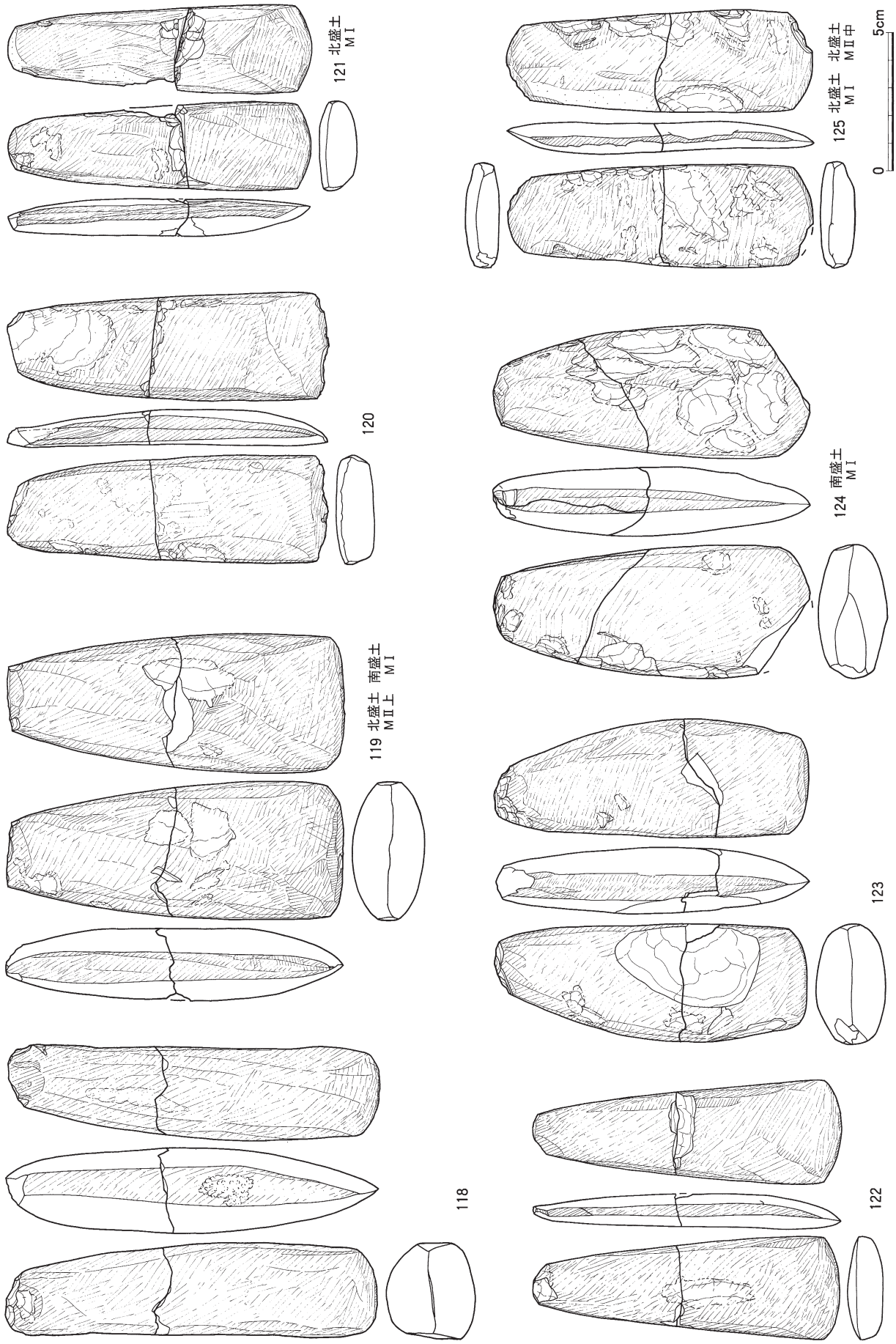
127～137 は、打欠敲打により石斧加工品となったものである。短冊状に整形され、剥離作業中に中央付近から破断しているものが多数を占める（128～132、134）。破断後の再加工が認められるものは３点と少ない。129 は剥離、134 は被熱が刃部側の大片に対して行われる。127 は最も大きな接合資料。残存部分で長さ 19.4 厚さ 7.9㎝の原石を敲打するが、ほぼ真っ二つに破断し、図の下位は剥離加工、上位は被熱を受け剥離している。上位の破片は南北両盛土にわたり接合している。133 は剥離したフレイクが２点接合した。うち１点は被熱している。135、136 は棒状の原石に対し、敲打整形を行っている際に破断するもの。135 は原石状態で被熱黒変した後、敲打整形されている。138 はほぼ全面が研磨された状態の石斧加工品。刃部が研ぎだされていない。被熱割れした破片が接合した。

接合資料Ｃ　石斧再加工品（図Ⅴ－80、81-139～148、図版 67・68）

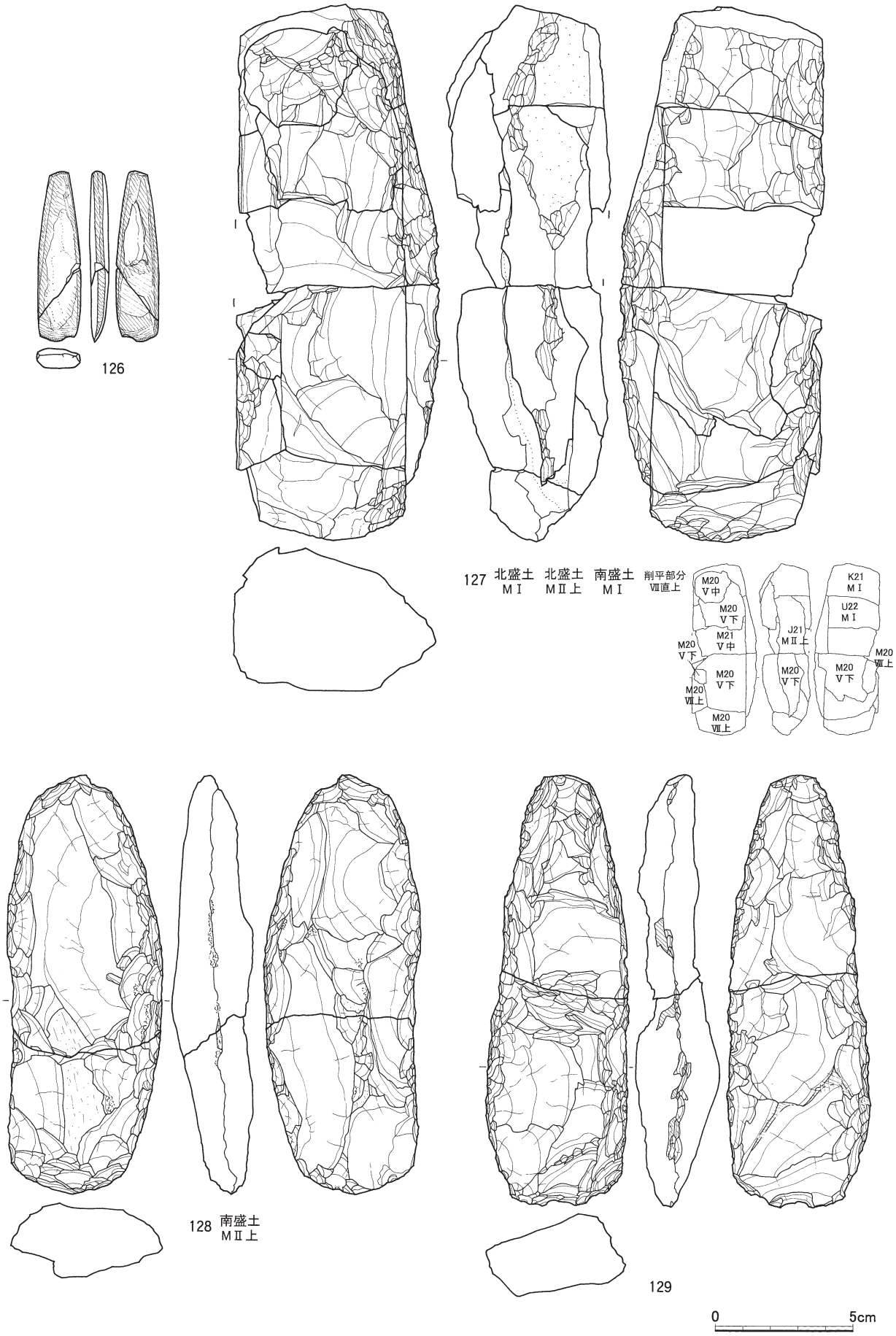
139 は敲打整形時に破損したもの。140 は破断した刃部に近い石斧破片を、敲打により再加工している。141 は被熱により細片となるもの。142 は刃部に使用線状痕を持つ石斧を利用し、再生敲打整形を行う。143 は打ち欠きによる再加工が試みられる。144 は被熱した破損石斧を再加工している。145 は被熱による節理割れ。146 は刃部を剥離再加工した後被熱する。147 は使用痕のある石斧片が焼かれて剥離したもの。148 は擦切痕のある破片を研いで石斧にしようと試みられている。

接合資料Ｄ　石斧原材・擦切残片（図Ⅴ－81、82-149～155、図版 68）

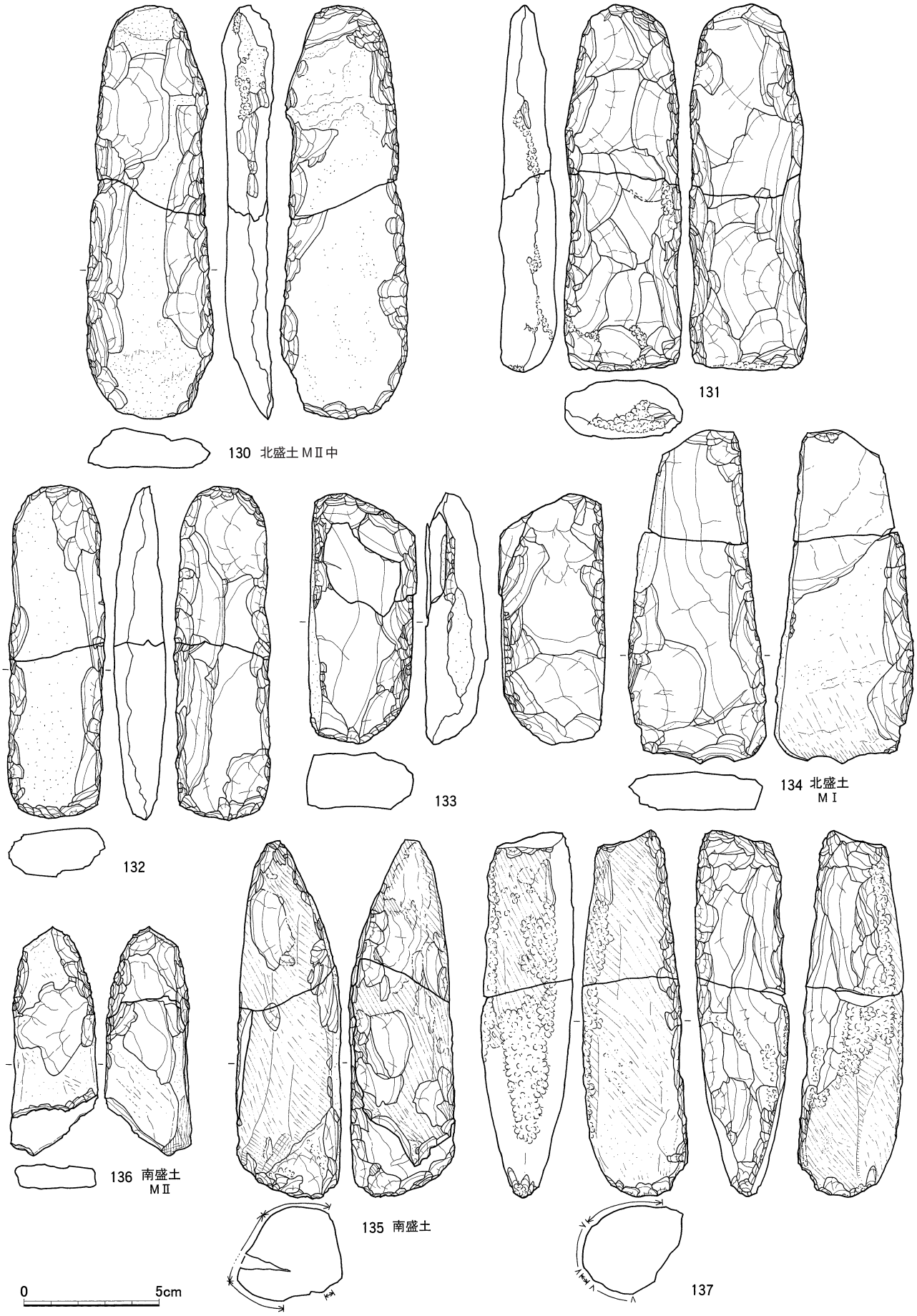
149 は擦切痕がある資料で唯一原石の状態まで接合できたもの。板状の原石に剥離、敲打整形を行い、短冊状の石斧加工品２本を得るつもりで擦切を行ったが、４つに破断した結果となったことがわかる。北盛土の範囲内に破片が収まる。150、151 は擦切痕がある破片。152、153 は若干の敲打整形を行うもの。152 は結果破断している。153 は原石時に被熱する。154、155 は意図の不明な敲打整形を受ける原石。154 はたたき石とするべきかもしれない。155 は節理割れの後も小片に対し敲打を行っている。



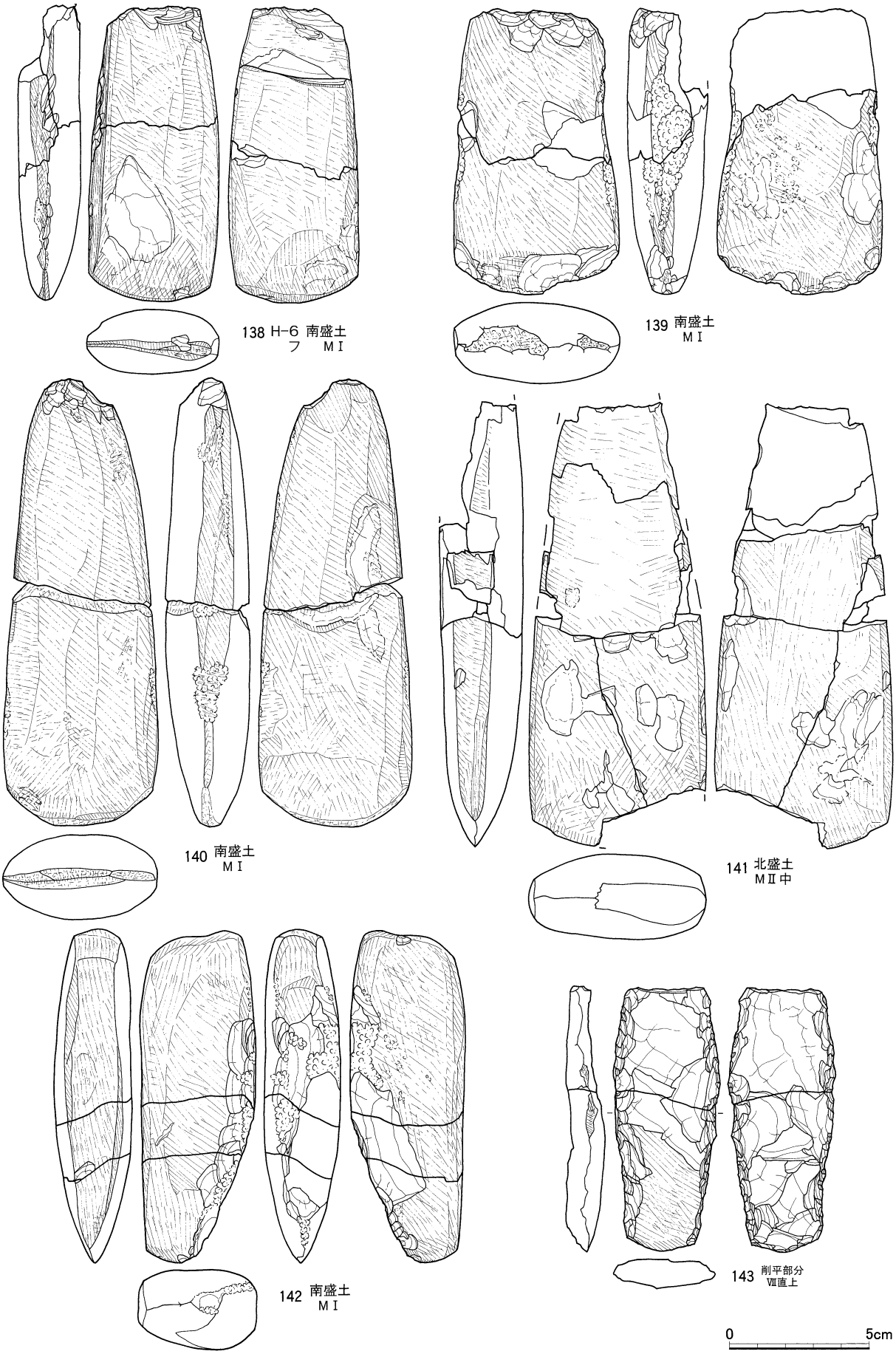
図Ⅴ－77　磨製石器（13）接合資料②



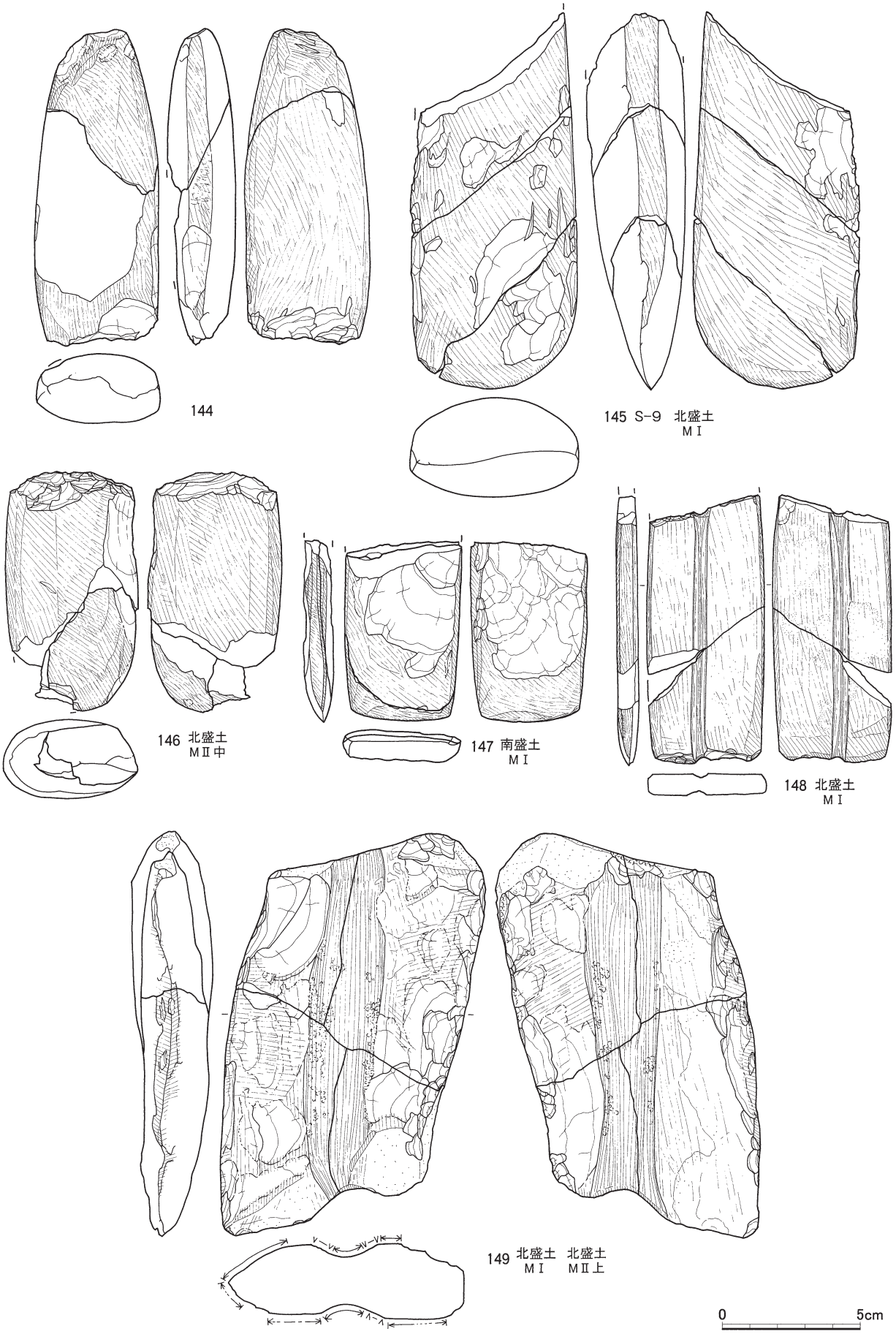
図Ⅴ－78　磨製石器（14）接合資料③



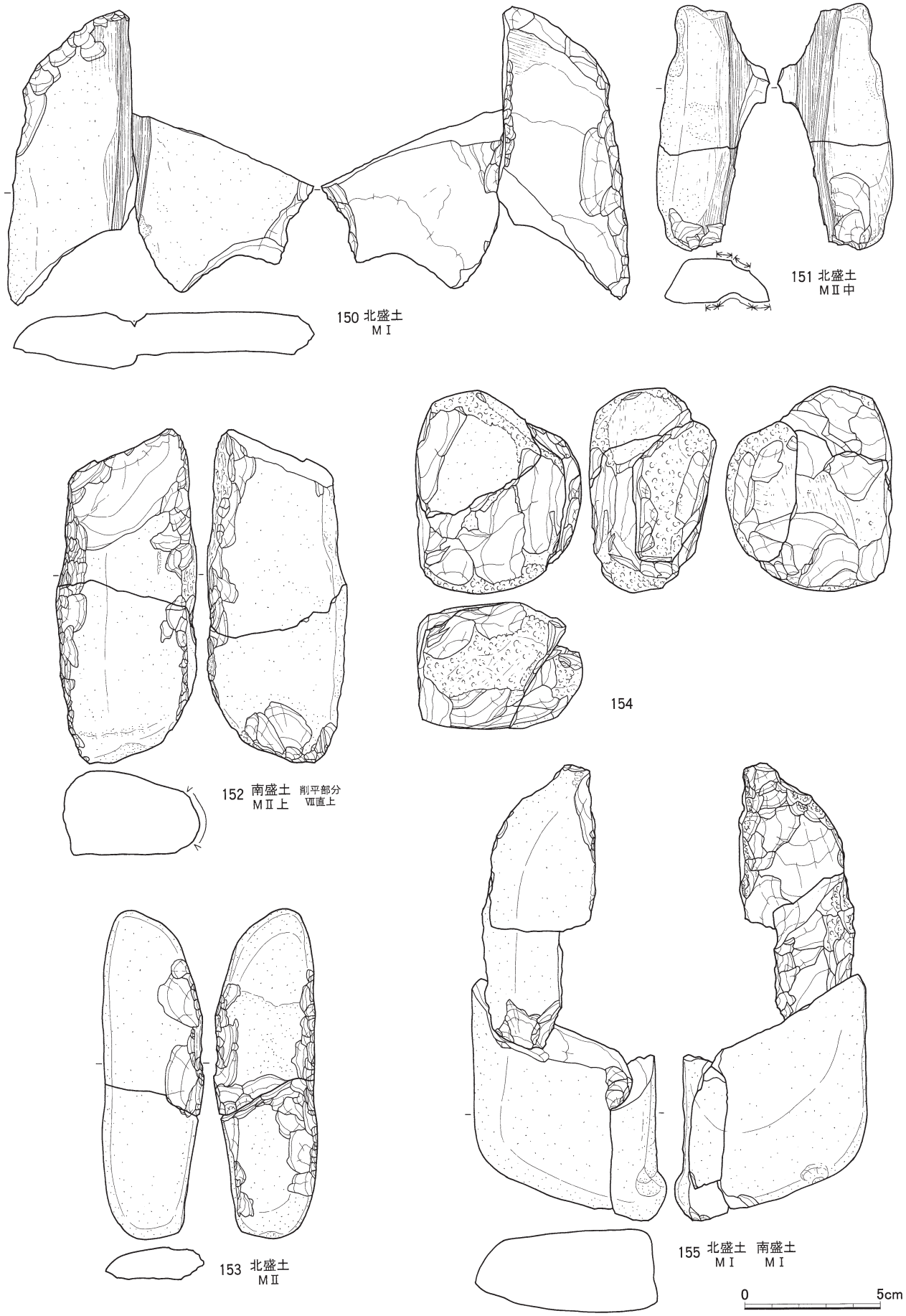
図Ⅴ－79　磨製石器（15）接合資料④



図Ⅴ－80　磨製石器（16）接合資料⑤



図Ⅴ－81　磨製石器（17）接合資料⑥



図Ⅴ－82　磨製石器（18）接合資料⑦

（５）礫石器（図Ｖ－83～135、表Ｖ－10、図版 69～90）

石斧以外の礫を素材とする石器を礫石器とした。石材は細粒～粗粒の砂岩が９割以上を占める。石材はこの砂岩以外のものについてのみ言及している。礫石器はたたき石の出土点数が突出しており、4,409 点、ついで砥石 1,823 点、北海道式石冠 796 点となっている。北海道式石冠、石錘には加工途中とみられるものが出土している。砥石、北海道式石冠、石皿については接合作業を行った。

たたき石（図Ｖ－83～93-１～99、図版 69～73）

4,409 点出土している。形状と使用痕跡から大きく二つに分け、その破片を区分した。さらに形状と使用の強弱で細分している。以下は内容と点数である。

礫の平坦面に敲打痕があるもの（１）とその破片（２）

礫の端部に敲打痕があるもの（３）とその破片（４）

（１）～（４）に当てはまらない形状のもの（５）

（１）、（２）は合わせて 3,591 点、（３）、（４）は、587 点、５は 231 点出土している。さらに（１）、（２）の敲打痕に関し、敲打痕がくぼむ（2,067 点、一覧表でＡとした）、触感が異なる程度のやや弱い敲打（1,520 点、一覧表でＢとした）の区分を設けた。３、４については素材礫が棒状を呈するもの（84 点、一覧でＡとした）、円形等、棒状以外の形状のもの（248 点、一覧表でＢとした）、それ以外の形状（C）に分けている。全ての分類について素材礫の断面形がａ：丸、ｂ：楕円、ｃ：三角形、ｄ：四角形、ｅ：不明に分けている。

（１）、（２）のうち平面形が棒状、長楕円形の礫を用いるもの（１～53）

敲打面数の順で掲載した。１、３～12 は４面以上に敲打痕があるもの。９、10 はくぼみが生じないやや弱い敲打痕Ｂ、その他は明瞭な敲打痕Ａである。敲打痕は概ね楕円形に広がり断面はすり鉢形だが、５は「V」字形を呈している。敲打痕は全て礫の平坦面、中央からずれた長軸上に位置する。３、４、７、12 は端部にも、９、11 は側縁と端部にも敲打痕がある。

２、13～30 は３面に敲打痕があるもの。素材礫の断面形は２、13～17 はｄ。14～25 が概ねｂ。26～30 がｃである。16 の敲打痕がやや弱いＢで、これ以外は明瞭にくぼむＡ。16、20 は側縁が敲打され、30 は端部にも敲打痕がある。

31～48 は２面に敲打痕があるもの。素材礫の断面形は 31～37 がｄ。38～46 がｂ。47、48 がｃである。31、47 で幅５mm 程度の敲打単位が明瞭に認められる。36 は敲打痕の断面形が「V」字形を呈する。45 は周縁、48 は一辺が打ち欠き整形される。35 は被熱して赤変する。石材は砂岩以外のものがあり、46 が斑糲岩。48 が流紋岩である。

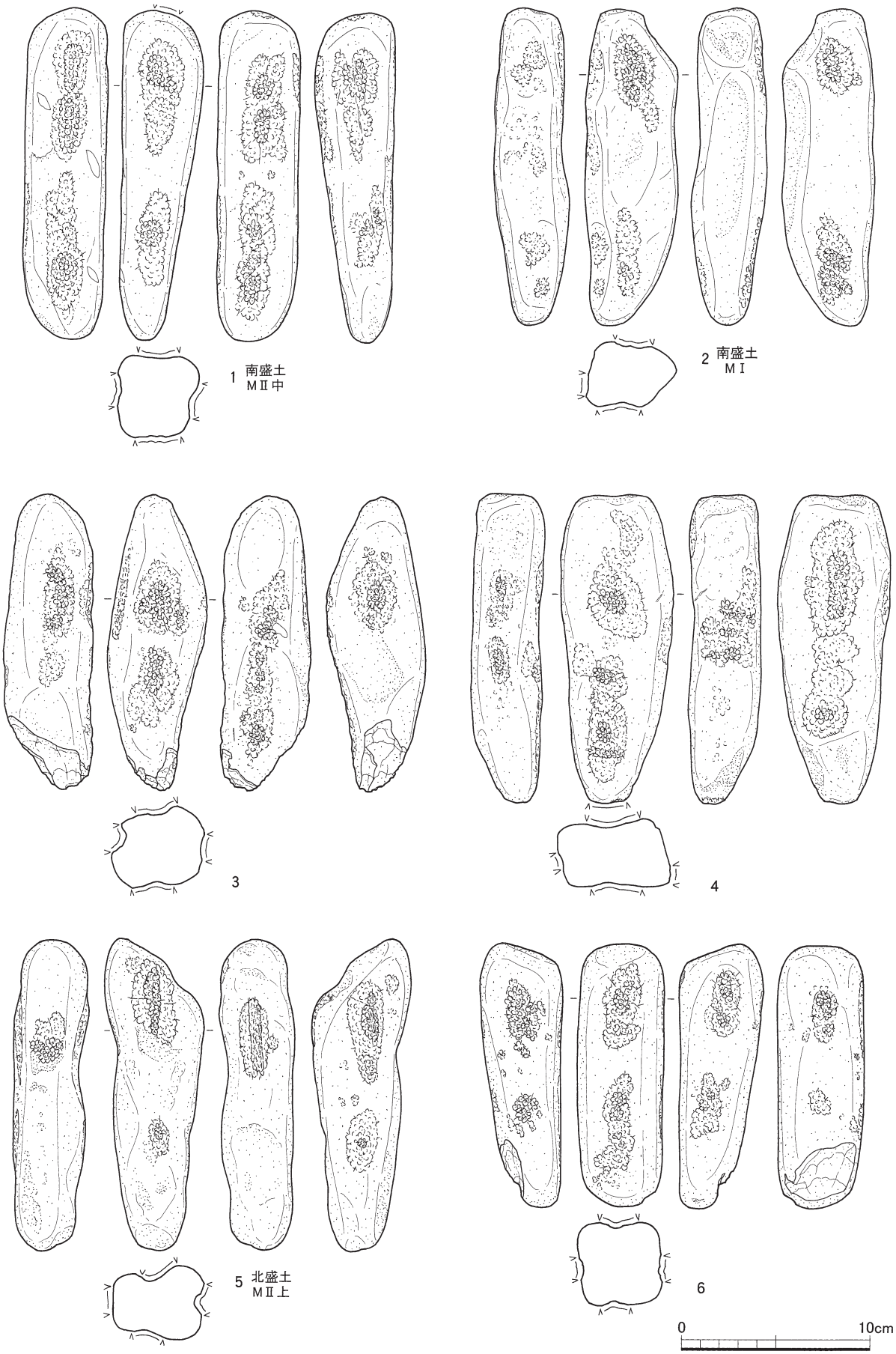
49～53 は１面のみに敲打痕があるもの。51 が敲打痕Ｂの他は明瞭なＡである。砂岩以外の石材は 49 が泥岩、53 が流紋岩である。

（１）、（２）のうち、棒状、長楕円形以外の形状のもの（54～91）

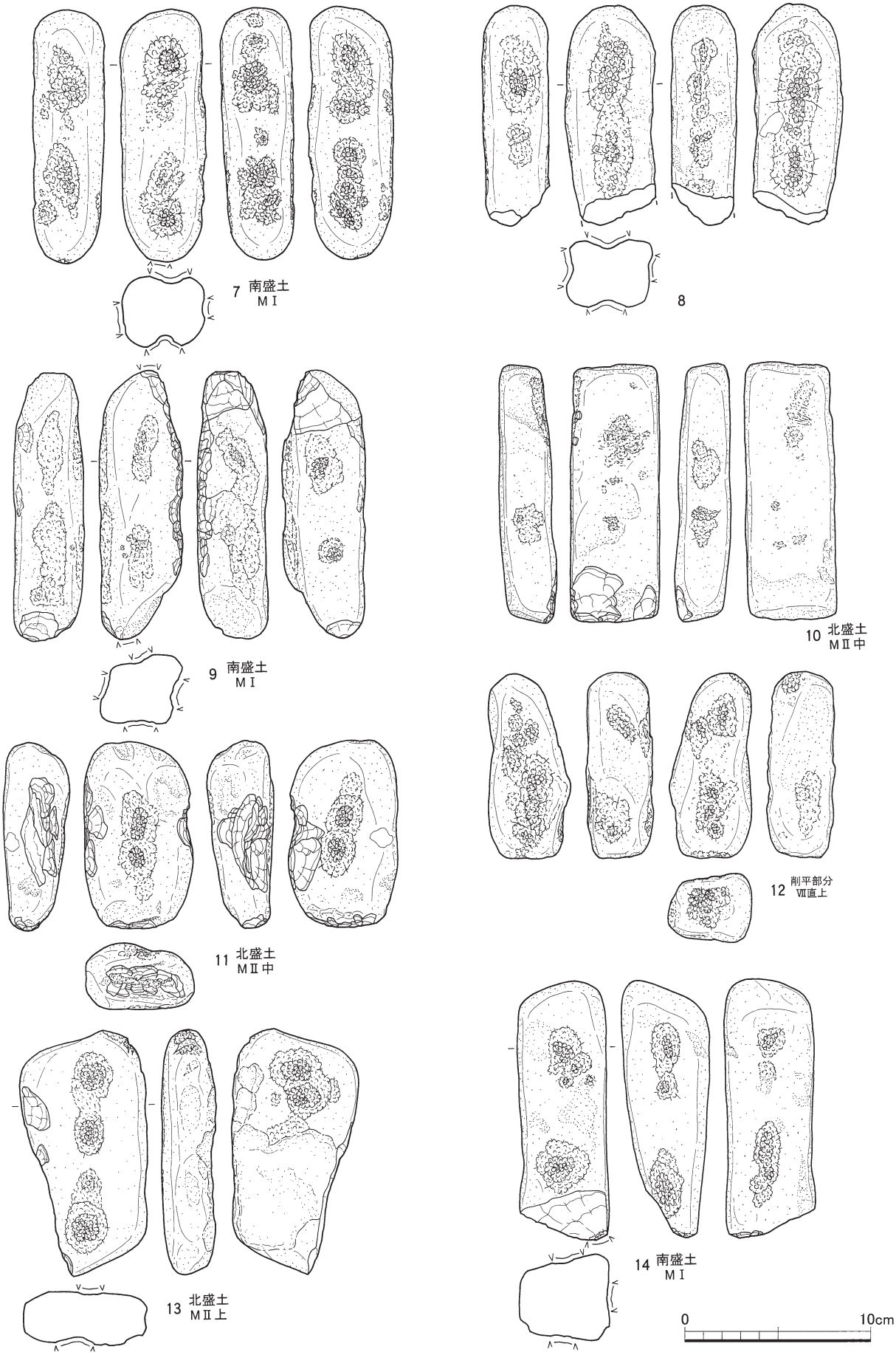
54～68 はやや小ぶりで不定な形状。54～58 は４面に敲打痕がある。58 以外は明瞭に端部も敲打される。58 はやや弱い敲打痕。敲打単位が明瞭に認められる。59～61 は３面に敲打痕がある。礫の破片や不定な形状の素材礫である。63～69 は２面に敲打痕がある。64 は敲打単位が明瞭である。

69～72 は小形。69、70 は角礫状。71、72 は球形に近い。いずれも明瞭に敲打される。73 は台石状。２kg 以下であるため、本類とした。竪穴住居跡 H-５床面からの出土である。板状礫の平坦面に一部線状の敲打痕が認められる。74 は「L」字形の素材礫を用いる。

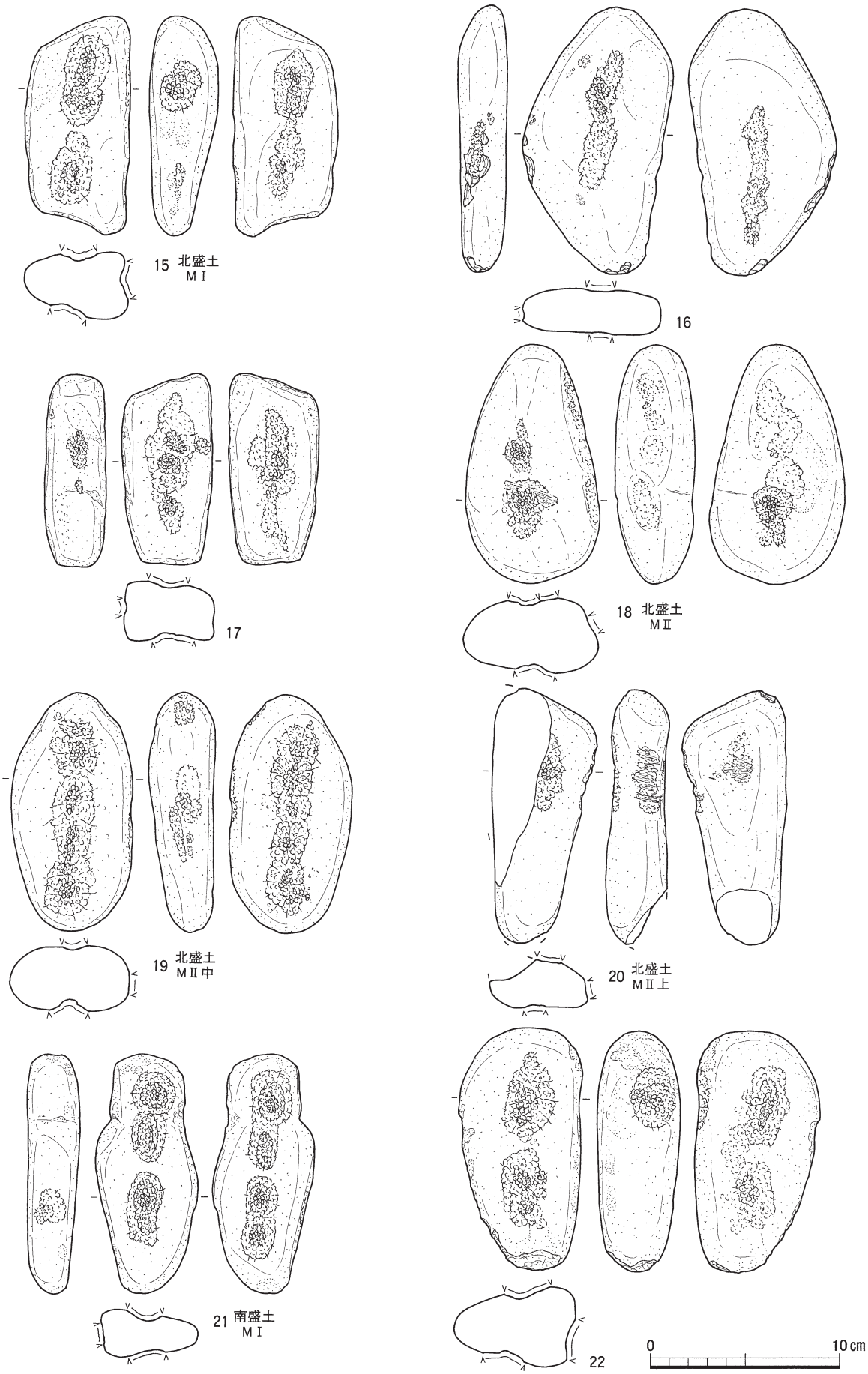
75～86 は礫片、または礫石器片を素材としている。75、77、84～86 は明瞭な研磨面が残る。石皿片を利用したのであろう。81 は整形敲打痕が残る特徴から、おそらく北海道式石冠片を利用するも



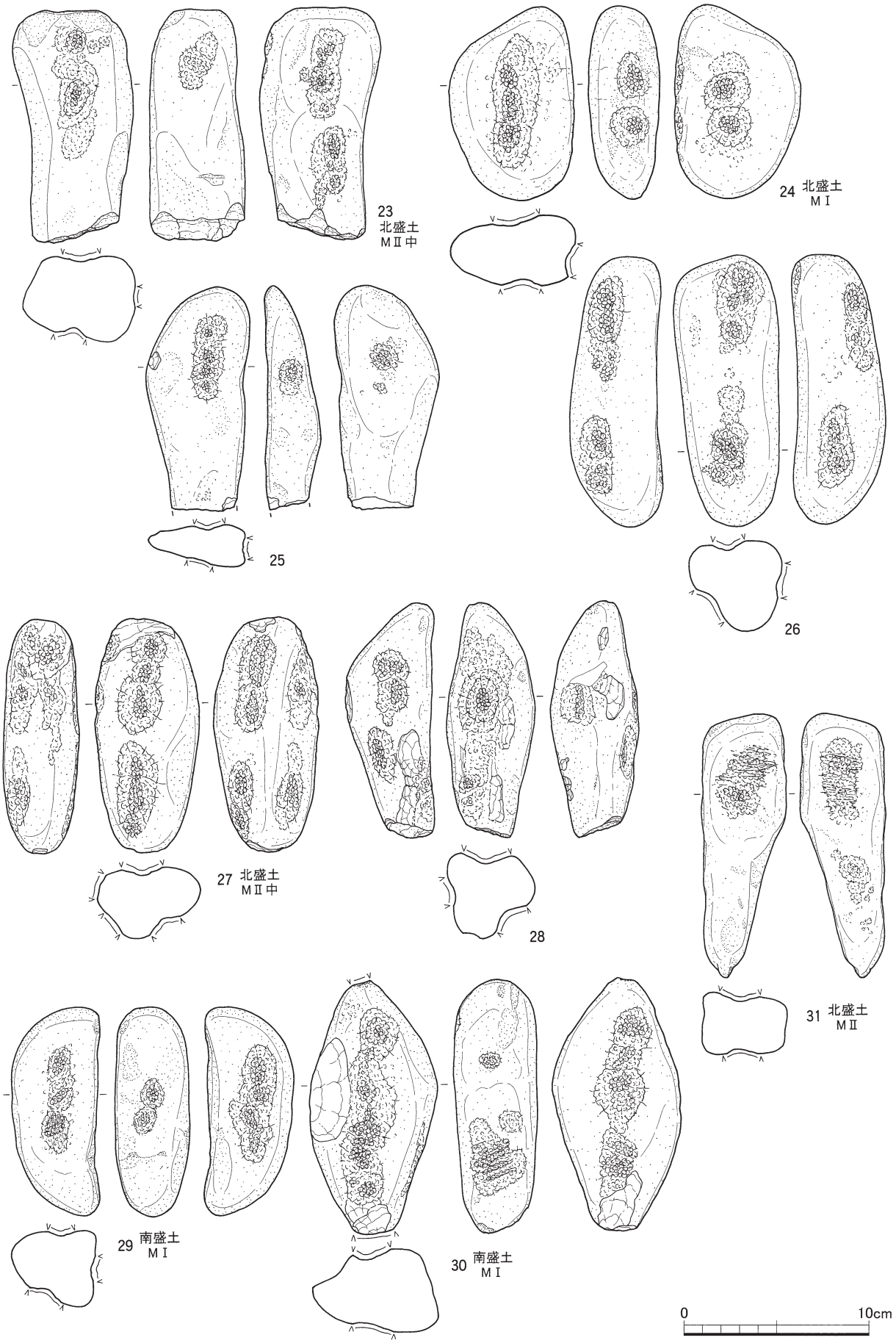
図Ⅴ－83　礫石器（1）たたき石①



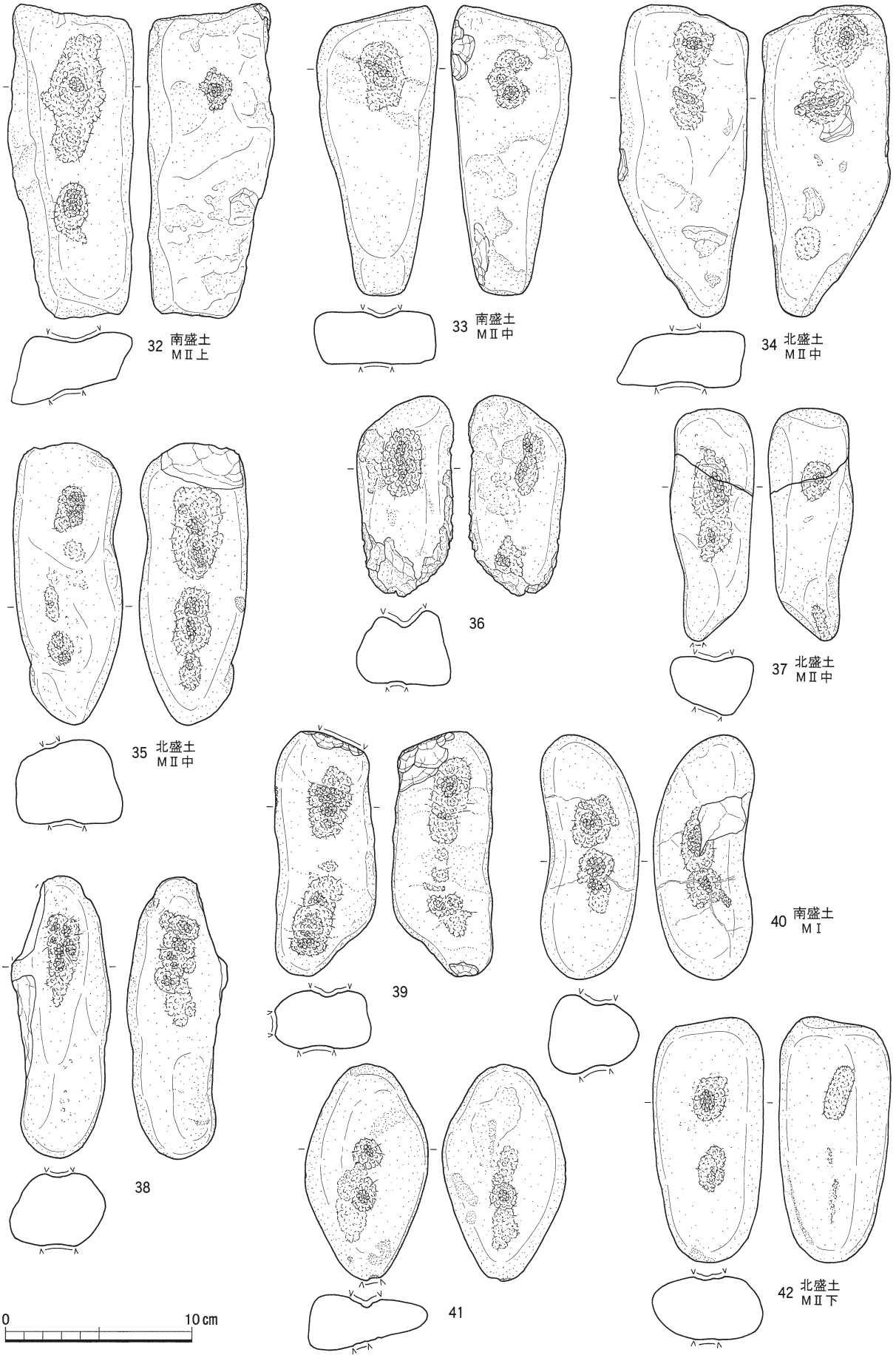
図Ⅴ－84　礫石器（２）たたき石②



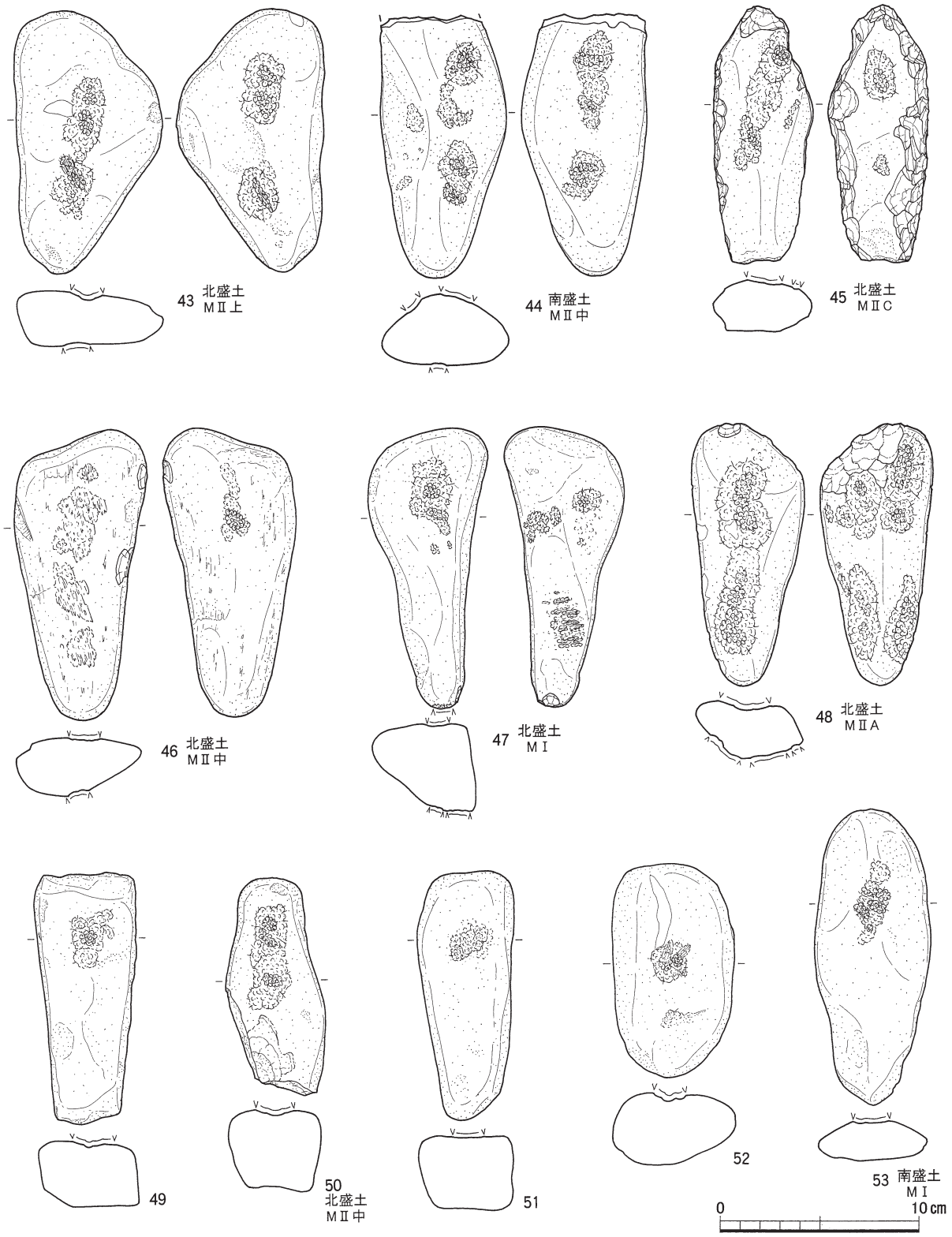
図Ⅴ－85　礫石器（3）たたき石③



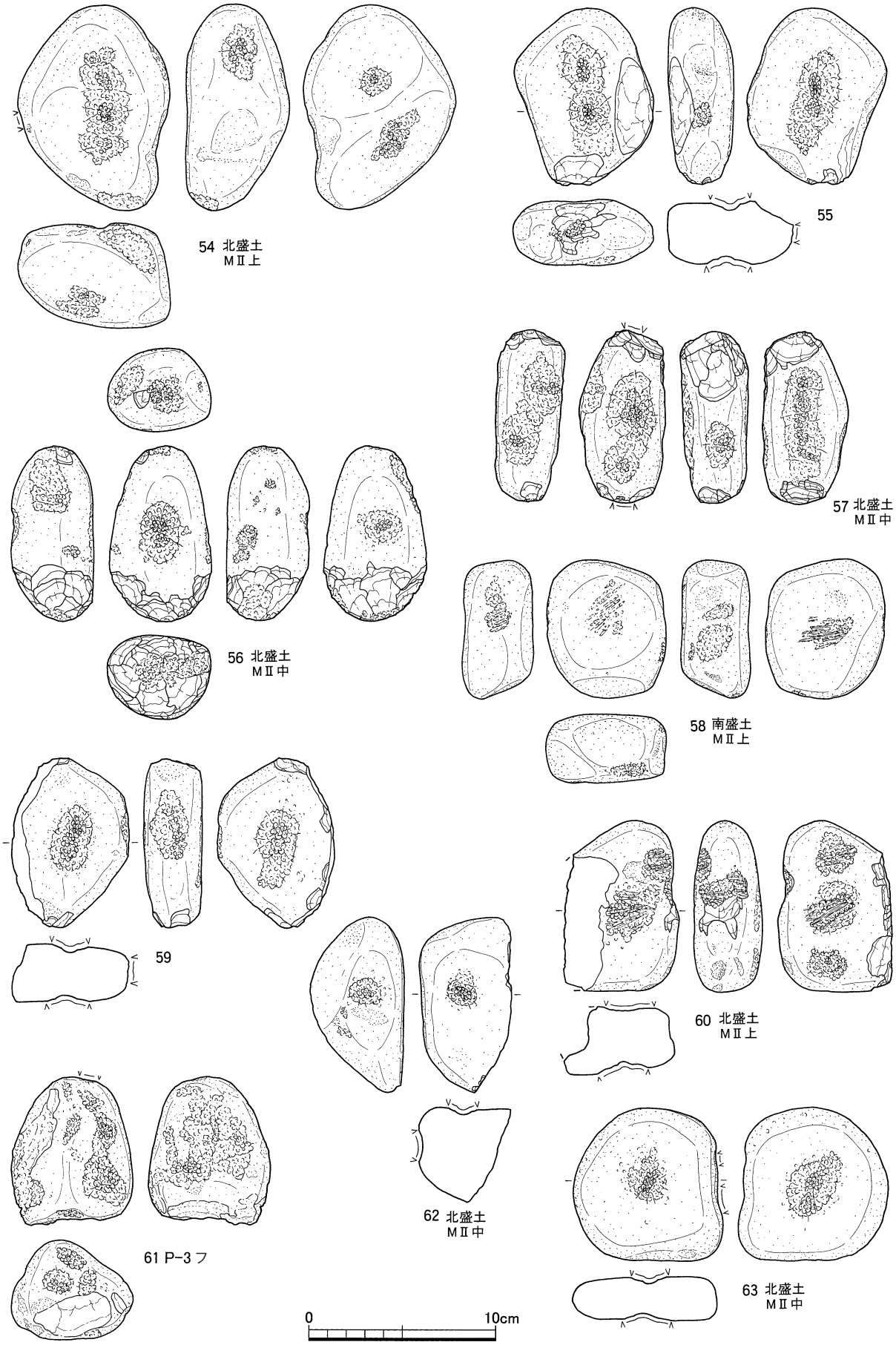
図Ⅴ－86　礫石器（４）たたき石④



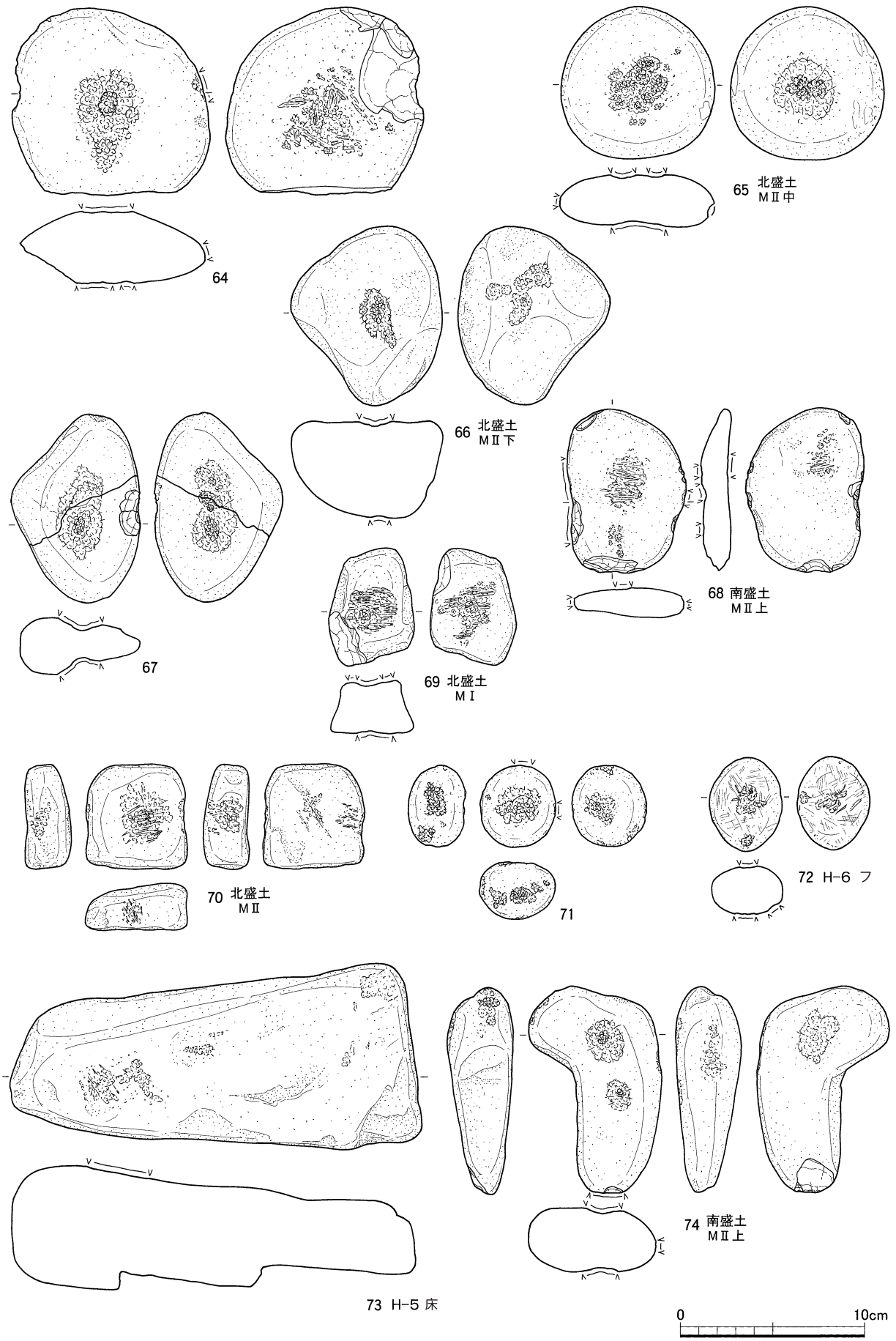
図Ⅴ－87　礫石器（5）たたき石⑤



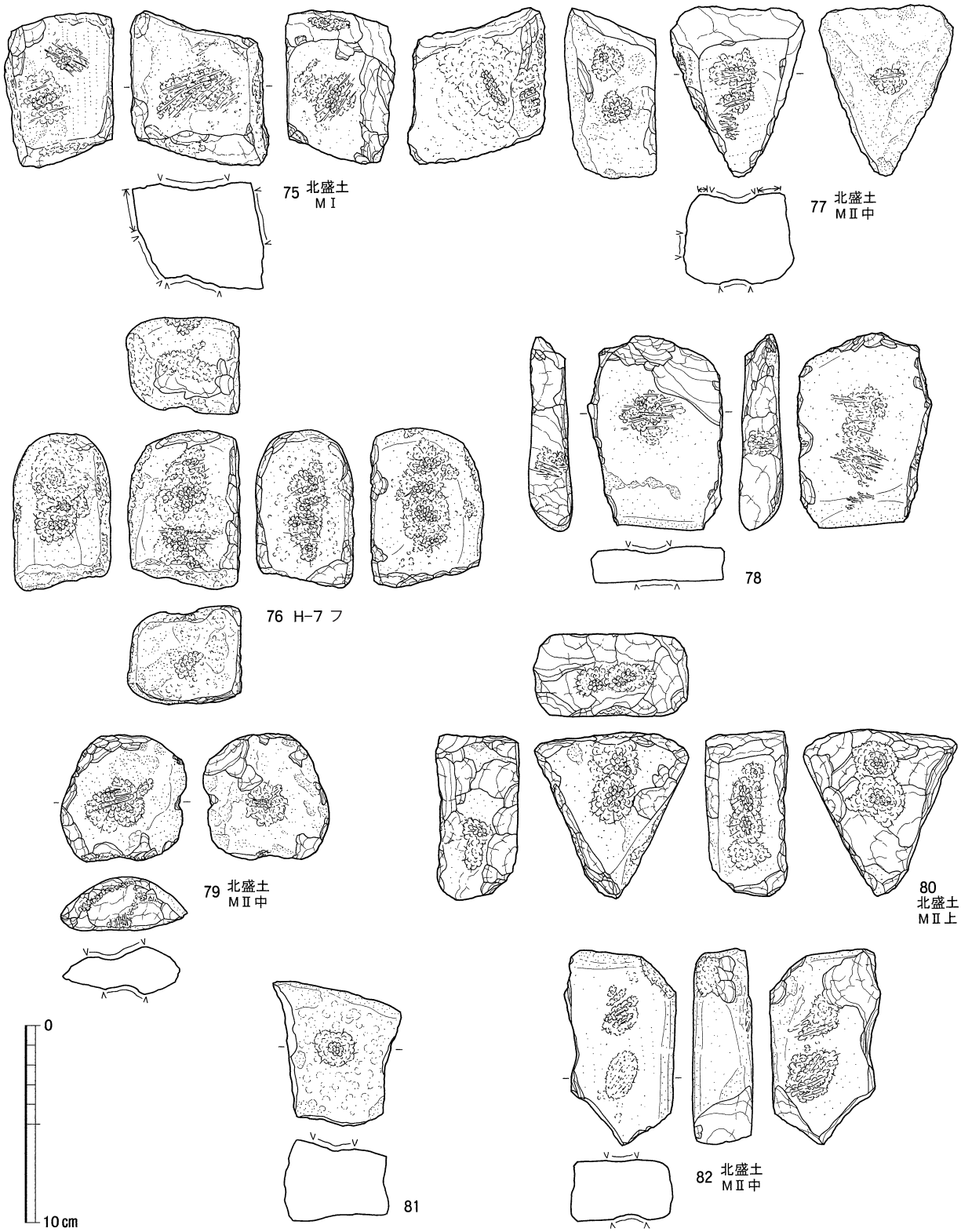
図Ⅴ－88　礫石器（６）たたき石⑥



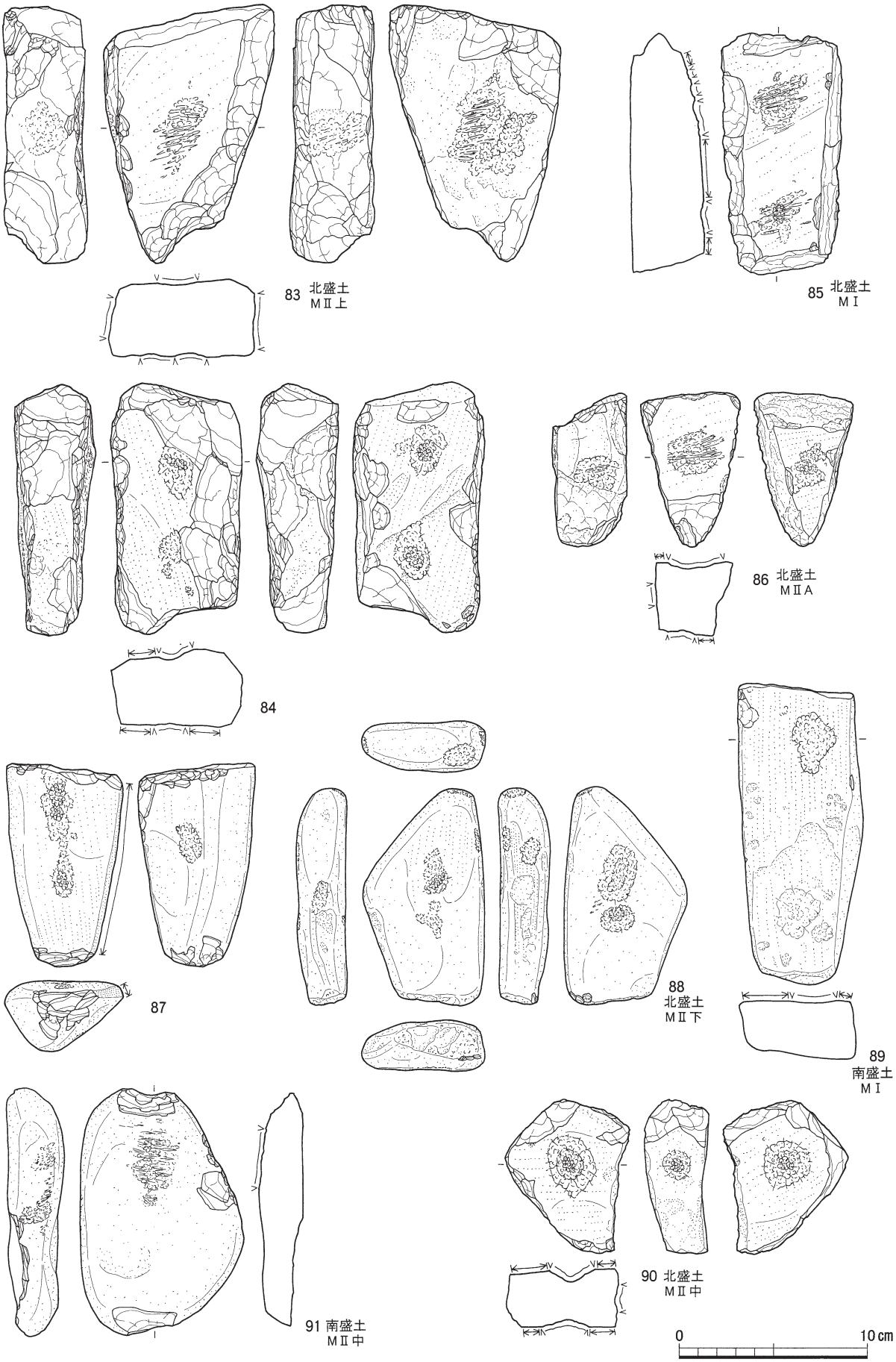
図Ⅴ－89　礫石器（7）たたき石⑦



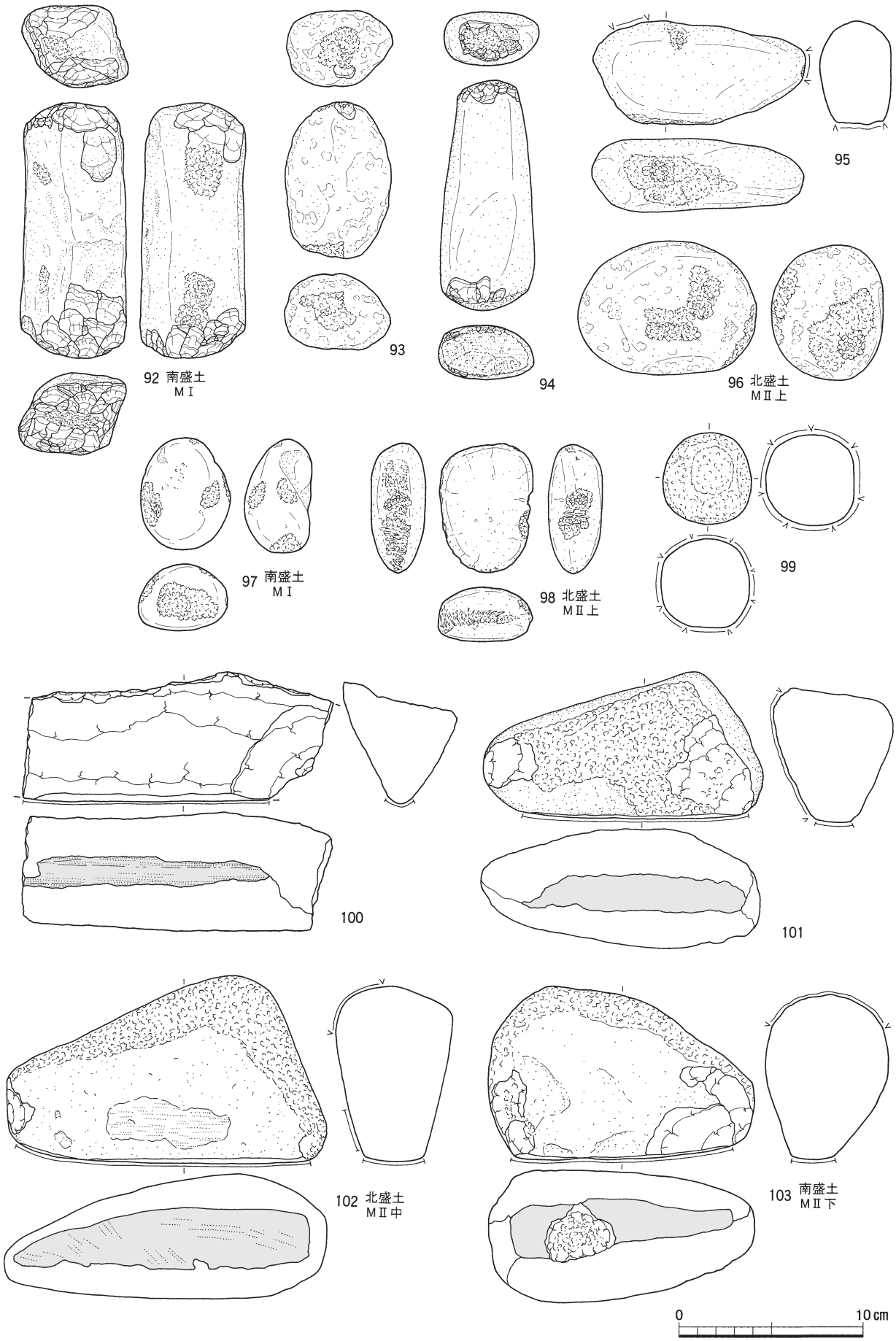
図Ⅴ－90　礫石器（８）たたき石⑧



図Ⅴ－91　礫石器（9）たたき石⑨



図Ⅴ－92　礫石器（10）たたき石⑩



図Ⅴ－93　礫石器（11）たたき石⑪・すり石①

の。

87～91 は他礫石器からの転用品。87 は断面が三角形を呈するすり石の破損品を素材とする。88～90 は砥石。91 は石錘からの転用、被熱し赤変する。

（３）、（４）礫の端部、周縁を敲打するもの（92～99）

92～94 は棒状の礫の長軸端に敲打痕がある。92 は表面にも一部敲打痕が認められる。95、96 は側面に敲打痕があるもの。95 の下面は敲打で平坦に変形している。97、98 は小ぶりな楕円形礫の側面を敲打するもの。99 は敲打の結果球体に近い形状となる。砂岩以外の石材は、93、96 が花崗岩、97 がメノウ。99 が斑糲岩である。

すり石（図Ｖ－93・94-100～115、図版 74）

破片も含め 137 点出土している。断面三角形の礫の稜を擦ったもの（１）22 点。扁平礫の一稜を擦るもの（２）71 点。円礫の一部を磨いているもの（３）２点。破片で限定できないもの（５）42 点である。

100～103 は形態（１）。100 は砂岩礫片を素材とするもので、使用面はやや丸みを帯びる。石鋸とすべきかもしれない。101～103 は北海道式石冠様の整形敲打痕が有するもの。101 は側面のみ、102、103 は上側面に整形敲打痕がある。形状からすり石としたが、北海道式石冠の祖形とみることもできる。石材は 102 が安山岩、101 は礫岩に近い粗粒の砂岩である。

104～112 は形態（２）のうち、薄手、または小ぶりなものである。104、105、107、111 は使用面以外の周縁の一部に、108、110 は表面に敲打痕がある。使用面は概ね平滑であるが、106、108、109 はややざらついている。

113～115 は形態（２）のうち、やや厚手のもの。113 は端部に整形敲打痕が認められる。閃緑岩製。115 はほぼ全面が擦られている。安山岩製。使用面は 114 がややざらつくが 113、115 は極めて平滑で幅広である。

扁平打製石器（図Ｖ－95-116～121、図版 74）

40 点出土している。平坦な使用面を持つ石器のうち、使用面もしくは周縁が一部打ち欠き整形されるものとした。40 点のうち 18 点は破片であるうえ、半月状に加工される円筒土器文化に伴う典型的なものはない。形状や大きさも斉一性を欠いており、本類は使用面を調整したすり石か、他の礫石器への加工過程である可能性が高い。６点図化した。

116 は焼成した角柱状の礫片を利用する。使用面は平滑である。117、118 は緩やかな山形の礫を利用し、長側縁を使用する。使用面にはややざらつきが認められる。119～121 は全周縁が打ち欠き加工される。119 がわずかに使用される他は打ち欠きのみである。

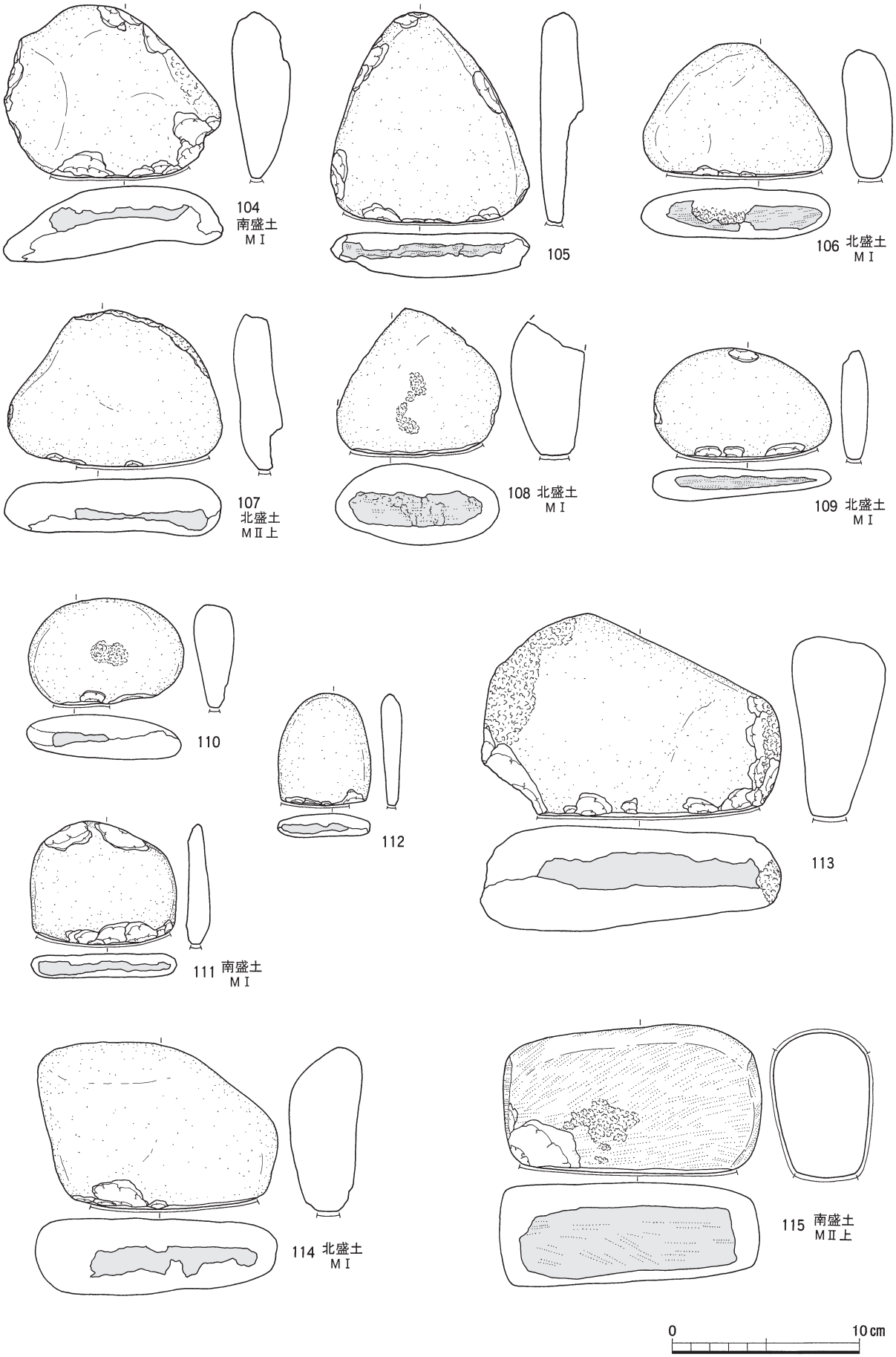
北海道式石冠（図Ｖ－95-122～209、図版 75～80）

796 点出土している。すり石との区別が問題となるが、整形敲打痕が全周もしくは周縁全面を覆うこと。また正面観が山形を呈するすり石とした。また形態から北海道式石冠とみられるものも含めた。86 点図化した。

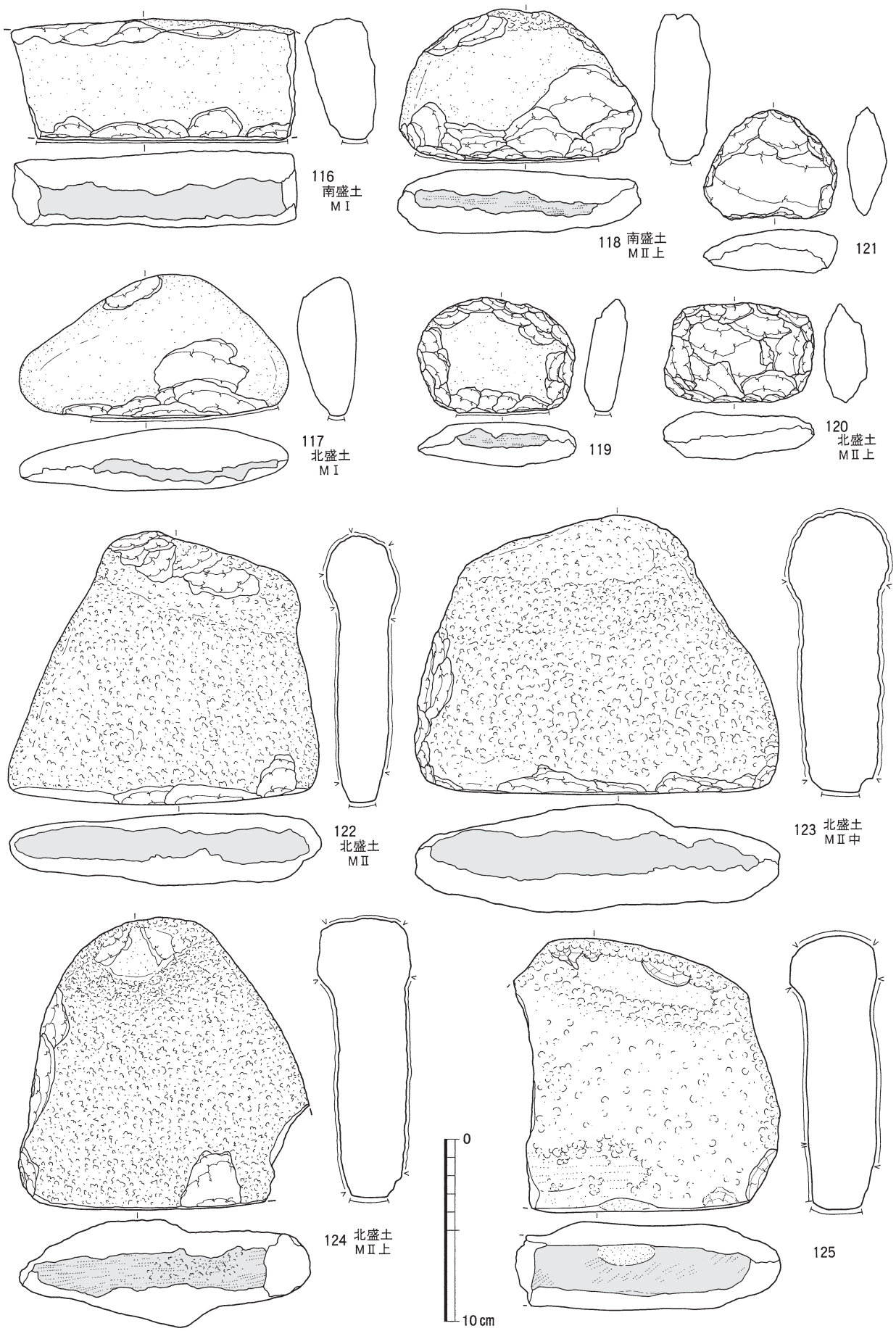
122～150 は断面形が鍵穴形を呈し、ほぼ全面に整形敲打痕があるもの

天都山式横形石杵（河野 1935）天都山式石冠（安部 1959）に似る。規格により３種別がある。高さが 14.5㎝を境にし大小で、小さなものはさらに幅の長短で二分している。

① 122～128 は長さ、高さが 14.5㎝以上の大きなもの。122～125、127 は全面に整形敲打痕が認められるもの。124、125 は取っ手部分に素材原石面を残す。122、127 は被熱し全体が赤変する。124、128 にも若干の被熱が認められる。126 は敲打整形の後、研磨により取っ手部分を作出している。125



図Ⅴ－94　礫石器（12）すり石②



図Ⅴ－95　礫石器（13）扁平打製石器・北海道式石冠①

も一部研磨整形の痕跡がある。いずれも機能面は使用の結果平滑となる。124、126 は概ね器軸と平行気味の線状痕が認められる。

② 129～145 は高さ 14.5cm以下（11cm前後のものが多い）。全面が敲打されるが、取っ手部分に原石面を残すもの（129～134、137～143）が多い。129 は全面敲打整形の後研磨により整形されている。整形敲打調整後の部分的な研磨は８点（130～132、136～138、143、144）に認められる。うち 130、136、137 は取っ手部を区切るような研磨である。139、140 は被熱赤変する部分がある。140 が敲打面のみで未使用の他は使用面が認められるが、使用面に打ち欠き加工がなされる場合が多い（133、138、142 以外全て）、使用面付近が研磨される 132 のような例は打ち欠きを研磨に置き換えたものともみなされる。使用面は概ね平滑であるが、若干の敲打を伴うもの（131、141）。また使用面のほぼ中央にくぼみがみられるもの（138）がある。砂岩以外の石材は、142 が閃緑岩製である。

③ 146～150 は高さ 14.5cm以下で幅がやや短いもの。取っ手部分を残し全面に整形敲打痕が残る。使用面は多様で、ほぼ平滑なもの（146、150）わずかな使用の可能性があるもの（147、148）中央にくぼみをもつもの（149）がある。

151～178 は帯状の敲打痕を巡らせるもの。

規格により３種に分けた。

① 151～158 は高さ、幅が 13cm以上の大きなもの。

敲打の帯は欠損して不明な 153、欠損の可能性のある 157 以外は全周する。154、156 は使用面以外に研磨が認められる。使用面の状況は平滑なものが多い（151、156、157）が、ほとんど擦っていないもの（152、155）、ややざらついているもの（153）、敲打痕が残るもの（158）、擦痕が明瞭なもの（154）がある。

② 159～162 は高さが 10cm前後で、幅が 15cm以上のもの。

敲打の帯は全て全周している。159、161 には使用面以外に研磨痕が認められ、帯状敲打痕を残す意図とみられる。159 左側、161 の一部に被熱による赤変が認められる。使用面は全て擦痕が残る。使用痕ではなく調整痕かもしれない。161 には中央に溝が認められる。全て使用面には打ち欠き調整か研磨がなされている。

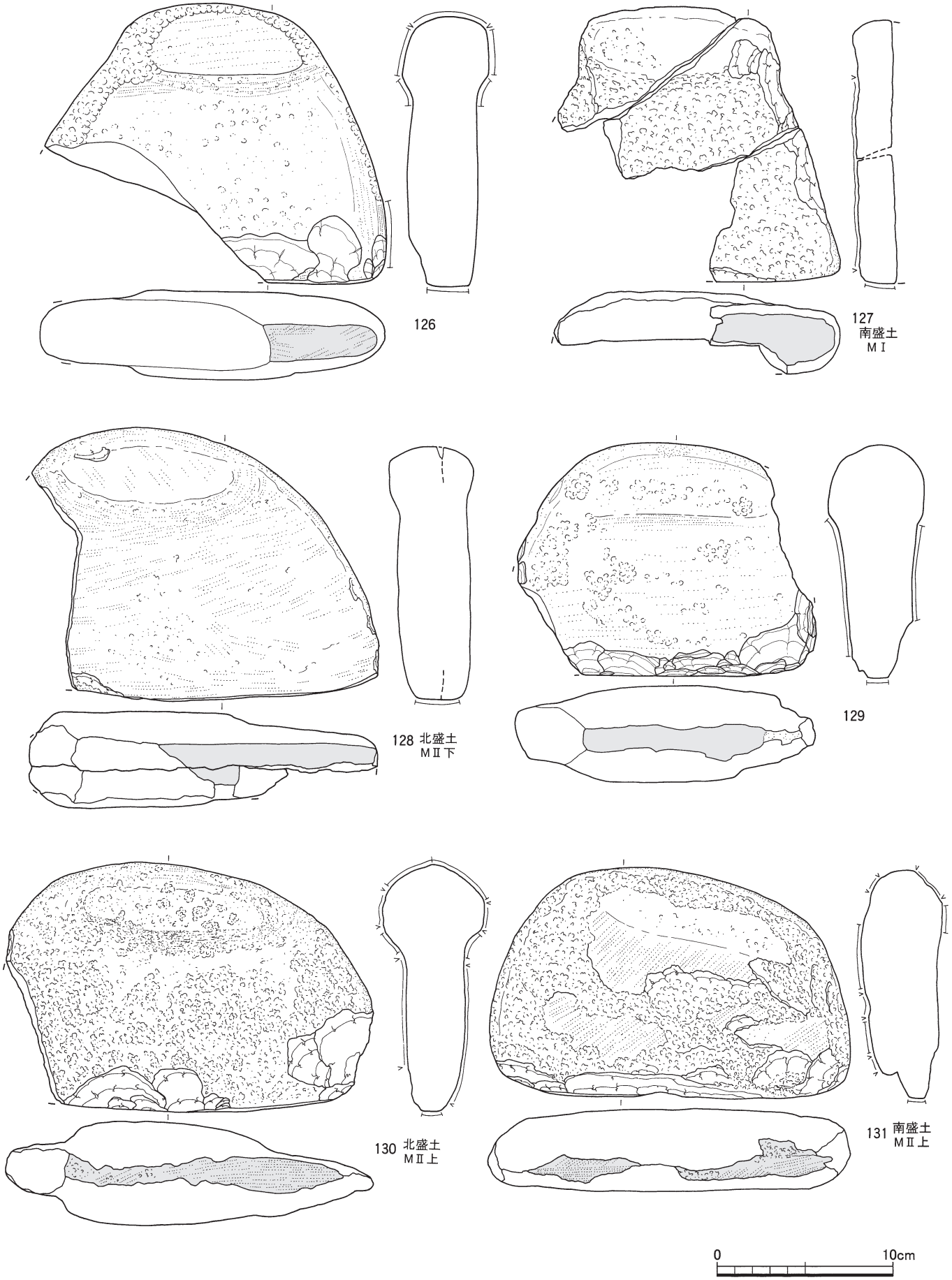
③ 163～178 は高さが 11cm前後で、高さと幅の差があまりない（５cm以下）もの。

ほぼ全面が敲打されるもの（168、169）や、頂部付近に敲打痕が広がるもの（171～173）があるが、いずれも帯状敲打痕は明瞭に作出されている。帯状敲打痕が全周しないものは３点あり（163、165、176）、ほとんど使われていないものか、抉りこみのみ作られる例外である。使用面は概ね幅広で極めて平滑である。他の細別より滑らかで曲面を形成しているものが多い。163、167 はほとんど使用されていない。165 は未使用。168、169、174 の使用面には敲打痕が残る。石材は全種類中最も多様で、170 が安山岩。173 は閃緑岩。174、176 は斑糲岩である。また 175 は砂岩であるが、硬砂岩であり、他の砂岩とは異なる。

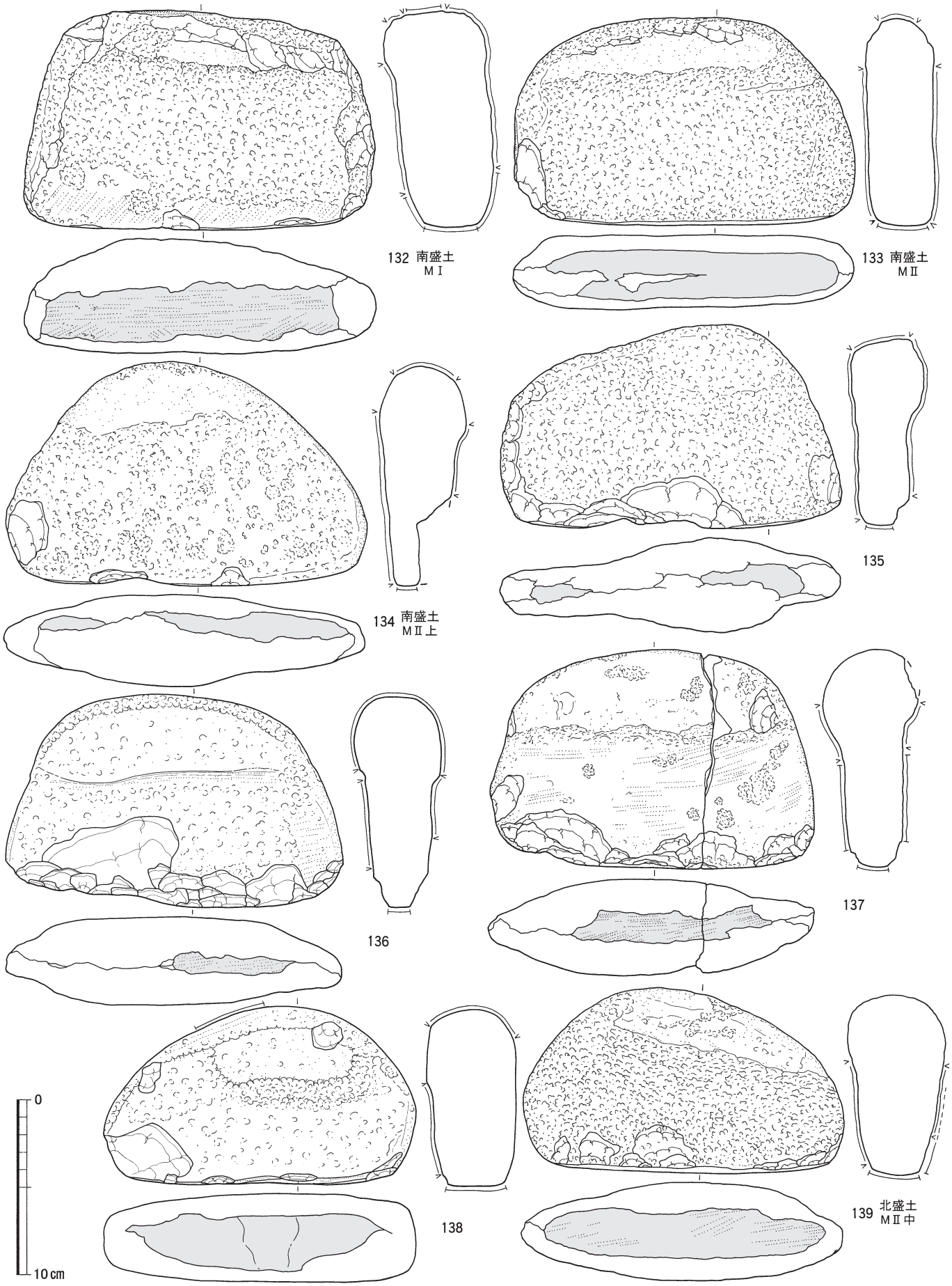
179～209 は上記分類には収まらないもの。

未製品、ミニチュアも一括した。加工の種別と大きさの別に沿って説明する。

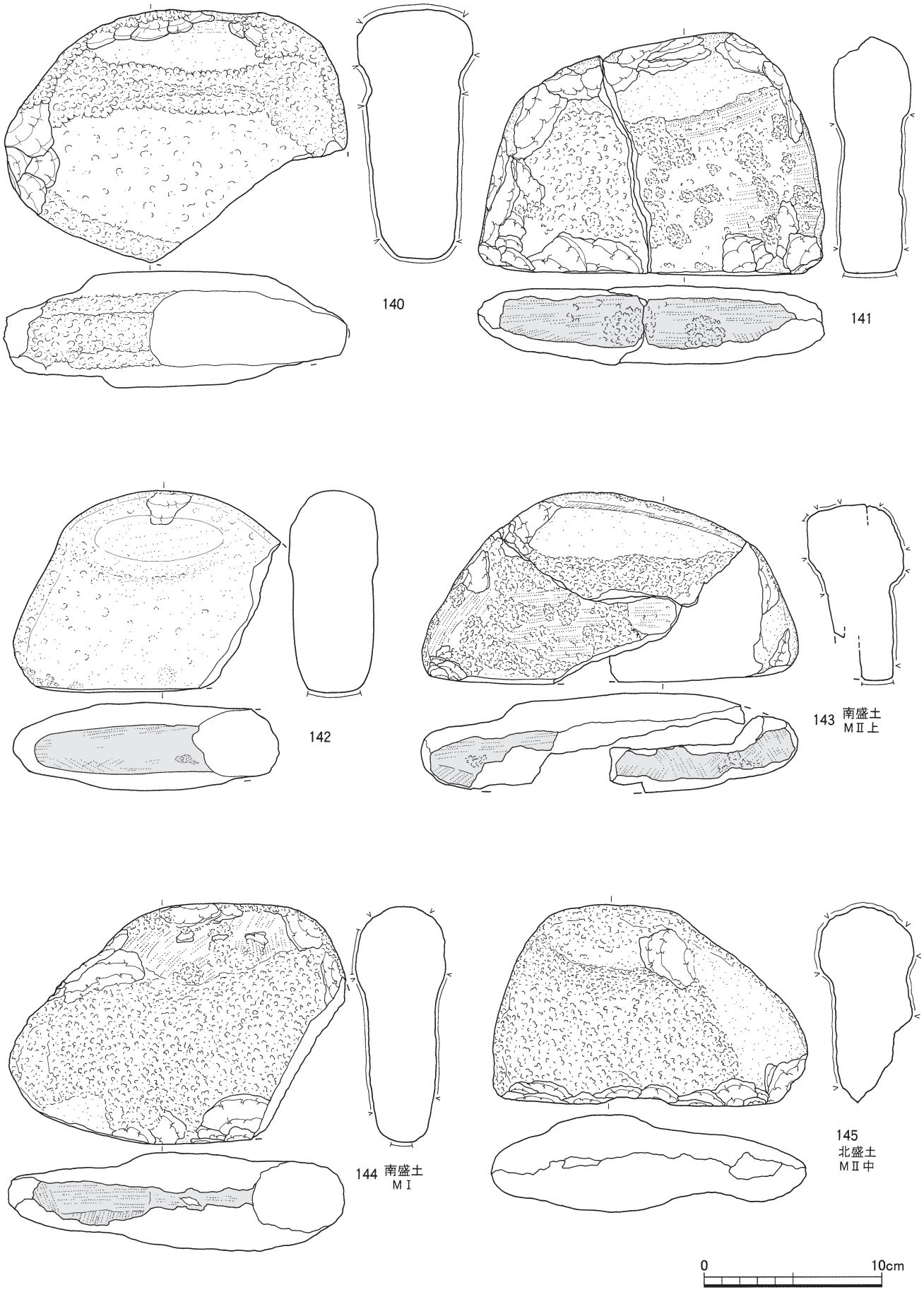
179～182 は敲打整形される大型相当の石冠。敲打痕の範囲が、180 は正面のみ。181 は使用面以外の周縁に、182 は頂部と持ち手の部分にのみある。179 は製作途中のものである。板状の礫の周縁と角を囲むように鉢巻状に整形敲打痕が巡らせている。敲打中に破断し製作をあきらめたものとみられるが、同時に２点の作成を試みたようにも見て取れる。ただし、本例は１点のみの出土であり、帯状敲打痕を持つすべての北海道式石冠がこのようにつくられたのではない。



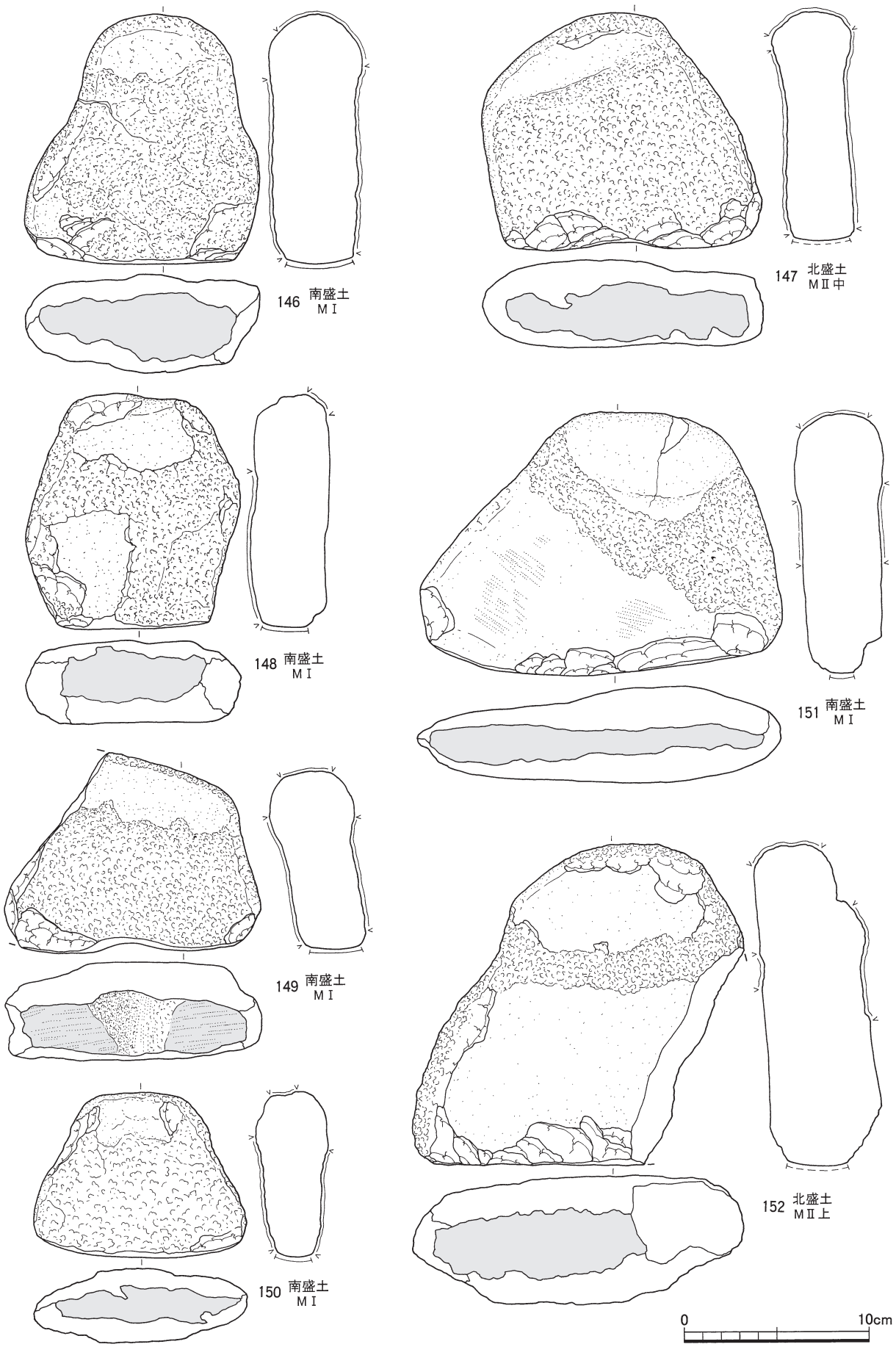
図Ⅴ－96　礫石器（14）北海道式石冠②



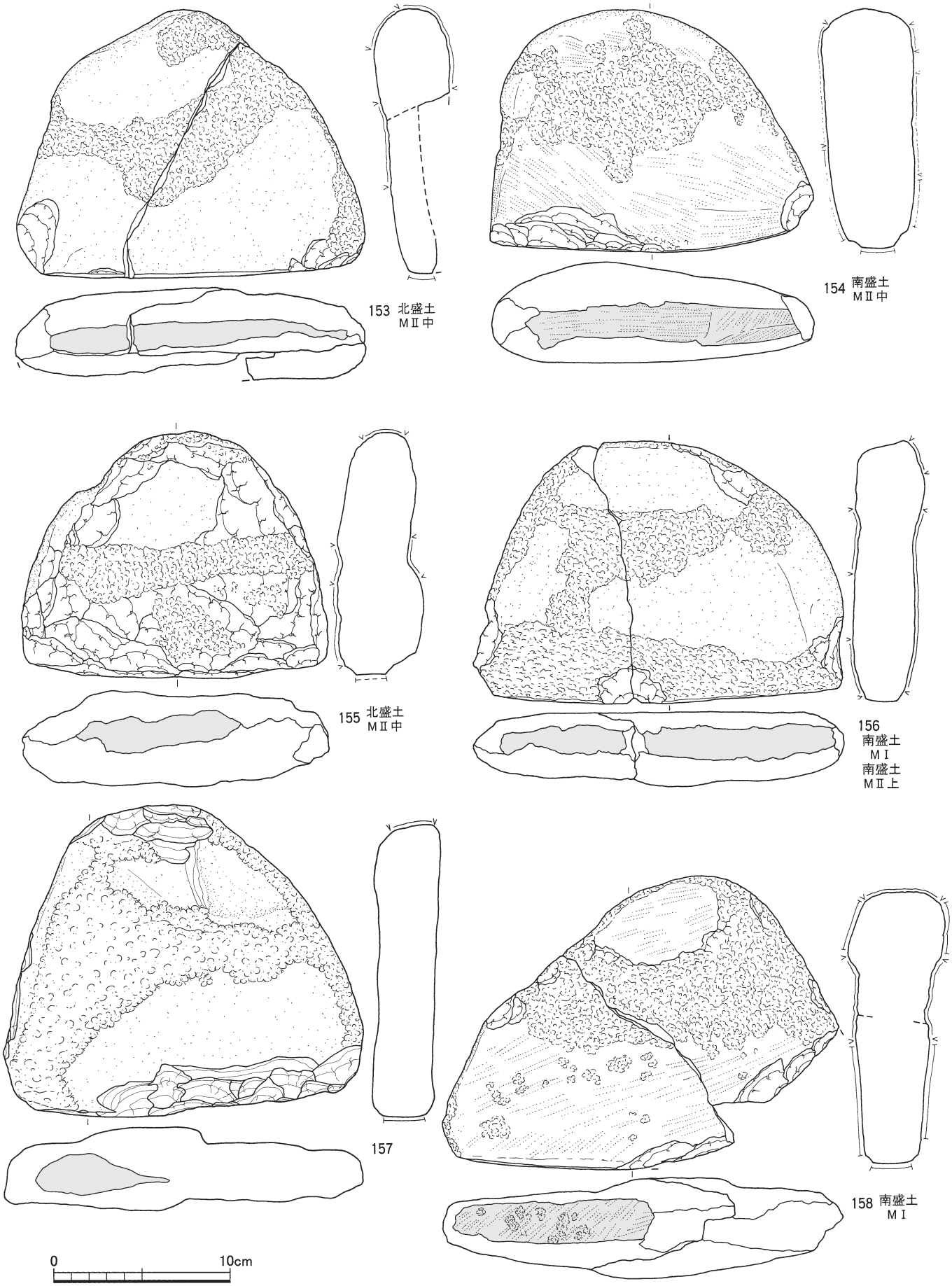
図Ⅴ－97　礫石器（15）北海道式石冠③



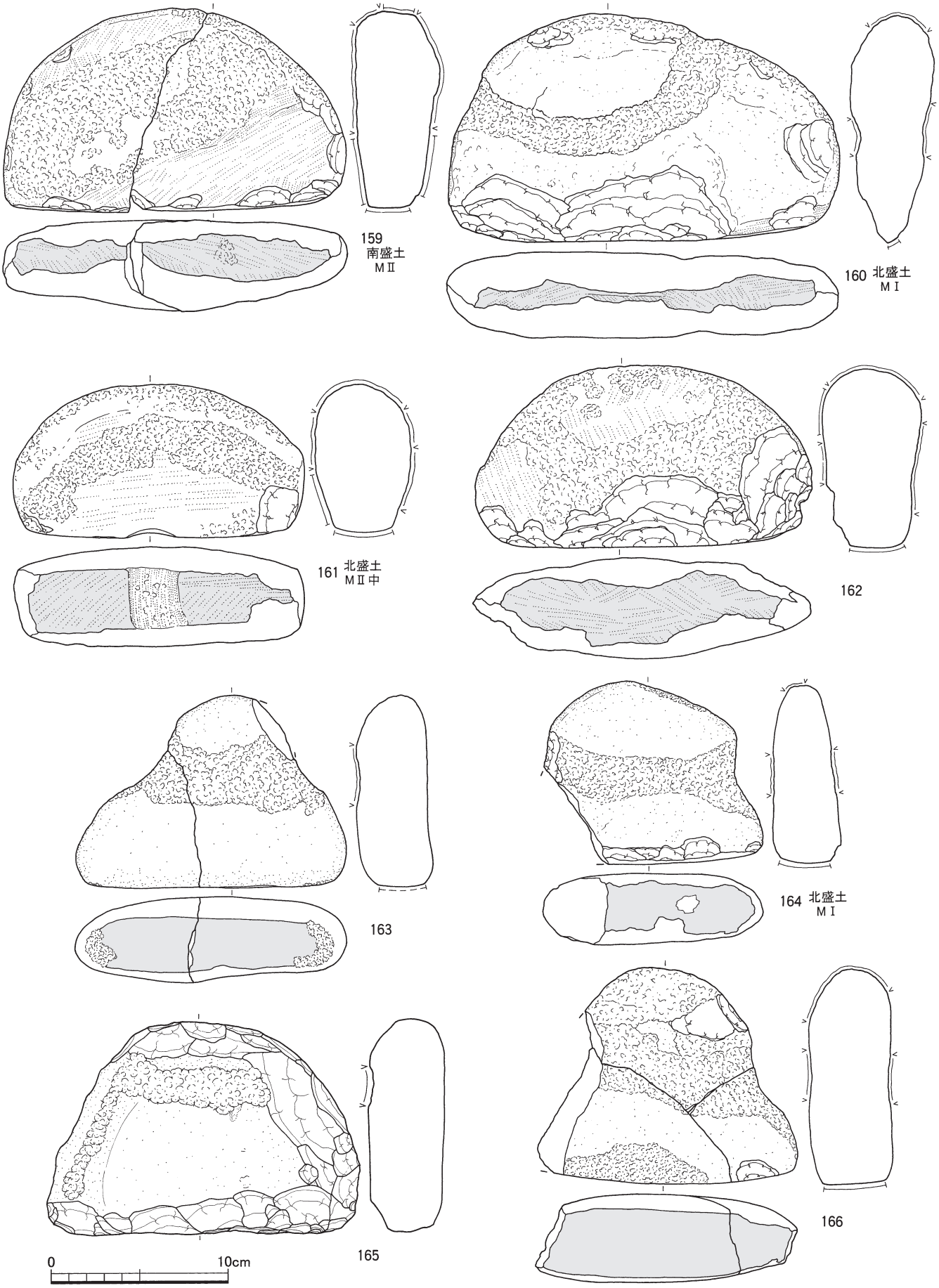
図Ⅴ－98　礫石器（16）北海道式石冠④



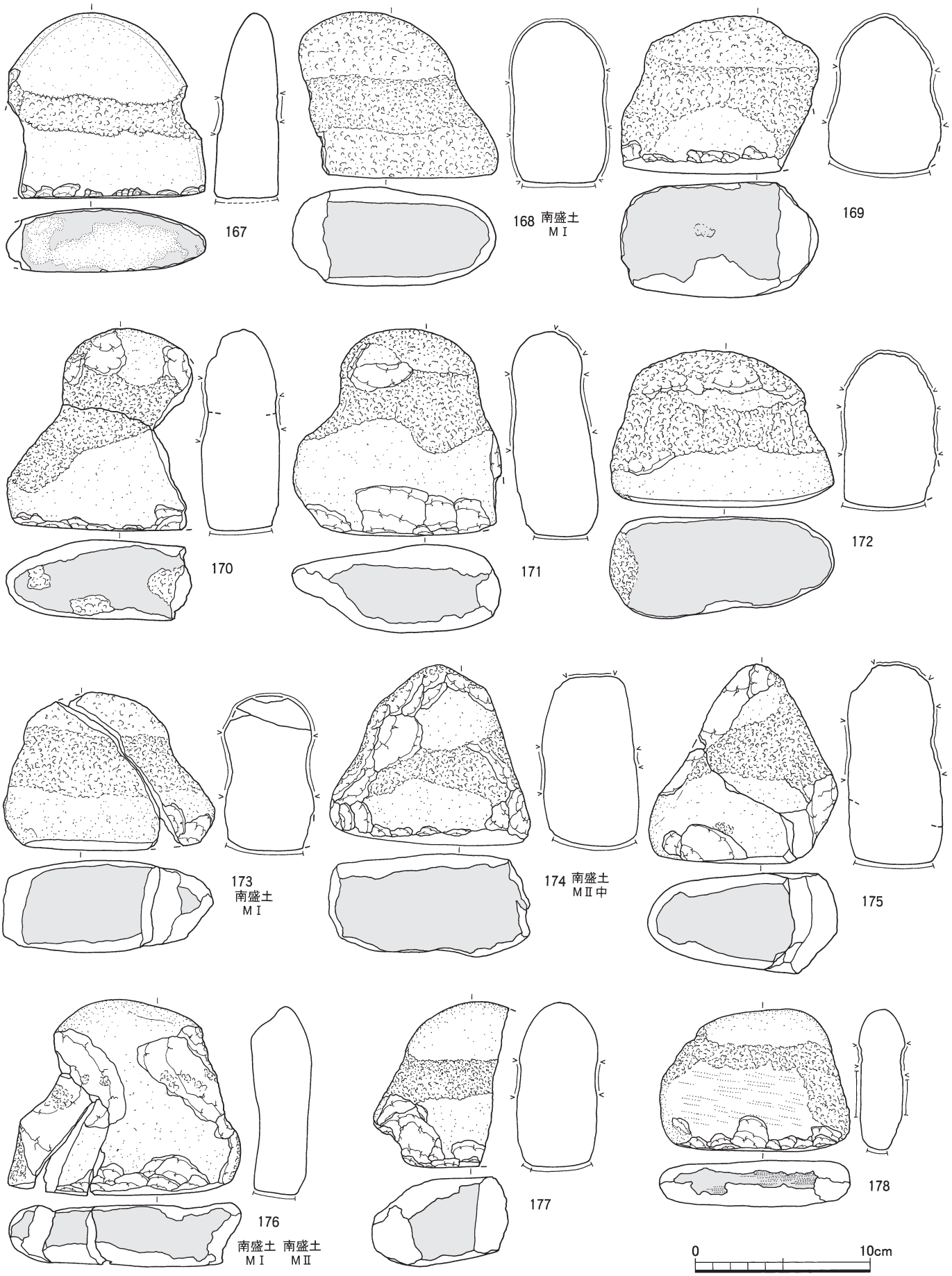
図Ⅴ－99　礫石器（17）北海道式石冠⑤



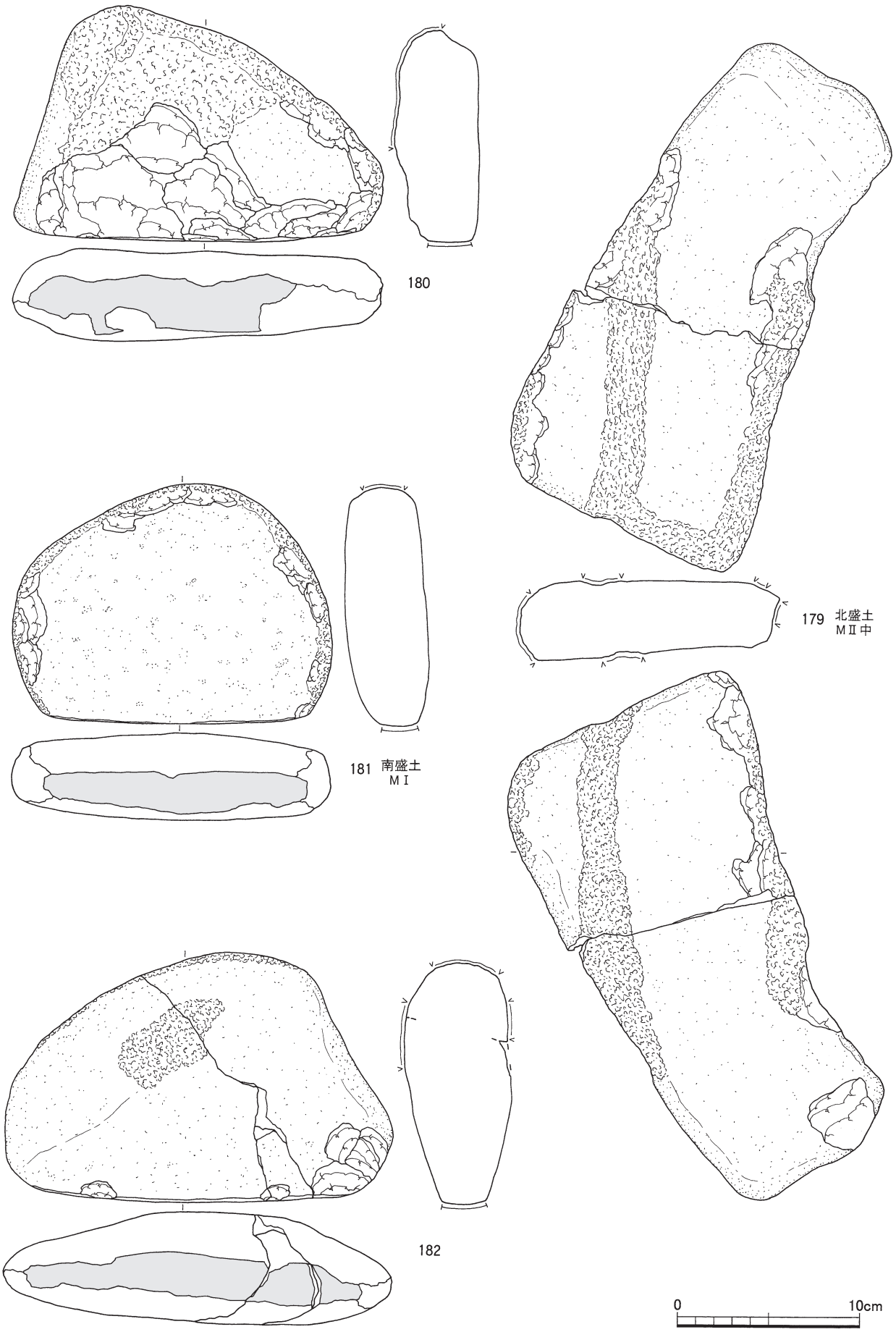
図Ⅴ－100　礫石器（18）北海道式石冠⑥



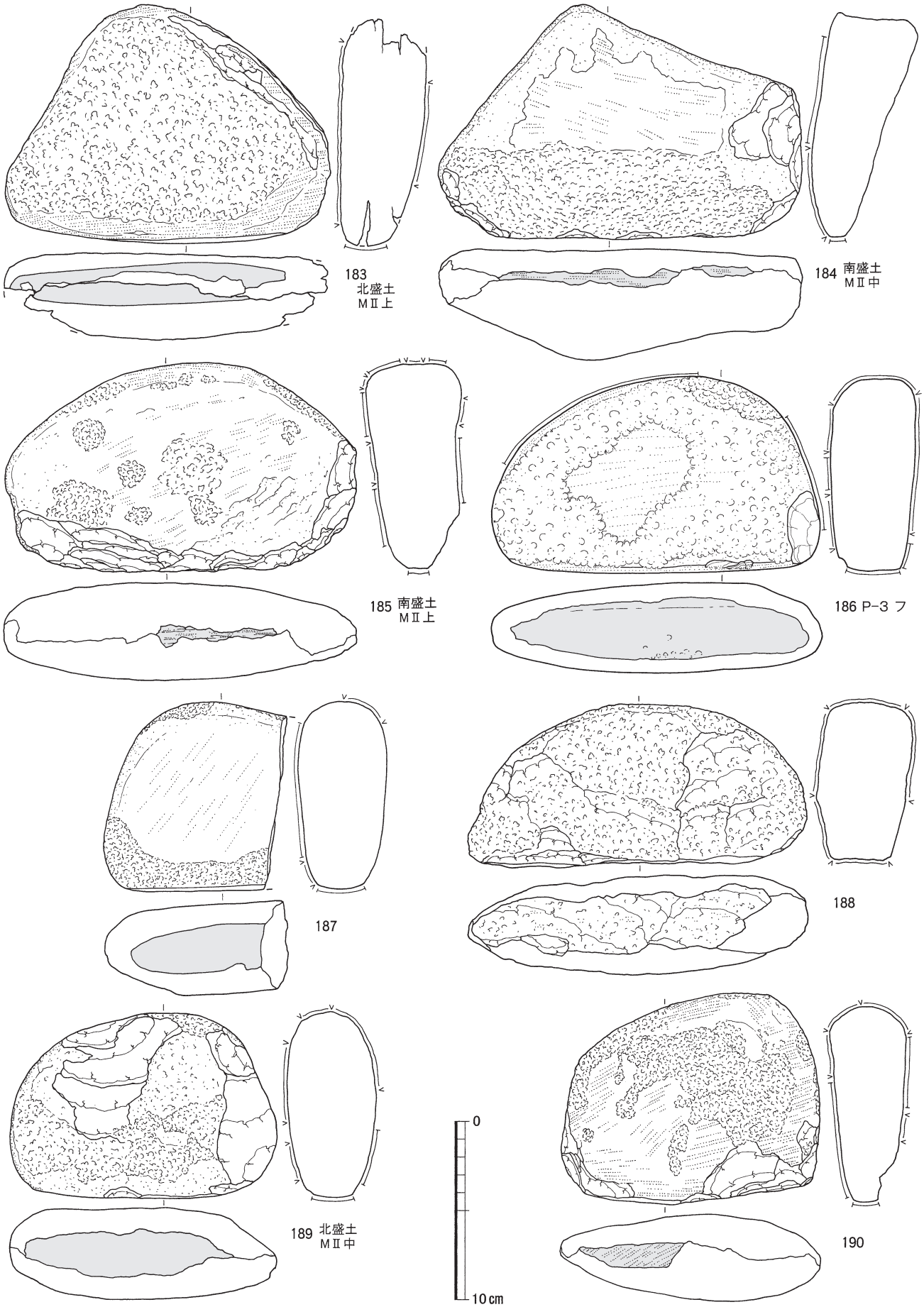
図Ⅴ－101　礫石器（19）北海道式石冠⑦



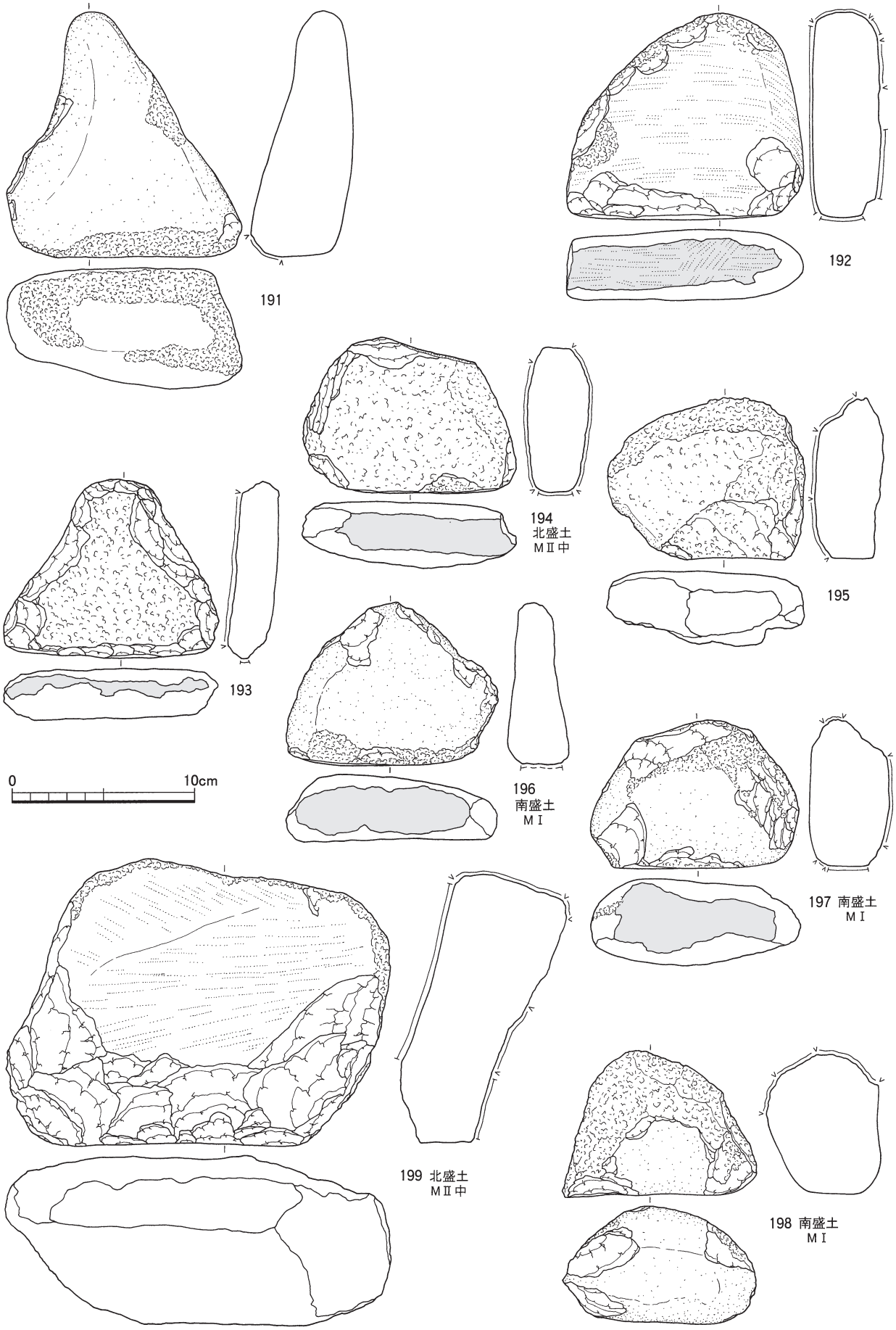
図Ⅴ－102　礫石器（20）北海道式石冠⑧



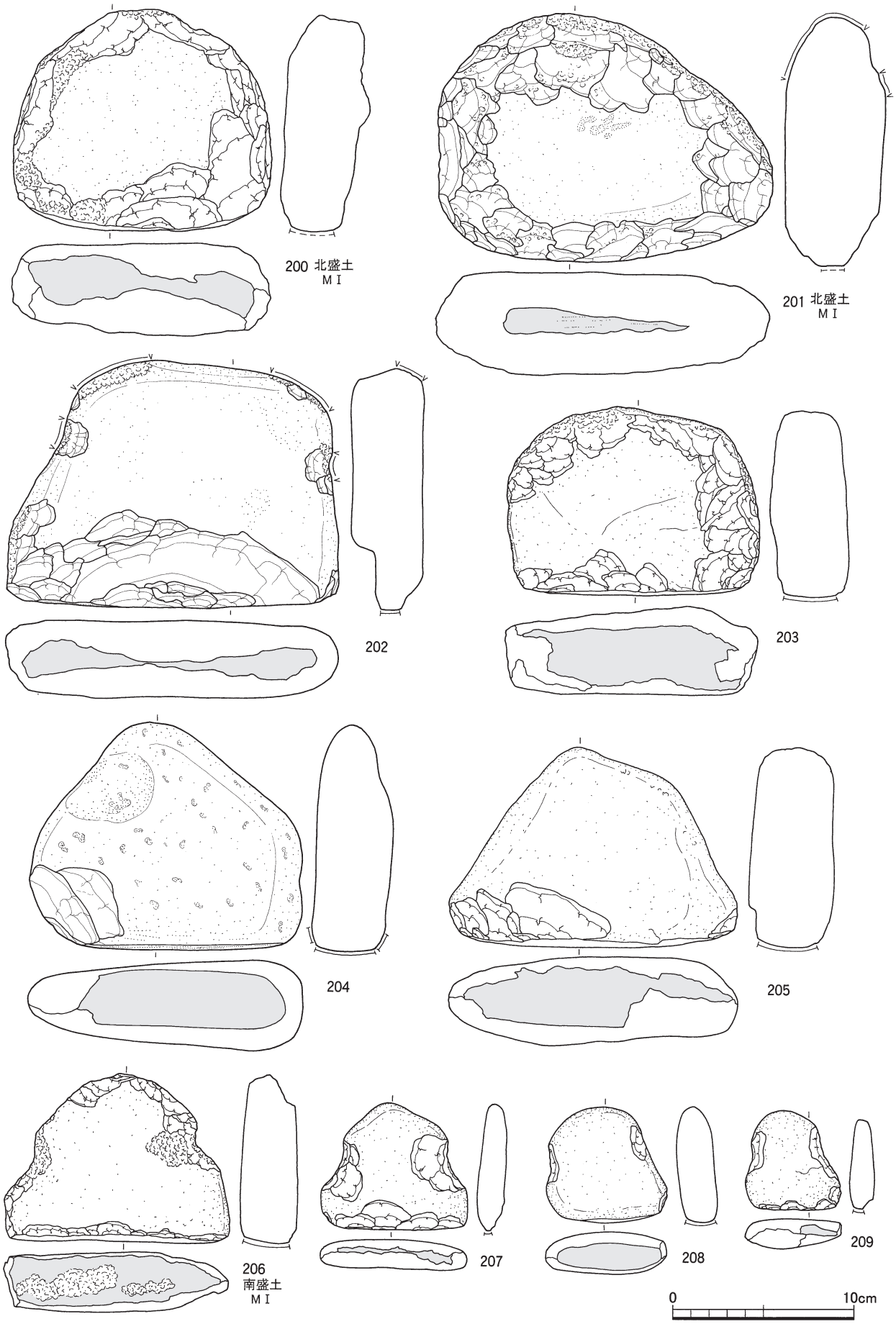
図Ⅴ－103　礫石器（21）北海道式石冠⑨



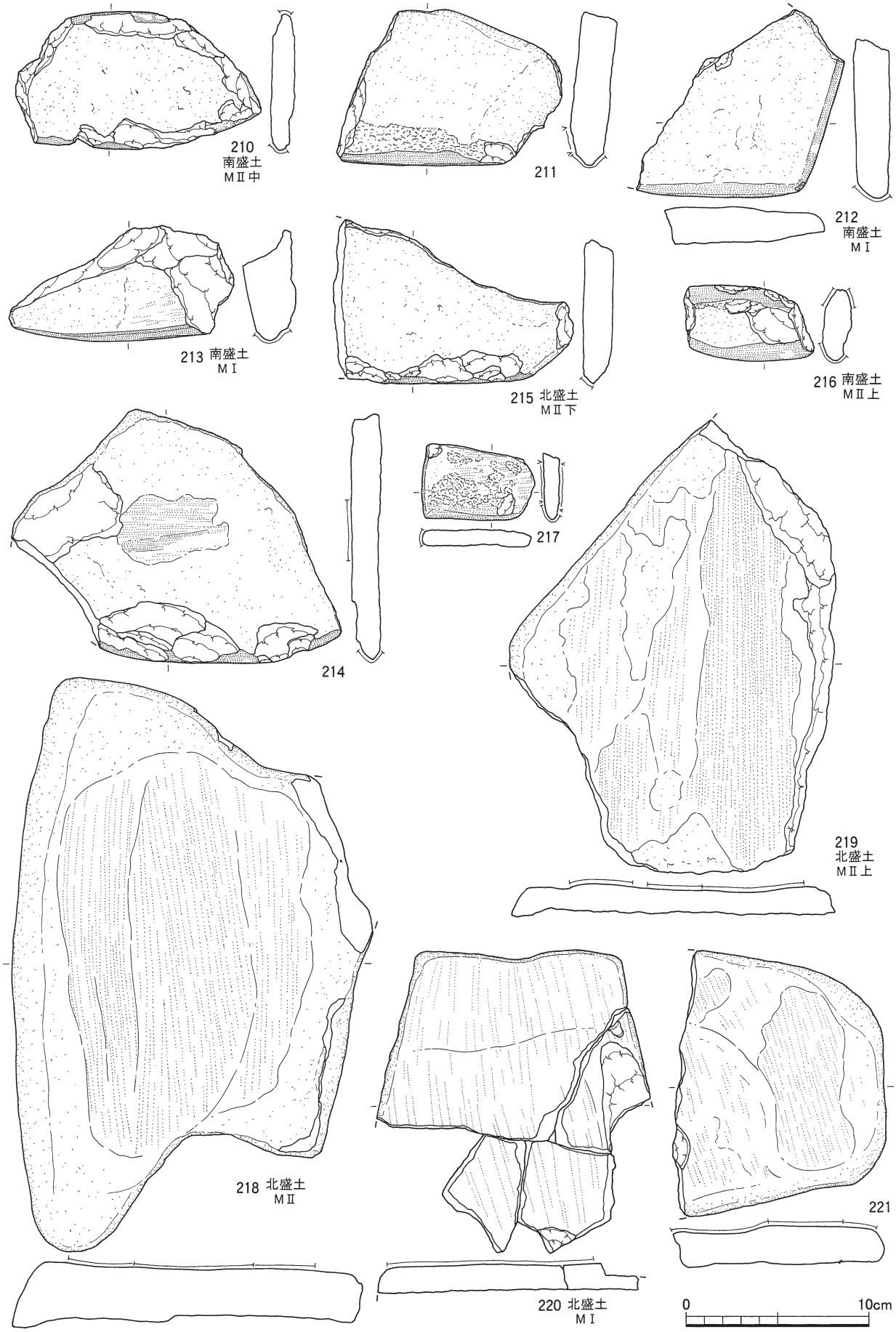
図Ⅴ－104　礫石器（22）北海道式石冠⑩



図Ⅴ－105　礫石器（23）北海道式石冠⑪



図Ｖ－106　礫石器（24）北海道式石冠⑫



図Ⅴ－107　礫石器（25）石鋸・砥石①

183～190 は敲打・研磨整形される中型とみられるもの。183、185、186、188、190 はほぼ全面に整形敲打痕が認められる。このうち 188 以外は使用面を中心とした周囲に研磨整形が行われている。184、187、189 は整形敲打痕が部分的なもの。184、187 は正面に研磨痕が認められる。使用面は多様で、188 は敲打痕のみで使用されていない。183、186、187、189 はなめらか、184、185、190 は線状の痕跡が残りややざらつきがある。

191～198 は敲打整形を主とする小型に属するもの。整形敲打痕の範囲は様々で一定の傾向はない。191、195 が敲打痕のみの未製品とみられる他は、使用面が認められる。192、197 が平滑に、194 はざらつく程度、193、196 はわずかな使用である。また 197 は平滑に使用されるが、使用面に僅かな敲打痕が認められる。砂岩以外の石材は 197 である。斑糲岩としたが、淡緑色を呈する緻密な岩石で、変質した堆積岩の可能性もある。

199～203 は打ち欠き調整を主として用いるもの。199 は大型石冠の未製品とみられる。打ち欠き整形はほぼ全周するもの（200、201）、一部原石面を残すもの（203）があり、202 は器体短軸中央を石錘状に打欠いている。200～203 は使用される。203 の使用面がなめらかである他はざらつく程度である。

204、205 はほとんど加工されないが、山形を呈する素材礫を利用するもの。ともに使用面はなめらかである。204 は安山岩製。

206～209 はミニチュア品。短軸上で対となる石錘状の打ち欠きがなされている。いずれも使用されており、208 の使用面はなめらかである。209 は泥岩製。

石鋸（図Ⅴ－107-210～217、図版 80）

破片も含め 29 点出土している。８点を図化した。使用面が平らではなく丸みがあるものを石鋸とし、すり石と区別した。図Ⅴ－93-100 は境界例である。

210～217 は薄い砂岩礫片の縁辺を利用している。210、216 は上下の両側縁を使用する。212、217 は隣り合う二側縁を使用する。211、214、215 はいずれも一側縁を使用するものであるが、211 は整形敲打痕により、214、215 は打ち欠きにより、使用面の幅の調整を行っている。214 の正面は平滑でなめらかな面があり、砥石としても使用された形跡がある。210 もそうかもしれない。

砥石（図Ⅴ－107～110-218～258、図版 81・82）

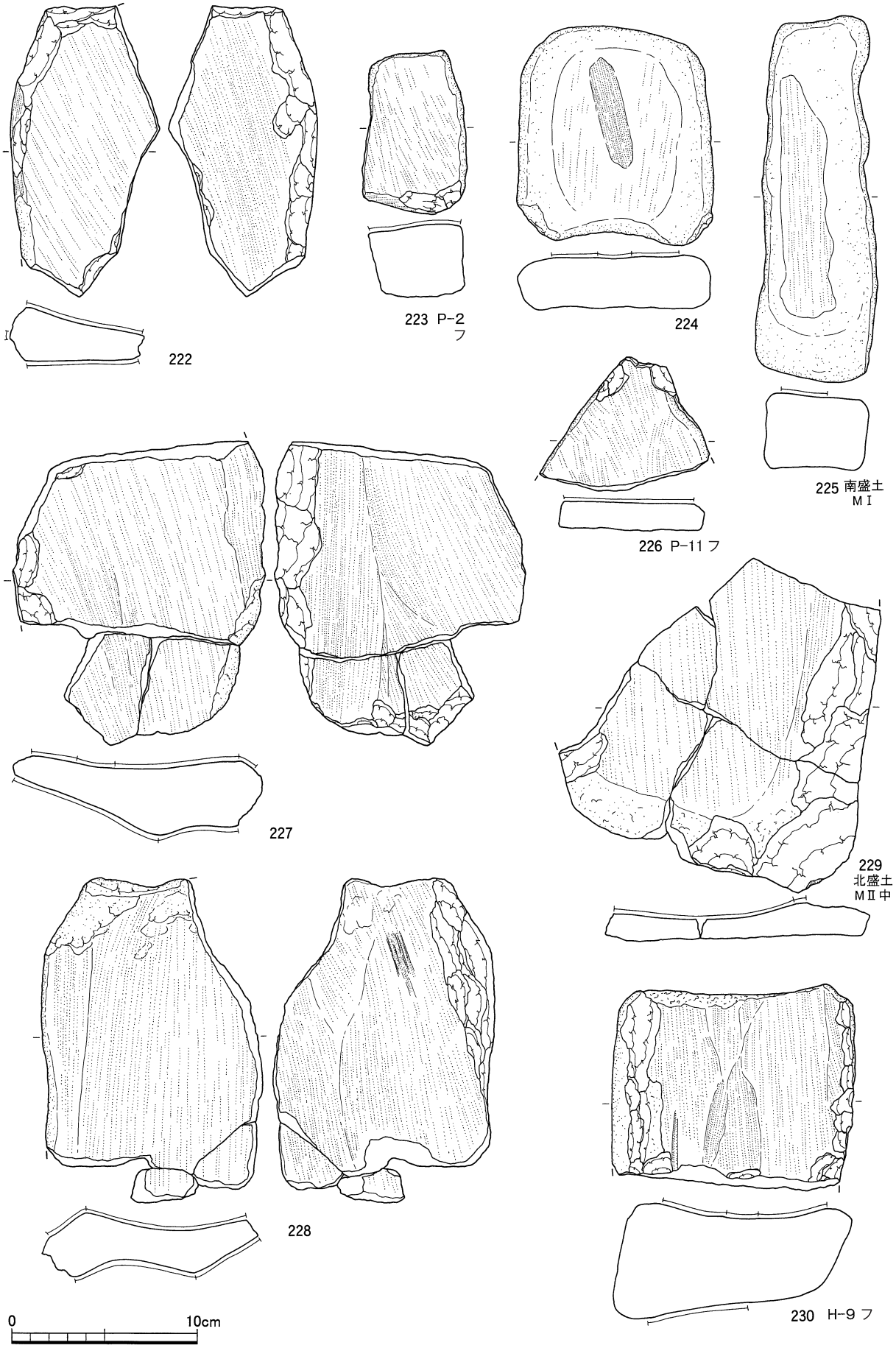
破片も含め 1,823 点出土している。砂岩以外の石材は凝灰岩等８点しか出土しておらず、ほぼ全てが砂岩を素材とするものである。広いすり面を持つもののうち、厚さが３㎝以下のものとして石皿と区別した。出土量が多いため、細分を行った。

（１）使用面が平らなもの（1,526 点）
（２）使用面が溝か曲面を呈するもの（128 点）
（３）小型で多くが多数の使用面を持つもの（79 点）
（４）手で持てる大きさのもの（28 点）
（５）いわゆる多面砥石（５点）
（８）上記のいずれにも含まれないもの（57 点）

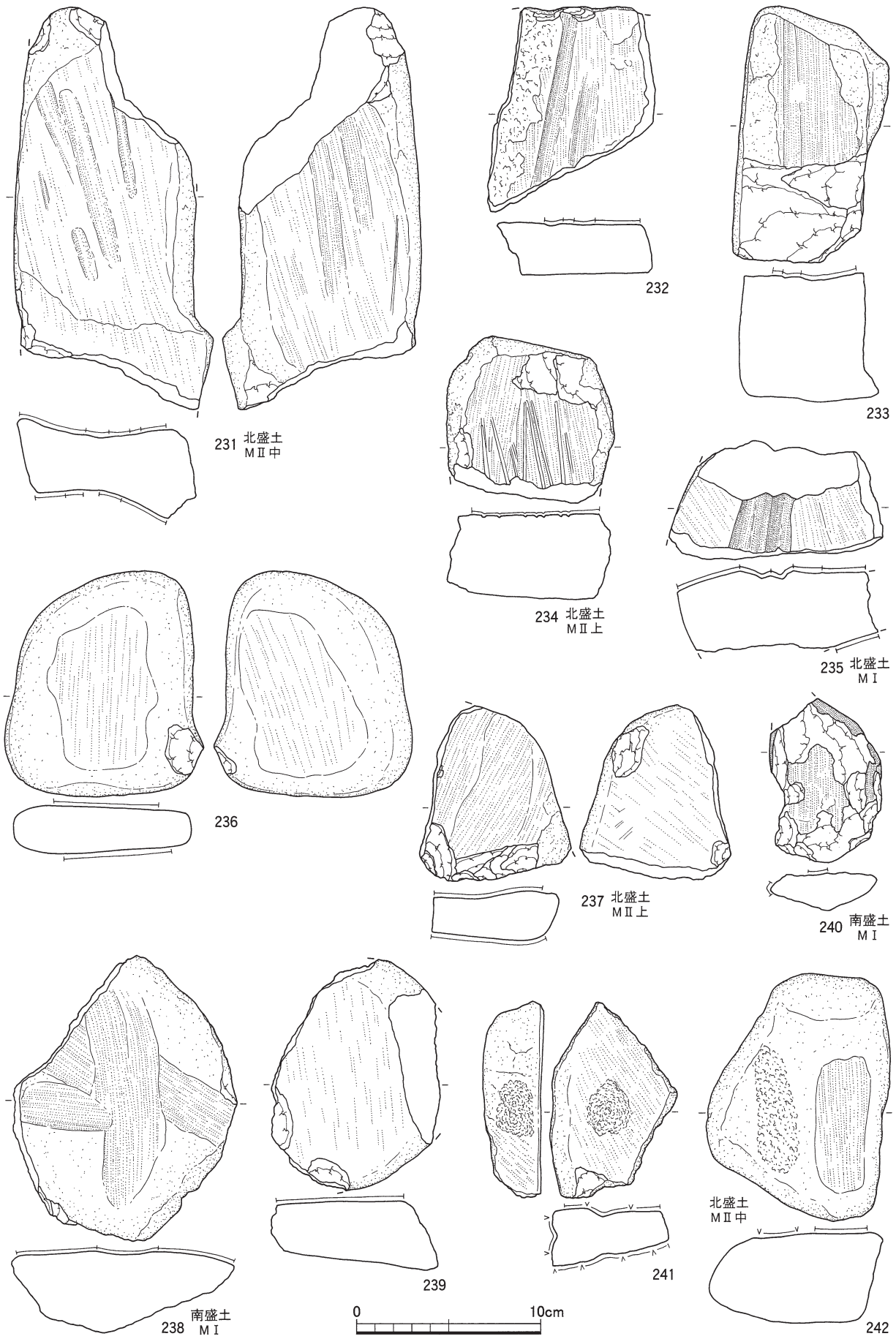
とした。破片であってもいずれかに分類した。

218～226 は形態（１）。いずれも完全に平滑ではなく、使用方向に沿った小規模な起伏が認められる。222 は両面が使用される。224 は使用面の一部に顕著に平滑な部分がある。

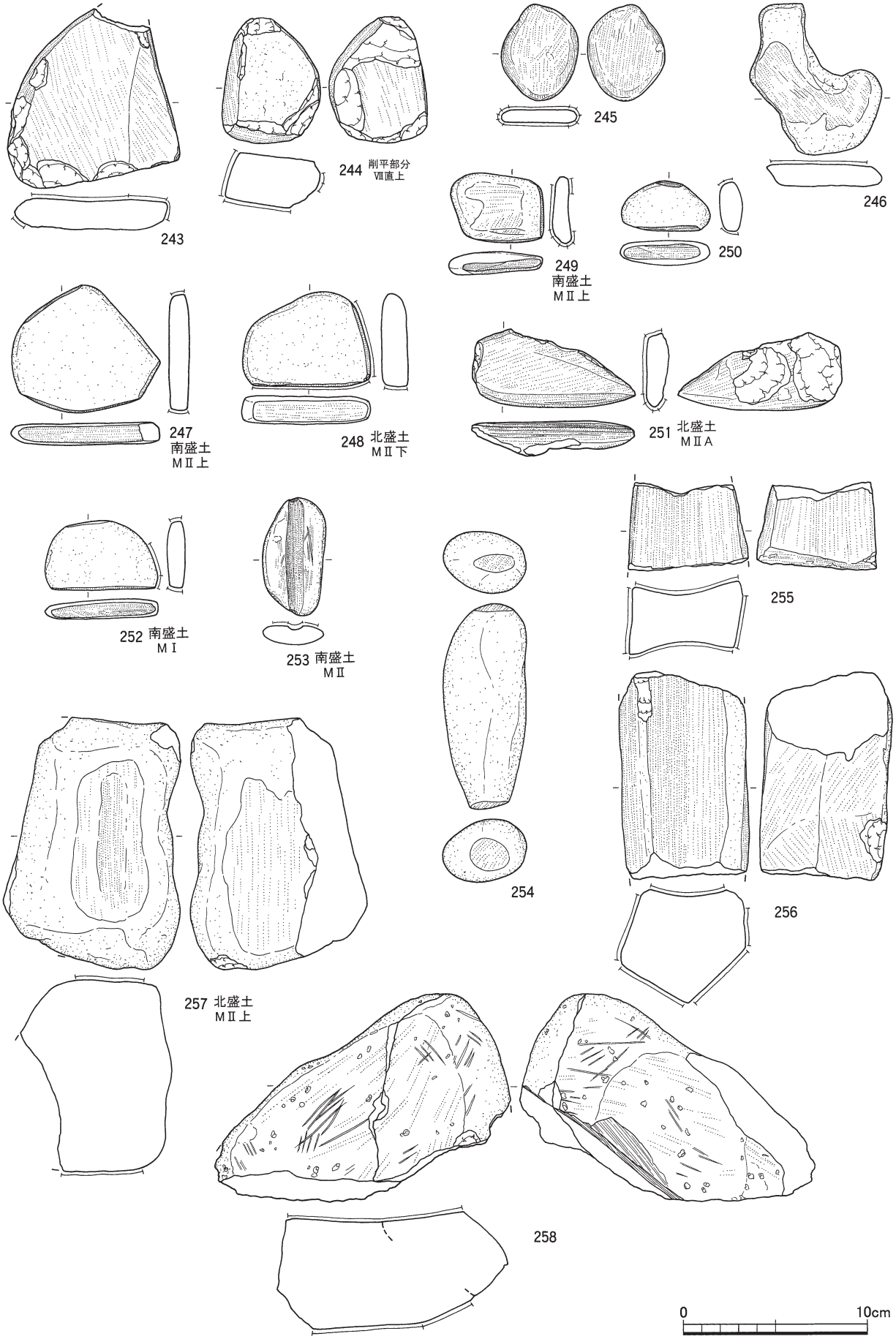
227～235 は形態（２）。227、228、231 は両面が使用される。擦痕は曲線に沿って明瞭に観察される。232～235 には使用面に溝がある。溝には幅広のもの（232）や、明瞭な線状（234）、段差状



図Ⅴ－108　礫石器（26）砥石②



図Ⅴ－109　礫石器（27）砥石③



図Ⅴ－110　礫石器（28）砥石④

(233)、角のある溝（235）等の種類がある。

236～242 は形態（４）。238 は方向の違う３条の浅い溝がある。240 は石鋸とすべきかもしれない。241 はたたき石と重複する。先後関係は不明である。

243～254 は形態（３）。243～245、251 は多数の使用面がある。243、251 は石鋸状の使用面を持つ。246 は正面が、247～250、252 は側縁に平らな使用面があるもの。253 は溝となるものである。254 は棒状礫の端部を使用する。

255、256 は形態（５）。257、258 は上記の分類に含まれないもの。257 は礫の一面がきわめてなめらかとなるもの。258 は多孔質の変質した凝灰岩を用いる。使用面は平滑で、細い線状痕を伴う。鋭い工具で削られたような痕跡もあり、近世以降のものかもしれない。攪乱からの出土であり、不明なためここに掲載した。

掲載した砥石の砂岩以外の石材は、245～250、252、253 が泥岩、258 が凝灰岩である。ただし、222、227、231、256 の砂岩は、灰色を呈する他と異なり、白色に近い色調である。検鏡すると、石英が多く、チャート、珪質岩が混じる特徴のある石材であった。

石錘（図Ⅴ－111～113-259～286、図版 83）

破片も含め 129 点が出土している。偏平で楕円形の礫を素材とする典型的なものは、打ち欠く位置で区分した。長軸端の２か所を打ち欠くもの（１）69 点。短軸端の２か所を打ち欠くもの（２）４点。長短軸の４か所を打ち欠くもの（３）６点である。また扁平礫以外の不定形な礫を素材とし、長軸を打ち欠くもの（４）42 点。石錘状の打ち欠きが認められるが、上記の分類に当てはまらないもの（５）８点、に区分した。図化したものは上記細分を基に、大きさの別を加味して並べた。以下に説明する。

259～268 は長軸端が打ち欠かれ、幅 9.5㎝以上の比較的大きなもの。259～262 は概ね扁平で断面が楕円形を呈する。263～268 はやや厚みのある石材を利用する。259、261、263 は短軸方向の一方にのみ、打ち欠きが認められる。265 がたたき石と複合する。

269～276 は長軸端が打ち欠かれ、幅９㎝以下の比較的小さなもの。269～273 は正面と断面が楕円形の典型的なもの。271、272 は被熱し赤変する。273 の石材は閃緑岩である。274、275 は素材礫が厚みのあるもの。同一グリッド同一層からの出土である。276 は小ぶりで扁平な楕円礫を素材とする。

277～279 は周縁の一部に打ち欠きによる整形調整がなされる。277、278 は比較的大きなもの。279 は小型。280、281 は短軸端が打ち欠かれているもの。282、283 はたたき石と複合しているもの。284～286 は長短両軸に打ち欠きが認められるものである。

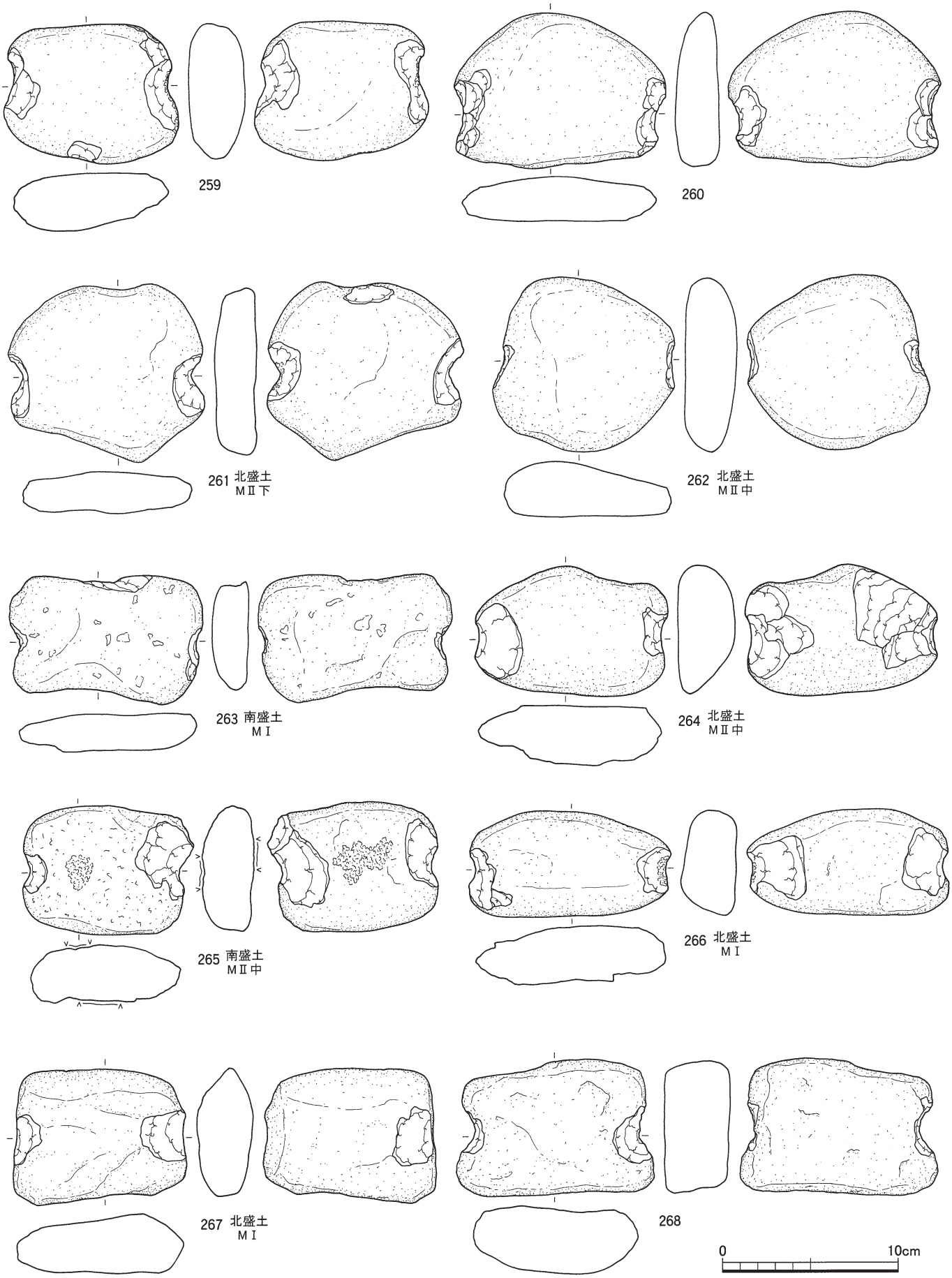
加工痕ある礫（図Ⅴ－113～120-287～320、図版 84・85）

1,059 点出土している。34 点を図化した。打ち欠きや敲打の加工痕が認められるものの、部分的な加工にとどまり特定の礫石器に確実には限定できないものである。

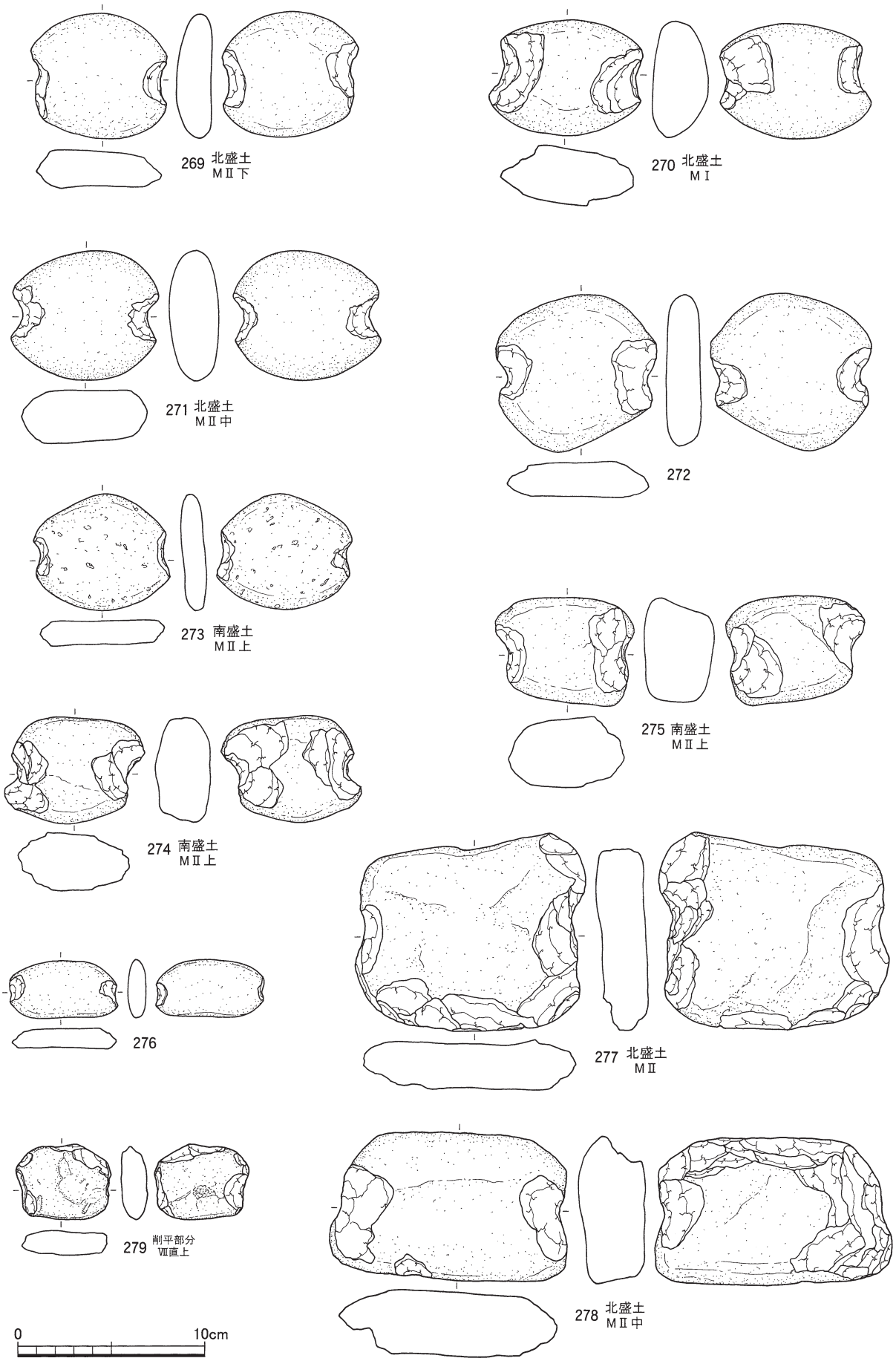
287～297 は板状の礫の周囲を打ち欠き調整して、整形が試みられているもの。主として北海道式石冠の未製品とみられる。287、290、292、294 は明瞭に研磨される面を持ち、石皿を再利用したものとみられる。291、293、295、296 には一部分に整形敲打痕が認められる。

298～301 は連続する整形敲打痕が認められるもの。北海道式石冠の未製品の可能性がある。298 は台形の板状礫の一部の側縁に整形敲打痕がある。299、301 には全周しない敲打痕が、300 は表裏面に整形敲打痕が認められる。

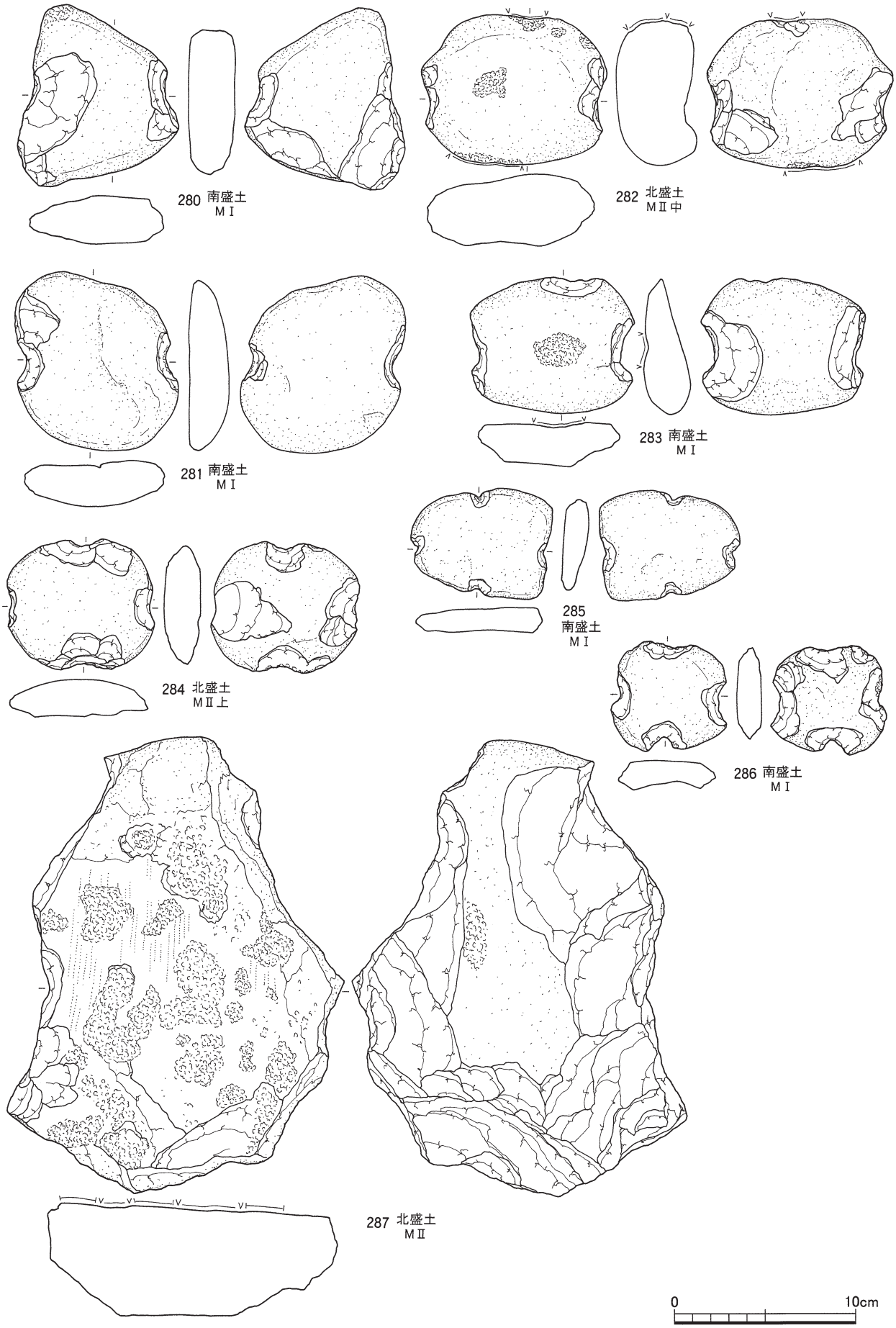
302～305 は素材礫の一部に打ち欠き整形がなされるもの。302 は被熱し赤変した扁平礫の一側縁が打ち欠かれている。303～305 は礫の長軸端に打ち欠きが加えられるもの。石錘の製作失敗品の可能



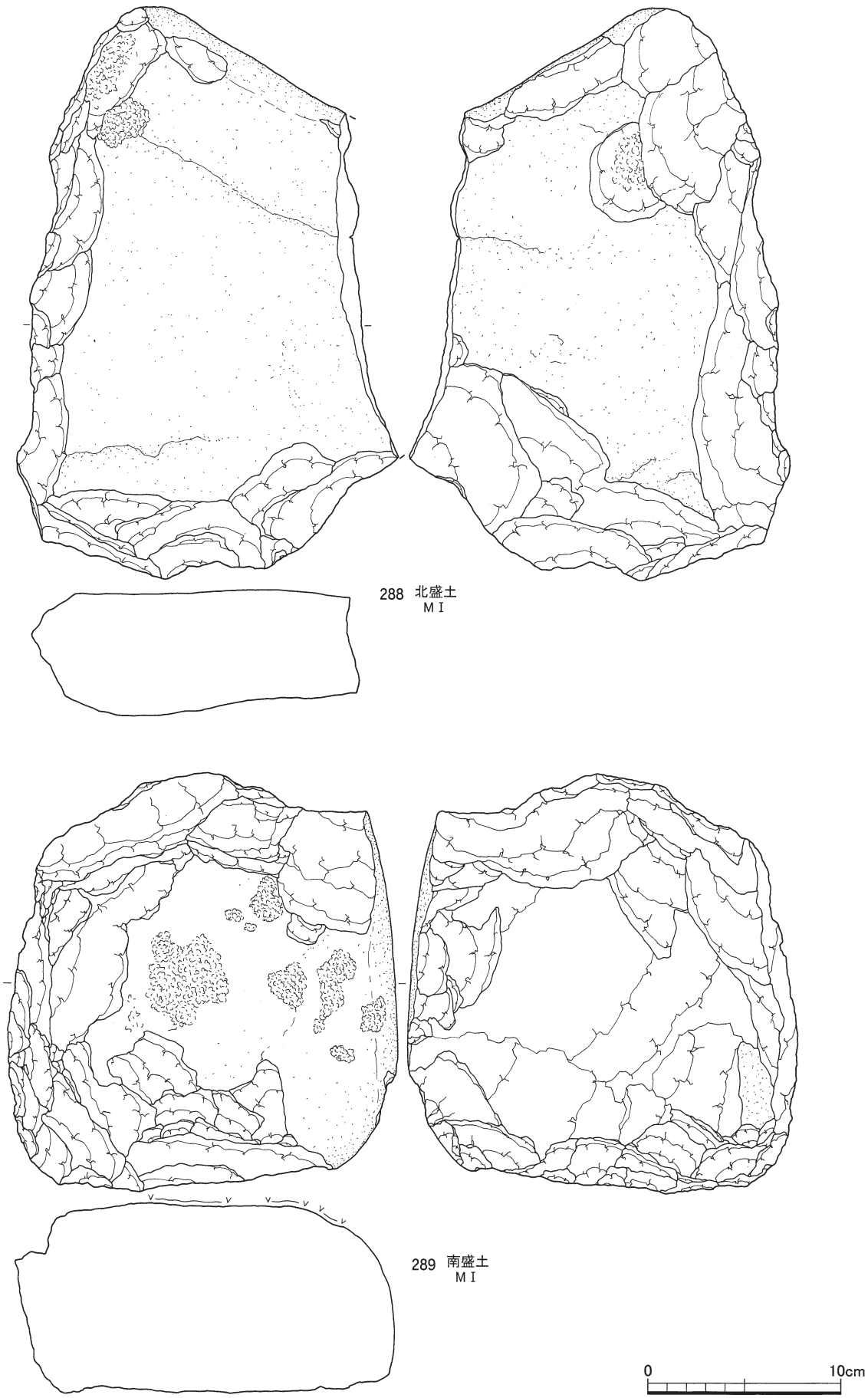
図Ⅴ－111　礫石器（29）石錘①



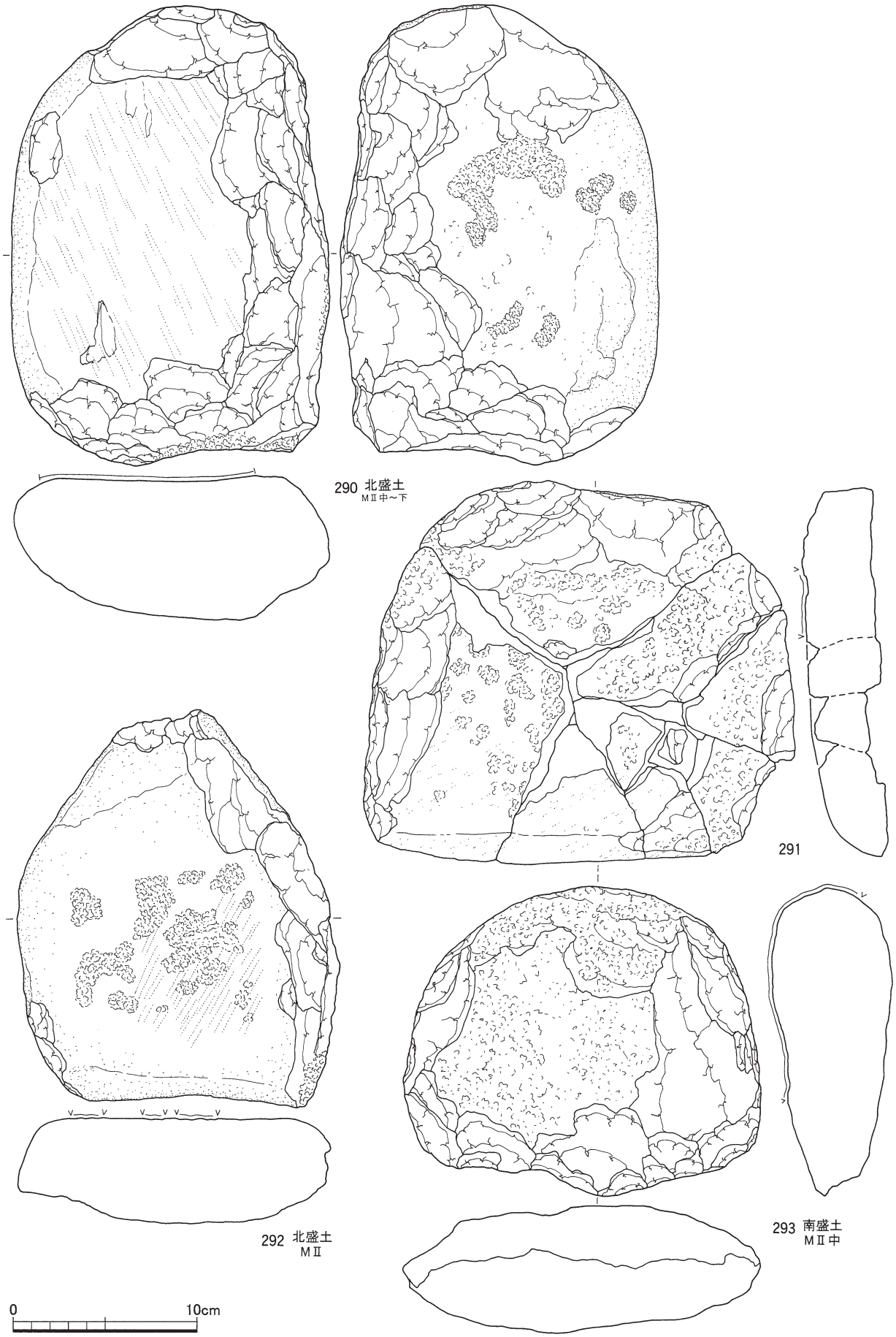
図Ⅴ－112　礫石器（30）石錘②



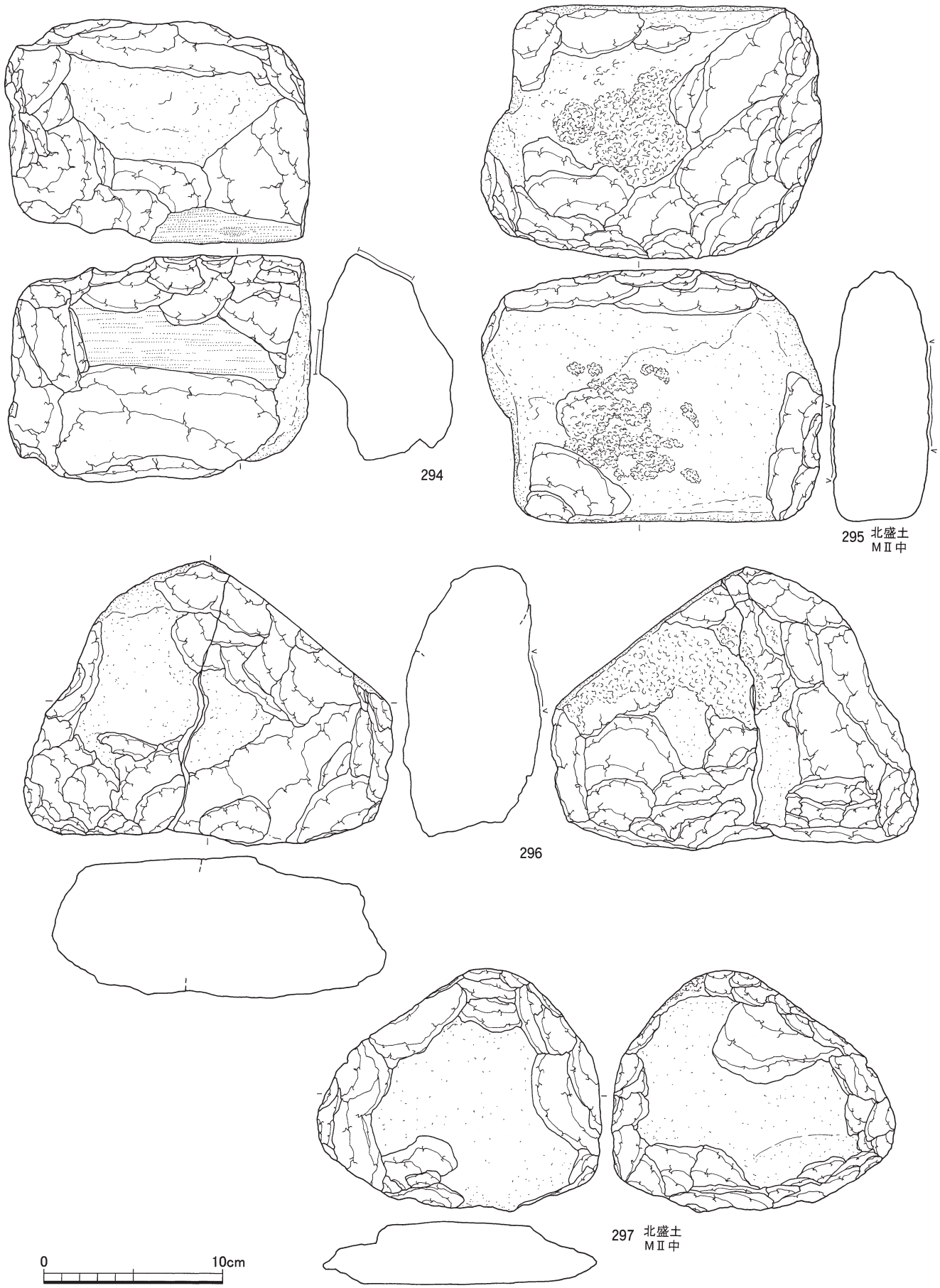
図Ⅴ－113　礫石器（31）石錘③・加工痕ある礫①



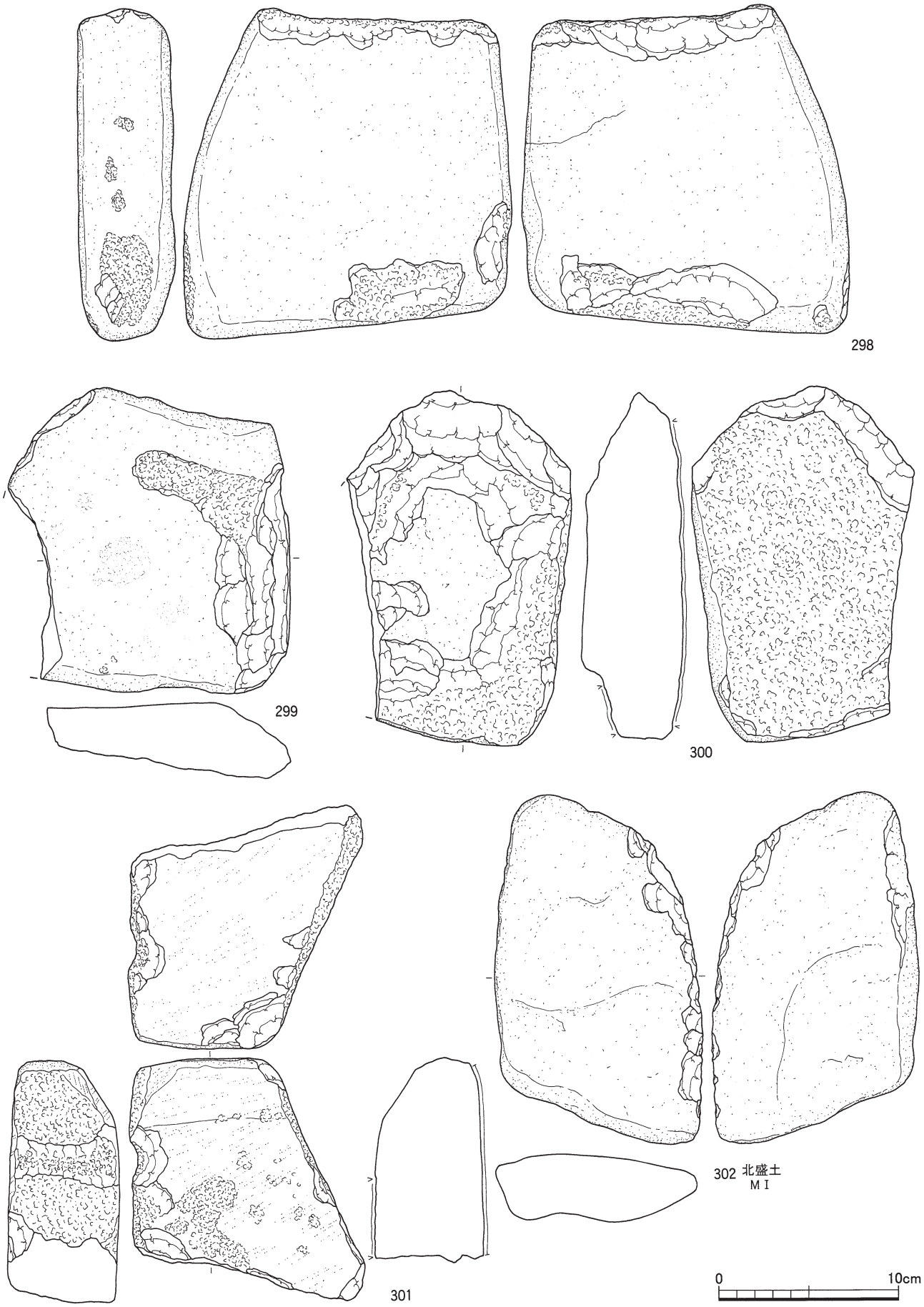
図Ｖ－114　礫石器（32）加工痕ある礫②



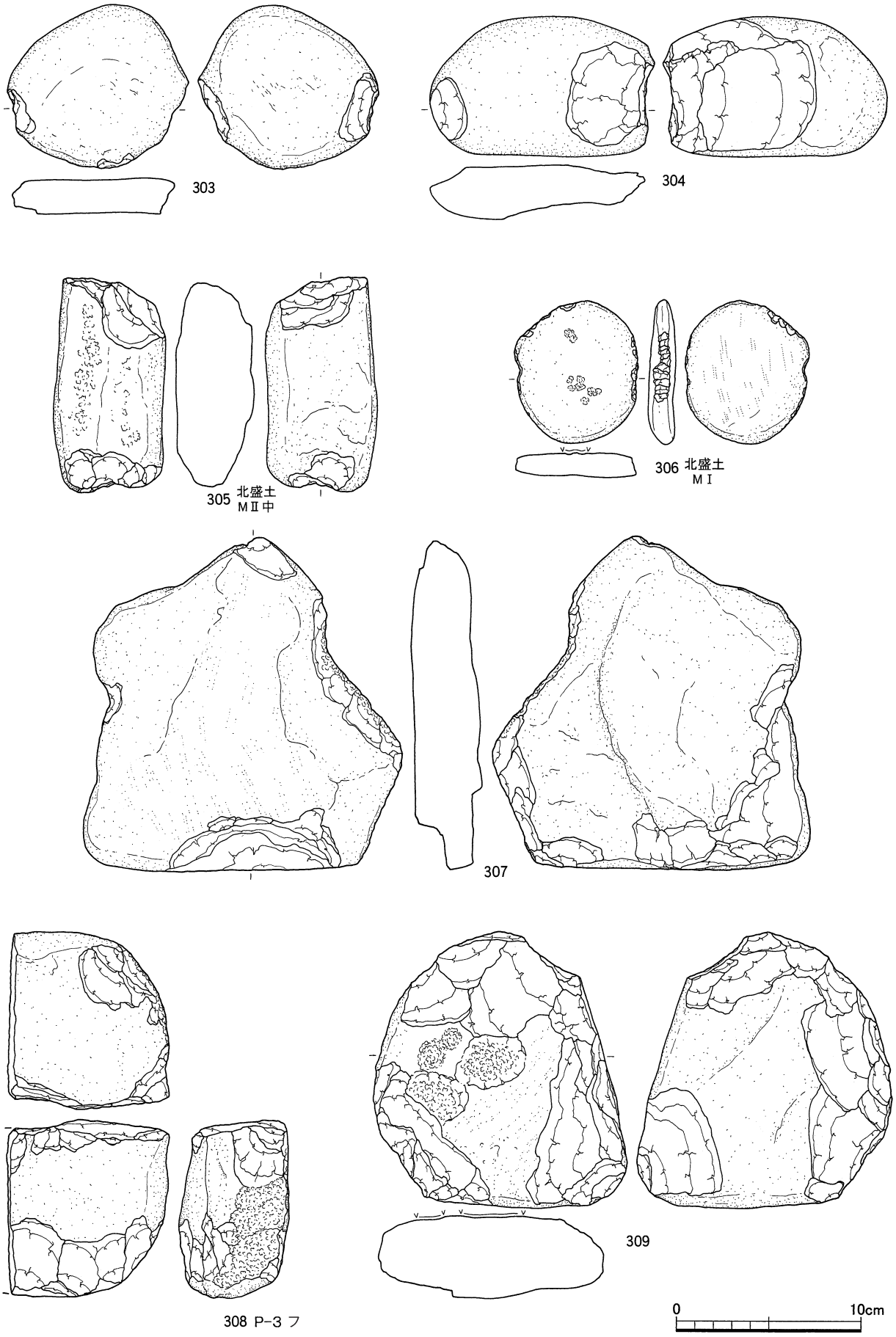
図Ⅴ－115　礫石器（33）加工痕ある礫③



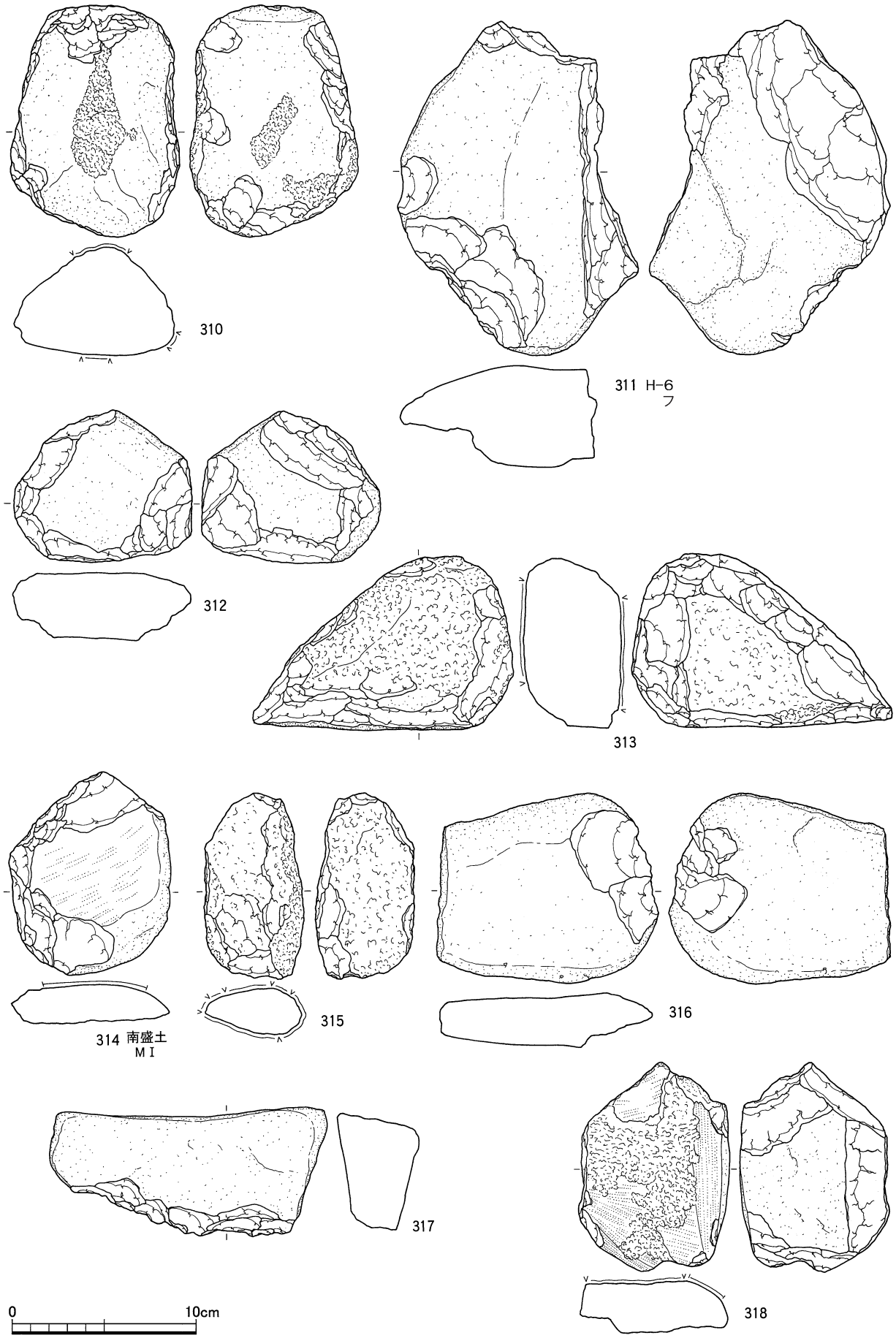
図Ⅴ－116　礫石器（34）加工痕ある礫④



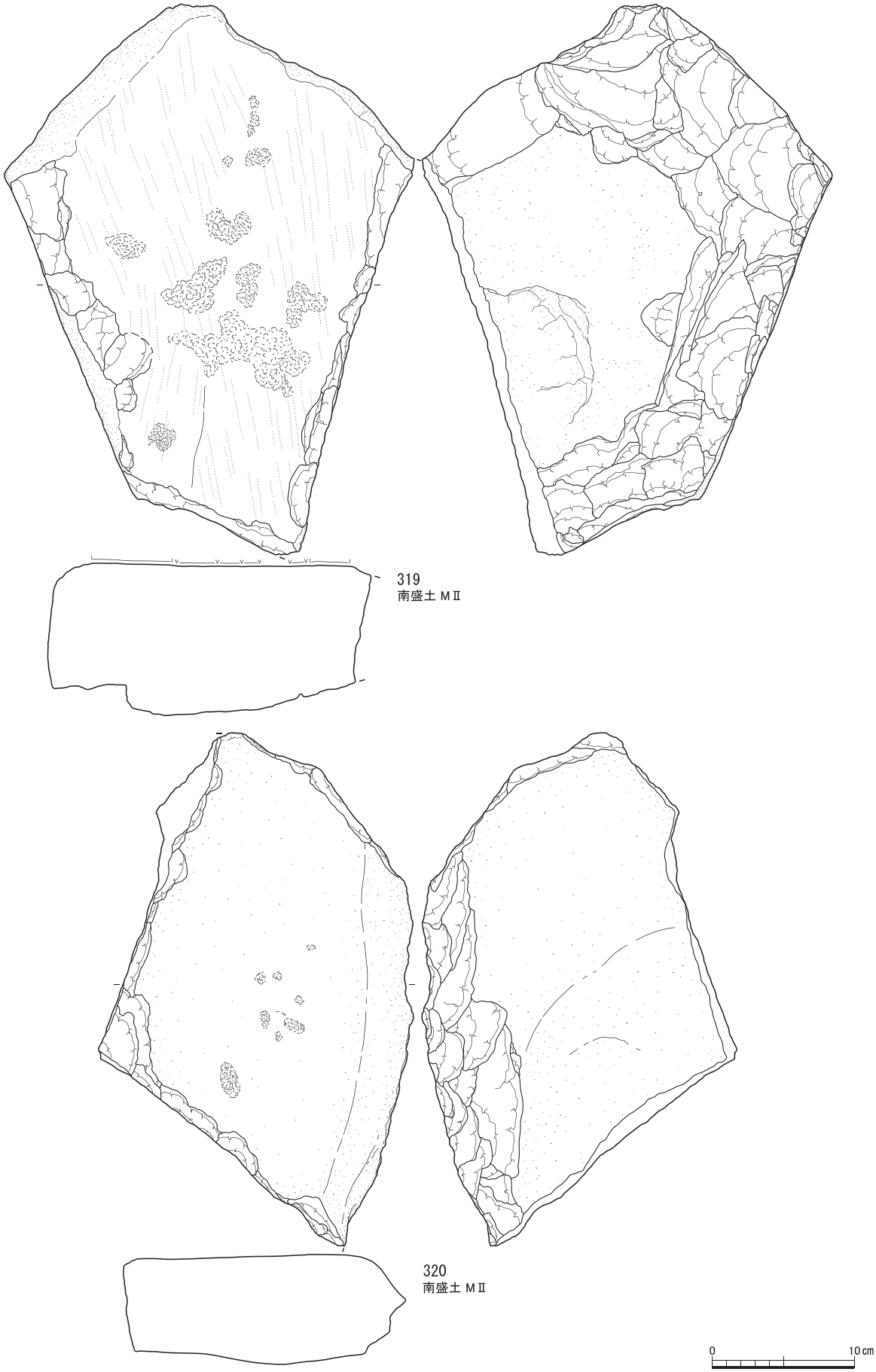
図Ⅴ－117　礫石器（35）加工痕ある礫⑤



図Ⅴ－118　礫石器（36）加工痕ある礫⑥



図Ⅴ－119　礫石器（37）加工痕ある礫⑦



図Ⅴ－120　礫石器（38）加工痕ある礫⑧

性がある。

306～318 は意図の不明瞭な加工痕がみられるもの。306 は円盤状の礫の側縁に線状の敲打痕がみられる。308 は礫片の周縁が敲打整形される。被熱し赤変する。310 は礫の表裏面と端部、周縁に打ち欠きと敲打痕があるもの。たたき石とすべきかもしれない。313、315 は整形敲打痕が全面にみられる。314、318 は砥石片に整形敲打痕がつけられているもの。307、309、311、312、316、317 は礫片の一部が打ち欠かれている。

319、320 は比較的大きなもの。319 は石皿、320 は礫片の一部が打ち欠き整形されている。

石皿・石皿片（図Ⅴ－121～135-321～399、図版 86～90）

厚さ３㎝以上の礫を素材とし、擦痕、敲打痕を有する礫石器とした。敲打痕のみの台石との区別を行わなかった。843 点が出土するうち 664 点は明らかな破片である。石材は角閃岩が１点ある以外は全て砂岩であるが、うち 217 点は、砥石の項で述べた石英が多く、チャート、珪質岩が混じる特徴のあるやや白みがかる石材であった。843 点のうち 79 点を図示した。使用された様子がわかるものを選び、５つに区分した。

（A）使用面がほぼ平らで、板状礫を素材とする

（B）使用面が曲面であるか、溝、もしくは線状痕が明瞭につくもの

（C）敲打等で使用面の中央が円～楕円形にくぼんでいるもの

（D）敲打痕のある大礫、台石

（E）周縁が加工される石皿、またほとんど使用されないが、形状から石皿としたもの

なお、石皿の器種内で接合を試みている。18 件、38 点が接合したが、２グリッド以内の近い範囲での接合が全てで、石斧のように長距離に離れて接合するものはない。

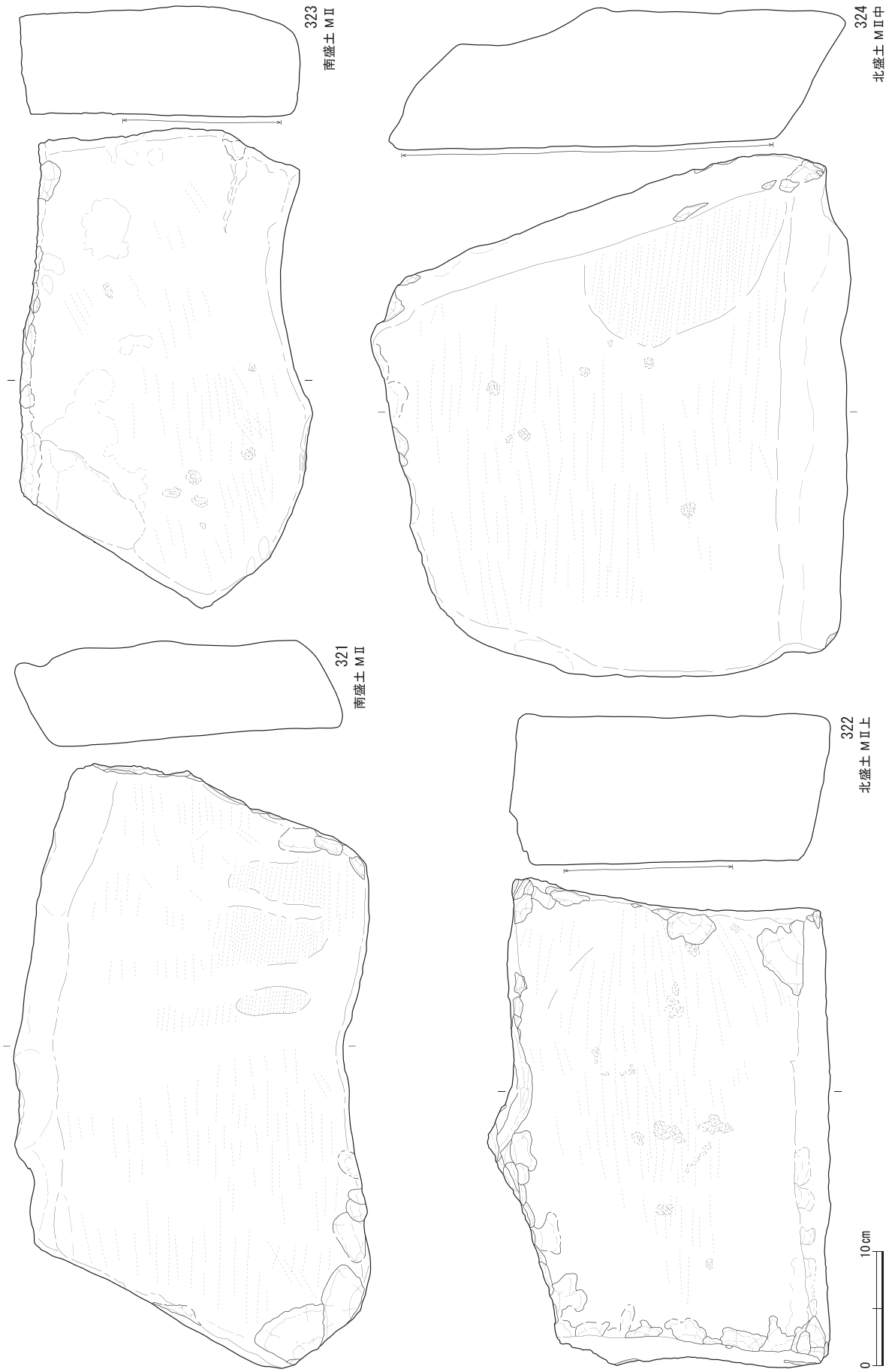
321～343 は形態（A）。321～339 の使用面は多少滑らかな程度のものが多い。うち研磨面が平滑となるのは、324 の正面右下部分、327 の正面右端、331 の中央左寄り、335、336、339 である。ひっかき傷のような筋状の敲打痕が 327 の正面左下、336 の裏面中央に認められる。340～343 は素材礫が直方体の形状であるもの。研磨頻度が高く使用面は全て滑らかである。

344～372 は形態（B）。344 は両面が使用され、正面の使用面はよく使われ緩やかな曲面を呈する。図の中央右寄りで破断するが、右上の接合片は破断後にも使用の痕跡がある。347 は素材礫のくぼみに合わせて使用され、左端は落とし口状となっている。348 は角柱状の礫の３面を使用する。長軸方向を主とした線状痕が明瞭である。350～358 は使用面が明瞭にくぼみ、薄手で砥石に近い。350～352 は両面が使われる。365～371 は明瞭な溝が認められる。369 は特に顕著で、割れて全体は不明であるが、幅７～10㎝、深さ最大２㎝程の溝が２条ある。

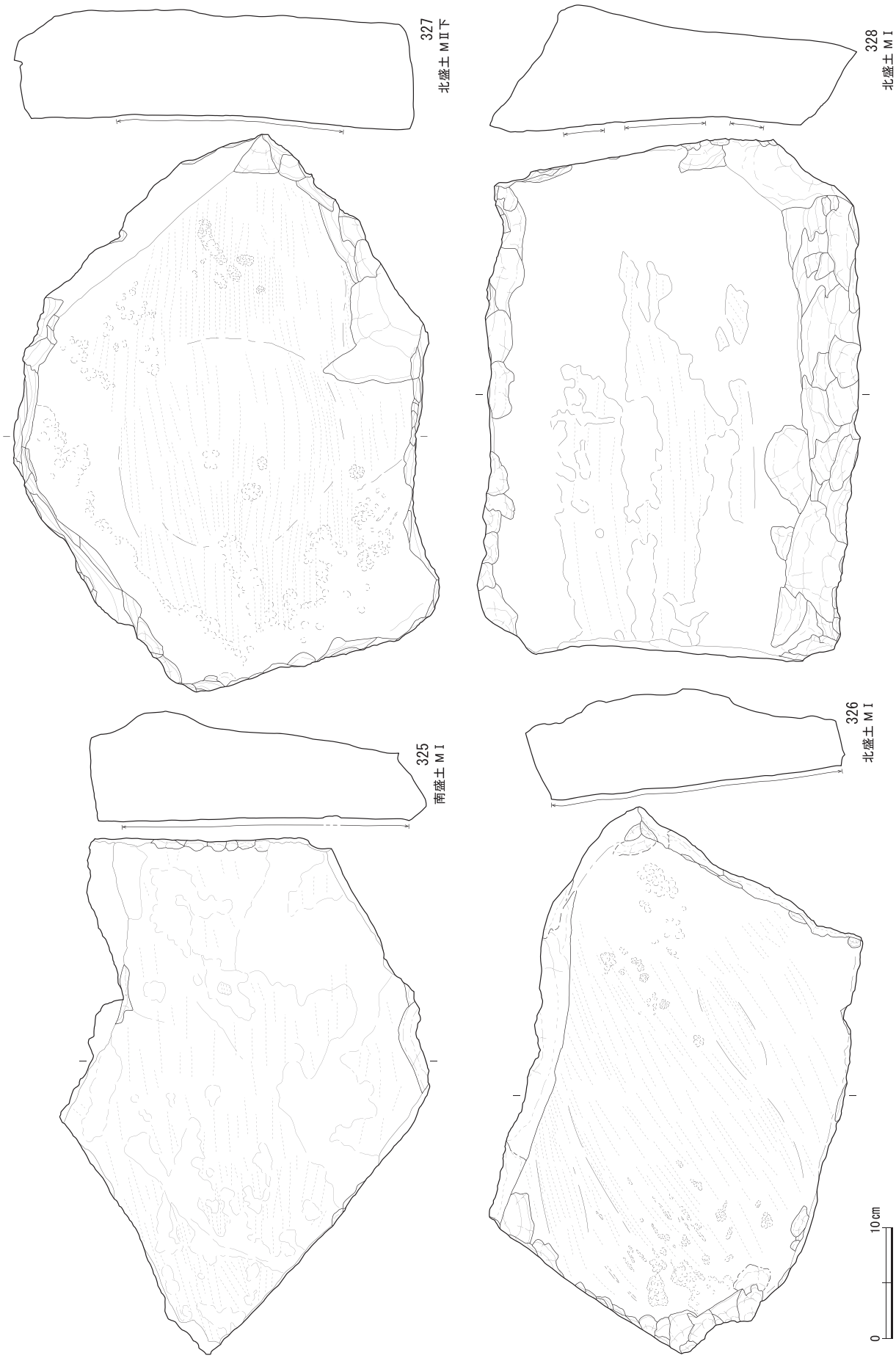
373～378 は形態（C）。373 は削平部分で土坑 P-８の周囲で出土した。板状礫の表面を使用している。中心付近赤色顔料が付き、ややくぼんでいる。374 は被熱赤変する。375 は敲打によるかとみられるくぼみがある。378 は割れた側面も使用される。

379～389 は形態（D）。379 は筋状の敲打痕が表裏面につく。側縁は平滑に擦られている。380～385 は弱い敲打痕が散在する程度のもの。384 は被熱し赤変する。386～389 は特殊な敲打痕がつく。386 はのみで抉ったかのような短い曲線を描く多数の痕跡がある。387、388 は石斧の歯潰しかとも思われるような、線状の明瞭な敲打痕が残されている。387 は同様な幅の溝２条も認められる。389 は正面左側に細かい線状の敲打がある。

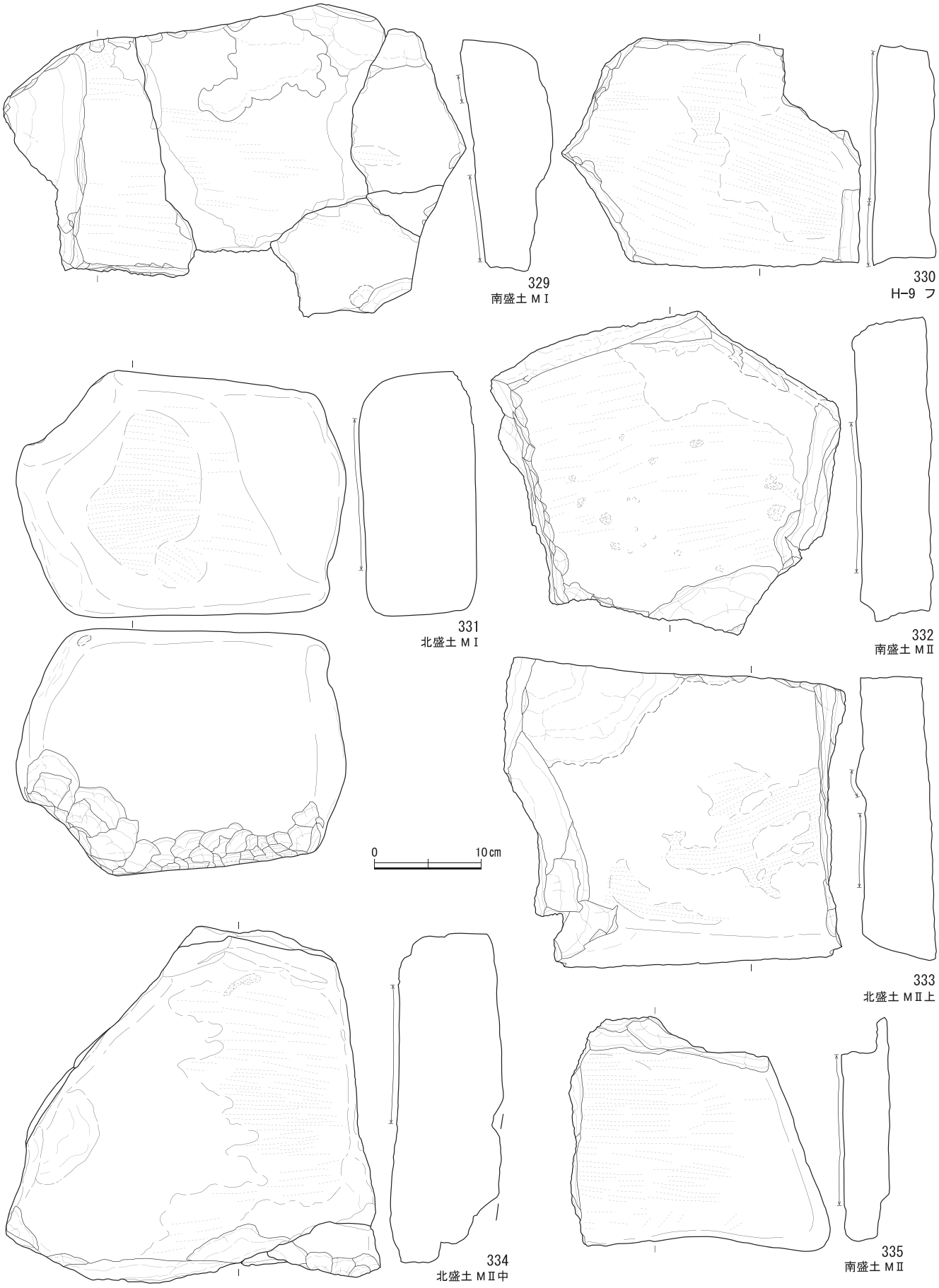
390～399 は形態（E）。390～395 は礫石器の加工を試みたとみられる石皿片。加工痕ある礫との区別は、石皿としての使用頻度が高いものを本分類とした。396～399 はほとんど使用されていない



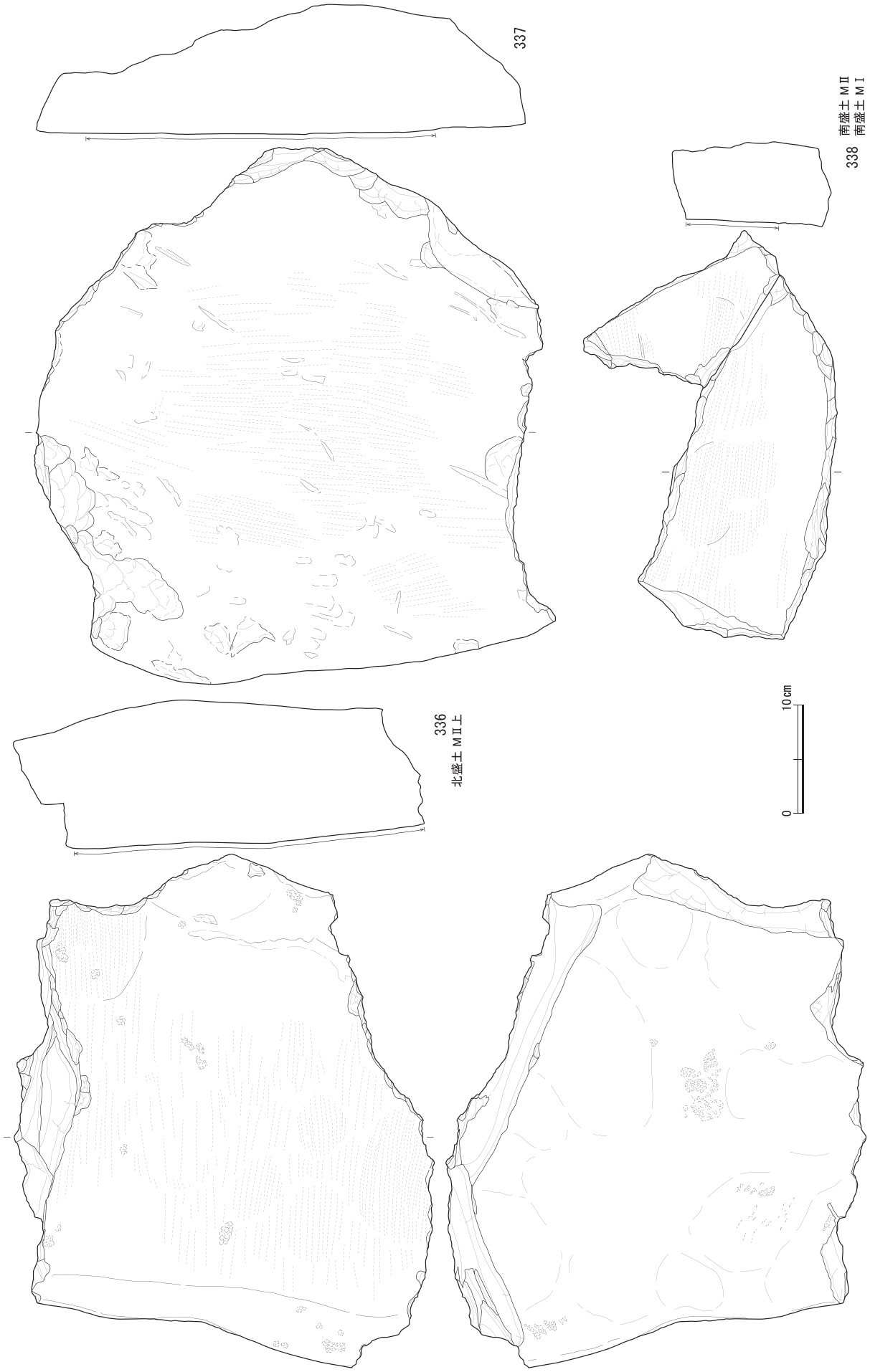
図Ⅴ－121　礫石器（39）石皿①



図Ⅴ－122　礫石器（40）石皿②

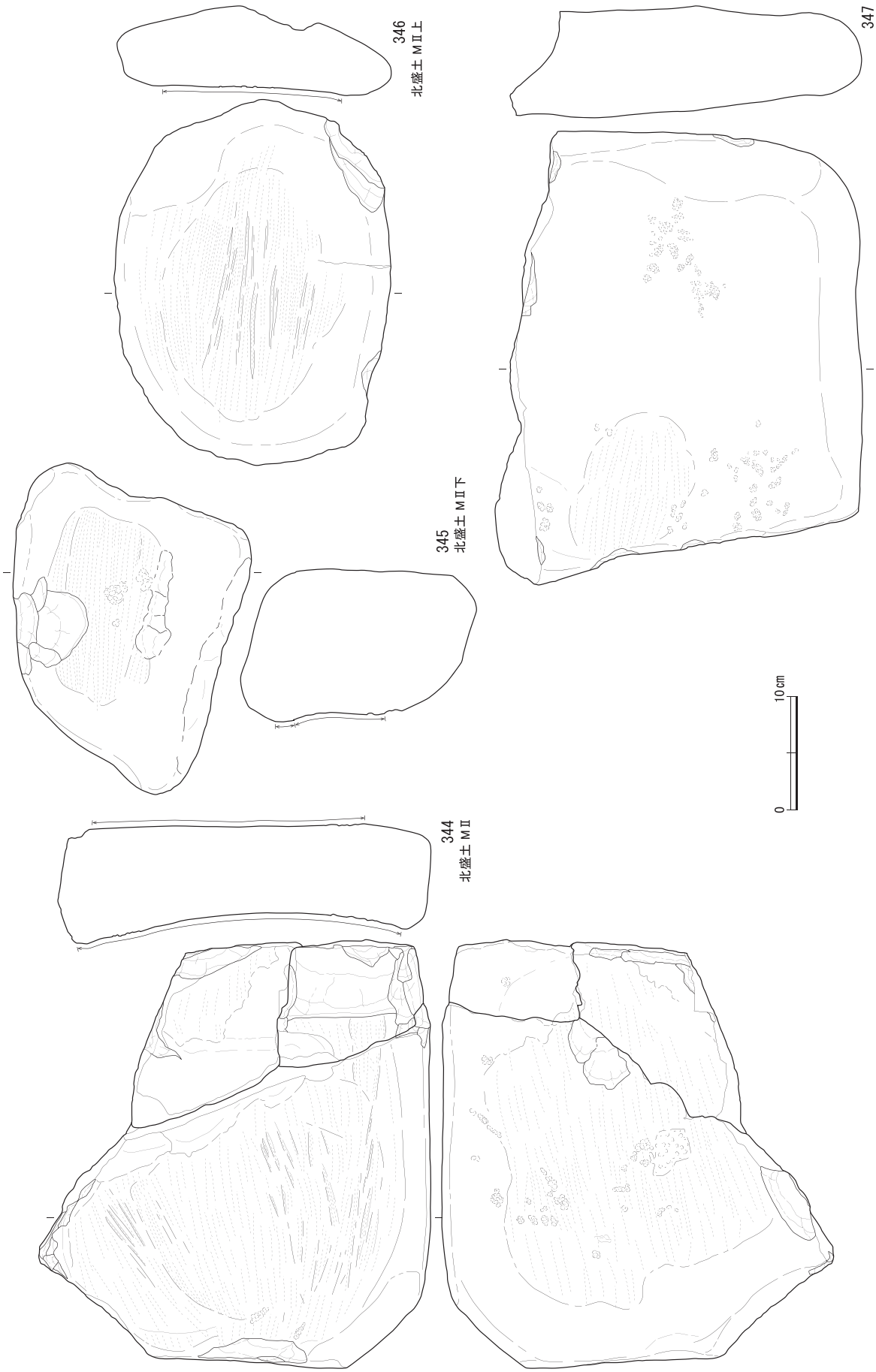


図Ⅴ－123　礫石器（41）石皿③

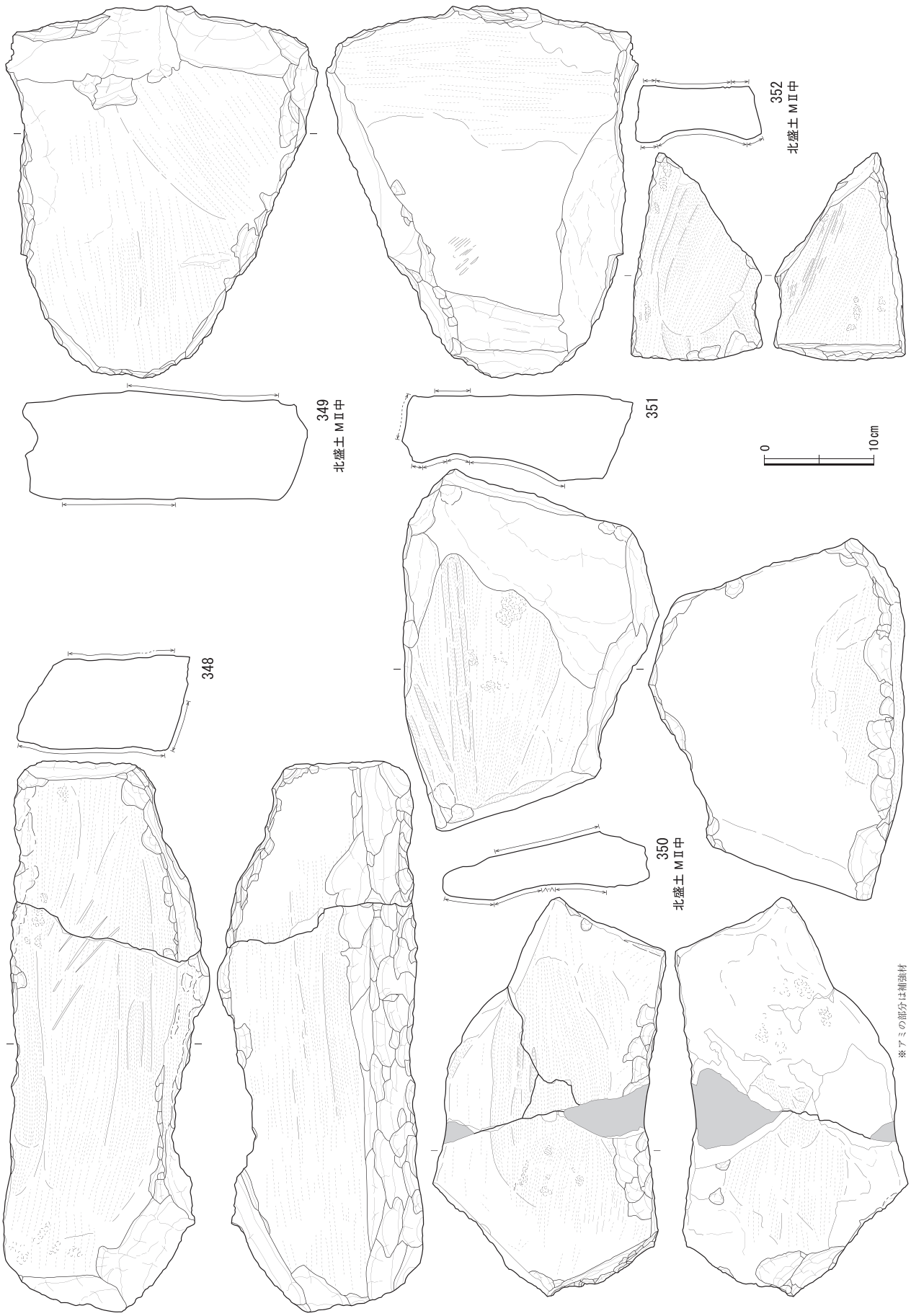


図Ⅴ－124　礫石器（42）石皿④

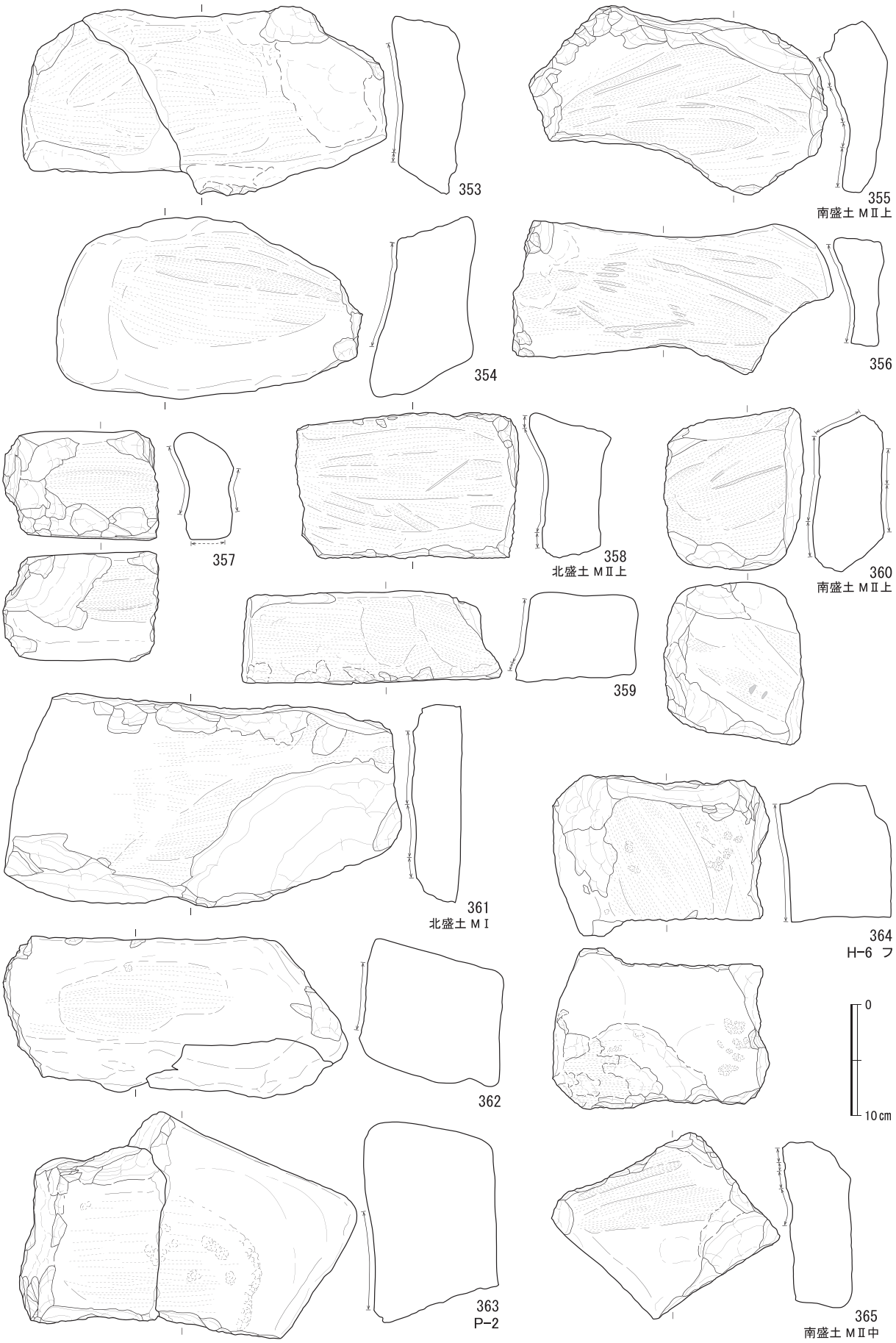
図Ⅴ－125　礫石器（43）石皿⑤



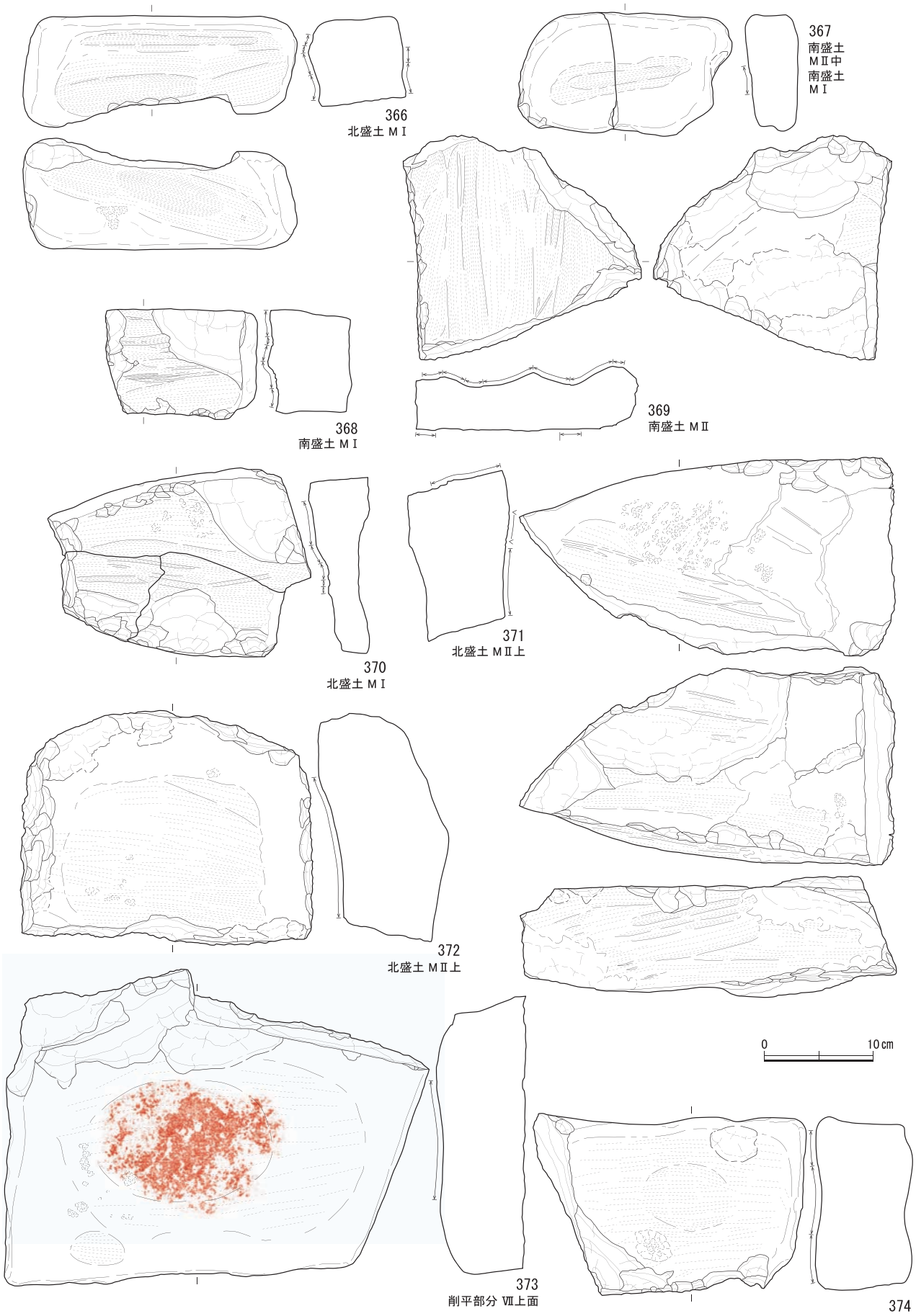
図Ⅴ－126　礫石器（44）石皿⑥



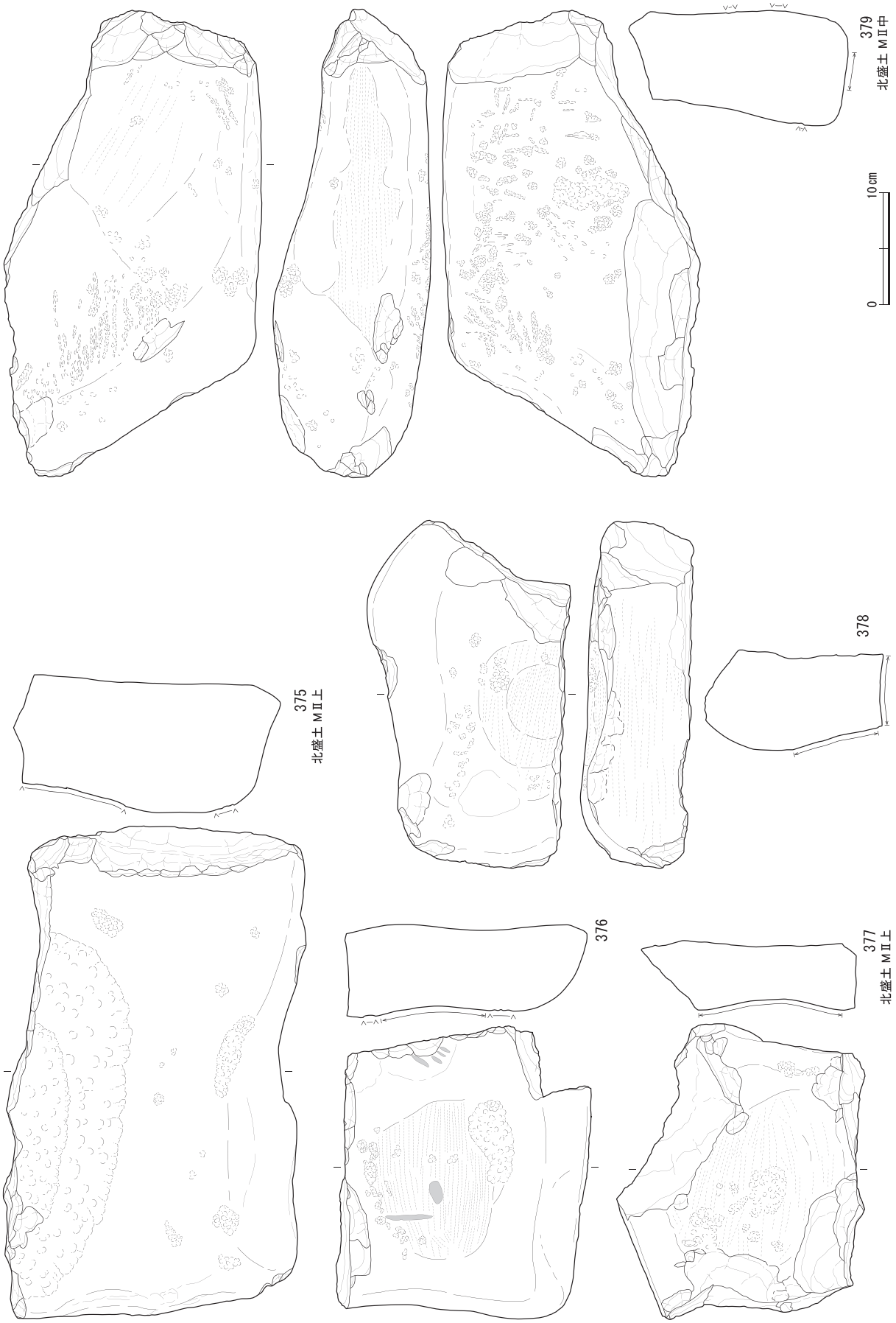
図Ⅴ－127　礫石器（45）石皿⑦



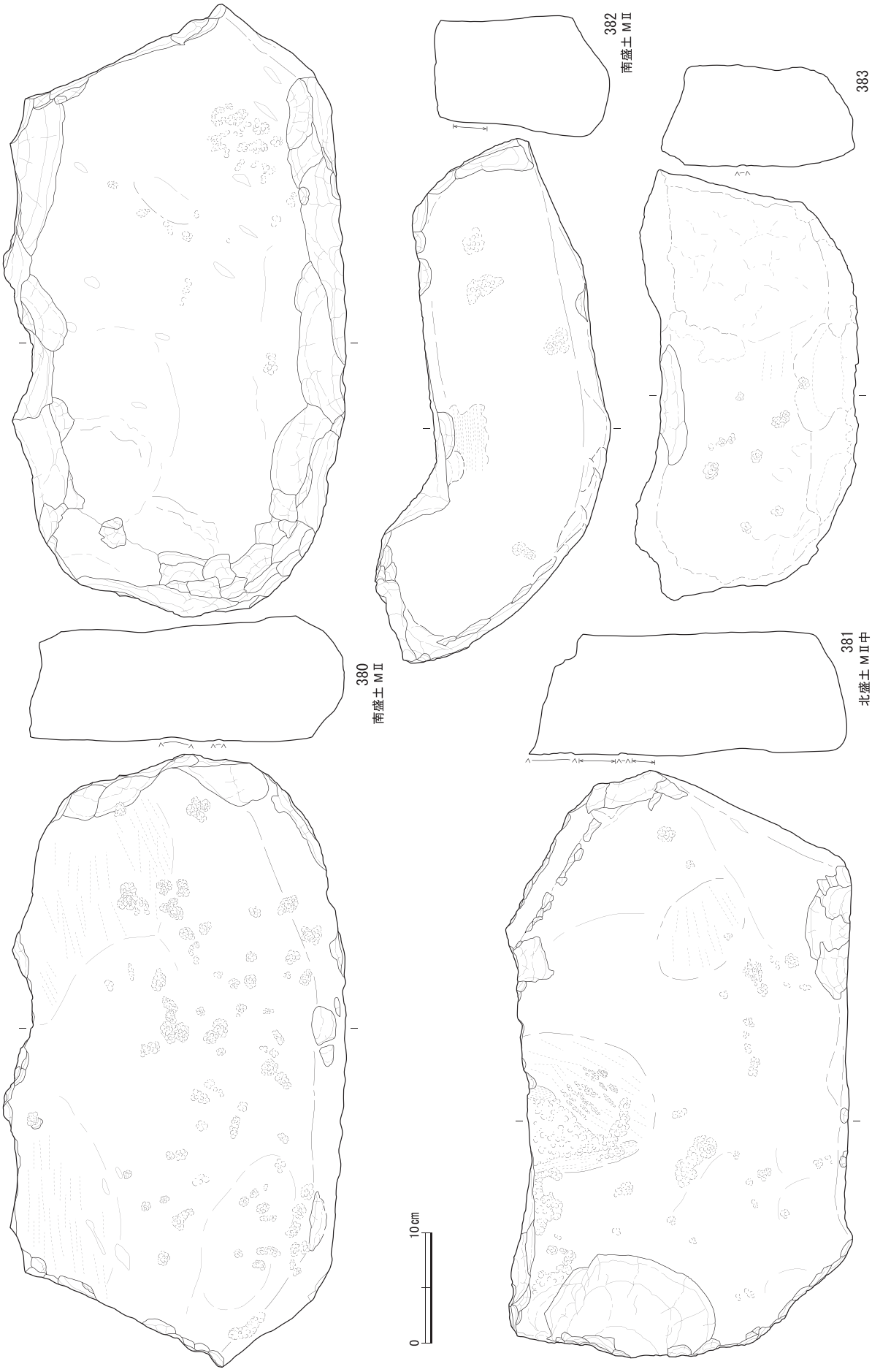
図Ⅴ－128　礫石器（46）石皿⑧



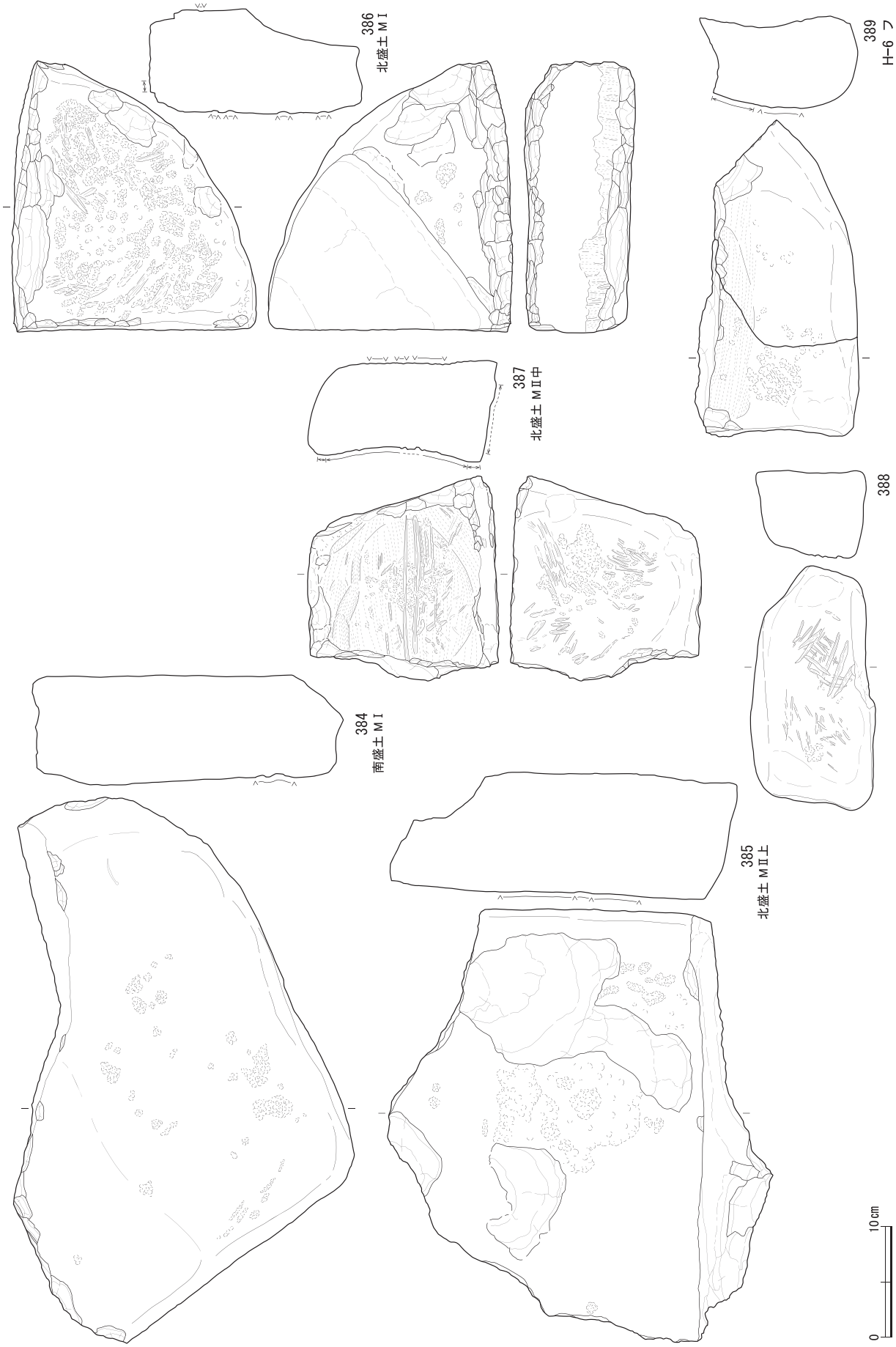
図Ⅴ－129　礫石器（47）石皿⑨



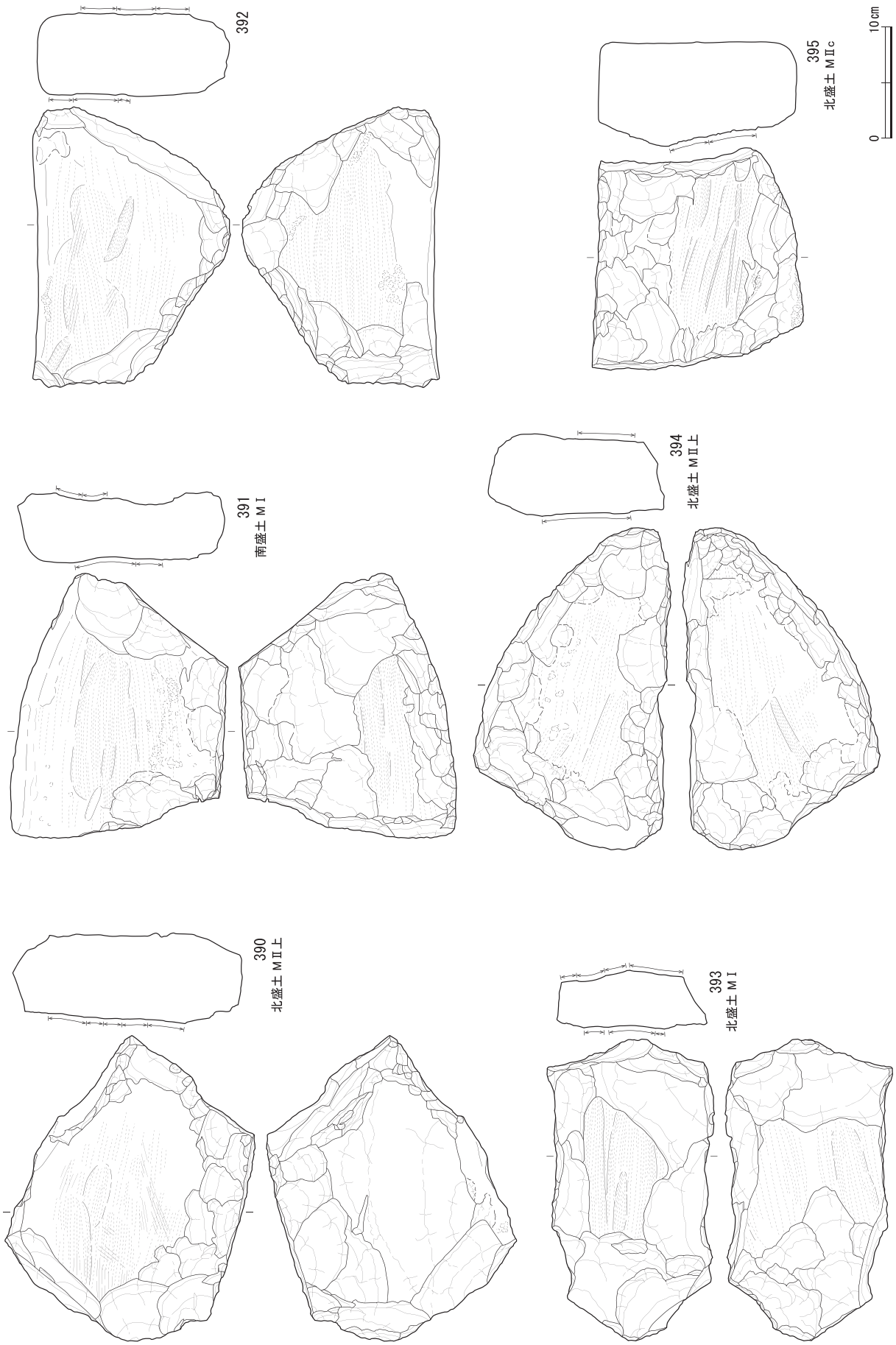
図Ⅴ－130　礫石器（48）石皿⑩



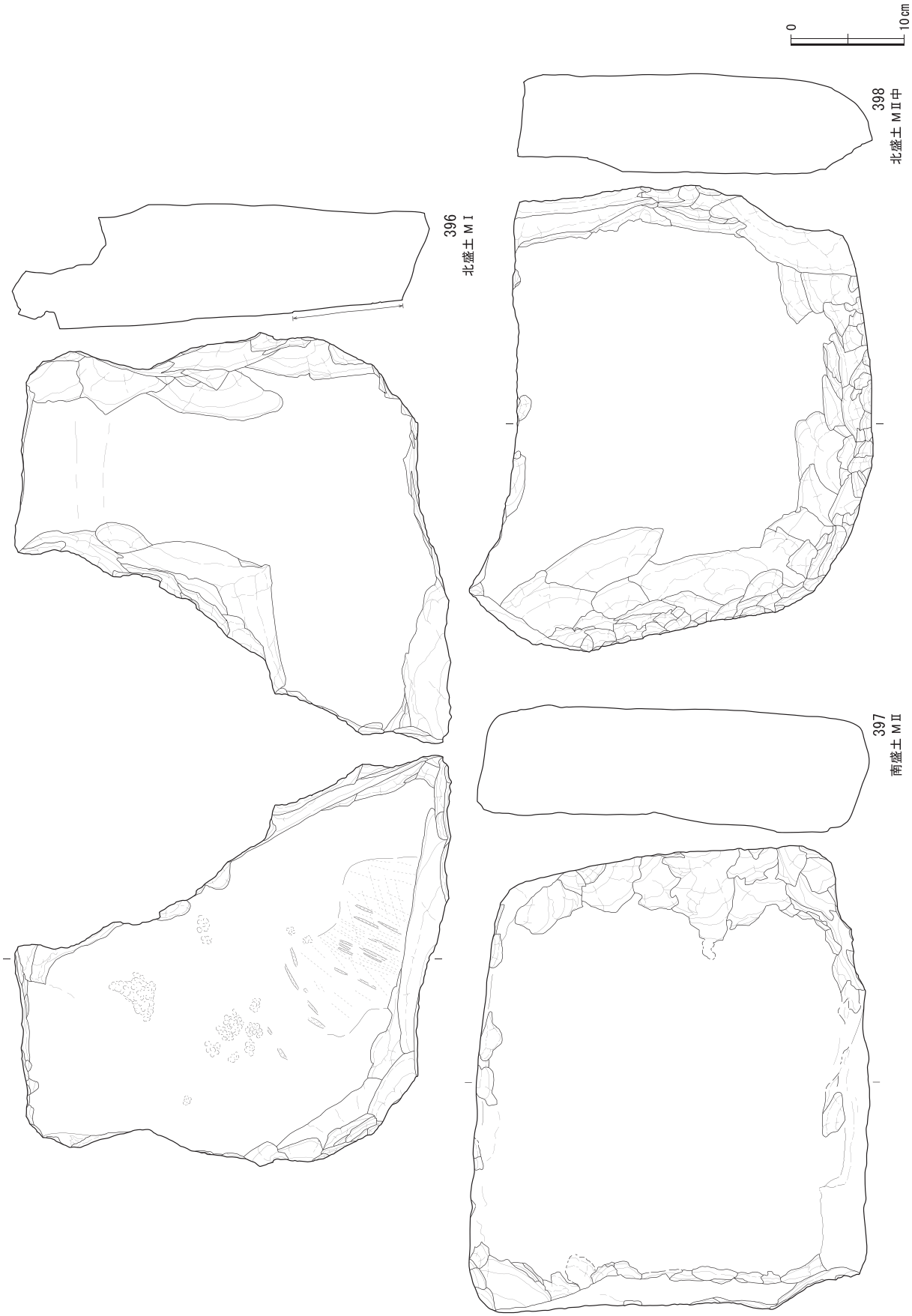
図Ⅴ－131　礫石器（49）石皿⑪



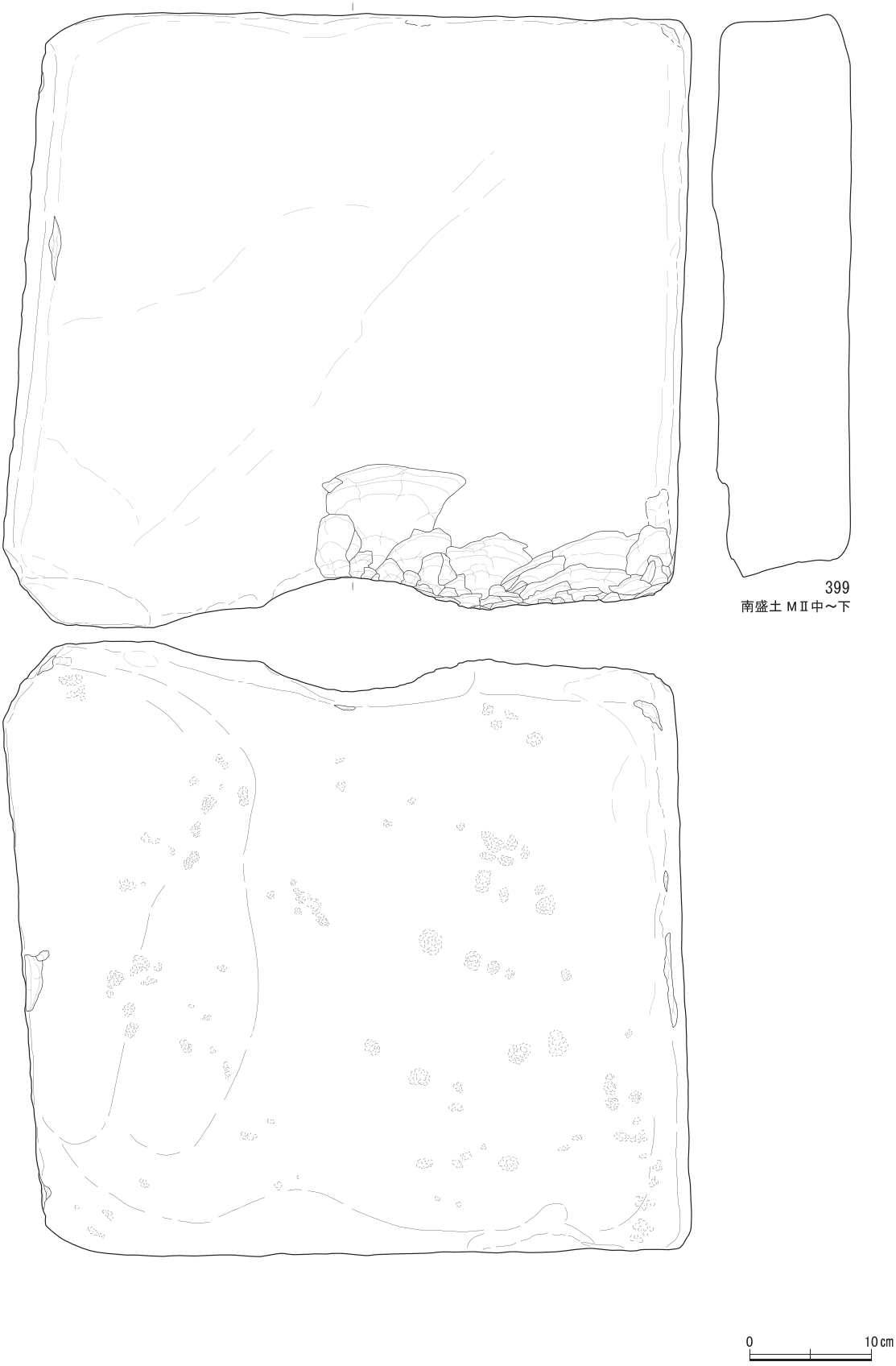
図Ⅴ－132　礫石器（50）石皿⑫



図Ⅴ－133　礫石器（51）石皿⑬



図Ⅴ－134　礫石器（52）石皿⑭



図Ⅴ－135　礫石器（53）石皿⑮

が、石皿の素材と判断した。

（6）土製品・石製品（図Ⅴ－136・137-400～426、表Ⅴ－10、図版91）

土製品（図Ⅴ－136-400、401、図版91）

焼成粘土塊が８点出土している。うち２点図化した。400、401はいずれも手捻りを加えたような痕跡を持つ焼成粘土。胎土は土器と異なり、繊維、砂礫の混入がなく斜方輝石とみられる自形鉱物と、淘汰の良い細砂粒からなる。焼成したⅦ層の可能性もある。

石製品（図Ⅴ－136・137-402～425、図版91）

402～404は玉。石材は402が濃緑色の蛇紋岩、403はオリーブ色の緑泥石岩、404が砂岩。404は未穿孔である。405は石斧破片から研磨により整形される石製品。先端部はほとんど加工されないが、形状は石錐もしくはつまみ付きナイフと類似する。406は両側縁が平滑に研磨され、断面形が直方体を呈する。研磨面が赤変し、形状を意図して整形したとみられるため石製品としたが、砥石かもしれない。407～413は特殊な自然石である。407～411は有孔自然石。412は匙状、413は突起が付く弾丸様の形状である。

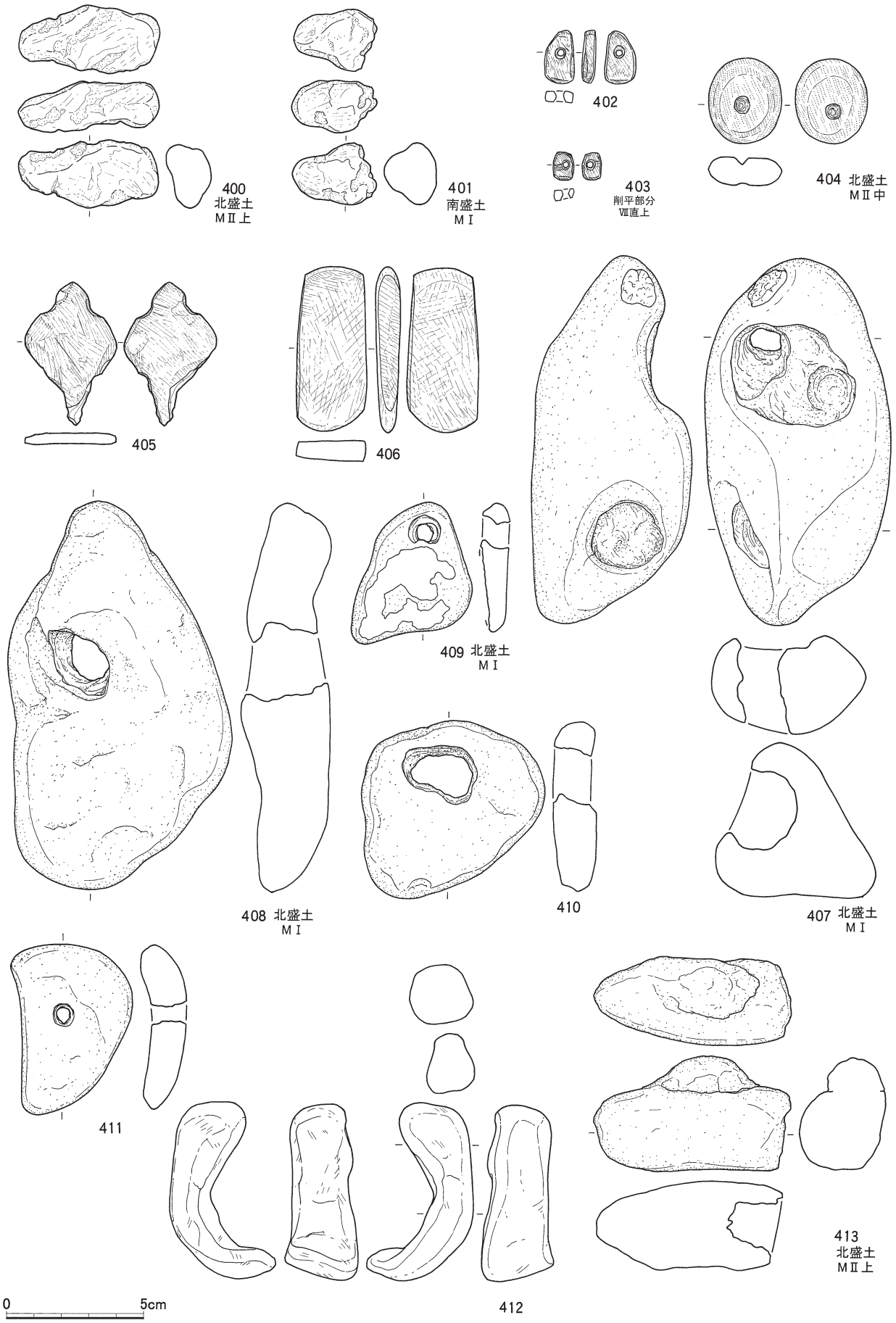
414～425は円盤状の石製品。425以外は周縁を打ち欠いて整形されている。414はNo.692の埋設土器（図Ⅴ－47-６）の中から出土している。出土状況を把握できなかったが、底部の欠けた伏せた状態の尖底土器の蓋をするように配置されていた可能性があるものである。これを含め全て前期前半のものとみられ、岩見沢市冷水遺跡の「まんじゅう石」に類するものと想定される。大きさは４種の別がある。約14.5㎝（414、415）、約13㎝（416）、約９㎝（417）、約５㎝（418～421）である。422～424は調整方法が異なり、打ち欠きによる剥離角が直角に近い。425は加工されておらず、まんじゅう石に類似する。

（7）骨角器・動物遺存体（図Ⅴ－138-426～430、表Ⅴ－11、図版92）

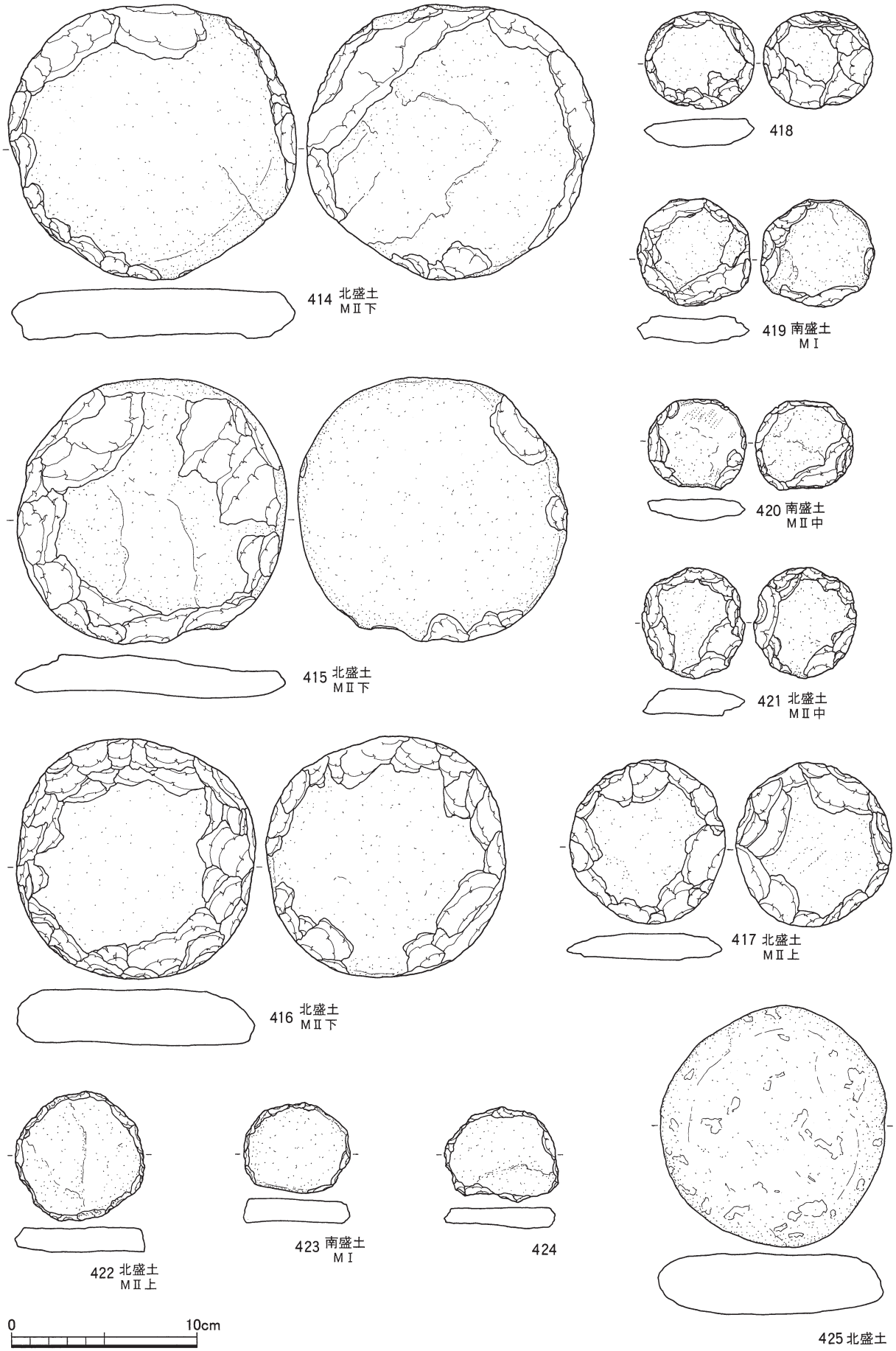
Ⅴ層、およびⅤ層で検出された遺構の一部、また盛土層から、動物遺存体が検出されている。これらは明確な集中域をなさず、比較的散漫な分布であったが、時に形状がはっきり視認できるほどの大きさのものが含まれていた。確認できる範囲は盛土全域に及んでおり、土壌の全量回収は現実的ではなかった。そのため、直接手で採取するいわゆるハンドピックにより回収した。これらは点数にして42,783点、14760.4gである。

ハンドピックのみでは、微細な資料の見落としがある可能性がある。そのため、肉眼上明瞭な集中が認められる部分、またメインセクションのベルト部分について、盛土層と削平相当層（Ⅶ′層）のみ土壌の採取を行った。各ベルトを１ｍごとに区切り、①から放射状に広がるよう番号を付した。これは例えばベルトＢ①区のように呼称した。回収した土壌の総量は土嚢袋149袋、体積は1,695ℓである。これらをフローテーション選別した。結果は表Ⅴ－11に示した。これら動物遺存体について、骨角器、獣骨、鳥類、魚骨に分け傾向をまとめる。

なお、これらのⅤ層相当層から出土した動物遺存体は、全て焼成している



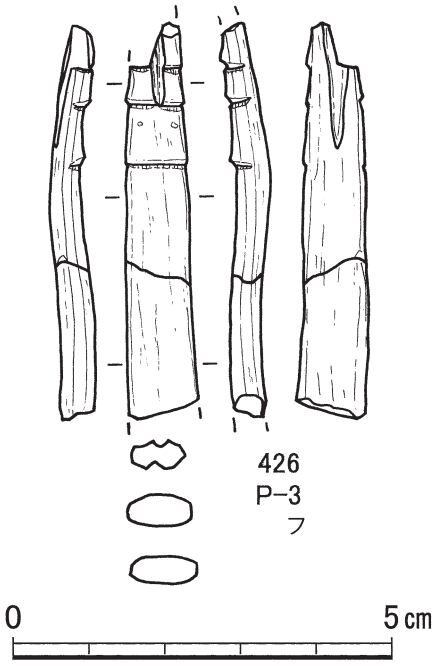
図Ⅴ－136　土製品・石製品①


414 北盛土 MⅡ下
418
419 南盛土 MⅠ
415 北盛土 MⅡ下
420 南盛土 MⅡ中
421 北盛土 MⅡ中
416 北盛土 MⅡ下
417 北盛土 MⅡ上
422 北盛土 MⅡ上
423 南盛土 MⅠ
424
425 北盛土
0
10cm

図Ⅴ－137　石製品②

a）骨角器（図Ｖ－138-426～430、図版 92）

骨角器は４点認められた。426 はP-３の覆土から出土した。海獣肋骨製で両端は欠損する。図の正面上方に３つの段差があり、２段目までに裏面と対になる刻みがつけられている。３段目の段差には２か所に黒色付着物が認められる。図の先端に石器等を装着する道具とみられるが、用途は不明である。427～429 は写真のみ掲載した（図版 92）いずれもシカ中手中足骨を素材とし、角柱状に整形される用途不明の骨角器である。



図Ｖ－138　骨角器

b）獣骨

獣骨のうち判別できたものはシカ、イヌ、アシカである。最も量の多いシカについて部位別に出土傾向を述べる。

（シカ）頭骨・角と歯・下顎骨（破片）

角：南北の盛土層中から８点出土した。北盛土では J20～21、K20～22 の主にＭⅡ層から６点、南盛土では T21 区のＭⅡ層中下部から２点である。

歯：５か所ある。北盛土は J20、21、22 と、I21 区のＭⅡ層で、南盛土は T22 のＶ層中位である。このほか、下顎骨が K20 のＶ層から検出されている。

（シカ）椎骨・肋骨・肩甲骨・上腕骨（破片）

椎骨は K20 区ＭⅡ層で１点、肋骨は J20（ベルトＢ⑯）、21、K20 区、肩甲骨は J19 と U20、23、上腕骨は K21、22、T21、22 で出土した。上腕骨は K21、22、T21、22 でＶ層、ＭⅠ層からＭⅡ層上面にかけて出土している。

（シカ）橈骨・尺骨・寛骨・大腿骨（破片）

橈骨は近位端が９点、J23、L22、R21、22、S24、T21、U22、V20 において、層位はＶ層からＭⅡ層上位にかけてである。遠位端は３点、K19、J21、K21 においてＭⅡ層で出土した。

尺骨は遠位端のみ６点、削平部分の Q21 で１点、北盛土では K21 で１点、R23、U20、V20、21 で計４点出土した。

（シカ）脛骨・腓骨（破片）

脛骨は９点、北盛土では K20～23 区のＶ～ＭⅡ層にかけて４点が、南盛土は T20、U20～22 のＶ層、ＭⅡ層で５点が出土した。腓骨は１点のみで、V21 区のＶ層中位である。

（シカ）膝骸骨・踵骨・距骨・果骨

膝骸骨は４点、北盛土は J21、K23 で各１点、南盛土は T21、U20 で各１点、層位はいずれもＭⅠ層、ＭⅡ層下位である。距骨は７点、北盛土では４点、J21、K20、K22、K23 で各１点、層位はＶ層上位からＭⅡ層下位に分かれている。南盛土は３点、T22、U21、V21 で、層位はＶ層中位とＭⅠ層である。果骨は 16 点出土し、うち完存するものは８点である。北盛土２点、削平部分２点、南盛土は 12 点で南盛土に多い。北盛土は J21、J24 のＭⅡ層から１点ずつ、削平部分は M21、P22 からＶ層上位、ＭⅠ層で出土している。南盛土は、R25、S21、S22、S24、T20～22、T24、U20、V21、V22 で出土している。層位は S21、T21 でＭⅡ層上部であるほかは、Ｖ層ないしＭⅠ層からである。

（シカ）指趾骨（基節骨・中節骨・末節骨）

基節骨は58点確認できた。北盛土で27点、削平部分で３点、南盛土で28点である。層位は北盛土ではＭⅡ層中が多く、削平部分、南盛土ではＭⅡ層は少なく、Ⅴ層またはＭⅠ層が多い。中節骨は77点出土している。北盛土で44点、削平部分で５点、南盛土で28点である。いずれの盛土もほぼ全域に分布するが、層位は基節骨に同様で、北盛土ではＭⅡ層を中心に、削平部分と南盛土ではⅤ層およびＭⅠ層を中心として検出される傾向がある。末節骨は126点が出土し、北盛土53点、削平部分が７点、南盛土が66点となっている。層位はⅤ層からＭⅡ層まで幅広く分布している。削平部分のⅦ層直上から２点完存するものが出土しており、特筆される。

（シカ）手根骨・足根骨

手根骨は58点出土している。部位の詳細は表を参考されたい。北盛土からは26点、J、ＫラインのＭⅡ層を中心として出土する。削平部分ではQ22区のⅤ層中位から１点、南盛土では31点ほぼ全域に分布する。層位はＭⅠ、Ⅴ層が多い。足根骨は１点のみ、北盛土K22区のＭⅡ層下部より検出されている。

（シカ）中手中足骨（破片）

27点確認した。北盛土12点、南盛土15点であるが、選出されなかったその他の骨片には、この部位とみられるものが大多数を占めるとみられる。

（シカ）種子骨

62（35）点出土している。（　）は完存品数。北盛土21（12）点、削平部分１（１）点、南盛土40（22）点となっている。層位はⅤ層やＭⅠ層等上位のものが多い。

（その他哺乳類）

（イヌ）：可能性のある中手・中足骨が２点、基節骨が１点出土している。層位は中手・中足骨がⅤ層上位と下位、基節骨がＭⅡ層の中位であるが、ＭⅡ層より下位のⅤ層下部から出土がみられることから、前期前半に伴うと考えてよいかとみられる。

（海獣）アシカ科？の指骨が南盛土（T21C区）のＭⅡ中層で確認されている。

c）魚骨

魚骨はニシン科、サケ科、コイ科のウグイ属が認められた。

・**ニシン科**は椎体が41点、北盛土からは26点、ほとんどがＭⅡ層やＭⅡ層に相当する遺構覆土からの出土である。南盛土からは15点、層位は同様で、ＭⅠ層からの２点を除くと、ＭⅡ層相当の骨片混土である。

・**サケ科**は歯２点、椎体が５点、椎体の破片が４点である。北盛土からは椎体が２点、破片が２点、ＭⅡ層相当の骨片層からの出土である。南盛土からは歯２点、椎体３点、椎体破片２点で、層位は椎体の１点がＭⅠ層である他は、ＭⅡ中層からの出土である。

・**コイ科**はウグイ属かその可能性がある椎体、椎体片で占められる。210点の内訳は、北盛土82点、南盛土128点である。北盛土は椎体59、破片23点で、ＭⅠ層から13点の出土があるが、ＭⅡ層相当の堆積から出土する場合が多い。南盛土は、椎体58点、破片70点で、ＭⅠ層からは５点で、123点はＭⅡ層相当層からの出土である。

d）鳥類

腓骨が２点出土している。うち１点は猛禽類とされたもので、R25区のⅤ層中位でハンドピックにより検出されたものである。もう１点種が判明しなかった腓骨は北盛土のJ20B・Ｃ区、ＭⅡ層中位で出土している。

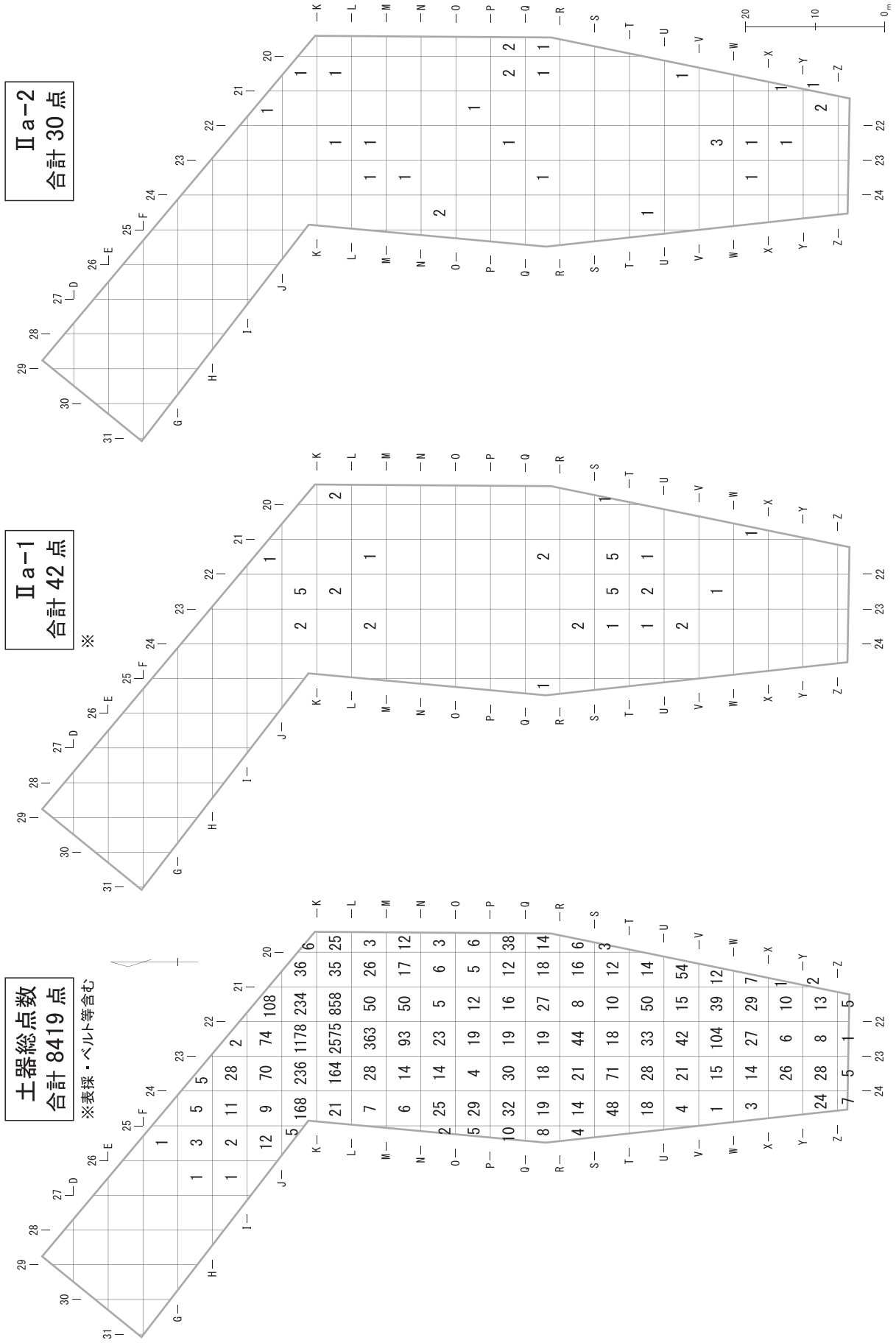
（８）礫・礫片（図Ⅴ－149）

棒状礫、板状礫、有意の礫については、Ⅳ章ですでに述べている。ここでは礫・礫片についてまとめて述べる。

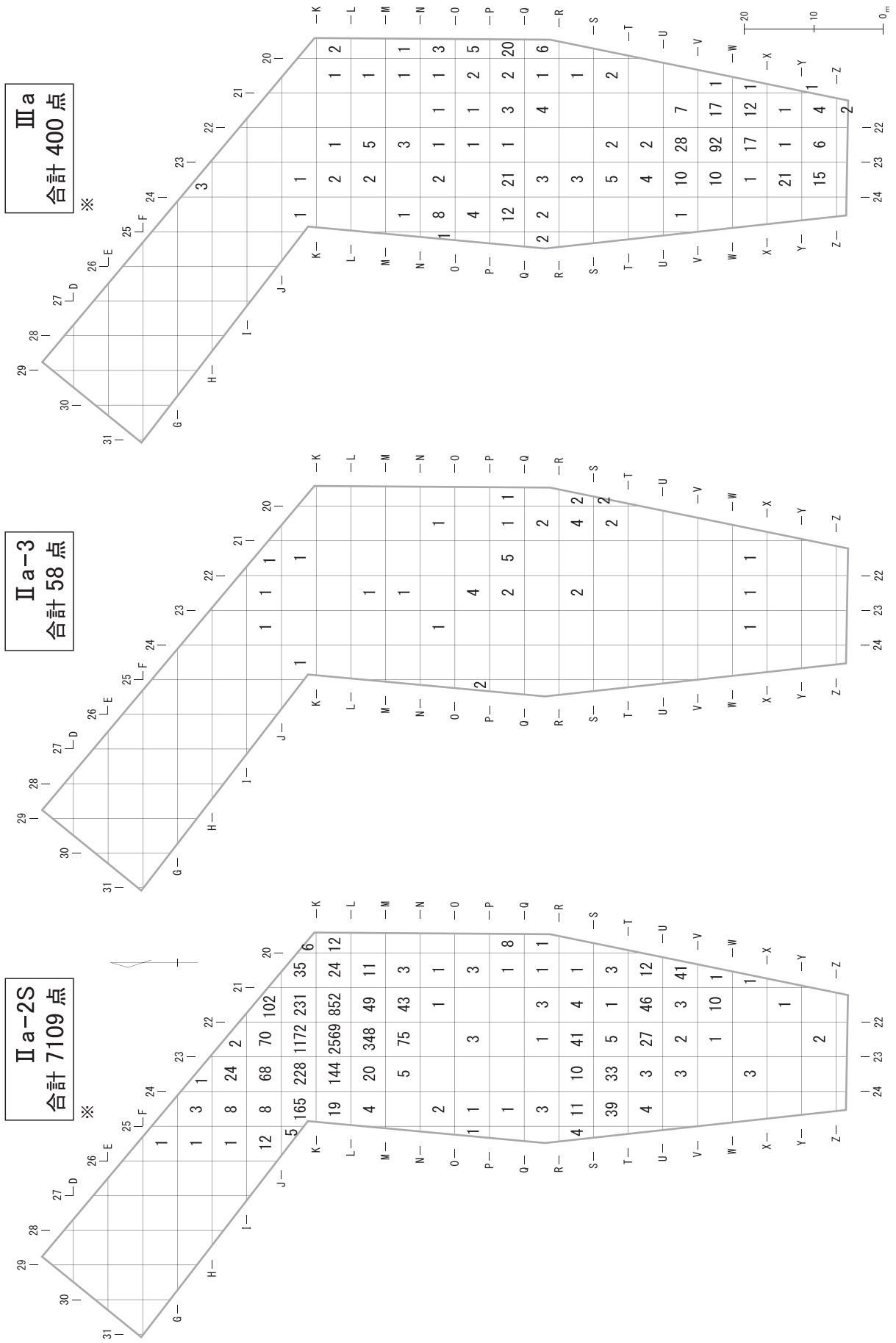
礫・礫片は全ての遺構出土分を合わせ 248,323 点（約 21t）出土している。うち 176,210 点が被熱し赤変するものである。これらはほぼ全てが遺跡の周囲に分布する板状の砂岩である。遺跡の位置する段丘頂部は厚く樽前ｄテフラに関する堆積に覆われており、礫は存在しない。このため縄文時代に持ち込まれた礫がほとんどと推察される。

遺構出土遺物を除いた点数と分布状況を図Ⅴ－149 に示した。南北盛土の中心部に集中することがわかる。被熱と判断したものは明らかな赤変が認められるものとしたが、小破片や変色していないものも焼成される可能性は否定できない。実際に火を受けている数はさらに多いことが予想される。調査区内には焼土が検出されないため、調査区外の別な場所で焼かれたか、もしくは焼土自体が削平されているのかもしれない。

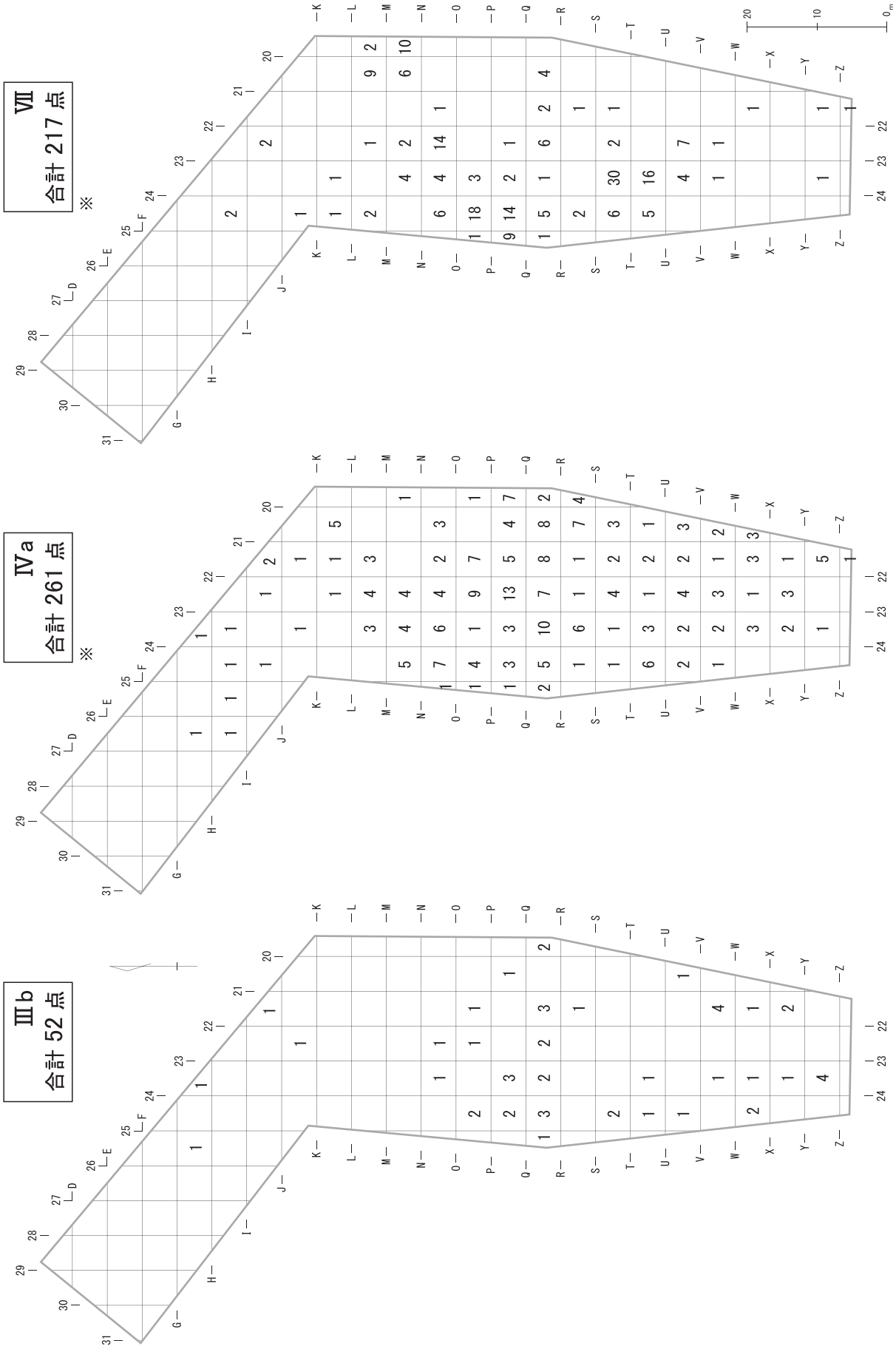
本遺跡と同様に縄文時代前期前半の遺跡で、焼成する礫片が多く出土している遺跡は、厚真町幌内５遺跡、千歳市美々貝塚北遺跡、滝川市朝日町１遺跡、新ひだか町ショップ遺跡等がある。



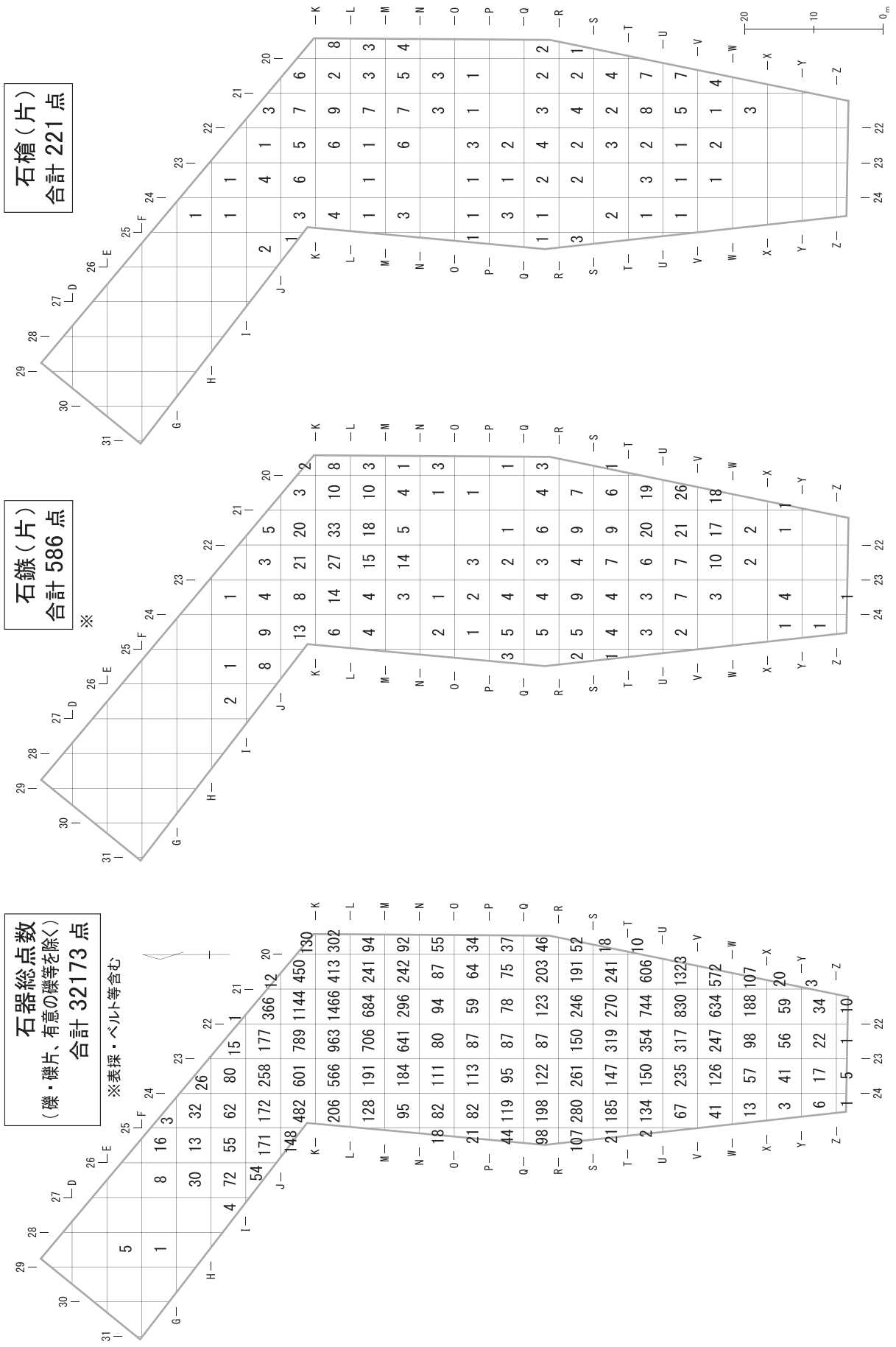
図Ⅴ−139　グリッド別遺物点数（1）



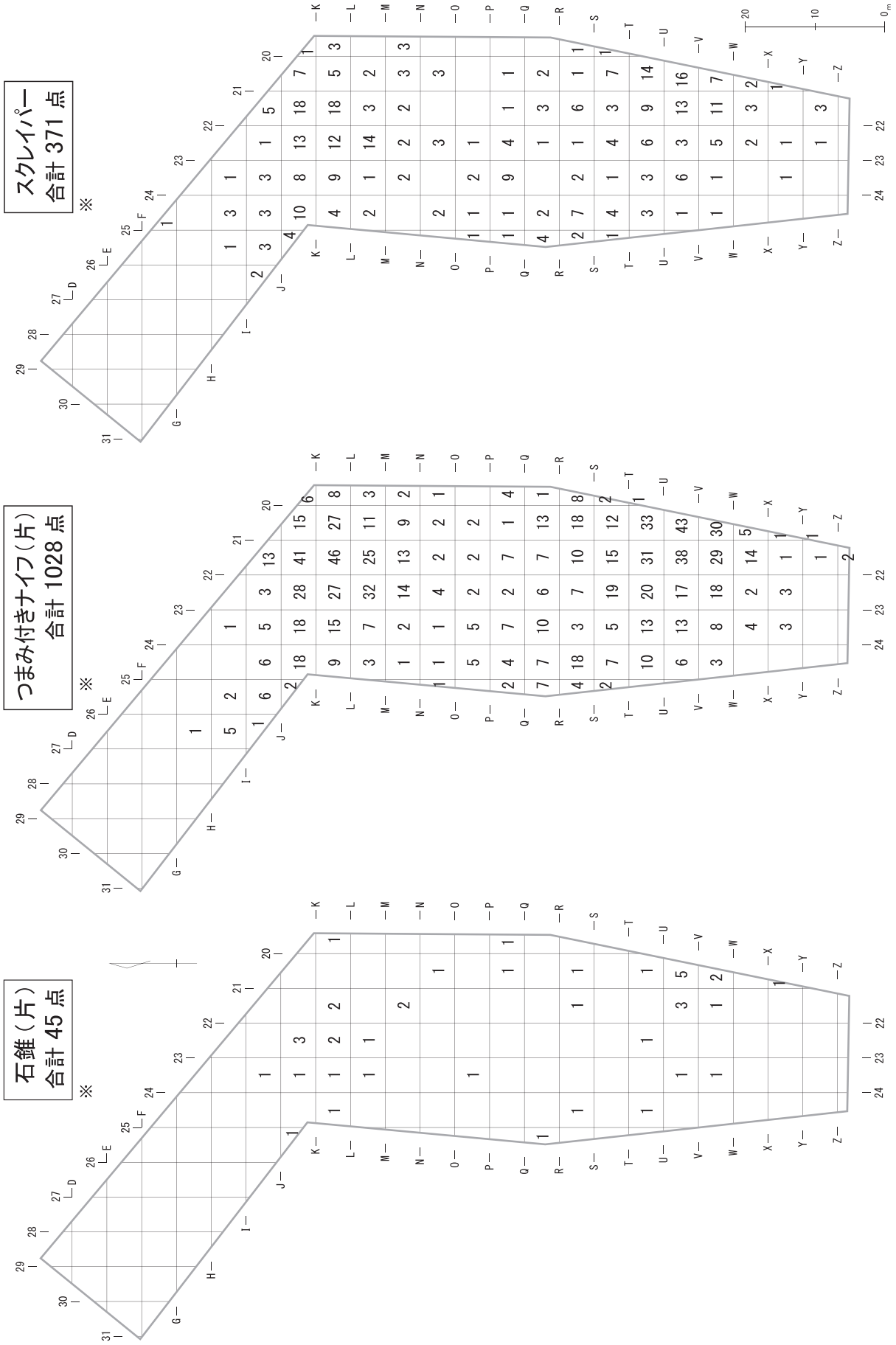
図Ⅴ−140　グリッド別遺物点数（２）



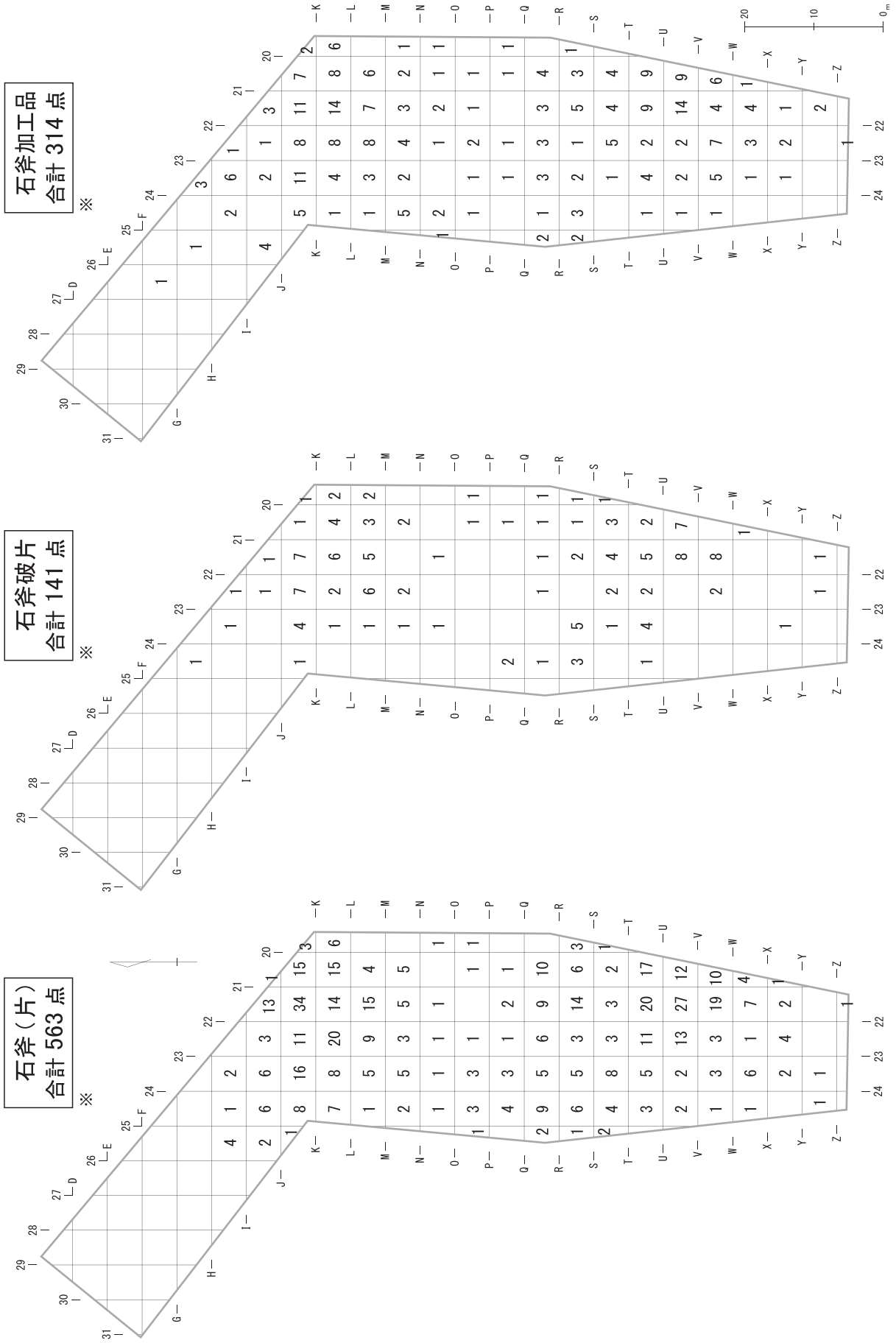
図Ⅴ−141　グリッド別遺物点数（3）



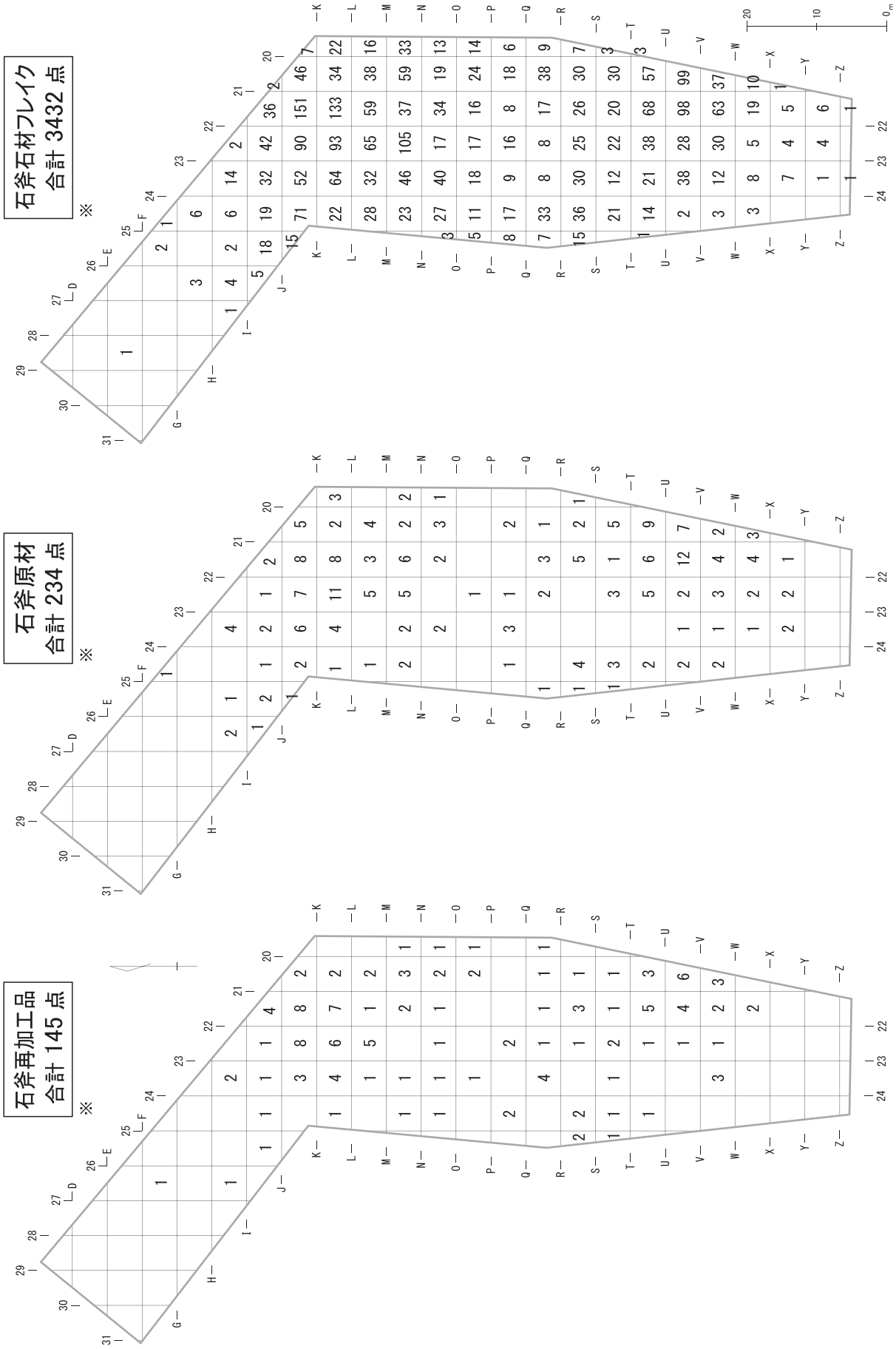
図Ⅴ－142　グリッド別遺物点数（４）



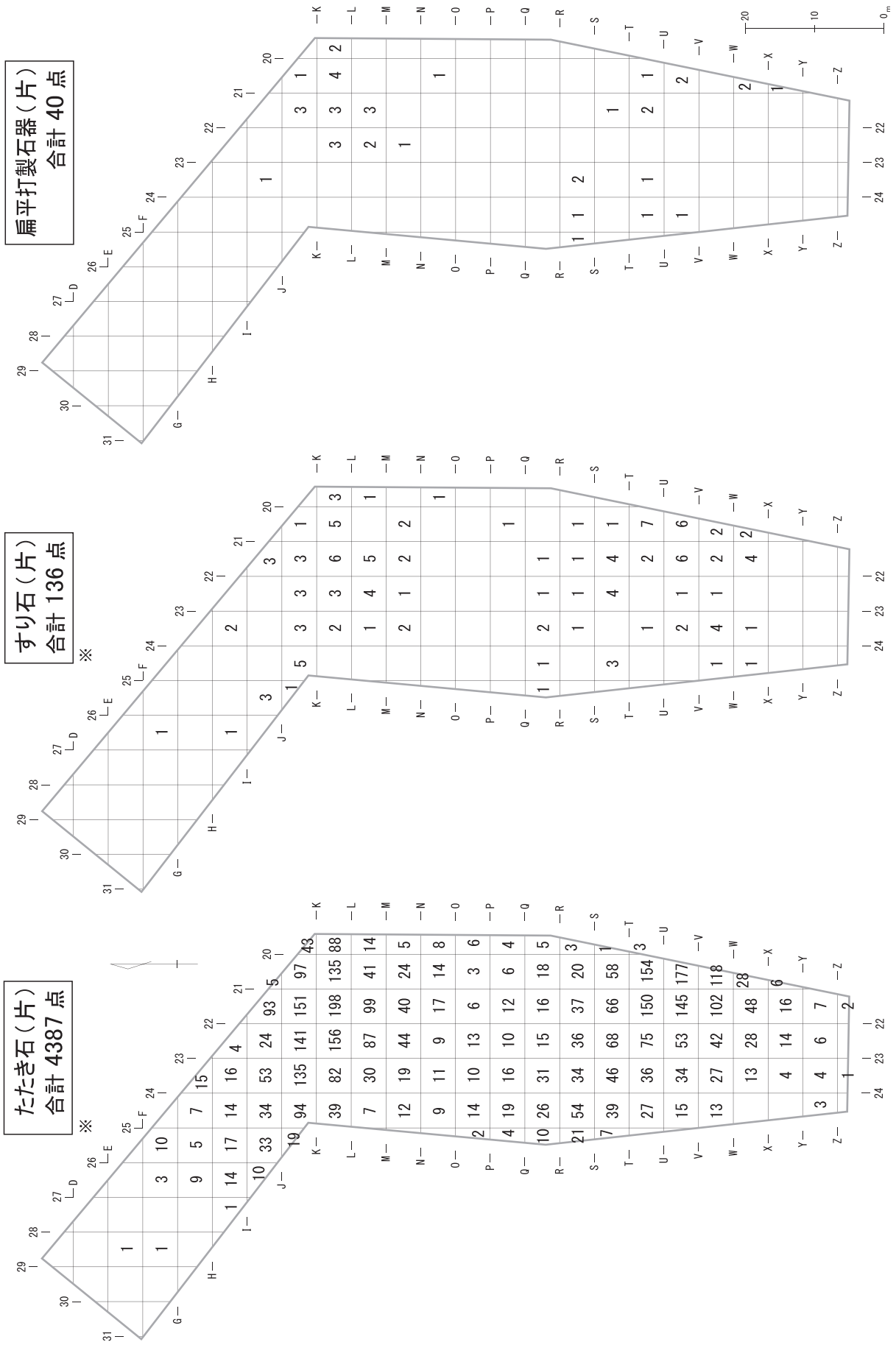
図Ⅴ−143　グリッド別遺物点数（5）



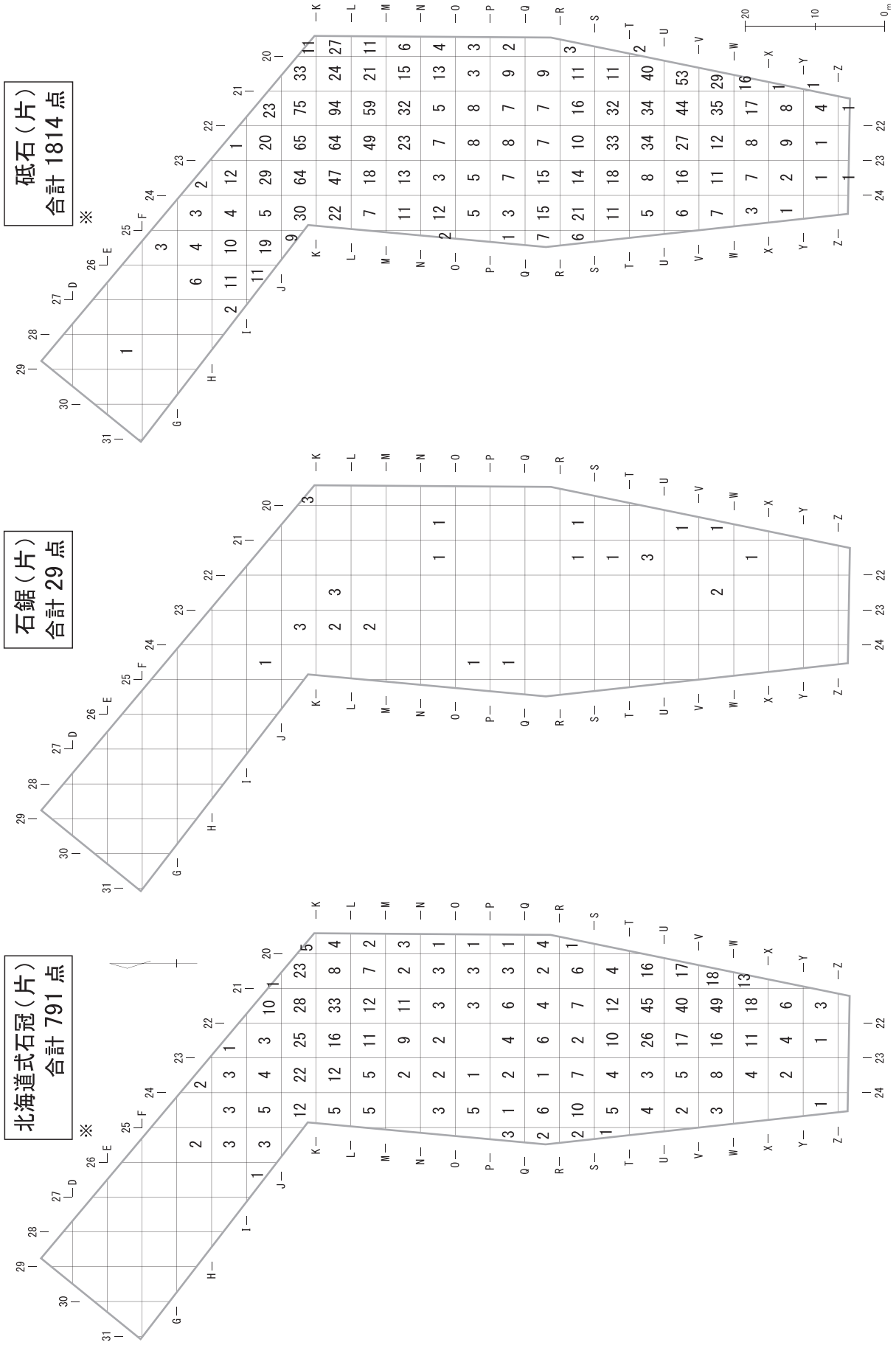
図Ⅴ－144　グリッド別遺物点数（６）



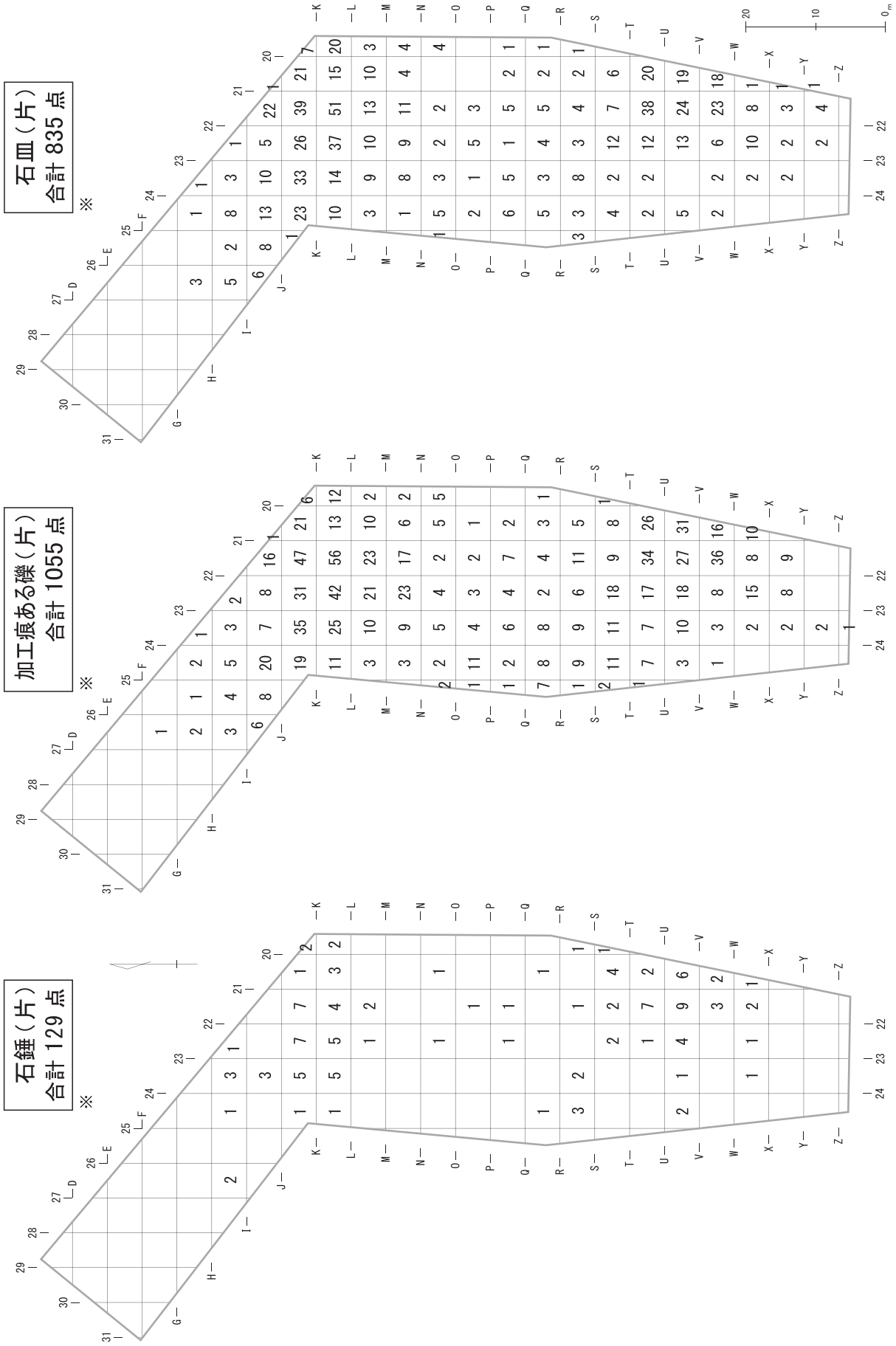
図Ⅴ−145　グリッド別遺物点数（7）



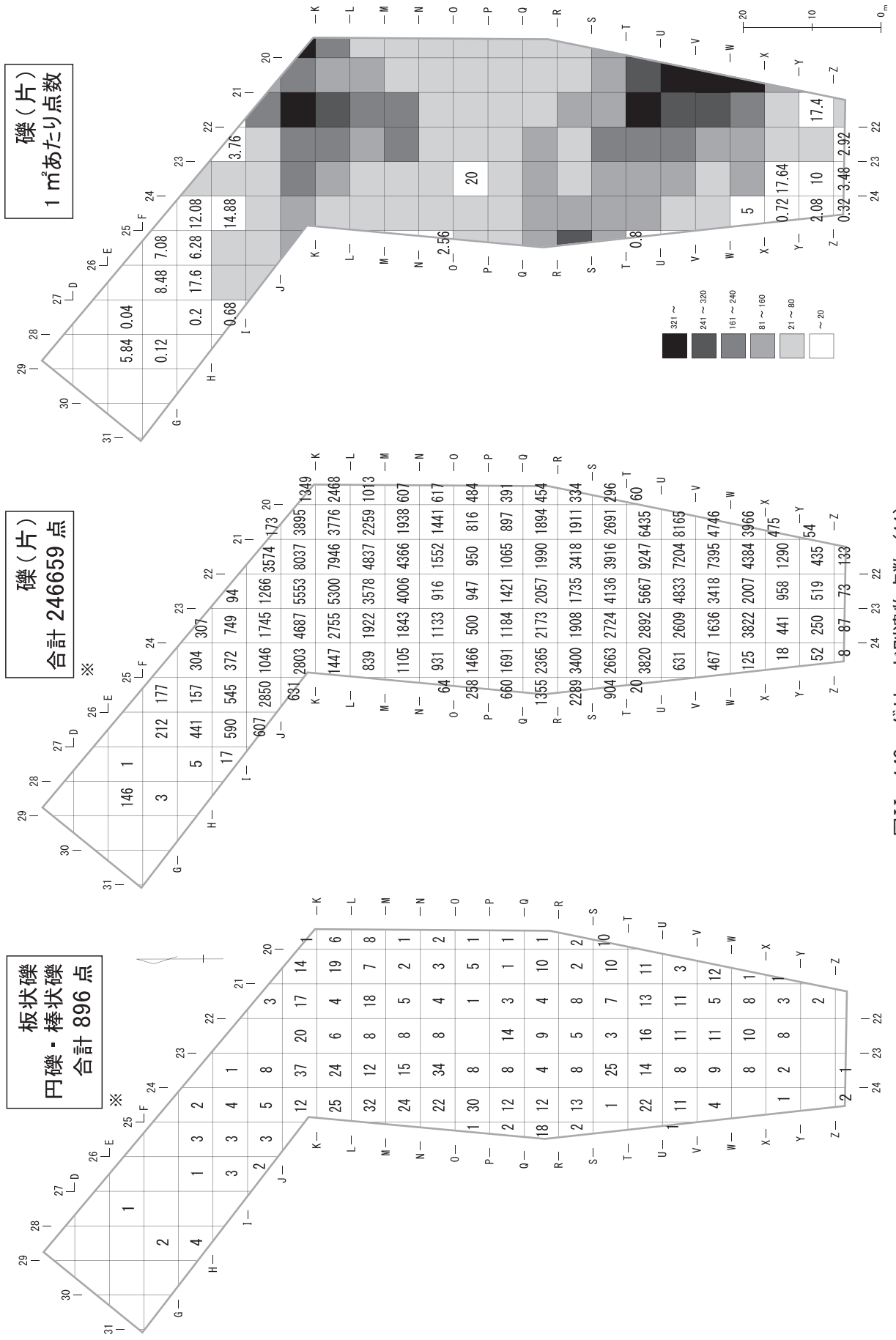
図Ⅴ－146　グリッド別遺物点数（８）



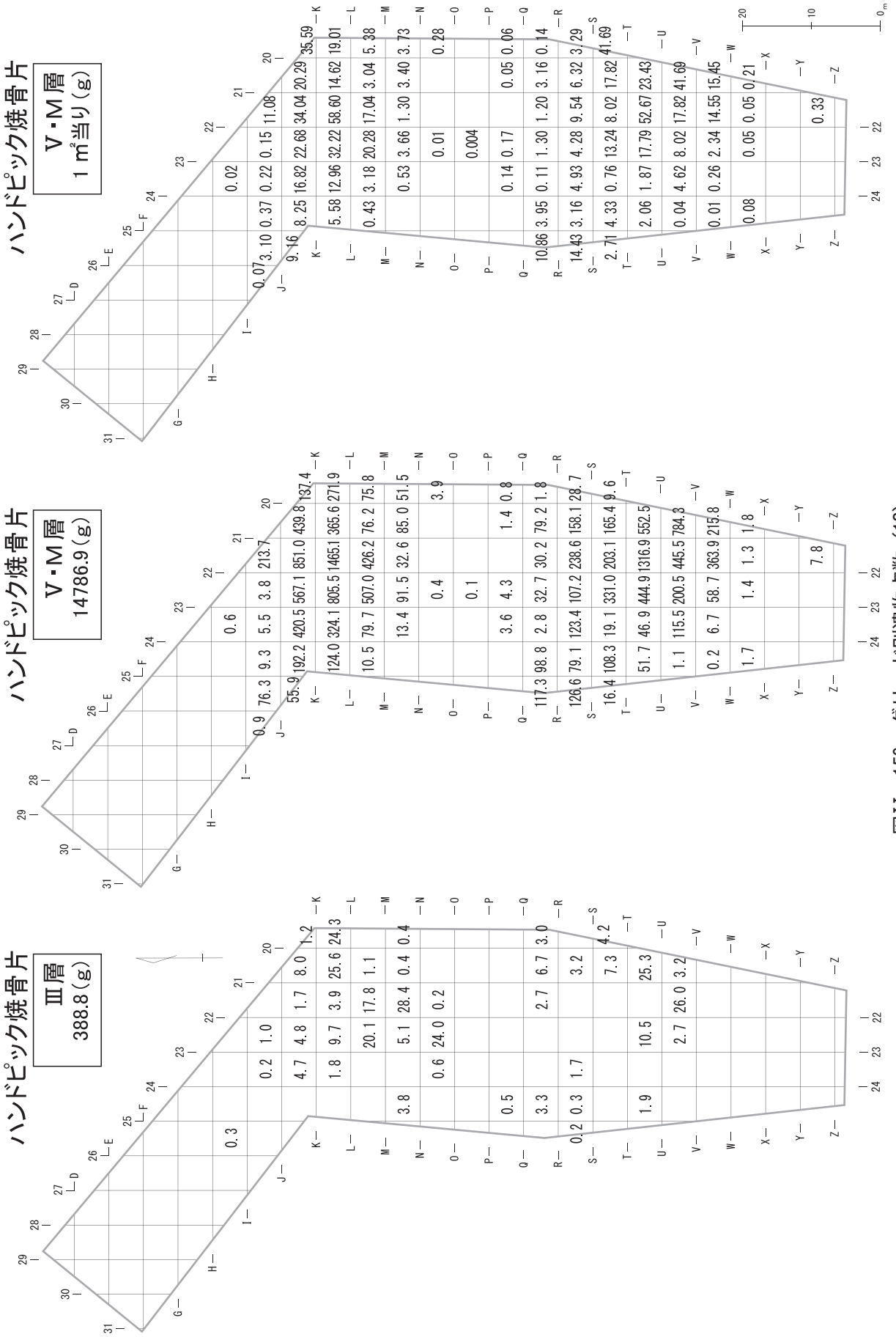
図Ⅴ－147　グリッド別遺物点数（9）



図Ⅴ－148　グリッド別遺物点数（10）



図Ⅴ－149　グリッド別遺物点数（11）



図Ⅴ－150　グリッド別遺物点数（12）

表Ⅴ－２　Ⅴ層遺構一覧

遺構名	調査区	規模(m)		深さ	確認面	時期	削平・盛土との関係	備考
		確認面の長径×短径	床・底面の長径×短径					
H－5	I25・26	4.40×—	3.98×(2.25)	0.54	Ⅶ上	縄文時代前期前半	MⅡ層で埋まる	南西側は調査区外 北盛土MⅡ層で埋まる
H－6	J23・24 K23・24	3.32×2.57	2.69×1.83	0.55	MⅡ	縄文時代前期前半	MⅡ層で埋まる	北盛土MⅡ層で埋まる
H－7	M22・23	2.40×2.00	2.16×1.68	0.50	Ⅶ上	縄文時代前期前半か?	削平期と同じか	削平部分で検出
H－8	P19・20	(5.28)×(4.12)	(4.00)×(3.78)	0.32	Ⅶ上	縄文時代中期・後期か?	削平以降	削平部分で検出
H－9	K・L21	2.68×1.82	2.29×1.67	0.20	Ⅵ	縄文時代前期前半	MⅡ層以前か	北盛土より古い可能性あり
H－10	N20	2.09×2.03	1.76×1.75	0.12	Ⅶ上	縄文時代前期前半か?	削平期と同じか	削平部分で検出
P－2	U21	1.42×0.96	0.50×0.41	0.86	Ⅶ上	縄文時代前期前半	MⅡ層と同時	土坑墓・つまみ付きナイフ 人骨(横臥屈葬)
P－10	J21	1.04×0.97	0.78×0.74	0.53	Ⅶ上	縄文時代前期前半	MⅡ層と同時	土坑墓・つまみ付きナイフ 人骨(横臥屈葬)
P－3	J・K23	153×(95)	97×(82)	0.52	MⅡ下	縄文時代前期前半	MⅡ層と同時	MⅡ下層より掘り込まれる
P－4	P21	0.71×0.61	0.45×0.44	0.14	Ⅶ上	縄文時代前期前半か?	削平期と同じか	削平部分で検出
P－5	Q21	0.87×0.61	0.72×0.46	0.90	Ⅶ上	縄文時代前期前半か?	削平期と同じか	削平部分で検出
P－6	P21	0.83×0.52	0.63×0.45	0.11	Ⅶ上	縄文時代前期前半か?	削平期と同じか	削平部分で検出
P－7	Q21	0.68×0.53	0.58×0.44	0.10	Ⅶ上	縄文時代前期前半か?	削平期と同じか	削平部分で検出
P－8	P21	0.85×0.63	0.65×0.51	0.70	Ⅶ上	縄文時代前期前半か?	削平期と同じか	削平部分で検出
P－9	N21	1.48×1.42	1.03×1.12	20.00	Ⅶ上	縄文時代前期前半か?	削平期と同じか	削平部分で検出
P－11	M19	1.97×1.46	1.80×1.37	0.84	Ⅶ上	縄文時代前期前半	削平期と同じか	削平部分で検出
P－12	M21	2.12×0.97	0.70×0.63 0.83×0.67	0.29	Ⅶ上	縄文時代前期前半か?	削平期と同じか	削平部分で検出
P－13	Q20	1.15×1.02	0.90×0.76	0.80	Ⅶ上	縄文時代	不明	削平部分で検出
P－14	S23・24	1.56×(0.87)	1.22×(0.82)	0.41	Ⅶ上	縄文時代前期後半か?	削平期と同じか	調査区西側に延びる
P－15	L・M20	1.27×062	0.71×027	0.39	Ⅶ上	縄文時代後期か?	削平以降	
P－16	M20	1.44×1.04	0.70×0.57	0.27	Ⅶ上	縄文時代	削平以降	
TP－1	G・H23	1.82×1.17	1.18×0.53	1.15	Ⅶ上	縄文時代後期か?	盛土以降	北斜面・小判形・杭あり
TP－2	E・F27	2.18×1.45	1.15×0.51	1.04	Ⅶ上	縄文時代後期か?	盛土以降	北斜面・小判形・杭あり
TP－3	D・E28	1.63×1.16	0.97×0.46	0.80	Ⅶ上	縄文時代後期か?	盛土以降	北斜面・小判形・杭あり
TP－4	I21	1.68×1.13	1.07×0.48	0.99	Ⅶ上	縄文時代後期か?	盛土以降	北斜面・小判形・杭あり
S－17	K21・22	1.10×0.78	－	－	MⅡ上	縄文時代前期前半	MⅡ層中	骨片の集中
S－18	K22	1.08×0.84	－	－	MⅡ上	縄文時代前期前半	MⅡ層中	小砂利の集中

表Ⅴ－３　Ⅴ層柱穴一覧

(番号のないものは欠番)

遺構名	番号	規模(m)	深さ
		確認面の長径×短径	
H－5	HP-1	0.85×0.25	0.04
	HP-2	0.20×0.17	0.16
	HP-3	0.14×(0.08)	0.07
	HP-4	0.21×(0.08)	0.13
	HP-5	0.25×0.10	0.18
	HP-6	0.71×0.62	0.24
H－6	HP-1	0.65×0.45	0.13
	HP-2	0.70×0.60	0.13
	HP-3	0.66×0.58	0.19
H－7	HP-1	0.26×0.22	0.12
H－8	HP-1	0.17×0.18	0.07
	HP-2	0.51×0.46	0.13
	HP-3	0.30×0.26	0.09
	HP-4	0.34×0.22	0.21
	HP-5	0.54×0.46	0.24
H－9	HP-1	0.56×0.34	0.21

表Ⅴ－４　Ⅴ層小柱穴一覧

(番号のないものは欠番)

遺構名	構成遺構・重複位置	確認層位	調査区	規模(m)	深さ
				確認面の長径×短径	
SP-120		Ⅴ層	K24	0.69×0.57	0.57
SP-121	削平部分	Ⅶ上	N19	0.21×0.20	0.13
SP-122	削平部分	Ⅶ上	N20	0.22×0.18	0.06
SP-123	削平部分	Ⅶ上	N20	0.23×0.18	0.09
SP-124	削平部分	Ⅶ上	O20	0.19×0.16	0.08
SP-125	削平部分	Ⅶ上	O20	0.30×0.23	0.11
SP-126	削平部分	Ⅶ上	P20	0.29×0.28	0.12
SP-127	削平部分	Ⅶ上	P20	0.75×0.63	0.11
SP-128	削平部分	Ⅶ上	P21	0.20×0.19	0.07
SP-129	削平部分	Ⅶ上	P21	0.27×0.23	0.21
SP-130	削平部分	Ⅶ上	O20	0.50×0.35	0.10
SP-131	北盛土	Ⅶ上	J21	0.23×0.15	0.16
SP-132	北盛土	Ⅶ上	J21	0.44×0.32	0.18
SP-133	北盛土	Ⅶ上	J21	0.23×0.21	0.14
SP-134	北盛土	Ⅶ上	J21	0.16×0.15	0.13
SP-135	北盛土	Ⅶ上	J21	0.16×0.12	0.11
SP-136	北盛土	Ⅶ上	J20	0.21×0.15	0.10
SP-137	北盛土	Ⅶ上	J20	0.18×0.18	0.12
SP-140	削平部分	Ⅶ上	N21	0.23×0.18	0.11
SP-141	削平部分	Ⅶ上	N21	0.25×0.24	0.08
SP-142	削平部分	Ⅶ上	N21	0.23×0.23	0.09
SP-143	削平部分	Ⅶ上	N21	0.30×0.23	0.13
SP-145	削平部分	Ⅶ上	N21	0.35×0.32	0.06
SP-147	削平部分	Ⅶ上	N21	0.22×0.19	0.10
SP-149	削平部分	Ⅶ上	N22	0.44×0.31	0.30
SP-150	削平部分	Ⅶ上	N22	0.19×0.14	0.16
SP-151	削平部分	Ⅶ上	N22	0.34×0.25	0.13
SP-152	削平部分	Ⅶ上	N22	0.36×0.34	0.08
SP-153	削平部分	Ⅶ上	N22	0.46×0.45	(0.08)
SP-154	削平部分	Ⅶ上	N22	(0.40)×0.32	(0.04)
SP-155	削平部分	Ⅶ上	P21	0.46×0.40	0.08
SP-156	削平部分	Ⅶ上	P22	0.40×0.38	0.07
SP-157	削平部分	Ⅶ上	P22	0.46×0.34	0.04
SP-158	削平部分	Ⅶ上	P21	0.09×0.09	0.28
SP-159	削平部分	Ⅶ上	P22	0.53×0.38	0.04
SP-160	北盛土	Ⅶ上	J22	0.16×0.13	0.18
SP-161	北盛土	Ⅶ上	J22	0.33×0.29	0.13
SP-163	削平部分	Ⅶ上	P24	0.14×0.13	0.23
SP-164	削平部分	Ⅶ上	P24	0.16×0.08	0.21
SP-165	削平部分	Ⅶ上	P24	0.08×0.08	0.24
SP-166	Ⅴ中	Ⅶ上	P25	0.34×0.32	0.08
SP-167	Ⅴ中	Ⅶ上	P25	0.18×0.14	0.14
SP-168	削平部分	Ⅶ上	N24	0.15×0.12	0.11
SP-169	北盛土	Ⅶ上	F24	0.55×0.39	0.19
SP-170	削平部分	Ⅶ上	N24	0.10×0.09	0.21
SP-171	削平部分	Ⅶ上	M24	0.22×0.18	0.43
SP-172	削平部分	Ⅶ上	O20	0.49×0.42	0.10
SP-173	削平部分	Ⅶ上	O21	0.15×0.13	0.10
SP-174	削平部分	Ⅶ上	O21	0.34×0.28	0.10
SP-175	削平部分	Ⅶ上	O21	0.38×0.29	0.10
SP-176	削平部分	Ⅶ上	M23	(0.24)×0.18	(0.19)
SP-177	削平部分	Ⅶ上	M23	0.24×0.18	0.06
SP-178	削平部分	Ⅶ上	M23	0.36×0.32	0.06
SP-179	削平部分	Ⅶ上	Q21	0.42×0.28	0.08
SP-180	削平部分	Ⅶ上	Q20	0.54×0.53	0.06
SP-181	削平部分	Ⅶ上	R20	0.53×0.50	0.13
SP-182	Ⅴ中	Ⅶ上	R20	0.52×0.48	0.26
SP-183	削平部分	Ⅶ上	Q23	0.45×0.28	0.07
SP-185	削平部分	Ⅶ上	Q23	0.66×0.50	0.19
SP-186		Ⅶ上	R22	0.32×0.23	0.08
SP-187	Ⅴ中	Ⅶ上	R21	0.60×0.39	0.06
SP-188	Ⅴ中	Ⅶ上	R21	0.45×(0.41)	(0.08)
SP-189	削平部分	Ⅶ上	N23	0.57×0.51	0.10
SP-190	Ⅴ中	Ⅶ上	M22	0.38×0.28	0.08
SP-191	Ⅴ中	Ⅶ上	M22	0.36×0.35	0.08
SP-192	削平部分	Ⅶ上	M22	0.46×0.42	0.08
SP-194	北盛土	Ⅶ上	K24	0.51×0.39	－
SP-195	Ⅴ中	Ⅶ上	K24	0.40×0.32	－
SP-196	Ⅴ中	Ⅶ上	K24	0.13×0.14	－
SP-197	北盛土	Ⅶ上	K23	0.15×0.13	－
SP-198	北盛土	Ⅶ上	K23	0.15×0.14	－
SP-199	北盛土	Ⅶ上	K23	0.12×0.12	－
SP-200	北盛土	Ⅶ上	K23	0.62×0.48	－
SP-201	北盛土	Ⅶ上	K22	0.37×0.28	－
SP-202	北盛土	Ⅶ上	K21	0.16×0.14	－
SP-203	北盛土	Ⅶ上	K21	0.18×0.15	－
SP-204	北盛土	Ⅶ上	K21	0.29×0.20	－
SP-205	北盛土	Ⅶ上	K21	0.13×0.12	－
SP-206	Ⅴ中	Ⅶ上	K19	0.32×0.28	－
SP-207	Ⅴ中	Ⅶ上	L23	0.26×0.19	－
SP-208	Ⅴ中	Ⅶ上	L23	0.49×0.40	－
SP-209	Ⅴ中	Ⅶ上	L23	0.13×0.13	－
SP-210	Ⅴ中	Ⅶ上	L22	0.13×0.12	－
SP-211	Ⅴ中	Ⅶ上	L22	0.24×0.20	－
SP-212	Ⅴ中	Ⅶ上	L22	0.18×0.14	－
SP-213	Ⅴ中	Ⅶ上	L22	0.20×0.16	－
SP-214	北盛土	Ⅶ上	L22	0.17×0.15	－
SP-215	北盛土	Ⅶ上	L21	0.17×0.15	－
SP-216	削平部分	Ⅶ上	P20	0.17×0.13	0.31
SP-217	削平部分	Ⅶ上	P20	0.45×0.39	0.11
SP-218	Ⅴ中	Ⅶ上	S22	0.12×0.12	－
SP-219	Ⅴ中	Ⅶ上	S22	0.16×0.16	－
SP-220	Ⅴ中	Ⅶ上	S22	0.14×0.14	－
SP-221	南盛土	Ⅶ上	S21	0.15×0.13	-
SP-222	南盛土	Ⅶ上	S21	0.12×0.10	-
SP-223	南盛土	Ⅶ上	S21	0.17×0.16	-
SP-224	南盛土	Ⅶ上	S21	0.11×0.10	-
SP-225	南盛土	Ⅶ上	S20	0.17×0.16	-
SP-226	Ⅴ中	Ⅶ上	S20	0.16×0.15	-
SP-227	Ⅴ中	Ⅶ上	S20	0.15×0.15	-
SP-228	Ⅴ中	Ⅶ上	S20	0.11×0.09	-
SP-229	Ⅴ中	Ⅶ上	S19	0.09×0.08	-
SP-230	Ⅴ中	Ⅶ上	S19	0.09×0.09	-
SP-231	Ⅴ中	Ⅶ上	S19	0.11×0.11	-
SP-232	Ⅴ中	Ⅶ上	S19	0.09×0.09	-
SP-233	Ⅴ中	Ⅶ上	S19	0.12×0.10	-
SP-234	Ⅴ中	Ⅶ上	T23	0.22×0.18	-
SP-235	Ⅴ中	Ⅶ上	T22	0.12×0.11	-
SP-236	Ⅴ中	Ⅶ上	T22	0.17×0.16	-
SP-237	Ⅴ中	Ⅶ上	T22	0.20×0.17	-
SP-238	Ⅴ中	Ⅶ上	T22	0.24×0.19	-
SP-239	Ⅴ中	Ⅶ上	T22	0.18×0.12	-
SP-240	南盛土	Ⅶ上	T21	0.14×0.12	-
SP-241	南盛土	Ⅶ上	T21	0.10×0.08	-
SP-242	南盛土	Ⅶ上	T21	0.11×0.10	-
SP-243	南盛土	Ⅶ上	T21	0.11×0.11	-
SP-244	南盛土	Ⅶ上	T21	0.11×0.10	-
SP-245	南盛土	Ⅶ上	T21	0.13×0.10	-
SP-246	南盛土	Ⅶ上	T21	0.12×0.10	-
SP-247	南盛土	Ⅶ上	T21	0.18×0.13	-
SP-248	南盛土	Ⅶ上	T21	0.14×0.11	-
SP-249	南盛土	Ⅶ上	T21	0.14×0.11	-
SP-250	南盛土	Ⅶ上	T21	0.16×0.10	-
SP-251	南盛土	Ⅶ上	T20	0.22×0.17	-
SP-252	南盛土	Ⅶ上	T20	0.16×0.13	-
SP-253	南盛土	Ⅶ上	T20	0.22×0.20	-
SP-254	南盛土	Ⅶ上	T20	0.17×0.12	-
SP-255	南盛土	Ⅶ上	T20	0.25×0.23	-
SP-256	南盛土	Ⅶ上	T20	0.22×0.13	-
SP-257	南盛土	Ⅶ上	T20	0.18×0.12	-
SP-258	Ⅴ中	Ⅶ上	U22	0.18×0.17	-
SP-259	Ⅴ中	Ⅶ上	U22	0.22×0.18	-
SP-260	Ⅴ中	Ⅶ上	U22	0.22×0.20	-
SP-261	南盛土	Ⅶ上	U22	0.28×0.27	-
SP-262	南盛土	Ⅶ上	U21	0.14×0.14	-
SP-263	南盛土	Ⅶ上	U21	0.18×0.17	-
SP-264	南盛土	Ⅶ上	U21	0.13×0.13	-
SP-265	南盛土	Ⅶ上	U21	0.12×0.12	-
SP-266	南盛土	Ⅶ上	U20	0.22×0.17	-
SP-267	南盛土	Ⅶ上	U20	0.12×0.11	-
SP-268	南盛土	Ⅶ上	U20	0.12×0.11	-
SP-269	南盛土	Ⅶ上	U20	0.14×0.14	-
SP-270	南盛土	Ⅶ上	U20	0.10×0.10	-
SP-271	南盛土	Ⅶ上	U20	0.12×0.11	-
SP-272	Ⅴ中	Ⅶ上	V23	0.11×0.10	-
SP-273	Ⅴ中	Ⅶ上	V23	0.13×0.12	-
SP-274	Ⅴ中	Ⅶ上	V22	0.28×0.18	-
SP-275	Ⅴ中	Ⅶ上	V22	0.32×0.19	-

表Ｖ－５　Ｖ層遺構別出土遺物一覧

	Ⅱa-1	Ⅱa-2S	Ⅱb	Ⅵ	Ⅶ	不明土器	石鏃	石鏃片	スクレイパー	つまみ付きナイフ	Rフレイク	石核	フレイク	石斧片	石斧破片	石斧加工品	石斧再加工品	石斧原材	たたき石	北海道式石冠	北海道式石冠片	砥石	砥石片	加工痕ある礫	石皿	石皿片	石錘片	原石	鉄製品	骨角器	板状礫	円礫・棒状礫	円礫・棒状礫片	有意の礫	礫	礫片	総計
H-5							1				3		8						5	1	1		1			1								4	14	208	247
H-6		9								1			54		1				6				1	1	1	1	1								27	112	215
H-7													24					1	2																4	46	77
H-8													1																							4	5
H-9																			1			1			1											2	5
H-10																																				2	2
P-2		5								1			4		1						1		2			2								2	6	164	188
P-3	2	3						1		1			90						1	1				2						1				1	15	49	167
P-5																																				1	1
P-6																																				8	8
P-7															1				1																	4	6
P-8													2																								2
P-9																																				4	4
P-10										1																										2	3
P-11													3										1	1		2								1	3	73	84
P-12																																				2	2
P-15																1	1		1																	4	7
SP-127																																				9	9
SP-141																																				1	1
SP-149																																				2	2
SP-151																																				1	1
SP-152																																				1	1
SP-170																																				1	1
SP-172																																				1	1
SP-175																																				2	2
SP-182																																				2	2
SP-184																																				1	1
TP-1																																			1	21	22
TP-2																																			2	6	8
TP-3																																				1	1
TP-4													1		1								1											1	3	41	48
S-17		3											61																								64
S-18		3											21																								24
総計	2	23	0	0	0	0	1	1	0	4	3	0	269	0	4	1	1	1	17	2	2	1	6	4	2	6	1	0	0	1	0	0	0	9	75	775	1211

表Ｖ－６　盛土遺構出土遺物一覧

盛土遺構	層位	Ⅰb-4	Ⅱa-1	Ⅱa-2	Ⅱa-2S	Ⅱa-3	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳa	Ⅳb	Ⅳc	Ⅴb	Ⅶ	焼成粘土塊	不明	総計
南盛土	MⅠ	1	8	1	115	4	6	112	2	20	0	8	3	1	1	0	282
	MⅡ	1	3	1	101	0	2	2	0	6	0	4	2	0	1	0	123
	合計	2	11	2	216	4	8	114	2	26	0	12	5	1	2	0	405
北盛土	MⅠ	0	1	2	487	6	4	2	2	3	5	2	0	0	0	1	515
	MⅡ	0	5	2	5572	3	5	0	0	5	1	0	0	0	1	15	5609
	合計	0	6	4	6059	9	9	2	2	8	6	2	0	0	1	16	6124

盛土遺構	石鏃	石鏃片	石槍	石槍片	石錐	石錐片	スクレイパー	つまみ付きナイフ	つまみ付きナイフ片	両面調整石器	楔形石器	Rフレイク	Uフレイク	フレイク	石核	石斧	石斧片	石斧破片	石斧加工品	石斧再加工品	石斧原材	擦切残片
南盛土	104	13	16	21	14	0	72	213	30	1	2	62	0	3646	0	77	42	33	64	24	46	5
北盛土	142	19	23	29	12	1	115	208	22	0	0	87	2	7171	5	100	56	34	85	47	53	12
盛土層	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	13	0	0	0	1	0	2	0	0
盛土合計	246	32	40	50	26	1	187	423	52	1	2	149	2	10830	5	177	98	68	149	73	99	17

たたき石	すり石	すり石片	石鋸	石鋸片	北海道式石冠	北海道式石冠片	扁平打製石器	扁平打製石器片	砥石	砥石片	加工痕ある礫	石皿	石皿片	石錘	石錘片	原石	円礫・棒状礫	板状礫	有意の礫	高師小僧	有孔自然石	石製品	骨角器	礫	礫片	（石器等計（礫を除く）
944	14	18	7	2	79	139	2	2	24	303	192	35	125	43	8	3	4	0	452	1	20	4	1	1342	49183	6907
1351	16	15	8	1	62	123	7	3	62	487	321	80	233	43	7	2	11	15	441	0	20	14	1	2674	46552	11546
3	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3	1	5	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	5	121	39
2298	30	33	15	3	142	263	9	5	86	790	516	116	363	86	15	5	15	15	899	1	40	18	2	4021	95856	18492

表Ⅴ－７　Ⅴ章掲載土器一覧（法量は、口径×器高×底径（cm））

掲載図番号		接合・未接合	遺構・発掘区	層位	分類	遺物番号	点数	特徴・焼成・色調	胎土混入物
図Ⅴ-47	1	接合	K22D	MⅡ中	Ⅱa-2s	689	35	押引文、撚糸文 春日町式？ 手こね整形	蛇紋石多量
		同一個体未接合	K22D	MⅡ中		689	101		
		未注記					58		
						法量:		(23.0)　(12.8)　－ cm	
	2	接合	L22D	MⅡ中～下	Ⅱa-2s	458	46	Rと上を向く撚った合撚 手こね整形	蛇紋石多量
		接合	L22	MⅡ上L			3		
		同一個体未接合		MⅡ中～下		458	61		
						法量:		25.0　(15.5)　－ cm	
	3	接合	J22C	MⅡ下	Ⅱa-2s	685	10	粗いLR縄文 施文後ナデ 手こね整形	繊維+蛇紋石
		接合	J22C	MⅡ下		685	12		
		接合	J22C	MⅡ下		685	5		
		同一個体未接合	J22C	MⅡ下		685	37		
						法量:		24.5　(12.3)　－ cm	
	4	接合	J22B	MⅡ下	Ⅱa-2s	692	37	粗いLR縄文 施文後ナデ 手こね整形	蛇紋石多量
		同一個体未接合	J23B	MⅡ下		692	151		
						法量:		27.0　(16.7)　－ cm	
	5	接合	K21A	MⅡ中～下	Ⅱa-2s	688	69	粗いLR縄文内面にも一部施文、 表面施文後ナデ 手こね整形	蛇紋石多量
		同一個体未接合	K21A	MⅡ中～下		688	277		
						法量:		39.0　(22.2)　－ cm	
図Ⅴ-48	6	接合	K22C	MⅡ中	Ⅱa-2s	571	49	LR縄文施文後ナデ 内外面やや平滑	蛇紋石多量
		同一個体未接合	K23C	MⅡ中		571	61		
						法量:		－　(19.8)　－ cm	
	7	接合	J24C	MⅡb下	Ⅱa-2s	277	38	LR縄文	蛇紋石多量
		接合	J24	M			2		
		接合	J24	MⅡ中			1		
		同一個体未接合	J24C			277	5		
		未注記					17		
						法量:		－　(20.5)　－ cm	
	8	接合	J22C	MⅡ中～下	Ⅱa-2s	667	32	直前段反撚LLR縄文 内面比較的平滑	蛇紋石多量
		接合	J22B	MⅡ中			3		
		接合	J22C	MⅡ中			4		
		同一個体未接合	J22C	MⅡ中～下		667	28		
		未注記					13		
						法量:		－　(19.5)　－ cm	
	9	接合	K22C	MⅡ中～下	Ⅱa-2s	701	55	整形不良 土器の形状をなさない 内面はなぜか平滑	蛇紋石入るがやや少ない
		同一個体未接合	K22C	MⅡ中～下		701	348		
	AB					9A	法量:	－　(17.8)　－ cm	
						9B	法量:	－　(9.9)　－ cm	
図Ⅴ-49	10	接合	S20C	MⅡ上	Ⅰb		1	撚糸文による羽状縄文 +短縄文	細粒砂微量混じる（石英等）
	11	接合	U22	MⅠ	Ⅰb		1	撚糸文による羽状縄文	砂粒多い（石英、自形輝石、白色岩片）
	12	接合	T22	MⅠ	Ⅱa-1		1	太いRL	繊維多量 わずかに砂粒(Cha)
	13	接合	P-3	覆土	Ⅱa-1		2	太いRL	繊維多量 わずかに砂粒
	14	接合	L23	MⅡ中	Ⅱa-1		1	太いRL	繊維多量 細粒岩片混じる
		接合	L23A	V中	Ⅱa-1		1		
	15	接合	L21	V	Ⅱa-1		1	太いRL 施文後ナデ	繊維多量 わずかに細粒砂
		接合	S22	V中	Ⅱa-1		1		
	16	接合	K22A	MⅡ下	Ⅱa-1		1	太いRL 施文後ナデ	繊維少量 細粒岩片混じる
		接合	R23	VMⅠ	Ⅱa-1		1		
	17	接合	W20	V中	Ⅱa-1		1	組紐回転文	繊維少量 細粒岩片多い
	18	接合	K21	V	Ⅱa-2s		6	条の幅広なLR斜行縄文	蛇紋石
	19	接合	Q23	V上	Ⅱa-2		1	粗いLR斜行縄文	白形含む石英多量
	20	接合	J24	MⅡ中	Ⅱa-2s		2	粗いLR斜行縄文	蛇紋石多量
	21	接合	K22D	MⅡ下	Ⅱa-2s	691	2	粗いLR斜行縄文	蛇紋石多量
	22	接合	K22D	MⅡ下	Ⅱa-2s	691	4	粗いLR斜行縄文	蛇紋石多量
		同一個体未接合	K22D	MⅡ下		691	153		
		未注記	K22D	MⅡ下		691	42		
	23	接合	I21B	MⅡ上	Ⅱa-2s	285	13	粗いLR斜行縄文	蛇紋石多量
		同一個体未接合	I21B	MⅡ上		285	5		
		未注記	I21B	MⅡ上		285	4		
	24	接合	J23A	MⅡ中	Ⅱa-2s	656	3	粗いLR斜行縄文+ナデ	蛇紋石多量
		同一個体未接合	J23A	MⅡ中		656	10		
	25	接合	J21B	MⅡ上	Ⅱa-2s	303	3	粗いLR斜行縄文 内面炭化物付着	蛇紋石多量
	26	接合	J22	MⅠ	Ⅱa-2s		3	直前段反撚LLR縄文	蛇紋石多量
		接合	J22C	MⅡ上			1		
	27	接合	K21B	MⅡ上	Ⅱa-2s	687	21	LR斜行縄文 LLRかも？ 施文後ナデ	蛇紋石多量
		同一個体未接合	K21B	MⅡ上		687	9		
		未注記	K21B	MⅡ上		687	22		
	28	接合	K22D	MⅡ中	Ⅱa-2s	572	5	粗いLR斜行縄文 施文後ナデ	蛇紋石多量
		同一個体未接合	K22D	MⅡ中		572	101		
		未注記	K22D	MⅡ中		572	16		
	29	接合	K22D	MⅡ上	Ⅱa-2s		2	LR斜行縄文 LLRかも？	蛇紋石多量
		同一個体未接合					53		
		未注記					21		
		同一個体未接合	K22D	MⅡ上			3		
	30	接合	J23C・D	MⅡ中	Ⅱa-2s	638	13	粗いLR斜行縄文 LLRかも？ 施文後ナデ	蛇紋石多量
		同一個体未接合	J23C・D	MⅡ中		638	11		
		同一個体未接合					69		
		未注記					73		
		同一個体未接合		MⅡ中		638	11		
図Ⅴ-50	31	接合	M22	Ⅶ直上	Ⅱa-2s	724	25	LR斜行縄文 施文後ナデ	蛇紋石多量
		同一個体未接合	M22	Ⅶ直上		724	10		
	32	接合	J21B	MⅡ中	Ⅱa-2s		1	表裏面粗いLR斜行縄文 施文後ナデ	蛇紋石
	33	接合	K21	V	Ⅱa-2s		4	粗いLR斜行縄文	蛇紋石多量
	34	接合	T22	MⅠ	Ⅱa-2s		3	粗いLR斜行縄文 施文後ナデ	蛇紋石多量
	35	接合	K22C	MⅡ	Ⅱa-2s		1	粗いLR斜行縄文 施文後ナデ	蛇紋石多量
	36	接合	K22D	MⅡ下	Ⅱa-2s	690	1	LR斜行縄文 施文後ナデ	蛇紋石多量
	37	接合	R23	Ⅶ直上	Ⅱa-2s		4	RL？斜行縄文 施文後スリナデ無文化	蛇紋石多量
	38A	接合	J20B	MⅡ中～下	Ⅱa-2s	665	3	LR斜行縄文 施文後スリナデ無文化	蛇紋石多量
	38B	接合	J20B	MⅡ中～下		665	4		
		同一個体未接合	J20B	MⅡ中～下		665	7		
		未注記	J20B	MⅡ中～下		665	1		
	39	接合	K21B	MⅡ中～上	Ⅱa-2s	686	7	LR斜行縄文 施文後スリナデ無文化	蛇紋石多量
		同一個体未接合	K21B	MⅡ中～上		686	25		
		未注記	K21B	MⅡ中～上		686	23		
	40	接合	U20D	MⅡ中	Ⅱa-2s		1	LR斜行縄文 施文後スリナデ無文化	蛇紋石多量
	41	接合	K22D	MⅡ中	Ⅱa-2s		2	粗いLR斜行縄文 施文後スリナデ無文化 +内面ナデ	蛇紋石多量
	42	接合	K21B	MⅡ上	Ⅱa-2s	332	1	粗いLR斜行縄文 施文後ナデ	蛇紋石多量
	43	接合	K22D	MⅡ中	Ⅱa-2s	573	18	LR斜行縄文 施文後スリナデ無文化	蛇紋石多量
		同一個体未接合	K22D	MⅡ中		573	119		
	44	接合	K22D	MⅡ上	Ⅱa-2s	356	1	粗いLR斜行縄文 施文後スリナデ無文化 +内面ナデ	蛇紋石多量
	45	接合	M23D	V下	Ⅱa-2s		1	撚糸文施文後ナデ	「センイ」+蛇紋石多量
	46	接合	L22	V中	Ⅱa-2s		1	撚糸文施文後ナデ 45と同一個体か	「センイ」+蛇紋石多量
		接合	M22	V上			1		
	47	接合	K22D	MⅡ中	Ⅱa-2s		7	無節撚糸文か 施文後ナデ	蛇紋石多量
		同一個体未接合	K22D	MⅡ中			4		
	48	接合	S22	MⅠ	Ⅱa-2s		1	撚糸文？ 施文後スリナデ無文化	蛇紋石多量
	49	接合	J24	MⅡ上	Ⅱa-2s		2	無節撚糸文？ 施文後スリナデ無文化	蛇紋石多量 アクチノ閃石？あり
	50	接合	J22D	MⅡ上	Ⅱa-2s		2	無節撚糸文？ 施文後ナデ	蛇紋石多量

掲載図番号		接合・未接合	遺構・発掘区	層位	分類	遺物番号	点数	特徴・焼成・色調	胎土混入物
図Ⅴ-50	51	接合	J23D	MⅡ中	Ⅱa-2s		1	撚糸文？	蛇紋石多量
	52	接合	K21B	MⅡ上	Ⅱa-2s	332	1	撚糸文？	「センイ」+蛇紋石多量
	53	接合	I22B	MⅡ上	Ⅱa-2s	291	1	撚糸文？ 施文後スリナデ無文化 内面にも撚糸文か？	蛇紋石多量
	54	接合	K22D	MⅡ中	Ⅱa-2s		1	撚糸文？	蛇紋石多量
		同一個体未接合		MⅡ中			22		
		未注記		MⅡ中			23		
	55	接合	VH-6	覆土	Ⅱa-2s		1	無節撚糸文？ 施文後ナデ	蛇紋石多量
		接合	H23	V上			1		
	56	接合	K19	V上	Ⅱa-2s		2	撚糸文？	蛇紋石多量
図Ⅴ-51	57	接合	K22D	MⅡ下	Ⅱa-2s	690	3	撚糸文？ 施文後ナデ	蛇紋石多量
		同一個体未接合	K22D	MⅡ下		690	70		
		未注記	K22D	MⅡ下		690	117		
	58	接合	K22D	MⅡ下	Ⅱa-2s	690	4	撚糸文？不明 施文後ナデ 57と同一個体か	蛇紋石多量
	59	接合	L21B	MⅡ下	Ⅱa-2s		1	不明原体 施文後ナデ	蛇紋石多量
	60	接合	K22D	MⅡ中	Ⅱa-2s		1	不明原体 施文後ナデ	蛇紋石多量
	61	接合	U20	MⅡ	Ⅱa-2s		1	不明原体	蛇紋石多量
	62	接合	J21B	MⅡ上	Ⅱa-2s		1	無文	蛇紋石多量
	63	接合	L22	V中	Ⅱa-2s		1	無文	蛇紋石多量
	64	接合	T22	MⅠ	Ⅱa-2s		3	無文	蛇紋石多量
	65	接合	L21A	MⅡ上	Ⅱa-2s	329	4	無文	蛇紋石多量
		同一個体未接合	L21A	MⅡ上		329	3		
		未注記	L21A	MⅡ上		329	2		
	66	接合	K21C	MⅡb上	Ⅱa-2s	278	11	無文	蛇紋石多量
		同一個体未接合	K21C	MⅡb上		278	4		
		未注記	K21C	MⅡb上		278	1		
	67	接合	J21C	MⅡ中	Ⅱa-2s		3	無文？	蛇紋石多量
	68	接合	I21B	MⅡ上	Ⅱa-3	286	1	条の間隔が広いLR 施文後ナデ 内面炭化物付着	極細粒砂
		接合	I22D	MⅡ上			1		
		接合	J21	MⅠ			1		
	69	接合	R19	V	Ⅱa-3		1	撚糸文口頸部文様帯	「センイ」+微細岩片
		接合	R20	V中			1		
	70	接合	O22	V	Ⅱa-3		1	撚糸文口頸部文様帯 施文後ナデ	「センイ」+砂粒(MS)
		接合	P22	Ⅶ直上			1		
	71	接合	R20A	MⅠ	Ⅱa-3	464	1	撚糸文胴部片 赤褐色焼成良好	「センイ」
		同一個体接合	S20	MⅠ			2		
	72	接合	W22	V中	Ⅱa-3		1	撚糸文か条の間隔の開くLR 斜行縄文 施文後ナデ 内面条痕	「センイ」
		接合	W23	V中			1		
	73	接合	P19	V中	Ⅱb		1	黄褐色・無文	センイ多量
	74	接合	K19	V上	Ⅱb		1	LR斜行縄文 内面条痕	「センイ」
		同一個体接合	K19	Ⅲ			1		
	75	接合	M20	V中	Ⅱb		1	口縁縄線文 LR斜行縄文 施文後ナデ	「センイ」
		接合	M20	Ⅶ直上			1		
		同一個体未接合	L20	V上			4		
		同一個体未接合	M20	V上			1		
		同一個体未接合	M20	V中			1		
	76	接合	Q22	V中	Ⅱb		1	無文小型鉢	細粒砂(石英、自形輝石)
		同一個体未接合	Q22	V中			1		
	77	接合	K19	V上	Ⅱb		3	LR斜行縄文 内面条痕	「センイ」
		同一個体未接合	K19	V上			1		
	78	接合	K19	V上	Ⅱb		1	LR斜行縄文 内面条痕	「センイ」
	79	接合	P21	V上	Ⅱb		1	LR斜行縄文 内面条痕 補修孔あり	砂粒(石英・白色岩片)
		接合	P21	V中			1		
	80	接合	O22	V中	Ⅱb		1	RL斜行縄文 内面条痕	「センイ」 砂粒(石英・白色岩片)
		接合	N22	V中			1		
		同一個体未接合	L20	根跡			1		
		同一個体未接合	P23	V中			1		
	81	接合	P20	V上	Ⅱb		1	LR斜行縄文口唇、内外面施文	「センイ」 砂粒(自形石英多、白色岩片)
	82	接合	M22	V上	Ⅱb		1	LR斜行縄文内外面施文・口縁部施文後ナデ	「センイ」 砂粒(自形石英多、白色岩片)
	83	接合	M21	V中	Ⅱb		1	LR斜行縄文内外面施文、表面施文後ナデ	砂粒(石英・白色岩片)
		接合	M22	V中			1		
	84	接合	L22	MⅡ上	Ⅱa-2		1	LR斜行縄文 施文後ナデ	L単節撚糸 多量混入 石英
		接合	K22	MⅠ			1		
図Ⅴ-52	85	接合	M21	V上	Ⅱb		3	LR表裏面に施文	「センイ」 砂粒(石英・白色岩片)
		接合	M21	V中			2		
		接合	H-4/L21D	Ⅲ			1		
	86	接合	L22	V上	Ⅱb		1	口縁部陸帯 複胎LRL斜行縄文	細粒砂(自形輝石)
	87	接合	Q21	V上	Ⅱb		1	複節RLR 内面平滑	砂粒(泥岩・自形輝石)
		同一個体未接合	Q21	Ⅶ直上			2		
	88	接合	V22	V	Ⅱb		1	複節RLR	砂粒(泥岩・自形輝石)
		同一個体未接合	V22	MⅠ			1		
	89	接合	X22	V中	Ⅱb		1	格子目状撚糸文	砂粒(石英多量・雲母) ＝富良野盆地柔軟土
	90	接合	L24	V	Ⅱb		1	結束第二種 斜行縄文	細粒砂(石英・白色岩片)
	91	接合	U23	MⅠ	Ⅲa		1	突起部分 刻み・刺突文	細粒砂(石英・自形輝石)
		接合	V23	MⅠ			1		
	92A	接合	P19	V中	Ⅲa		1	口唇に縄線刻み 山形突起 体部は結束第1種羽状縄文	細粒砂(自形輝石・石英・Cha)
		同一個体未接合	P19	V中			2		
	92B	接合	P19	V上			1		
	93	接合	U22	MⅠ	Ⅲa		3	平縁、口唇に縄線による刻みのついた鋸歯状の貼付文	砂粒(Cha、石英、角閃石)
		接合	V22	Ⅲ			2		
		接合	V22	MⅠ			5		
		接合	V22	V上			1		
		接合	V22	V中			2		
		接合	W22	V上			1		
		接合	W22	V中			2		
		接合	Y21	V			1		
		同一個体未接合	V21	MⅠ			2		
		同一個体未接合	V22	MⅠ			1		
		同一個体未接合	V22	V中			1		
	94	接合	U22	MⅠ	Ⅲa		1	口縁部文様帯 「U」字状貼付 内面研磨	細粒砂(石英・白色岩片・自形輝石)
	95	接合	W21	V	Ⅲa		1	口縁部、細いRL貼付帯による文様	砂粒(白色岩片・泥岩)
		接合	V21	MⅡ中			1		
	96	接合	V22	V中	Ⅲa		1	口縁部 結束第1種羽状縄文 内面平滑	細粒砂(長石・輝石・石英)
		接合	V22	MⅠ			1		
		同一個体未接合	U22	MⅠ			5		
		同一個体未接合	V22	MⅠ			2		
	97	接合	Y22	V下	Ⅲa		1	二種原体による羽状縄文・ Ⅲb～Ⅳaかも	砂粒多い(An・Tu・Ms)
		接合	Y23	V			1		
	98	接合	V22	MⅠ	Ⅲa		1	結束第1種羽状縄文 内面平滑	砂粒(白色岩片・石英・自形輝石)
		接合	W22	V上			1		
		接合	U22	MⅠ			1		
		同一個体未接合	W22	V中			1		
	99	接合	V22	Ⅲ	Ⅲa		1	結束第1種羽状縄文 内面平滑	砂粒(石英・自形輝石・Ms)
		接合	V22	MⅠ			1		
	100	接合	G25	V	Ⅲa		1	LR縄文　底部	砂粒多い(Ms・Cha・自形輝石)
	101	接合	U22	MⅠ	Ⅲa		1	山形突起 内面RL縄文	砂粒(石英・長石・自形輝石)
	102	接合	G23	V中～下	Ⅲa		1	複節LRL	砂粒(白色岩片・石英・自形輝石)
	103	接合	K23	V上	Ⅲa		1	RL縄文 内面板ナデ調整痕あり	細粒砂(石英・自形輝石・長石)
	104	接合	Y23	V上	Ⅲb		1	口縁部・押引文・刺突文・結束第1種羽状縄文	細粒砂(石英・長石・自形輝石)
	105	接合	O21	V上	Ⅲb		1	口縁部・押引文・円形刺突文	砂粒多い(石英・自形輝石・火山ガラス
		同一個体未接合	Q22	V中			1		
	106	接合	W24	V	Ⅲb		2	口縁部・刺突文・押引文・	砂粒(自形輝石・軽石・石英)
	107	接合	O24	V上	Ⅲb		1	円形刺突文 複節RLR	砂粒(自形輝石・軽石)
		接合	P23	V上			1		
		接合	P24	V上			1		
	108	接合	Y23	V	Ⅲb		1	RL縄文	火山ガラス・自形輝石

掲載図番号		接合・未接合	遺構・発掘区	層位	分類	遺物番号	点数	特徴・焼成・色調	胎土混入物
図Ⅴ-52	109	接合	Y23	Ⅴ上	Ⅳa		1	口縁部・円形刺突文 RL斜行縄文・縄線	砂粒多い（石英多い・黒母）＝富良野盆地系
	110	接合	T22A	MⅡ上	Ⅳa		1	口縁部・縄線1条 地文LR縄文	砂粒（白色岩片・角閃石・石英・海綿骨針）
図Ⅴ-53	111	接合	K20	Ⅴ	Ⅳa		1	口縁部・複節LRL 口唇パンド状	細粒砂（自形輝石・白色岩片）
		接合	H23	Ⅴ上			1		
	112	接合	P22	Ⅴ中	Ⅳa		1	折り返し口縁 結束第1種羽状縄文	砂粒多い（Ms・自形輝石・白色岩片）
		同一個体未接合	R23	MⅠ			1		
	113	接合	P22	Ⅴ上	Ⅳa		1	口縁部・垂下短刻線文・内外面LR縄文	細粒砂（白色岩片・長石・自形輝石）
		同一個体未接合	P22	Ⅴ上			1		
		同一個体未接合	Q23	Ⅴ中			2		
	114	接合	H25	Ⅴ	Ⅳa		1	貼付帯部分 地文LR縄文	砂粒多い（自形輝石・白色岩片）
	115	接合	Q21	Ⅶ直上	Ⅳa		1	LR+RL 貼付帯を境に施文	砂粒多い（長石・自形輝石・石英・白色岩片）
	116	接合	Y21	Ⅴ	Ⅳa		1	口縁部・円形刺突文 RL斜行縄文・縄線	砂粒多い（石英多い・黒母）＝富良野盆地系
	117A	接合	Q22	Ⅴ中	Ⅳa		1	113と同一個体？ 底部付近 地文LR縄文	細粒砂（白色岩片・長石・自形輝石）
	117B	接合	P22	Ⅴ上	Ⅳa		1	113と同一個体？ 底部	細粒砂（白色岩片・長石・自形輝石）
		接合	Q23	Ⅴ上			1		
		同一個体未接合	P22	Ⅴ中			5		
		同一個体未接合	Q22	Ⅴ中			5		
		同一個体未接合	R22	Ⅴ			1		
		同一個体未接合	U22	MⅠ			1		
	118	接合	W24	Ⅴ	Ⅳb		1	RL+LR羽状縄文 沈線文	砂粒（石英・Cha・Ms）
	119A	接合	Z23	Ⅴ	Ⅳb		1	鮭潮式 波状口縁深鉢 口唇に刻み 弧状沈線文	砂粒（自形輝石・Ms・白色岩片）
		接合	Y24	Ⅴ中			3		
		接合	Z24	Ⅴ			2		
		同一個体未接合	Y24	Ⅴ中			6		
		同一個体未接合	Y24	Ⅴ			1		
	119B	接合	W23	Ⅴ			1		
		接合	Y23	Ⅴ			2		
		接合	Y23	Ⅴ上			1		
	119C	接合	Z24	Ⅴ			1		
		接合	Z23	Ⅴ			1		
		同一個体未接合	Y24	Ⅴ中			2		
		同一個体未接合	表採				1		

掲載図番号		接合・未接合	遺構・発掘区	層位	分類	遺物番号	点数	特徴・焼成・色調	胎土混入物
図Ⅴ-53	120A	接合	W21	Ⅴ上	Ⅳb		2	底部 地文LR縄文 底部付近内外面ミガキ	砂粒（白色岩片・An）
		同一個体未接合	X21	Ⅴ			2		
		同一個体未接合	X21	Ⅴ上			1		
	120B	接合	W21	Ⅴ			1		
	121	接合	Z23	Ⅴ	Ⅳb		2	浅い沈線文 LR縄文縦施文	細粒砂（自形輝石・白色岩片）
		接合	Z24	Ⅴ			1		
		同一個体未接合	Y23	Ⅴ			2		
		同一個体未接合	Y24	Ⅴ			1		
		同一個体未接合	Y24	Ⅴ中			10		
		同一個体未接合	Z23	Ⅴ			1		
	122	接合	U20	MⅠ	Ⅳc		1	注口もしくは壺 胴部片のみ 細かいLR縄文+膨消縄文+沈線文+瘤状突起	砂粒（白色岩片）
		接合	V20C	MⅡ上			3		
		接合		MⅠ		523	1		
		同一個体未接合	U20	MⅠ			1		
		同一個体未接合	U21	Ⅲ			1		
		同一個体未接合	表採				2		
		同一個体未接合	U20	MⅠ			1		
		同一個体未接合	V20	MⅠ			1		
		同一個体未接合		MⅠ		534	1		
		同一個体未接合	V20	Ⅲ			3		
	123	接合	X23	Ⅴ	Ⅳc		1	IO突瘤文	砂粒多量（Ms・自形輝石・白色岩片）
	124	接合	W21	Ⅴ	Ⅴb		2	鉢 地文は細いLR	角閃石？
	125	接合	W21	Ⅴ上	Ⅴb		1	胴部片地文LR 124と同一個体の可能性あり	角閃石？
		接合	W22	Ⅴ中	Ⅴb		2		

表Ⅴ－８　掲載剥片石器一覧

掲載図番号		遺構	発掘区		小グリッド	層位	遺物番号	取り上げ日	遺物名	細分記号	石材	長さ	厚さ	幅	重さ	備考	実測番号
図Ⅴ-54	1		R	21		Ⅴ下		2015/9/25	石鏃	Ⅰ	Obs	1.40	0.20	0.90	0.20	3点中1点	178
	2		K	22		Ⅴ上	d	2015/8/4	石鏃	Ⅱ1a	Obs	2.40	0.50	1.80	1.40		9-d
	3		K	22		Ⅴ上	c	2015/8/4	石鏃	Ⅱ1a	Obs	(2.60)	0.30	(1.60)	(0.90)		9-c
	4	北盛土	K	21	B	MⅡ中		2015/9/24	石鏃	Ⅱ1a	Ag	2.60	0.40	1.30	0.80		171
	5	南盛土	R	20	B	MⅡ	467	2015/9/18	石鏃	Ⅱ1a	Obs	3.40	0.40	1.60	1.50		96
	6	北盛土	K	20	D	MⅡ中		2015/9/29	石鏃	Ⅱ1a	Obs	3.30	0.40	1.90	1.80		19
	7		K	22		Ⅴ上	b	2015/8/4	石鏃	Ⅱ1a	Obs	3.20	0.40	1.70	1.60		9-b
	8		N	19		Ⅴ中		2015/9/30	石鏃	Ⅱ1a	Obs	(3.70)	0.40	1.80	(1.90)		172
	9	南盛土	T	21		MⅠ		2015/8/19	石鏃	Ⅱ1a	Obs	(3.90)	0.40	1.90	(1.90)		177
	10	北盛土	L	20		MⅡb層上面	a	2015/8/7	石鏃	Ⅱ1a	Obs	3.30	0.40	1.50	1.80		23-a
	11	北盛土	J	23	D	MⅡ中		2015/9/10	石鏃	Ⅱ1a	Obs	3.50	0.60	1.90	2.80		20
	12	北盛土	J	22	D	MⅡ中		2015/9/14	石鏃	Ⅱ1a	Obs	4.00	0.50	1.80	(2.60)		169
	13		T	22		Ⅲ		2015/5/26	石鏃	Ⅱ1a	Sh	3.80	0.40	1.50	1.80		30
	14	北盛土	J	22	C	MⅡ上		2015/9/15	石鏃	Ⅱ1a	Si	4.30	0.40	2.10	2.60		2
	15		Q	22		Ⅴ上		2015/8/3	石鏃	Ⅱ1a	Ag	3.80	0.50	1.90	2.90		32
	16		L	21		Ⅴ		2015/7/18	石鏃	Ⅱ1a	Sh	(4.70)	0.40	(2.10)	(3.20)	トレンチ	11
	17		P	25		Ⅴ中		2015/9/15	石鏃	Ⅱ1a	Sh	4.30	0.40	2.10	3.10		175
	18	削平部分	P	23		Ⅶ直上		2015/10/20	石鏃	Ⅱ1a	Sh	3.50	0.40	1.90	1.70		174
	19	H-5				覆土		2015/9/15	石鏃	Ⅱ1a	Sh	3.80	0.30	1.90	1.80		180
	20	北盛土	J	22	B	MⅡ下		2015/9/17	石鏃	Ⅱ1a	Sh	(4.60)	0.50	1.80	(3.50)		170
	21	削平部分	L	20	C	Ⅶ直上		2015/10/5	石鏃	Ⅱ1a	Sh	(4.60)	0.40	(2.40)	(2.50)		21
	22		U	20		MⅠ		2015/8/7	石鏃	Ⅱ1a	Obs	5.40	0.60	2.70	5.80		14
	23	北盛土	K	21	B	MⅡ中		2015/9/25	石鏃	Ⅱ2a	Obs	3.00	0.40	1.70	1.60		22
	24	北盛土	L	20		MⅡb層上面	d	2015/8/7	石鏃	Ⅱ2a	Obs	(2.70)	0.40	(1.50)	(1.60)		23-d
	25	北盛土	L	20		MⅡb層上面	b	2015/8/7	石鏃	Ⅱ2a	Obs	2.80	0.40	1.70	1.50		23-b
	26	北盛土	L	20		MⅡb層上面	e	2015/8/7	石鏃	Ⅱ2a	Obs	(2.40)	0.30	(1.60)	(1.10)		23-e
	27	北盛土	L	20		MⅡb層上面	c	2015/8/7	石鏃	Ⅱ2b	Obs	2.80	0.40	1.40	1.40		23-c
	28	北盛土	I	23	D	MⅡ上	292	2015/8/21	石鏃	Ⅱ2a	Sh	4.40	0.40	2.10	3.10		95
	29	北盛土	K	23	C	MⅡ中		2015/9/11	石鏃	Ⅱ2a	Sh	4.10	0.50	1.70	2.70		18
	30		N	19		Ⅴ上		2015/7/30	石鏃	Ⅱ2a	Obs	4.10	0.50	1.50	(2.60)		12
	31		V	20		Ⅴ中		2015/8/26	石鏃	Ⅱ2a	Obs	(3.60)	0.40	(1.30)	(1.80)		26
	32		K	22	C	Ⅲ		2015/6/12	石鏃	Ⅱ2a	Obs	4.20	0.50	1.40	2.30	ⅢH-4床	216
	33	北盛土	K	22	A	MⅡ上		2015/9/10	石鏃	Ⅱ2b	Obs	3.70	0.50	1.80	2.70		10
	34		P	23		Ⅴ中		2015/8/17	石鏃	Ⅱ2b	Obs	4.40	0.60	1.90	4.10		17
	35		K	22		Ⅴ上	a	2015/8/4	石鏃	Ⅱ2b	Obs	4.10	0.50	1.70	(2.70)		9-a
	36		S	20		Ⅴ上		2015/7/21	石鏃	Ⅱ2a	Obs	(4.30)	0.40	1.60	(2.70)		31
	37	南盛土	R	21		MⅠ		2015/9/3	石鏃	Ⅱ2a	Sh	4.20	0.40	1.50	2.70		27
	38		V	20		Ⅴ中		2015/8/26	石鏃	Ⅱ2a	Sh	4.60	0.50	1.40	2.90		16
	39	北盛土	K	22		MⅡ上		2015/9/1	石鏃	Ⅱ2a	Sh	5.50	0.60	1.70	4.70		173
	40	北盛土	J	21		MⅡ上		2015/9/7	石鏃	Ⅱ2a	Sh	5.60	0.60	1.50	3.60		1
	41		X	24		Ⅴ		2015/8/26	石鏃	Ⅱ3a	Sh	6.30	0.60	(3.30)	(9.70)		28
	42	北盛土	J	21		MⅠ		2015/7/29	石鏃	Ⅱ3c	Sh	3.50	0.80	2.40	4.50		8
	43	北盛土	J	21	B	MⅡ中		2015/9/8	石鏃	Ⅱ3a	Sh	3.90	0.50	2.50	4.10		7
	44		R	23		Ⅴ上		2015/7/28	石鏃	Ⅱ3a	Sh	(4.50)	0.60	3.00	(5.30)		13
図Ⅴ-55	45		R	21		Ⅲ		2015/6/5	石鏃	Ⅱ1b	Sl	(2.00)	0.20	(1.60)	(0.60)		25
	46	北盛土	I	24		MⅠ		2015/9/8	石鏃	Ⅲ	Obs	2.30	0.50	1.70	1.00		5
	47	南盛土	V	21		MⅠ		2015/8/6	石鏃	Ⅲ	Obs	(3.40)	0.60	2.00	(2.90)		33
	48		O	22		Ⅴ中		2015/7/31	石鏃	Ⅲ	Obs	(4.80)	0.70	(2.50)	(6.00)		15
	49		X	23		Ⅴ中		2015/7/28	石鏃	Ⅳ	Obs	(3.80)	0.40	1.80	(2.00)		24
	50		I	25		Ⅴ上		2015/9/7	石鏃	Ⅵ	Sh	4.60	0.40	1.80	2.20		6
	51	南盛土	S	21	D	MⅡ	494	2015/9/8	石鏃	Ⅵ	Sh	4.40	0.50	1.90	3.10		98
	52	削平部分	Q	20		Ⅶ直上		2015/10/16	石鏃	Ⅳ	Sh	4.50	0.90	1.90	6.10		176
	53		K	22		Ⅴ上	e	2015/8/4	石鏃	Ⅴ	Obs	(2.90)	(0.40)	(2.10)	(1.90)		9-e
	54		T	24		Ⅴ上		2015/9/8	石鏃	Ⅱ1a	Obs	2.60	0.80	1.80	2.70		179
	55	南盛土	R	20	C	MⅠ	473	2015/9/8	石鏃	Ⅱ2a	Obs	3.70	0.50	1.90	3.30		97
	56	南盛土	T	20		MⅠ		2015/8/19	石鏃	Ⅴ	Obs	(3.20)	0.40	(1.90)	(1.60)		29
	57		M	21		Ⅴ中		2015/8/4	石槍	Ⅰa	Sh	(8.20)	0.90	3.20	(17.80)		37
	58	北盛土	J	20		MⅠ		2015/7/30	石槍	Ⅰa	Sh	6.10	0.90	2.90	14.20		47
	59	削平部分	R	19		Ⅶ直上		2015/10/1	石槍	Ⅰa	Sh	6.00	0.90	2.80	12.90		181
	60	北盛土	J	25	D	MⅡ下		2015/9/17	石槍	Ⅰa	Obs	6.60	1.10	2.80	17.00		186
	61		K	21		Ⅴ上ベルト		2015/10/2	石槍	Ⅰa	Sh	7.50	1.00	2.60	15.00		185
	62		H	23		Ⅴ上		2015/8/4	石槍	Ⅰa	Obs	(8.30)	1.20	2.70	(19.00)		35
	63	南盛土	T	20		MⅠ		2015/8/19	石槍	Ⅰa	Sh	8.10	0.90	2.60	13.60		49
	64	南盛土	S	20	C	MⅠ	488	2015/9/8	石槍	Ⅰa	Sh	5.40	0.80	2.10	9.20		100
	65	南盛土	R	22		MⅠ		2015/8/28	石槍	Ⅰa	Sh	6.80	0.90	2.40	10.60		50
	66		R	25		Ⅴ上		2015/9/16	石槍	Ⅰa	Sh	7.50	1.00	3.20	20.00		183
	67		K	19		Ⅴ上		2015/8/27	石槍	Ⅰa	Sh	6.70	1.10	3.10	21.00		53
	68	北盛土	J	21	C	MⅡ中		2015/9/9	石槍	Ⅰa	Sh	5.20	0.70	2.50	8.20		3
	69		G	24		Ⅴ中～下		2015/8/31	石槍	Ⅰa	Rh	5.00	0.90	3.70	14.30		45

掲載図番号		遺構	発掘区		小グリッド	層位	遺物番号	取り上げ日	遺物名	細分記号	石材	長さ	厚さ	幅	重さ	備考	実測番号
図Ⅴ-55	70	北盛土	K	21	A	MⅡ上	354	2015/8/21	石槍	Ⅰb	Sh	5.80	0.70	2.20	7.80		102
	71	南盛土	T	21	C	MⅡ上		2015/9/18	石槍	Ⅰb	Obs	8.00	1.10	2.90	21.30		184
	72		M	22		Ⅴ		2015/7/6	石槍	Ⅰb	Sh	7.80	0.90	3.10	18.90	ﾄﾚﾝﾁ	51
図Ⅴ-56	73	北盛土	J	23	D	MⅡ中		2015/9/10	石槍	Ⅰb	Sh	8.00	0.80	3.10	15.10		187
	74	南盛土	S	22		MⅠ		2015/8/7	石槍	Ⅰb	Obs	8.30	1.30	3.30	28.30		52
	75	南盛土	R	22		MⅠ		2015/8/28	石槍	Ⅰb	Sh	6.30	1.00	3.20	17.30		48
	76		M	21		Ⅴ上		2015/8/4	石槍	Ⅰb	Sh	8.40	1.00	2.80	19.50		4
	77		S	22				2015/8/17	石槍	Ⅰb	Sh	(10.60)	0.80	3.80	(31.20)		34
	78		T	20		Ⅴ		2015/7/8	石槍	Ⅰa	Sh	6.70	1.00	2.70	17.90		46
	79		O	22		Ⅴ中		2015/10/1	石槍	Ⅰb	Obs	5.40	0.70	2.50	7.00		182
	80		N	21		Ⅴ中		2015/8/3	石槍	Ⅱa	Obs	4.20	0.60	2.00	4.60		42-b
	81		N	21		Ⅴ中		2015/8/3	石槍	Ⅱa	Obs	5.20	0.60	(2.30)	(5.10)		42-a
	82		L	19		Ⅴ上		2015/8/24	石槍	Ⅱa	Obs	6.00	1.10	(2.30)	(11.40)		43
	83		P	22		Ⅴ上		2015/7/28	石槍	Ⅱa	Sh	8.20	0.90	2.20	12.80		40
	84	南盛土	U	20	B	MⅡ	531	2015/9/8	石槍	Ⅱb	Sh	9.90	1.30	2.70	28.00		99
	85	北盛土	J	21	C	MⅡ中		2015/9/9	石槍	Ⅱa	Sh	8.40	1.20	2.70	17.70		41
	86		K	19		Ⅲ		2015/6/24	石槍	Ⅱb	Sh	10.60	1.40	3.10	40.80		38
	87	北盛土	K	21	A	MⅡ中		2015/9/16	石槍	Ⅱb	Sh	(7.70)	1.00	4.10	(32.00)		39
	88		K K	19 19		Ⅲ Ⅴ上		2015/6/24 2015/8/20	石槍	Ⅱa	Obs	(15.70)	0.90	(4.60)	(49.30)		188
	89	南盛土	U	21	B	MⅡ	554	2015/9/8	石槍	Ⅰa	Obs	12.90	1.10	4.10	48.70		101
図Ⅴ-57	90	北盛土	J	22	B	MⅡ下		2015/9/17	石錐	Ⅰa	Sh	(3.60)	0.70	0.90	(2.50)		4
	91	北盛土	J	22	B	MⅡ下		2015/9/17	石錐	Ⅰa	Sh	(4.10)	0.70	1.10	(3.00)		3
	92	南盛土	U	21	C	MⅡ上		2015/9/14	石錐	Ⅰa	Sh	(5.00)	0.50	0.80	(2.50)		6
	93	北盛土	K	22	D	MⅡ上		2015/9/24	石錐	Ⅰb	Sh	6.00	1.30	1.50	9.40		1
	94		Q	25		Ⅴ中		2015/9/14	石錐	Ⅰb	Sh	(7.10)	1.00	1.30	(8.40)		5
	95	南盛土	U	20	C	MⅠ	521	2015/9/8	石錐	Ⅰb	Sh	(6.70)	0.90	1.70	(10.60)		10
	96	南盛土	U	21	C	MⅡ上		2015/9/14	石錐	Ⅱ	Obs	3.00	0.70	2.50	4.10		2
	97		M	21		Ⅴ上		2015/8/4	石錐	Ⅲ	Sh	4.30	0.50	2.10	4.70		7
	98	北盛土	J	23	B	MⅡ上		2015/9/15	石錐	Ⅳ	Sh	5.60	0.70	1.70	4.60		9
	99	北盛土	J	21		MⅠ		2015/8/3	石錐	Ⅳ	Sh	2.40	0.30	1.60	1.60		8
	100	北盛土	J	21	B	MⅡ中		2015/9/10	スクレイパー	Ⅰ	Sh	6.00	1.10	4.20	30.10		143
	101	南盛土	V	21		MⅠ		2015/7/31	スクレイパー	Ⅰ	Sh	5.60	1.20	5.10	40.20		215
	102	北盛土	J	24		MⅡ上		2015/9/15	スクレイパー	Ⅰ	Sh	7.40	1.40	4.30	39.60		142
	103	南盛土	U	20	A	MⅡ	530	2015/9/8	スクレイパー	Ⅰ	Si	4.40	0.90	2.10	6.70		161
	104	南盛土	S	21	D	MⅡ	492	2015/9/8	スクレイパー	Ⅰ	Obs	(4.20)	1.00	(2.60)	(7.60)		159
	105		P	23		Ⅴ中		2015/8/6	スクレイパー	Ⅰ	Sh	5.70	0.90	3.00	13.40		155-b
	107	南盛土	U	21	D	MⅡ	550	2015/9/8	スクレイパー	Ⅰ	Obs	3.30	1.00	3.60	9.00		164
	106	南盛土	U	20	B	MⅡ	536	2015/9/8	スクレイパー	Ⅰ	Sh	4.80	0.90	2.50	10.70		162
	108	削平部分	N	20		Ⅶ直上		2015/9/28	スクレイパー	Ⅰ	Sh	5.60	0.80	8.80	30.20		146
	109	北盛土	J	21	C	MⅡ中		2015/9/9	スクレイパー	Ⅰ	Ag	3.50	1.20	5.40	17.90		147
	110	北盛土	J	22	C	MⅡ中		2015/9/16	スクレイパー	Ⅱ	Sh	5.00	1.00	4.00	20.70		137
	111	北盛土	K	21	B	MⅡ中		2015/9/25	スクレイパー	Ⅱ	Si	6.50	1.30	4.10	41.90		139
	112		Q	21		Ⅴ中		2015/8/3	スクレイパー	Ⅱ	Sh	5.00	1.40	3.40	20.70		214
	113	南盛土	T	21	A	MⅡ中		2015/9/24	スクレイパー	Ⅱ	Sh	6.10	1.80	4.50	50.50		140
	114		P	23		Ⅴ中		2015/8/6	スクレイパー	Ⅱ	Sh	7.00	1.90	6.20	56.60		155-a
図Ⅴ-58	115	北盛土	L	22	A	MⅡ中～下	706	2015/10/2	スクレイパー	Ⅲ	Obs	2.20	0.60	2.60	3.10		167
	116	北盛土	L	22	A	MⅡ中～下	704	2015/10/2	スクレイパー	Ⅲ	Obs	2.60	0.90	2.50	4.50		165
	117	北盛土	H	23		MⅠ		2015/7/29	スクレイパー	Ⅲ	Obs	2.80	1.30	(2.40)	(8.60)		144
	118	南盛土	S	20	C	MⅠ	486	2015/9/8	スクレイパー	Ⅲ	Obs	3.60	0.80	3.00	7.70		158
	119	北盛土	L	22	A	MⅡ中～下	705	2015/10/2	スクレイパー	Ⅲ	Obs	3.30	1.00	3.20	9.20		166
	120		Q	21		Ⅴ中		2015/8/3	スクレイパー	Ⅲ	Obs	3.90	1.10	(3.40)	(13.10)		141
	121	北盛土	K	21	A	MⅡ中		2015/9/11	スクレイパー	Ⅲ	Obs	3.70	0.90	3.60	12.70		145
	122	南盛土	U	21	D	MⅡ	547	2015/9/8	スクレイパー	Ⅲ	Obs	3.50	1.10	4.10	13.80		163
	123		P	23		Ⅴ中		2015/8/17	スクレイパー	Ⅲ	Obs	4.10	1.20	3.70	14.00		138-b
	124		P	23		Ⅴ中		2015/8/17	スクレイパー	Ⅱ	Obs	3.70	1.20	(3.80)	(15.60)		138-c
	125		P	23		Ⅴ中		2015/8/17	スクレイパー	Ⅱ	Obs	5.40	1.60	3.90	36.10		138-a
	126	削平部分	O	23		Ⅶ直上		2015/10/19	スクレイパー	Ⅳ	Obs	1.90	0.60	1.60	1.50		219
	127	北盛土	ﾍﾞﾙﾄB	⑬		MⅡ中		2015/10/19	スクレイパー	Ⅳ	Obs	3.10	0.70	2.10	4.20		220
	128	南盛土	U	20	A	MⅡ	524	2015/9/8	スクレイパー	Ⅳ	Obs	(2.00)	(0.70)	2.90	(3.60)		160
	129	北盛土	J	25	D	MⅡ下		2015/9/17	スクレイパー	Ⅳ	Obs	3.20	1.10	2.00	5.70		150
	130		R	21		Ⅴ上		2015/8/26	スクレイパー	Ⅳ	Sh	3.10	0.70	1.70	3.70		152
	131		K	20		Ⅲ風倒木		2015/6/18	スクレイパー	Ⅳ	Si	3.70	1.00	2.50	9.90		149
	132	南盛土	T	22		MⅠ		2015/8/17	スクレイパー	Ⅴ	Sh	9.00	0.90	2.60	18.80		153
	133		T	23		Ⅴ		2015/7/21	スクレイパー	Ⅴ	Sh	8.00	1.40	2.40	24.50		148
	134	北盛土	K	20	A	MⅡ上	323	2015/8/21	スクレイパー	Ⅴ	Sh	8.70	1.30	3.00	27.10		157
	135	北盛土	J	20	D	MⅡC		2015/9/14	スクレイパー	Ⅴ	Sh	4.70	0.80	2.00	6.80		154
	136		M	20		Ⅴ中		2015/7/27	スクレイパー	Ⅴ	Sh	7.30	1.50	4.00	32.50		151
	137	北盛土	I	24		MⅠ		2015/9/8	スクレイパー	Ⅴ	Sh	6.50	0.90	2.00	10.70		136
	138	北盛土	K	22	D	MⅡ中		2015/9/24	スクレイパー	Ⅵ	Obs	3.50	1.80	4.80	21.10		156
図Ⅴ-59	139	北盛土	L	21		MⅡ上		2015/9/18	つまみ付きナイフ	ⅠA1Wa	Obs	9.50	1.30	2.40	22.10		62
	140		S	24		Ⅴ上		2015/9/1	つまみ付きナイフ	ⅠA1Ma	Sh	10.40	1.00	3.20	30.20		55
	141	南盛土	T	21	D	MⅡ	501	2015/9/8	つまみ付きナイフ	-A-Ma	Sh	(10.90)	1.10	2.60	(29.10)		126
	142		K	22		Ⅴ上		2015/8/4	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Ma	Sh	11.00	1.00	2.70	25.60	7点中1点	207
	143	北盛土	K	21		MⅠ		2015/7/29	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Ma	Sh	11.00	0.90	2.40	(23.70)	5点中1点	59
	144		Q	23		Ⅴ上		2015/8/17	つまみ付きナイフ	ⅠB1Ma	Sh	6.40	0.80	2.20	10.60	3点中1点	93
	145	削平部分	M	24		Ⅶ直上		2015/10/7	つまみ付きナイフ	ⅡLA2-1Wa	Si	5.30	1.10	1.80	10.60		193
	146		M	22		Ⅴ中		2015/7/27	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Ma	Sh	7.20	1.10	3.30	24.80	3点中1点・使用痕	66
	147		K	20		Ⅲ		2015/6/11	つまみ付きナイフ	ⅠA1Wa	Sh	10.50	1.40	3.30	33.50	使用痕	57
	148	南盛土	U	21		MⅠ		2015/8/18	つまみ付きナイフ	ⅠA1Wa	Ag	4.60	0.80	1.10	3.40		91
	149		R	20		Ⅴ中		2015/7/29	つまみ付きナイフ	ⅠA2Ma	Si	5.40	1.00	3.00	14.00	使用痕	76
	150		K	24		Ⅴ上		2015/9/8	つまみ付きナイフ	ⅠA2Wb	Si	5.30	1.10	2.60	14.90		212
	151	北盛土	J	21	D	MⅡ上	304	2015/8/21	つまみ付きナイフ	ⅡLA1Wa	Si	6.80	1.50	2.70	21.50		104
	152	南盛土	U	20	A	MⅡ	525	2015/9/8	つまみ付きナイフ	ⅡLA2Tb	Sh	6.20	0.60	3.10	10.20		129
	153	北盛土	K	21	C	MⅡ上	324	2015/8/21	つまみ付きナイフ	ⅡLA1Mb	Sh	7.10	1.40	2.70	16.30		108
	154		R	20		Ⅴ中		2015/7/29	つまみ付きナイフ	ⅡLA1Mb	Si	5.70	0.80	2.50	9.30		78
	155		J	24		Ⅴ		2015/7/7	つまみ付きナイフ	ⅡLB1Ma	Sh	6.30	0.90	2.30	12.80		79
	156	南盛土	V	20		MⅠ		2015/8/19	つまみ付きナイフ	ⅡLB2Mb	Obs	4.30	0.90	2.80	9.20		200
	157		M	22		Ⅴﾄﾚﾝﾁ		2015/7/6	つまみ付きナイフ	ⅡLA1Ma	Obs	7.10	1.00	3.60	23.00	使用痕	64
	158	南盛土	S	19	A	MⅠ	481	2015/9/8	つまみ付きナイフ	ⅡLB1Mb	Si	6.80	1.10	3.10	22.10		121
	159	北盛土	J	21		MⅡ上		2015/9/3	つまみ付きナイフ	ⅡLC23Tb	Si	6.10	0.70	2.30	9.00		81
図Ⅴ-60	160		R	24		Ⅴ下		2015/7/28	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Mb	Si	4.40	0.70	2.30	5.80		204
	161	H-6				覆土		2015/10/6	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Mb	Sh	4.30	0.50	1.50	2.80		190
	162	北盛土	K	21	B	MⅡ上	327	2015/8/21	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Mb	Sh	5.10	0.60	2.00	5.50		109
	163		V	23		Ⅴ中		2015/7/24	つまみ付きナイフ	ⅡRA2Wa	Sh	5.40	1.00	2.10	10.30		197
	164	南盛土	R	21	D	M	479	2015/9/8	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Ma	Si	5.20	0.90	2.40	10.80		120
	165	北盛土	K	21	C	MⅡ中		2015/9/11	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Wa	Sh	(5.30)	1.10	2.40	(11.20)		77
	166	南盛土	R	20	C	MⅡ	470	2015/9/8	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Ma	Sh	5.30	0.60	1.70	5.30		118
	167		V	21		Ⅴ中		2015/7/16	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Wa	Si	5.60	0.90	2.00	9.70		94
	168	南盛土	R	20	C	MⅡ	468	2015/9/8	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Mb	Sh	5.40	0.60	2.00	6.70		117
	169	P-3				覆土		2015/10/1	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Mb	Sh	5.80	0.70	1.70	5.40		191
	170	北盛土	L	22	A	MⅡ中～下	708	2015/10/2	つまみ付きナイフ	ⅡRA2-1Wb	Sh	5.90	1.60	2.80	16.80		135

掲載図番号		遺構	発掘区		小グリッド	層位	遺物番号	取り上げ日	遺物名	細分記号	石材	長さ	厚さ	幅	重さ	備考	実測番号
図Ⅴ-60	171	南盛土	S	21	B	MⅠ	496	2015/9/8	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Ma	Sh	6.20	0.90	2.40	10.00		124
	172		J	22		Ⅲ		2015/6/15	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Ma	Obs	5.40	1.00	3.20	12.80		86
	173		T	22		Ⅴ上		2015/7/16	つまみ付きナイフ	ⅡRA2Mb	Sh	6.00	0.80	3.60	17.00	2点中1点	196
	174	南盛土	U	20	B	MⅡ	539	2015/9/8	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Ma	Sh	5.70	1.00	2.50	11.20		130
	175	P-10				床	1	2015/10/15	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Mb	Sh	5.90	0.90	3.00	16.20	使用痕	71
	176	北盛土	J	24		盛土		2015/8/7	つまみ付きナイフ	ⅡRA2Mb	Si	5.90	1.00	2.90	14.90	ﾄﾚﾝﾁ	75
	177		X	20		Ⅴ上		2015/7/14	つまみ付きナイフ	ⅡRA2Ma	Si	5.60	0.90	3.20	13.30		73
	178	南盛土	U	21	D	MⅡ	552	2015/9/8	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Ma	Sh	6.70	0.70	2.00	9.70		133
	179	南盛土	T	21	C	MⅡ	507	2015/9/8	つまみ付きナイフ	ⅡRA3Ma	Sh	6.80	0.60	2.30	6.60		127
	180	北盛土	J	21	C	MⅡ中		2015/9/10	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Ma	Sh	7.20	1.20	2.80	17.20		213
	181		R	24		Ⅴ		2015/9/4	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Wa	Sh	7.40	1.20	3.00	23.50		68
	182		T	20		Ⅴ		2015/7/9	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Wa	Sh	6.90	1.20	2.40	16.10		199-a
	183		H	26		Ⅲ		2015/6/26	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Ma	Sh	6.90	1.00	2.70	15.00		72
	184		P	22		Ⅴ上		2015/7/28	つまみ付きナイフ	ⅡRA2Wb	Sh	6.80	1.10	2.20	12.40		74
	185		L	22		Ⅴ中		2015/8/4	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Ma	Sh	6.90	0.90	2.10	11.40	3点中1点	194
	186		Q	22		Ⅴ中		2015/8/4	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Ma	Sh	7.10	0.80	2.00	9.70	5点中1点	211
図Ⅴ-61	187		S	22		Ⅴ上		2015/7/14	つまみ付きナイフ	ⅡRA3Wb	Sh	8.10	0.80	2.80	14.50	2点中1点	203
	188	北盛土	J	22	D	MⅡ中	681	2015/9/17	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Ma	Si	8.30	1.10	2.30	17.50		134
	189		S	22		Ⅴ上		2015/7/14	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Wb	Si	7.80	1.10	2.30	17.80		70
	190	北盛土	J	21	A	MⅡ上	306	2015/8/21	つまみ付きナイフ	ⅡRA1a	Sh	8.60	0.80	2.80	(18.10)		105
	191		Q	20		Ⅴ上		2015/7/16	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Wb	Ag	7.80	1.30	2.70	21.60		69
	192	南盛土	S	20	A	MⅠ	482	2015/9/8	つまみ付きナイフ	ⅡRA2-1Ma	Sh	7.90	0.90	2.00	10.40		122
	193	北盛土	K	21	B	MⅡ上	331	2015/8/31	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Ma	Sh	8.40	0.70	2.00	12.30		110
	194	南盛土	U	21	C	MⅡ	542	2015/9/8	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Ma	Sh	5.80	0.80	2.10	8.50		131
	195	北盛土	K	21	A	MⅡ上	340	2015/8/31	つまみ付きナイフ	ⅡRB1Mb	Obs	4.80	0.70	1.90	4.80		112
	196		K	21	B	Ⅲ		2015/6/12	つまみ付きナイフ	ⅡRB1Wb	Sh	5.40	1.00	2.90	15.80	ⅢH-4床	217
	197	北盛土	J	20	A	MⅡ上	302	2015/8/21	つまみ付きナイフ	ⅡRB1Wa	Sh	6.10	0.90	2.70	11.90		103
	198	南盛土	R	20	B	MⅡ	466	2015/9/8	つまみ付きナイフ	ⅡRB1Ma	Sh	5.80	0.60	2.10	7.00		116
	199	南盛土	T	20		MⅡ		2015/10/6	つまみ付きナイフ	ⅡRB2-1Wa	Sh	6.40	1.00	2.40	16.50	ﾍﾞﾙﾄD	202
	200	北盛土	K	21	A	MⅡ上	342	2015/8/21	つまみ付きナイフ	ⅡRB2-1Ma	Sh	6.50	1.00	1.90	11.00		113
	201	北盛土	J	21	B	MⅡ上	308	2015/8/21	つまみ付きナイフ	ⅡRB1Ma	Sh	9.00	0.80	3.40	22.40		107
	202	南盛土	U	20	C	MⅡ下		2015/9/17	つまみ付きナイフ	ⅡRB2Mb	Sh	9.40	1.00	3.20	29.70		58
	203	北盛土	K	22		MⅡ上		2015/9/3	つまみ付きナイフ	ⅡRB1Ma	Sh	8.20	1.20	3.10	22.00		63
	204	南盛土	R	20	C	MⅠ	475	2015/9/8	つまみ付きナイフ	ⅡRB1Ma	Sh	7.70	0.80	2.40	13.70		119
	205	南盛土	U	22		MⅠ		2015/8/7	つまみ付きナイフ	ⅡRC21Mb	Sh	6.10	0.80	2.70	8.70		80
	206	北盛土	L	23		MⅡ中		2015/9/8	つまみ付きナイフ	ⅡRC1Mb	Sh	8.10	1.20	4.40	33.00		60
図Ⅴ-62	207	南盛土	U	21	C	MⅡ	543	2015/9/8	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Wa	Sh	5.50	1.00	1.90	10.60		132
	208	北盛土	J	24		MⅡ		2015/9/14	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Wb	Sh	5.20	1.20	1.90	9.20		92
	209	北盛土	J	21	C	MⅡ中		2015/9/9	つまみ付きナイフ	ⅡRB1Wa	Sh	7.10	1.40	2.30	19.90		90
	210	北盛土	J	21	B	MⅡ上	307	2015/8/21	つまみ付きナイフ	ⅡLB2-1Wb	Sh	7.10	1.40	2.20	13.60		106
	211		H	25		Ⅴ		2015/8/24	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Wa	Sh	12.30	2.00	3.20	54.90		56
	212		K	23		Ⅴ中		2015/7/31	つまみ付きナイフ	ⅡRB2Wa	Si	8.10	1.30	2.30	24.70		67
	213	北盛土	J	21		MⅠ		2015/7/29	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Wa	Sh	10.40	1.40	2.30	31.80		61
	214	南盛土	T	22		MⅠ		2015/8/17	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Wa	Sh	7.80	1.80	3.20	31.00	5点中1点	210
	215	北盛土	K	21	D	MⅡ上	353	2015/8/21	つまみ付きナイフ	ⅡRB3Wa	Si	7.70	1.30	3.30	30.40		115
	216		Y	21		Ⅲ		2015/5/18	つまみ付きナイフ	ⅡRA2Wb	Sh	6.50	2.10	2.80	30.60		88
	217		O	23		Ⅲ		2015/5/29	つまみ付きナイフ	ⅡRA2Wa	Si	6.20	1.20	3.70	25.10		205
	218	北盛土	K	21	B	MⅡ上	334	2015/8/31	つまみ付きナイフ	ⅡRB2-2Mb	Si	4.40	0.70	2.20	7.50		111
	219		M	22		Ⅴ		2015/7/7	つまみ付きナイフ	ⅡRB3Tb	Sh	4.60	0.60	2.40	6.40	ﾄﾚﾝﾁ	54
	220	北盛土	K	20	A	MⅡ中		2015/9/17	つまみ付きナイフ	ⅡRB2Mb	Sh	4.90	0.80	2.40	10.90		82
	221	南盛土	T	21	A	MⅡ上		2015/9/18	つまみ付きナイフ	ⅡRB3Mb	Sh	4.80	0.80	2.60	10.80	2点中1点	83
	222	北盛土	K	21	A	MⅡ上	343	2015/8/21	つまみ付きナイフ	ⅡRA2-2Mb	Sh	5.60	0.70	2.00	7.40		114
	223	南盛土	U	20	B	MⅡ	541	2015/9/8	つまみ付きナイフ	ⅡR-2Mb	Sh	6.10	1.10	3.90	27.10		218
	224		H	26		Ⅴ下		2015/7/29	つまみ付きナイフ	ⅡRB2Mb	Si	(6.90)	1.00	3.60	(25.10)		65
	225	P-2				覆土	1	2015/10/1	つまみ付きナイフ	ⅡLA3Mb	Sh	7.50	1.00	3.10	15.40	使用痕	189
	226	南盛土	S	21	B	MⅡ	497	2015/9/8	つまみ付きナイフ	ⅡRA1Mb	Sh	8.00	0.70	2.80	12.30		125
	227		L	22		Ⅴﾄﾚﾝﾁ		2015/7/8	つまみ付きナイフ	ⅡRB2Mb	Sh	8.20	1.00	3.50	29.90	4点中1点	209
図Ⅴ-63	228	北盛土	I	21	B	MⅡA		2015/9/11	つまみ付きナイフ	ⅡRC12Tb	Sh	7.80	0.70	3.50	18.90		206
	229	南盛土	U	20	B	MⅡ上		2015/9/16	つまみ付きナイフ	ⅢRA3Mb	Sh	4.20	1.20	(5.10)	(15.40)		84
	230	南盛土	V	21		MⅠ		2015/7/30	つまみ付きナイフ	ⅢRA3Mb	Sh	4.20	0.90	4.70	7.20		195
	231	北盛土	ﾍﾞﾙﾄB	②		MⅡ下		2015/10/19	つまみ付きナイフ	ⅢB3Mb	Sh	4.10	0.80	4.90	13.90		208
	232		ﾍﾞﾙﾄB	①		Ⅴ下		2015/10/19	つまみ付きナイフ	ⅢA3Mb	Sh	4.00	0.90	6.00	17.20		201
	233	北盛土	J	23	D	MⅡ上		2015/9/9	つまみ付きナイフ	ⅢLB1Ma	Sh	4.50	1.10	(4.70)	(14.60)		85
	234	削平部分	L	20	A	Ⅶ直上		2015/10/5	つまみ付きナイフ	ⅢA3Mb	Si	3.60	0.70	(4.70)	(8.90)		192
	235	削平部分	M	20		Ⅶ直上		2015/10/7	つまみ付きナイフ	ⅢLA3Mb	Sh	6.70	1.20	4.90	14.20		87
	236	南盛土	U	20	C	MⅠ	519	2015/9/8	つまみ付きナイフ	ⅣA1M-	Sh	8.30	0.70	1.80	7.80		128
	237	南盛土	S	21	D	MⅡ	491	2015/9/8	つまみ付きナイフ	ⅣA-T-	Obs	4.90	0.60	3.40	5.00		123
	238		T	20		Ⅴ		2015/7/9	つまみ付きナイフ	ⅣB3Tb	Sh	3.80	0.50	(5.20)	(7.40)		199-b
	239		P	23		Ⅴ中		2015/8/6	つまみ付きナイフ	ⅠA2Wb	Obs	4.10	0.90	2.40	7.90		198
	240		O	23		Ⅲ		2015/6/23	つまみ付きナイフ	ⅡR-1Wa	Sh	10.40	1.30	2.10	19.50		89
図Ⅴ-64	241		L	21		Ⅲ		2015/6/22	両面調整石器		Sh	7.60	1.60	3.90	35.10	ⅢH-4床下	222
	242	南盛土	T	20		MⅠ		2015/8/27	両面調整石器		Sh	9.60	2.90	4.80	95.30		223
	243	南盛土	T	21		MⅠ		2015/8/19	楔形石器		Obs	2.50	0.70	1.90	3.60		221-a
	244	南盛土	T	21		MⅠ		2015/8/19	楔形石器		Obs	2.30	1.20	1.70	5.10		221-b
	245		I	25		Ⅴ上		2015/9/3	石核		Obs	4.80	4.10	7.20	90.50		226
	246	S-14	R	25		Ⅲ		2015/6/15	石核		Obs	1.70	1.00	3.40	6.40		224
	247		S	21		Ⅴ		2015/7/8	石核		Obs	3.30	2.60	5.50	48.50		225
	248		L	23		Ⅴ上		2015/7/28	石核		Si	6.60	3.50	7.70	237.20		227
	249		Q	25		Ⅴ中		2015/9/14	石核		Sh	9.90	5.10	6.40	286.00		228

表Ⅴ－９　Ⅴ章掲載石斧関連遺物一覧

掲載図番号		遺構	発掘区	発掘区数字	小グリッド	層位	点取番号	取り上げ日	分類	A～D	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	実測番号
図Ⅴ-65	1	南盛土	T	21	C	MⅡ上		2015/9/18	石斧	D	Rod	12.4	6.7	2.0	300.0	被熱	9
	2	北盛土	K	20		MⅠ		2015/7/30	石斧	D	Rod	10.1	6.2	2.1	202.7	被熱	63
	3	北盛土	J	20		MⅠ		2015/7/30	石斧	D	Sch	16.5	5.2	2.2	324.1		61
	4	北盛土	I	24		MⅠ		2015/9/7	石斧	D	Gls	17.9	3.3	1.8	188.5		50
	5	北盛土	Ⅰ	21	A	MⅡ上	288	2015/8/21	石斧	D	Grs	12.1	4.9	2.5	(229.2)	被熱	13
	6	南盛土	T	20		MⅠ		2015/8/19	石斧	D	Grs	10.8	4.7	2.3	191.6		65
図Ⅴ-66	7	南盛土	U	20	A	MⅡ	528	2015/9/8	石斧	D	Grs	11.3	4.5	1.9	140.3		42
	8		P	24		Ⅵ		2015/9/14	石斧	C・D	Grs	11.0	4.3	1.7	128.3		105
	9		Q	20		Ⅴ下		2015/7/22	石斧	D	Grs	9.5	4.7	1.5	129.8	被熱	103
	10		K	23		Ⅴ上		2015/7/31	石斧	D	Grs	8.8	4.0	1.7	(109.8)		98
	11	北盛土	J	23	D	MⅡ中		2015/9/10	石斧	B・D	Grs	10.3	4.6	2.3	168.0		3
	12	北盛土	L	21		MⅡ上		2015/8/31	石斧	D	Grs	9.3	4.0	2.2	135.5	被熱	75
	13	北盛土	J	24		MⅡ上		2015/10/14	石斧	D	Grs	9.9	4.1	1.5	100.5		4
	14	北盛土	J	20		MⅠ		2015/7/20	石斧	D	G-Tu	9.4	3.7	1.5	77.4		60
	15	北盛土	J	21	C	MⅡ中		2015/9/9	石斧	D・E	Grs	9.6	3.9	1.2	69.3		77
	16		k	20	C	Ⅴ下		2015/10/1	石斧	D	Grs	9.5	3.9	2.2	119.5		5

掲載図番号		遺構	発掘区		小グリッド	層位	遺物番号	取り上げ日	遺物名	細分記号	石材	長さ	厚さ	幅	重さ	備考	実測番号
図Ⅴ-66	17	北盛土	J	20	A	MⅡ上	301	2015/8/21	石斧	D	Grs	10.2	3.2	1.5	73.4		18
	18	北盛土	K	21	B	MⅡ上	335	2015/8/31	石斧	D	Grs	10.2	4.0	1.5	100.9		24
図Ⅴ-67	19	北盛土	K	21	C	MⅡ上	337	2015/8/31	石斧	D	Grs	9.9	4.1	1.1	81.9		26
	20	北盛土	J	20		MⅡ上		2015/9/4	石斧	D	Grs	9.3	3.1	1.0	54.4		83
	21	北盛土	J	21	B	MⅡ中		2015/9/8	石斧	D	Grs	9.1	3.3	1.4	79.2		76
	22	南盛土	V	21		MⅠ		2015/8/5	石斧	D	Grs	8.8	4.2	1.3	72.4	被熱	69
	23	北盛土	I	21	A	MⅡ上		2015/9/10	石斧	D・E	Grs	10.7	2.6	1.3	64.0		72
	24	北盛土	J	21		MⅠ		2015/8/3	石斧	D	Grs	9.8	3.1	1.2	61.6		79
	25	北盛土	J	23	C	MⅡ中		2015/9/10	石斧	D	Grs	10.6	2.9	1.4	68.0		108
	26	南盛土	U	22		MⅠ		2015/7/27	石斧	D	Grs	10.2	3.1	1.3	68.6	被熱	82
	27	北盛土	J	23	D	MⅡ中		2015/9/10	石斧	D	Grs	8.9	2.9	1.2	53.3		78
	28		T	21		Ⅴ上		2015/7/13	石斧	D	Grs	9.6	2.4	1.3	50.3	被熱	101
	29		Q	23		Ⅴ上		2015/8/19	石斧	D	Grs	8.3	2.9	1.2	39.0		100
	30	北盛土	K	21	D	MⅡ上		2015/9/16	石斧	D・E	Grs	9.6	2.3	0.7	23.4		74
図Ⅴ-68	31	南盛土	R	21	D	MⅡ	478		石斧	D	Grs	8.5	3.6	1.4	73.8		31
	32	南盛土	R	21		MⅠ		2015/9/3	石斧	D	Grs	8.1	3.1	1.0	47.5		64
	33	北盛土	K	22	A	MⅡ上	357	2015/8/21	石斧	D	G-Tu	7.2	3.0	1.7	52.4		28
	34	南盛土	T	20		MⅠ		2015/8/26	石斧	D	Grs	7.7	2.7	1.1	39.1	被熱	66
	35	南盛土	U	21		MⅠ		2015/8/18	石斧	D	Grs	7.7	2.2	1.0	31.4	被熱	68
	36	南盛土	T	22		MⅠ		2015/8/18	石斧	D・E	Grs	7.1	3.0	0.7	17.0		67
	37		Q	21		Ⅴ中		2015/8/3	石斧	D	Grs	9.4	2.4	1.1	38.1	(両刃)・被熱	59
	38		R	25		Ⅴ上		2015/9/15	石斧	D	Grs	7.9	1.5	0.6	11.9	(両刃)・被熱	56
	39	南盛土	T	22		MⅠ		2015/8/18	石斧	D	Grs	9.1	3.3	1.4	64.4		80
	40		Q	20		Ⅴ上		2015/7/16	石斧	D	Grs	12.9	2.1	1.3	58.1	石のみ・被熱	55
	41		T	22		Ⅲ		2015/5/26	石斧	C・D	G-Tu	6.4	2.7	0.7	24.5	石のみ・被熱	49
	42		L	22		Ⅲ		2015/6/25	石斧	D	Sl	7.5	2.4	0.4	9.5	石のみ	48
	43	北盛土	J	20	D	MⅡ上	299	2015/8/21	石斧	D	Grs	7.2	2.0	1.0	24.1	石のみ	16
	44		K	24		Ⅴ上		2015/9/8	石斧	D	Grs	7.4	1.8	1.0	23.8	石のみ	52
	45		K	24		Ⅴ上		2015/9/7	石斧	D	Grs	5.3	2.4	0.5	10.9	石のみ	51
	46		Q	23		Ⅴ上		2015/8/5	石斧	D	Grs	6.7	2.1	0.7	14.7	石のみ	99
	47		L	22		Ⅴ上		2015/8/6	石斧	C・D	Grs	7.3	1.8	1.1	25.2	石のみ	53
	48		M	20		Ⅴ下		2015/7/28	石斧	D	Grs	7.7	2.1	0.9	27.9	石のみ	7
図Ⅴ-69	49	北盛土	J	23	D	MⅡ上		2015/9/9	石斧	D	Grs	(5.7)	1.8	0.9	(18.3)	石のみ	84
	50	北盛土	K	21	B	MⅡ上	338	2015/8/31	石斧	D	Grs	(5.7)	1.9	0.9	(19.0)	石のみ	27
	51	北盛土	J	23	A	MⅡ中		2015/9/10	石斧	D	Grs	7.1	1.3	0.7	11.6	石のみ	2
	52	北盛土	J	21		MⅡ上		2015/9/7	石斧	D	Grs	7.5	1.4	0.7	11.4	石のみ	1
	53	北盛土	k	22	D	MⅡ上		2015/9/24	石斧	D	Grs	7.8	0.9	0.6	7.6	石のみ	6
	54	南盛土	V	21		MⅠ		2015/8/5	石斧	D	Grs	6.5	1.4	0.7	13.2	石のみ・被熱	70
	55	北盛土	J	23		MⅠ		2015/7/31	石斧	C・D	Grs	5.3	1.6	0.9	12.1	石のみ	62
	56	南盛土	S	23		Ⅴ中		2015/7/16	石斧	D	Sa	5.2	1.2	0.6	5.9	石のみ	8
	57	北盛土	K	21	C	MⅡ上		2015/9/18	石斧再加工品	B・D	Grs	14.0	5.7	3.6	467.5		111
	58	北盛土	Ⅰ	21		MⅡ上		2015/9/3	石斧加工品	B・D・E	Grs	17.9	5.9	3.7	662.0		115
	59		P	22		Ⅴ上		2015/7/28	石斧加工品	A・B・E	Grs	10.8	7.0	1.8	233.3		54
	60	北盛土	J	20	D	MⅡC		2015/9/14	石斧加工品	A・E	Grs	13.8	5.9	1.5	193.3		97
図Ⅴ-70	61		S	22		Ⅴ上		2015/7/14	石斧加工品	A・B・D・E	Grs	15.4	5.2	2.1	281.6		57
	62	北盛土	J	20	B	MⅡC		2015/9/14	石斧加工品	A・B・E	Gls	13.5	5.1	2.2	218.1		119
	63	北盛土	J	22	C	MⅡ下		2015/9/17	石斧加工品	A・B・E	Grs	11.6	4.6	1.3	132.1		94
	64	南盛土	U	20		MⅠ		2015/8/26	石斧加工品	A・E	Grs	12.2	5.2	2.7	207.0		81
	65	削平部分	Q	21		Ⅶ直上		2015/9/28	石斧加工品	A・E	Grs	12.8	4.8	1.9	178.0		106
	66	北盛土	J	21	B	MⅡ中		2015/9/10	石斧加工品	A・B・E	Grs	11.4	5.0	3.0	257.0		90
	67		X	22		Ⅴ上		2015/7/21	石斧加工品	A・B・E	Grs	12.5	5.6	5.2	401.6		120
図Ⅴ-71	68		Q	23		Ⅴ中		2015/8/18	石斧加工品	A・B・E	Grs	10.4	3.8	2.1	130.5		102
	69	南盛土	R	21		MⅠ		2015/9/3	石斧加工品	A・B・E	Grs	11.0	4.6	2.7	246.8		114
	70	南盛土	T	21	C	MⅡ中		2015/9/24	石斧加工品	A・E	Grs	10.1	4.3	1.4	80.5		93
	71	北盛土	K	21	B	MⅡ上	336	2015/8/31	石斧加工品	A・E	Grs	8.4	3.6	1.2	45.6		25
	72	南盛土	T	21	B	MⅡ上		2015/9/17	石斧加工品	A・D	Grs	9.7	3.8	1.1	56.7		87
	73	北盛土	K	21	B	MⅡ上	328	2015/8/21	石斧加工品	A・B・D・E	Grs	10.5	4.1	1.8	115.9		22
	74	南盛土	V	22		MⅠ		2015/8/3	石斧加工品	A・E	Grs	6.2	2.1	0.9	16.3		71
	75	北盛土	L	21		MⅡ上		2015/8/31	石斧加工品	A・B・D・E	Grs	12.1	5.2	3.0	260.4		86
	76	北盛土	J	23		MⅡ下		2015/10/14	石斧加工品	A・D・E	Grs	11.9	5.3	1.9	125.2		95
図Ⅴ-72	77	北盛土	K	22	A	MⅡ上		2015/9/10	石斧再加工品	A・B・D・E	Grs	11.6	4.2	2.6	202.8		85
	78	北盛土	K	19		MⅡ中		2015/9/30	石斧加工品	B・D	Grs	9.9	4.8	2.8	229.7		117
	79		R	21		Ⅴ下		2015/9/28	石斧	D	Grs	9.9	4.9	1.6	143.7		104
	80	南盛土	R	20	D	MⅡ	471	2015/9/8	石斧加工品	B・D・E	Grs	9.8	4.5	2.4	189.5		30
	81	北盛土	Ⅰ	21	D	MⅡA		2015/9/11	石斧加工品	B・D	Grs	9.7	4.8	2.5	168.0		118
	82	北盛土	Ⅰ	25	C	MⅡ中		2015/9/17	石斧加工品	C・D・E	Grs	10.3	4.8	2.5	217.6		116
図Ⅴ-73	83		N	23		Ⅴ中		2015/7/29	石斧再加工品	A・B・D・E	Grs	11.2	4.2	1.2	107.6		58
	84	北盛土	J	22	D	MⅡ上	312	2015/8/21	石斧再加工品	A・B・D	Grs	(10.0)	(4.5)	(2.9)	(142.4)	被熱	20
	85	南盛土	U	21	C	MⅡ	545	2015/9/8	石斧再加工品	D	Grs	9.1	3.9	2.1	130.1	被熱	43
	86	南盛土	T	21	C	MⅡ上		2015/9/18	石斧再加工品	A・B・D・E	G-Tu	10.3	3.8	1.7	89.7		88
	87	北盛土	J	21	A	MⅡC		2015/9/14	石斧再加工品	A・B・D	Grs	11.1	4.8	2.6	197.1		96
	88	北盛土	ﾍﾞﾙﾄB	⑰		MⅡ中		2015/10/19	石斧再加工品	A・D	Grs	9.9	4.9	1.9	161.6		89
	89	北盛土	J	22	B	MⅡ中		2015/9/16	石斧再加工品	A・D	Grs	12.6	4.0	1.6	93.4		92
	90	北盛土	J	22	A	MⅡ中		2015/9/14	石斧再加工品	A・B・D	Grs	10.2	4.3	2.4	150.1		91
	91	北盛土	Ⅰ	21	B	MⅡ中		2015/9/3	石斧再加工品	A・B・D	Grs	7.8	3.6	2.3	97.7		112
	92		Q	20		Ⅴ下		2015/7/22	石斧再加工品	A・D	Gls	7.7	4.2	2.3	103.1		113
図Ⅴ-74	93	北盛土	I	22	C	MⅡ上		2015/9/9	石斧加工品	A・B・D	Grs	9.0	3.8	1.3	72.0		73
	94	南盛土	ﾍﾞﾙﾄD			MⅡ		2015/10/6	石斧再加工品	B・D	Grs	6.9	3.7	1.6	67.2	被熱	110
	95	北盛土	K	21	D	MⅡ上	325	2015/8/21	石斧	D・E	Grs	8.0	3.2	1.1	47.2		21
	96	南盛土	S	21	B	MⅡ	495	2015/9/8	石斧再加工品	A・B・D	Grs	7.4	2.2	0.9	21.3	被熱	34
	97	南盛土	T	22	C	MⅡ	516	2015/9/8	石斧再加工品	B・D・E	Grs	6.2	4.4	2.7	115.2		40
	98	南盛土	T	21		MⅠ		2015/8/17	石斧再加工品	A・C・D	Grs	(7.3)	(4.5)	1.3	(62.6)		109
	99	南盛土	T	21	B	MⅠ・Ⅱ	509	2015/9/8	擦切残片	B・C	Grs	(9.3)	(6.7)	4.0	(310.8)		37
	100	南盛土	T	21	C	MⅠ・Ⅱ	500	2015/9/8	擦切残片	A・C	Grs	(7.4)	(3.6)	1.8	(54.3)		35
	101	北盛土	J	20		MⅡ上		2015/9/4	石斧原材	A・B・E	Grs	14.1	9.9	3.9	912.9		123
図Ⅴ-75	102		K	23		Ⅴ上		2015/7/29	石斧原材	B・D・E	Grs	11.5	5.1	3.8	368.0		129
	103	北盛土	J	21		MⅡ上		2015/9/3	石斧原材	B・E	Grs	10.9	2.7	2.4	120.7		125
	104		M	22		Ⅴ中		2015/7/24	石斧原材	A・E	Grs	7.1	4.2	1.8	99.8		130
	105		H	26		Ⅴ		2015/7/28	石斧原材	B・D・E	Grs	10.7	4.7	2.1	151.5		127
	106		T	20		Ⅴ		2015/7/8	石斧原材	A・B・E	Grs	12.4	4.1	1.9	146.4		128
	107	北盛土	J	21		MⅡ上		2015/9/3	石斧原材	A・E	Grs	9.1	4.7	1.1	86.4		124
	108	南盛土	T	20		MⅠﾍﾞﾙﾄ		2015/10/5	石斧原材	B・E	Grs	11.2	4.4	3.4	203.3		122
	109	南盛土	S	20	A	MⅡ	483	2015/9/8	石斧原材	B・E	Grs	10.1	5.0	1.5	139.9		32
	110	南盛土	T	20	D	MⅡ中		2015/9/24	石斧原材	A・B・D・E	Grs	10.9	4.1	1.3	99.3		126
図Ⅴ-76	111	南盛土	U	21	D	MⅠ・Ⅱ	548	2015/9/8	石斧原材	A・E	Grs	8.6	3.1	0.5	29.7		45
	112	南盛土	R	21		MⅠ		2015/9/3	石斧原材	D・E	Grs	8.1	2.7	1.1	34.2		121
	113	北盛土	ﾍﾞﾙﾄB	②		Ⅴ下		2015/10/19	石斧原材	E	Grs	9.9	3.1	1.3	74.9		133
	114		Q	22		Ⅴ中		2015/8/5	石斧原材	B・C・D・E	Grs	9.1	6.7	2.1	207.2		132
	115		P	23		Ⅴ中		2015/8/7	石斧原材	D・E	Grs	8.6	5.7	3.1	246.6	被熱	131
	116	南盛土	R	21		MⅠ			石斧	C・D	Grs	14.7	4.5	2.1	226.1		1
			T	21		Ⅴ上			ﾌﾚｲｸ	A・D	Grs						

掲載図番号		遺構	発掘区		小グリッド	層位	遺物番号	取り上げ日	遺物名	細分記号	石材	長さ	厚さ	幅	重さ	備考	実測番号
図Ⅴ-76	117		Q	20		Ⅴ下		2015/7/22	石斧片	D	Grs	13.7	5.0	2.7	(308.8)		30
		南盛土	V	21		MⅠ		2015/7/31	石斧片	D	Grs						
		南盛土	V	21		MⅠ		2015/7/30	石斧破片	D	Grs					被熱	
図Ⅴ-77	118		K	19		Ⅴ上		2015/8/20	石斧	B・D	Grs	13.4	3.4	3.1	233.5		9
			K	19		Ⅴ上		2015/8/27	石斧加工品	B・D	Grs						
	119	北盛土	K	22	D	MⅡ上		2015/9/24	石斧片	D	Grs	12.1	5.0	2.6	(273.5)		25
		南盛土	V	21		MⅠ		2015/8/6	石斧片	D	Grs					被熱	
	120		M	21		Ⅴ上		2015/8/4	石斧	D	Grs	11.6	3.9	1.3	109.0		8
			R	24		Ⅴ中		2015/7/28	石斧片	D	Grs						
	121	北盛土	J	20		MⅠ		2015/7/20	石斧	D	G-Tu	10.9	3.2	1.4	76.2		5
			P	24		Ⅴ上		2015/8/19	石斧片	D	G-Tu						
	122	南盛土	T	21	C	MⅡ	508	2015/9/8	石斧	D	Grs	11.1	3.7	1.2	78.3		36
		南盛土	T	22	A	MⅡ	504	2015/9/8	石斧片	D	Grs						
	123		U	21	C	MⅡ	549	2015/9/8	石斧	B・D	Grs	11.3	4.3	2.5	183.1	被熱	
			U	21	D	MⅡ上		2015/9/8	石斧片	D	Grs					被熱	
	124	南盛土	V	21		MⅠ		2015/8/4	石斧	D	Grs	(11.4)	4.9	2.5	(206.3)		15
			M	22		Ⅴ		2015/7/7	石斧片	D	Grs					トレンチ	
		南盛土	V	20		MⅠ		2015/8/18	石斧片	D	Grs					被熱	
	125	北盛土	J	21		MⅠ		2015/8/3	石斧	D	Grs	11.0	3.8	1.2	72.9		6
		北盛土	Ⅰ	24	C	MⅡ中		2015/9/10	石斧片	D	Grs						
図Ⅴ-78	126		S	23		Ⅴ上		2015/7/15	石斧	D	Grs	6.1	1.6	0.7	10.8		14
			M	22		Ⅴ上		2015/9/28	石斧破片	D	Grs					石のみ	
	127	北盛土	K	21		MⅠ		2015/7/31	石斧加工品	A・B・E	Grs	19.4	7.4	5.9	(1177.5)		48
			M	20		Ⅴ下		2015/7/28	石斧加工品	A	Grs						
		北盛土	J	21		MⅡ上		2015/9/3	フレイク	A・E	Grs						
			M	20		Ⅴ上		2015/7/27	フレイク	A・B・E	Grs						
			M	20		Ⅴ上			フレイク	A	Grs						
			M	20		Ⅴ中			フレイク	A	Grs						
			M	20		Ⅴ下			フレイク	A	Grs					3点接合	
		削平部分	M	20		Ⅶ直上			フレイク	A	Grs						
		削平部分	M	20		Ⅶ直上			フレイク	A・B・E	Grs						
			M	21		Ⅴ中			フレイク	A・E	Grs						
		南盛土	U	22		MⅠ			フレイク	A・B	Grs					被熱	
	128		K	19		Ⅴ上		2015/8/27	石斧加工品	A・B・E	Grs	15.2	5.6	3.0	303.5		46
		南盛土	U	21	B	MⅡ上		2015/9/14	石斧加工品	A・B・E	Grs						
	129		H	23		Ⅴ中～下		2015/8/6	石斧加工品	A・B・E	Grs	15.6	5.2	3.0	267.1		41
			V	24		Ⅴ		2015/7/27	石斧加工品	A・B	Grs						
図Ⅴ-79	130		K	22		Ⅴ上		2015/8/5	石斧加工品	A・E	Grs	15.2	4.7	1.9	185.4		45
		北盛土	J	23	C	MⅡ中		2015/9/15	石斧加工品	A・B	Grs						
	131		T	23		Ⅴ		2015/7/7	石斧加工品	A・B・E	Grs	13.6	4.3	2.2	192.4		66
			T	23		Ⅴ中		2015/7/22	石斧加工品	A・B・E	Grs						
	132		L	21		Ⅴ上		2015/8/17	石斧加工品	A・B・E	Grs	12.3	3.6	1.9	120.2		51
			Q	20		Ⅴ下		2015/7/22	石斧加工品	A・E	Grs						
	133		O	21		Ⅴ上		2015/7/30	石斧加工品	A・E	Grs	9.3	4.0	2.4	129.9		57
			O	22		Ⅴ中		2015/7/31	フレイク	A・E	Grs						
			O	24		Ⅴ上		2015/8/18	フレイク	A	Grs					被熱	
	134		V	20		Ⅴ上		2015/7/15	石斧加工品	A・B・E	Grs	12.3	5.1	1.4	132.9		68
		北盛土	J	20		MⅠ		2015/7/30	フレイク	A・E	Grs					被熱	
	135		T	20		Ⅴ		2015/7/8	石斧加工品	A・B・D・E	Grs	13.2	3.9	3.5	(248.2)		64
			U	20		Ⅴ			石斧再加工品	A・B・D	Grs						
		南盛土	T	20	ベルトD			2015/10/6	石斧原材	A・B・E	Grs					被熱	
	136	南盛土	U	20	B	MⅡ	538	2015/9/8	石斧加工品	A・E	Grs	8.5	3.3	0.9	35.4	被熱	4
			S	22		Ⅴ上		2015/7/13	フレイク	A・D	Grs					被熱	
	137		M	23		Ⅴ中		2015/7/30	石斧加工品	A・B・D・E	Grs	13.5	3.9	3.5	258.1		55
			M	24		Ⅴ下		2015/7/15	石斧再加工品	B・D	Grs					トレンチ	
図Ⅴ-80	138	H-6				覆土		2015/10/6	石斧破片	D	Grs	10.6	4.7	2.3	179.1		35
		南盛土	T	22		MⅠ		2015/8/17	石斧加工品	B・D	Grs					被熱	
	139		K	24		Ⅲ		2015/10/16	石斧片	B・D	Grs	10.2	5.9	2.9	(272.4)		26
		南盛土	T	20		MⅠ		2015/8/26	石斧再加工品	A・B・D	Grs					被熱	
	140	南盛土	U	21		MⅠ		2015/8/19	石斧片	B・D	Grs	16.0	5.5	3.0	423.6		33
		南盛土	U	21		MⅠ		2015/8/17	石斧加工品	B・D	Grs						
	141		Ⅰ	21		Ⅴ上		2015/7/13	石斧片	D	Grs	(15.9)	6.4	3.0	(417.3)		20
			Ⅰ	21		Ⅴ上		2015/7/13	石斧片	D	Grs						
		北盛土	J	22	A	MⅡ中		2015/9/14	石斧片	D	Grs						
			L	23		Ⅴ上		2015/7/27	石斧片	D	Grs						
			T	21		Ⅴ上		2015/7/13	石斧破片	D	Grs						
			T	21		Ⅴ上		2015/7/13	石斧破片	D	Grs					被熱	
	142		T	21		Ⅴ上		2015/7/13	石斧加工品	B・D	Grs	11.9	4.2	2.8	226.6		65
		南盛土	U	21		MⅠ		2015/8/18	石斧再加工品	A・B・D	Grs						
		南盛土	U	21		MⅠ		2015/8/17	石斧破片	B・D	Grs						
	143		M	22		Ⅴ中		2015/9/30	石斧加工品	A	Grs	9.4	3.8	1.4	66.1		54
		削平部分	M	23	D	Ⅶ直上		2015/10/14	石斧再加工品	A・D	Grs						
図Ⅴ-81	144		T	20		Ⅴ上		2015/7/13	石斧片	D	Grs	11.4	4.5	(2.5)	(184.1)		31
			Q	23		Ⅴ中		2015/8/19	石斧加工品	A・B・D	Grs					被熱	
	145	S-9	R	21		Ⅲ	119	2015/6/5	石斧片	D	Grs	(13.6)	6.1	(3.6)	(403.5)		18
		北盛土	J	22		MⅠ		2015/8/3	石斧破片	D	Grs						
			M	20		Ⅴ中		2015/7/28	石斧破片	D	Grs					被熱	
	146		H	26		Ⅴ中		2015/7/28	石斧再加工品	A・B・D	Grs	8.7	4.9	2.9	(178.5)		72
		北盛土	K	22	A	MⅡ中		2015/7/16	フレイク	A	Grs						
			T	22		Ⅴ上		2015/9/15	フレイク	A・D	Grs					被熱	
	147	南盛土	R	21	D	MⅠ	477	2015/9/8	石斧	D	Grs	(6.5)	4.2	(1.1)	(53.4)		2
		南盛土	S	20		MⅠ		2015/8/20	石斧破片	D	Grs						
	148	北盛土	J	21		MⅠ		2015/8/3	石斧再加工品	C・D	Grs	(9.7)	4.3	0.8	(68.2)	被熱	107
			K	22		Ⅴ上		2015/8/4									
	149		G	23		Ⅴ上		2015/8/6	石斧加工品	C・D・E	Grs	14.6	9.6	3.0	533.7		71
		北盛土	J	24		MⅠ		2015/9/8	石斧加工品	A・B・C・D・E	Grs						
		北盛土	J	24		MⅡ上		2015/9/15	石斧加工品	A・B・C・D・E	Grs						
		北盛土	Ⅰ	24		MⅠ		2015/9/7	擦切残片	A・C	Grs						
図Ⅴ-82	150	北盛土	J	21		MⅠ		2015/7/31	擦切残片	A・B・C・D・E	Grs	10.8	11.3	2.1	238.5		76
			Q	21		Ⅴ上		2015/8/3	擦切残片	A・C・E	Grs						
	151	北盛土	Ⅰ	25	C	MⅡ中		2015/9/17	擦切残片	C・E	Grs	9.0	4.2	1.6	82.3		75
			T	24		Ⅴ中		2015/9/10	擦切残片	C・E	Grs						
	152	削平部分	N	23		Ⅶ直上		2015/10/16	石斧原材	A・B・E	Grs	12.2	5.2	3.1	332.8		87
		南盛土	T	22	D	MⅡ上		2015/9/16	石斧原材	B・E	Grs						
	153	北盛土	K	23		MⅡ		2015/9/3	石斧原材	A・B・E	Grs	12.2	3.8	1.2	109.5		83
			X	22		Ⅴ上		2015/7/17	石斧原材	A・E	Grs					被熱	
	154		W	20		Ⅴ中		2015/7/22	石斧原材	E	Grs	7.5	6.1	4.7	341.0		94
			W	21		Ⅴ		2015/7/9	石斧原材	A・B・D・E	Grs						
			R	21		Ⅴ上		2015/7/27	フレイク	A・B・E	Grs						
	155	北盛土	J	22		MⅠ		2015/8/3	石斧原材	B・E	Grs	16.8	7.1	3.0	405.6		81
			U	21		Ⅴ上		2015/7/15	石斧原材	E	Grs						
		南盛土	U	21		MⅠ		2015/8/17	石斧原材	B・E	Grs						
		南盛土	U	22		MⅠ		2015/8/5	石斧原材	B・E	Grs						
			U	22		Ⅴ中		2015/7/17	フレイク	A・E	Grs						

表Ⅴ－10　掲載礫石器・石製品一覧

掲載図番号		遺構	発掘区		小グリッド	層位	遺物番号	取り上げ日	遺物名	細分記号	石材	長さ	厚さ	幅	重さ	備考	実測番号
図Ⅴ-83	1	南盛土	T	21	C	MⅡ中		2015/9/24	たたき石	1Ad	Sa	17.40	4.30	4.20	444.80		82
	2	南盛土	S	20		MⅠ		2015/8/20	たたき石	1Ad	Sa	16.70	4.00	4.90	402.50		73
	3		N	23		Ⅴ中		2015/7/29	たたき石	1Ad	Sa	(15.50)	4.80	5.30	(397.10)	端部も敲打	112
	4		排土					2015/10/26	たたき石	1Ad	Sa	16.30	3.40	6.00	534.70	側縁・端部も敲打	115
	5	北盛土	K	21	C	MⅡ上		2015/9/18	たたき石	1Ad	Sa	16.40	4.00	5.30	397.00	端部も敲打	128
	6		U	21		Ⅴ上		2015/7/14	たたき石	1Ad	Sa	13.90	4.40	4.60	417.40		109
図Ⅴ-84	7	南盛土	V	22		MⅠ		2015/8/3	たたき石	1Ad	Sa	13.50	3.90	4.60	363.80		94
	8		K	19		Ⅴ上		2015/8/20	たたき石	1Ad	Sa	(11.80)	3.60	(4.90)	(286.80)	欠け	104
	9	南盛土	V	20		MⅠ		2015/8/19	たたき石	1Bd	Sa	14.30	3.70	4.40	324.30	側縁・端部も敲打．焼け	123
	10	北盛土	J	22	D	MⅡ中		2015/9/14	たたき石	1Bd	Sa	13.80	3.00	4.80	371.80		30
	11	北盛土	J	21	C	MⅡ中		2015/9/9	たたき石	1Ab	Sa	10.00	3.50	5.80	267.50	側縁・端部も敲打	133
	12	削平部分	L	20		Ⅶ直上		2015/10/5	たたき石	1Ad	Sa	9.90	3.70	4.40	224.40		54
	13	北盛土	K	21	D	MⅡ上		2015/9/16	たたき石	1Ad	Sa	13.10	6.90	6.80	(326.30)	欠け	129
	14	南盛土	V	21		MⅠ		2015/8/5	たたき石	1Ad	Sa	(13.80)	4.70	4.80	(392.40)	欠け	125
図Ⅴ-85	15	北盛土	J	24		MⅠ		2015/8/20	たたき石	1Ad	Sa	11.60	3.60	5.60	290.90		12
	16		Q	23		Ⅴ上		2015/8/17	たたき石	1Bd	Sa	14.00	2.60	7.90	354.60	側縁も敲打	108
	17		G	25		Ⅴ		2015/8/24	たたき石	1Ad	Sa	10.10	3.30	4.80	244.20		2
	18	北盛土	K	20	D	MⅡ		2015/9/29	たたき石	1Ab	Sa	12.60	4.20	7.10	432.80		126
	19	北盛土	J	19	B	MⅡ中		2015/10/1	たたき石	1Ab	Sa	12.60	3.50	6.50	367.60		25
	20	北盛土	J	20		MⅡ上		2015/8/27	たたき石	1Ab	Sa	(13.40)	3.20	(5.50)	(240.60)	側縁敲打欠け	18
	21	南盛土	U	20		MⅠ		2015/8/26	たたき石	1Ab	Sa	12.60	2.80	5.40	230.50		120
	22		Q	24		Ⅴ中		2015/9/11	たたき石	1Ab	Sa	(12.70)	4.40	6.50	(416.50)	端部も敲打	113
図Ⅴ-86	23	北盛土	J	21	B	MⅡ中		2015/9/9	たたき石	1Ab	Sa	(12.50)	5.20	6.50	(529.70)	欠け	132
	24	北盛土	K	20		MⅠ		2015/10/5	たたき石	1Ab	Sa	10.40	3.80	7.80	234.30	ベルト	117
	25		P	24		Ⅴ上		2015/9/11	たたき石	1Ab	Sa	(12.00)	3.00	5.60	(198.30)	欠け	107
	26		S	21		Ⅴ		2015/7/8	たたき石	1Ac	Sa	14.50	5.00	5.70	470.80	トレンチ	102
	27	北盛土	J	22	B	MⅡ中		2015/9/16	たたき石	1Ac	Sa	12.60	4.10	5.60	337.90		29
	28		W	20		Ⅴ上		2015/7/21	たたき石	1Ac	Sa	(12.60)	4.80	4.80	(255.50)	端部も敲打	110
	29	南盛土	U	21		MⅠ		2015/8/18	たたき石	1Ac	Sa	11.20	4.10	4.80	272.60		122
	30	南盛土	R	23		MⅠ		2015/8/26	たたき石	1Ac	Sa	13.60	4.60	6.90	441.50	側縁・端部も敲打	118
	31	北盛土	K	21	杭	MⅡ		2015/10/20	たたき石	1Ad	Sa	14.10	3.70	4.50	306.50		42
図Ⅴ-87	32	南盛土	T	20	A	MⅡ上		2015/9/24	たたき石	1Ad	Sa	16.80	3.70	6.70	558.40		131
	33	南盛土	T	20	D	MⅡ中		2015/9/18	たたき石	1Ad	Sa	15.50	2.80	6.40	412.90		139
	34	北盛土	K	22	D	MⅡ中		2015/9/25	たたき石	1Ad	Sa	16.60	3.00	6.90	539.30		136
	35	北盛土	K	19	A	MⅡ中		2015/9/30	たたき石	1Ad	Sa	15.00	4.40	5.80	462.70	被熱・欠け	135
	36		X	21		Ⅴ上		2015/7/15	たたき石	1Ad	Sa	(10.70)	3.90	5.20	(279.00)		111
	37	北盛土	K	20	B	MⅡ中		2015/9/30	たたき石	1Ad	Sa	12.40	3.10	4.50	243.10	端部敲打	33
	38		S	21				2015/7/8	たたき石	1Ab	Sa	15.00	3.80	5.40	353.20	欠け．トレンチ	116
	39		S	21		Ⅴ		2015/7/8	たたき石	1Ab	Sa	13.00	3.10	5.40	291.90	端部も敲打	103
	40	南盛土	S	20		MⅠ		2015/8/20	たたき石	1Ab	Sa	13.10	4.20	5.30	(330.10)		119
	41		I	24		Ⅴ中下		2015/8/20	たたき石	1Ab	Sa	11.60	2.90	6.60	253.60		8
	42	北盛土	K	21	A	MⅡ下		2015/9/17	たたき石	1Ab	Sa	13.10	3.30	5.90	368.80		140
図Ⅴ-88	43	北盛土	K	22		MⅡ上		2015/9/1	たたき石	1Ab	Sa	13.20	2.80	7.40	332.30		130
	44	南盛土	R	20	A	MⅡ中		2015/9/25	たたき石	1Ab	Sa	(13.10)	3.50	6.30	(373.40)	欠け	138
	45	北盛土	I	21	A	MⅡc		2015/9/14	たたき石	1Ab	Sa	12.90	2.60	5.00	214.60	側縁加工	16
	46	北盛土	K	19	A	MⅡ中		2015/9/30	たたき石	1Bb	Ga	14.50	2.90	6.70	373.90		134
	47	北盛土	I	21		MⅠ		2015/8/4	たたき石	1Ac	Sa	14.00	4.40	6.00	335.90		9
	48	北盛土	I	21	B	MⅡA		2015/9/11	たたき石	1Ac	Rh	13.10	2.90	5.70	183.10		14
	49		J	24		Ⅴ		2015/7/7	たたき石	1Ad	Ms	12.60	3.30	5.10	250.60	トレンチ	4
	50	北盛土	K	22	D	MⅡ中		2015/9/25	たたき石	1Ad	Sa	(10.80)	4.00	5.00	(320.70)	欠け	137
	51		M	24		Ⅴ上		2015/9/1	たたき石	1Bd	Sa	12.50	3.70	4.80	334.00		106
	52		K	20		Ⅴ上		2015/8/5	たたき石	1Ab	Sa	10.80	3.60	6.10	324.90		105
	53	南盛土	U	21		MⅠ		2015/8/17	たたき石	1Ab	Rh	14.70	2.00	5.80	238.60		121
図Ⅴ-89	54	北盛土	J	24		MⅡ上		2015/9/15	たたき石	1Ac	Sa	10.90	5.50	8.10	504.30	端部敲打	21
	55		H	26		Ⅴ中		2015/7/28	たたき石	1Ab	Sa	9.40	3.50	7.40	290.70		7
	56	北盛土	J	23	B	MⅡ中	676	2015/9/16	たたき石	1Ab	Sa	9.30	4.40	5.50	258.20	端部も敲打	141
	57	北盛土	I	25	C	MⅡ中		2015/9/11	たたき石	1Ad	Sa	9.10	3.60	4.60	191.50	端部敲打	23
	58	南盛土	U	20	C	MⅡ上		2015/9/11	たたき石	1Bd	Sa	7.40	3.70	6.40	275.20		87
	59		J	24		Ⅴ		2015/7/7	たたき石	2Ad	Sa	9.00	3.10	6.30	223.60	トレンチ	3
	60	北盛土	I	23	C	MⅡ上		2015/9/8	たたき石	1Ab	Sa	9.10	3.60	6.20	(240.50)	欠け	127
	61	P-3				覆土		2015/10/7	たたき石	1Bc	Sa	7.90	5.30	6.50	279.80		38
	62	北盛土	J	21	B	MⅡ中		2015/9/11	たたき石	1Ad	Sa	9.30	5.00	4.80	252.30		26
	63	北盛土	J	24		MⅡ中		2015/9/30	たたき石	1Ab	Sa	8.20	2.30	8.00	227.30		32
図Ⅴ-90	64		H	24		Ⅴ上		2015/9/1	たたき石	1Bb	Sa	10.10	3.90	10.80	518.50		5
	65	北盛土	J	22		MⅡ中		2015/9/14	たたき石	1Ab	Sa	8.30	2.80	8.40	261.40	周縁も敲打	28
	66	北盛土	J	23	B	MⅡ下		2015/9/24	たたき石	1Ad	Sa	9.70	5.20	8.20	472.30		34
	67	南盛土	U	23		Ⅴ下		2015/8/7	たたき石	1Ab	Sa	10.20	3.10	7.00	221.70	側縁も敲打・2点接合	114
	68	南盛土	T	20	B	MⅡ上		2015/9/11	たたき石	1Bb	Sa	8.80	1.60	6.50	118.50	側縁・端部も敲打	78
	69	北盛土	J	21		MⅠ		2015/7/29	たたき石	1Ad	Sa	6.30	2.80	4.70	113.00		10
	70	北盛土	J	22	B	MⅡ		2015/9/29	たたき石	1Ad	Sa	5.60	2.50	5.50	119.70		17
	71		G	24		Ⅴ		2015/8/25	たたき石	1Aa	Sa	4.40	3.10	4.10	65.40		1
	72	H-6				覆土		2015/10/5	たたき石	1Bb	Tu	5.00	2.30	4.00	50.00		36
	73	H-5				床	683	2015/9/17	たたき石	1Bd	Sa	22.30	6.70	10.10	1770.00		142
	74	南盛土	T	21	B	MⅡ上		2015/9/17	たたき石	1Ab	Sa	11.10	3.60	7.20	274.60	端部も敲打	80
図Ⅴ-91	75	北盛土	J	24		MⅠ		2015/9/9	たたき石	2Bd	Sa	7.80	5.50	7.00	370.40		13
	76	H-7				覆土		2015/10/1	たたき石	2Ad	Sa	7.90	4.90	5.70	307.80		37
	77	北盛土	J	21	C	MⅡ中		2015/9/11	たたき石	2Ad	Sa	8.60	4.60	6.70	286.20	石皿片転用	27
	78	南盛土	V	20		Ⅴ中		2015/8/25	たたき石	2Ad	Sa	9.80	2.20	6.80	197.60		92
	79	北盛土	J	23	D	MⅡ中		2015/9/10	たたき石	2Bb	Sa	6.30	2.70	6.40	118.50	側縁も敲打	31
	80	北盛土	J	22	C	MⅡ上		2015/9/15	たたき石	2Ad	Sa	8.30	4.20	7.80	277.40		19
	81		G	26		Ⅴ中		2015/7/23	たたき石	2Ae	Sa	7.20	4.00	6.50	(210.70)	北海道式石冠片を利用	6
	82	北盛土	I	25	C	MⅡ中		2015/9/17	たたき石	1Ae	Sa	9.80	3.10	5.60	240.00	端部敲打	24
図Ⅴ-92	83	北盛土	J	23	B	MⅡ上		2015/9/15	たたき石	2Ad	Sa	13.70	4.50	9.10	671.90	石皿片転用	20
	84		K	20		Ⅴ上		2015/8/6	たたき石	2Ad	Sa	13.30	4.30	7.00	490.20	石皿片転用	40
	85	北盛土	J	21		MⅠ		2015/7/29	たたき石	2Ad	Sa	12.80	4.00	6.40	434.00	石皿片転用	11
	86	北盛土	I	21	B	MⅡA		2015/9/11	たたき石	2Ad	Sa	8.10	4.00	5.20	170.90	石皿片転用	15
	87		K	22		Ⅴ上		2015/8/5	たたき石	1Bc	Sa	10.70	3.70	6.20	249.30		50
	88	北盛土	K	21		MⅡ下		2015/9/17	たたき石	1Bb	Sa	11.50	2.70	6.50	268.70	側縁・端部敲打	35
	89	南盛土	R	23		MⅠ		2015/8/26	たたき石	1Bd	Sa	16.00	3.10	6.70	560.00		71
	90	北盛土	I	24	B	MⅡ中		2015/9/10	たたき石	2Ad	Sa	8.10	3.40	6.60	193.40	石皿片転用	22
	91	南盛土	T	21	C	MⅡ中		2015/9/24	たたき石	1Bb	Sa	13.10	3.10	8.70	350.10	被熱	81
図Ⅴ-93	92	南盛土	V	21		MⅠ		2015/7/31	たたき石	3Ad	Sa	13.80	4.40	5.70	475.90		124
	93		S	23		Ⅴ中		2015/7/17	たたき石	3Ab	Gra	8.50	4.10	5.80	284.90		99
	94		S	23		Ⅴ上		2015/7/15	たたき石	3Ab	Sa	12.40	2.90	5.10	280.50		98
	95		J	19		Ⅴ		2015/7/9	たたき石	3Ab	Sa	5.60	4.00	11.50	316.10	トレンチ	101
	96	北盛土	K	21	A	MⅡ上		2015/9/16	たたき石	3Ba	Gra	9.70	6.00	7.30	604.00		43
	97	南盛土	U	20		MⅠ		2015/8/28	たたき石	3Ba	Ag	6.10	3.60	4.80	142.40		100
	98	北盛土	J	24		MⅡ上		2015/10/13	たたき石	3Ba	Sa	7.00	2.90	5.00	128.40	赤色顔料付着	96
	99		Q	23		Ⅴ中		2015/8/18	たたき石	3Ba	Ga	4.90	4.80	4.80	207.70		97
	100		P	20		Ⅴ上		2015/7/27	すり石	1	Sa	7.10	6.50	(16.80)	630.00		2
	101		L	22		Ⅴ上		2015/8/3	すり石	1	Sa	8.00	6.50	15.25	820.00		3
	102	北盛土	K	21	A	MⅡ中		2015/9/16	すり石	1	An	10.10	6.80	17.30	1530.00		6

掲載図番号		遺構	発掘区		小グリッド	層位	遺物番号	取り上げ日	遺物名	細分記号	石材	長さ	厚さ	幅	重さ	備考	実測番号
図Ⅴ-93	103	南盛土	U	20	B	MⅡ下		2015/9/17	すり石	1	Sa	9.50	7.20	14.50	1130.00		15
図Ⅴ-94	104	南盛土	R	23		MⅠ		2015/8/26	すり石	3	Sa	9.15	4.00	11.65	371.60		7
	105		R	22		Ⅴ中		2015/8/27	すり石	3	Sa	10.20	2.70	11.90	298.00		8
	106	北盛土	K	21		MⅠ		2015/7/29	すり石	3	Sa	7.10	2.80	10.10	225.40		9
	107	北盛土	J	24		MⅡ上		2015/9/15	すり石	3	Sa	8.30	3.10	11.40	319.00		16
	108	北盛土	H	23		MⅠ		2015/7/29	すり石	3	Sa	(7.80)	4.35	8.75	306.60		13
	109	北盛土	H	23		MⅠ		2015/7/29	すり石	3	Sa	5.90	1.75	9.50	111.80		14
	110		L	21		Ⅴ上		2015/8/17	すり石	3	Sa	5.65	2.35	8.30	118.20		12
	111	南盛土	T	20		MⅠ		2015/8/15	すり石	3	Sa	6.60	1.30	7.80	75.20		10
	112		R	20		Ⅲ		2015/6/3	すり石	3	Sa	5.90	1.20	4.95	43.60		11
	113		W	21		Ⅴ		2015/7/10	すり石	3	Dol	10.80	5.60	16.00	1380.00		5
	114	北盛土	K	21		MⅠ		2015/7/29	すり石	3	Sa	8.90	4.10	12.90	576.20		1
	115	南盛土	U	21	A	MⅡ上		2015/9/11	すり石	3	An	8.10	5.70	13.85	1140.00		4
図Ⅴ-95	116	南盛土	T	21		MⅠ		2015/8/19	扁平打製石器		Sa	6.70	4.20	(15.60)	572.00		21
	117	北盛土	J	21		MⅠ		2015/8/3	扁平打製石器		Sa	7.80	3.45	14.70	396.20		17
	118	南盛土	U	20	A	MⅡ上		2015/9/15	扁平打製石器		Sa	8.20	3.50	13.30	426.40		20
	119	南盛土	R	24		Ⅴ中		2015/9/4	扁平打製石器		Sa	6.30	2.45	8.60	129.40		18
	120	北盛土	K	21	B	MⅡ上		2015/9/17	扁平打製石器		Sa	5.45	2.60	8.20	121.20		19
	121		L	21		Ⅴ		2015/7/7	扁平打製石器		Sa	6.00	2.45	7.25	95.40		22
	122	北盛土	K	21		MⅡ		2015/8/28	北海道式石冠		Sa	14.90	3.90	17.00	1020.00		132
	123	北盛土	ﾍﾞﾙﾄB	⑬		MⅡ中		2015/10/19	北海道式石冠		Sa	15.20	5.90	19.90	1830.00		127
	124	北盛土	J	21		MⅡ上		2015/9/7	北海道式石冠		Sa	15.90	5.90	(15.90)	(1390.00)		126
	125		S	22		Ⅴ中		2015/8/17	北海道式石冠		Sa	15.00	4.80	(14.50)	(1420.00)		12
図Ⅴ-96	126		K	21	ﾍﾞﾙﾄ	Ⅴ上		2015/10/2	北海道式石冠		Sa	15.80	5.00	(19.40)	(1650.00)		6
	127	南盛土	V V U	23 22 22		MⅠ MⅠ MⅠ		2015/7/30 2015/8/5 2015/8/5	北海道式石冠		Sa	15.55	(4.60)	(16.20)	(660.00)		145
	128	北盛土	ﾍﾞﾙﾄB L	② 22		MⅡ下 Ⅴ上		2015/10/19 2015/8/3	北海道式石冠片		Sa	14.50	5.45	19.80	(1610.00)		146
	129		V	23		Ⅴ中		2015/7/31	北海道式石冠		Sa	13.20	5.40	(16.90)	(1310.00)		13
	130	北盛土	J	20	C	MⅡ上	392	2015/8/24	北海道式石冠		Sa	14.00	5.90	(20.80)	(1640.00)		116
	131	南盛土	U	21	C	MⅡ上		2015/9/14	北海道式石冠		Sa	13.00	4.75	20.50	1640.00		102
図Ⅴ-97	132	南盛土	U	21	D	MⅠ	618	2015/9/9	北海道式石冠		Sa	12.50	6.60	20.00	2090.00		120
	133	南盛土	T	21	B	MⅡ	597	2015/9/9	北海道式石冠		Sa	11.80	4.30	19.40	1470.00		119
	134	南盛土	T	21	D	MⅡ上		2015/9/11	北海道式石冠		Sa	12.70	5.20	20.60	(1340.00)		97
	135		L	23		Ⅴ上		2015/7/27	北海道式石冠		Sa	11.60	5.40	19.30	1070.00		82
	136		V	21		Ⅲ		2015/5/20	北海道式石冠		Sa	12.20	5.00	19.10	1200.00		3
	137		W W	21 21		Ⅴ Ⅴ		2015/7/8 2015/7/8	北海道式石冠		Sa Sa	12.50	5.55	18.50	1210.00		108
	138		X	22		Ⅴ上		2015/7/22	北海道式石冠		Sa	10.10	5.10	17.70	1240.00		11
	139	北盛土	J	19	B	MⅡ中		2015/10/1	北海道式石冠		Sa	10.50	5.65	18.30	1300.00		130
図Ⅴ-98	140		K	22		Ⅴ上		2015/8/5	北海道式石冠		Sa	(14.20)	6.40	(19.20)	(1780.00)		7
	141		U X	20 21		Ⅴ上 Ⅴ中		2015/7/14 2015/7/16	北海道式石冠		Sa	13.60	4.50	19.50	1440.00		150
	142		R	25		Ⅴ上		2015/9/16	北海道式石冠		Dio	11.30	5.00	(14.90)	(1350.00)		8
	143	南盛土	T	21	B	MⅡ上		2015/9/11	北海道式石冠		Sa	10.70	(5.60)	21.10	(1000.00)	3点接合	144
	144	南盛土	U	21		MⅠ		2015/8/19	北海道式石冠		Sa	13.35	5.60	18.90	(1400.00)		128
	145	北盛土	L	21		MⅡ中		2015/9/18	北海道式石冠		Sa	11.20	5.45	17.70	980.00		134
図Ⅴ-99	146	南盛土	T	22		MⅠ		2015/8/17	北海道式石冠		Sa	13.50	5.30	12.70	1010.00		122
	147	北盛土	J	22	A	MⅡ中		2015/9/14	北海道式石冠		Sa	12.70	4.70	15.10	1130.00		125
	148	南盛土	U	23		MⅠ		2015/8/5	北海道式石冠		Sa	12.70	4.55	11.60	990.00		105
	149	南盛土	T	20		MⅠ		2015/8/19	北海道式石冠		Sa	(10.80)	5.25	(13.80)	850.00		124
	150	南盛土	U	21		MⅠ		2015/8/19	北海道式石冠		Sa	8.90	4.00	11.40	418.20		104
	151	南盛土	T	22		MⅠ		2015/8/18	北海道式石冠		Sa	14.20	5.20	19.60	1690.00		98
	152	北盛土	K	21	B	MⅡ上	441	2015/8/24	北海道式石冠		Sa	17.30	7.05	(17.90)	(2110.00)		115
図Ⅴ-100	153	北盛土	J L L	22 19 21	B	MⅡ中 Ⅲ Ⅴ		2015/9/16 2015/6/19 2015/7/7	北海道式石冠		Sa	15.00	(5.20)	19.70	(1370.00)		148
	154	南盛土	T	21	C	MⅡ中		2015/9/24	北海道式石冠		Sa	13.70	5.70	18.30	1700.00		95
	155	北盛土	ﾍﾞﾙﾄB	⑨		MⅡ中		2015/10/19	北海道式石冠		Sa	14.00	5.50	17.30	1360.00		111
	156	南盛土	T U	22 22	A	MⅠ MⅡ上		2015/8/18 2015/9/11	北海道式石冠 北海道式石冠片		Sa	14.80	4.25	20.90	1640.00		149
	157		K	21	ﾍﾞﾙﾄ	Ⅴ上		2015/10/2	北海道式石冠		Sa	17.60	3.90	20.30	1590.00		5
	158	南盛土	L T	24 22		Ⅴ上 MⅠ		2015/9/3 2015/8/17	北海道式石冠		Sa	16.50	5.65	(22.50)	(1740.00)		147
図Ⅴ-101	159	南盛土	T T	21 22	B	MⅡ Ⅴ上	720	2015/10/6 2015/7/16	北海道式石冠		Sa	11.40	5.20	19.30	1300.00		121
	160	北盛土	K	20		MⅠ		2015/10/6	北海道式石冠		Sa	12.80	4.90	22.00	1610.00		131
	161	北盛土	I	21	C	MⅡ中		2015/9/3	北海道式石冠		Sa	8.60	5.60	16.35	1060.00		133
	162		U	20		Ⅲ		2015/5/26	北海道式石冠		Sa	10.30	5.60	19.00	1270.00		99
	163		W	22		Ⅴ上		2015/7/16	北海道式石冠		Sa	10.80	4.85	15.25	940.00		140
	164	北盛土	M	22		MⅠ		2015/8/26	北海道式石冠		Ga	10.30	4.00	(12.30)	(720.00)		143
	165		X	21		Ⅴ中		2017/7/16	北海道式石冠		Sa	12.00	4.30	17.60	1230.00		14
	166		P	21		Ⅴ上		2015/7/30	北海道式石冠		Sa	12.25	5.00	(14.70)	(1120.00)		137
図Ⅴ-102	167		V	24		Ⅴ上		2015/8/24	北海道式石冠		Sa	10.50	3.60	(11.30)	(610.00)		9
	168	南盛土	U	21		MⅠ		2015/7/31	北海道式石冠		Sa	9.40	5.70	11.60	860.00		123
	169		M	21		Ⅴ上		2015/8/4	北海道式石冠		Sa	9.00	(6.50)	(11.20)	(930.00)		84
	170		S	22		Ⅴ上		2015/7/14	北海道式石冠		An	11.50	4.60	(10.60)	(730.00)		139
	171		V	22		Ⅴ上		2015/7/21	北海道式石冠		Sa	11.80	5.00	11.90	890.00		106
	172		P	22		Ⅴ上		2015/7/28	北海道式石冠		Sa	9.00	5.80	12.70	810.00		86
	173	南盛土	T R	22 21		MⅠ MⅠ		2015/8/17 2015/8/20	北海道式石冠		Dio Dio	9.00	5.30	12.10	(850.00)		90
	174	南盛土	R	20	D	MⅡ中		2015/9/25	北海道式石冠		Ga	10.20	5.90	11.50	970.00	Sa→Ga台帳未変更	88
	175		P	21		Ⅴ上		2015/7/29	北海道式石冠		Sa	11.30	5.75	10.80	(850.00)		136
	176	南盛土	T U	21 21	D	MⅡ MⅠ	505	2015/9/8 2015/8/17	北海道式石冠		Ga	11.20	3.55	13.25	(790.00)		152
	177		Y	22		Ⅴ下		2015/7/15	北海道式石冠		Sa	9.50	5.15	(7.70)	(430.60)		117
	178		K	20	ﾍﾞﾙﾄ	Ⅴ上		2015/10/5	北海道式石冠		Sa	8.10	2.60	10.80	315.40		79
図Ⅴ-103	179	北盛土	K	21	A	MⅡ中		2015/9/25	北海道式石冠		Sa	20.60	4.40	28.80	2590.00		151
	180		S	22		Ⅴ中		2015/8/17	北海道式石冠		Sa	12.80	5.00	20.20	1690.00		91
	181	南盛土	V	20		MⅠ		2015/8/17	北海道式石冠		Sa	13.10	4.75	17.40	1830.00		129
	182		U	22		Ⅴ上		2015/7/17	北海道式石冠		Sa	13.65	6.15	21.20	2210.00		112
図Ⅴ-104	183	北盛土	K	21	C	MⅡ上		2015/9/17	北海道式石冠		Sa	13.20	4.85	18.10	1180.00		135
	184	南盛土	U	20		MⅡ中		2015/9/15	北海道式石冠		Sa	13.10	6.15	20.80	1350.00		101
	185	南盛土	T	21	B	MⅡ上		2015/9/18	北海道式石冠		Sa	11.70	5.40	19.60	1350.00		94
	186	P-3				覆土		2015/10/7	北海道式石冠		Sa	11.00	4.80	18.40	1390.00		1
	187		T	21	B		721	2015/10/6	北海道式石冠片		Sa	10.60	5.30	(10.30)	(680.00)		234
	188		T	20		Ⅴ上		2015/7/13	北海道式石冠		Sa	9.00	5.50	18.85	1120.00		93
	189	北盛土	J	22	B	MⅡ中		2015/9/16	北海道式石冠		Sa	10.30	5.15	14.90	950.00		138
	190		X	22		Ⅴ中		2015/7/22	北海道式石冠		Sa	11.80	4.90	14.50	870.00		109
図Ⅴ-105	191		L	24		Ⅴ中		2015/10/5	北海道式石冠		Sa	13.40	6.60	12.80	960.00		83
	192		Q	22		Ⅴ中		2015/8/4	北海道式石冠		Sa	11.30	3.85	12.90	750.00		87
	193		N	20		Ⅲ		2015/6/11	北海道式石冠		Sa	9.75	2.90	11.80	330.00		85

掲載図番号		遺構	発掘区		小グリッド	層位	遺物番号	取り上げ日	遺物名	細分記号	石材	長さ	厚さ	幅	重さ	備考	実測番号
図Ⅴ-105	194	北盛土	J	22	A	MⅡ中		2015/9/14	北海道式石冠		Sa	8.45	3.65	11.70	396.60		77
	195		J	22	A	Ⅴ下		2015/9/14	北海道式石冠		Sa	8.80	4.10	10.80	405.80		76
	196	南盛土	U	21		MⅠ		2015/8/18	北海道式石冠		Sa	8.90	3.70	11.60	400.80		103
	197	南盛土	V	23		MⅠ		2015/7/30	北海道式石冠		Ga	8.10	4.75	11.45	700.00		107
	198	南盛土	U	20		MⅠ		2015/8/28	北海道式石冠		Sa	8.00	6.40	10.65	610.00		100
	199	北盛土	J	21	B	MⅡ中		2015/9/11	北海道式石冠		Sa	15.60	9.30	21.00	2580.00		75
図Ⅴ-106	200	北盛土	J	23		MⅠ		2015/7/29	北海道式石冠		Sa	12.10	5.15	14.20	1100.00		78
	201	北盛土	I	23		MⅠ		2015/7/29	北海道式石冠		Sa	13.60	5.60	18.40	1750.00		15
	202		L	22		Ⅲ		2015/6/25	北海道式石冠		Sa	13.60	4.00	18.20	1530.00		2
	203		X	22		Ⅴ中		2015/7/24	北海道式石冠		Sa	10.40	4.90	14.00	970.00		110
	204		W	22		Ⅴ上		2015/7/16	北海道式石冠		And	12.50	4.40	15.00	1310.00		10
	205		S	24		Ⅴ中		2015/9/1	北海道式石冠		Sa	11.00	4.90	15.85	1010.00		92
	206	南盛土	V	22		MⅠ		2015/7/31	北海道式石冠		Sa	9.30	3.35	12.40	500.20		142
	207		R	21		Ⅴ上		2015/7/27	北海道式石冠		Sa	7.00	1.65	8.10	105.80		89
	208		O	24		Ⅴ上		2015/8/18	北海道式石冠		Sa	6.40	2.30	6.65	109.60		113
	209		L	21		Ⅴ		2015/7/9	北海道式石冠		Ms	5.45	1.65	5.20	47.20		81
図Ⅴ-107	210	南盛土	U	20	C	MⅡ中		2015/9/17	石鋸		Sa	7.45	1.35	13.35	164.60		160
	211		K	22		Ⅴ上		2015/8/5	石鋸		Sa	8.45	2.60	12.25	265.40		161
	212	南盛土	V	20		MⅠ		2015/8/17	石鋸		Sa	(10.20)	2.10	(11.25)	231.40		159
	213	南盛土	T	21		MⅠ		2015/8/19	石鋸		Sa	6.30	2.90	12.20	175.20		158
	214		W	21		Ⅴ		2015/7/9	石鋸		Sa	13.90	2.05	18.00	553.20		163
	215	北盛土	K	22	D	MⅡ下		2015/9/28	石鋸		Sa	(8.90)	1.65	(13.10)	249.40		162
	216	南盛土	T	21	C	MⅡ上		2015/9/18	石鋸		Sa	4.10	1.70	7.00	53.20		156
	217		N	21		Ⅴ上		2015/8/3	石鋸		Sa	4.15	0.90	6.10	29.40		157
	218	北盛土	L	22	杭	MⅡ		2015/10/14	砥石	1	Sa	31.30	3.60	(19.60)	2450.00		73
	219	北盛土	K	21	B	MⅡ上		2015/9/10	砥石	1	Sa	(24.70)	(1.75)	(17.80)	820.00		69
	220	北盛土	M	22		MⅠ		2015/8/26	砥石片	1	Sa	(16.50)	(1.60)	(14.90)	444.00	他3点接合	219
	221		K	24		Ⅴ上		2015/9/8	砥石	1	Sa	(14.45)	2.15	(11.60)	620.00		59
図Ⅴ-108	222		M	21		Ⅴ上		2015/8/4	砥石	1	Sa	(15.60)	2.95	(7.95)	405.20		228
	223	P-2				覆土		2015/9/17	砥石片	1	Sa	8.70	3.90	5.60	268.00		215
	224		H	23		Ⅴ上		2015/8/5	砥石	1	Sa	11.75	2.90	10.50	573.20		67
	225	南盛土	T	20		MⅠ		2015/10/5	砥石	1	Sa	19.70	4.10	6.60	960.00		63
	226	P-11	M	19		覆土		2015/10/14	砥石片	1	Sa	(7.20)	1.60	(9.10)	113.40		229
	227		Q	21		Ⅴ上		2015/7/31	砥石	2	Sa	(16.40)	4.30	13.55	910.00	他2点接合	220
	228		J	22	A	Ⅴ下		2015/9/14	砥石	2	Sa	(17.40)	3.40	(11.85)	640.00		218
	229	北盛土	J	23	A	MⅡ中		2015/9/10	砥石片	2	Sa	(18.00)	2.00	(17.30)	585.00	他3点接合	221
	230	H-9	K	21		覆土		2015/10/13	砥石	2	Sa	(11.10)	6.25	13.10	1170.00		226
図Ⅴ-109	231	北盛土	ベルトB	⑭		MⅡ中		2015/10/19	砥石	2	Sa	(21.70)	5.40	10.70	1030.00		225
	232		W	24		Ⅴ		2015/8/25	砥石	2	Sa	(11.10)	2.90	(9.00)	355.60		230
	233		L	19		Ⅴ上		2015/8/28	砥石	2	Sa	13.80	6.95	8.40	1070.00		60
	234	北盛土	J	21		MⅡ上		2015/9/7	砥石	2	Sa	(9.00)	4.65	9.15	537.80		66
	235	北盛土	J	23		MⅠ		2015/7/31	砥石片	2	Sa	(6.40)	(4.50)	(11.60)	380.80		227
	236		Q	23		Ⅴ		2015/8/19	砥石	4	Sa	12.20	2.65	10.75	464.60		72
	237	北盛土	J	21		MⅡ上		2015/9/7	砥石	4	Sa	(9.40)	2.70	(8.20)	247.60		65
	238	南盛土	T	20		MⅠ		2015/8/19	砥石	4	Sa	(15.30)	4.45	(12.20)	720.00		71
	239		K	20		Ⅴ上		2015/8/6	砥石	4	Sa	(12.50)	3.80	(9.15)	600.00		70
	240	南盛土	V	20		MⅠ		2015/8/17	砥石	4	Sa	(8.90)	2.40	6.00	112.40		223
	241		L	21		Ⅴ		2015/7/8	砥石	4	Sa	10.50	3.30	7.00	231.80		154
	242	北盛土	J	23	C	MⅡ中		2015/9/15	砥石	4	Sa	13.40	4.90	9.90	780.00		68
図Ⅴ-110	243		S	21		Ⅴ		2015/7/8	砥石	3	Sa	(9.65)	1.80	9.30	190.00		222
	244	削平部分	O	20		Ⅶ直上		2015/9/30	砥石	3	Sa	6.75	3.00	5.30	120.80		54
	245		L	22		Ⅴ上		2015/8/6	砥石	3	Sa	5.20	0.75	4.20	21.20		58
	246		X	22		Ⅴ上		2015/7/17	砥石	3	Sa	8.10	1.25	7.15	76.40		57
	247	南盛土	U	21	B	MⅡ上		2015/9/14	砥石	3	Sa	6.90	1.20	8.00	89.20		50
	248	北盛土	J	22	C	MⅡ下		2015/9/17	砥石	3	Sa	5.05	1.55	6.95	72.60		74
	249	南盛土	U	20	D	MⅡ上		2015/9/15	砥石	3	Sa	3.60	1.25	5.05	26.40		51
	250		S	20		Ⅴ上		2015/7/17	砥石	3	Sa	2.70	1.35	4.80	20.00		53
	251	北盛土	I	21	B	MⅡA		2015/9/11	砥石	3	Sa	4.20	1.90	8.85	58.60		49
	252	南盛土	U	20		MⅠ		2015/8/26	砥石	3	Sa	3.75	1.00	6.10	27.40		52
	253	南盛土	V	21		MⅡ		2015/10/21	砥石	2	Ms	6.35	1.10	3.40	23.40		56
	254		N	24		Ⅴ中		2015/7/30	砥石	3	Sa	11.10	3.40	4.50	184.40		55
	255		P	20		Ⅴ上		2015/7/28	砥石	5	Sa	(4.60)	3.95	6.50	153.00		62
	256		W	22		Ⅴ上		2015/7/16	砥石	5	Sa	(11.30)	6.15	7.20	514.80		64
	257	北盛土	L	21		MⅡ上		2015/8/31	砥石	8	Sa	13.60	10.40	(9.60)	1680.00		61
	258		U	24		カクラン		2015/5/28	砥石	8	Tu	(11.20)	6.40	(16.00)	1190.00		224
図Ⅴ-111	259		H	22		Ⅴ中～下		2015/8/5	石錘	1	Sa	7.90	3.30	9.85	324.80		24
	260		P	22		Ⅴ上		2015/7/28	石錘	1	Sa	8.90	2.50	12.00	337.00		35
	261	北盛土	J	22	B	MⅡ下		2015/9/17	石錘	1	Sa	10.10	2.40	11.20	347.00		26
	262	北盛土	K	22	D	MⅡ中		2015/9/30	石錘	1	Sa	10.00	3.20	10.40	387.40		25
	263	南盛土	U	22		MⅠ		2015/8/7	石錘	4	Dio	7.30	2.15	10.95	239.20		43
	264	北盛土	J	22	C	MⅡ中		2015/9/18	石錘	4	Sa	7.50	3.35	10.95	293.40		41
	265	南盛土	T	21	C	MⅡ中		2015/9/24	石錘	4	Sa	7.35	3.30	9.70	289.60		47
	266	北盛土	I	23		MⅠ		2015/7/31	石錘	4	Sa	6.10	3.35	11.55	290.80		31
	267	北盛土	K	20		MⅠ		2015/10/5	石錘	4	Sa	7.70	3.35	9.85	305.60		27
	268		U	21		Ⅴ上		2015/7/15	石錘	4	Sa	7.80	3.90	11.20	452.20		37
図Ⅴ-112	269	北盛土	K	22	D	MⅡ下		2015/9/28	石錘	1	Sa	6.15	2.10	7.20	116.00		23
	270	北盛土	J	23		MⅠ		2015/7/29	石錘	1	Sa	6.20	3.20	8.15	168.20		40
	271	北盛土	J	21	B	MⅡ中		2015/9/10	石錘	1	Sa	6.95	2.90	7.95	187.60		46
	272		U	24		Ⅴトレンチ		2015/7/10	石錘	1	Sa	8.40	1.95	8.60	169.80		45
	273	南盛土	U	20	A	MⅡ上		2015/9/15	石錘	1	Gn	6.20	1.40	7.25	98.20		29
	274	南盛土	U	21	B	MⅡ上		2015/9/14	石錘	4	Sa	5.60	3.10	7.50	129.20		36
	275	南盛土	U	21	B	MⅡ上		2015/9/14	石錘	4	Sa	5.80	3.75	7.40	186.00		36
	276		K	23		Ⅴ上		2015/7/30	石錘	1	Sa	3.10	1.10	5.80	23.00		48
	277	北盛土	ベルトB	⑫		MⅡ		2015/10/19	石錘	4	Sa	10.50	2.85	12.30	492.20		32
	278	北盛土	K	22	D	MⅡ中		2015/9/30	石錘	4	Sa	7.80	3.65	12.65	435.80		38
	279	削平部分	O	21		Ⅶ直上		2015/9/30	石錘	4	Sa	4.00	1.40	5.00	28.80		153
図Ⅴ-113	280	南盛土	U	21		MⅠ		2015/8/31	石錘	2	Sa	10.00	2.65	8.85	256.20		34
	281	南盛土	S	20		MⅠ		2015/8/20	石錘	2	Sa	9.80	2.60	9.10	244.40		33
	282	北盛土	J	22	C	MⅡ中		2015/9/18	石錘	4	Sa	8.20	4.50	10.20	435.40		30
	283	南盛土	S	19		MⅠ		2015/9/1	石錘	1	Sa	7.50	2.60	9.10	182.20		44
	284	北盛土	J	21		MⅡ上		2015/9/4	石錘	3	Sa	7.25	2.10	8.15	145.40		28
	285	南盛土	U	21		MⅠ		2015/8/19	石錘	3	Sa	6.10	1.45	7.80	83.00		39
	286	南盛土	S	20		MⅠ		2015/8/20	石錘	3	Sa	6.05	1.65	6.40	58.60		42
	287	北盛土	L	20	D	MⅡ	650	2015/9/11	加工痕ある礫		Sa	25.10	6.25	18.40	2760.00		212
図Ⅴ-114	288	北盛土	J	21	D	MⅠ	361	2015/8/21	加工痕ある礫		Sa	29.50	6.60	19.60	4110.00		211
	289	南盛土	T	22		MⅠ		2015/8/18	加工痕ある礫		Sa	21.50	9.85	20.00	5640.00		216
図Ⅴ-115	290	北盛土	L	22	D	MⅡ中～下	657	2015/9/14	加工痕ある礫		Sa	24.90	7.80	17.20	4130.00		213
	291		Z	23		Ⅴ		2015/7/29	加工痕ある礫		Sa	20.70	4.50	23.40	2450.00		210
	292	北盛土	J	24		MⅡ		2015/9/15	加工痕ある礫		Sa	21.50	6.70	17.40	2760.00		184
	293	南盛土	T	21	C	MⅡ中		2015/9/24	加工痕ある礫		Sa	16.80	6.95	19.40	2250.00		96
図Ⅴ-116	294		S	23		Ⅴ中		2015/7/16	加工痕ある礫		Sa	16.90	7.40	12.60	1710.00		197
	295	北盛土	K	21	A	MⅡ中		2015/9/11	加工痕ある礫		Sa	19.00	5.40	14.10	1940.00		185
	296		N	20		Ⅴ上		2015/7/29	加工痕ある礫		Sa	15.90	7.60	20.40	2680.00		191

掲載図番号		遺構	発掘区		小グリッド	層位	遺物番号	取り上げ日	遺物名	細分記号	石材	長さ	厚さ	幅	重さ	備考	実測番号
図Ⅴ-116	297	北盛土	J	22	A	MⅡ中		2015/9/14	加工痕ある礫		Sa	13.45	3.50	15.80	700.00		182
図Ⅴ-117	298		P	23		V		2015/10/15	加工痕ある礫		Sa	18.30	5.30	18.00	2890.00		192
	299		W	23		V上		2015/7/14	加工痕ある礫		Sa	17.00	4.20	15.60	1260.00		205
	300		W	21		V		2015/7/10	加工痕ある礫		Sa	19.65	5.60	12.40	1640.00		206
	301		壁			M		2015/10/27	加工痕ある礫		Sa	13.00	6.25	13.45	1340.00		207
	302	北盛土	L	23		MⅠ		2015/9/26	加工痕ある礫		Sa	19.30	3.80	11.50	1030.00		189
図Ⅴ-118	303		I	26		V		2015/8/24	加工痕ある礫		Sa	8.80	1.90	9.80	204.60		179
	304		U	20		V		2015/7/9	加工痕ある礫		Sa	7.60	2.85	12.10	342.60		200
	305	北盛土	K	22	C	MⅡ中		2015/10/1	加工痕ある礫		Sa	11.60	4.20	6.00	389.40		187
	306	北盛土	I	22		MⅠ		2015/8/4	加工痕ある礫		Sa	7.70	1.50	6.70	82.80		177
	307		W	22		V下		2015/7/17	加工痕ある礫		Sa	17.40	3.80	17.10	1420.00		204
	308	P-3				覆土		2015/10/7	加工痕ある礫		Sa	(8.70)	4.60	9.60	640.00		208
	309		W	21		V		2015/7/13	加工痕ある礫		Sa	14.80	4.45	13.70	970.00		201
図Ⅴ-119	310		S	23		V中		2015/7/16	加工痕ある礫		Dio	12.50	5.80	9.10	790.00		195
	311	H-6				覆土		2015/10/5	加工痕ある礫		Sa	8.10	5.50	13.10	1110.00		209
	312		R	24		V中		2015/9/8	加工痕ある礫		Sa	8.25	3.70	9.70	361.80		194
	313		R	24		V中		2015/9/7	加工痕ある礫		Sa	9.30	5.30	14.10	790.00		193
	314	南盛土	R	21		MⅠ		2015/8/20	加工痕ある礫		Sa	11.00	2.15	8.80	228.00		188
	315		M	21		Ⅲ		2015/6/25	加工痕ある礫		Sa	10.00	2.55	5.45	142.80		190
	316		W	22		V中		2015/7/17	加工痕ある礫		Sa	10.30	2.90	12.05	448.20		202
	317		G	26		V中		2015/7/23	加工痕ある礫		Sa	7.00	4.50	15.00	468.20		176
	318		S	24		V上		2015/9/1	加工痕ある礫		Sa	11.30	2.80	8.15	298.00		199
図Ⅴ-120	319	南盛土	U	21	B	MⅡ	624	2015/9/9	加工痕ある礫		Sa	38.40	10.70	28.60	12960.00		217
	320	南盛土	U	20	A	MⅡ	612	2015/9/9	加工痕ある礫		Sa	34.80	7.75	22.00	6270.00		214
図Ⅴ-121	321	南盛土	T	21	B	MⅡ	599	2015/9/9	石皿	A	Sa	53.20	9.20	31.40	23.00		80
	322	北盛土	K	21	A	MⅡ上	445	2015/8/25	石皿	A	Sa	43.40	13.40	30.40	29.50		10
	323	南盛土	K	19	A	MⅡ	645	2015/9/11	石皿	A	Sa	42.20	9.80	25.80	16.00		2
	324	北盛土	J	21	B	MⅡ中	662	2015/9/14	石皿	A	Sa	46.00	12.60	42.20	30.50		79
図Ⅴ-122	325	南盛土	U	21	D	MⅠ	616	2015/9/9	石皿	A	Sa	46.60	10.00	33.40	16.00		3
	326	北盛土	K	22	B	MⅠ	452	2015/8/25	石皿	A	Sa	49.20	10.00	33.60	16.50		15
	327	北盛土	J	22	B	MⅡ下	700	2015/10/1	石皿	A	Sa	50.20	10.80	38.40	25.00		75
	328	北盛土	H	24	B	MⅠ	664	2015/9/16	石皿	A	Sa	47.00	11.40	34.60	23.50		5
図Ⅴ-123	329	南盛土	U	20	C	MⅠ	605	2015/9/9	石皿片	A	Sa	43.20	8.40	29.20	8.50		51
	330	H-9	K	21		覆土		2015/10/13	石皿	A	Sa	28.00	6.00	21.60	5.00	被熱	38
	331	北盛土	K	22	C	MⅠ	450	2015/8/25	石皿	A	Sa	31.00	11.00	23.20	12.50		33
	332	南盛土	U	20	D	MⅡ	602	2015/9/9	石皿片	A	Sa	32.80	7.60	30.40	9.00		24
	333	北盛土	J	20	B	MⅡ上	399	2015/8/24	石皿	A	Sa	32.00	6.60	29.20	11.50		20
	334	北盛土	K	21	A	MⅡ中	697	2015/10/1	石皿	A	Sa	35.00	10.60	33.40	(15.50)		12
	335	南盛土		20	D	MⅡ	601	2015/9/9	石皿片	A	Sa	24.40	4.60	22.00	3.50	被熱	52
図Ⅴ-124	336	北盛土	L	22	D	MⅡ上	457	2015/8/25	石皿	A	Sa	47.40	13.80	38.80	30.50		77
	337						不明6		石皿	A	Sa	49.60	12.00	48.20	29.50		78
	338	南盛土	U U	21 20	C	MⅡ MⅠ	619	2015/9/9 2015/8/25	石皿片	A	Sa	37.80	7.80	23.40	6.50		49
図Ⅴ-125	339	北盛土	J J	23 23	A B	MⅡ中～下 MⅡ中～下	669 670	2015/9/16	石皿	A	Sa	(54.00)	12.00	46.60	(35.00)		74
	340	北盛土	ベルトB	⑮		MⅡ中		2015/10/19	石皿	A	Sa	31.00	8.60	18.40	8.50		34
	341	北盛土	J	19	B	MⅡ中		2015/10/1	石皿	A	Sa	36.00	11.20	18.20	13.50		29
	342	北盛土	K K	22 22	D D	MⅡ中 MⅡ上		2015/9/25 2015/9/24	石皿	A	Sa	27.00	4.20	13.00	2.50	1点接合 2点接合	56
	343	F-12	J	23		Ⅲ上	268	2015/6/24	石皿	A	Sa	30.80	8.00	16.20	5.50		47
図Ⅴ-126	344	北盛土	J	19	B	MⅡ	711	2015/10/6	石皿	B	Sa	37.80	10.60	34.60	17.00		8
	345	北盛土	K	22	A	MⅡ下		2015/9/25	石皿	B	Sa	29.20	13.40	21.00	9.00		36
	346	北盛土	J	21	D	MⅡ上	405	2015/8/24	石皿	B	Sa	32.20	7.80	24.40	7.00		27
	347	南盛土	U	20	D	MⅡ上	729	2015/10/20	石皿	B	Sa	40.00	9.80	32.40	19.00		6
図Ⅴ-127	348		W X	21 21	B	包含層 V中	275	2015/7/29 2015/7/16	石皿	B	Sa	50.60	8.80	19.00	11.50	2点接合	41
	349	北盛土	J	19	B	MⅡ中		2015/10/1	石皿	B	Sa	34.20	10.00	28.80	14.00		35
	350	北盛土	I J	21 24	B	MⅡ中 Vトレンチ		2015/9/3 2015/7/7	石皿	B	Sa	36.60	6.40	21.20	4.00		55
	351		Y	21		V		2015/7/8	石皿	B	Sa	33.20	8.00	23.40	7.50		43
	352	北盛土	K	20	A	MⅡ中		2015/9/18	石皿	B	Sa白	19.20	5.20	12.20	1.50		63
図Ⅴ-128	353		K	20		V上		2015/8/6	石皿	B	Sa白	32.80	6.60	17.20	4.00		21
	354		J	23		Ⅲ上	269	2015/6/24	石皿	B	Sa	27.60	9.40	16.60	5.00		31
	355	南盛土	R	21	A	MⅡ上		2015/9/10	石皿	B	Sa白	26.80	5.80	17.00	2.50		57
	356		K	22		Ⅲ		2015/6/16	石皿	B	Sa	29.00	4.40	13.80	2.10		61
	357		P	24		V		2015/7/6	石皿	B	Sa	14.00	5.40	10.00	1.00		73
	358	北盛土	J	22	C	MⅡ上	427	2015/8/24	石皿	B	Sa	20.00	7.40	13.20	2.50	被熱	30
	359		P	20		V中		2015/9/30	石皿	B	Sa	23.40	11.00	8.40	3.20	被熱	70
	360	南盛土	T	21	A	MⅡ上		2015/9/18	石皿	B	Sa	12.60	6.40	14.60	1.50	被熱	72
	361	北盛土	I	23		MⅠ		2015/7/31	石皿	B	Sa	35.80	4.60	19.20	4.50		44
	362		T	20		Ⅲ		2015/6/29	石皿	B	Sa	31.00	13.00	14.60	8.00		39
	363	P-2					2	2015/9/17	石皿片	B	Sa	30.40	12.20	20.40	10.00		54
	364	H-6				覆土		2015/10/5	石皿片	B	Sa	19.40	10.00	14.40	3.60		68
	365	南盛土	T	21	C	MⅡ中		2015/9/24	石皿	B	Sa	20.40	6.20	16.80	1.80		66
図Ⅴ-129	366	北盛土	K	22	D	MⅠ	451	2015/8/25	石皿	B	Sa	25.20	8.80	10.20	3.20		69
	367	南盛土	T T	21 22	A	MⅡ中 MⅠ		2015/9/24 2015/8/18	石皿	B	Sa	19.60	4.80	11.40	1.60	被熱	64
	368	南盛土		21	D	MⅠ	613	2015/9/9	石皿	B	Sa	14.00	7.60	10.20	1.60		53
	369	南盛土	T	21	C	MⅡ	587	2015/9/9	石皿	B	Sa	20.60	5.80	21.80	2.50		50
	370	北盛土	H	23		MⅠ		2015/9/15	石皿	B	Sa	24.20	5.60	17.40	2.40		59
	371	北盛土	J	21	D	MⅡ上	418	2015/8/24	石皿片	B	Sa	34.60	9.20	18.20	8.00		32
	372	北盛土	L	21		MⅡ上		2015/9/24	石皿	B	Sa	26.80	12.00	21.60	8.50		37
	373	削平部分	P	21	B	Ⅶ上面	709	2015/10/6	石皿	C	Sa	39.00	8.40	29.00	13.00	赤色顔料付着	16
	374		P	23		V中		2015/8/6	石皿	C	Sa	25.00	9.00	16.80	6.00	被熱	22
図Ⅴ-130	375	北盛土	J	21	D	MⅡ上	406	2015/8/24	石皿片	C	Sa	44.40	12.40	27.20	23.50		13
	376		X	21		V上		2015/7/15	石皿	C	Sa	26.20	8.40	23.00	8.00		45
	377	北盛土	J	21	B	MⅡ上	424	2015/8/24	石皿	C	Sa	26.40	6.20	22.20	5.00		46
	378		L	23	C	V中		2015/9/28	石皿	C	Sa	31.40	10.20	18.20	7.00		40
	379	北盛土	K	22	D	MⅡ中	658	2015/9/14	石皿	D	Sa	42.00	10.40	23.20	13.50		19
図Ⅴ-131	380	南盛土	T	21	B	MⅡ	717	2015/10/6	石皿	D	Sa	55.60	11.40	31.00	28.00		4
	381	北盛土	J	21	B	MⅡ中	663	2015/9/14	石皿	D	Sa	53.40	11.20	31.60	28.50		7
	382	南盛土	V	21	D	MⅡ	635	2015/9/9	石皿片	D	Sa	47.80	10.80	21.40	11.50		23
	383	北盛土	J	20	B	MⅡc		2015/9/15	石皿片	D	Sa	39.20	9.20	20.20	10.00	被熱	1
図Ⅴ-132	384	南盛土	V	20	D	MⅠ	631	2015/9/9	石皿	D	Sa	49.20	9.80	30.80	16.50		17
	385	北盛土	J	21	B	MⅡ上	423	2015/8/24	石皿	D	Sa	39.00	11.40	34.80	18.50		81
	386	北盛土	J	20		MⅠ		2015/7/29	石皿	D	Sa	24.60	9.40	22.20	6.50	被熱	26
	387	北盛土	J	23	D	MⅡ中		2015/9/10	石皿	D	Sa	18.40	9.20	17.40	3.90		62
	388		H	25		V		2015/8/24	石皿	D	Sa	22.20	7.80	11.40	2.90		60
	389	H-6				覆土		2015/10/5	石皿	D	Sa	28.40	8.20	14.60	4.50		42
図Ⅴ-133	390	北盛土	J	20	B	MⅡ上	400	2015/8/24	石皿	E	Sa	27.40	8.00	22.40	5.50		48
	391	南盛土	U	22		MⅠ		2015/8/17	石皿	E	Sa	23.80	6.20	19.40	3.50		65
	392		K	20		V上		2015/8/6	石皿	E	Sa	25.00	7.40	17.80	4.50		71
	393	北盛土	M	22		MⅠ		2015/8/26	石皿片	E	Sa	27.00	5.20	15.00	2.50		58

掲載図番号		遺構	発掘区		小グリッド	層位	遺物番号	取り上げ日	遺物名	細分記号	石材	長さ	厚さ	幅	重さ	備考	実測番号
図Ⅴ-133	394	北盛土	J	21	D	MⅡ上	413	2015/8/24	石皿	E	Sa	29.00	7.40	17.80	4.50		28
	395	北盛土	J	20	B	MⅡc		2015/9/15	石皿片	E	Sa	20.00	9.40	19.00	5.10		67
図Ⅴ-134	396	北盛土	J	21	D	MⅠ	409	2015/8/24	石皿片	E	Sa	36.40	11.00	38.60	15.50		14
	397	南盛土	S	22	C	MⅡ	577	2015/9/9	石皿	E	Sa	41.20	11.20	35.40	25.00		76
	398	北盛土	J	20	D	MⅡ中	666	2015/9/16	石皿片	E	Sa	41.00	9.00	35.80	17.50		11
図Ⅴ-135	399	南盛土	T	21	D	MⅡ中～下	583	2015/9/9	石皿	E	Sa	56.80	11.60	50.60	56.50		82
図Ⅴ-136	400	北盛土	K	21	B	MⅡ上		2015/9/18	焼成粘土塊			5.10	2.50	1.80	16.90		
	401	南盛土	S	20		MⅠ		2015/8/20	焼成粘土塊			3.10	2.30	1.90	8.80		
	402		Q	24		Ⅴ上		2015/9/9	玉		Ser	1.90	1.10	0.50	1.70		
	403	削平部分	ベルトC③			Ⅶ直上		2015/9/29	玉		緑泥石岩	1.00	0.70	0.50	0.50		
	404	北盛土	J	23	A	MⅡ中		2015/9/10	石製品		Sa	3.10	1.00	2.60	10.20		164
	405		Q	23		Ⅴ中		2015/8/19	石製品		Grs	5.20	3.30	0.40	7.90		
	406		L	21		Ⅲ		2015/6/25	石製品		Sa	6.00	2.60	0.90	21.50		
	407	北盛土	I	21		MⅠ		2015/7/29	有孔自然石		Ms	13.40	5.65	6.30	497.00		171
	408	北盛土	J	20		MⅠ		2015/7/29	有孔自然石		Ms	14.20	3.25	8.20	378.80		170
	409	北盛土	J	22		MⅠ		2015/8/3	有孔自然石		Ms	5.20	(1.10)	4.40	24.40		169
	410		H	26		Ⅴ中		2015/7/28	有孔自然石		Sa	6.50	1.60	6.70	77.00		167
	411		Y	23		Ⅴ上		2015/7/17	有孔自然石		Ms	6.25	1.70	4.50	43.60		166
	412		T	22		Ⅴ上		2015/7/15	有孔自然石		Ms	6.50	2.70	3.90	43.20		165
	413	北盛土	J	23	A	MⅡ上		2015/9/9	有孔自然石		Sa	7.20	3.25	4.20	93.40		168
図Ⅴ-137	414	北盛土	J	22	C	MⅡ下		2015/9/17	石製品		Sa	14.70	2.80	15.50	800.00		183
	415	北盛土	J	22	B	MⅡ下	692	2015/7/4	石製品		Sa	14.15	2.40	14.50	474.00		180
	416	北盛土	K	21	B	MⅡ下		2015/9/25	石製品		Sa	12.90	3.05	12.90	690.00		186
	417	北盛土	J	20		MⅡ上		2015/9/4	石製品		Sa	8.75	1.50	8.40	129.00		181
	418		W	23		Ⅴ		2015/7/13	石製品		Sa	5.25	1.50	5.80	55.20		203
	419	南盛土	R	23		MⅠ		2015/8/26	石製品		Sa	5.80	1.50	6.10	52.60		196
	420	南盛土	T	21	D	MⅡ中		2015/9/24	石製品		Sa	4.80	1.20	5.20	33.80		198
	421	北盛土	I	24	C	MⅡ中		2015/9/10	石製品		Sa	6.00	1.50	5.50	50.60		178
	422	北盛土	K	23		MⅡ上		2015/9/3	石製品		Sa	6.95	1.40	6.95	89.80		172
	423	南盛土	U	21		MⅠ		2015/8/28	石製品		Sa	4.80	1.30	5.80	49.60		173
	424		S	24		Ⅴ		2015/7/8	石製品		Sa	5.10	1.10	6.10	41.40		174
	425	北盛土	I	24		盛土		2015/7/8	円礫		Dio	13.00	3.30	12.20	850.00		175

表Ⅴ－11　掲載骨角器一覧

図版番号	掲載番号	遺構	発掘区		小グリッド	層位	遺物番号	取り上げ日	遺物名	器種名	長さ	厚さ	幅	重さ	小分類	部位名	備考	資料番号
図Ⅴ-138	426	VP-3				覆土		2015/10/2	骨角器	不明	(5.20)	(0.90)	(0.70)	7.90	海獣	肋骨		
図版92	427		J	21	B	MⅡc		2015/9/15	骨角器	骨針？	22.00	2.70	2.70	0.22	シカ	中手中足骨		6
図版92	428		T	21	B	MⅡ下		2015/9/25	骨角器	骨針？	11.40	2.60	2.80	0.16	シカ	中手中足骨		283
図版92	429		K	21	C	Ⅴ上		2015/10/2	骨角器	骨針？	5.10	2.60	3.50	0.08	シカ	中手中足骨	ベルト	180

表Ⅴ－12　石斧接合資料一覧

掲載番号	接合番号	遺構名	グリッドアルファベット	グリッド数字	遺物番号	層位	器種名	A	B	C	D	E	石質	備考	接合形態	地区	接合距離概算(m)	接合器種	接合点数	接合結果	推定破損原因
116	1		R	21		MⅠ	石斧			○	○		Grs		1	南南	10	石斧+フレイク	2	石斧	研磨 使用痕跡
			T	21		Ⅴ上	フレイク	○			○		Grs		1						
147	2		R	21D	477	MⅠ	石斧				○		Grs	被熱	1	南南	7.6	石斧+石斧破片	2	石斧片	研磨
			S	20		MⅠ	石斧破片				○		Grs	被熱	1						
123	3		U	21C	549	MⅡ	石斧		○		○		Grs	被熱	1	南南	2.5	石斧+石斧片	2	石斧	被熱
			U	21D		MⅡ上	石斧片				○		Grs	被熱	1						
136	4		U	20B	538	MⅡ	石斧加工品	○				○	Grs	被熱	1	南南	9.5	石斧加工品+フレイク	2	石斧加工品	剥離接合
			S	22		Ⅴ上	フレイク	○			○		Grs	被熱	1						
121	5		J	20		MⅠ	石斧				○		G-Tu		1	北上	37	石斧+石斧片	2	石斧	研磨
			P	24		Ⅴ上	石斧片				○		G-Tu		1						
125	6		J	21		MⅠ	石斧				○		Grs		1	北北	15	石斧+石斧片	2	石斧	研磨
			I	24C		MⅡ中	石斧片				○		Grs		1						
	7		J	23D		MⅡ中	石斧		○		○	○	Grs	被熱	1	北北	14	石斧+フレイク	2	石斧	敲打
			J	20		MⅠ	フレイク	○				○	Grs	被熱	1						
120	8		M	21		Ⅴ上	石斧				○		Grs		1	南北	30	石斧+石斧片	2	石斧	使用 （刃こぼれ）
			R	24		Ⅴ中	石斧片				○		Grs		1						
118	9		K	19		Ⅴ上	石斧		○		○		Grs		1	北北	0	石斧+石斧加工品	2	石斧	研磨
			K	19		Ⅴ上	石斧加工品		○		○		Grs		1						
	10		K	21A		MⅡA	石斧				○		Grs		1	北北	9	石斧+石斧加工品	2	石斧	研磨？
			L	20		Ⅴ上	石斧加工品				○	○	Grs		1						
	11		L	22		Ⅴ上	石斧				○		Grs	被熱	1	北北	5	石斧+フレイク	2	石斧	被熱
			K	22		Ⅴ上	フレイク	○			○		Grs	被熱	1						
	12		R	21		MⅠ	石斧				○		Gls		1	南南	28	石斧+石斧片	2	石斧	剥離折れ
			W	23		Ⅴ上	石斧片				○		Gls		1						
	13		R	23		Ⅴ	石斧				○		Grs	石のみ	1	南南	15	石斧+石斧	2	石のみ	研磨
			T	21D		MⅡ中	石斧				○		Grs		1						
126	14		S	23		Ⅴ上	石斧				○		Grs	石のみ	1	南北	31	石斧+石斧破片	2	石のみ	研磨 使用か？
			M	22		Ⅴ上	石斧破片				○		Grs		1						
124	15		V	21		MⅠ	石斧				○		Grs	被熱	1	南北	47	石斧+石斧片	3	石斧	被熱
			M	22		Ⅴトレ	石斧片				○		Grs	被熱	1						
			V	20		MⅠ	石斧片				○		Grs	被熱	1						
	16		T	24		Ⅴ上	石斧				○		Grs		1	南南	19	石斧+石斧片	2	石斧	研磨
			R	21		Ⅴ下	石斧片				○		Grs	被熱	1						
	17		U	20		MⅠ	石斧片				○		Grs		1	南南	5	石斧片+石斧原材	2	石斧加工品	研磨
			T	20		Ⅴ上ベルト	石斧原材	○			○	○	Grs		1						
145	18	S-9	R	21	119	Ⅲ	石斧片				○		Grs	被熱	1	南北	41	石斧片+石斧破片	3	石斧片	被熱
			J	22		MⅠ	石斧破片				○		Grs	被熱	1						
			M	20		Ⅴ中	石斧破片				○		Grs	被熱	1						
	19	P-2				覆土	石斧破片				○		Grs	被熱	1	南南	0	石斧片+石斧破片	2	石斧片	被熱
			U	21		MⅠ	石斧片		○		○		Grs	被熱	1						
141	20		I	21		Ⅴ上	石斧片				○		Grs	被熱	1	南北	56	石斧片+石斧破片	6	石斧再加工品	被熱
			I	21		Ⅴ上	石斧片				○		Grs	被熱	1						
			J	22A		MⅡ中	石斧片				○		Grs	被熱	1						
			L	23		Ⅴ上	石斧片				○		Grs	被熱	1						
			T	21		Ⅴ上	石斧破片				○		Grs	被熱	1						
			T	21		Ⅴ上	石斧破片				○		Grs	被熱	1						

掲載番号	接合番号	遺構名	グリッドアルファベット	グリッド数字	遺物番号	層位	器種名	A	B	C	D	E	石質	備考	接合形態	地区	接合距離概算(m)	接合器種	接合点数	接合結果	推定破損原因
	21		J	21		MⅠ	石斧片				○		Grs		1	北北	0	石斧片+石斧加工品	2	石斧	研磨
			J	21		MⅠ	石斧加工品	○			○	○	Grs		1						
	22		J	21B		MⅡ中	石斧片				○		Grs	刃部	1	北北	9	石斧片+石斧片	2	石斧	研磨？
			L	22		Ⅴ上	石斧片				○		Grs		1						
	23		K	20		MⅡ	石斧片				○		Grs	被熱	1	北北	4	石斧片+石斧破片	2	石斧片	被熱
			K	21杭		MⅡ	石斧破片				○		Grs	被熱	1						
	24		K	22C		MⅡ上	石斧片			○	○		Grs	被熱	1	北北	9	石斧片+石斧破片	2	石斧片	被熱
			M	22		Ⅴ上	石斧破片			○	○		Grs	被熱	1						
119	25		K	22D		MⅡ上	石斧片				○		Grs		1	南北	58	石斧片+石斧片	2	石斧	研磨
			V	21		MⅠ	石斧片				○		Grs		1						
139	26		K	24		Ⅲ	石斧片		○		○		Grs	被熱	1	南北	51	石斧再加工品+石斧片	2	石斧再加工品	敲打
			T	20		MⅠ	石斧再加工品	○	○		○		Grs		1						
	27		K	24		Ⅴ上	石斧片				○		Grs	被熱	1	北北	0	石斧片+石斧片	2	石斧	研磨
			K	24		MⅡ上	石斧片				○		Grs	被熱	1						
	28		L	23		Ⅲ	石斧片			○	○		Grs	被熱・基部	1	北北	5	石斧片+石斧片	2	石斧	使用
			M	23		Ⅴ中	石斧片			○	○		Grs	被熱	1						
	29		N～Q	19		Ⅲ	石斧片		○		○		Grs	被熱	1	上北	不明	石斧片+石斧破片	2	石斧片	敲打
			K	23		Ⅴ上	石斧破片		○		○	○	Grs		1						
117	30		Q	20		Ⅴ下	石斧片				○		Grs	被熱	1	上南	26	石斧片+石斧破片	3	石斧	被熱？
			V	21		MⅠ	石斧片				○		Grs	被熱	1						
			V	21		MⅠ	石斧破片				○		Grs		1						
144	31		T	20		Ⅴ上	石斧片				○		Grs	被熱	1	南上	22	石斧加工品+石斧片	2	石斧再加工品	被熱
			Q	23		Ⅴ中	石斧再加工品	○	○		○		Grs	被熱	1						
	32		T	23		Ⅴ中	石斧片		○		○		Grs	被熱	1	南北	48	石斧片+フレイク	2	石斧片	敲打・剥離接合
			K	23D		MⅡ中	フレイク	○			○		Grs	被熱	1						
140	33		U	21		MⅠ	石斧片		○		○		Grs		1	南南	0	石斧加工品+石斧片	2	石斧加工品	研磨か？
			U	21		MⅠ	石斧加工品		○		○		Grs		1						
	34		W	24		Ⅴ	石斧片				○		Grs	被熱	1	南南	7	石斧片+石斧破片	2	石斧片	被熱？
			X	23		Ⅴ	石斧破片				○		Grs	被熱・ﾄﾚﾝﾁ	1						
138	35	H-6				覆土	石斧破片				○		Grs	被熱	1	南北	59	石斧加工品+石斧破片	3	石斧加工品	被熱
			T	22		MⅠ	石斧加工品		○		○		Grs	被熱	1						
	36		H	22		Ⅴ中～下	石斧破片				○		Grs		1	北北	15	石斧破片+石斧破片	2	石斧片	使用
			K	21A		MⅡ上	石斧破片	○			○		Grs	被熱	1						
	37		J	22		MⅡ中	石斧破片				○		Grs	被熱	1	北北	5	石斧破片+石斧破片	3	石斧加工品	敲打
			J	23B		MⅡ中	石斧破片				○		Grs	被熱	1						
			J	23C		MⅡ下	石斧破片				○		Grs	被熱	1						
	38		L	22		Ⅴ中	石斧破片		○		○		Grs		1	北北	5	石斧破片+フレイク	2	石斧調整剥片	剥離接合
			L	23		MⅡ中	フレイク	○			○		Grs		1						
	39		S	21		Ⅴ	石斧破片				○		Grs	被熱・ﾄﾚﾝﾁ	1	南南	5	石斧破片+石斧破片	2	石斧破片	被熱
			T	21		Ⅴ上	石斧破片				○		Grs	被熱	1						
	40		V	21		MⅠ	石斧破片				○	○	Grs	被熱	1	南南	16	石斧破片+フレイク	2	石斧加工剝片	剥離接合
			S	20		MⅠ	フレイク	○				○	Grs	被熱	1						
129	41		H	23		Ⅴ中～下	石斧加工品	○	○		○	○	Grs		1	南北	72	石斧加工品+石斧加工品	2	石斧加工品	剥離折れ
			V	24C		Ⅴ	石斧加工品	○	○				Grs		1						
	42		H	24		Ⅴ中～下	石斧加工品	○	○			○	Grs		1	北北	22	石斧加工品+石斧再加工品	2	石斧加工品	研磨
			K	21B		MⅡ中	石斧再加工品	○			○	○	Grs		1						
	43		I	22		MⅠ	石斧加工品	○				○	Grs		1	北北	16	石斧加工品+石斧加工品	2	石斧加工品	剥離折れ
			I	25		Ⅴ上	石斧加工品	○				○	Grs		1						
	44		J	21		MⅡ上	石斧加工品	○	○			○	Grs		1	北北	0	石斧加工品+フレイク	2	石斧加工品	剥離接合
			J	21		MⅡ上	フレイク	○					Grs		1						
130	45		K	22		Ⅴ上	石斧加工品	○				○	Grs		1	北北	6	石斧加工品+石斧加工品	2	石斧加工品	剥離折れ
			J	23C		MⅡ中	石斧加工品	○	○				Grs		1						
128	46		K	19		Ⅴ上	石斧加工品	○	○			○	Grs		1	南北	54	石斧加工品+石斧加工品	2	石斧加工品	剥離折れ
			U	21B		MⅡ上	石斧加工品	○	○			○	Grs		1						
	47		K	20		Ⅲ風倒木	石斧加工品		○		○		Dol	被熱	1	南北	53	石斧加工品+石斧破片+フレイク	4	石斧再加工品	剥離接合
			K	20		Ⅲ風倒木	石斧破片				○		Dol		1						
			K	22D		MⅡ上	フレイク	○			○		Dol	被熱	1						
			U	23		Ⅶ直上	フレイク	○				○	Dol	鉄分付着	1						
127	48		K	21		MⅠ	石斧加工品	○	○			○	Grs	被熱	1	北12 南1	57	石斧加工品+フレイク	13	石斧加工品	被熱・剥離接合剥離折れ
			M	20		Ⅴ下	石斧加工品	○					Grs	被熱	1						
			J	21		MⅡ上	フレイク	○				○	Grs	被熱	1						
			M	20		Ⅴ上	フレイク	○	○			○	Grs		1						
			M	20		Ⅴ上	フレイク	○					Grs		1						
			M	20		Ⅴ中	フレイク	○					Grs	被熱	1						
			M	20		Ⅴ下	フレイク	○					Grs	3点接合	1						
			M	20		Ⅶ直上	フレイク	○					Grs		1						
			M	20		Ⅶ直上	フレイク	○	○			○	Grs		1						
			M	21		Ⅴ中	フレイク	○				○	Grs	被熱	1						
			U	22		MⅠ	フレイク	○	○				Grs	被熱	1						
	49		L	20		Ⅴ上	石斧加工品	○				○	Grs	被熱	1	北北	16	石斧加工品+フレイク	2	石斧加工品	剥離折れ
			K	23		Ⅴ上	フレイク	○				○	Grs		1						
	50		K	21D		MⅡ中	石斧原材	○	○			○	Grs		1	北北	8	石斧加工品+石斧原材	2	石斧加工品	敲打
			L	20		Ⅴ上	石斧加工品	○	○			○	Grs		1						
132	51		L	21		Ⅴ上	石斧加工品	○	○			○	Grs		1	北上	26	石斧加工品+石斧加工品	2	石斧加工品	剥離折れ
			Q	20		Ⅴ下	石斧加工品	○				○	Grs		1						
	52		L	22B		Ⅴ下	石斧加工品	○	○			○	Grs		1	北北	4	石斧加工品+石斧加工品	2	石斧加工品	剥離折れ
			M	22		Ⅴ	石斧加工品	○				○	Grs		1						
	53		L	23		Ⅲ	石斧加工品	○	○			○	Grs		1	北北	7	石斧加工品+石斧加工品	2	石斧加工品	剥離折れ
			M	22		Ⅴ中	石斧加工品	○	○			○	Grs		1						
143	54		M	22		Ⅴ中	石斧加工品	○					Grs		1	北北	4	石斧加工品+石斧再加工品	2	石斧再加工品	剥離折れ
			M	23D		Ⅶ直上	石斧再加工品	○			○		Grs		1						
137	55		M	23		Ⅴ中	石斧加工品	○	○		○	○	Grs		1	北北	5	石斧加工品+石斧再加工品	2	石斧加工品	敲打
			M	24		Ⅴ下	石斧再加工品		○		○		Grs	ﾄﾚﾝﾁ	1						
	56		M	24		Ⅴ中	石斧加工品	○	○			○	Grs		1	北上	12	石斧加工品+フレイク	2	石斧加工品	剥離折れ
			N	22		Ⅴ中	フレイク	○				○	Grs		1						
133	57		O	21		Ⅴ上	石斧加工品	○				○	Grs		1	上上	15	石斧加工品+フレイク	3	石斧加工品	剥離接合
			O	22		Ⅴ中	フレイク	○				○	Grs		1						
			O	24		Ⅴ上	フレイク	○					Grs	被熱	1						
	58		O	23		Ⅴ上	石斧加工品	○	○			○	Grs		1	上上	5	石斧加工品+石斧加工品	2	石斧加工品	剥離折れ
			O	24		Ⅴ	石斧加工品	○	○			○	Grs		1						
	59		Q	20		Ⅴ中	石斧加工品	○				○	Grs	被熱	1	上南	38	石斧加工品+フレイク	2	石斧加工剝片	剥離折れ
			X	22		Ⅴ中	フレイク	○				○	Grs	被熱	1						
	60		Q	22		Ⅴ上	石斧加工品	○	○		○		Grs		1	上南	12	石斧加工品+石斧加工品	2	石斧加工品	研磨
			R	24		Ⅴ中	石斧加工品	○			○		Grs		1						
	61		Q	24		Ⅴ中	石斧加工品	○	○			○	Grs		1	上南	26	石斧加工品+石斧加工品	2	石斧加工品	敲打
			U	21		Ⅲ	石斧加工品	○	○			○	Grs		1						
	62		R	23		Ⅴ	石斧加工品		○		○		Grs		1	南上	5	石斧加工品+石斧再加工品	2	石斧加工品	研磨
			Q	23		Ⅴ上	石斧再加工品	○	○		○		Grs		1						
	63		S	22		Ⅴ上	石斧加工品	○				○	Grs		1	南北	44	石斧加工品+フレイク	2	石斧加工品	剥離折れ
			K	19		Ⅴ上	フレイク	○				○	Grs		1						
135	64		T	20		Ⅴ	石斧加工品	○	○		○	○	Grs	被熱	1	南南	5	石斧加工品+石斧再加工品+石斧原材	3	石斧加工品	敲打
			U	20		Ⅴ	石斧再加工品	○	○		○		Grs	被熱	1						
			T	0ﾍﾞﾙﾄD			石斧原材	○	○			○	Grs	被熱	1						

掲載番号	接合番号	遺構名	グリッド アルファベット	グリッド 数字	遺物番号	層位	器種名	A	B	C	D	E	石質	備考	接合形態	地区	接合距離概算(m)	接合器種	接合点数	接合結果	推定破損原因
142	65		T	21		Ⅴ上	石斧加工品		○		○		Grs		1	南南	5	石斧加工品+石斧再加工品+石斧破片	3	石斧再加工品	敲打
			U	21		ⅤⅠ	石斧再加工品	○	○		○		Grs		1						
			U	21		ⅤⅠ	石斧破片		○		○		Grs		1						
131	66		T	23		Ⅴ	石斧加工品	○	○			○	Grs		1	南南	0	石斧加工品+石斧加工品	2	石斧加工品	剥離折れ
			T	23		Ⅴ中	石斧加工品	○	○			○	Grs		1			石斧加工品+石斧加工品			
	67		U	21		ⅤⅠ	石斧加工品	○	○		○	○	Grs	被熱	1	南南	5	石斧加工品+石斧片	2	石斧加工品	敲打
			V	21		ⅤⅠ	石斧片	○	○		○		Grs	被熱	1			石斧加工品+石斧片			
134	68		V	20		Ⅴ上	石斧加工品	○	○			○	Grs	被熱	1	南北	61	石斧加工品+フレイク	2	石斧加工品	剥離折れ
			J	20		ⅤⅠ	フレイク	○				○	Grs		1			石斧加工品+フレイク			
	69		W	21		Ⅴ	石斧加工品	○				○	Grs	被熱	1	南南	5	石斧加工品+フレイク	2	石斧加工品	被熱
			W	20		Ⅴ上	フレイク	○			○		Grs	被熱	1			石斧加工品+フレイク			
	70		W	23		Ⅴ中	石斧加工品	○	○		○		Gls		1	南南	26	石斧加工品+フレイク	2	石斧加工品	剥離折れ
			S	20		ⅤⅠ	フレイク	○					Gls		1			石斧加工品+フレイク			
149	71		G	23		Ⅴ上	石斧加工品			○	○	○	Grs		1	北北	16	石斧加工品+擦切残片	4	石斧加工品	擦切技法
			J	24		ⅤⅠ	石斧加工品	○	○	○	○	○	Grs		1			石斧加工品+擦切残片			
			J	24		ⅤⅡ上	石斧加工品	○	○	○	○	○	Grs		1			石斧加工品+擦切残片			
			I	24		ⅤⅠ	擦切残片	○		○			Grs		1			石斧加工品+擦切残片			
146	72		H	26		Ⅴ中	石斧再加工品	○	○		○		Grs	被熱	1	南北	65	石斧再加工品+フレイク	3	石斧再加工品	剥離接合
			K	22A		ⅤⅡ中	フレイク	○					Grs		1			石斧再加工品+フレイク			
			T	22		Ⅴ上	フレイク	○			○		Grs		1			石斧再加工品+フレイク			
	73		K	21D		ⅤⅡ下	石斧再加工品	○			○		Grs		1	北北	10	石斧再加工品+石斧再加工品	2	石斧再加工品	剥離折れ
			K	23D		ⅤⅡ中	石斧再加工品	○	○		○		Grs		1			石斧再加工品+石斧再加工品			
	74		T	24		Ⅴ中	石斧再加工品	○			○		Grs	被熱	1	南南	0	石斧再加工品+フレイク	2	石斧再加工品	被熱
			T	24		Ⅴ中	フレイク	○			○		Grs	被熱	1			石斧再加工品+フレイク			
151	75		I	25C		ⅤⅡ中	擦切残片			○		○	Grs		1	南北	56	擦切残片+擦切残片	2	擦切残片	擦切技法
			T	24		Ⅴ中	擦切残片			○		○	Grs		1			擦切残片+擦切残片			
150	76		J	21		ⅤⅠ	擦切残片	○	○	○	○	○	Grs		1	北上	36	擦切残片+擦切残片	2	石斧原材	擦切技法
			Q	21		Ⅴ上	擦切残片	○		○		○	Grs		1			擦切残片+擦切残片			
	77		J	21		ⅤⅡ上	擦切残片			○		○	Grs		1	北北	4	擦切残片+擦切残片	2	擦切残片	擦切技法
			K	21A		ⅤⅡ上	擦切残片			○		○	Grs		1			擦切残片+擦切残片			
	78		排土				擦切残片		○	○		○	Grs		1		不明	擦切残片+擦切残片	2	擦切残片	敲打
			排土				擦切残片	○		○	○		Grs	排土	1			擦切残片+擦切残片			
	79		H	23		Ⅴ上	石斧原材	○	○			○	Grs		1	北北	28	石斧原材+石斧原材	2	石斧原材	敲打
			M	21		Ⅴ上	石斧原材					○	Grs		1			石斧原材+石斧原材			
	80		H	23		Ⅴ上	石斧原材		○			○	Grs		1	北北	16	石斧原材+石斧原材	2	石斧原材	研磨？
			K	22D		ⅤⅡ中	石斧原材	○	○			○	Grs		1			石斧原材+石斧原材			
155	81		J	22		ⅤⅠ	石斧原材		○			○	Grs		1	南北	57	石斧原材+フレイク	5	石斧原材	敲打
			U	21		Ⅴ上	石斧原材					○	Grs		1			石斧原材+フレイク			
			U	21		ⅤⅠ	石斧原材		○			○	Grs		1			石斧原材+フレイク			
			U	22		ⅤⅠ	石斧原材		○			○	Grs		1			石斧原材+フレイク			
			U	22		Ⅴ中	フレイク	○				○	Grs		1			石斧原材+フレイク			
	82		K	21		ⅤⅠ	石斧原材	○				○	Grs		1	北北	7	石斧原材+フレイク	4	石斧原材	剥離折れ
			J	20		ⅤⅠ	フレイク	○				○	Grs		1			石斧原材+フレイク			
			J	20		ⅤⅠ	フレイク	○				○	Grs	被熱	1			石斧原材+フレイク			
			K	20		ⅤⅠ	フレイク	○				○	Grs		1			石斧原材+フレイク			
153	83		K	23		ⅤⅡ	石斧原材	○	○			○	Grs	被熱	1	南北	68	石斧原材+石斧原材	2	石斧原材	剥離折れ
			X	22		Ⅴ上	石斧原材	○				○	Grs	被熱	1			石斧原材+石斧原材			
	84		M	20		Ⅴ下	石斧原材	○	○			○	Grs		1	北上	5	石斧原材+石斧原材	2	石斧原材	剥離折れ
			N	20		Ⅶ上	石斧原材					○	Grs		1			石斧原材+石斧原材			
	85		M	24		Ⅴ下	石斧原材		○			○	Grs	被熱・トレンチ	1	南北	54	石斧原材+フレイク	2	石斧原材	剥離接合
			W	21		Ⅴ	フレイク	○				○	Grs		1			石斧原材+フレイク			
	86		M	23C		Ⅴ中	石斧原材	○				○	Grs		1	北上	5	石斧原材+石斧原材	2	石斧原材	剥離折れ
			N	23		Ⅴ上	石斧原材	○				○	Grs		1			石斧原材+石斧原材			
152	87		N	23		Ⅶ直上	石斧原材	○	○			○	Grs		1	上南	31	石斧原材+石斧原材	2	石斧原材	敲打
			T	22D		ⅤⅡ上	石斧原材		○			○	Grs		1			石斧原材+石斧原材			
	88		P	20		Ⅴ中	石斧原材	○				○	Ba		1	上南	27	石斧原材+フレイク	2	石斧原材	剥離接合
			U	20B		ⅤⅡ上	フレイク	○				○	Ba		1			石斧原材+フレイク			
	89		P	23		Ⅴ上	石斧原材		○			○	Grs		1	上上	5	石斧原材+石斧原材	2	石斧原材	敲打
			P	24		Ⅴ上	石斧原材	○	○			○	Grs		1			石斧原材+石斧原材			
	90		R	24		Ⅴ下	石斧原材					○	Grs	被熱	1	南上	22	石斧原材+フレイク	3	石斧原材	被熱
			S	20B		ⅤⅡ中	石斧原材	○				○	Grs		1			石斧原材+フレイク			
			P	23		Ⅴ	フレイク	○				○	Grs	被熱	1			石斧原材+フレイク			
	91		T	20A		ⅤⅡ上	石斧原材	○				○	Grs		1	南北	45	石斧原材+フレイク	2	石斧原材	剥離接合
			K	21		ⅤⅠ	フレイク	○	○			○	Grs		1			石斧原材+フレイク			
	92		U	20		ⅤⅠ	石斧原材	○				○	Gls	被熱	1	南南	11	石斧原材+フレイク	2	石斧原材	剥離接合
			V	22		ⅤⅠ	フレイク	○				○	Gls		1			石斧原材+フレイク			
	93		U	20		ⅤⅠ	石斧原材	○	○		○		Grs	被熱	1	南南	0	石斧原材+フレイク	3	石斧原材	被熱
			U	20		ⅤⅠ	フレイク	○				○	Grs	被熱	1			石斧原材+フレイク			
			U	20		ⅤⅠ	フレイク	○				○	Grs		1			石斧原材+フレイク			
154	94		W	20		Ⅴ中	石斧原材					○	Grs		1	南南	26	石斧原材+フレイク	3	石斧原材	敲打
			W	21		Ⅴ	石斧原材	○	○		○	○	Grs		1			石斧原材+フレイク			
			R	21		Ⅴ上	フレイク	○	○			○	Grs		1			石斧原材+フレイク			
	95	H-3	N	21	149	Ⅲ	フレイク	○				○	Grs	被熱	1	上上	0	石斧破片+石斧原材+フレイク	4	石斧原材	被熱
			N	21		Ⅲ	石斧原材					○	Grs	被熱	1			石斧破片+石斧原材+フレイク			
			N	21A		Ⅲ	フレイク	○			○		Grs	H-3床下	1			石斧破片+石斧原材+フレイク			
			N	21A		Ⅲ	フレイク	○				○	Grs	被熱H-3床	1			石斧破片+石斧原材+フレイク			
	96		H	23		Ⅴ中～下	フレイク	○				○	Grs		1	北北	10	フレイク+フレイク	3	石斧加工剝片	剥離折れ
			K	22		Ⅴ上	フレイク	○				○	Grs		1			フレイク+フレイク			
			K	23		Ⅴ上	フレイク	○				○	Grs		1			フレイク+フレイク			
	97		I	26		Ⅴ	フレイク	○				○	Grs		1	北北	41	フレイク+フレイク	2	石斧加工剝片	剥離折れ
			M	19		Ⅴ下	フレイク	○				○	Grs		1			フレイク+フレイク			
	98		J	21		ⅤⅠ	フレイク	○				○	Grs		1	北北	0	フレイク+フレイク	2	石斧加工剝片	剥離折れ
			J	21B		ⅤⅡ中	フレイク	○				○	Grs		1			フレイク+フレイク			
	99		J	21A		ⅤⅡ中	フレイク	○				○	Grs	被熱	1	北北	0	フレイク+フレイク	2	石斧調整剝片	剥離折れ
			J	21B		ⅤⅡ中	フレイク	○			○		Grs	被熱	1			フレイク+フレイク			
	100		J	22B		ⅤⅡ上	フレイク	○				○	Grs	被熱	1	北上	34	フレイク+フレイク	2	石斧加工剝片	剥離折れ
			Q	22		Ⅶ直上	フレイク	○				○	Grs		1			フレイク+フレイク			
	101		J	22C		ⅤⅡ中	フレイク	○	○			○	Grs		1	北北	15	フレイク+フレイク	4	石斧加工剝片	剥離接合
			M	23		Ⅴ中	フレイク	○				○	Grs		1			フレイク+フレイク			
			M	24		Ⅴ中	フレイク	○	○			○	Grs		1			フレイク+フレイク			
			M	23		Ⅴ中	フレイク	○					Grs		1			フレイク+フレイク			
	102		J	24		Ⅴ	フレイク	○	○			○	Grs	トレンチ	1	北北	19	フレイク+フレイク	2	石斧原材	敲打
			M	22		Ⅶ直上	フレイク		○			○	Grs		1			フレイク+フレイク			
	103		K	21B		ⅤⅡ中	フレイク	○				○	Grs		1	北北	9	フレイク+フレイク	2	石斧加工剝片	剥離折れ（一部再加工）
			K	23		Ⅴ上	フレイク	○				○	Grs	被熱	1			フレイク+フレイク			
	104		L	19		Ⅴ上	フレイク	○				○	Grs		1	北北	9	フレイク+フレイク	2	石斧加工剝片	剥離折れ
			L	21		Ⅴ	フレイク	○				○	Grs		1			フレイク+フレイク			
	105		M	20		Ⅴ上	フレイク	○					Grs		1	南北	30	フレイク+フレイク	2	石斧加工剝片	剥離折れ
			S	20		ⅤⅠ	フレイク	○					Grs		1			フレイク+フレイク			
	106		M	21		Ⅴ中	フレイク	○				○	Grs		1	北北	11	フレイク+フレイク	3	石斧加工剝片	剥離折れ（一部再加工）
			M	22		Ⅴ	フレイク	○				○	Grs		1			フレイク+フレイク			
			K	22		ⅤⅡ上	フレイク	○				○	Grs		1			フレイク+フレイク			

掲載番号	接合番号	遺構名	アルファベット	グリッド数字	遺物番号	層位	器種名	A	B	C	D	E	石質	備考	接合形態	地区	接合距離概算(m)	接合器種	接合点数	接合結果	推定破損原因
	107		O	20		Ⅴ上	フレイク	○				○	Grs	被熱	1	上上	5	フレイク+フレイク	2	石斧加工剥片	剥離折れ
			O	21		Ⅴ	フレイク	○				○	Grs	トレンチ	1			フレイク+フレイク			
	108		O	20		Ⅶ直上	フレイク	○				○	Grs		1	上上	5	フレイク+フレイク	3	石斧加工品	剥離折れ
			O	21		Ⅴ	フレイク	○				○	Grs		1			フレイク+フレイク			
			O	21		Ⅴ中	フレイク	○				○	Grs		1			フレイク+フレイク			
	109		O	22		Ⅴ中	フレイク	○	○			○	Grs		1	上上	10	フレイク+フレイク	2	石斧加工剥片	不明
			O	24		Ⅴ	フレイク	○	○			○	Grs	トレンチ	1			フレイク+フレイク			
	110		O	24		Ⅲ	フレイク	○				○	Grs		1	上上	22	フレイク+フレイク	2	石斧加工剥片	剥離折れ
			P	20		Ⅴ上	フレイク	○	○				Grs		1			フレイク+フレイク			
	111	VH-6				覆土	フレイク	○					Gls		1	北北	14	フレイク+フレイク	2	石斧加工品	剥離折れ
			K	24		Ⅲ	フレイク	○	○			○	Gls	被熱	1			フレイク+フレイク			
	112		R	25		Ⅴ中	フレイク	○	○				Grs		1	南南	18	フレイク+フレイク	2	石斧加工剥片	剥離折れ
			S	23		Ⅴ中	フレイク	○	○				Grs		1			フレイク+フレイク			
	113		U	21		Ⅲ	フレイク	○					Grs		1	南南	0	フレイク+フレイク	2	石斧加工剥片	剥離折れ
			U	21		ＭⅠ	フレイク	○					Grs		1			フレイク+フレイク			
	114		N	20		Ⅶ直上	フレイク	○			○		Grs	被熱	1	上南	25	フレイク+フレイク	2	石斧調整剥片	剥離接合
			S	20		ＭⅠ	フレイク	○			○		Grs	被熱	1			フレイク+フレイク			
	115		R	20		ＭⅠ	フレイク	○			○	○	Grs	被熱	1	南南	0	フレイク+フレイク	2	石斧調整剥片	被熱
			R	20		Ⅴ中	フレイク	○			○		Grs	被熱	1			フレイク+フレイク			
	116		J	22		ＭⅠ	フレイク	○			○		Gls		1	北北	10	フレイク+フレイク	2	石斧調整剥片	剥離接合
			L	22		Ⅴ上	フレイク	○			○		Gls		1			フレイク+フレイク			
	117		U	20		ＭⅠ	フレイク	○			○		Gls		1	南南	7	フレイク+フレイク	2	石斧調整剥片	剥離接合
			V	21		ＭⅠ	フレイク	○			○		Gls		1			フレイク+フレイク			
	118		T	20		Ⅴ上ﾍﾟﾙﾄ	フレイク		○			○	Dol		1	南南	6	フレイク+フレイク	2	石斧原材？	敲打
			U	20B		ＭⅡ上	フレイク	○				○	Dol		1			フレイク+フレイク			
122	119	南盛土	T	21C	508	ＭⅡ	石斧				○		Grs		1	南南	3	石斧+石斧片	2	石斧	研磨
		南盛土	T	22A	504	ＭⅡ	石斧片				○		Grs		1			石斧+石斧片			

表Ⅴ－13　Ⅴ層フローテーション結果一覧

試料番号	取上日	遺構／発掘区		層位	採取量		回収量(g)			回収遺物																		備考
					体積(ml)	乾燥重量(g)	残渣	浮遊物2mm	浮遊物0.42 5mm	土器(点)		石器計(点)	石器	F Sh	F Obs	Grs/Grs	礫(点)	礫重量(g)	骨片(g)	魚骨の有無	点数		炭化物(g)	炭化種子(g)	クルミ有無	同定結果骨	同定結果種子	その他	備考
オコ1-43	2015/10/7	Ⅴ層遺構	H-6	覆土	13,500	9,900	3400.0	98.2	30.5	3	Ⅱa-2S	45	0	34	11	0	10	13.8	77.3	○	3	小動物あり	25.8	21.6	◎	シカ/中節骨近位端×1 小型哺乳類/指骨骨端×1 哺乳綱 ウグイ？椎骨×2 硬骨魚綱			
オコ1-48	2015/10/6	Ⅴ層遺構	H-7	覆土	9,300	4,900	1300.0	680.0	18.8			24	0	19	3	2	2	22.5	15.9	×			16.4	0.0		哺乳綱			
オコ1-53	2015年不明	Ⅴ層遺構	P-10	人骨下	6,600	3,090	720.0	730.0	11.1			0							0.0	×			0.0			哺乳綱			
オコ1-33	2015/9/25	Ⅴ層遺構	P-3	覆土	3,000	1,975	780.0	58.4	11.4			28	0	18	7	3	9	3.1	108.2	○	7		49.7	0.4		シカ/中節骨近位端×1 哺乳綱 ウグイ？椎骨×8 硬骨魚綱			
オコ1-54	2015/10/7	Ⅴ層遺構	P-3	覆土	700	420	125.4	11.7	3.3			3	0	2	1	0			31.8	×			12.9	0.2	+	哺乳綱			
オコ1-127	2015年不明	Ⅴ層遺構	P-3	覆土	4,720	4,000	1120.0	68.9	23.2			52	0	32	16	4	2	3.1	110.2	○	1		60.4	2.0	◎	シカ/末節骨×1 哺乳綱 ニシン椎骨×1 ウグイ？×3 硬骨魚綱			
オコ1-172	2015/10/2	Ⅴ層遺構	P-3	覆土	900	840	241.5	6.1	2.0			4	0	2	2	0			53.5	×			3.7	0.2		哺乳綱			
オコ1-97	2015/10/5	Ⅴ層遺構	P-8	覆土	2,100	1,500	332.3	168.1	5.3			2	0	1	1	0	2	2.5	0.0	×			0.5	0.0		哺乳綱			
オコ1-25	2015/9/10	北盛土	－	ⅢⅡ層下骨片	3,100	1,910	611.3	11.4	1.8			8	0	6	2	0	26	6.8	105.3	○	20	小動物あり	2.1						
オコ1-24	2015/9/10	北盛土	(土器№458)	土器内	1,400	1,020	263.9	11.1	0.5	24	Ⅱa-2S	27	0	14	13	0	5	12.4	2.1	×			0.7			哺乳綱			
オコ1-26	2015/9/11	Ⅴ層遺構	S-17	－	4,400	3,150	944.3	15.0	1.5	3	Ⅱa-2S	61	0	37	23	1	108	97.1	256.2	○	7	鳥?あり	4.4			シカ/中節骨近位端×2 哺乳綱 ウグイ？椎骨×3 硬骨魚綱×			
オコ1-27	2015/9/11	Ⅴ層遺構	S-18	－	3,000	2,730	1368.2	15.4	2.5	3	Ⅱa-2S	21	0	7	12	2	848	800.0	5.2	×			2.9			哺乳綱			
オコ1-66	2015/9/8	北盛土	J21B	ⅢⅡ層上	100	70			10.9			1	0	0	1	0			0.1	×			0.0	0.0		哺乳綱			
オコ1-49	2015/10/14	北盛土	J23	ⅢⅡ層下	24,800	16,150	4280.0	184.0	39.0	2	Ⅱa-2S	20	0	8	9	3	16	75.1	63.8	○	2		19.8	3.8	◎	ウグイ？×2 硬骨魚綱 哺乳綱			
オコ1-163	2015/10/1	北盛土	J23B	ⅢⅡ層中	3,320	3,000	780.0	27.8	9.3			20	0	13	7	0	3	20.5	25.5	×			24.3	2.4	+	ウグイ？×2 シカ/中節骨・基節骨遠位端×1 哺乳綱			
オコ1-44	2015/10/13	北盛土	J24	ⅢⅠ層上	11,300	7,950	2340.0	34.2	13.9	1	Ⅱa-3	52	0	22	25	5	7	11.4	39.9	×			14.5	13.0	◎	哺乳綱	オニグルミ核片×40 キハダ×2		
オコ1-137	2015/10/13	北盛土	J24	ⅢⅡ層上	1,000	780	240.0	7.0	0.9	6	Ⅱa-2S	11	0	2	2	7	1	0.9	25.2	×			0.2	0.4	○	哺乳綱			
オコ1-28	2015/9/11	北盛土	J25	ⅢⅡ層中	8,700	5,000	1332.1	26.8	22.0	2	Ⅱa-2S	40	1	27	12	0	13	33.0	171.0	○	1	不明	14.7			シカ/中節骨近位端×1 シカ/末節骨完存×1 哺乳綱 硬骨魚綱			(トレンチ)
オコ1-42	2015/9/14	北盛土	J25	ⅢⅡ層	9,100	6,380	1460.0	33.7	18.6			44	0	22	17	5	15	33.6	192.4	×			19.7	0.0		シカ/中節骨近位端×2 シカ/中節骨遠位端×2 シカ/末節骨×1 哺乳綱		2.0	
オコ1-31	2015/9/17	北盛土	K21 A.D	骨片	9,800	6,970	2240.0	76.7	11.1	3	Ⅱa-2S	51	0	27	20	4	21	191.2	19.6	○	5		6.3	0.1	○	シカ/歯 哺乳綱 ニシン椎骨×2 ウグイ？椎骨×3 サケ椎骨×3 硬骨魚綱			
オコ1-34	2015/9/25	北盛土	K21B	ⅢⅡ中層	2,600	1,990	770.0	9.8	1.0			27	0	9	18	0			46.3	○	2	小動物あり	1.4			シカ/臼歯 哺乳綱 ウグイ(？)×2 硬骨魚綱			
オコ1-35	2015/9/25	北盛土	K21B	ⅢⅡ下層	3,200	2,410	800.0	9.7	1.2			20	0	10	10	0	4	3.0	89.9	○	1	小動物あり	0.7		+	哺乳綱 ウグイ？椎骨×1 硬骨魚綱			
オコ1-50	2015/10/14	北盛土	K23	ⅢⅡ層下	22,300	14,460	3190.0	78.1	38.4	2	Ⅱa-2S×1 Ⅱb×1	36	0	21	13	2	3	18.4	26.7	×			19.4	2.1	◎	哺乳綱	キハダ×1	3.0	
オコ1-68	2015/9/28	北盛土	ベルトA①	ⅢⅠ層	8,240	7,500	630.0	5.6	20.8	7	Ⅱa-2S	5	0	1	3	1	4	11.4	1.0	×			0.7	0.3		哺乳綱			
オコ1-160	2015/9/28	北盛土	ベルトA①	ⅢⅠ層	8,440	7,000	880.0	6.5	16.5	6	Ⅱa-2S	21	0	13	4	4	7	18.9	0.5	×			0.6	0.3	+	哺乳綱	不明種実×1		
オコ1-109	2015/9/29	北盛土	ベルトA②	ⅢⅠ層	11,160	10,000	880.0	4.3	9.9	4	Ⅱa-2S	36	0	19	14	3	4	23.0	3.2	×			0.1	1.0	+	哺乳綱			
オコ1-148	2015/9/29	北盛土	ベルトA②	ⅢⅠ層	11,660	10,500	1020.0	4.7	6.3	9	Ⅱa-2S	22	0	10	10	2	7	83.2	2.3	×			0.6	0.2		哺乳綱			
オコ1-62	2015/9/29	北盛土	ベルトA③	ⅢⅠ層	14,180	11,000	1180.0	8.1	8.0	6	Ⅱa-2S	36	0	16	15	5	27	48.4	3.0	×			4.5	0.2	○	哺乳綱	オニグルミ核片×9	2.0	赤色顔料×1
オコ1-100	2015/9/29	北盛土	ベルトA③	ⅢⅠ層	10,660	11,000	1270.0	6.7	19.9	41	Ⅱa-2S	34	0	15	16	3	15	43.1	5.0	×			1.9	0.8	+	哺乳綱		1.0	
オコ1-36	2015/9/29	北盛土	ベルトA④	ⅢⅠ層	33,300	20,530	3380.0	20.5	37.5	2	Ⅱa-2S×1 Ⅱb×1	63	0	25	29	9	157	73.1	10.6	×			10.3	0.0	+	哺乳綱			

試料番号	取上日	遺構／発掘区		層位	採取量		回収量(g)			回収遺物																		備考
					体積(ml)	乾燥重量(g)	残渣	浮遊物2mm	浮遊物0.42 5mm	土器(点)		石器計(点)	石器	F Sh	F Obs	Grs/Grs	礫(点)	礫重量(g)	骨片(g)	魚骨の有無	点数		炭化物(g)	炭化種子(g)	クルミ有無	同定結果 骨	同定結果 種子	その他	備考
オコ1-61	2015/9/30	北盛土	ベルトA④	MⅡ層中	6,440	5,500	900.0	27.9	8.1	3	Ⅱa-2S	17	0	7	9	1	15	37.7	5.4	○	2		2.5	0.1	+	ウグイ？×2 硬骨魚網 哺乳綱			
オコ1-91	2015/9/30	北盛土	ベルトA④	MⅡ層中	7,740	6,500	1000.0	33.4	13.4	8	Ⅱa-2S	78	0	30	43	5	7	7.6	5.6	○	4	小動物あり	2.8	3.4	◎	ウグイ×1 硬骨魚網 哺乳類		7.0	
オコ1-64	2015/9/30	北盛土	ベルトA⑤	MⅡ層中	7,840	6,500	1040.0	21.3	3.8	6	Ⅱa-2S	24	0	9	14	1	7	12.2	4.3	×			2.1	0.0		哺乳綱		10.1	
オコ1-108	2015/9/30	北盛土	ベルトA⑤	Ⅶ層直上	6,440	6,000	1100.0	24.3	12.6			23	0	6	15	2	6	11.6	3.0	○	1		3.0	0.5	+	ウグイ？×1 哺乳綱		2.0	
オコ1-114	2015/9/29	北盛土	ベルトA⑤	MⅠ層	15,380	12,500	1200.0	11.6	38.4	9	Ⅱa-2S	65	0	28	33	4	25	65.6	3.3	×			1.4	0.9	○	哺乳綱			
オコ1-139	2015/9/29	北盛土	ベルトA⑤	MⅠ層	14,680	12,000	1180.0	10.8	38.7	3	Ⅱa-2S	51	0	17	32	2	27	47.8	3.2	×			1.4	0.0		哺乳綱			
オコ1-37	2015/9/29	北盛土	ベルトA⑥	MⅠ層	35,600	20,160	3900.0	60.1	39.7	7	Ⅱa-2S×7	71	0	45	22	4	64	194.2	11.4	×			21.8	1.3	○	哺乳綱		10.0	
オコ1-65	2015/9/30	北盛土	ベルトA⑥	MⅡ層中	18,000	15,000	3120.0	118.1	25.7			34	0	14	19	1	10	5.0	11.9	×			6.8	1.5	○	哺乳綱			
オコ1-111	2015/9/30	北盛土	ベルトA⑥	MⅡ層中	16,100	14,000	2990.0	97.5	39.3	3	Ⅱa-2S	48	0	33	14	1	2	6.7	9.3	○	1		7.7	2.2	○	ニシン×1 哺乳綱	不明種実×1	2.0	
オコ1-101	2015/9/28	北盛土	ベルトA⑦	MⅠ層	17,500	13,500	1540.0	28.7	13.0			53	0	22	24	7	13	85.1	3.4	×			3.4	0.9	○	哺乳綱			
オコ1-125	2015/9/30	北盛土	ベルトA⑦	MⅡ層中	12,880	10,500	1830.0	59.6	35.8	16	Ⅱa-2S	93	0	49	28	16	12	21.5	5.0	○	1	鳥?あり	8.8	1.7	○	ウグイ？×1 哺乳綱			
オコ1-132	2015/9/30	北盛土	ベルトA⑦	MⅡ層中	10,160	8,500	1390.0	61.5	22.7	2	Ⅱa-2S	61	0	23	32	6	16	33.4	6.7	×			16.8	2.2	○	哺乳綱			
オコ1-154	2015/9/28	北盛土	ベルトA⑦	MⅠ層	18,000	14,500	1610.0	46.6	15.3	17	Ⅱa-2S	59	0	25	33	1	29	48.0	3.6	×			6.4	0.0		哺乳綱	不明種実×3	9.0	
オコ1-73	2015/9/30	北盛土	ベルトA⑧	MⅡ層中	12,060	10,000	2250.0	73.0	35.0	3	Ⅱa-2S	114	0	54	55	5	28	69.0	11.3	×			10.5	5.6	◎	哺乳綱	キハダ×1		
オコ1-98	2015/9/28	北盛土	ベルトA⑧	MⅠ層	15,380	13,000	1510.0	16.3	25.1	1	Ⅱa-2S	63	0	20	42	1	19	79.8	5.0	○		鳥?あり	2.7	0.0	○	シカ/末節骨×1 哺乳綱	ミズキ×1	5.0	
オコ1-106	2015/9/28	北盛土	ベルトA⑧	MⅠ層	16,100	14,000	1180.0	14.1	32.8	2	Ⅱa-2S	54	0	18	35	1	22	55.0	1.7	×			3.0	0.4	○	哺乳綱		1.0	
オコ1-134	2015/9/30	北盛土	ベルトA⑧	MⅡ層中	13,180	11,000	2090.0	55.5	36.1			111	0	34	66	11	15	45.6	11.1	×			5.2	4.2	◎	ウグイ？×1 硬骨魚網 シカ/基節骨遠位端×1 哺乳綱			
オコ1-41	2015/9/29	北盛土	ベルトA⑨	MⅠ層	15,300	9,260	1860.0	34.8	30.1	5	Ⅱa-2S	88	0	39	44	5	95	253.2	6.7	×			6.8	0.5	○	シカ/末節骨完存×1 哺乳綱	オニグルミ核片×43		
オコ1-86	2015/9/30	北盛土	ベルトA⑨	MⅡ層中	14,280	11,500	2090.0	75.3	24.5	3	Ⅱa-2S	64	0	32	31	1	5	61.1	10.9	○	1		9.4	8.5	◎	ウグイ？×1 哺乳綱			
オコ1-96	2015/9/30	北盛土	ベルトA⑨	MⅡ層中	11,660	9,000	2450.0	57.7	31.9			91	0	54	35	2	3	14.3	32.8	○	2		9.9	9.5	○	ウグイ？×2 哺乳綱			
オコ1-140	2015/9/29	北盛土	ベルトA⑨	MⅠ層	13,580	10,000	1030.0	19.0	17.1	1	Ⅱa-2S	80	0	34	42	4	27	76.4	8.6	×			4.7	0.8	○	シカ/中手骨破片×1 哺乳綱	不明種実×1	1.0	
オコ1-83	2015/9/30	北盛土	ベルトA⑩	MⅡ層中	18,800	15,500	2490.0	99.5	36.2	8	Ⅱa-2S	66	1	25	40	0	12	89.8	20.6	×			14.4	6.0	◎	哺乳綱			
オコ1-88	2015/9/28	北盛土	ベルトA⑩	MⅠ層	17,100	12,500	1316.0	35.6	27.6	4	Ⅱa-2S	87	0	44	38	5	34	140.2	5.0	×			8.0	1.9	○	哺乳綱		2.0	
オコ1-90	2015/9/30	北盛土	ベルトA⑩	MⅡ層中	17,100	13,500	2270.0	83.3	30.3	4	Ⅱa-2S	75	0	26	46	3	11	47.0	25.2	○	1		16.3	8.5	◎	ニシン×1 シカ/基節骨近位端×1 哺乳綱	ミズキ×1		
オコ1-167	2015/9/28	北盛土	ベルトA⑩	MⅠ層	12,960	9,500	970.0	22.0	13.3	6	Ⅱa-2S	71	0	31	32	8	44	109.3	2.4	×			5.9	0.5	◎	哺乳綱		2.0	
オコ1-151	2015/10/19	北盛土	ベルトB	MⅡ層下	5,620	5,000	1000.0	16.6	2.9	21	Ⅱa-2S	34	0	20	11	3	2	0.6	16.9	×			1.0	2.1	○	哺乳綱			
オコ1-75	2015/10/19	北盛土	ベルトB②	MⅡ層下	9,340	8,000	1220.0	35.3	21.4	6	Ⅱa-2S	60	0	22	37	1	6	35.7	17.6	×			1.4	1.7	+	哺乳綱	ブドウ×1		
オコ1-89	2015/10/19	北盛土	ベルトB②	MⅡ層下	13,880	11,500	2020.0	34.3	25.0	13	Ⅱa-2S×10 Ⅱb×1 Ⅳa×2	102	0	49	49	4	30	291.1	21.9	○	2		2.2	1.8	○	ウグイ(？)×4 硬骨魚網 哺乳綱		6.0	
オコ1-129	2015/10/19	北盛土	ベルトB③	MⅡ層下	9,660	9,500	1880.0	26.6	15.9	1	Ⅱa-2S	31	0	19	12	0	4	9.9	5.4	○	2		0.9	0.0		ニシン×1 ウグイ(？)×2 哺乳綱			
オコ1-170	2015/10/19	北盛土	ベルトB③	MⅡ層下	12,880	11,000	1785.0	35.7	6.1			68	0	35	32	1	12	63.1	12.9	×			0.2			哺乳綱			
オコ1-124	2015/10/19	北盛土	ベルトB④	MⅡ層下	10,360	9,500	1970.0	16.1	14.1			15	0	8	6	1			1.3	×			0.3	0.2	+	哺乳綱			
オコ1-169	2015/10/19	北盛土	ベルトB④	MⅡ層下	16,500	14,500	2830.0	22.6	7.5	3	Ⅱa-2S	49	0	17	30	2			5.1	×			0.6	0.5		哺乳綱			
オコ1-128	2015/10/19	北盛土	ベルトB⑤	MⅡ層下	9,340	8,500	1700.0	29.6	15.7	11	Ⅱa-2S	49	1	19	26	3	3	103.1	14.0	○	2		1.6	0.0		ウグイ？×1 哺乳綱			
オコ1-146	2015/10/19	北盛土	ベルトB⑤	MⅡ層下	9,440	9,000	1600.0	33.3	18.5	7	Ⅱa-2S	57	0	21	33	3	5	19.0	15.7	○	7	歯?	0.6	1.0	○	ニシン×2 硬骨魚網/椎骨×1 硬骨魚網？/近離歯×2 哺乳綱			
オコ1-58	2015年不明	北盛土	ベルトB⑥	MⅡ層下	7,840	7,000	1725.0	13.8	4.5			5	0	1	4	0			1.5	×			0.2	0.0	+	哺乳綱			
オコ1-136	2015年不明	北盛土	ベルトB⑦	MⅡ層下	11,060	10,000	1900.0	28.9	28.0			14	0	6	6	2			1.9	×			1.3	0.0		哺乳綱			
オコ1-162	2015年不明	北盛土	ベルトB⑧	MⅡ層下	4,220	4,000	740.0	11.3	3.2	2	Ⅱa-2S	25	0	10	15	0	0		5.3	×			0.4	0.5	+	哺乳綱			
オコ1-93	2015/10/19	北盛土	ベルトB⑨	MⅡ層下	5,620	5,000	990.0	23.4	8.4	7	Ⅱa-2S	13	0	3	10	0	2	15.3	12.6	○	1		1.1	0.4	○	ニシン×1 哺乳綱			
オコ1-105	2015/10/5	北盛土	ベルトB⑪	MⅠ層	14,680	11,500	1820.0	64.9	36.1	5	Ⅱa-2S	102	0	50	47	5	19	83.3	24.0	○	2		22.1	14.1		ニシン×1 ウグイ？×1 哺乳綱		3.0	
オコ1-135	2015年不明	北盛土	ベルトB⑪	MⅡ層下	8,940	8,000	1790.0	33.5	13.0	10	Ⅱa-2S	61	1	30	23	7	2	18.1	10.6	×			2.0	3.5	◎	哺乳綱			
オコ1-142	2015/10/5	北盛土	ベルトB⑪	MⅠ層	8,840	7,500	960.0	24.3	24.3	9	Ⅱa-2S	54	0	27	24	3	21	60.4	12.3	○	1		2.7	2.8	○	ニシン×1 哺乳綱			
オコ1-115	2015/10/5	北盛土	ベルトB⑫	MⅠ層	12,880	10,500	1690.0	50.9	22.0	10	Ⅱa-2S	96	0	47	38	11	32	92.5	21.7	○	1		4.9	2.6	○	ウグイ？×1 哺乳綱		1.0	
オコ1-149	2015/10/5	北盛土	ベルトB⑫	MⅠ層	7,440	9,000	1360.0	41.5	30.5	7	Ⅱa-2S	72	0	34	28	10	37	79.6	21.7	○	5	小動物あり	4.0	3.6	○	ウグイ？×3 硬骨魚網×2 シカ/中手中足骨遠位端×1 哺乳綱	キハダ×1	5.0	
オコ1-161	2015/10/5	北盛土	ベルトB⑫	MⅡ層	6,440	6,000	1200.0	39.2	6.3			35	0	8	20	7	2	4.0	10.3	×			2.9	0.0		哺乳綱	キハダ×1		
オコ1-51	2015/10/5	北盛土	ベルトB⑬	MⅠ層	31,000	22,180	3640.0	161.1	37.5	6	Ⅱa-2S×4 Ⅱa-3×2	129	0	58	57	14	66	209.9	48.5	○	5		9.1	4.9		ニシン×1 ウグイ？×1 硬骨魚網 哺乳綱		12.4	
オコ1-144	2015年不明	北盛土	ベルトB⑬	MⅡ層下	8,340	7,500	2100.0	90.3	32.4			41	0	8	23	10	5	10.5	20.3	○	2	小動物あり	1.3	2.9	○	ニシン×1 ウグイ？×1 硬骨魚網×2 哺乳綱		1.0	
オコ1-55	2015年不明	北盛土	ベルトB⑭	MⅡ層下	7,440	6,500	1620.0	70.2	39.9	1	Ⅱa-2S	35	0	18	16	1	5	72.5	45.7	○	1	小動物あり	4.1	3.5	◎	ニシン×1 ウグイ？×1 硬骨魚網 哺乳綱		3.0	
オコ1-121	2015/10/5	北盛土	ベルトB⑭	MⅠ層	12,560	10,000	1960.0	98.6	54.0	2	Ⅱa-2S	133	0	59	69	5	6	35.7	35.0	○	2		5.2	5.5	◎	ウグイ？×3 哺乳綱			
オコ1-150	2015/10/5	北盛土	ベルトB⑭	MⅠ層	13,080	10,000	1620.0	74.7	21.3			52	0	15	34	3	41	116.0	29.6	○	1		4.0	1.4	◎	ウグイ？×1 硬骨魚網 哺乳綱			
オコ1-52	2015/10/5	北盛土	ベルトB⑮	MⅠ層	15,500	9,000	1160.0	41.6	15.6	10	Ⅱa-2S	92	0	49	39	4	48	152.2	29.4	×			8.1	2.6	○	哺乳綱		2.0	
オコ1-74	2015/10/5	北盛土	ベルトB⑮	MⅠ層	15,380	11,500	1260.0	56.8	34.1	1	Ⅱa-2S	104	1	45	52	6	58	159.3	29.5	○	1		10.1	3.9	○	ウグイ？×1 硬骨魚網 哺乳綱		1.0	
オコ1-138	2015年不明	北盛土	ベルトB⑮	MⅡ層下	11,060	9,500	1830.0	146.6	35.4	5	Ⅱa-2S	88	0	44	41	3	10	19.7	58.1	○	3		5.0	3.5	○	ニシン×1 ウグイ？×1 サケ×1 シカ/中節骨近位端×1 シカ/末節骨近位端×1 哺乳綱			
オコ1-56	2015/10/5	北盛土	ベルトB⑯	MⅠ層	13,660	8,000	1435.0	52.5	56.6			36	0	17	14	5	53	111.7	32.8	○	1		4.5	0.3	○	ウグイ？×1 哺乳綱	オニグルミ核片×16 ブドウ×1		
オコ1-71	2015年不明	北盛土	ベルトB⑯	MⅡ層下	15,180	13,000	2780.0	146.8	33.9	2	Ⅱa-2S	146	0	75	64	7	18	29.7	68.1	○	10	小動物あり	13.6	6.6	◎	ニシン×4 ウグイ？×2 硬骨魚網×3 哺乳綱		9.0	赤色顔料×6
オコ1-120	2015/10/5	北盛土	ベルトB⑯	MⅠ層	14,180	11,500	1130.0	51.6	29.6	5	Ⅱa-2S×4 Ⅱa-3×1	108	0	56	43	9	36	105.9	31.1	○	2		6.8	2.7	+	硬骨魚網×2 哺乳綱	不明種実×2		
オコ1-117	2015年不明	北盛土	ベルトB⑰	MⅡ層下	6,440	6,500	1690.0	40.6	13.8			51	0	33	17	1	4	8.0	42.0	×			2.9	1.8	○	ニシン×1 哺乳綱		4.0	
オコ1-92	2015/9/29	削平部分	ベルトC①	Ⅶ層直上	12,880	9,000	800.0	63.8	23.2			22	0	7	15	0	5	14.4		×			7.2	0.0					
オコ1-153	2015/9/29	削平部分	ベルトC①	Ⅶ直上	11,660	8,000	810.0	67.6	19.3			23	0	17	3	3	6	7.7		×			5.5	0.9			不明種実×1		
オコ1-107	2015/9/29	削平部分	ベルトC②	Ⅶ層直上	11,660	9,000	920.0	71.9	30.7			18	0	7	9	2	10	22.0	0.1	×			9.9	0.0		哺乳綱		5.0	
オコ1-147	2015/9/29	削平部分	ベルトC②	Ⅶ直上	9,860	7,500	700.0	50.1	17.3	1	Ⅱa-2S	18	0	7	8	3	5	5.9	0.0	×			9.6	0.0		哺乳綱		3.0	
オコ1-94	2015/9/29	削平部分	ベルトC③	Ⅶ層直上	10,560	7,500	430.0	91.8	14.2			4	0	2	2	0	1	2.5		×			2.9	0.1	+				
オコ1-130	2015/9/29	削平部分	ベルトC③	Ⅶ直上	15,580	11,000	780.0	89.1	24.9	1	Ⅱa-3	15	1	9	2	3	4	18.2		×			3.3	0.2	+			1.0	玉出土
オコ1-141	2015/9/29	削平部分	ベルトC④	Ⅶ直上	11,760	8,500	620.0	146.1	23.5			10	0	5	4	1	10	18.6		×			1.4	0.0				13.0	

試料番号	取上日	遺構／発掘区	層位	採取量		回収量(g)			回収遺物																		備考
				体積(ml)	乾燥重量(g)	残渣	浮遊物2mm	浮遊物0.42 5mm	土器(点)		石器計(点)	石器	F Sh	F Obs	Grs/Grs	礫(点)	礫重量(g)	骨片(g)	魚骨の有無	点数		炭化物(g)	炭化種子(g)	クルミ有無	同定結果 骨	同定結果 種子	その他	備考
オコ1-145	2015/9/29	削平部分	ベルトC④	Ⅶ直上	10,060	7,500	500.0	102.9	17.9			9	0	2	7	0	1	1.4					0.8	0.1					
オコ1-76	2015/9/29	削平部分	ベルトC⑤	Ⅶ層直上	11,260	8,500	476.2	52.6	7.2			10	0	5	3	2	7	27.5	0.0				0.8	0.0		哺乳綱			
オコ1-87	2015/9/29	削平部分	ベルトC⑥	Ⅶ層直上	12,060	8,500	501.1	183.6	32.1	1	Ⅱa-2S	5	0	3	2	0	2	14.8					1.3	0.2	○				
オコ1-39	2015/9/30	削平部分	ベルトC⑥	Ⅶ層直上	16,300	7,590	930.0	58.4	30.5			15	0	5	8	2	13	36.2	0.3				6.6	0.0		哺乳綱		11.0	
オコ1-156	2015/9/30	削平部分	ベルトC⑦	Ⅶ直上	10,660	7,500	450.0	23.6	38.2	4	Ⅱa-3	12	0	8	2	2	6	19.1					1.9	0.0	○			2.0	
オコ1-165	2015/9/30	削平部分	ベルトC⑦	Ⅶ直上	9,040	6,500	3090.0	12.0	6.9	8	Ⅱa-2S×3 Ⅱa-3×5	18	0	14	3	1	8	4.3					0.7	0.0					
オコ1-38	2015/9/30	削平部分	ベルトC⑧	Ⅶ層直上	25,900	11,810	1380.0	86.0	51.8	11	Ⅱa 3 Ⅱb 7 Ⅳa 1	30	0	10	10	10	24	133.8	0.6				17.0	o.o	+	哺乳綱		19.0	
オコ1-40	2015/9/30	削平部分	ベルトC⑨	Ⅶ層直上	12,600	6,390	510.0	29.9	14.1	3	Ⅱa-3	21	1	14	4	2	8	19.0	0.2				4.4	0.0		哺乳綱		3.0	
オコ1-85	2015/9/30	削平部分	ベルトC⑩	Ⅶ層直上	12,880	8,500	337.4	26.5	8.9	2	Ⅱa-2S	15	0	6	7	2	9	22.9					1.3	0.7					
オコ1-81	2015/9/30	削平部分	ベルトC⑩	Ⅶ層直上	13,780	9,500	353.5	30.9	18.4	1	Ⅱa-3	16	0	2	9	5	4	43.4	0.0				3.2	0.0				1.0	
オコ1-155	2015/9/30	削平部分	ベルトC⑩	Ⅶ直上	15,180	11,000	460.0	33.3	12.6	10	Ⅱa 8 Ⅳa×2	27	0	12	8	7	10	28.1					0.7	0.3	+				
オコ1-84	2015/9/30	削平部分	ベルトC⑪	Ⅶ層直上	14,380	9,500	283.0	44.2	10.9			20	0	8	7	5	2	8.2	0.0				0.9	0.0		哺乳綱			
オコ1-104	2015/9/30	削平部分	ベルトC⑪	Ⅶ層直上	10,960	10,000	573.9	51.5		1	Ⅱb	13	0	7	5	1	13	61.5	0.2				0.9	0.0		哺乳綱			
オコ1-82	2015/9/30	削平部分	ベルトC⑫	Ⅶ層直上	12,660	8,500	292.7	137.0	23.1	1	Ⅱb	15	0	10	4	1	4	8.8					1.2						
オコ1-103	2015/9/30	削平部分	ベルトC⑫	Ⅶ層直上	10,460	7,000	450.0	140.9	25.9	1	Ⅱa-2S	17	0	7	7	3	7	23.4					0.3	0.0	+				
オコ1-113	2015/9/30	削平部分	ベルトC⑫	Ⅶ層直上	10,660	7,000	230.3	145.0	33.8	1	不明	11	0	4	7	0							0.2						
オコ1-131	2015/9/30	削平部分	ベルトC⑫	Ⅶ直上	11,560	8,000	330.0	252.7	19.4	1	Ⅱa-2S	21	0	13	7	1	7	26.9					0.3	0.0					
オコ1-80	2015/9/30	削平部分	ベルトC⑬	Ⅶ層直上	9,660	6,500	241.1	22.4	0.7			21	0	10	8	3	9	43.4	0.0				0.1	0.2	+	哺乳綱			
オコ1-95	2015/9/30	削平部分	ベルトC⑬	Ⅶ層直上	11,960	8,000	278.6	90.6	16.5	1	Ⅱa-2S	36	0	13	20	3	1	1.0	0.1				0.8	0.0				6.0	
オコ1-77	2015/9/30	削平部分	ベルトC⑬	Ⅶ層直上	17,500	12,500	344.8	14.8	1.1			49	0	14	31	4	3	14.0	0.0				0.7			哺乳綱			
オコ1-110	2015/9/30	削平部分	ベルトC⑬	Ⅶ層直上	12,880	8,500	450.0	85.7	38.4			42	0	16	25	1	7	32.1					1.1	0.2	○				
オコ1-78	2015/9/30	削平部分	ベルトC⑬	Ⅶ層直上	11,660	8,000	259.5	6.4	0.7			35	0	13	18	4	8	36.4	0.0				0.4		○	哺乳綱			
オコ1-112	2015/9/30	削平部分	ベルトC⑬	Ⅶ層直上	10,760	7,500	310.4	42.7	17.9			47	0	10	28	9	10	36.6					1.6	0.1					
オコ1-63	2015/9/30	削平部分	ベルトC⑫	Ⅶ層直上	10,760	7,500	330.0	52.0	9.1	1	Ⅱb	37	0	19	16	2	29	34.1	0.4				1.0	0.0		哺乳綱			
オコ1-164	2015/9/30	削平部分	ベルトC⑫	Ⅶ直上	19,560	7,000	280.0	66.1	22.2	2	Ⅱa 1 Ⅱb 1	49	0	25	20	4	9	13.7					0.6	0.5	+				
オコ1-102	2015/9/30	削平部分	ベルトC⑬	Ⅶ層直上	10,360	8,000	446.5	138.3	25.9	3	Ⅱa 1 Ⅱb 2	40	0	13	21	6	11	38.9					0.4	0.0				1.0	
オコ1-29	2015/9/15	南盛土	U20 A.D	MⅡ上層	3,000	2,120	500.3	14.6	3.1			16	0	7	9	0	3	5.5	29.2	○	2	不明	2.0	0.2	◎	硬骨魚綱 哺乳綱			
オコ1-30	2015/9/15	南盛土	U20 A.D	MⅡ中層	49,200	34,050	10579.6	311.9	92.9	13	Ⅱa-2S	282	0	103	165	14	89	342.0	540.0	◎	40～50	小動物あり	50.5	15.4	◎	ニシン　9 ウグイ(？)　76 サケ属/遊離歯×2 サケ×2 シカ/指骨遠位端片×1 シカ/中足骨骨幹×1 シカ/基節骨近位端×1 シカ/末節骨×1 哺乳綱		0.0	
オコ1-32	2015/9/17	南盛土	U20 B.C	骨片混土	15,000	10,270	3700.0	110.0	36.4			126	0	68	44	14	35	211.1	137.4	○	5～10	小動物あり	23.8	4.9	◎	ニシン　2 ウグイ(？)　10 硬骨魚綱 シカ/中手中足骨遠位端×1 シカ/基節骨近位端×1 哺乳綱	キハダ　3		
オコ1-45	2015年不明	南盛土	U20 B.C	MⅡ層中	4,400	3,270	1430.0	34.7	5.0			40	0	18	22	0	12	32.5	124.3	○	10	小動物あり	5.8	2.3	◎	ニシン椎骨×2 ウグイ？×7 シカ/基節骨近位端×1 シカ/末節骨×1 哺乳綱 鳥綱/趾骨完存　1		1.0	
オコ1-59	2015/9/16	南盛土	U20C	灰層ｻﾝﾌﾟﾙ	1,200	1,000	340.0	6.3	1.6			1	0	0	1	0	4	49.2	23.5	○	3	小動物あり	1.1	0.4	○	ウグイ？×2 硬骨魚綱 哺乳綱			
オコ1-60	2015/9/15	南盛土	U20D	MⅡ層上	5,120	4,500	1000.0	57.4	32.0			25	1	17	4	3	11	20.2	82.6	◎	40～50	小動物あり	4.2	4.3	◎	ウグイ(？)　25 硬骨魚綱 哺乳綱		2.0	
オコ1-67	2015/9/14	南盛土	U21C	MⅡ層上	4,720	3,500	600.0	24.8	3.9			21	0	10	6	5	6	10.9	34.1	○	1		3.1	2.0	○	硬骨魚綱 哺乳綱			
オコ1-69	2015/10/5	南盛土	ベルトD	MⅡ層	9,660	8,500	1480.0	65.0	14.2	1	Ⅱa-2S	90	0	31	54	5	46	189.0	55.0				6.5	2.5	◎	シカ/中節骨近端×1 哺乳綱		23.0	赤色顔料×18
オコ1-99	2015/10/5	南盛土	ベルトD	MⅡ層	5,220	5,500	1140.0	39.8	11.6	5	Ⅱa-2S	44	0	18	26	0	6	45.4	55.5	○	10		4.1	4.0	◎	ニシン　1 ウグイ？×3 硬骨魚綱 シカ/中手骨骨幹片×2 シカ/中手中足骨遠位端×1 哺乳綱			
オコ1-116	2015/10/5	南盛土	ベルトD	MⅡ層	9,440	7,500	1390.0	78.5	22.7	5	Ⅱa-2S	78	0	39	36	3	16	169.9	74.8				5.5	3.5	○	ニシン　1 哺乳類(大型)/ 手根足根骨×1 哺乳綱		5.0	
オコ1-123	2015/10/2	南盛土	ベルトD①	MⅠ層	17,600	14,000	1430.0	7.9	25.3	3	Ⅱa-2S	47	0	26	18	3	24	120.2	5.4				1.6	1.0	○	哺乳綱			
オコ1-79	2015年不明	南盛土	ベルトD②	MⅠ層	12,560	10,000	870.0	2.0	0.4			27	0	10	16	1	12	57.7	4.4				0.6	1.8	○	哺乳綱			
オコ1-159	2015/10/2	南盛土	ベルトD③	MⅠ層	11,960	9,500	930.0	12.9	6.6	3	Ⅱa-2S	48	0	22	22	4	46	130.3	17.9				4.6	1.9	○	哺乳綱	アカネ　1	1.0	
オコ1-158	2015/10/5	南盛土	ベルトD④	MⅠ層	9,660	8,000	1090.0	18.5	5.3	1	Ⅱa-2S	54	1	18	30	5	50	188.6	34.7				3.3	3.1	○	シカ/中節骨近端×1 哺乳綱			
オコ1-143	2015/10/5	南盛土	ベルトD⑤	MⅠ層	11,960	9,500	1330.0	35.9	24.3	3	Ⅱa-2S	52	1	29	17	5	47	135.5	16.7				15.8	3.3	○	哺乳綱		3.0	
オコ1-122	2015/10/5	南盛土	ベルトD⑥	MⅡ層	11,060	9,000	1700.0	27.1	11.7	1	Ⅱa-2S	51	0	18	27	6	13	20.4	21.1	○	3		3.7	3.1	◎	硬骨魚綱×3 哺乳綱			
オコ1-171	2015/10/5	南盛土	ベルトD⑥	MⅠ層	12,560	9,500	1060.0	26.1	8.9			71	0	37	29	5	16	97.6	26.4				3.9	5.0	◎	シカ/基節骨近位端×1 哺乳綱			
オコ1-168	2015/10/5	南盛土	ベルトD⑦	MⅠ層	15,080	11,500	1200.0	28.3	13.7	2	Ⅱa-2S	99	0	46	43	10	56	109.1	24.5				3.9	3.7	○	シカ/末節骨完存×1 哺乳綱		4.0	
オコ1-152	2015/10/5	南盛土	ベルトD⑧	MⅠ層	10,560	10,500	1150.0	36.7	13.2	5	Ⅱa-2S	97	0	45	46	6	49	129.2	40.9	○	3		3.6	5.9	◎	ウグイ？×3 硬骨魚綱 シカ/中節骨？近位端×1 シカ/末節骨完存×2 哺乳綱	不明種実　2	3.0	
オコ1-157	2015/10/5	南盛土	ベルトD⑧	MⅠ層	12,660	10,500	1950.0	101.3	16.5	2	Ⅱa-2S	122	1	66	44	11	22	95.0	59.4	○	2		7.1	12.6	◎	ニシン　2 シカ/中手骨骨幹×2 シカ/末節骨完存×1 哺乳綱		1.0	蛇紋岩原石×1
オコ1-70	2015/10/5	南盛土	ベルトD⑨	MⅠ層	5,820	5,000	740.0	32.5	13.9	1	Ⅱa-2S	24	0	13	10	1	18	84.0	54.7	○	2		2.6	0.7	○	ウグイ？×1 サケ　1	オニグルミ核片×4		
オコ1-133	2015/10/5	南盛土	ベルトD⑨		12,060	9,500	1030.0	21.7	19.1	2	Ⅱa-2S	82	1	40	30	11	12	155.1	32.8				2.6	2.7		哺乳綱			
オコ1-72	2015年不明	南盛土	ベルトD⑪	MⅡ層	5,420	4,500	960.0	32.1	16.2	1	Ⅱa-2S	26	0	11	15	0	14	67.2	100.0				2.8	3.0		シカ/中節骨近端×1 哺乳綱			
オコ1-118	2015/10/5	南盛土	ベルトD⑪	MⅠ層	9,660	8,500	760.0	14.6	22.1	3	Ⅱa-2S	72	0	40	31	1	36	78.6	19.6				1.8	2.4	+	哺乳綱		3.0	
オコ1-119	2015年不明	南盛土	ベルトD⑫	MⅡ層	5,920	5,000	800.0	36.1	7.0			34	2	19	12	1	10	25.8	29.0	○	5		4.7	4.7	○	ウグイ？×4 シカ/基節骨遠位端×1 シカ/末節骨×1 哺乳綱			
オコ1-166	2015/10/5	南盛土	ベルトD⑫	MⅠ層	12,360	10,000	830.0	16.2	6.1			109	0	62	38	9	18	141.7	36.1				1.5	2.3	○	哺乳綱		2.0	
オコ1-46	2015年不明	南盛土	ベルトD⑬	MⅡ層	11,500	7,630	2120.0	79.9	14.7			48	0	25	23	0	33	157.1	54.8	○	5～10		12.6	2.2	◎	ウグイ　2 硬骨魚綱 シカ/中手中足骨遠位端×1 シカ/中節骨遠位端×1 哺乳綱	オニグルミ核片　10 キハダ　1		
オコ1-57	2015/10/5	南盛土	ベルトD⑬	MⅠ層	10,160	7,500	650.0	25.6	20.6	1	Ⅱa-2S	65	0	23	39	3	55	148.4	71.8				5.8	1.8	○	シカ/中節骨近位端×1 哺乳綱		5.0	
オコ1-47	2015年不明	南盛土	ベルトD⑭	MⅡB層	1,700	1,250	2800.0	6.2	1.5			12	0	9	3	0	1	2.8	15.0	○	1		1.5	2.4	◎	コイ科×1 哺乳綱			
オコ1-126	2015/10/5	南盛土	ベルトD⑭	MⅠ層	8,440	6,000	530.0	10.7	18.0	6	Ⅱa-2S	55	0	22	29	4	9	38.4	17.9	○	4		1.7	1.9	○	ウグイ？×1 シカ/中手中足骨骨幹×1 哺乳綱	ミズキ　1		

表Ⅴ－14　Ⅴ層ハンドピック動物遺存体同定結果一覧

ニホンジカ 部位									鹿角	歯	下顎骨	椎骨	肋骨	肩甲骨	上腕骨	橈骨					尺骨				手根骨												脛骨					腓骨	膝蓋骨			踵骨		距骨			果骨		種子骨	足根骨							基節骨						中節骨						末節骨								第2・5基節骨		第2・5中節骨		第2・5末節骨		mc/mt			骨角器			
																P			D		P		D		R		U		I		2+3		4		副		P			D														第1		2+3		C+4			P			D			P			D			P					D															
遺物番号	資料番号	遺構種	グリッド	番号	小グリ	層位	備考	取り上げ日		F	L	F	F	F	F		R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L		R	L		R		L	R	L	R	L	F	R	L		R	L	R	L	R		L	R		L	R		L	R		L	R		L	R		L	R	L	R		L	R	L	R	L	R	L	P	S	D				
	26	北盛土	Ⅴ層遺構	P-3		フクド		2015/10/7																		1																																																																		
	88	南盛土	Ⅴ層遺構	P-2		フクド		2015/9/17																																																											1																		
	90	北盛土	Ⅴ層遺構	P-15		フクド		2015/10/22																																																																															同定部位なし
	105	北盛土	Ⅴ層遺構	H-6		フクド		2015/10/5																																																		1																					1								末節骨完形
	138	北盛土	Ⅴ層遺構	P-3		フクド		2015/10/1																																															1																																
	192	北盛土	Ⅴ層遺構	H-9		フクド		2015/10/13																																																																														同定部位なし
	196	北盛土	Ⅴ層遺構	P-3		フクド		2015/10/2																																																													1																
	319	北盛土	I	21	A	MⅡA		2015/9/11		○																																																																												
	9	北盛土	I	21	B	MⅡ		2015/9/14																			1		1																																				1																			手根骨完形
	280	北盛土	I	21	B	MⅡA		2015/9/11																	1																																						1																										
	347	北盛土	I	21	B	MⅡA		2015/9/11																																																																										1				
	35	北盛土	I	21		MⅠ		2015/7/29																																																												1																			
	198	北盛土	I	21		MⅡA		2015/9/10																																																																	1														
	170	北盛土	I	24	A	MⅡ中		2015/9/10																																																																														同定部位なし
	193	北盛土	I	25	B	Ⅴ下		2015/9/24																																																																										1				
	51	北盛土	I	25		MⅡ中	トレンチ	2015/9/11																																															1																																
	172	北盛土	I	25		Ⅴ上		2015/9/7																																																							1																								
	281	北盛土	J	19	B	MⅡ中		2015/10/1						1																																																				1														1								
	85	北盛土	J	19		MⅠ		2015/9/15																																																					1																					1				
	143	北盛土	J	19		Ⅴ	トレンチ	2015/7/9																									1																				1																																								手根骨4完形
	127	北盛土	J	20	A	MⅡC		2015/9/14																								1																																																										
	365	北盛土	J	20	B	MⅡC		2015/9/15																																																																																
	214	北盛土	J	20	C	MⅡC		2015/9/15																				1																																																					1							手根骨・末節骨完形
	171	北盛土	J	20	D	MⅡC		2015/9/14		1																																																																										同定部位なし
	39	北盛土	J	20		Ⅴ上	ベルト	2015/10/5																																												1																																								
	151	北盛土	J	20		MⅠ		2015/7/31																																																																																
	164	北盛土	J	20		MⅡ上		2015/9/4	1																																												1																1																1								末節骨完形
	6	北盛土	J	21	B	MⅡC		2015/9/15	1																																											1																																								2			
	19	北盛土	J	21	B	MⅡ中		2015/9/8																																																											1																			
	133	北盛土	J	21	B	MⅡ中		2015/9/9												1												1																																																								
	287	北盛土	J	21	B	MⅡ中		2015/9/11																																																					1																										
	359	北盛土	J	21	B	MⅡ中		2015/9/10					1																																						1								1												1															1				
	66	北盛土	J	21	C	MⅡ中		2015/9/9																																																	1																														
	246	北盛土	J	21	C	MⅡ中		2015/9/11																																																															1																	
	155	北盛土	J	21	D	MⅡC		2015/9/15																																																																																同定部位なし
	322	北盛土	J	21	D	MⅡ中		2015/9/7																																																																																同定部位なし
	158	北盛土	J	21		MⅠ		2015/7/29																																1																																																			
	242	北盛土	J	21		MⅡ上		2015/9/7		○																																					1																													1															
	269	北盛土	J	21		MⅠ		2015/8/3																																																																												1					
	28	北盛土	J	22	A	MⅡ中		2015/9/14																																																																																同定部位なし
	108	北盛土	J	22	A	MⅡ中		2015/9/11																																																												1																					
	166	北盛土	J	22	B	MⅡ下		2015/9/17																																																																															同定部位なし
	199	北盛土	J	22	B	MⅡ中		2015/9/16																						1																																																												
	303	北盛土	J	22	B	MⅡ中		2015/9/25																																																																																同定部位なし
	366	北盛土	J	22	B	MⅡ中		20115/9/16																																																																															
	77	北盛土	J	22	C	MⅡ下		2015/9/18																																																					1																										
	230	北盛土	J	22	C	MⅡ中		2015/9/16																																												1																																								
	255	北盛土	J	22	C	MⅡ中		2015/9/18																																																																																同定部位なし
	182	北盛土	J	22	D	Ⅴ下		2015/9/14																																																																															同定部位なし
	286	北盛土	J	22		MⅠ		2015/8/3																																															1																																
	185	北盛土	J	23	A	MⅡ中		2015/9/15																																																															1																
	75	北盛土	J	23	B		トレンチ	2015/9/25																					1		1				1																																																							手根骨2，3，副完形
	142	北盛土	J	23	B	MⅡ下		2015/9/24																								1																																																										
	202	北盛土	J	23	B	MⅡ中		2015/9/15																																															1							1					1																				基節骨：幼獣
	337	北盛土	J	23	B	MⅡ中		2015/9/17																																																1																															
	10	北盛土	J	23	C	MⅡ中		2015/9/15																																																																																

ニホンジカ　部位

遺物番号	資料番号	遺構種	グリッド	番号	小グリ	層位	備考	取り上げ日	鹿角	歯 F	下顎骨 L	椎骨 F	肋骨 F	肩甲骨 F	上腕骨 F	橈骨 P	橈骨 P R	橈骨 P L	橈骨 D R	橈骨 D L	尺骨 P R	尺骨 P L	尺骨 D R	尺骨 D L	手根骨 R R	手根骨 R L	手根骨 U R	手根骨 U L	手根骨 I R	手根骨 I L	手根骨 2+3 R	手根骨 2+3 L	手根骨 4 R	手根骨 4 L	手根骨 副 R	手根骨 副 L	脛骨 P R	脛骨 P L	脛骨	脛骨 D R	脛骨 D L	腓骨	膝蓋骨 R	膝蓋骨	膝蓋骨 L	踵骨 R	踵骨 L	距骨 R	距骨 L	距骨 F	果骨 R	果骨 L	種子骨	足根骨 第1 R	足根骨 第1 L	足根骨 2+3 R	足根骨 2+3 L	足根骨 C+4 R	足根骨 C+4	足根骨 C+4 L	基節骨 P R	基節骨 P	基節骨 P L	基節骨 D R	基節骨 D	基節骨 D L	中節骨 P R	中節骨 P	中節骨 P L	中節骨 D R	中節骨 D	中節骨 D L	末節骨 P R	末節骨 P	末節骨 P L	末節骨 R	末節骨 L	末節骨 D R	末節骨 D	末節骨 D L	第2・5基節骨 R	第2・5基節骨 L	第2・5中節骨 R	第2・5中節骨 L	第2・5末節骨 R	第2・5末節骨 L	mc/mt P	mc/mt S	mc/mt D	骨角器			
	179	北盛土	J	23	C	Ⅴ下		2015/9/17										1																																																																										1				
	278	北盛土	J	23	C	MⅡ中		2015/9/16																																																									1																																
	351	北盛土	J	23	C	MⅡ下		2015/9/17																																																																																									
	140	北盛土	J	23	D	MⅡ中		2015/9/10																																																																						1																		
	260	北盛土	J	23		MⅡ下		2015/10/14																																																						1																																		
	159	北盛土	J	24	A	MⅡ中		2015/9/16																																																													1			1																									
	256	北盛土	J	24	A	Ⅴ下		2015/9/17																																																																																							同定部位なし
	134	北盛土	J	24	C	MⅡ中		2015/10/1																																											1																																													
	279	北盛土	J	24	C	MⅡ中		2015/9/16																																																								1																												
	128	北盛土	J	24		MⅡ上		2015/10/14																																																																																								同定部位なし
	189	北盛土	J	24		盛土	トレンチ	2015/8/7																																																					1																																1			
	216	北盛土	J	24		MⅠ		2015/9/28																																											1																																											
	227	北盛土	J	24		MⅡ上		2015/9/15																								1																						1																																												
	249	北盛土	J	24		MⅡ	トレンチ	2015/9/14																																									1																																															
	342	北盛土	J	24		MⅡ上		2015/9/16																																																																																							同定部位なし
	52	北盛土	J	25	D	Ⅴ下		2015/9/18																																																																																								イヌ？×1
	288	北盛土	J	25	D	MⅡ中		2015/9/16																																																																																								同定部位なし
	335	北盛土	J	25	D	MⅡ下		2015/9/17																																																																																								同定部位なし
	125	北盛土	J	25		MⅡ	トレンチ	2015/9/14																																																																																								同定部位なし
	187	北盛土	J	25		MⅡ中	トレンチ	2015/9/11																										1																																					1																								
	64	北盛土	K	19	A	MⅡ中		2015/9/30																																																							1															2																			
	304	北盛土	K	19	A	MⅡ中		2015/9/30												1																																																																													
	209	北盛土	K	19		Ⅴ上		2015/8/27																							1																							1											2															1						1														
|16|北盛土|K|20|A|MⅡ上| |2015/9/17|																																																															|1|																									
|162|北盛土|K|20|D|MⅡ中| |2015/9/29|																										|1|						|1|																																																							|手根骨副完形
	18	北盛土	K	20		Ⅴ	トレンチ	2015/7/9	1				1														1																																																		1																							
	126	北盛土	K	20		Ⅴ上	ベルト	2015/10/5																																																																													1										
	146	北盛土	K	20		Ⅴ	トレンチ	2015/7/10			1																																																				1																											
	212	北盛土	K	20		Ⅴ上		2015/8/6																																													1																			1																											
	220	北盛土	K	20		Ⅴ	トレンチ	2015/7/9																																																																																			1				
	48	北盛土	K	21	A	MⅡ上		2015/9/16																																																																																							同定部位なし
	176	北盛土	K	21	A	MⅡ下		2015/9/17																																																							1																																	
	323	北盛土	K	21	A	MⅡ中		2015/9/16																																											1													1																														
	367	北盛土	K	21	A	MⅡ中		2015/9/17																																																																																									
	345	北盛土	K	21	A	MⅡ下		2015/9/17																																											1																																											
	63	北盛土	K	21	B	MⅡ中		2015/9/24																																																												1												1													
	165	北盛土	K	21	B	MⅡ上		2015/9/18	1																		1																																				1																								1									哺乳綱　不明×1 末節骨完形
|200|北盛土|K|21|B|MⅡ下| |2015/9/25|																																		|1|																																																						
	313	北盛土	K	21	B	MⅡ中		2015/4/25																					1																																									1																							1				
|362|北盛土|K|21|B|MⅡ上| |2015/9/17|1|				|1|		|1|				|1|1|																																																																										|1|			
	4	北盛土	K	21	C	MⅡ上		2015/9/17																																																												1																											
|91|北盛土|K|21|C|MⅡ下| |2015/9/30|																																																																																									
	180	北盛土	K	21	C	Ⅴ上	ベルト	2015/10/2																																																																																				1			
	163	北盛土	K	21	D	MⅡ中		2015/9/16																																																									1									1																					
	343	北盛土	K	21	D	MⅡ下		2015/9/16																																																																																								同定部位なし
	61	北盛土	K	21		MⅠ		2015/7/30																																																																																								同定部位なし
	120	北盛土	K	21		MⅡ		2015/8/31																																																																													1								
	168	北盛土	K	21		MⅡ		2015/8/28				1																																																																																			
	49	北盛土	K	22	A	MⅡ下		2015/9/25																																																		1																																						
	271	北盛土	K	22	A	MⅡ下		2015/9/25																		1																																																																							完形
	297	北盛土	K	22	A	MⅡ中		2015/9/14																																																																													1											中節骨完形
	228	北盛土	K	22	B	MⅡ中		2015/9/14																																																												1							1																						
	150	北盛土	K	22	C	MⅡ上		2015/9/10																																																																					1																		
	153	北盛土	K	22	C	MⅡ中		2015/10/1																																																																															1									末節骨完形
|203|北盛土|K|22|C|Ⅴ下| |2015/10/1|																																																																																											
	233	北盛土	K	22	C	MⅡ上		2015/9/18																																											1																																											
	320	北盛土	K	22	C	MⅡ上		2015/9/24																																																									1																						1									末節骨完形

ニホンジカ　部位

遺物番号	資料番号	遺構種	グリッド	番号	小グリ	層位	備考	取り上げ日	鹿角	歯 F	下顎骨 L	椎骨 F	肋骨 F	肩甲骨 F	上腕骨 F	橈骨 P	橈骨 P R	橈骨 P L	橈骨 D R	橈骨 D L	尺骨 P R	尺骨 P L	尺骨 D R	尺骨 D L	手根骨 R R	手根骨 R L	手根骨 U R	手根骨 U L	手根骨 I R	手根骨 I L	手根骨 2+3 R	手根骨 2+3 L	手根骨 4 R	手根骨 4 L	手根骨 副 R	手根骨 副 L	脛骨 P R	脛骨 P L	脛骨	脛骨 D R	脛骨 D L	腓骨	膝蓋骨 R	膝蓋骨	膝蓋骨 L	踵骨 R	踵骨 L	距骨 R	距骨 L	距骨 F	果骨 R	果骨 L	種子骨
	7	北盛土	K	22	D	MⅡ下		20115/9/30																																										1			
	22	北盛土	K	22	D	Ⅴ上		2015/10/1																																													1
	29	北盛土	K	22	D	MⅡ下		2015/9/29		○																																											1
	95	北盛土	K	22	D	MⅡ下		2015/9/28																																													
	325	北盛土	K	22	D	MⅡ上		2015/9/24																																													
	30	北盛土	K	22		Ⅴ上		2015/7/23																																													1
	78	北盛土	K	22		Ⅴ上		2015/8/4																															1														
	118	北盛土	K	22		MⅡ	杭	2015/10/19																																													
	299	北盛土	K	22		MⅡ上		2015/9/3	1																																												
	338	北盛土	K	22		Ⅴ上		2015/8/5							1																																						
	294	北盛土	K	23	A	MⅡ中		2015/9/11																																							1							
	157	北盛土	K	23	B	MⅡ中		2015/9/10																																													
	177	北盛土	K	23	C	MⅡ中		2015/9/10																																													
	282	北盛土	K	23	C	MⅡ上		2015/9/11																																	1												
	195	北盛土	K	23	D	MⅡ中		2015/9/24																																										1				
	13	北盛土	K	23		MⅡ上		2015/9/4																																													
	21	北盛土	K	23		MⅡ下		2015/10/14																																					1								
	241	北盛土	K	23		MⅡ	杭	2015/10/19																																													
	277	北盛土	K	23		MⅡ上		2015/9/3																																													
	290	北盛土	K	23		Ⅴ上		2015/7/30																																													
	50	北盛土	K	24		MⅡ下	ベルト	2015/9/30																	1																												
	169	北盛土	K	24		Ⅴ中		2015/9/30																																													
	201	北盛土	K	24		Ⅴ中		2015/9/8																																													
	94	北盛土	L	19		Ⅶ直上		2015/10/5																																													
	236	北盛土	L	19		Ⅴ上		2015/8/24																																													
	129	北盛土	L	20	C	Ⅶ直上		2015/10/5																																													
	98	北盛土	L	20	D			2015/10/5																																													
	110	北盛土	L	20		Ⅴ上		2015/8/20																																													3
	292	北盛土	L	20		Ⅴ上		2015/8/7																																													
	341	北盛土	L	20		Ⅴ上		2015/8/19																																													1
	333	北盛土	L	21	C	MⅡ		2015/9/18																																													
	24	北盛土	L	21	D	MⅡ下		2015/9/24																																													
	55	北盛土	L	21		MⅡ上		2015/9/18																			1																				1							
	65	北盛土	L	21		Ⅴ上		2015/8/18																																													
	117	北盛土	L	21		Ⅴ上		2015/9/30																											1																		
	174	北盛土	L	21		Ⅴ	トレンチ	2015/7/9																																													
	184	北盛土	L	21		Ⅴ上	ベルト	2015/10/1																																													
	225	北盛土	L	21		Ⅴ	トレンチ	2015/7/9																																													
	259	北盛土	L	21		Ⅴ	トレンチ	2015/7/7																																													
	132	北盛土	L	22	A	MⅡ下		2015/9/28																																													
	307	北盛土	L	22	A	MⅡ下		2015/9/25																																													1
	33	北盛土	L	22	D	MⅡ下		2015/9/25																																													
	130	北盛土	L	22	D	MⅡ上		2015/9/24																												1																	
	71	北盛土	L	22		Ⅴ	トレンチ	2015/7/9																																													
	101	北盛土	L	22		MⅡ	杭	2015/9/18																																													
	115	北盛土	L	22		Ⅴ	トレンチ	2015/7/8																																													
	148	北盛土	L	22		Ⅴ上		2015/8/6																																													
	149	北盛土	L	22		MⅡ上		2015/8/31										1																																			
	194	北盛土	L	22		MⅡ中	杭	2015/9/24																																													
	285	北盛土	L	23		MⅡ上		2015/9/7																																													
	119	北盛土	L	24		Ⅴ		2015/7/6																																													1
	289	北盛土	L	24		Ⅴ中		2015/9/7																																													
	92	削平部分	M	19		Ⅶ直上		2015/10/22																																													
	122	削平部分	M	19		Ⅶ直上		2015/10/13																																													
	293	削平部分	M	19		Ⅴ下		2015/7/29																																													
	331	削平部分	M	19		Ⅴ上		2015/7/28																																													
	73	削平部分	M	20		Ⅶ直上		2015/10/22																																													

資料番号	足根骨 第1 R	足根骨 第1 L	足根骨 2+3 R	足根骨 2+3 L	足根骨 C+4 R	足根骨 C+4	足根骨 C+4 L	基節骨 P R	基節骨 P	基節骨 P L	基節骨 D R	基節骨 D	基節骨 D L	中節骨 P R	中節骨 P	中節骨 P L	中節骨 D R	中節骨 D	中節骨 D L	末節骨 P R	末節骨 P	末節骨 P L	末節骨 R	末節骨 L	末節骨 D R	末節骨 D	末節骨 D L	第2・5基節骨 R	第2・5基節骨 L	第2・5中節骨 R	第2・5中節骨 L	第2・5末節骨 R	第2・5末節骨 L	mc/mt P	mc/mt S	mc/mt D	骨角器			
7																					1																			
22																																								
29																																								
95																																								同定部位なし
325																																			1					
30																																								
78								1																																
118																				1																				
299																																								
338																																								
294																																								
157																				1																				
177									1																															
282																																								
195																				1																				
13																					1					1														
21																																								
241														1																										
277																																	1							末節骨完形
290															1																									
50																																								
169																	1														1									中節骨完形
201																																								同定部位なし
94																																								同定部位なし
236																																1								末節骨完形
129								1																																
98																																								同定部位なし
110																																	1							末節骨完形
292																																				1				
341																																								
333													1							1																				
24									1																															
55																																								
65																							1																	
117																	1									1														手根骨副完形
174																1																								
184																						1																		
225																														1										
259																																								同定部位なし
132																1																								
307																																								
33																																								同定部位なし
130																																								
71																																								同定部位なし
101								1																																
115																					1																			
148																						1																		
149																																								
194																						1																		
285																			1																					
119																																								
289																																								
92																																								同定部位なし
122																																	1							末節骨完形
293																											1													
331																				1																				
73																																								同定部位なし

ニホンジカ　部位

遺物番号	資料番号	遺構種	グリッド	番号	小グリ	層位	備考	取り上げ日	鹿角	歯 F	下顎骨 L	椎骨 F	肋骨 F	肩甲骨 F	上腕骨 F	橈骨	橈骨 P R	橈骨 P L	橈骨 D R	橈骨 D L	尺骨 P R	尺骨 P L	尺骨 D R	尺骨 D L	手根骨 R R	手根骨 R L	手根骨 U R	手根骨 U L	手根骨 I R	手根骨 I L	手根骨 2+3 R	手根骨 2+3 L	手根骨 4 R	手根骨 4 L	手根骨 副 R	手根骨 副 L	脛骨 P R	脛骨 P L	脛骨	脛骨 D R	脛骨 D L	腓骨	膝蓋骨 R	膝蓋骨	膝蓋骨 L	踵骨 R	踵骨 L	距骨 R	距骨 L	距骨 F	果骨 R	果骨 L	種子骨	足根骨 第1 R	足根骨 第1 L	足根骨 2+3 R	足根骨 2+3 L	足根骨 C+4 R	足根骨 C+4	足根骨 C+4 L	基節骨 P R	基節骨 P	基節骨 P L	基節骨 D R	基節骨 D	基節骨 D L	中節骨 P R	中節骨 P	中節骨 P L	中節骨 D R	中節骨 D	中節骨 D L	末節骨 P R	末節骨 P	末節骨 P L	末節骨 R	末節骨 L	末節骨 D R	末節骨 D	末節骨 D L	第2・5基節骨 R	第2・5基節骨 L	第2・5中節骨 R	第2・5中節骨 L	第2・5末節骨 R	第2・5末節骨 L	mc/mt P	mc/mt S	mc/mt D	骨角器			
	137	削平部分	M	20		Ⅴ中		2015/7/27																																													1																																1							末節骨完形
	103	削平部分	M	21		Ⅷ直上		2015/10/7																																																												1																								
	318	削平部分	M	21		MⅡ下		2015/9/25																																												1																	1																							
	23	削平部分	M	22		Ⅷ直上		2015/10/6																																																																								1					1									中節骨完形
	156	削平部分	N	19		Ⅴ中		2015/9/30																																																																																						同定部位なし
	356	削平部分	P	22		Ⅴ上		2015/7/27																																												1																																										
	37	削平部分	P	23		Ⅴ中		2015/8/17																																																																													1							末節骨完形
	145	削平部分	Q	20		Ⅴ下		2015/7/22																																																																																					同定部位なし
	315	削平部分	Q	20		Ⅴ下		2015/7/23																																																						1																																
	274	削平部分	Q	21		Ⅷ直上		2015/10/13															1																																																																						
	284	削平部分	Q	21		Ⅷ直上		2015/9/28																																																																												1							末節骨完形
	80	削平部分	Q	22		Ⅴ中		2015/8/5																											1																																																											手根骨副完形
	99	削平部分	Q	23		Ⅷ直上		2015/10/16																																																																																					同定部位なし
	257	削平部分	Q	25		Ⅴ中		2015/9/14																																																													1																							
	291	削平部分	Q	25		Ⅴ中		2015/9/15																																																						1		1																												
	231	南盛土	R	19		Ⅴ中		2015/7/23																																																						1																																
	254	南盛土	R	20	A	MⅡ中		2015/9/25																												1																											1																												
	97	南盛土	R	20		Ⅷ直上		2015/10/16																																																																				1																	
	139	南盛土	R	21		Ⅴ下		2015/9/28																				1																										1																																										
	204	南盛土	R	21		Ⅴ上		2015/8/26																																																																																						同定部位なし
	218	南盛土	R	21		MⅠ		2015/9/3																																																													1									1																
	235	南盛土	R	21		Ⅴ上		2015/7/27																																																																																						同定部位なし
	253	南盛土	R	21		Ⅴ下		2015/9/25									1																			1																	1																																								手根骨副、種子骨完形
	70	南盛土	R	22		Ⅴ中		2015/8/28									1																																																																													
	72	南盛土	R	22		Ⅷ直上		2015/10/19																																																																																					同定部位なし
	113	南盛土	R	22		Ⅴ	トレンチ	2015/7/7																						1																																																1												
	106	南盛土	R	23		MⅠ		2015/8/27																		1																												2																																								
	190	南盛土	R	23		MⅠ		2015/8/28																																																							1																																
	207	南盛土	R	23		MⅠ		2015/8/26															1																																																																						
	67	南盛土	R	24		Ⅴ中		2015/9/7																																														2																																								
	301	南盛土	R	24		Ⅴ中		2015/9/4																																																																																			2				中手中節骨:幼獣
	358	南盛土	R	24		Ⅴ下		2015/7/28																			1																																																																			
	11	南盛土	R	25		Ⅴ上		2015/9/16																																														1																																								
	43	南盛土	R	25		Ⅴ中		2015/9/16																																												1	1										1											1													1									
	44	南盛土	R	25		Ⅴ中		2015/9/16																																																																																						猛禽類　趾骨×1
	329	南盛土	R	25		Ⅴ		2015/6/17																																																																															1							
	243	南盛土	S	19		MⅠ		2015/9/1																																																																																						同定部位なし
	5	南盛土	S	20		Ⅴ上		2015/7/21																				1																																																																
	74	南盛土	S	20		MⅠ		2015/8/20																																														1																																								
	239	南盛土	S	20		MⅠ		2015/8/20																																																																				1																		
	57	南盛土	S	21	B	MⅡ中		2015/9/18																																														1																																				1				
	141	南盛土	S	21	B	MⅡ上		2015/9/17																																												1																		1																								
	348	南盛土	S	21	D	MⅡ中		2015/9/25																																																																																							
	111	南盛土	S	21		MⅠ		2015/8/19																				2																																																																
	210	南盛土	S	21		Ⅵ	トレンチ	2015/7/9																		1									1																																																				1								末節骨完形
	240	南盛土	S	21		MⅠ		2015/8/19																																																																																							同定部位なし
	69	南盛土	S	22		Ⅴ中		2015/7/15																																																																														1							末節骨完形
	186	南盛土	S	22		Ⅴ上		2015/7/14																																																												1																								
	191	南盛土	S	22		Ⅴ	トレンチ	2015/7/9																																																															1																				
	205	南盛土	S	22		MⅠ		2015/8/7																																												1																																										
	208	南盛土	S	22		Ⅴ中		2015/8/17																																																								1						1																								
	250	南盛土	S	22		Ⅴ	トレンチ																								1																						2																																								手根骨2, 3完形
	310	南盛土	S	22		Ⅴ上		2015/7/13																																																																																1								
	84	南盛土	S	23		Ⅴ中		2015/7/16																									1																																																														手根骨2, 3完形
	114	南盛土	S	23		Ⅴ上		2015/7/15																																																																																						同定部位なし
	2	南盛土	S	24		Ⅴ		2015/7/14																																												1	1																					2																				
	144	南盛土	S	24		Ⅴ上		2015/9/1										1																																																																												

ニホンジカ　部位									鹿角	歯	下顎骨	椎骨	肋骨	肩甲骨	上腕骨	橈骨					尺骨				手根骨												脛骨					腓骨	膝蓋骨			踵骨		距骨			果骨		種子骨	足根骨							基節骨						中節骨						末節骨								第2・5基節骨		第2・5中節骨		第2・5末節骨		mc/mt			骨角器			
																P			D		P		D		R		U		I		2+3		4		副		P			D														第1		2+3		C+4			P			D			P			D			P					D														
										F	L	F	F	F	F		R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L		R	L		R		L	R	L	R	L	F	R	L		R	L	R	L	R		L	R		L	R		L	R		L	R		L	R		L	R	L	R		L	R	L	R	L	R	L	P	S	D				
遺物番号	資料番号	遺構種	グリッド	番号	小グリ	層位	備考	取り上げ日																																																																																					
	221	南盛土	S	24		Ⅴ上		2015/9/1																																																									1																										
	300	南盛土	S	24		Ⅴ中		2015/9/1																																																																																		同定部位なし
	296	南盛土	S	25		Ⅴ上		2015/10/15																																																													1																		
	32	南盛土	S・T	21		Ⅴ	トレンチ																																																																																	
	265	南盛土	T	20	D	MⅡ上		2015/9/17																																																								1																												
	17	南盛土	T	20		Ⅶ直上		2015/9/29																																																																																
	42	南盛土	T	20		Ⅴ		2015/7/8																																								1										1																	1							1	1							末節骨完形
	56	南盛土	T	20		Ⅴ上		2015/7/13																																																																																イヌ？×1
	76	南盛土	T	20		Ⅴ上	ベルト	2015/10/3																														1											1																																									
	124	南盛土	T	20		MⅠ		2015/8/19																																																1																											1					
	234	南盛土	T	20		MⅠ		2015/8/27																																																												1					1														
	247	南盛土	T	20		MⅠ		2015/8/26																																																			1									1																			
	272	南盛土	T	20		MⅠ		2015/8/27																		1																																																																	
	312	南盛土	T	20		MⅠ		2015/8/31																				1																																						1	1						1																		
	53	南盛土	T	21	A	MⅡ上		2015/9/18							1																																															2													1																		
	252	南盛土	T	21	A	MⅡ中		2015/9/24																																																																																ウグイ　椎骨×1
	306	南盛土	T	21	A	MⅡ上		2015/9/24																																																																																同定部位なし
	131	南盛土	T	21	B	MⅡ中		2015/9/24																																																			1						1				1																					
	215	南盛土	T	21	B	MⅡ上		2015/9/18																																																																																同定部位なし
	283	南盛土	T	21	B	MⅡ下		2015/9/25																																																																													1			
	336	南盛土	T	21	B	MⅡ上		2015/9/17								1																																			1																																							
	41	南盛土	T	21	C	MⅡ下		2015/9/24																																																													1																			
	219	南盛土	T	21	C	MⅡ上		2015/9/18																																																																					1								末節骨完形
	248	南盛土	T	21	C	MⅡ中		2015/10/1																																																																																	イヌ？　基節骨×1
	309	南盛土	T	21	C	MⅡ中		2015/9/30	1																																																																																
	344	南盛土	T	21	C	MⅡ中		2015/9/24																																								1																																								アシカ？　指趾骨×1
	263	南盛土	T	21	D	MⅡ中		2015/9/25																																																																																同定部位なし
	268	南盛土	T	21	D	MⅡ上		2015/9/18																																																																																同定部位なし
	363	南盛土	T	21	D	MⅡ上		2015/9/24																																																																																同定部位なし
	368	南盛土	T	21	D	MⅡ中		2015/9/24																																																																																
	121	南盛土	T	21		MⅡ下		2015/10/7	1																											1																											1						1																						
	211	南盛土	T	21		MⅠ		2015/8/19																		2																			1																													1																		
	311	南盛土	T	21		Ⅵ	トレンチ	2015/7/9																																																				1																														
	334	南盛土	T	21		MⅠ		2015/8/17																																																																								1						
	275	南盛土	T	22	C	MⅡ上		2015/9/17																	1																																																																
	317	南盛土	T	22	C	Ⅴ中		2015/9/17																																																																						1								末節骨完形
	12	南盛土	T	22	D	MⅡ上		2015/9/16																																																																	1														
	14	南盛土	T	22	D	Ⅴ中		2015/9/17		○																																																																																
	54	南盛土	T	22		Ⅴ中		2015/7/16																											1																		4																																								
	93	南盛土	T	22		Ⅴ上		2015/7/16																																														1																		1																							
	123	南盛土	T	22		MⅠ		2015/8/19																																																																			1											1					
	147	南盛土	T	22		MⅠ		2015/8/18																							1																			1					1																																								
	361	南盛土	T	22		MⅠ		2015/8/17							1																					1																1									1												1																1					手根骨副完形
	62	南盛土	T	23		Ⅴ	トレンチ	2015/7/7																																																												1																							
	107	南盛土	T	23		Ⅴ中		2015/7/22																			1																																																								1								
	258	南盛土	T	23		Ⅴ上		2015/7/21																																																							1																			1	1							
	226	南盛土	T	24		Ⅴ中		2015/9/10																																								2																								1																		
	229	南盛土	T	24		Ⅴ上		2015/9/9																																							1		1																																											果骨完形
	232	南盛土	T	24		Ⅴ	トレンチ	2015/7/13																																								1																																								
	36	南盛土	U	20	A	MⅡ中		2015/9/16																																																																																		同定部位なし
	308	南盛土	U	20	A	MⅡ中		2015/9/15																																																																																	同定部位なし
	217	南盛土	U	20	B	MⅡ下		2015/9/17																																					1																											1																				
	273	南盛土	U	20	B	MⅡ上		2015/9/16																																																																	1																
	302	南盛土	U	20	B	MⅡ中		2015/9/17																																																																																	同定部位なし
	20	南盛土	U	20	C	MⅡ下		2015/9/17																																																			1																															
	188	南盛土	U	20	C	MⅡ中		2015/9/16																												1																																																							
	261	南盛土	U	20	C	MⅡ中		2015/9/17																																																														1																		

ニホンジカ　部位

遺物番号	資料番号	遺構種	グリッド	番号	小グリ	層位	備考	取り上げ日
	161	南盛土	U	20	D	MⅡ中		2015/9/16
	1	南盛土	U	20		V		2015/7/9
	83	南盛土	U	20		MⅠ		2015/8/26
	112	南盛土	U	20		V上		2015/7/14
	197	南盛土	U	20		V上		2015/7/14
	327	南盛土	U	20		V		2015/7/10
	340	南盛土	U	20		MⅠ		2015/8/28
	360	南盛土	U	20		MⅠ		2015/8/27
	58	南盛土	U	21	A	MⅡ中		2015/9/14
	160	南盛土	U	21	A	MⅡ上		2015/9/11
	264	南盛土	U	21	B	MⅡ中		2015/9/14
	324	南盛土	U	21	B	MⅡ上		2015/9/14
	86	南盛土	U	21		MⅠ		2015/8/28
	152	南盛土	U	21		MⅠ		2015/8/17
	251	南盛土	U	21		MⅠ		2015/9/3
	266	南盛土	U	21		MⅠ		2015/8/19
	295	南盛土	U	21		V上		2015/7/15
	349	南盛土	U	21		MⅠ		2015/8/18
	8	南盛土	U	22		V中		2015/7/21
	104	南盛土	U	22		MⅡ		2015/10/20
	109	南盛土	U	22		V中		2015/8/7
	154	南盛土	U	22		MⅠ		2015/8/7
	178	南盛土	U	22		V上		2015/7/17
	213	南盛土	U	22		V中		2015/7/17
	353	南盛土	U	22		MⅠ		2015/7/6
	364	南盛土	U	22		MⅠ		2015/7/5
	15	南盛土	U	23		V	トレンチ	2015/7/6
	116	南盛土	U	23		V	トレンチ	2015/7/7
	167	南盛土	U	23		MⅠ		2015/8/5
	135	南盛土	V	20		V上		2015/7/15
	237	南盛土	V	20		MⅠ		2015/8/19
	270	南盛土	V	20		V上		2015/7/15
	330	南盛土	V	20		V中		2015/8/26
	332	南盛土	V	20		MⅠ		2015/8/19
	3	南盛土	V	21		MⅠ		
	27	南盛土	V	21		V下	杭	2015/10/21
	89	南盛土	V	21		MⅠ		2015/8/6
	96	南盛土	V	21		MⅠ		2015/8/31
	183	南盛土	V	21		V中		2015/7/16
	224	南盛土	V	21		V上		2015/7/16
	321	南盛土	V	21		MⅠ		2015/7/30
	326	南盛土	V	21		MⅠ		2015/8/5
	346	南盛土	V	21		MⅠ		2015/8/7
	79	南盛土	V	22		MⅠ		2015/8/3
	175	南盛土	V	22		V上		2015/7/22
	206	南盛土	V	22		V中		2015/7/31
	328	南盛土	V	22		V中		2015/8/4
	350	南盛土	V	22		V中		2015/7/23
	82	南盛土	V	23		V	杭	2015/10/21
	181		排土	排土				
	238	北盛土	ベルトB	①		V下		2015/10/19
	314	北盛土	ベルトB	⑥		MⅡ中		2015/10/16
	100	北盛土	ベルトB	⑨		MⅡ中		2015/10/19
	352	北盛土	ベルトB	⑨		MⅡ中		2015/10/19
	34	北盛土	ベルトB	⑮		MⅡ下		2015/10/19
	25	北盛土	ベルトB	⑯		MⅡ下		2015/10/19
656	305							2015/9/15

資料番号	鹿角	歯 F	下顎骨 L	椎骨 F	肋骨 F	肩甲骨 F	上腕骨 F	橈骨	橈骨 P R	橈骨 P L	橈骨 D R	橈骨 D L	尺骨 P R	尺骨 P L	尺骨 D R	尺骨 D L	手根骨 R R	手根骨 R L	手根骨 U R	手根骨 U L	手根骨 I R	手根骨 I L	手根骨 2+3 R	手根骨 2+3 L	手根骨 4 R	手根骨 4 L	手根骨 副 R	手根骨 副 L	脛骨 P R	脛骨 P L	脛骨	脛骨 D R	脛骨 D L	腓骨
161																																		
1						3										1		1													1			
83																																		
112																																		
197																																		
327																																		
340																																		
360																			1															
58																															1			
160																																		
264																																		
324																																		
86																																		
152																																		
251																																		
266																	1																	
295																					1													
349																																		
8																																		
104																																		
109																																		
154																																		
178																																		
213																																	1	
353								1																										
364																																		
15						1																						1						
116																																		
167																																		
135																1																		
237																																		
270																																		
330																					1													
332									2																									
3																						1												
27																																		
89																				1														
96																																		
183															1																			1
224																																		
321																																		
326																																		
346																																		
79																																		
175																																		
206																																		
328																																		
350																																		
82																																		
181																																		
238																																		
314																																		
100																																		
352																																		
34																																		
25					1																													
305																																		

資料番号	膝蓋骨 R	膝蓋骨	膝蓋骨 L	踵骨 R	踵骨 L	距骨 R	距骨 L	距骨 F	果骨 R	果骨 L	種子骨	足根骨 第1 R	足根骨 第1 L	足根骨 2+3 R	足根骨 2+3 L	足根骨 C+4 R	足根骨 C+4	足根骨 C+4 L	基節骨 P R	基節骨 P	基節骨 P L	基節骨 D R	基節骨 D	基節骨 D L	中節骨 P R	中節骨 P	中節骨 P L	中節骨 D R	中節骨 D	中節骨 D L	末節骨 P R	末節骨 P	末節骨 P L	末節骨 R	末節骨 L	末節骨 D R	末節骨 D	末節骨 D L	第2・5基節骨 R	第2・5基節骨 L	第2・5中節骨 R	第2・5中節骨 L	第2・5末節骨 R	第2・5末節骨 L	mc/mt P	mc/mt S	mc/mt D	骨角器			備考
161																																															1				
1										1	2																					1					1														果骨完形
83																																				1															
112																				1																															
197											1																																								
327																																											2								
340																					1																														基節骨:幼獣
360																					1					2											1														
58																																																			
160																			1																																
264																																	1																		
324																																															1				
86																											1																								
152											1																																								種子骨完形
251																																	1																		
266							1																1											1																	手根骨R完形
295																				1																		1													
349																																																			同定部位なし
8											1																																	1							種子骨完形
104																																																			同定部位なし
109																																															1				
154																											1																								
178																																											1								
213											1																																								種子骨完形
353																																	1										1								末節骨完形
364																																		1																	
15											1																															1									手根骨副、種子骨完形
116																																											1								末節骨完形
167											1																																								種子骨完形
135																																																			
237																														1																					
270																											1																			1					
330																																						1													
332																																																			
3										1	2																					1					1														
27																																																			同定部位なし
89																										2																									
96																																			1												1				
183								1																																											
224											1																																								種子骨完形
321																															1																				
326										1																																									
346																																												1							末節骨完形
79									1																																										果骨完形
175											2																																	1							
206																															1																				
328											1																																								
350											1																																1								末節骨完形
82																											1																								
181											3																																	1							
238																				1																															
314																															1																				
100																																																			同定部位なし
352																																	1																		
34																																																			同定部位なし
25																																																			
305																																																			

Ⅵ章　自然科学的分析

1　放射性炭素年代測定（1）

㈱加速器分析研究所

（1）測定対象試料

オコッコ1遺跡は、北海道勇払郡厚真町字幌内938-1（北緯42°45′9″、東経141°57′59″）に所在し、厚真川とオコッコ沢川の合流点に当たる台地上（標高約60m）に立地する。測定対象試料は、盛土等の遺構から出土した炭化木片、土器付着炭化物、焼骨の合計10点である（表Ⅵ－1）。土器付着炭化物OK 1-6は、縄文時代前期前半とされる土器の胴部破片外面より採取した。焼骨OK 1-7～10は、いずれもシカ四肢骨で白色を呈する。10点とも縄文時代前期前半（^{14}C年代で5,500yrBP）と推定されている。

（2）測定の意義

試料が出土した遺構の年代を明らかにする。

（3）化学処理工程

a）炭化木片、土器付着炭化物の化学処理

ⅰ）メス・ピンセットを使い、土等の付着物を取り除く。

ⅱ）酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表Ⅵ－1に記載する。

ⅲ）試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。

ⅳ）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

ⅴ）精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。

ⅵ）グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

b）焼骨の化学処理

焼骨の^{14}C年代測定を検討したLanting et al. 2001、Naysmith et al. 2007を参考に、以下の処理を行った。

ⅰ）ブラシ等を使い試料から根・土等の付着物を取り除く。さらに超純水に浸し、超音波洗浄を行う。

ⅱ）1.5％の次亜塩素酸ナトリウム（NaClO）で2日間、1Mの酢酸（CH_3COOH）で1日間処理を行う。

ⅲ）試料をリン酸と反応させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。以下、a）ⅳ）以降と同じ。

（4）測定方法

加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、^{14}Cの計数、^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C濃度（^{14}C/^{12}C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

（5）算出方法

・δ^{13}Cは、試料炭素の^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表し

た値である（表Ⅵ－１）。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

・^{14}C 年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年（０yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期（5,568 年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C 年代は δ^{13}C によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表１に、補正していない値を参考値として表２に示した。^{14}C 年代と誤差は、下１桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、^{14}C 年代の誤差（±１σ）は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2％であることを意味する。

・pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい（^{14}C が少ない）ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上（^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上）の場合 Modern とする。この値も δ^{13}C によって補正する必要があるため、補正した値を表１に、補正していない値を参考値として表２に示した。

・暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、１標準偏差（１σ＝68.2％）あるいは２標準偏差（２σ＝95.4％）で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ^{13}C 補正を行い、下１桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース（Reimer et al. 2013）を用い、OxCalv4.2 較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表Ⅵ－２に示した。暦年較正年代は、^{14}C 年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

（６）測定結果と若干の考察

a）測定結果

測定結果を表Ⅵ－１、２に示す。

試料 10 点の ^{14}C 年代は、5,600±30yrBP（OK １-６）から 5,050±30yrBP（OK １-10）の間にある。暦年較正年代（１σ）は、最も古い OK １-６が 4459～4371cal BC の間に２つの範囲、最も新しい OK １-10 が 3,941～3,797cal BC の間に２つの範囲で示され、全体として縄文時代前期前葉ないし中葉から後半頃に相当する年代幅を持っている（小林編 2008）。4,300～3,900cal BC 頃の値となるものが比較的多く、OK １-６、10 がそのまとまりからやや外れている。推定される縄文時代前期前半（^{14}C 年代で 5,500yrBP）に重なりながら、OK １-10 などそれよりかなり新しい年代値を示した試料がある。

試料の炭素含有率を確認すると、炭化木片 OK １-１～５はすべて 60％を超え、炭化物や炭化木片として十分な値である。土器付着炭化物 OK-６は 8.3％で、炭化物としては低い値である。この試料については、外面から炭化物を採取した際に胎土と見られるものが混入し、完全に除去できなかったことが観察されている。焼骨では、OK １-７、10 が 0.3％、OK １-８、９が 0.2％、で、Lanting らによる約 0.1％という実験結果におおむね近い（Lanting et al. 2001）。以上のことから、炭化木片と焼骨について特に問題は認められないが、土器付着炭化物 OK-６については、測定された炭素の由来に若干注意を要する。

b）焼骨の ^{14}C 年代測定に関する問題の整理

骨の ^{14}C 年代測定は、骨中に含まれるコラーゲンを抽出して行われるのが一般的である。コラーゲンは熱に弱く、被熱によって失われるため、焼骨からコラーゲンを抽出することは困難である。

他方、骨を構成する物質の中で炭酸カルシウム（$CaCO_3$）には炭素が含まれるため、この炭素を用いて年代測定することも原理的には可能である。しかし、土中に埋没している間に外部から入り込む炭酸の影響を受けると考えられ、得られる年代値を骨が形成された年代と見なすことができず、年代測定の試料として適切でないとされる。焼骨についても同様に理解されているが、近年焼骨の処理方法等を検討し、年代測定を積極的に行う研究も見られる。

Lanting らによると、火葬骨は 600℃以上の温度にさらされ、骨を構成するほとんどの鉱物が再結晶化することで、外部からの影響を受けにくくなるという（Lanting et al. 2001）。上述の化学処理方法とおおむね同じ処理を行った焼骨の年代値は、同年代と見られる木炭の年代値や、ほかの手がかりから推定される年代などとよく一致し、焼骨は有効な試料と結論付けている。Naysmith らも同じ処理方法で焼骨を検討し、推定される年代と一致するとした。さらに、同一試料を複数の測定機関で処理、測定して再現性の検証を試み、良好な結果が得られたとしている（Naysmith et al. 2007）。

オコッコ１遺跡では、縄文時代前期前半（^{14}C 年代で 5,500yrBP）の同じ年代と推定された試料 10 点が、推定に近い年代からかなり新しい範囲までの年代幅を示した。焼骨と他の試料について、同じ遺構、層位の出土試料を比較検討してはいないが、同じ年代と推定される炭化木片と焼骨の間でほぼ同年代を示すものが認められることから、焼骨についてもおおむね妥当な年代値が得られたと考えられる。この測定結果を踏まえ、個々の試料の出土状況や出土土器の時期等と合わせて詳細に検討する必要がある。

表Ⅵ－１　放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C 補正値）

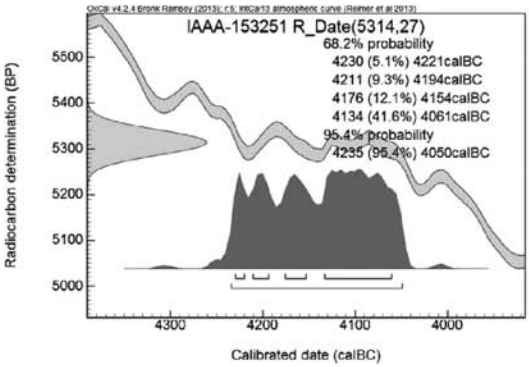
測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ 13C (　) (AMS)		δ 13C 補正あり Libby Age (yrBP)		δ 13C 補正あり pMC (%)	
IAAA-153251	OK1-1	VH-5　覆土	炭化木片	AAA	-26.15	± 0.43	5,310	± 30	51.60	± 0.18
IAAA-153252	OK1-2	VH-6　覆土	炭化木片	AAA	-24.56	± 0.50	5,330	± 30	51.49	± 0.18
IAAA-153253	OK1-3	VH-7　覆土	炭化木片	AAA	-28.03	± 0.60	5,240	± 30	52.09	± 0.19
IAAA-153254	OK1-4	VP-3　覆土	炭化木片	AAA	-24.60	± 0.46	5,370	± 30	51.23	± 0.19
IAAA-153255	OK1-5	南盛土ＭⅡ中層	炭化木片	AAA	-25.14	± 0.67	5,230	± 30	52.17	± 0.20
IAAA-153256	OK1-6	北盛土 ＭⅡ中～下層	土器付着炭化物	AaA	-29.84	± 0.54	5,600	± 30	49.78	± 0.18
IAAA-153257	OK1-7	北盛土（J20B） ＭⅡＣ層	焼骨（シカ四肢骨）		-25.44	± 0.43	5,200	± 30	52.34	± 0.20
IAAA-153258	OK1-8	北盛土（K21A） ＭⅡ中層	焼骨（シカ四肢骨）		-25.84	± 0.41	5,270	± 30	51.87	± 0.18
IAAA-153259	OK1-9	南盛土（T21D） ＭⅡ中層	焼骨（シカ四肢骨）		-20.29	± 0.48	5,160	± 30	52.59	± 0.20
IAAA-153260	OK1-10	南盛土（U20B） ＭⅡ下層	焼骨（シカ四肢骨）		-27.34	± 0.56	5,050	± 30	53.30	± 0.19

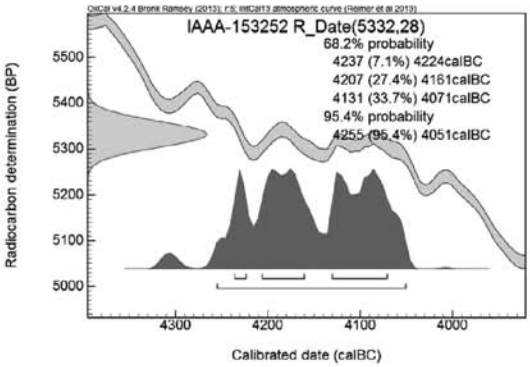
表Ⅵ－２　放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C 未補正値、暦年較正用^{14}C 年代、較正年代）

測定番号	δ 13C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC　(%)			
IAAA-153251	5,330 ± 30	51.48 ± 0.17	5,314 ± 27	4230calBC - 4221calBC (5.1%) 4211calBC - 4194calBC (9.3%) 4176calBC - 4154calBC (12.1%) 4134calBC - 4061calBC (41.6%)	4235calBC - 4050calBC (95.4%)
IAAA-153252	5,330 ± 30	51.53 ± 0.17	5,332 ± 28	4237calBC - 4224calBC (7.1%) 4207calBC - 4161calBC (27.4%) 4131calBC - 4071calBC (33.7%)	4255calBC - 4051calBC (95.4%)
IAAA-153253	5,290 ± 30	51.76 ± 0.18	5,239 ± 29	4053calBC - 3982calBC (68.2%)	4226calBC - 4204calBC (5.5%) 4167calBC - 4129calBC (10.7%) 4114calBC - 4100calBC (1.8%) 4076calBC - 3971calBC (77.4%)
IAAA-153254	5,370 ± 30	51.27 ± 0.18	5,372 ± 29	4322calBC - 4291calBC (22.4%) 4267calBC - 4230calBC (33.0%) 4196calBC - 4175calBC (12.8%)	4330calBC - 4223calBC (63.2%) 4207calBC - 4158calBC (19.2%) 4131calBC - 4069calBC (13.0%)
IAAA-153255	5,230 ± 30	52.16 ± 0.18	5,226 ± 30	4043calBC - 3986calBC (68.2%)	4224calBC - 4207calBC (2.6%) 4161calBC - 4131calBC (5.5%) 4071calBC - 3966calBC (87.2%)
IAAA-153256	5,680 ± 30	49.29 ± 0.17	5,602 ± 28	4459calBC - 4441calBC (17.7%) 4425calBC - 4371calBC (50.5%)	4489calBC - 4361calBC (95.4%)
IAAA-153257	5,210 ± 30	52.29 ± 0.19	5,200 ± 30	4039calBC - 4017calBC (29.6%) 4000calBC - 3971calBC (38.6%)	4047calBC - 3961calBC (95.4%)

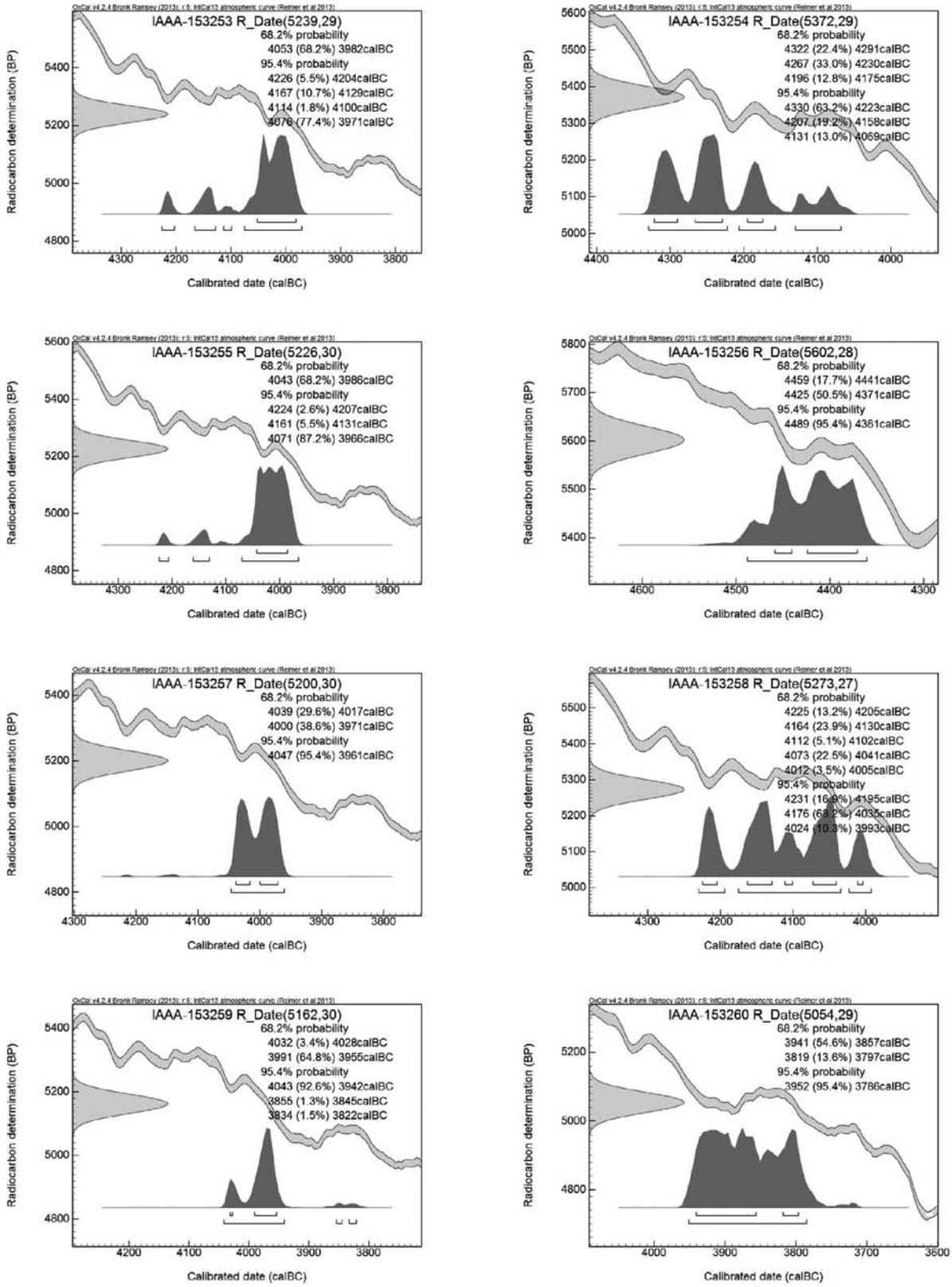
IAAA-153258	5,290 ± 30	51.78 ± 0.17	5,273 ± 27	4225calBC - 4205calBC (13.2%) 4164calBC - 4130calBC (23.9%) 4112calBC - 4102calBC (5.1%) 4073calBC - 4041calBC (22.5%) 4012calBC - 4005calBC (3.5%)	4231calBC - 4195calBC (16.9%) 4176calBC - 4035calBC (68.2%) 4024calBC - 3993calBC (10.3%)
IAAA-153259	5,080 ± 30	53.10 ± 0.19	5,162 ± 30	4032calBC - 4028calBC (3.4%) 3991calBC - 3955calBC (64.8%)	4043calBC - 3942calBC (92.6%) 3855calBC - 3845calBC (1.3%) 3834calBC - 3822calBC (1.5%)
IAAA-153260	5,090 ± 30	53.05 ± 0.18	5,054 ± 29	3941calBC - 3857calBC (54.6%) 3819calBC - 3797calBC (13.6%)	3952calBC - 3786calBC (95.4%)

［参考値］

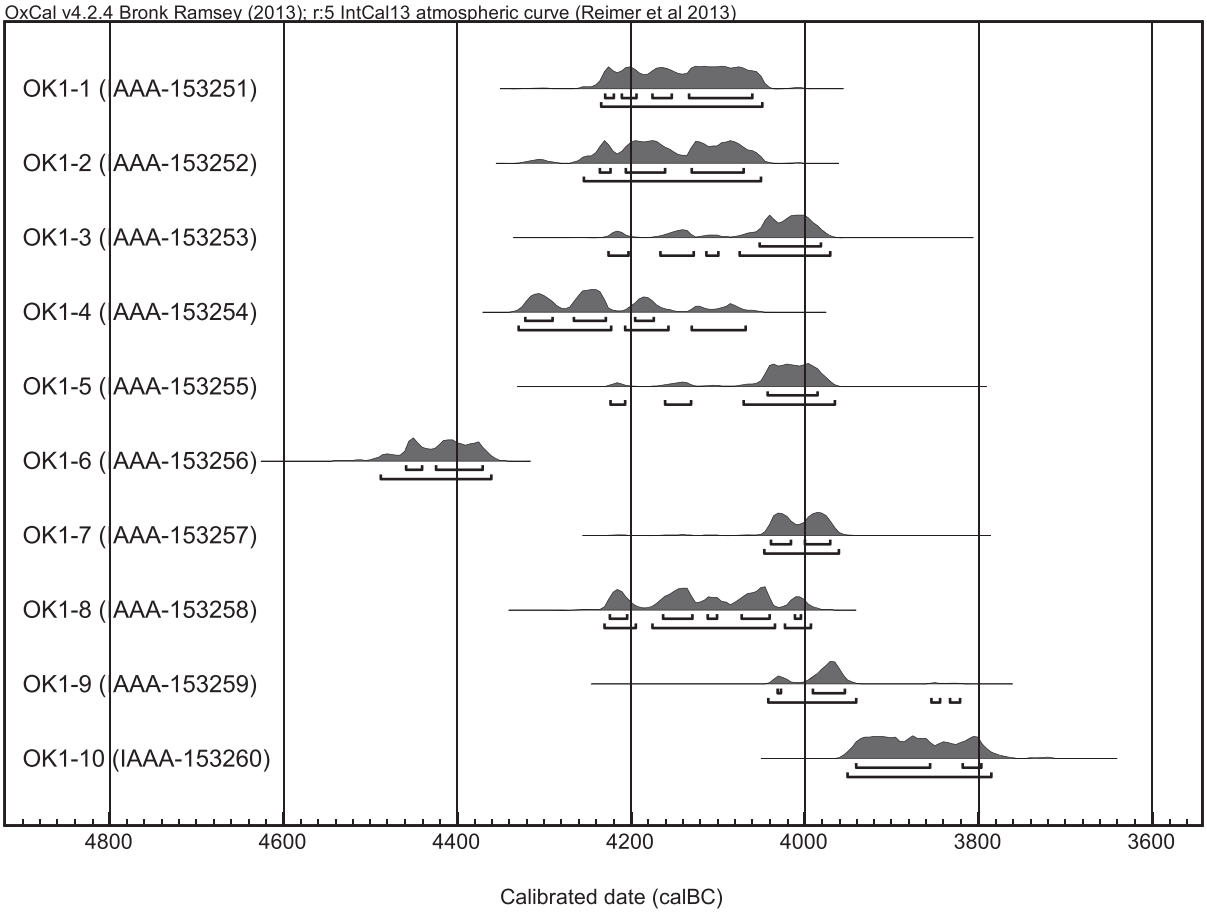




図Ⅵ－１　暦年較正年代グラフ（参考）（１）



図Ⅵ－１　暦年較正年代グラフ（参考）（２）



図Ⅵ－２　暦年較正年代グラフ（マルチプロット図、参考）

文献

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

小林達雄編　2008　総覧縄文土器，総覧縄文土器刊行委員会，アム・プロモーション

Lanting, J.N. et al. 2001 Dating of cremated bones, *Radiocarbon* 43(2A), 249-254

Naysmith, P. et al. 2007 A cremated bone intercomparison study, *Radiocarbon* 49(2), 403-408

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

２　放射性炭素年代測定（２）

パリノ・サーヴェイ株式会社

（１）試料

試料は、オコッコ１遺跡から出土した炭化種子７点である（表Ⅵ－３）。

表Ⅵ－３　年代測定試料

遺跡	番号	遺構	層位	状態	形状	樹皮	年輪数	測定試料
オコッコ1遺跡	OK1-11	ベルトA④区	MⅡ層中	炭化種子	オニグルミの核	－	－	全量
	OK1-12	ベルトA⑩区	MⅡ層中	炭化種子	オニグルミの核	－	－	全量
	OK1-13	ベルトB②区	MⅡ層下	炭化種子	オニグルミの核	－	－	全量
	OK1-14	ベルトB⑯区	MⅡ層下	炭化種子	オニグルミの核	－	－	全量
	OK1-15	ベルトC⑦区	Ⅶ層直上	炭化種子	オニグルミの核	－	－	全量
	OK1-16	ベルトC⑯区	Ⅶ層直上	炭化種子	オニグルミの核	－	－	全量
	OK1-17	ベルトD⑥区	MⅡ	炭化種子	オニグルミの核	－	－	全量
	OK1-18	ベルトD⑬区	MⅡ	炭化種子	オニグルミの核	－	－	全量

（２）分析方法

試料表面の汚れや付着物をメスやピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。次に塩酸や水酸化ナトリウムを用いて、試料内部の汚染物質を化学的に除去する（酸－アルカリ－酸処理：AAA）。その後超純水で中性になるまで洗浄し、乾燥させる。なお、アルカリ処理は、0.001M～１Ｍまで濃度を上げ、試料の様子をみながら処理を進める。１Ｍの水酸化ナトリウムで処理が可能であった場合はAAAと記す。

上記した処理後の試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元する）はElementar社のvario ISOTOPE cubeとIonplus社のAge ３を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料をNEC社製のハンドプレス機を用いて内径１mmの孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置（NEC社製）を用いて、^{14}Cの計数、^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C濃度（^{14}C/^{12}C）を測定する。AMS測定時に、米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料（HOX-Ⅱ）、国際原子力機関から提供される標準試料（IAEA-C ６等）、バックグラウンド試料（IAEA-C １）の測定も行う。δ^{13}Cは試料炭素の^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表したものである。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma；68％）に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う（Stuiver & Polach, 1977）。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。

なお、暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}Cの半減期5,730±40年）を較正することである。暦年較正は、OxCal4.3（Bronk, 2009）を使用し、１年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値および北半球の大気中炭素に由来する較正曲線（Intcal13；Reimer *et al.*, 2013）を用いる。

暦年較正結果は１σ・２σ（１σは統計的に真の値が68.2％の確率で存在する範囲、２σは真の値が95.4％の確率で存在する範囲）の値を示す。

（３）結果

同位体効果による補正を行った測定結果（補正年代）および暦年較正結果を表Ⅵ－４に示す。補正

年代は、OK 1-11 が 5,140±30BP、OK 1-12 が 5,215±25BP、OK 1-13 が 5,045±25BP、OK 1-14 が 5,315±25BP、OK 1-15 が 3,420±25BP、OK 1-16 が 5,050±25BP、OK 1-17 が 1,980±20BP、OK 1-18 が 1,935±20BP を示す。また、暦年較正結果（2σ暦年代範囲）は、OK 1-11 が calBP5,985-5,755、OK 1-12 が calBP6,002-5,914、OK 1-13 が calBP5,896-5,726、OK 1-14 が calBP6,183-6,000、OK 1-15 が calBP3,820-3,612、OK 1-16 が calBP5,897-5,738、OK 1-17 が calBP1,989-1,880、OK 1-18 が calBP1,927-1,825 である。

（4）考察

本分析調査で対象とした炭化材は、先述した年代測定の結果から、縄文時代前期～中期に相当する値が得られている。

表Ⅵ－4　放射性炭素年代測定結果

遺構番号	種類	処理方法	δ13C（ ）	補正年代（暦年較正用）	暦年較正結果				Code No.
					誤差	cal BC	cal BP	%	
オコッコ1 OK1-11	炭化種子	AAA	-29.38	0（ ）	σ	cal BC 3,983 - cal BC 3,942	cal BP 5,932 - 5,891	59.7	pal-10913 YU-7050
						cal BC 3,854 cal BC 3,846	cal BP 5,803 - 5,795	4.7	
						cal BC 3,831 cal BC 3,824	cal BP 5,780 - 5,773	3.8	
					2σ	cal BC 4,036 cal BC 4,021	cal BP 5,985 - 5,970	2.3	
						cal BC 3,995 cal BC 3,928	cal BP 5,944 - 5,877	66.3	
						cal BC 3,876 - cal BC 3,806	cal BP 5,825 - 5,755	26.8	
オコッコ1 OK1-12	炭化種子	AAA	-27.29	5（ ）	σ	cal BC 4,041 - cal BC 4,011	cal BP 5,990 - 5,960	39.0	pal-10914 YU-7051
						cal BC 4,005 cal BC 3,982	cal BP 5,954 - 5,931	29.2	
					2σ	cal BC 4,053 cal BC 3,965	cal BP 6,002 - 5,914	95.4	
オコッコ1 OK1-13	炭化種子	AAA	-28.30	5（ ）	σ	cal BC 3,938 - cal BC 3,865	cal BP 5,887 - 5,814	54.0	pal-10915 YU-7052
						cal BC 3,812 cal BC 3,792	cal BP 5,761 - 5,741	14.2	
					2σ	cal BC 3,947 cal BC 3,777	cal BP 5,896 - 5,726	95.4	
オコッコ1 OK1-14	炭化種子	AAA	-26.41	5（ ）	σ	cal BC 4,230 - cal BC 4,221	cal BP 6,179 - 6,170	5.1	pal-10916 YU-7053
						cal BC 4,211 cal BC 4,194	cal BP 6,160 - 6,143	9.3	
						cal BC 4,176 cal BC 4,154	cal BP 6,125 - 6,103	12.1	
						cal BC 4,134 cal BC 4,061	cal BP 6,083 - 6,010	41.7	
					2σ	cal BC 4,234 cal BC 4,051	cal BP 6,183 - 6,000	95.4	
オコッコ1 OK1-15	炭化種子	AAA	-30.36	5（ ）	σ	cal BC 1,751 - cal BC 1,691	cal BP 3,700 - 3,640	68.2	pal-10917 YU-7054
					2σ	cal BC 1,871 cal BC 1,844	cal BP 3,820 - 3,793	6.8	
						cal BC 1,812 cal BC 1,803	cal BP 3,761 - 3,752	1.2	
						cal BC 1,776 - cal BC 1,663	cal BP 3,725 - 3,612	87.4	
オコッコ1 OK1-16	炭化種子	AaA	-25.38	5（ ）	σ	cal BC 3,941 - cal BC 3,858	cal BP 5,890 - 5,807	55.5	pal-10918 YU-7055
						cal BC 3,816 cal BC 3,797	cal BP 5,765 - 5,746	12.7	
					2σ	cal BC 3,948 cal BC 3,789	cal BP 5,897 - 5,738	95.4	
オコッコ1 OK1-17	炭化種子	AAA	-26.40	0（ ）	σ	cal AD 2 - cal AD 57	cal BP 1,948 - 1,893	68.2	pal-10919 YU-7056
					2σ	cal BC 40 cal AD 70	cal BP 1,989 - 1,880	95.4	
オコッコ1 OK1-18	炭化種子	AaA	-25.39	0（ ）	σ	cal AD 29 - cal AD 39	cal BP 1,921 - 1,911	9.5	pal-10920 YU-7057
						cal AD 50 cal AD 86	cal BP 1,900 - 1,864	54.8	
						cal AD 110 cal AD 115	cal BP 1,840 - 1,835	4.0	
					2σ	cal AD 23 cal AD 125	cal BP 1,927 - 1,825	95.4	

1)暦年の計算には、Oxcal4.3を使用。
2)yrBP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3)付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68%が入る範囲）を年代値に換算した値。
4)AAAは、酸、アルカリ、酸処理、AaAは、アルカリの濃度を薄くした処理を示す。
5)暦年の計算には、補正年代に()で示した、1の位を丸める前の値を使用している。
6)年代測定結果の表記は、1の位を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、丸めていない値も付記している。
7)統計的に真の値が入る確率はσは68.2%、2σは95.4%である

引用文献

Bronk R. C., 2009,. Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon ,51, 337-360.

Reimer, P. J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatté, C., Heaton, T. J., Hoffmann, D. L., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kaiser, K. F., Kromer, B., Manning, S. W., Niu, M., Reimer, R. W., Richards, D. A., Scott, E. M., Southon, J. R., Staff, R. A., Turney, C. S. M., and van der Plicht, J.,2013,IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55, 1869-1887.

林　昭三，1991，日本産木材　顕微鏡写真集．京都大学木質科学研究所．

伊東隆夫，1995，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ．木材研究・資料，31，京都大学木質科学研究所，81-181.

伊東隆夫，1996，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ．木材研究・資料，32，京都大学木質科学研究所．66-176.

伊東隆夫，1997，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ．木材研究・資料，33，京都大学木質科学研究所，83-201.

伊東隆夫，1998，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ．木材研究・資料，34，京都大学木質科学研究所，30-166.

伊東隆夫，1999，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ．木材研究・資料，35，京都大学木質科学研究所，47-216.

伊東隆夫・山田昌久（編），2012，木の考古学　出土木製品用材データベース．海青社，449p.

島地　謙・伊東隆夫，1982，図説木材組織．地球社，176p.

Stuiver M. & Polach A.H., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon, 19, 355-363.

Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E.（編），1998，広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト．伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修），海青社，122p.［Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E., 1989, IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.

３　胎土分析

アースサイエンス株式会社

（１）偏光顕微鏡観察

偏光顕微鏡観察の結果を表Ⅵ－５に示す。図Ⅵ－３～５に偏光顕微鏡写真を示す。

表Ⅵ－５　偏光顕微鏡観察結果

試料番号	試料のタイプ	色調（肉眼）		岩片				鉱物片								その他
		表面	内部	蛇紋岩		安山岩	泥岩	蛇紋石	タルク	スピネル（クロマイト）	ざくろ石	不透明鉱物	斜長石	単斜輝石	斜方輝石	植物遺体
				アンチゴライト蛇紋岩	リザルダイト・クリソタイル蛇紋岩			クリソタイル（集合体）								
				ASP	LCSP	AN	MS	Chr	Tc	Cr	Ga	Op	Pl	Cpx	Opx	PLT
土器 No.1	土器	褐色	黒褐色	＋	◎		△	◎	＋?	＋	＋	＋				＋
土器 No.2	土器	褐色	黒褐色	△	○			◎	＋?	＋		＋				＋
粘土 No.1	礫混り砂泥	帯緑褐灰色		△	◎	○		◎		＋		＋		＋	△	
粘土 No.2	礫混り砂泥	帯緑褐灰色		＋	◎	＋		◎	＋?	＋		＋			＋	

◎：多量　○：中粒　△：少量　＋：微量

注：〔土器 No.1〕

・リザルダイト・クリソタイル蛇紋岩やクリソタイル集合体の蛇紋石は酸化して赤褐色化する（元の鉱物のまま、一部２価鉄が３価鉄に変化）。また干渉色が高次の干渉色のタルク様鉱物を生じている部分もある。しかし、これは淡褐色を呈し、若干鉄を含むタルクであるか、アルチニー石などの風化鉱物であるか不明である。

　なお、アンチゴライト蛇紋岩のアンチゴライトは酸化など変質をまぬがれている。

・ザクロ石は蛇紋石を伴うことがあり、ロジン岩化したかんらん石単斜輝岩に由来する Ca ざくろ石（グロシュラーなど）である可能性が高い。

・少量の泥岩を含む。これは非変形であり、白亜紀の蝦夷層群や中新世の地層などに由来する可能性が高い。X 線粉末回折で石英が検出されているが、泥岩に含まれる石英である可能性が高い。

〔土器 No.2〕

・蛇紋岩や蛇紋石の酸化は No.1 と同様で、黄～赤褐色化する蛇紋岩はリザルダイト－クリソタイル蛇紋岩に多く、アンチゴライト蛇紋岩は変質を免れている。リザルダイト－クリソタイル蛇紋岩にアンチゴライトが部分的に生成している蛇紋岩では、アンチゴライトのみが赤褐色酸化をまぬがれている。

〔粘土 No.1〕

・粒度的には粗く、粘土ではない。地すべり堆積物の可能性が高い。蛇紋岩由来の岩片が主体であるが、新鮮な安山岩の円磨粒子を一定量含む。蛇紋岩はクリソタイル片やリザルダイト－クリソタイル蛇紋岩が多いが、アンチゴライト蛇紋岩を少量含む。

〔粘土 No.2〕

・粒度的には粗く、粘土ではない。地すべり堆積物の可能性が高い。蛇紋岩由来の岩片が主体であるが、微量の安山岩粒子を含む。蛇紋岩はクリソタイル片やリザルダイト－クリソタイル蛇紋岩が多いが、アンチゴライト蛇紋岩を少量含む。前者に脈状にアンチゴライトが生成する粒子もある。タルク様の粒子やタルク様鉱物の脈状部を含む蛇紋岩があるが、淡褐色を呈する。タルクでなく風化鉱物のアルチニー石の可能性もあり、断定できない。

図Ⅵ－３～５　凡　例

〔岩片・植物片〕ASP：アンチゴライト蛇紋岩　LCSP：リザルダイト－クリソタイル蛇紋岩　AN：安山岩　MS：泥岩　PLT：植物遺体

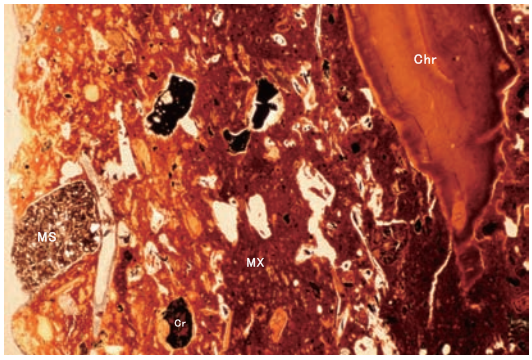
〔鉱物・鉱物片〕（単一鉱物集合体を含む）（初生鉱物）　Cpx：単斜輝石　Opx：斜方輝石　Cr：クロムスピネル（蛇紋石）　Ant：アンチゴライト　Liz：リザルダイト　Chr：クリソタイル（その他の蛇紋岩関連鉱物）　Mt：磁鉄鉱　Tc：タルク　Ga：ざくろ石　Wsp：蛇紋石の風化鉱物（パイロオーライトなど）

〔その他の記号〕（　）：仮像　〔　〕：脈　MX：基質

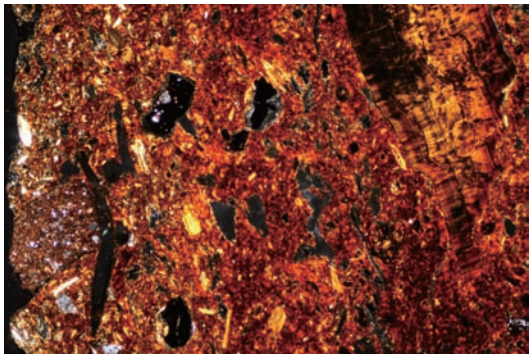
試料番号：土器　No.1

岩石名等：

オープンニコル



クロスニコル



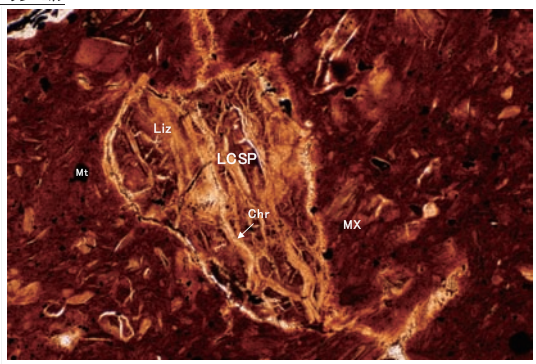
スケール　1.0mm

備考：クリソタイル集合体は赤色に酸化．クロスニコルで黄灰色の部分はブルース石の可能性も考えられるものの，酸化で赤くなった結晶のクロスニコル下のため，実際は干渉色がより低く，ブルース石ではない可能性が高い．

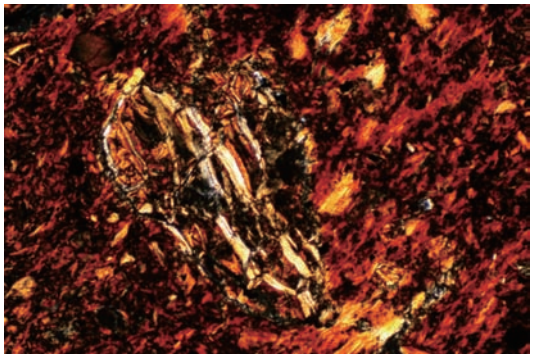
試料番号：土器　No.1

岩石名等：

オープンニコル



クロスニコル



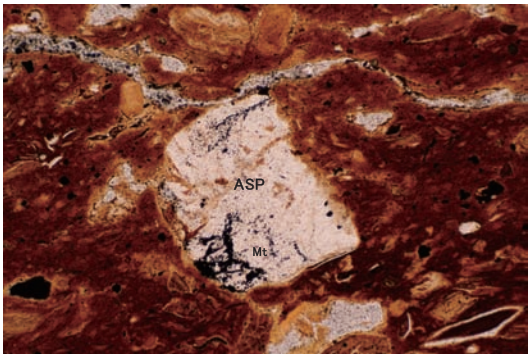
スケール　0.1mm

備考：リザルダイトークリソタイル蛇紋岩（LCSP）の蛇紋石は大部分赤褐色に酸化．

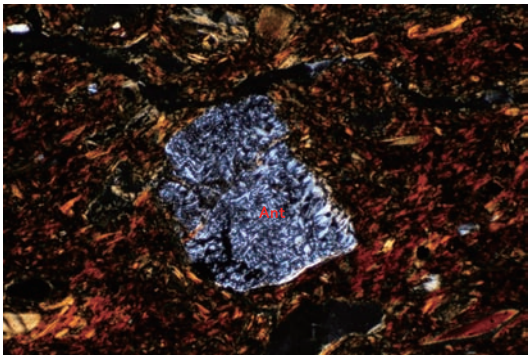
試料番号：土器　No.1

岩石名等：

オープンニコル



クロスニコル



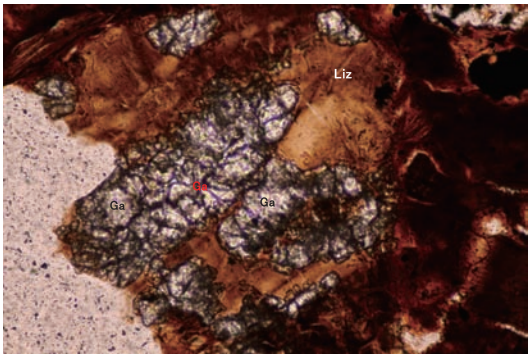
スケール　0.1mm

備考：アンチゴライト蛇紋岩（ASP）は酸化をまぬがれる．

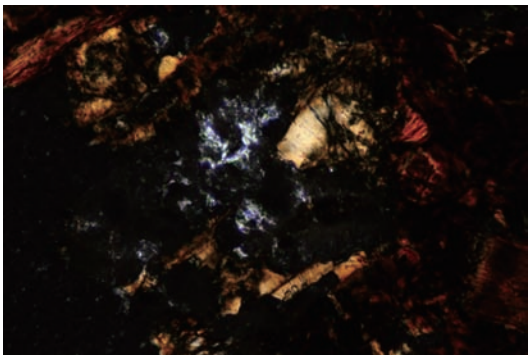
試料番号：土器　No.1

岩石名等：

オープンニコル



クロスニコル



スケール　0.1mm

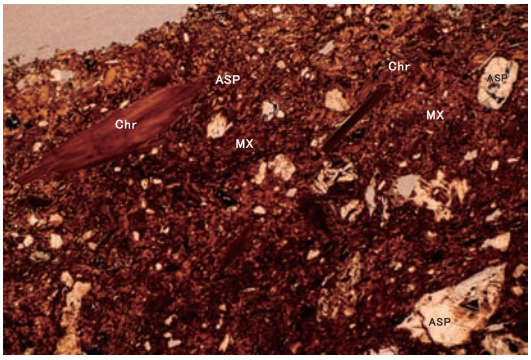
備考：ザクロ石（Ga）は蛇紋石とセットである．このような鉱物組合せは蛇紋岩体のかんらん石単斜輝岩脈がロジン岩化したものによく見られる．

図Ⅵ－３　偏光顕微鏡写真（１）

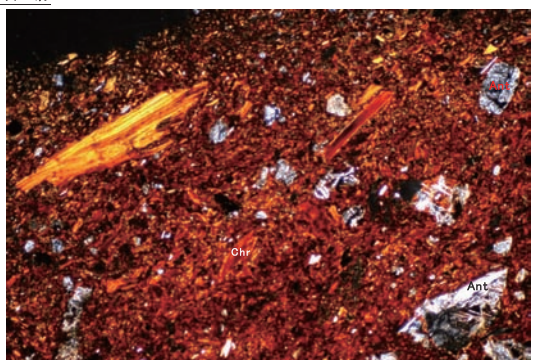
試料番号：土器　No.2

岩石名等：

オープンニコル



クロスニコル



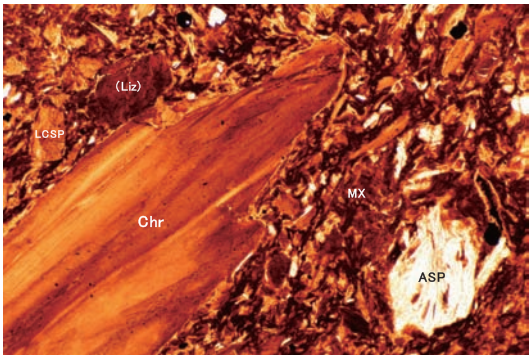
スケール　1.0mm

備考：クリソタイル（Chr）は酸化し，本来の色調（無色）と異なり赤褐色化している．

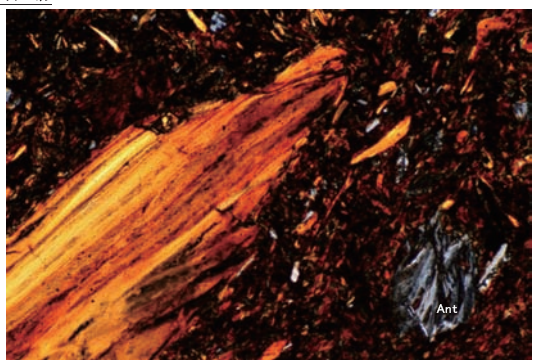
試料番号：土器　No.2

岩石名等：

オープンニコル



クロスニコル



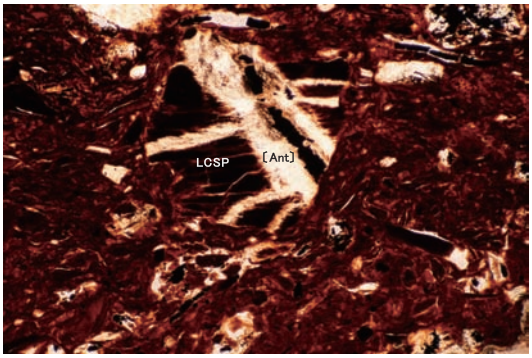
スケール　0.1mm

備考：クリソタイル（Chr）は酸化（黄～赤褐色化）しているが，クリソタイルとしての結晶を保っているらしい．しかし，その一部が高干渉色になっており，風化鉱物（あるいはタルク？）が生成していると考えられる．

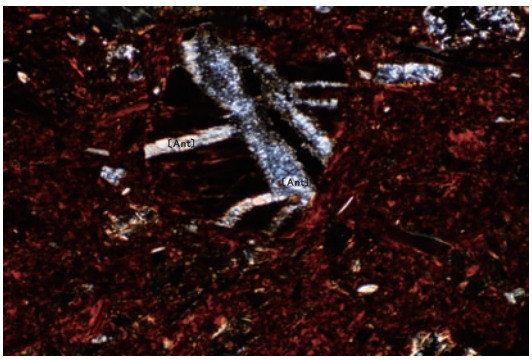
試料番号：土器　No.2

岩石名等：

オープンニコル



クロスニコル



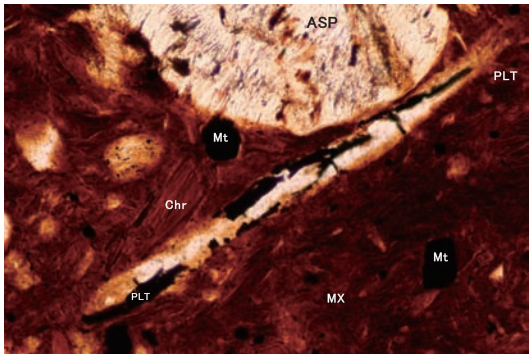
スケール　1.0mm

備考：リザルダイトークリソタイル蛇紋岩（LCSP）の粒子中のアンチゴライト〔Ant〕脈は赤褐色酸化をまぬがれる．

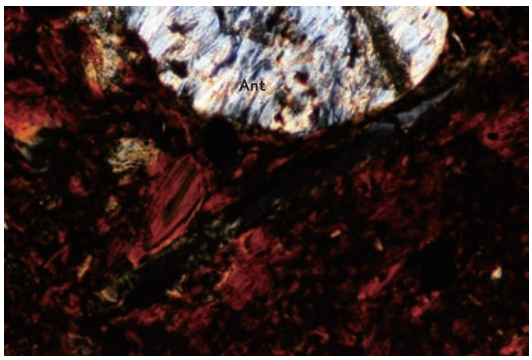
試料番号：土器　No.2

岩石名等：

オープンニコル



クロスニコル



スケール　0.1mm

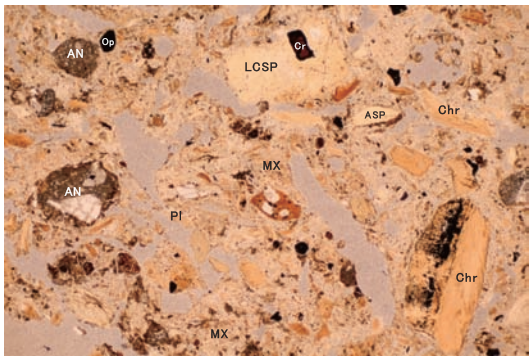
備考：

図Ⅵ－４　偏光顕微鏡写真（２）

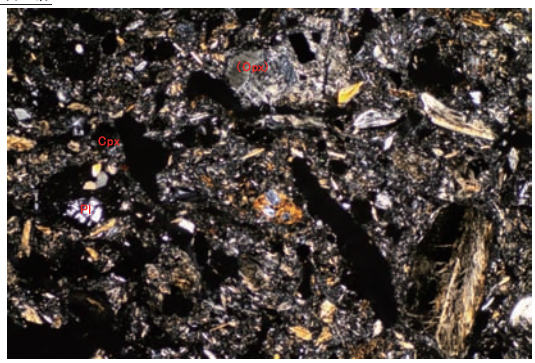
試料番号：粘土　No.1

岩石名等：礫混り砂泥

オープンニコル



クロスニコル



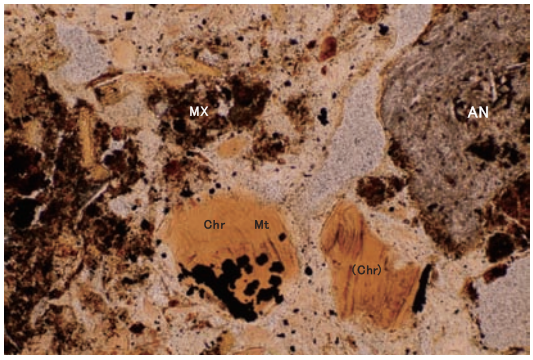
スケール　1.0mm

備考：粒子や基質は蛇紋岩主体だが，安山岩粒子が混る．

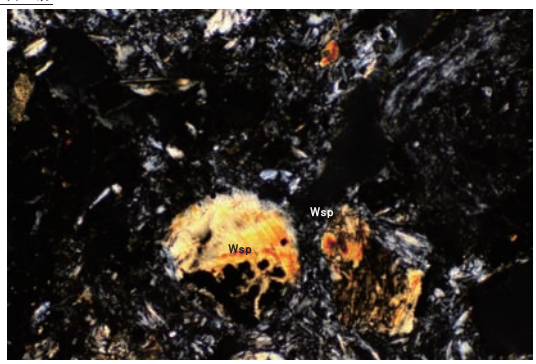
試料番号：粘土　No.1

岩石名等：礫混り砂泥

オープンニコル



クロスニコル



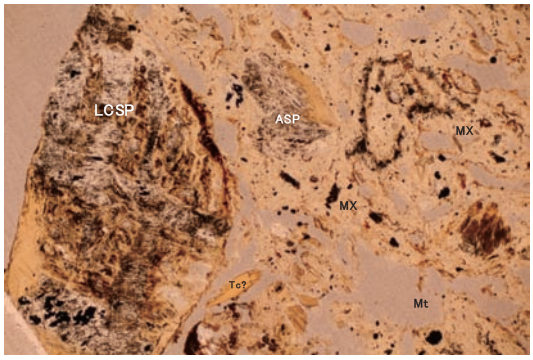
スケール　0.1mm

備考：褐色，黄褐色は蛇紋石の酸化ないし，風化鉱物（Wsp）の可能性を示す。風化鉱物はパイロオーライトやコーリンガイトと考えられるが，X線粉末回折で検出されるほどは生成していない．

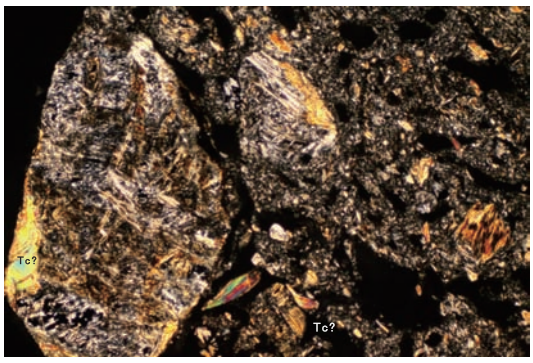
試料番号：粘土　No.2

岩石名等：礫混り砂泥

オープンニコル



クロスニコル



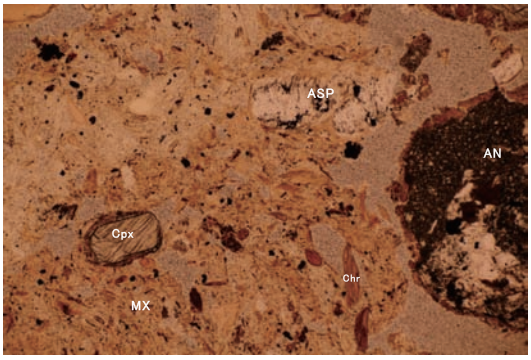
スケール　1.0mm

備考：Tc?はタルクではなく，アルチニー石などの風化鉱物の可能性もある．

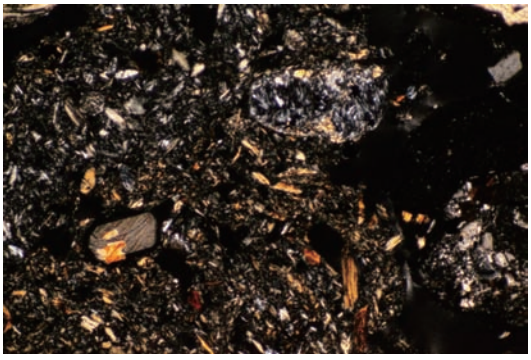
試料番号：粘土　No.2

岩石名等：礫混り砂泥

オープンニコル



クロスニコル



スケール　1.0mm

備考：

図Ⅵ－５　偏光顕微鏡写真（３）

（２）蛍光Ｘ線分析

土器２資料、粘土２資料について蛍光Ｘ線分析を行った。

a）FP 法蛍光 X 線分析概要

蛍光Ｘ線分析のうちファンダメンタルパラメータ法（FP 法）による分析は、試料をそのまま非破壊で、また粉末状態で、あるいは微量でも分析できるため、簡便な分析方法である。

以下は JEOL 製　JSX-3100RⅡ（XRF）分析装置を使用した場合である。各元素の測定条件を表に示す。X 線管球は、エンドウィンドウ型の Rh 管球を用いている。測定環境は大気および真空状態で測定している。なお、試料室（大気および真空状態）と X 線強度の関係は、軽元素（Na～Ca）の X 線は大気により吸収され減衰する。よって FP 法の場合は真空状態で測定を行ない、測定時間は一試料につき約 60 秒である。100μm 以下に粉砕した試料を樹脂製リング（外径 φ26mm、内径 φ20mm、厚４mm）に詰めてプレス機で６t（22Mpa）程度加圧し、錠剤化（ディスク作成）したものを試料室にセットし測定を行う。

定量分析は付属のソフトを用いファンダメンタルパラメータ法（FP 法）によって行う。

なお、この装置では、Na-U の元素が定量可能であり、C、N、O といった軽元素は検出できない。

試料の測定で用いる FP 法は、標準試料を用いた検量線法とは異なり、分析線の強度が試料の組成と基礎的定数（ファンダメンタルパラメータ）の関数として記述できるという考え方を基礎とした理論計算法である。この方法は、出所不明の未知試料の分析や、上述のように試料の形状や量に関わらず前処理なしで定量できるメリットがある。表Ⅵ－６に各元素の測定条件を示す。

表Ⅵ－６　各元素の測定条件（例）

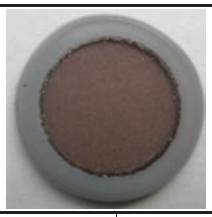
スペクトル名				蛍光Ｘ線エネルギー (KeV)	スペクトル強度比
Ｋ線		Ｌ線			
Ｋα	Ｋβ	Ｌα	Ｌβ		
Na-P				1.04-2.01	Ｋα/Ｋβ比≒5～7
S-Ba	S-Ba			2.31-36.38	
		La-U	La-U	4.65-17.22	Ｌα/Ｌβ比≒1

※　特性Ｘ線、コンプトン散乱線（Rh）：Rh Ｋα COMP, Rh Ｋβ COMP

b）分析結果

分析を行なった試料は錠剤化（ディスク作成）したものを試料室にセットし真空状態で測定を行なった。表Ⅵ－７に分析結果一覧を示す。

表Ⅵ－７　FP 法蛍光 X 線分析結果

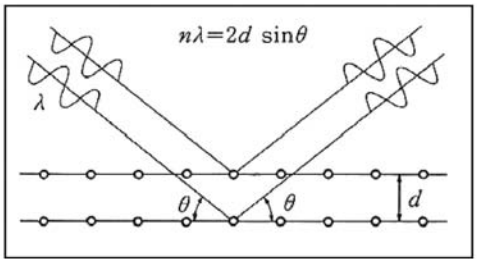
遺跡名	厚真町　オコッコ1遺跡							
試料名	土器1		土器2		粘土1		粘土2	
試料写真（ディスク）								
酸化物	重量%	モル%	重量%	モル%	重量%	モル%	重量%	モル%
SiO_2	47.94	42.74	46.90	41.35	43.15	41.15	43.76	43.42
TiO_2	0.01	0.01	0.01	0.01	0.23	0.17	0.38	0.28
Al_2O_3	1.64	0.86	1.47	0.76	8.26	4.64	12.06	7.05
Fe_2O_3	7.89	2.65	7.53	2.50	8.61	3.09	8.68	3.24
Cr_2O_3	0.28	0.10	0.31	0.11	0.29	0.11	0.21	0.08
MnO	0.06	0.04	0.05	0.04	0.07	0.06	0.06	0.05
MgO	37.38	49.69	39.61	52.06	31.33	44.53	26.20	38.76
CaO	0.97	0.92	0.73	0.69	2.89	2.96	3.74	3.98
SrO	0.004	0.002	0.01	0.00	0.02	0.01	0.02	0.01
Na_2O	2.87	2.48	2.26	1.93	2.14	1.97	1.71	1.64
K_2O	0.10	0.06	0.01	0.01	0.13	0.08	0.17	0.11
P_2O_5	0.50	0.19	0.73	0.27	2.68	1.08	2.73	1.15
SO_2	0.06	0.05			0.02	0.02	0.06	0.05
NiO	0.28	0.20	0.33	0.23	0.16	0.12	0.19	0.15
ZnO	0.02	0.01	0.05	0.03	0.01	0.01	0.02	0.02
ZrO_2	0.002	0.001	0.000	0.000	0.005	0.002	0.01	0.00

赤字：微量成分（検出限界）のため参考値として表記（Na_2OとMgOは軽元素のため、誤差が大きい）。
分析方法：粉末試料をプレス（錠剤化）し、真空状態で測定。100％ノーマライズ。空欄は未検出。

（３）X 線粉末回折

a）X 線回折の原理

X 線回折は、鉱物の結晶構造や結晶状態に関する情報を得るための分析方法である。結晶物質に特性 X 線を照射すると、X 線が結晶格子面で反射しお互いに干渉しあい、ブラッグの条件を満たす方向に強い回折線を示す。



ブラッグの条件　　$2d\sin\theta = n\lambda$

θ：ブラッグ角　　d：結晶粒子の面間隔

λ：X 線の波長　　n：反射の次数（整数）

この式により格子面間隔が求められる。面間隔は結晶物質の固有の値で回折 X 線の角度（2θ）と強度を求めることにより、結晶物質の同定ができる。

X 線回折にはいくつかの方法があり、鉱物の判定・定量などには粉末回折法が有効な分析方法であり、通常適用されている。分析装置は X 線ディフラクトメーターが使われる。次に X 線粉末回折装置で分析するときの、試料調整法、測定法、試料の特徴などを述べる。

b）X 線回折分析の方法

ⅰ）鉱物の同定

X 線粉末回折による鉱物の同定は、鉱物がそれぞれ特有の回折線を与えるので、回折線の位置と強度を、標準鉱物の回折データと比較して判定する。標準鉱物のデータベースとして JCPDS（Joint Committee on Powder Diffraction Standards）の PDF（Powder Data File）粉末データファイルがあり、これを比較・対照して同定を行う。この場合、以下に述べる不定方位の回折データと比較するが、それだけでは鉱物が決定できない場合があり定方位と各処理が行われる。

ⅱ）不定方位法

不定方位法は、最も一般的な粉末法である。粉末試料に混在する鉱物の判定や各回折線の正確な強度の測定をするとき、広い範囲の回折角度について回折パターンを得るときなどに使われる。

試料の一部を風乾させ、鉄乳鉢で粗砕する。さらにめのう乳鉢を用いて、指先で粒子を感じない（10μm 以下）程度まで粉砕する。粉末にした試料をアルミニュウム製試料ホルダーに圧入し測定に供する。

ⅲ）含有量の推定

回折 X 線の強度は、結晶相物質の含有量・鉱物の種類（化学組成、結晶構造）・結晶度・粉末粒子の形状・大きさ・方位・測定条件・混合物全体の X 線吸収係数などによって決定される。これら主要な要素のみについてみても鉱物の種類によって異なり、また同族の鉱物であっても異変があり、同じ結晶面の回折強度が一定の強度を示すとは限らない。従って X 線回折より得られる結果は、あくまでも定性的なものであり、量的な評価はある程度相対的なものである。

ⅳ）測定条件

分析は、島津製作所製 XRD6000 型 X 線回折装置を使用した。測定条件は、X 線管球 Cu 対陰極、カウンタモノクロメータ、管電圧 30kV・管電流 20mA、スリット系：１°-0.3mm-１°、走査速度２°/min、プリセットタイム 1.5sec、走査範囲　不定方位２～65°定方位２～20°で行った。

b）分析結果

X 線粉末回折の結果を表Ⅵ－８に示す。また、図Ⅵ－６、７には解析チャートを示す。

表Ⅵ－８　X 線粉末回折結果一覧

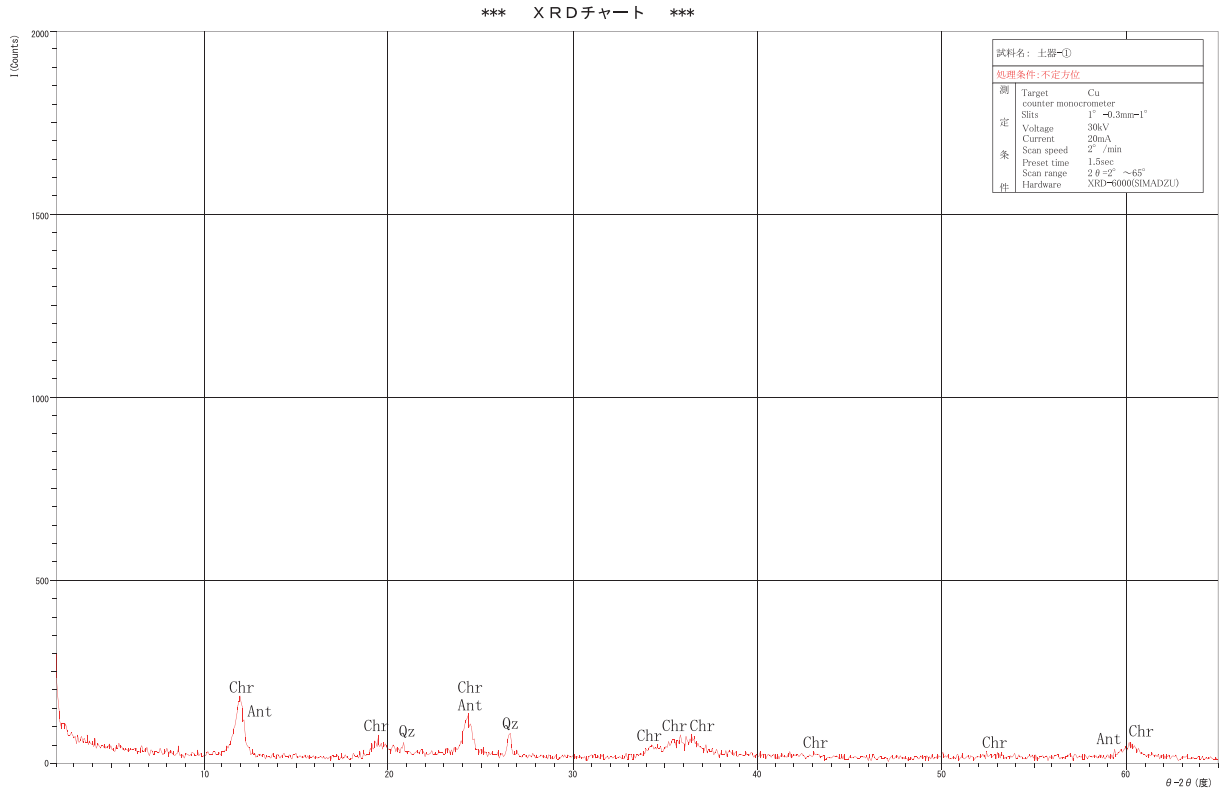
サンプルNo.	Chr	Ant	Qz	Pl
土器-①	＋	＋	－	
土器-②	△			
粘土-①	＋		－	＋
粘土-②	＋		－	＋

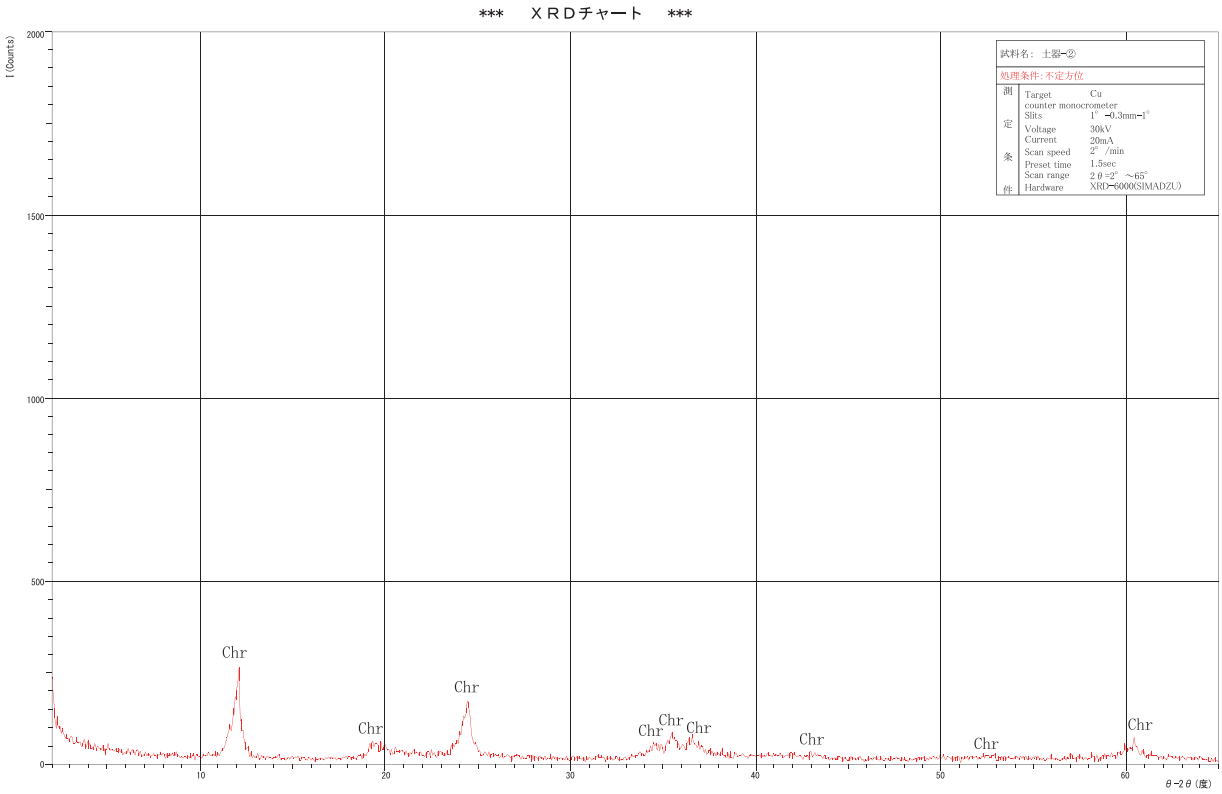
凡　例

◎:極多量　○:多量　△:中量　＋:少量　－:微量

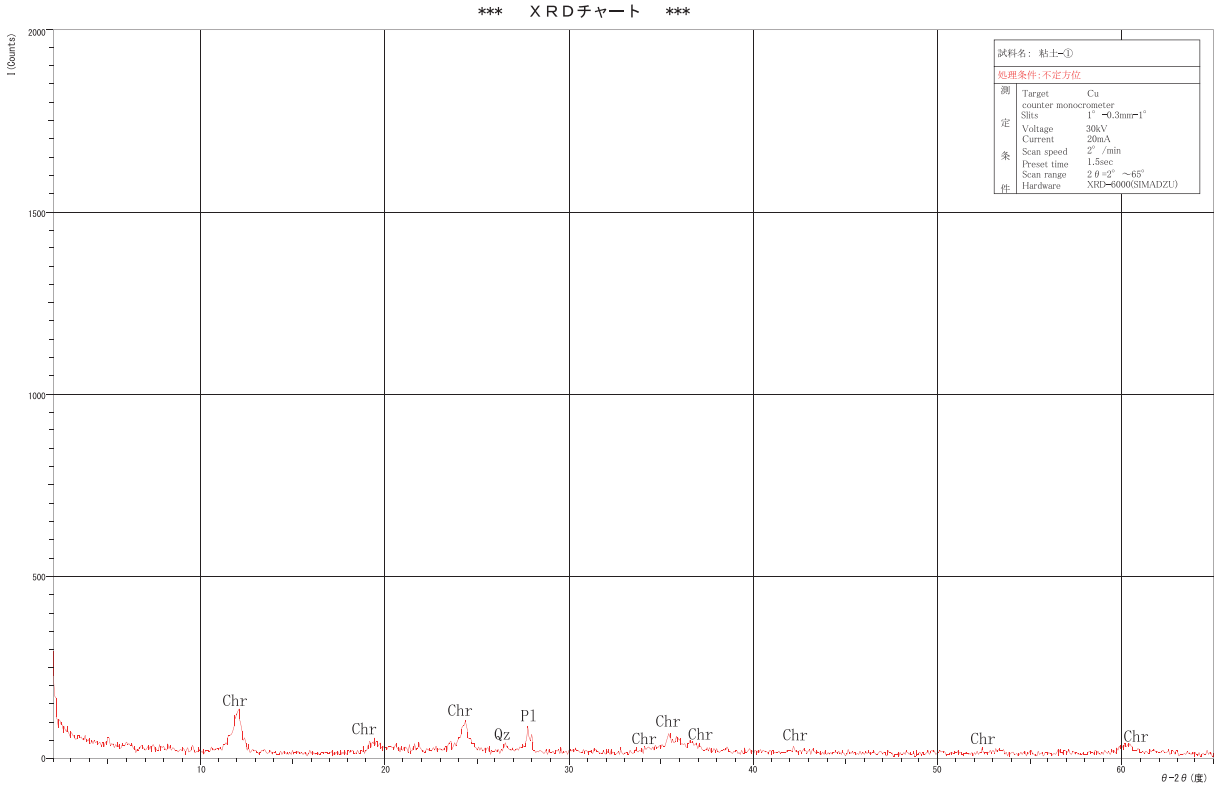
Chr::クリソタイル　Ant::アンチゴライト　Qz:石英　Pl:斜長石

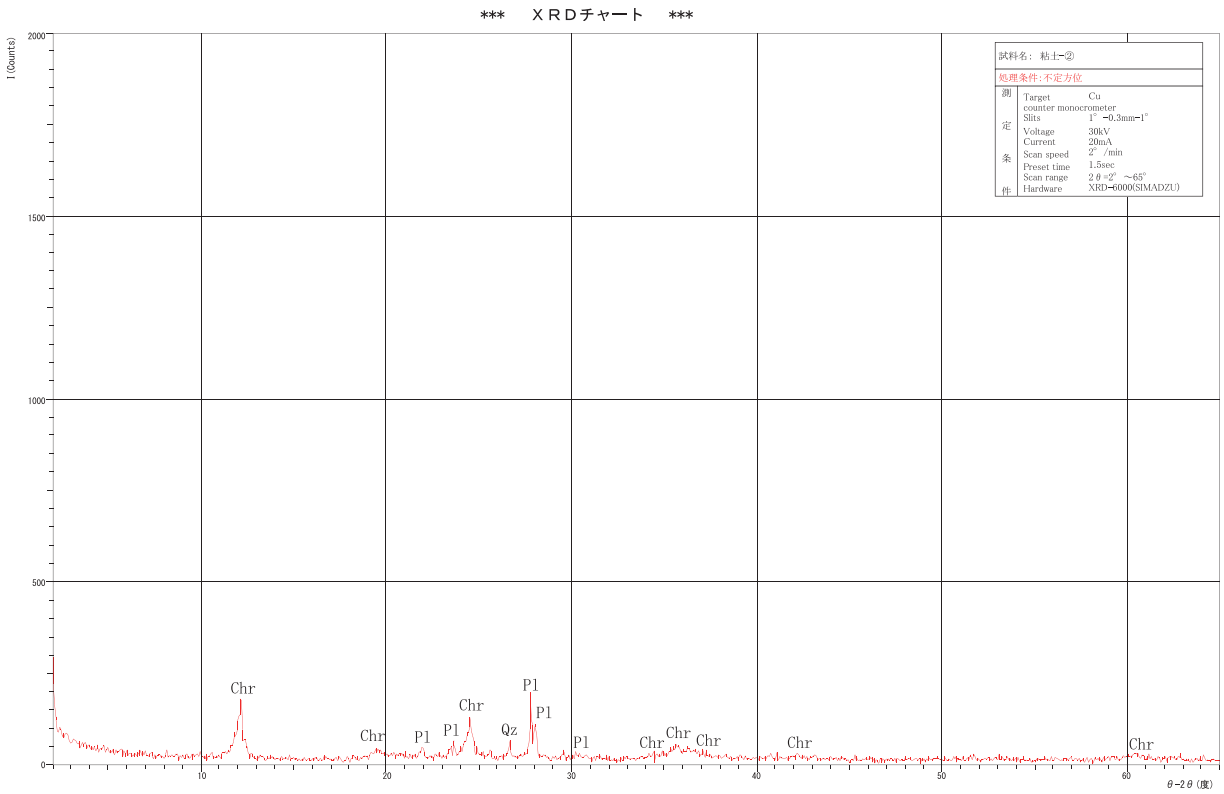
注：極多量や多量の評価がないのは、回折線の強度が低いためである。それは焼成により鉱物が分解しつつあり、強度低下を起している可能性と基質部に非晶質物質が多いなどの可能性がある。





図Ⅵ－６　XRD チャート（１）





図Ⅵ－７　XRD チャート（２）

（４）まとめと考察

a）偏光顕微鏡観察の結果

偏光顕微鏡観察の結果を表Ⅵ－５および偏光顕微鏡写真（図Ⅵ－３～５）に示した。これによると以下のことが言える。

ⅰ）資料の特徴

土器 No.1 と土器 No.2 はほぼ同様の岩片・鉱物片を含む、きわめて類似の材料で作製されている。それは、蛇紋岩とその関連岩である。

蛇紋岩関連物質以外は No.1 に泥岩と植物遺体が、No.2 に植物遺体がそれぞれ少量認められた。

「粘土」No.1 と No.2 は主として蛇紋岩からなり、少量の安山岩円磨粒子を含む。いずれも粒度的には粘土でなく、含礫砂泥である。このような特徴は蛇紋岩地すべり堆積物であることを強く支持する。

ⅱ）タルクの生成可能性

タルクが微量生成している可能性があるが、これは確実ではない。ここではタルクが焼成でできるか考えてみる。

「蛇紋岩粘土」（見掛けは粘土だが実際は細礫～砂サイズの蛇紋岩・蛇紋石）を使用して整形したものを焼いたらどうなるであろうか？タルクは蛇紋石より結晶水が少ないので焼成によって蛇紋石が脱水してタルクに相変化することが可能である。この際、例えば次式のようにタルクに加えてブルーサイトが多量に生じる可能性が考えられる。

$$2\,Mg_6Si_4O_{10}(OH)_8 \rightarrow Mg_3Si_4O_{10}(OH)_2 + 6\,Mg(OH)_2$$

蛇紋石　　タルク　　ブルーサイト

しかし、これでは水の総量が減らないので、全体として水分が減る焼成ではこのような反応は起り得ない。

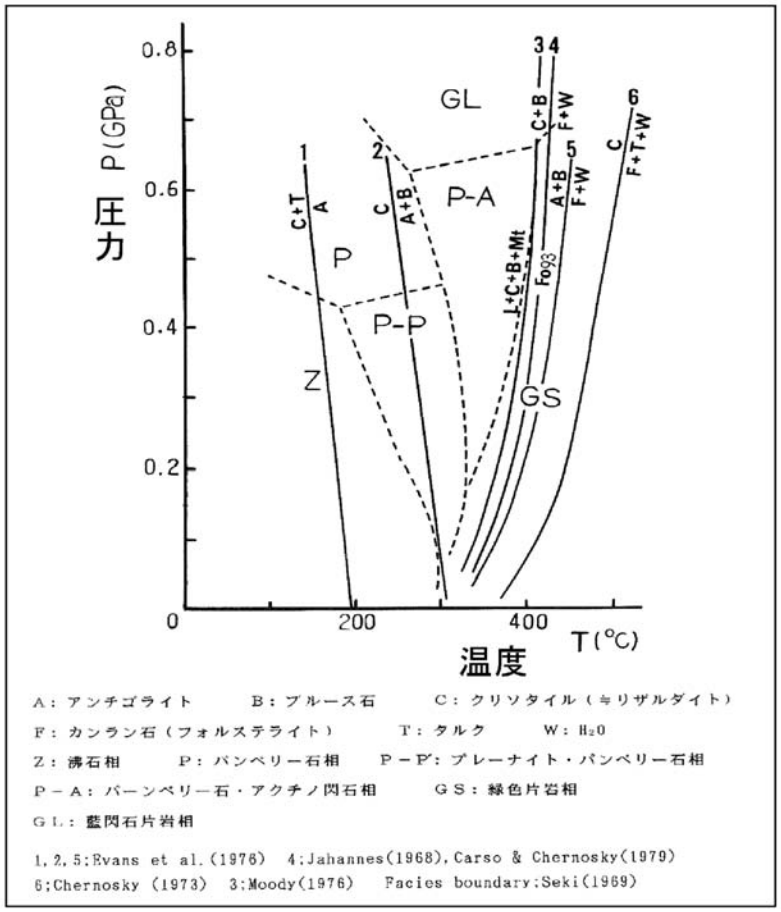
蛇紋石は通常 Mg のサイトに Fe が数％入っているので、焼成すると３価鉄を含むタルクやブルーサイトを生じるため赤褐色を呈するであろう。

一般にはクリソタイルを高温条件で熱すると、常圧では 400℃もあればタルクと変成かんらん石が生成する（図Ⅵ－８）。

ⅲ）変質をまぬがれたアンチゴライト蛇紋岩

蛇紋石鉱物の３種類（アンチゴライト、リザルダイト、クリソタイル）のうち、アンチゴライトは相対的に高温・高圧側で安定であることが知られている。先に蛇紋石を $Mg_6Si_4O_{10}(OH)_8$ と表記したが、これはリザルダイトとクリソタイルのことで、アンチゴライトはこれより若干 Si が多く（OH）が少ない。つまり、リザルダイトやクリソタイルを熱して脱水させるとアンチゴライトができる。

図Ⅵ－８によると常圧の場合、リザルダイトやクリソタイルは 300℃強でアンチゴライトに変化し（Evans et al., 1976）、400℃弱では、上述のようにさらに変成かんらん石が出現する（Chernosky. 1973）。今回の土器の偏光顕微鏡観察からリザルダイト－クリソタイル蛇紋岩は酸化を受けるが、タルクが生成しているか微妙であり、かつアンチゴライト蛇紋岩は変質していないという興味深い事実が明らかになった。このことは、土器の焼成温度は大雑把に言えば 300℃以上 400℃未満であることを意味する。ただし、より高温で焼いたとしても、焼成時間が短かったため反応が充分に起っていないことはあり得るだろう。今後、蛇紋岩「粘土」を使用して土器の焼成実験を行うなどして検討する必要がある。



図Ⅵ－８　蛇紋岩関連鉱物の反応関係と安定条件
（編集　加藤孝幸）

b）供給源

土器の材料となる蛇紋岩質「粘土」は類似のタルク入り土器の分布からみて、当然神居古潭帯（空知－エゾ帯の一部）の蛇紋岩体から供給されていると考えられる。

このうち、リザルダイト－クリソタイル蛇紋岩とアンチゴライト蛇紋岩が共存する岩体は神居古潭峡谷以南では、三石岩体、夕張岳岩体、美瑛岩体群（西縁）などに限られる（図Ⅵ－９）。No.1 では非変形の泥岩粒子も認められたので、このことも考慮すると蛇紋岩地すべりが、蛇紋岩体で発生し、周囲の泥岩も巻き込む形で起こっている場所の「粘土」がふさわしい。このような候補にふさわしいのは、厚真地域から比較的近傍では、三石蛇紋岩体である。三石蛇紋岩体は神居古潭帯の蛇紋岩体と異なり、周囲を新第三紀の堆積岩（中新世、滝の上層相当の西川層など）に囲まれた蛇紋岩体であるからである。安山岩粒子については礫岩層中の礫、河川や段丘堆積物に含まれていた可能性があるが、確実なことは言えない。

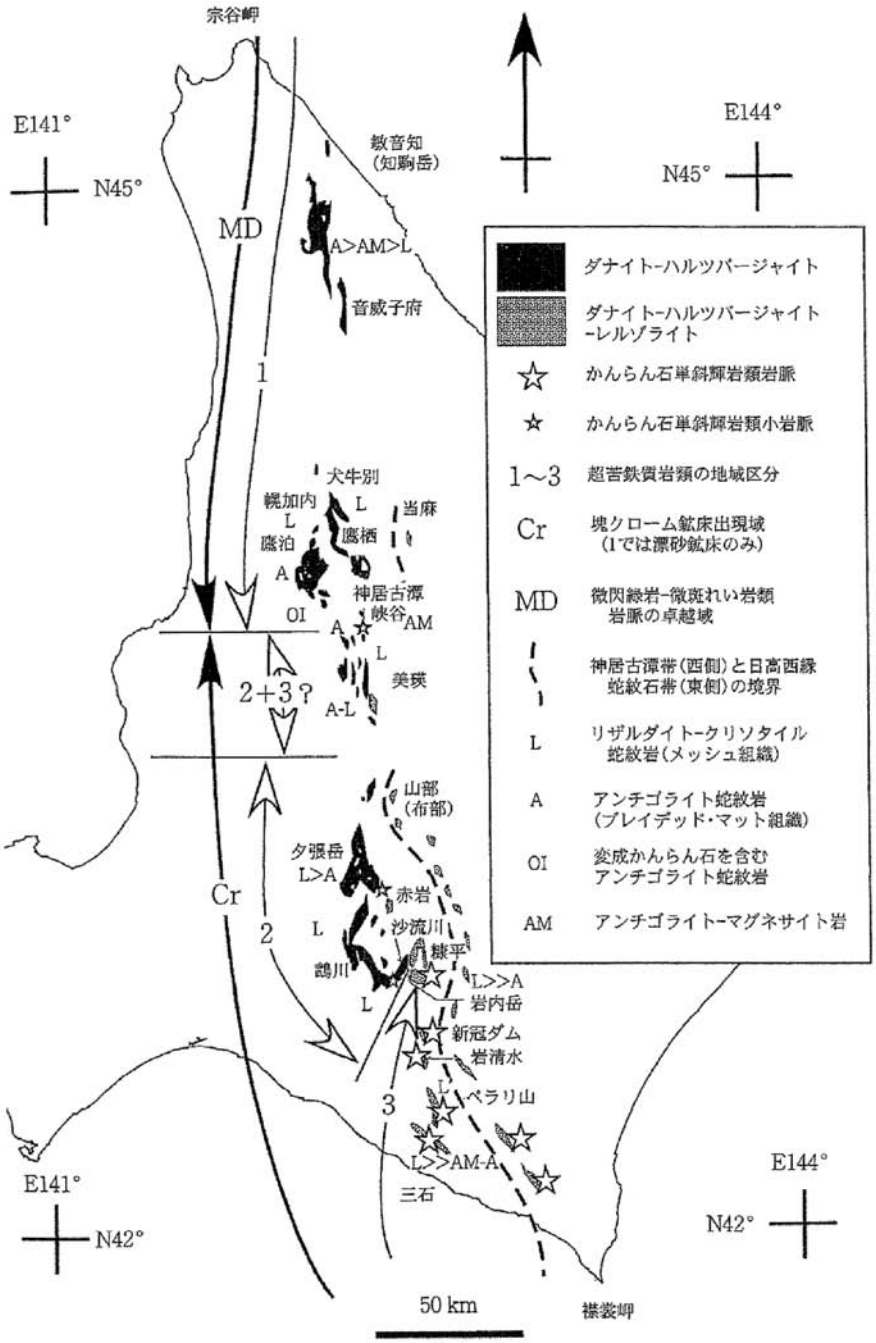
c）既存データとの比較

各酸化物－SiO_2図に今年度の土器・粘土資料の分析データをプロットした（図Ⅵ－10）。これによると、土器２資料はどの指標で見ても類似の化学組成を示す。蛇紋岩粒子が主体であるため高 MgO、低 SiO_2、高 Cr_2O_3、高 NiO という特異な組成を示す。TiO_2、Al_2O_3が少ないこともその反映である。

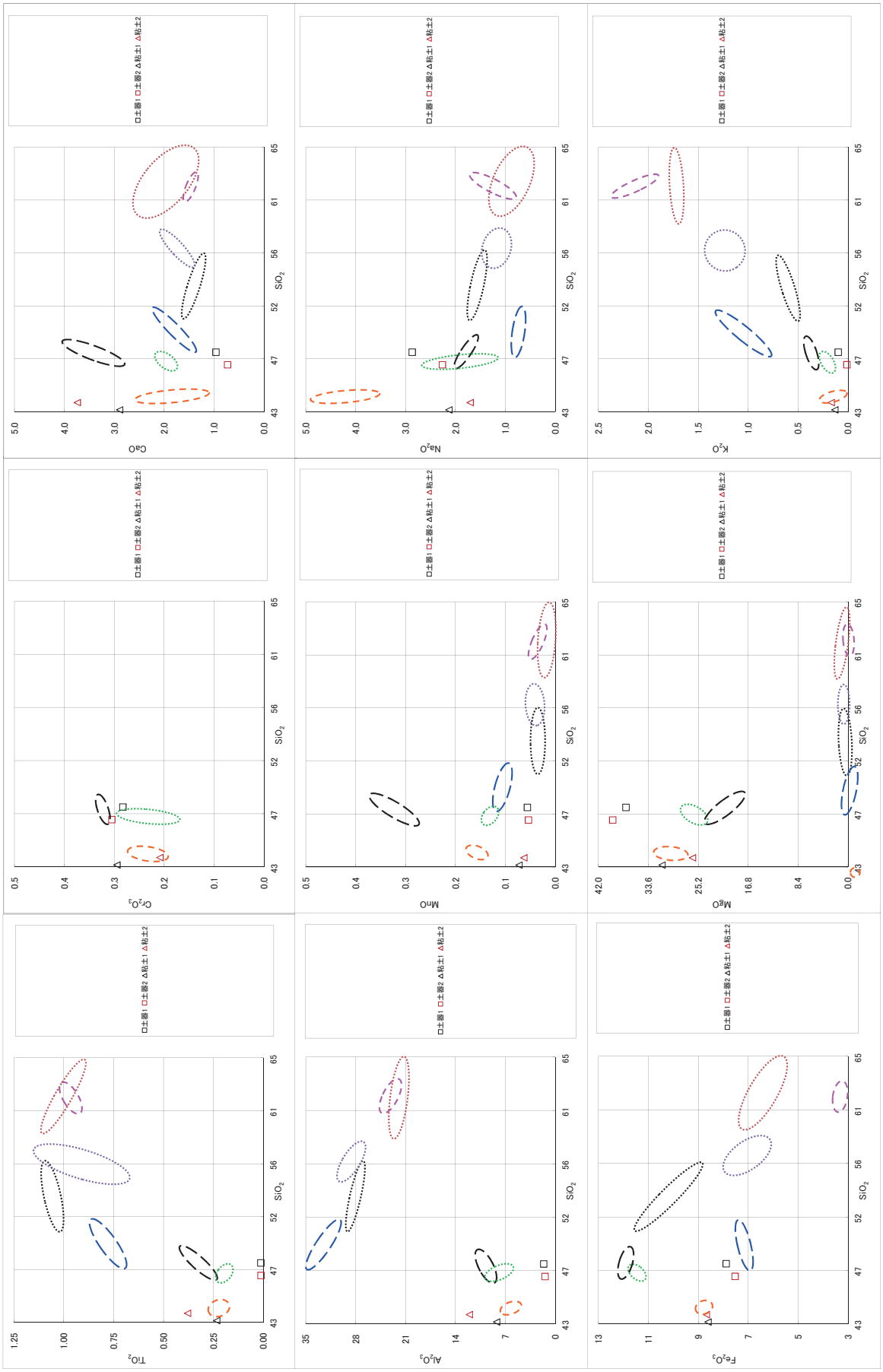
土器２資料はどの指標をとってもタルクを含む土器（ヲチャラセナイ遺跡の一部、中野台地遺跡、その他）のエリア近傍にプロットされる。これらの蛇紋岩「粘土」を使用した土器と同一の起源をもつ材料を使っていると考えられる。

「粘土２資料」も各酸化物－SiO_2図上で土器と類似の場所にプロットされ、蛇紋岩質「粘土」の特徴を示している。ただし、土器資料と「粘土」資料で下記のように若干異なる点もある。

「粘土」は「土器」よりも SiO_2（約 43％）が少なく（土器は約 47％）、MgO（約 26～31％）も少ない（土器は約 39～41％）。Cr_2O_3（0.2～0.3％）は土器と類似し、NiO（0.1～0.2％：図は省略）は土器（0.2～0.3％）より少ないものの明瞭に検出される。すなわち、「粘土」も主として蛇紋岩「粘土」から構成されると考えて間違いない。

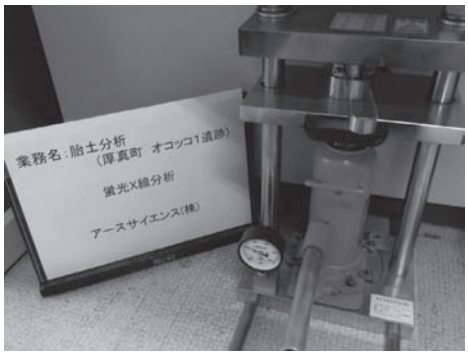


図Ⅵ－９　空知－エゾ帯の超苦鉄質岩類の分布　加藤・中川（2010）による



図Ⅵ－10　酸化物― SiO_2図

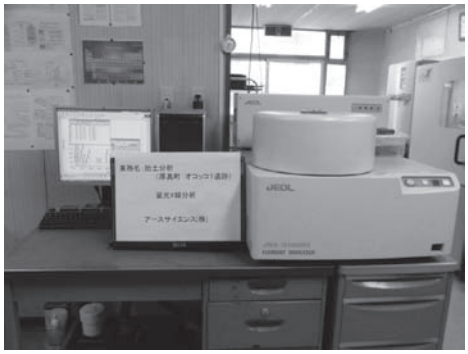
偏光顕微鏡NIKON製　OPTTPHOT-POL型



蛍光X線分析　プレス状況

蛍光X線分析　測定状況

X線粉末回折装置（島津製作所製XRD6000型）



蛍光X線分析装置　日本電子製　JSX-3100RⅡ

図Ⅵ－11　分析機器

引用文献

アースサイエンス㈱（2012）：平成 23 年度　ヲチャラセナイ遺跡　発掘事業　土器胎土分析委託業務　報告書．厚真町．

アースサイエンス㈱（2013）：ヲチャラセナイ遺跡　発掘事業　土器胎土分析　委託業務　報告書．厚真町．

アースサイエンス㈱（2014）：ショロマ１遺跡　発掘事業　土器胎土分析　委託業務　報告書．厚真町．

Chernosky, V., Jr. (1973): The stabillty of chrysotile, $Mg_3SiO_2O_5(OH)_4$, and the free energy of formation of talc, $Mg_3SiO_4O_{10}(OH)_2$. *Geo*l. *Soc. Amer. Program Abstr.*, 5, 575. (in Caruso and Chernosky, 1979).

Evans, B. W., Johannes, W., Oterdoom, H., and Trommsdorff, V. (1976): Stability of chrysotile and antigorite in the serpentinite multisystem. *Schweizrische Mineralogische und Petrographische Mitteilungen*, 56, 79-93.

加藤孝幸・中川　充（2010）：超苦鉄質岩類．日本地質学会　編「日本地方地質誌 1．北海道地方」，52-54，朝倉書店．

４　動物遺存体同定

株式会社　パレオ・ラボ

（１）はじめに

厚真町字幌内に所在するオコッコ１遺跡は、厚真川とオコッコ沢の合流点に面した台地上に立地する。発掘調査では、縄文時代前期前半の盛土遺構、擦文文化後期の平地住居などが検出され、ここでは遺構から出土した動物遺体について報告する。

（２）試料と方法

試料は、縄文時代前期前半、縄文時代前期以降、擦文文化後期の遺構などで採取された動物遺体167点（１～７・９～96・98～169）である。試料採取の方法は、１～７が発掘調査現場における手での採取、９～96・98～169が土のフローテーションによる選別である。

試料の観察は肉眼と実体顕微鏡下で行い、標本との比較により部位と分類群を同定し、計数した。なお、表における数量で＋となっている試料は、計数せずに「有」の意味である。

（３）結果と考察

動物遺体はほぼ全てが焼けて、破片となっていた。同定されたのは、貝類がマイマイ類（*Euhadra*）、小型陸産巻貝の２分類群、魚類がニシン科（Clupeidae）、ウグイ属（*Tribolodon*）、コイ科（Cyprinidae）、サケ科（Salmonidae）、硬骨魚綱（Osteichthyes）の５分類群、哺乳類が海獣、シカ（*Cervus nippon*）、シカを含むと思われる大型の哺乳綱、イヌ？（*Canis lupus familiaris*?）としたイヌの可能性がある中型の哺乳綱、中型の哺乳綱、小型の哺乳綱、哺乳綱（Mammalia）の７分類群、鳥類が猛禽類と鳥綱（Aves）の２分類群、計20分類群である。

以下、時期ごとに結果をまとめる。

【縄文時代前期前半】

同定された標本数を比較すると、魚類ではニシン科が36、ウグイ属が９、コイ科が182、サケ科が８である。哺乳類では、海獣が１、シカが36、イヌ？が２、大型の哺乳綱が２、小型の哺乳綱が１である。鳥類では猛禽類が１、鳥綱が１である。

漁労活動では、河川など淡水域に生息するウグイ属などコイ科が主な対象であり、サケ科も利用されたと考えられる。また、海に生息するニシン科（ニシンやマイワシなど）も対象とされ、海獣漁も行われたと考えられる。狩猟活動では、シカが主な対象であったと考えられる。さらに、鳥類の利用もうかがえる。

地点間を比較すると、北盛土に設定されたベルトＡでは、ニシン科、コイ科、硬骨魚綱、シカ、哺乳綱が見られた。同じく北盛土に設定されたベルトＢでは、ニシン科、ウグイ属、コイ科、サケ科、硬骨魚綱、シカ、哺乳綱が見られた。削平部分に設定されたベルトＣでは、哺乳綱のみが見られた。南盛土に設定されたベルトＤでは、ニシン科、コイ科、硬骨魚綱、シカ、哺乳綱が見られた。南北の盛土に対して、削平部分には魚類が廃棄されない点が特徴的である。また、南北の盛土を比べると、南北で動物の組み合わせは似ているが、北盛土に見られるサケ科が南盛土に見られない点が異なる。

【縄文時代前期以降】

同定された標本数を比較すると、魚類では、ニシン科が５、コイ科が18、サケ科が１である。哺乳類では、シカが15、中型の哺乳綱が１である。縄文時代前期前半と同様に、漁労活動では、河川など淡水域に生息するウグイ属を含むコイ科やサケ科が対象とされ、海に生息するニシン科（ニシンやマイワシなど）も対象とされたと考えられる。また、狩猟活動でも、縄文時代前期前半と同様に、

シカが主な対象であったと考えられる。

地点間を比較すると、北盛土に設定されたベルトＡでは、シカ、哺乳綱が見られた。同じく北盛土に設定されたベルトＢでは、ニシン科、コイ科、硬骨魚綱、シカ、哺乳綱が見られた。ベルトＡで見られない魚類がベルトＢで見られる点は対照的であり、北盛土の範囲内でも廃棄される動物の種類に違いがあると考えられる。南盛土に設定されたベルトＤでは、ニシン科、コイ科、サケ科、硬骨魚綱、シカ、哺乳綱が見られた。南盛土のベルトＤにおける動物の組み合わせは、北盛土のベルトＢと似ているが、南盛土のベルトＤに見られるサケ科が北盛土のベルトＢに見られない点は異なる。

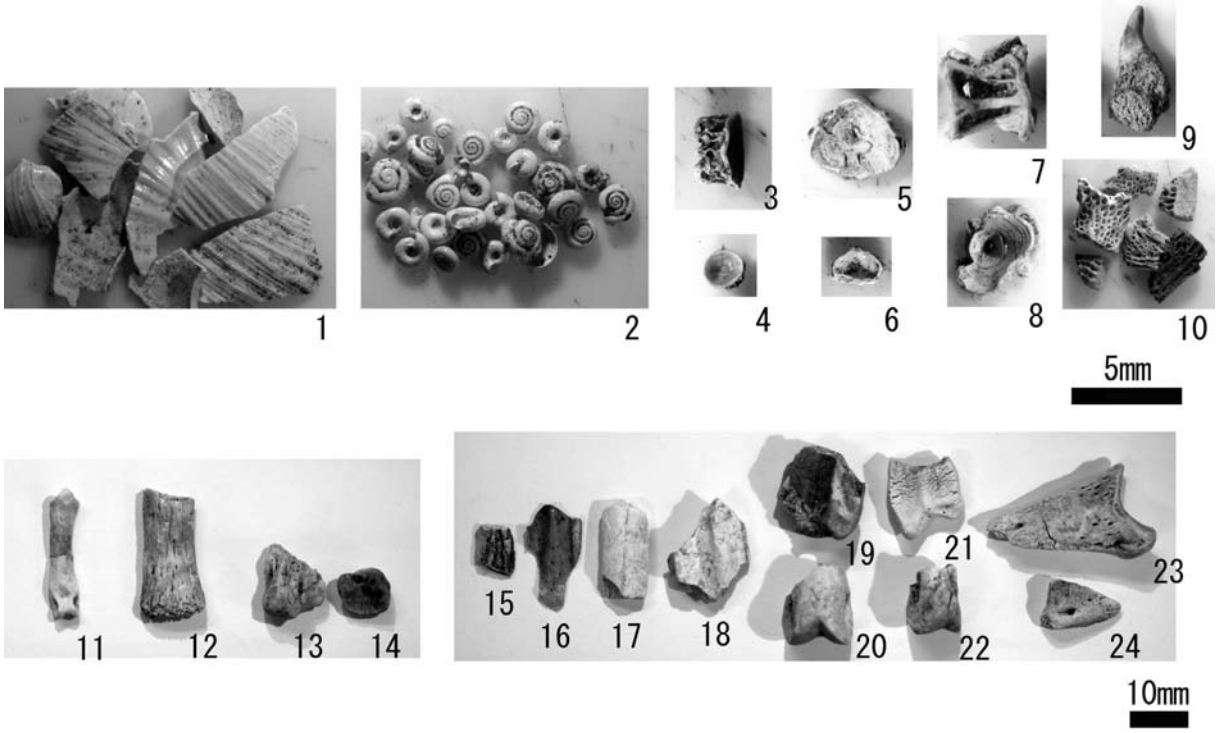
【擦文文化後期】

同定された標本数を比較すると、魚類では、ウグイ属が２、コイ科が13、サケ科が11である。哺乳類ではシカが１、小型の哺乳綱が１である。その他にマイマイ類や小型陸産巻貝も見られた。

縄文時代の前期前半や後期と異なり、海に生息するニシン科が見られず、淡水域に生息するウグイ属などコイ科とサケ科のみが見られる点が特徴である。また、魚類に占めるサケ科の割合が、縄文時代前期前半や後期に比べて、増える点も特徴である。シカの利用もうかがえる。

また、マイマイ類は食用にされた可能性がある。ただし、食用とは考えられない殻長２mm未満の小型陸産巻貝と共にSP-52からマイマイ類が出土している点から、SP-52にマイマイ類や小型陸産巻貝が自然に集まりやすい湿った状況であった可能性も考えられる。

（中村賢太郎）



図Ⅵ－12　オコッコ１遺跡の動物遺存体

１．マイマイ類（27）　２．小型陸産巻貝（27）　３．ニシン科第２椎骨（62）　４．ニシン科椎骨（37）
５．ウグイ属第１椎骨（37）　６．ウグイ属第１椎骨（27）　７．コイ科椎骨（37）　８．コイ科椎骨（32）
９．サケ属歯（37）　10．サケ科椎骨（29）　11．猛禽類趾骨（１）　12．海獣指骨（７）
13．イヌ？中手骨／中足骨（３）　14．イヌ？基節骨（６）　15．シカ角（12）　16．シカ臼歯（41）
17．シカ中手骨（123）　18．シカ中足骨（37）　19．シカ基節骨近位端（37）　20．シカ基節骨遠位端（116）
21．シカ中節骨近位端（49）　22．シカ中節骨遠位端（49）　23．シカ末節骨（147）　24．シカ末節骨（35）

表Ⅵ－９　動物遺存体同定結果一覧

試料番号	原試料番号	遺構/発掘区	層位	取上方法	時期	分類群	部位	左右	部分・状態	数量	備考
1	44	R25	V中	手	縄文前期前半	猛禽類	趾骨	不明	完存	1	焼
2	45	L22	Ⅲ	手	擦文後期	哺乳綱（小型）	中手骨/中足骨	不明	遠位端	1	焼
3	52	J25D	V下	手	縄文前期前半	イヌ？	中手骨/中足骨	不明	遠位端	1	焼
4	56	T20	V上	手	縄文後期	イヌ？	中手骨/中足骨	不明	遠位端	1	焼
5	165	K21B	MⅡ上	手	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	1	焼
6	248	T21C	MⅡ中	手	縄文前期前半	イヌ？	基節骨	不明	近位端	1	焼
7	344	T21C	MⅡ中	手	縄文前期前半	哺乳綱（海獣）	指骨	不明	破片	1	焼、アシカ科？
8	欠番	欠番	欠番	欠番	欠番	欠番	欠番	欠番	欠番	欠番	欠番
9	オコ1-1	S-6	Ⅲ	フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
10a	オコ1-2	H-3	（トレンチ）	フロ選	擦文後期	シカ？	中手骨/中足骨	不明	遠位端破片	1	焼
10b	オコ1-2	H-3	（トレンチ）	フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
11	オコ1-3	H-3	（トレンチ）	フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
12a	オコ1-4	S-9	Ⅲ	フロ選	擦文後期	シカ	角	不明	破片	1	焼
12b	オコ1-4	S-9	Ⅲ	フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
13	オコ1-5	F-4	焼土上面	フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
14	オコ1-6	F-4	焼土中	フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
15	オコ1-7	F-5	焼土上面	フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
16	オコ1-8	F-5	焼土中	フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
17	オコ1-9	F-9	焼土	フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
18a	オコ1-10	F-4	焼土中	フロ選	擦文後期	シカ？	中手骨/中足骨	不明	遠位端破片	1	焼
18b	オコ1-10	F-4	焼土中	フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
19	オコ1-11	F-5	焼土中	フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
20	オコ1-12	F-11	焼土	フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
21	オコ1-13	F-6	焼土	フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
22	オコ1-14	F-7	焼土	フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
23	オコ1-15	F-8	焼土	フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
24a	オコ1-16	F-1	焼土	フロ選	擦文後期	サケ科	椎骨	—	破片	1	焼
24b	オコ1-16	F-1	焼土	フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
25	オコ1-17	F-1	焼土	フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
26	オコ1-18	F-2・3	焼土	フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
27a	オコ1-19	SP-52	覆土1	フロ選	擦文後期	陸産巻貝（小型）	殻	—	完存	31	
27b	オコ1-19	SP-52	覆土1	フロ選	擦文後期	マイマイ類	殻	—	破片	+	
27c	オコ1-19	SP-52	覆土1	フロ選	擦文後期	サケ科	椎骨	—	椎体	1	焼
27d	オコ1-19	SP-52	覆土1	フロ選	擦文後期	ウグイ属	第1椎骨	—	椎体	1	焼
27e	オコ1-19	SP-52	覆土1	フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
28	オコ1-20	SP-50	焼土	フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
29a	オコ1-22	F-15	焼土	フロ選	擦文後期	サケ科	椎骨	—	破片	6	焼
29b	オコ1-22	F-15	焼土	フロ選	擦文後期	コイ科	椎骨	—	椎体	2	焼、ウグイ属？
29c	オコ1-22	F-15	焼土	フロ選	擦文後期	コイ科	椎骨	—	破片	11	焼、ウグイ属？
29d	オコ1-22	F-15	焼土	フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
30	オコ1-23	F-15	焼土	フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
31	オコ1-24	（土器No. 458）	土器内	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
32a	オコ1-25	—	MⅡ層下骨片	フロ選	縄文前期前半	ニシン科	椎骨	—	椎体	4	焼
32b	オコ1-25	—	MⅡ層下骨片	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	椎体	5	焼、ウグイ属？
32c	オコ1-25	—	MⅡ層下骨片	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	破片	10	焼、ウグイ属？
32d	オコ1-25	—	MⅡ層下骨片	フロ選	縄文前期前半	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
32e	オコ1-25	—	MⅡ層下骨片	フロ選	縄文前期前半	シカ？	中手骨/中足骨	不明	遠位端破片	1	焼
32f	オコ1-25	—	MⅡ層下骨片	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
33a	オコ1-26	VS-17	—	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	椎体	3	焼、ウグイ属？
33b	オコ1-26	VS-17	—	フロ選	縄文前期前半	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
33c	オコ1-26	VS-17	—	フロ選	縄文前期前半	シカ	中節骨	不明	近位端	2	焼
33d	オコ1-26	VS-17	—	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
34	オコ1-27	VS-18	—	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
35a	オコ1-28	J25	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
35b	オコ1-28	J25	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	シカ	中節骨	不明	近位端	1	焼
35c	オコ1-28	J25	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	シカ	末節骨	不明	完存	1	焼
35d	オコ1-28	J25	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
36a	オコ1-29	U20 A.D	MⅡ上層	フロ選	縄文前期前半	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
36b	オコ1-29	U20 A.D	MⅡ上層	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
37a	オコ1-30	U20 A.D	MⅡ中層	フロ選	縄文前期前半	ニシン科	椎骨	—	椎体	9	焼
37b	オコ1-30	U20 A.D	MⅡ中層	フロ選	縄文前期前半	ウグイ属	第1椎骨	—	椎体	3	焼
37c	オコ1-30	U20 A.D	MⅡ中層	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	椎体	36	焼、ウグイ属？
37d	オコ1-30	U20 A.D	MⅡ中層	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	破片	37	焼、ウグイ属？
37e	オコ1-30	U20 A.D	MⅡ中層	フロ選	縄文前期前半	サケ属	歯	不明	遊離歯	2	焼
37f	オコ1-30	U20 A.D	MⅡ中層	フロ選	縄文前期前半	サケ科	椎骨	—	椎体	2	焼
37g	オコ1-30	U20 A.D	MⅡ中層	フロ選	縄文前期前半	サケ科	椎骨	—	破片	2	焼
37h	オコ1-30	U20 A.D	MⅡ中層	フロ選	縄文前期前半	シカ	指骨	不明	遠位端破片	1	焼
37i	オコ1-30	U20 A.D	MⅡ中層	フロ選	縄文前期前半	シカ	中足骨	不明	骨幹破片	1	焼
37j	オコ1-30	U20 A.D	MⅡ中層	フロ選	縄文前期前半	シカ	基節骨	不明	近位端	1	焼
37k	オコ1-30	U20 A.D	MⅡ中層	フロ選	縄文前期前半	シカ	末節骨	不明	破片	1	焼
37l	オコ1-30	U20 A.D	MⅡ中層	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
38a	オコ1-31	K21 A.D	骨片	フロ選	縄文前期前半	ニシン科	椎骨	—	椎体	2	焼
38b	オコ1-31	K21 A.D	骨片	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	椎体	1	焼、ウグイ属？
38c	オコ1-31	K21 A.D	骨片	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	破片	2	焼、ウグイ属？

38d	オコ1-31	K21 A.D	骨片	フロ選	縄文前期前半	サケ科	椎骨	—	椎体	1	焼
38e	オコ1-31	K21 A.D	骨片	フロ選	縄文前期前半	サケ科	椎骨	—	破片	2	焼
38f	オコ1-31	K21 A.D	骨片	フロ選	縄文前期前半	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
38g	オコ1-31	K21 A.D	骨片	フロ選	縄文前期前半	シカ	歯	不明	破片	+	焼
38h	オコ1-31	K21 A.D	骨片	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
39a	オコ1-32	U20 B.C	骨片混土	フロ選	縄文前期前半	ニシン科	椎骨	—	椎体	2	焼
39b	オコ1-32	U20 B.C	骨片混土	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	椎体	5	焼、ウグイ属？
39c	オコ1-32	U20 B.C	骨片混土	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	破片	5	焼、ウグイ属？
39d	オコ1-32	U20 B.C	骨片混土	フロ選	縄文前期前半	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
39e	オコ1-32	U20 B.C	骨片混土	フロ選	縄文前期前半	シカ	中手骨/中足骨	不明	遠位端破片	2	焼
39f	オコ1-32	U20 B.C	骨片混土	フロ選	縄文前期前半	シカ	基節骨	不明	近位端	1	焼
39g	オコ1-32	U20 B.C	骨片混土	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
40a	オコ1-33	VP-3	覆土	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	椎体	8	焼、ウグイ属？
40b	オコ1-33	VP-3	覆土	フロ選	縄文前期前半	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
40c	オコ1-33	VP-3	覆土	フロ選	縄文前期前半	シカ	中節骨	不明	近位端	1	焼
40d	オコ1-33	VP-3	覆土	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
41a	オコ1-34	K21B	MⅡ中層	フロ選	縄文前期前半	ウグイ属	第1椎骨	—	椎体	1	焼
41b	オコ1-34	K21B	MⅡ中層	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	椎体	1	焼、ウグイ属？
41c	オコ1-34	K21B	MⅡ中層	フロ選	縄文前期前半	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
41d	オコ1-34	K21B	MⅡ中層	フロ選	縄文前期前半	シカ	臼歯	不明	破片	1	焼
41e	オコ1-34	K21B	MⅡ中層	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
42a	オコ1-35	K21B	MⅡ下層	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	椎体	1	焼、ウグイ属？
42b	オコ1-35	K21B	MⅡ下層	フロ選	縄文前期前半	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
42c	オコ1-35	K21B	MⅡ下層	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
43	オコ1-36	ベルトA4	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
44	オコ1-37	ベルトA6	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
45	オコ1-38	ベルトC8	Ⅶ層直上	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
46	オコ1-39	ベルトC6	Ⅶ層直上	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
47	オコ1-40	ベルトC9	Ⅶ層直上	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
48a	オコ1-41	ベルトA9	MI層	フロ選	縄文前期以降	シカ	末節骨	不明	完存	1	焼
48b	オコ1-41	ベルトA9	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
49a	オコ1-42	J25	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	シカ	中節骨	不明	近位端	2	焼
49b	オコ1-42	J25	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	シカ	中節骨	不明	遠位端	2	焼
49c	オコ1-42	J25	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	シカ	末節骨	不明	破片	1	焼
49d	オコ1-42	J25	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
50a	オコ1-43	VH-6	覆土	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	椎体	2	焼、ウグイ属？
50b	オコ1-35	VH-6	覆土	フロ選	縄文前期前半	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
50c	オコ1-43	VH-6	覆土	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱（小型）	指骨	不明	骨端	1	焼
50d	オコ1-43	VH-6	覆土	フロ選	縄文前期前半	シカ	中節骨	不明	近位端	1	焼、未癒合
50e	オコ1-43	VH-6	覆土	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
51	オコ1-44	J24	MI層上	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
52a	オコ1-45	J20 B.C	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	ニシン科	椎骨	—	椎体	2	焼
52b	オコ1-45	J20 B.C	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	椎体	4	焼、ウグイ属？
52c	オコ1-45	J20 B.C	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	破片	3	焼、ウグイ属？
52d	オコ1-45	J20 B.C	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
52e	オコ1-45	J20 B.C	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	シカ	基節骨	不明	近位端	1	焼
52f	オコ1-45	J20 B.C	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	シカ	末節骨	不明	破片	1	焼
52g	オコ1-45	J20 B.C	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
52h	オコ1-45	J20 B.C	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	鳥綱	趾骨	不明	完存	1	焼
53a	オコ1-46	ベルトD13	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	破片	2	焼、ウグイ属？
53b	オコ1-46	ベルトD13	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
53c	オコ1-46	ベルトD13	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	シカ	中手骨/中足骨	不明	遠位端破片	1	焼
53d	オコ1-46	ベルトD13	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	シカ	中節骨	不明	遠位端	1	焼
53e	オコ1-46	ベルトD13	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
54a	オコ1-47	ベルトD14	MⅡB層	フロ選	縄文前期前半	コイ科？	椎骨	—	破片	1	焼
54b	オコ1-47	ベルトD14	MⅡB層	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
55	オコ1-48	VH-7	覆土	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
56a	オコ1-49	J23	MⅡ層下骨片	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	椎体	2	焼、ウグイ属？
56b	オコ1-49	J23	MⅡ層下骨片	フロ選	縄文前期前半	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
56c	オコ1-49	J23	MⅡ層下骨片	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
57	オコ1-50	K23	MⅡ層下骨片	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
58a	オコ1-51	ベルトB13	MI層	フロ選	縄文前期以降	ニシン科	椎骨	—	椎体	1	焼
58b	オコ1-51	ベルトB13	MI層	フロ選	縄文前期以降	コイ科	椎骨	—	椎体	2	焼、ウグイ属？
58c	オコ1-51	ベルトB13	MI層	フロ選	縄文前期以降	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
58d	オコ1-51	ベルトB13	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
59	オコ1-52	ベルトB15	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
60	オコ1-53	VP-10	人骨下	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
61	オコ1-54	VP-3	覆土	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
62a	オコ1-55	ベルトB14	MⅡ層下骨片	フロ選	縄文前期前半	ニシン科	第2椎骨	—	椎体	1	焼、イワシサイズ
62b	オコ1-55	ベルトB14	MⅡ層下骨片	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	椎体	1	焼、ウグイ属？
62c	オコ1-55	ベルトB14	MⅡ層下骨片	フロ選	縄文前期前半	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
62d	オコ1-55	ベルトB14	MⅡ層下骨片	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
63a	オコ1-56	ベルトB16	MI層	フロ選	縄文前期以降	コイ科	椎骨	—	椎体	1	焼、ウグイ属？
63b	オコ1-56	ベルトB16	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
64a	オコ1-57	ベルトD13	MI層	フロ選	縄文前期以降	シカ	中節骨	不明	近位端	1	焼
64b	オコ1-57	ベルトD13	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
65	オコ1-58	ベルトB6	MⅡ層下骨片	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
66a	オコ1-59	U20C	灰層サンプル	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	椎体	2	焼、ウグイ属？

66b	オコ1-59	U20C	灰層サンプル	フロ選	縄文前期前半	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
66c	オコ1-59	U20C	灰層サンプル	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
67a	オコ1-60	U20D	MⅡ層上	フロ選	縄文前期前半	ウグイ属	第1椎骨	—	椎体	1	焼
67b	オコ1-60	U20D	MⅡ層上	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	椎体	5	焼、ウグイ属？
67c	オコ1-60	U20D	MⅡ層上	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	破片	19	焼、ウグイ属？
67d	オコ1-60	U20D	MⅡ層上	フロ選	縄文前期前半	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
67e	オコ1-60	U20D	MⅡ層上	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
68a	オコ1-61	ベルトA4	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	破片	2	焼、ウグイ属？
68b	オコ1-61	ベルトA4	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
68c	オコ1-61	ベルトA4	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
69	オコ1-62	ベルトA3	MⅠ層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
70	オコ1-63	ベルトC17	Ⅶ層直上	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
71	オコ1-64	ベルトA5	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
72	オコ1-65	ベルトA6	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
73	オコ1-66	J21B	MⅡ層上	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
74a	オコ1-67	U21C	MⅡ層上	フロ選	縄文前期前半	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
74b	オコ1-67	U21C	MⅡ層上	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
75	オコ1-68	ベルトA1	MⅠ層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
76a	オコ1-69	ベルトD	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	シカ	中節骨	不明	近位端	1	焼
76b	オコ1-69	ベルトD	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
77a	オコ1-70	ベルトD9	MⅠ層	フロ選	縄文前期以降	コイ科	椎骨	—	椎体	1	焼、ウグイ属？
77b	オコ1-70	ベルトD9	MⅠ層	フロ選	縄文前期以降	サケ科	椎骨	—	椎体	1	焼
77c	オコ1-70	ベルトD9	MⅠ層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
78a	オコ1-71	ベルトB16	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	ニシン科	椎骨	—	椎体	4	焼
78b	オコ1-71	ベルトB16	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	ウグイ属	第1椎骨	—	椎体	2	焼
78c	オコ1-71	ベルトB16	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	硬骨魚綱	椎骨	—	破片	3	焼
78d	オコ1-71	ベルトB16	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
79a	オコ1-72	ベルトD11	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	シカ	中節骨	不明	近位端	1	焼
79b	オコ1-72	ベルトD11	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
80	オコ1-73	ベルトA8	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
81a	オコ1-74	ベルトB15	MⅠ層	フロ選	縄文前期以降	コイ科	椎骨	—	椎体	1	焼、ウグイ属？
81b	オコ1-74	ベルトB15	MⅠ層	フロ選	縄文前期以降	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
81c	オコ1-74	ベルトB15	MⅠ層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
82	オコ1-75	ベルトB2	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
83	オコ1-76	ベルトC5	Ⅶ層直上	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
84	オコ1-77	ベルトC15	Ⅶ層直上	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
85	オコ1-78	ベルトC16	Ⅶ層直上	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
86	オコ1-79	ベルトD2	MⅠ層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
87	オコ1-80	ベルトC14	Ⅶ層直上	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
88	オコ1-81	ベルトC10	Ⅶ層直上	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
89	オコ1-83	ベルトA10	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
90	オコ1-84	ベルトC11	Ⅶ層直上	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
91a	オコ1-86	ベルトA9	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	椎体	1	焼、ウグイ属？
91b	オコ1-86	ベルトA9	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
92	オコ1-88	ベルトA10	MⅠ層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
93a	オコ1-89	ベルトB2	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	ウグイ属	第1椎骨	—	椎体	1	焼
93b	オコ1-89	ベルトB2	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	破片	3	焼、ウグイ属？
93c	オコ1-89	ベルトB2	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
93d	オコ1-89	ベルトB2	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
94a	オコ1-90	ベルトA10	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	ニシン科	椎骨	—	椎体	1	焼
94b	オコ1-90	ベルトA10	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	シカ	基節骨	不明	近位端	1	焼
94c	オコ1-90	ベルトA10	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
95a	オコ1-91	ベルトA4	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	椎体	1	焼、ウグイ属？
95b	オコ1-91	ベルトA4	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
95c	オコ1-91	ベルトA4	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
96a	オコ1-93	ベルトB9	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	ニシン科	椎骨	—	椎体	1	焼
96b	オコ1-93	ベルトB9	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
97	欠番	欠番	欠番	フロ選	欠番	欠番	欠番	欠番	欠番	欠番	欠番
98a	オコ1-96	ベルトA9	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	椎体	2	焼、ウグイ属？
98b	オコ1-96	ベルトA9	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
99	オコ1-97	VP-8	覆土	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
100a	オコ1-98	ベルトA8	MⅠ層	フロ選	縄文前期以降	シカ	末節骨	不明	破片	1	焼
100b	オコ1-98	ベルトA8	MⅠ層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
101a	オコ1-99	ベルトD	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	ニシン科	椎骨	—	椎体	1	焼
101b	オコ1-99	ベルトD	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	破片	3	焼、ウグイ属？
101c	オコ1-99	ベルトD	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
101d	オコ1-99	ベルトD	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	シカ	中手骨	不明	骨幹破片	2	焼
101e	オコ1-99	ベルトD	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	シカ	中手骨/中足骨	不明	遠位端破片	1	焼
101f	オコ1-99	ベルトD	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
102	オコ1-100	ベルトA3	MⅠ層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
103	オコ1-101	ベルトA7	MⅠ層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
104	オコ1-104	ベルトC11	Ⅶ層直上	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
105a	オコ1-105	ベルトB11	MⅠ層	フロ選	縄文前期以降	ニシン科	椎骨	—	椎体	1	焼
105b	オコ1-105	ベルトB11	MⅠ層	フロ選	縄文前期以降	コイ科	椎骨	—	椎体	1	焼、ウグイ属？
105c	オコ1-105	ベルトB11	MⅠ層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
106	オコ1-106	ベルトA8	MⅠ層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
107	オコ1-107	ベルトC2	Ⅶ層	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
108a	オコ1-108	ベルトA5	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	破片	1	焼、ウグイ属？

108b	オコ1-108	ベルトA5	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
109	オコ1-109	ベルトA2	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
110a	オコ1-111	ベルトA6	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	ニシン科	椎骨	—	椎体	1	焼
110b	オコ1-111	ベルトA6	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
111	オコ1-114	ベルトA5	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
112a	オコ1-115	ベルトB12	MI層	フロ選	縄文前期以降	コイ科	椎骨	—	破片	1	焼、ウグイ属？
112b	オコ1-115	ベルトB12	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
113a	オコ1-116	ベルトD	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	ニシン科	椎骨	—	椎体	1	焼
113b	オコ1-116	ベルトD	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱（大型）	手根骨/足根骨	不明	破片	2	焼
113c	オコ1-116	ベルトD	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
114a	オコ1-117	ベルトB17	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	ニシン科	椎骨	—	椎体	1	焼
114b	オコ1-117	ベルトB17	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
115	オコ1-118	ベルトD11	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
116a	オコ1-119	ベルトD12	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	椎体	4	焼、ウグイ属？
116b	オコ1-119	ベルトD12	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	シカ	基節骨	不明	遠位端	1	焼
116c	オコ1-119	ベルトD12	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	シカ	末節骨	不明	破片	1	焼
116d	オコ1-119	ベルトD12	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
117a	オコ1-120	ベルトB16	MI層	フロ選	縄文前期以降	硬骨魚綱	椎骨	—	破片	2	焼
117b	オコ1-120	ベルトB16	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
118a	オコ1-121	ベルトB14	MI層	フロ選	縄文前期以降	コイ科	椎骨	—	椎体	3	焼、ウグイ属？
118b	オコ1-121	ベルトB14	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
119a	オコ1-122	ベルトD6	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	硬骨魚綱	椎骨	—	破片	3	焼
119b	オコ1-122	ベルトD6	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
120	オコ1-123	ベルトD1	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
121	オコ1-124	ベルトB4	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
122a	オコ1-125	ベルトA7	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	椎体	1	焼、ウグイ属？
122b	オコ1-125	ベルトA7	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
123a	オコ1-126	ベルトD14	MI層	フロ選	縄文前期以降	コイ科	椎骨	—	椎体	1	焼、ウグイ属？
123b	オコ1-126	ベルトD14	MI層	フロ選	縄文前期以降	シカ	中手骨	不明	骨幹破片	1	焼
123c	オコ1-126	ベルトD14	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
124a	オコ1-127	VP-3	覆土	フロ選	縄文前期前半	ニシン科	椎骨	—	椎体	1	焼
124b	オコ1-127	VP-3	覆土	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	椎体	3	焼、ウグイ属？
124c	オコ1-127	VP-3	覆土	フロ選	縄文前期前半	シカ	末節骨	不明	破片	1	焼
124d	オコ1-127	VP-3	覆土	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
125a	オコ1-128	ベルトB5	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	椎体	1	焼、ウグイ属？
125b	オコ1-128	ベルトB5	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
126a	オコ1-129	ベルトB3	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	ニシン科	椎骨	—	椎体	1	焼
126b	オコ1-129	ベルトB3	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	ウグイ属	第1椎骨	—	椎体	1	焼
126c	オコ1-129	ベルトB3	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	椎体	1	焼、ウグイ属？
126d	オコ1-129	ベルトB3	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
127	オコ1-132	ベルトA7	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
128	オコ1-133	ベルトD10		フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
129a	オコ1-134	ベルトA8	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	破片	1	焼、ウグイ属？
129b	オコ1-134	ベルトA8	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
129c	オコ1-134	ベルトA8	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	シカ	基節骨	不明	遠位端	1	焼
129d	オコ1-134	ベルトA8	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
130	オコ1-135	ベルトB11	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
131	オコ1-136	ベルトB7	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
132	オコ1-137	J-24	MⅡ層上	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
133a	オコ1-138	ベルトB15	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	ニシン科	椎骨	—	椎体	1	焼
133b	オコ1-138	ベルトB15	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	椎体	1	焼、ウグイ属？
133c	オコ1-138	ベルトB15	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	サケ科	椎骨	—	椎体	1	焼
133d	オコ1-138	ベルトB15	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	シカ	中節骨	不明	近位端	1	焼
133e	オコ1-138	ベルトB15	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	シカ	末節骨	不明	近位端	1	焼
133f	オコ1-138	ベルトB15	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
134	オコ1-139	ベルトA5	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
135a	オコ1-140	ベルトA9	MI層	フロ選	縄文前期以降	シカ	中手骨	不明	骨幹破片	1	焼
135b	オコ1-140	ベルトA9	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
136a	オコ1-142	ベルトB11	MI層	フロ選	縄文前期以降	ニシン科	椎骨	—	椎体	1	焼
136b	オコ1-142	ベルトB11	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
137	オコ1-143	ベルトD5	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
138a	オコ1-144	ベルトB13	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	ニシン科	椎骨	—	破片	1	焼
138b	オコ1-144	ベルトB13	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	椎体	1	焼、ウグイ属？
138c	オコ1-144	ベルトB13	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	硬骨魚綱	椎骨	—	破片	1	焼
138d	オコ1-144	ベルトB13	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	硬骨魚綱	不明	不明	破片	1	焼
138e	オコ1-144	ベルトB13	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
139a	オコ1-146	ベルトB5	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	ニシン科	椎骨	—	椎体	2	
139b	オコ1-146	ベルトB5	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	硬骨魚綱	椎骨	—	椎体	1	
139c	オコ1-146	ベルトB5	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	硬骨魚綱？	歯	不明	遊離歯	2	
139d	オコ1-146	ベルトB5	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
140	オコ1-147	ベルトC2	Ⅶ層直上	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
141	オコ1-148	ベルトA2	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
142a	オコ1-149	ベルトB12	MI層	フロ選	縄文前期以降	コイ科	椎骨	—	椎体	3	焼、ウグイ属？
142b	オコ1-149	ベルトB12	MI層	フロ選	縄文前期以降	硬骨魚綱	椎骨	—	破片	2	焼
142c	オコ1-149	ベルトB12	MI層	フロ選	縄文前期以降	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
142d	オコ1-149	ベルトB12	MI層	フロ選	縄文前期以降	シカ	中手骨/中足骨	不明	遠位端破片	1	焼
142e	オコ1-149	ベルトB12	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
143a	オコ1-150	ベルトB14	MI層	フロ選	縄文前期以降	コイ科	椎骨	—	椎体	1	焼、ウグイ属？

143b	オコ1-150	ベルトB14	MI層	フロ選	縄文前期以降	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
143c	オコ1-150	ベルトB14	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
144	オコ1-151	ベルトB	MⅡ層直下	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
145a	オコ1-152	ベルトD8	MI層	フロ選	縄文前期以降	コイ科	第1椎骨	—	破片	1	焼、ウグイ属？
145b	オコ1-152	ベルトD8	MI層	フロ選	縄文前期以降	コイ科	椎骨	—	破片	2	焼、ウグイ属？
145c	オコ1-152	ベルトD8	MI層	フロ選	縄文前期以降	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
145d	オコ1-152	ベルトD8	MI層	フロ選	縄文前期以降	シカ	中節骨？	不明	近位端	1	焼
145e	オコ1-152	ベルトD8	MI層	フロ選	縄文前期以降	シカ	末節骨	不明	ほぼ完存	2	焼
145f	オコ1-152	ベルトD8	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
146	オコ1-154	ベルトA7	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
147a	オコ1-157	ベルトD8	MI層	フロ選	縄文前期以降	ニシン科	椎骨	—	椎体	2	焼
147b	オコ1-157	ベルトD8	MI層	フロ選	縄文前期以降	シカ	中手骨	不明	骨幹破片	2	焼
147c	オコ1-157	ベルトD8	MI層	フロ選	縄文前期以降	シカ	末節骨	不明	完存	1	焼
147d	オコ1-157	ベルトD8	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
148a	オコ1-158	ベルトD4	MI層	フロ選	縄文前期以降	シカ	中節骨	不明	近位端	1	焼
148b	オコ1-158	ベルトD4	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
149	オコ1-159	ベルトD3	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
150	オコ1-160	ベルトA1	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
151	オコ1-161	ベルトB12	MⅡ層	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
152	オコ1-162	ベルトB8	MⅡ層下	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
153a	オコ1-163	J23B	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	コイ科	椎骨	—	椎体	2	焼、ウグイ属？
153b	オコ1-163	J23B	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	シカ	基節骨/中節骨	不明	遠位端破片	1	焼
153c	オコ1-163	J23B	MⅡ層中	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
154	オコ1-166	ベルトD12	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
155	オコ1-167	ベルトA10	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
156a	オコ1-168	ベルトD7	MI層	フロ選	縄文前期以降	シカ	末節骨	不明	完存	1	焼
156b	オコ1-168	ベルトD7	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
157	オコ1-169	ベルトB4	MⅡ層直下	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
158	オコ1-170	ベルトB3	MⅡ層直下	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
159a	オコ1-171	ベルトD6	MI層	フロ選	縄文前期以降	シカ	基節骨	不明	近位端	1	焼
159b	オコ1-171	ベルトD6	MI層	フロ選	縄文前期以降	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
160	オコ1-172	VP-3	覆土	フロ選	縄文前期前半	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
161	オコ1-173	H-3 1		フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
162	オコ1-176	H-3 4		フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
163a	オコ1-177	H-3 5		フロ選	擦文後期	ウグイ属	第1椎骨	—	椎体	1	焼
163b	オコ1-177	H-3 5		フロ選	擦文後期	サケ科	椎骨	—	破片	3	焼
163c	オコ1-177	H-3 5		フロ選	擦文後期	硬骨魚綱	椎骨	—	破片	13	焼
163d	オコ1-177	H-3 5		フロ選	擦文後期	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
163e	オコ1-177	H-3 5		フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
164	オコ1-178	H-3 6		フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
165	オコ1-179	H-3 7		フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
166	オコ1-180	H-3 8		フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
167	オコ1-181	H-3 9		フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
168	オコ1-183	H-3 11		フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
169	オコ1-184	H-3 12		フロ選	擦文後期	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼

5　炭化種実同定

株式会社　パレオ・ラボ

（1）はじめに

厚真町に所在するオコッコ１遺跡は、厚真川とオコッコ沢川の合流点に位置する。ここ出土した炭化種実を同定し、当時の植生と植物利用について検討する。

（2）試料と方法

試料は水洗選別された種実である。詳細一覧を表Ⅵ－10に示す。試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示す。

（3）結果

a）分類群

樹木６、樹木・草本を含むもの１、草本２の計９分類群が同定された。学名、和名および粒数を表Ⅵ－11に示し、層位ごとにまとめた結果を表Ⅵ－12に、時代ごとにまとめた結果を表Ⅵ－13に示す。主要な分類群の写真を図版Ⅵ－13に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴を記載する。

〔樹木〕

オニグルミ　*Juglans ailanthifolia* Carr.　核（破片）　クルミ科

黒色で円形～楕円形を呈し、一端がとがる。側面には縦に走る一本の縫合線がめぐる。表面全体に不規則な隆起がある。全て破片である。

キハダ　*Phellodendron amurense* Rupr.　果実（完形、破片）・種子（完形、破片）　ミカン科

黒色で半円形を呈し、一側面に細長いへそがある。表面には微細な網目模様がある。

サンショウ属　*Zanthozylum*　種子（破片）　ミカン科

黒色で楕円形を呈し、側面にへそがある。表面には網目模様がある。この分類群はへそが欠落し破片のため、属レベルの同定までである。

ブドウ属　*Vitis*　種子（完形、破片）　ブドウ科

茶褐色で卵形を呈し、先端がとがる。腹面には二つの孔があり、背面には先端が楕円形のへそがある。

ブドウ科　Vitaceae　種子（破片）　ブドウ科

この分類群は破片でカラザの部分が欠損しているものである。

ミズキ　*Cornus controversa* Hemsl.　核（完形、破片）　ミズキ科

黒褐色で横長の楕円形を呈す。表面には縦方向に深い筋が走る。

〔樹木・草本を含むもの〕

ウコギ科　Araliaceae　種子

淡褐色ないし茶褐色で、半月状を呈する。断面は扁平、向軸側はほぼ直線状になり、背軸側には浅い溝が２～３本走る。表面はざらつく。

〔草本〕

イネ科　Gramineae　果実

果実は黄褐色で円形を呈す。胚の部分はとれていてくぼんでいる。

アカネ科　Rubiaceae　種子

偏球形を呈し、背面は広楕円状円形である。中央に円形の穴がある。

不明種実　Unknown seeds（破片）

種実と思われるが、表面模様が欠落し観察できず破片のため不明種実、不明種実？とした。

炭化物　charcoal fraguments

種実ではない炭化物で表面模様が欠落していたり、土が付着し観察不可能の個体を炭化物とした。

（２）種実群集の特徴

・擦文時代後期

１）Ⅲ層

樹木種実のブドウ科３、草本種実のイネ科果実１が同定された。

２）焼土

樹木種実のオニグルミ６、キハダ１、サンショウ属１、ブドウ属４、草本種実のイネ科果実３が同定された。他は未同定の炭化物６である。

３）H-３グリッド

樹木種実のブドウ属１、ブドウ科４、ミズキ１、樹木・草本を含むウコギ科３、草本種実のイネ科果実１が同定された。他は未同定の炭化物 14 である。

・縄文時代

１）ＭＩ層

樹木種実のオニグルミ 112、キハダ果実２、種子４、ブドウ属１、ミズキ３、草本種実のアカネ科

表Ⅵ－10　試料一覧

試料番号	遺構/盛土	遺構名/グリッド	層位	想定時期	フローテーション処理番号
1	遺構	S-6	Ⅲ	擦文後期	オコ1-1
2	遺構	F-5	焼土上面	擦文後期	オコ1-7
3	遺構	F-9	焼土	擦文後期	オコ1-9
4	遺構	F-5	焼土中	擦文後期	オコ1-11
5	遺構	F-11	焼土	擦文後期	オコ1-12
6	遺構	F-6	焼土	擦文後期	オコ1-13
7	遺構	F-7	焼土	擦文後期	オコ1-14
8	遺構	F-1	焼土	擦文後期	オコ1-16
9	遺構	F-13	焼土	擦文後期	オコ1-21
10	遺構	F-15	焼土	擦文後期	オコ1-22
11	遺構	F-15	焼土	擦文後期	オコ1-23
12	盛土	U20 B.C	骨片混土	縄文前期	オコ1-32
13	盛土	ベルトA⑥	MⅠ層	縄文前期	オコ1-37
14	盛土	ベルトC⑧	Ⅶ層直上	縄文前期	オコ1-38
15	盛土	ベルトC⑨	Ⅶ層直上	縄文前期	オコ1-39
16	盛土	ベルトA⑨	MⅠ層	縄文	オコ1-41
17	盛土	J24	MⅠ層上	縄文	オコ1-44
18	盛土	ベルトD⑬	MⅡ層	縄文前期	オコ1-46
19	盛土	ベルトD⑭	MⅡB層	縄文前期	オコ1-47
20	遺構	VH-7	覆土	縄文前期	オコ1-48
21	盛土	J23	MⅡ層下	縄文前期	オコ1-49
22	盛土	K23	MⅡ層下	縄文前期	オコ1-50
23	盛土	ベルトB⑭	MⅡ層下	縄文前期	オコ1-55
24	盛土	ベルトB⑯	MⅠ層	縄文	オコ1-56
25	盛土	ベルトD⑬	MⅠ層	縄文	オコ1-57
26	盛土	ベルトA③	MⅠ層	縄文	オコ1-62
27	盛土	ベルトC⑰	Ⅶ層直上	縄文前期	オコ1-63
28	盛土	ベルトA⑥	MⅡ層中	縄文前期	オコ1-65
29	盛土	ベルトD	MⅡ層	縄文前期	オコ1-69
30	盛土	ベルトD⑨	MⅠ層	縄文	オコ1-70
31	盛土	ベルトA⑧	MⅡ層中	縄文前期	オコ1-73
32	盛土	ベルトB②	MⅡ層下	縄文前期	オコ1-75
33	盛土	ベルトC⑤	Ⅶ層直上	縄文前期	オコ1-76
34	盛土	ベルトC⑭	Ⅶ層直上	縄文前期	オコ1-80
35	盛土	ベルトA⑩	MⅡ層中	縄文前期	オコ1-83
36	盛土	ベルトC⑪	Ⅶ層直上	縄文前期	オコ1-84
37	盛土	ベルトC⑨	Ⅶ層直上	縄文前期	オコ1-85
38	盛土	ベルトC⑤	Ⅶ層直上	縄文前期	オコ1-87
39	盛土	ベルトA⑩	MⅠ層	縄文	オコ1-88
40	盛土	ベルトA⑩	MⅡ層中	縄文前期	オコ1-90
41	盛土	ベルトA④	MⅡ層中	縄文前期	オコ1-91
42	盛土	ベルトC①	Ⅶ層直上	縄文前期	オコ1-92
43	盛土	ベルトA⑧	MⅠ層	縄文	オコ1-98
44	盛土	ベルトA⑦	MⅠ層	縄文	オコ1-101
45	盛土	ベルトC⑫	Ⅶ層直上	縄文前期	オコ1-103
46	盛土	ベルトC⑪	Ⅶ層直上	縄文前期	オコ1-104
47	盛土	ベルトB⑪	MⅠ層	縄文前期	オコ1-105
48	盛土	ベルトA⑧	MⅠ層	縄文前期	オコ1-106
49	盛土	ベルトC②	Ⅶ層	縄文前期	オコ1-107
50	盛土	ベルトA⑤	MⅡ層	縄文前期	オコ1-108
51	盛土	ベルトC⑮	Ⅶ層	縄文前期	オコ1-110
52	盛土	ベルトA⑥	MⅡ層中	縄文前期	オコ1-111
53	盛土	ベルトC⑯	Ⅶ層直上	縄文前期	オコ1-112
54	盛土	ベルトB⑰	MⅡ層下	縄文前期	オコ1-117
55	盛土	ベルトD⑫	MⅡ層	縄文前期	オコ1-119
56	盛土	ベルトB⑯	MⅠ層	縄文前期	オコ1-120
57	盛土	ベルトB⑭	MⅠ層	縄文前期	オコ1-121
58	盛土	ベルトD⑥	MⅡ層	縄文前期	オコ1-122
59	盛土	ベルトD①	MⅠ層	縄文前期	オコ1-123
60	盛土	ベルトA⑦	MⅡ層中	縄文前期	オコ1-125
61	盛土	ベルトD⑭	MⅠ層	縄文前期	オコ1-126
62	盛土	ベルトB⑤	MⅡ層下	縄文前期	オコ1-128
63	盛土	ベルトB③	MⅡ層下	縄文前期	オコ1-129
64	盛土	ベルトC⑬	Ⅶ直上	縄文前期	オコ1-131
65	盛土	ベルトD⑩	MⅠ層	縄文前期	オコ1-133
66	盛土	ベルトA⑧	MⅡ層中	縄文前期	オコ1-134
67	盛土	ベルトB⑪	MⅡ層下	縄文前期	オコ1-135
68	盛土	ベルトB⑦	MⅡ層下	縄文前期	オコ1-136
69	盛土	ベルトA⑨	MⅠ層	縄文前期	オコ1-140
70	盛土	ベルトC④	Ⅶ直上	縄文前期	オコ1-141
71	盛土	ベルトB⑪	MⅠ層	縄文前期	オコ1-142
72	盛土	ベルトD⑤	MⅠ層	縄文前期	オコ1-143
73	盛土	ベルトB⑬	MⅡ層下	縄文前期	オコ1-144
74	盛土	ベルトA②	MⅠ層	縄文前期	オコ1-148
75	盛土	ベルトB⑫	MⅠ層	縄文前期	オコ1-149
76	盛土	ベルトD⑧	MⅠ層	縄文前期	オコ1-152
77	盛土	ベルトC①	Ⅶ直上	縄文前期	オコ1-153
78	盛土	ベルトA⑦	MⅠ層	縄文前期	オコ1-154
79	盛土	ベルトC⑩	Ⅶ層	縄文前期	オコ1-155
80	盛土	ベルトC⑦	Ⅶ直上	縄文前期	オコ1-156
81	盛土	ベルトD③	MⅠ層	縄文前期	オコ1-159
82	盛土	ベルトA①	MⅠ層	縄文前期	オコ1-160
83	盛土	ベルトB⑫	MⅡ層	縄文前期	オコ1-161
84	盛土	ベルトB⑧	MⅡ層下	縄文前期	オコ1-162
85	盛土	ベルトC⑰	Ⅶ直上	縄文前期	オコ1-164
86	盛土	ベルトC⑦	Ⅶ直上	縄文前期	オコ1-165
87	盛土	ベルトD⑫	MⅠ層	縄文前期	オコ1-166
88	盛土	ベルトB④	MⅡ層下	縄文前期	オコ1-169
89	盛土	ベルトD⑥	MⅠ層	縄文前期	オコ1-171
90	遺構	H-3①	床	擦文後期	オコ1-173
91	遺構	H-3③	床	擦文後期	オコ1-175
92	遺構	H-3④	床	擦文後期	オコ1-176
93	遺構	H-3⑦	床	擦文後期	オコ1-179
94	遺構	H-3⑩	床	擦文後期	オコ1-182
95	遺構	H-3⑪	床	擦文後期	オコ1-183
96	遺構	H-3⑬	床	擦文後期	オコ1-185

1が同定された。他は不明種実6、不明種実？3、未同定の炭化物22である。

・縄文時代前期

1）MⅡ層

全て樹木種実で、オニグルミ10、キハダ果実8、種子6、ブドウ科1、ミズキ1が同定された。他は未同定の炭化物22である。

2）Ⅶ層

不明種実2、炭化物25である。

３）覆土

種実は検出されなかった。

４）骨片混土

樹木種実のキハダ３が同定された。

（３）考察

１）擦文時代後期（Ⅲ層、焼土、H-３）

オニグルミ、ブドウ属、ブドウ科の食用として利用出来る樹木と、キハダ、サンショウ属、ミズキ、ウコギ科、イネ科の人為干渉のあるところの二次林種と草本が検出されている。オニグルミ、ブドウ属、ブドウ科は採取されたものとみられるが、他は周囲に生育しており、ともに火を受けたと考えられる。オニグルミ、キハダおよびミズキは谷筋やその斜面の高木の少ない陽当りのよいところに生育する樹木で、キハダとミズキは人為干渉地の二次林内に多い樹木である。周囲にはこれらの二次林種の樹木が分布していたとみられる。

２）縄文時代前期以降（ＭＩ層）

オニグルミ核破片が極めて多く、割って種子を取り出した残滓が燃えて熱を受けたとみられる。出土数は少ないがブドウ属も同定され、当時利用されていたとみられる。キハダ、ミズキは、周囲に生育していたものが何らかの要因で混入し炭化したと考えられる。周囲にはキハダ、ミズキなど谷沿いからその斜面に生育する二次林が分布していたとみられ、谷筋にはオニグルミが生育していた。アカネ科は林縁の植物である。

３）縄文時代前期（ＭⅡ層、Ⅶ層、覆土、骨片、混土）

オニグルミ、ブドウ科、キハダ、ミズキの樹木が同定された。構成は縄文時代（Ｍ１層）とほぼ同様であり、オニグルミがやや多く、利用されていたとみられる。周囲はキハダ、ミズキの二次林が分布する谷沿いの高木のない陽当りの良い斜面等の環境が推定される。

（４）まとめ

オコッコ１遺跡における炭化種実同定の結果、樹木は擦文時代後期（Ⅲ層、焼土、H-３）、縄文時代前期以降（ＭＩ層）、縄文時代前期（ＭⅡ層、Ⅶ層、覆土、骨片、混土）ともに同じ構成で、オニグルミ、キハダ、ミズキが同定された。オニグルミが利用され、周囲にはキハダ、ミズキの二次林が分布する谷沿いの高木のない陽当りの良い斜面等の環境が推定された。縄文時代前期以降（ＭＩ層）、擦文時代後期（Ⅲ層、焼土、H-３）では、ブドウ属も利用されていた。縄文時代前期以降（ＭＩ層）では、ブドウ属やアカネ科の林縁の植物が出土し、擦文時代後期（Ⅲ層、焼土、H-３）では、ブドウ属、ウコギ科の林縁の植物とイネ科の草本が出土しており、いずれも樹木のない裸地の拡大が推定された。

参考文献

笠原安夫（1985）日本雑草図説，養賢堂，494p.
笠原安夫（1988）作物および田畑雑草種類．弥生文化の研究第２巻生業，雄山閣　出版，p．131-139.
南木睦彦（1992）低湿地遺跡の種実．月刊考古学ジャーナル No.355，ニューサイエンス社，p.18-22.
南木睦彦（1993）葉・果実・種子．日本第四紀学会編，第四紀試料分析法，東京大学出版会，p.276-283.
渡辺誠（1975）縄文時代の植物食．雄山閣，187p.

表Ⅵ－11　炭化種実同定結果（1）

試料番号	遺構/盛土	遺構名/グリッド	層位	分類群 学名	分類群 和名	部位	個数	備考	想定時期	フローテーション処理番号
1	遺構	S-6	Ⅲ	Vitaceae	ブドウ科	種子(破片)	3		擦文後期	オコ1-1
				Gramineae	イネ科	果実	1			
2	遺構	F-5	焼土上面	Charcoal fraguments	炭化物		1	菌類1	擦文後期	オコ1-7
3	遺構	F-9	焼土	*Zanthoxylum*	サンショウ属	種子(破片)	1		擦文後期	オコ1-9
4	遺構	F-5	焼土中					菌類1	擦文後期	オコ1-11
5	遺構	F-11	焼土	Charcoal fraguments	炭化物		2		擦文後期	オコ1-12
6	遺構	F-6	焼土	*Juglans ailanthifolia* Carr	オニグルミ	核　(破片)	2		擦文後期	オコ1-13
				Phellodendron amurense Rupr.	キハダ	種子	1			
				Gramineae	イネ科	果実	3			
				Charcoal fraguments	炭化物		1			
7	遺構	F-7	焼土	*Vitis*	ブドウ属	種子	3		擦文後期	オコ1-14
8	遺構	F-1	焼土	Charcoal fraguments	炭化物		1		擦文後期	オコ1-16
9	遺構	F-13	焼土	Charcoal fraguments	炭化物		1		擦文後期	オコ1-21
10	遺構	F-15	焼土	*Juglans ailanthifolia* Carr	オニグルミ	核　(破片)	4		擦文後期	オコ1-22
11	遺構	F-15	焼土	*Vitis*	ブドウ属	種子(破片)	1		擦文後期	オコ1-23
12	盛土	U20 B.C	骨片混土	*Phellodendron amurense* Rupr.	キハダ	種子	1	菌類3	縄文前期	オコ1-32
						(破片)	2			
13	盛土	ベルトA⑥	MⅠ層	Charcoal fraguments	炭化物		2	菌類3	縄文前期	オコ1-37
14	盛土	ベルトC⑧	Ⅶ層直上	Charcoal fraguments	炭化物		1		縄文前期	オコ1-38
15	盛土	ベルトC⑨	Ⅶ層直上					菌類1	縄文前期	オコ1-39
16	盛土	ベルトA⑨	MⅠ層	*Juglans ailanthifolia* Carr	オニグルミ	核　(破片)	43		縄文前期以降	オコ1-41
				Charcoal fraguments	炭化材	(細片)	1			
17	盛土	J24	MⅠ層上	*Juglans ailanthifolia* Carr	オニグルミ	核　(破片)	40		縄文前期以降	オコ1-44
				Phellodendron amurense Rupr.	キハダ	果実(破片)	2			
						種子(破片)	2			
18	盛土	ベルトD⑬	MⅡ層	*Juglans ailanthifolia* Carr	オニグルミ	核　(破片)	10		縄文前期	オコ1-46
				Phellodendron amurense Rupr.	キハダ	果実	1			
				Charcoal fraguments	炭化材	(細片)	1			
19	盛土	ベルトD⑭	MⅡB層					菌類1	縄文前期	オコ1-47
20	遺構	VH-7	覆土					土塊1	縄文前期	オコ1-48
21	盛土	J23	MⅡ層下	Charcoal fraguments	炭化物		1	菌類2	縄文前期	オコ1-49
22	盛土	K23	MⅡ層下	*Phellodendron amurense* Rupr.	キハダ	種子	1	菌類11	縄文前期	オコ1-50
23	盛土	ベルトB⑭	MⅡ層下					菌類1	縄文前期	オコ1-55
24	盛土	ベルトB⑯	MⅠ層	*Juglans ailanthifolia* Carr	オニグルミ	核　(破片)	16		縄文前期以降	オコ1-56
				Vitis	ブドウ属	種子(破片)	1			
				Charcoal fraguments	炭化材	(細片)	1			
25	盛土	ベルトD⑬	MⅠ層					菌類1	縄文前期以降	オコ1-57
26	盛土	ベルトA③	MⅠ層	*Juglans ailanthifolia* Carr	オニグルミ	核　(破片)	9	菌類3	縄文前期以降	オコ1-62
27	盛土	ベルトC⑰	Ⅶ層直上					菌類4	縄文前期	オコ1-63
28	盛土	ベルトA⑥	MⅡ層中					菌類2	縄文前期	オコ1-65
29	盛土	ベルトD	MⅡ層					菌類7	縄文前期	オコ1-69
30	盛土	ベルトD⑨	MⅠ層	*Juglans ailanthifolia* Carr	オニグルミ	核　(破片)	4		縄文前期以降	オコ1-70
31	盛土	ベルトA⑧	MⅡ層中	*Phellodendron amurense* Rupr.	キハダ	種子	1		縄文前期	オコ1-73
32	盛土	ベルトB②	MⅡ層下	Vitaceae	ブドウ科	種子(破片)	1		縄文前期	オコ1-75
33	盛土	ベルトC⑤	Ⅶ層直上					菌類2	縄文前期	オコ1-76
34	盛土	ベルトC⑭	Ⅶ層直上					菌類1	縄文前期	オコ1-80
35	盛土	ベルトA⑩	MⅡ層中	*Phellodendron amurense* Rupr.	キハダ	果実(破片)	7		縄文前期	オコ1-83
						種子	2			
						(破片)	1			
				Charcoal fraguments	炭化物		1			
36	盛土	ベルトC⑪	Ⅶ層直上					菌類1	縄文前期	オコ1-84
37	盛土	ベルトC⑨	Ⅶ層直上	Charcoal fraguments	炭化物		2	菌類3	縄文前期	オコ1-85
38	盛土	ベルトC⑤	Ⅶ層直上					菌類1	縄文前期	オコ1-87
39	盛土	ベルトA⑩	MⅠ層	*Phellodendron amurense* Rupr.	キハダ	種子	1		縄文前期以降	オコ1-88
				Swida controversa Hemsl.	ミズキ	核	1			
40	盛土	ベルトA⑩	MⅡ層中	*Swida controversa* Hemsl.	ミズキ	核	1		縄文前期	オコ1-90
41	盛土	ベルトA④	MⅡ層中					菌類2	縄文前期	オコ1-91
42	盛土	ベルトC①	Ⅶ層直上	Charcoal fraguments	炭化物		3	菌類2	縄文前期	オコ1-92
43	盛土	ベルトA⑧	MⅠ層	*Swida controversa* Hemsl.	ミズキ	核	1		縄文前期以降	オコ1-98
44	盛土	ベルトA⑦	MⅠ層	Charcoal fraguments	炭化物		3		縄文前期以降	オコ1-101
45	盛土	ベルトC⑫	Ⅶ層直上	Charcoal fraguments	炭化物		1		縄文前期	オコ1-103
46	盛土	ベルトC⑪	Ⅶ層直上	Charcoal fraguments	炭化物		3		縄文前期	オコ1-104
47	盛土	ベルトB⑪	MⅠ層	Charcoal fraguments	炭化物		1	菌類1	縄文前期	オコ1-105
48	盛土	ベルトA⑧	MⅠ層	Charcoal fraguments	炭化物		1		縄文前期	オコ1-106
49	盛土	ベルトC②	Ⅶ層	Charcoal fraguments	炭化物		2		縄文前期	オコ1-107
50	盛土	ベルトA⑤	MⅡ層	Charcoal fraguments	炭化物		2		縄文前期	オコ1-108

表Ⅵ－11　炭化種実同定結果（２）

試料番号	遺構/盛土	遺構名/グリッド	層位	分類群 学名	分類群 和名	部位	個数	備考	想定時期	フローテーション処理番号
51	盛土	ベルトC⑮	Ⅶ層	Charcoal fraguments	炭化物		1		縄文前期	オコ1-110
52	盛土	ベルトA⑥	MⅡ層中	Unknown seeds?	不明種実？		1		縄文前期	オコ1-111
				Charcoal fraguments	炭化物		2			
53	盛土	ベルトC⑯	Ⅶ層直上	Charcoal fraguments	炭化物		1	菌類1	縄文前期	オコ1-112
54	盛土	ベルトB⑰	MⅡ層下	Charcoal fraguments	炭化物		1		縄文前期	オコ1-117
55	盛土	ベルトD⑫	MⅡ層					菌類1	縄文前期	オコ1-119
56	盛土	ベルトB⑯	MⅠ層	Unknown seeds?	不明種実？		2		縄文前期以降	オコ1-120
57	盛土	ベルトB⑭	MⅠ層	Charcoal fraguments	炭化物		2		縄文前期以降	オコ1-121
58	盛土	ベルトD⑥	MⅡ層					菌類2	縄文前期	オコ1-122
59	盛土	ベルトD①	MⅠ層					菌類4	縄文前期以降	オコ1-123
60	盛土	ベルトA⑦	MⅡ層中	Charcoal fraguments	炭化物		1		縄文前期	オコ1-125
61	盛土	ベルトD⑭	MⅠ層	*Swida controversa* Hemsl.	ミズキ	核　(破片)	1		縄文前期以降	オコ1-126
62	盛土	ベルトB⑤	MⅡ層下	Charcoal fraguments	炭化物		2		縄文前期	オコ1-128
63	盛土	ベルトB③	MⅡ層下	Charcoal fraguments	炭化物		1	菌類1	縄文前期	オコ1-129
64	盛土	ベルトC⑬	Ⅶ直上	Charcoal fraguments	炭化物		1	菌類1	縄文前期	オコ1-131
65	盛土	ベルトD⑩	MⅠ層	Charcoal fraguments	炭化物		1	菌類1	縄文前期以降	オコ1-133
66	盛土	ベルトA⑧	MⅡ層中	Charcoal fraguments	炭化物		2		縄文前期	オコ1-134
67	盛土	ベルトB⑪	MⅡ層下	Charcoal fraguments	炭化物		2		縄文前期	オコ1-135
68	盛土	ベルトB⑦	MⅡ層下	Charcoal fraguments	炭化物		2		縄文前期	オコ1-136
69	盛土	ベルトA⑨	MⅠ層	Unknown seeds	不明種実		1		縄文前期以降	オコ1-140
				Charcoal fraguments	炭化物		3			
70	盛土	ベルトC④	Ⅶ直上	Charcoal fraguments	炭化物		1		縄文前期	オコ1-141
71	盛土	ベルトB⑪	MⅠ層	Charcoal fraguments	炭化物		2	菌類1	縄文前期以降	オコ1-142
72	盛土	ベルトD⑤	MⅠ層					菌類2	縄文前期以降	オコ1-143
73	盛土	ベルトB⑬	MⅡ層下					菌類2	縄文前期	オコ1-144
74	盛土	ベルトA②	MⅠ層	Charcoal fraguments	炭化物		2	菌類2	縄文前期以降	オコ1-148
75	盛土	ベルトB⑫	MⅠ層	*Phellodendron amurense* Rupr.	キハダ	種子(破片)	1		縄文前期以降	オコ1-149
				Charcoal fraguments	炭化物		1			
76	盛土	ベルトD⑧	MⅠ層	Unknown seeds	不明種実		2		縄文前期以降	オコ1-152
77	盛土	ベルトC①	Ⅶ直上	Unknown seeds	不明種実		2	菌類2	縄文前期	オコ1-153
78	盛土	ベルトA⑦	MⅠ層	Unknown seeds	不明種実		3		縄文前期以降	オコ1-154
79	盛土	ベルトC⑩	Ⅶ層	Charcoal fraguments	炭化物		4	菌類2	縄文前期	オコ1-155
80	盛土	ベルトC⑦	Ⅶ直上	Charcoal fraguments	炭化物		2	菌類1	縄文前期	オコ1-156
81	盛土	ベルトD③	MⅠ層	Rubiaceae	アカネ科	種子	1		縄文前期以降	オコ1-159
82	盛土	ベルトA①	MⅠ層	Unknown seeds?	不明種実？		1	菌類2	縄文前期以降	オコ1-160
83	盛土	ベルトB⑫	MⅡ層	*Phellodendron amurense* Rupr.	キハダ	種子	1		縄文前期	オコ1-161
84	盛土	ベルトB⑧	MⅡ層下	Charcoal fraguments	炭化物		2		縄文前期	オコ1-162
85	盛土	ベルトC⑰	Ⅶ直上	Charcoal fraguments	炭化物		2		縄文前期	オコ1-164
86	盛土	ベルトC⑦	Ⅶ直上	Charcoal fraguments	炭化物		1		縄文前期	オコ1-165
87	盛土	ベルトD⑫	MⅠ層					虫瘤1	縄文前期以降	オコ1-166
88	盛土	ベルトB④	MⅡ層下	Charcoal fraguments	炭化物		2		縄文前期	オコ1-169
89	盛土	ベルトD⑥	MⅠ層	Charcoal fraguments	炭化物		2		縄文前期以降	オコ1-171
90	遺構	H-3①		Vitaceae	ブドウ科	種子(破片)	1		擦文後期	オコ1-173
91	遺構	H-3③		Araliaceae	ウコギ科	種子	3	菌類3	擦文後期	オコ1-175
				Charcoal fraguments	炭化物		7			
				Charcoal fraguments	炭化材	(細片)	1			
92	遺構	H-3④		*Vitis*	ブドウ属	種子	1		擦文後期	オコ1-176
						(破片)	2			
				Swida controversa Hemsl.	ミズキ	核	1			
93	遺構	H-3⑦		Vitaceae	ブドウ科	種子(破片)	1		擦文後期	オコ1-179
94	遺構	H-3⑩		Charcoal fraguments	炭化物		1		擦文後期	オコ1-182
95	遺構	H-3⑪		Gramineae	イネ科	果実	1		擦文後期	オコ1-183
				Charcoal fraguments	炭化物		4			
96	遺構	H-3⑬		Charcoal fraguments	炭化物		1		擦文後期	オコ1-185

表Ⅵ－12　種実同定結果（層位別）

層位	分類群 学名	分類群 和名	部位	個数	備考	想定時期
Ⅲ	Vitaceae	ブドウ科	種子(破片)	3		擦文後期
	Gramineae	イネ科	果実	1		
焼土	*Juglans ailanthifolia* Carr	オニグルミ	核　(破片)	6	菌類2	
	Phellodendron amurense Rupr.	キハダ	種子	1		
	Zanthoxylum	サンショウ属	種子(破片)	1		
	Vitis	ブドウ属	種子	3		
			(破片)	1		
	Gramineae	イネ科	果実	3		
	Charcoal fraguments	炭化物	種実以外	6		
H-3	*Vitis*	ブドウ属	種子	1	菌類3	
	Vitaceae	ブドウ科	種子(破片)	4		
	Swida controversa Hemsl.	ミズキ	核	1		
	Araliaceae	ウコギ科	種子	3		
	Gramineae	イネ科	果実	1		
	Charcoal fraguments	炭化物	種実以外	14		
ⅢI層	*Juglans ailanthifolia* Carr	オニグルミ	核　(破片)	112	菌類20	縄文前期以降
	Phellodendron amurense Rupr.	キハダ	果実(破片)	2	虫瘤1	
	Phellodendron amurense Rupr.	キハダ	種子	1		
			(破片)	3		
	Vitis	ブドウ属	種子(破片)	1		
	Swida controversa Hemsl.	ミズキ	核	2		
			(破片)	1		
	Rubiaceae	アカネ科	種子	1		
	Unknown seeds	不明種実		6		
	Unknown seeds?	不明種実？		3		
	Charcoal fraguments	炭化物	種実以外	22		
ⅢII層	*Juglans ailanthifolia* Carr	オニグルミ	核　(破片)	10	菌類32	縄文前期
	Phellodendron amurense Rupr.	キハダ	果実	1		
			(破片)	7		
	Phellodendron amurense Rupr.	キハダ	種子	5		
			(破片)	1		
	Vitaceae	ブドウ科	種子(破片)	1		
	Swida controversa Hemsl.	ミズキ	核	1		
	Charcoal fraguments	炭化物		22		
Ⅶ層	Unknown seeds	不明種実	種実以外	2	菌類22	
	Charcoal fraguments	炭化物	種実以外	25		
覆土					土塊1	
骨片混土	*Phellodendron amurense* Rupr.	キハダ	種子	1	菌類3	
			(破片)	2		

表Ⅵ－13　種実同定結果（時期別）

想定時期	分類群 学名	分類群 和名	部位	個数	備考
擦文後期	*Juglans ailanthifolia* Carr	オニグルミ	核　(破片)	6	菌類5
	Phellodendron amurense Rupr.	キハダ	種子	1	
	Zanthoxylum	サンショウ属	種子(破片)	1	
	Vitis	ブドウ属	種子	4	
			(破片)	3	
	Vitaceae	ブドウ科	種子(破片)	5	
	Swida controversa Hemsl.	ミズキ	核	1	
	Araliaceae	ウコギ科	種子	3	
	Gramineae	イネ科	果実	5	
	Charcoal fraguments	炭化物		20	
縄文前期以降	*Juglans ailanthifolia* Carr	オニグルミ	核　(破片)	112	菌類20
	Phellodendron amurense Rupr.	キハダ	果実(破片)	2	
			種子	1	
			種子(破片)	3	
	Vitis	ブドウ属	種子(破片)	1	
	Swida controversa Hemsl.	ミズキ	核	2	
			核　(破片)	1	
	Rubiaceae	アカネ科	種子	1	
	Charcoal fraguments	炭化物		31	
縄文前期	*Juglans ailanthifolia* Carr	オニグルミ	核　(破片)	10	土塊1
	Phellodendron amurense Rupr.	キハダ	果実	1	虫瘤1
			果実(破片)	7	菌類57
			種子	6	
			(破片)	3	
	Vitaceae	ブドウ科	種子(破片)	1	
	Swida controversa Hemsl.	ミズキ	核	1	
	Charcoal fraguments	炭化物		49	

1　オニグルミ核破片
(No.6 F-6 焼土)
1.0mm

2　キハダ果実
(No.18 ベルトD⑬ ⅢII層)
1.0mm

3　キハダ種子
(No.6 F-6 焼土)
1.0mm

4　サンショウ属種子
(No.3 F-9 焼土)
1.0mm

5　ブドウ属種子
(No.92 H-3④)
1.0mm

6　ミズキ核
(No.40 ベルトA⑩ ⅢII層中)
1.0mm

7　ウコギ科種子
(No.91 H-3③)
0.5mm

8　イネ科果実
(No.6 F-6 焼土)
0.5mm

図Ⅵ－13　オコッコ１遺跡の炭化種実

６　金属製品の成分分析および保存処理

パリノ・サーヴェイ株式会社

（１）はじめに

北海道厚真町に所在するオコッコ１遺跡から出土した金属製品について、金属考古学的初見を得ることを目的として成分分析を実施した。また、他金属遺物の保存処理を実施した。

（２）成分分析

資料はオコッコ１遺跡から出土した袋状鉄斧（オコ１-５）および鏨（オコ１-７）の２点である。分析試料は、表面全体が茶褐色の鉄銹化物に覆われており、刃部から分析試料を採取した。

（３）分析方法

a）マクロ組織

顕微鏡埋込み試料の断面を、低倍率で撮影したものを指す。当調査は顕微鏡組織よりも、広範囲で組織の分布状態、形状、大きさなどが観察できる利点がある。

b）顕微鏡組織

金属部の組織観察、非金属介在物の調査などを目的とする。

試料観察面を設定・切り出し後、試験片は樹脂に埋込み、エメリー研磨紙の＃150、＃240、＃320、＃600、＃1000、及びダイヤモンド粒子の３μmと１μmで鏡面研磨した。また観察には金属反射顕微鏡を用い、特徴的・代表的な視野を選択して写真撮影を行った。

c）化学成分分析、EPMA（Electron Probe Micro Analyzer）調査

日本電子㈱製 JXA-8800RL（波長分散型５チャンネル）にて含有元素の定性・定量分析を実施した。試料電流は2.0×10-８アンペア、ビーム径３μm、補正法はZAFに従った。

反射電子像（COMP）は、調査面の組成の違いを明度で表示するものである。重い元素で構成される個所ほど明るく、軽い元素で構成される個所ほど暗い色調で示される。これを利用して、各相の組成の違いを確認後、定量分析を実施している。また各元素の分布状態を把握するため、反射電子像に加え、特性X線像の撮影も適宜行った。

（４）結果

a）マクロ組織

図版Ⅵ－14に袋状鉄斧（オコ１-５の刃部（両刃）先端の断面写真を示した。写真左上の明灰色部の素地はベイナイト（Bainite)、他の暗灰色部はマルテンサイト（Martensite）組織であった。この袋状鉄斧は鍛打成形後、刃先が部分焼き入れ（水冷）されたと判断される。

図版Ⅵ－15に鏨の刃部（片刃）先端の断面写真を示した。素地（明白色）部分はほとんど炭素を含まないフェライト単相の組織であった。一方刃裏（写真右側）に薄く、やや炭素量の高い領域が確認される。このように刃裏に薄く高炭素域（硬質部）があると、使用による摩耗または研ぎ減りなどがあっても刃先は硬さが保たれる。片刃の利器として合理的な構造に作られている。

b）顕微鏡組織

・袋状鉄斧（オコ１-５）

図版Ⅵ－14-②③は、①の左上寄りの明灰色部の拡大である。白色部はフェライト（Ferrite：α鉄)、素地はベイナイトであった。金属組織は微細で、比較的低い温度で鍛打成形されたと考えられる。また炭素含有率は0.15％程度の低炭素鋼と推定される。一方図版１-③④は①の右上寄り、⑤⑥は刃部先端の拡大で、上述したようにマルテンサイト組織が確認された。

・鏨（オコ１-７）

図版Ⅵ－15-②③は素地部分の拡大である。上述したようにフェライト単相の組織が確認された。一方④～⑥は刃裏（①の右側表層）の拡大である。素地は白色のフェライトで、黒色層状部はパーライト（Peraelite）、褐色部はマルテンサイトであった。この部分の炭素含有率は0.1～0.15％程度で、パーライト変態点（727℃）以下の領域から、焼き入れ（水冷）からされたと判断される。また刃部先端側の方がパーライトの割合が低く、マルテンサイトの割合が高いため、先端部の冷却速度がより速かったと推定される。

c）化学組成分析、EPMA 調査

・袋状鉄斧（オコ１-５）

炭素（C）0.49％、硫黄（S）0.017％であった。炭素量は上述の金属組織や硬度値から推定されるより高い値となった。錆の影響が無いよう、表面を除去して分析したが、試料断面（図版Ⅵ－14-①）をみても、内部に腐食（錆化）した箇所があり、その影響を受けた可能性が考えられる。

鍛打に伴い細長く展伸した、鉄中非金属介在物の反射電子像（COMP）を図版Ⅵ－14-⑧に示した。明灰色粒状結晶の定量分析値は100.9％ FeO（分析点１）であった。ウスタイト（Wustite：FeO）と推定される。淡灰色柱状結晶の定量分析値は69.3％ FeO－27.6％ SiO2（分析点２）であった。ファヤライト（Fayalite：２FeO・SiO2）と推定される。また微細な暗灰色部の定量分析値は44.9％ FeO－30.4％ P2O5－8.0％ SiO2－6.3％ CaO－5.0％ K2O（分析点３）で、鉄－リン酸を主成分とする化合物であった。

もう１箇所、鉄中非金属介在物の組成を調査した。図版Ⅵ－14-⑨に反射電子像（COMP）を示した。定量分析値は66.2％ SiO2－16.0％ Al2O3－6.7％ CaO－3.9％ MgO－3.2％ K2O－2.0％ Na2O－4.2％ FeO（分析点４）であった。非晶質硅酸塩である。

・鏨（オコ１-７）

炭素（C）0.04％、硫黄（S）0.002％と低値であった。上述したように、素地（地金）はフェライト単相の軟鉄であり、金属組織観察の結果と符合する値といえる。

鍛打に伴い細長く展伸した、鉄中非金属介在物の反射電子像（COMP）を図版Ⅵ－15-⑧に示した。明灰色粒状結晶の定量分析値は102.5％ FeO（分析点５）であった。ウスタイト（Wustite：FeO）と推定される。淡灰色柱状結晶の定量分析値は70.2％ FeO－31.2％ SiO2（分析点６）であった。ファヤライト（Fayalite：２FeO・SiO2）と推定される。また素地部分の定量分析値は34.9％ SiO2－21.0％ Al2O3－6.1％ CaO－5.6％ K2O－3.4％ Na2O－2.9％ P2O5－28.0％ FeO（分析点７）であった。非晶質硅酸塩である。

もう１箇所、鉄中非金属介在物の組成を調査した。図版Ⅵ－15-⑨に反射電子像（COMP）を示した。定量分析値は59.5％ SiO2－13.9％ Al2O3－3.6％ CaO－1.6％ MgO－2.7％ K2O－1.3％ Na2O－19.9％ FeO（分析点８）であった。非晶質硅酸塩である。

（５）考察

オコッコ遺跡から出土した鉄斧２点はともに熱間で鍛打成形後、熱処理で刃先が硬化された製品であった。

両刃の袋状鉄斧（オコ１-５）は、0.15％程度の低炭素鋼材を比較的低い温度で鍛打加工後、刃先に焼き入れ（水冷）がされている。また片刃の鏨（オコ１-７）は素地がほとんど炭素を含まない軟鉄で、刃裏にやや炭素量の高い材（0.1～0.15％程度）を鍛接した後に、焼き入れ（水冷）されている。それぞれの刃先に適した材料の選択、鍛打加工～熱処理が行われた製品といえる。

ただしともに硬質部も炭素量が高くはなく、刃先も工具としてはかなり軟質であった。研ぎ減りや腐食（錆化）伴いより硬質な部分が失われたものか、鉄器の用途等から硬さよりも靱性（粘り強さ）が優先されたものかは、地域の調査例を蓄積して、比較検討していく必要がある。

鉄斧断面の非金属介在物の組成を調査したところ、ともに鉄酸化物（Wustite：FeO）とファヤライト（Fayalite：２FeO・SiO2）などの鉄珪酸化合物が晶出するものと、非晶質硅酸塩系のものが確認された。これらは鉄素材を折り返し鍛錬した時、表面に生じた鉄酸化物と、鉄素材の酸化防止のため表面に塗られたり、鍛接剤に用いられた粘土汁や灰によるものと推定される。

（６）保存処理

a）資料

資料はオコッコ１遺跡から出土した金属遺物 20 個体（オコ１-１～20）である。処理前、処理後の写真を図版Ⅵ－16・17 に、X 線写真を図版Ⅵ－18・19 に示す。

b）処理方法

ⅰ）処理前調査

保存処理を行う前の写真撮影を行うとともに、遺物本来の形状や内部状態の把握のために X 線透過撮影を行った。各遺物の撮影条件は下記で実施した。

電圧　110KV～150KV、電流　５mA、照射時間　15 秒間～30 秒間、照射距離　１m

なお、オコ１-１、２、４の３資料については、２点以上の製品が付着している可能性が指摘されていた。X 線透過写真撮影後、埋蔵文化財センター担当者にデータを送信し確認を行ったが、２点以上の製品の付着は確認できなかったため、１点として処理を実施した。

ⅱ）一次クリーニング・脱塩準備：エアーブラシ・メス・ニッパー・グラインダーなどを用いて錆及び表面に付着した土などを除去した。

ⅲ）脱塩処理および脱アルカリ処理：アルカリ溶液による脱塩処理、脱アルカリ処理を行った後、錆の安定化を図るため、ベンゾトリアゾール１％エタノール溶液に一日浸漬させ、錆の安定化処理を行い、その後約 24 時間乾燥を行った。

ⅳ）２次クリーニング：エアーブラシ・メス・ニッパー・グラインダーなどを用いて錆及び表面に付着した土などを除去した。

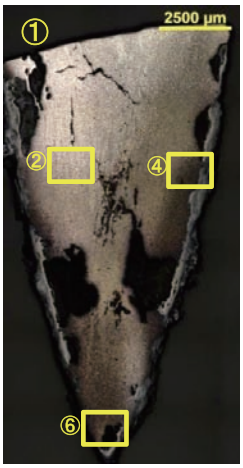
ⅴ）樹脂含浸：アクリル樹脂の減圧含浸および塗布を実施した。

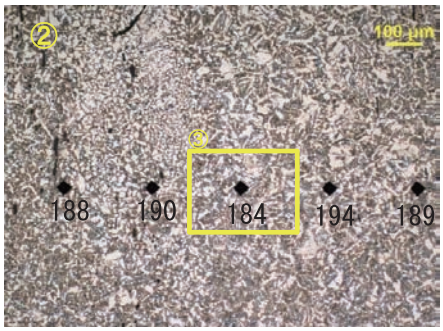
ⅵ）接合：袋状鉄斧であるオコ１-５とオコ１-８には接合関係が認められため、埋蔵文化財センター担当者に確認の上、接合を実施した。接合にはエポキシ系接着剤を使用した。

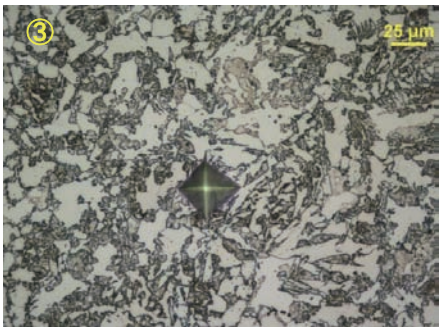
ⅶ）処理後調査：処理後の写真を撮影、状態の記録を実施し、脱酸素剤とともにフィルムパックで密封した。

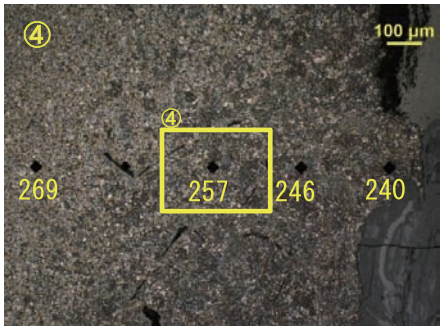
オコ1-5
袋状鉄斧
①ﾏｸﾛ組織（両刃）
②③：左上、針状ﾌｪﾗｲﾄ・ﾍﾞｲﾅｲﾄ、硬度:184Hv～194Hv（200ｇｆ）、
④⑤：右側表層、低炭素ﾏﾙﾃﾝｻｲﾄ、硬度:240Hv～269Hv（200ｇｆ）、
⑥⑦刃先、低炭素ﾏﾙﾃﾝｻｲﾄ、硬度:240Hv～260Hv（200ｇｆ）

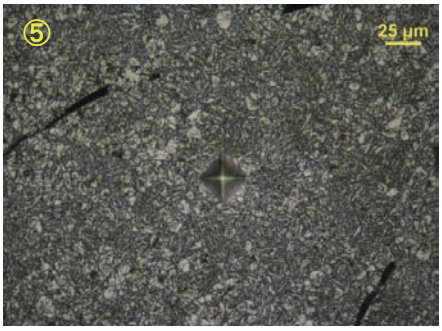
試料採取箇所

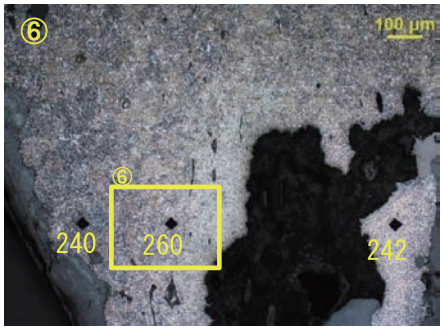


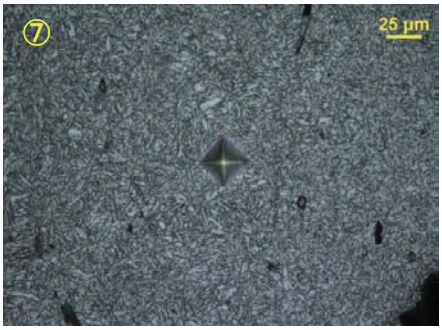


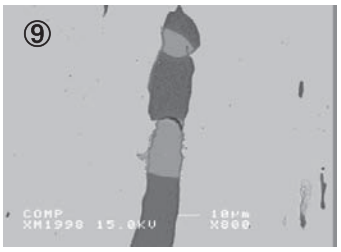


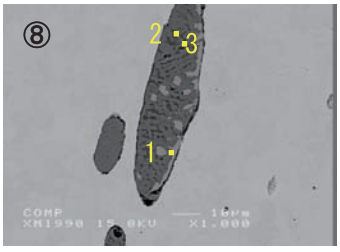


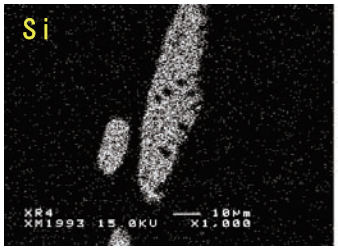


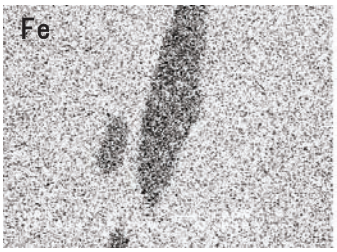


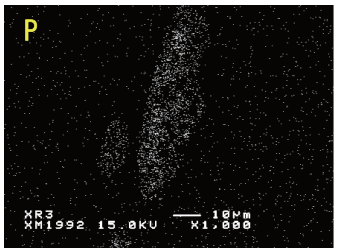












鉄中非金属介在物の反射電子像（COMP）・特性X線像

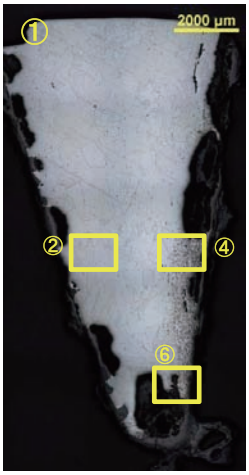
定量分析値

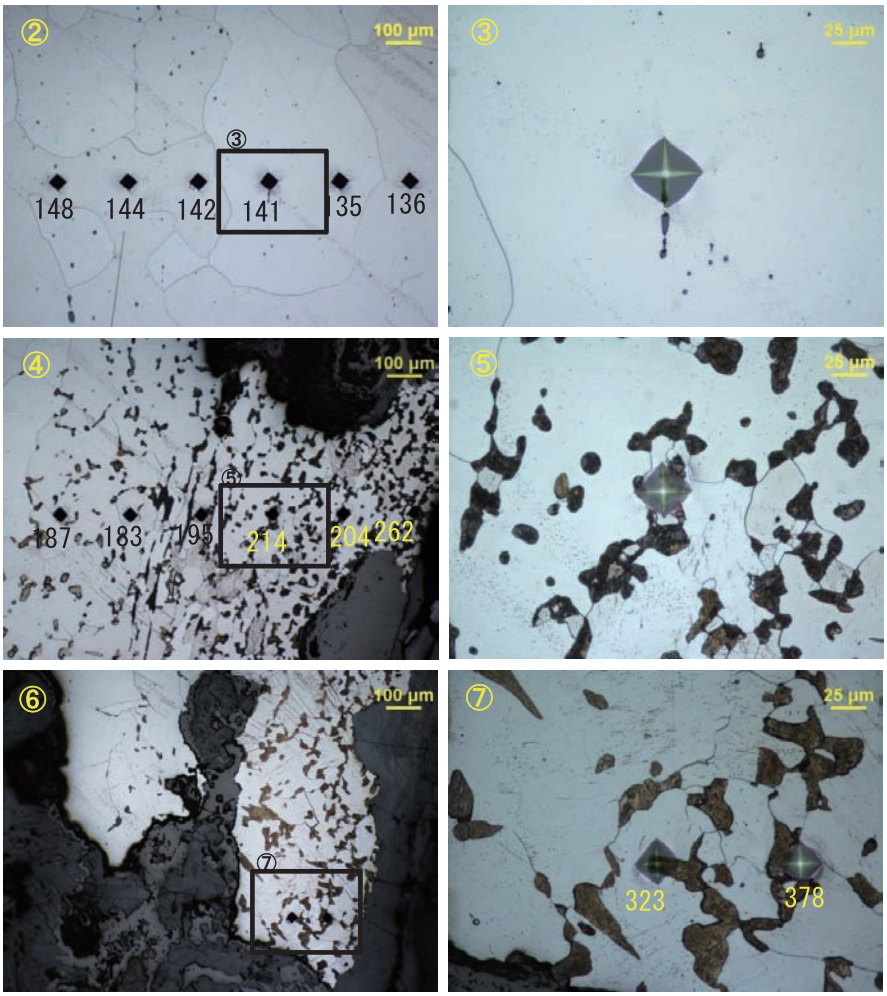
Element	1	2	3	4
Na_2O	0.022	0.070	2.497	2.022
MgO	0.139	1.658	1.370	3.909
Al_2O_3	0.481	1.949	2.851	15.999
SiO_2	0.634	27.576	7.974	66.178
P_2O_5	0.046	2.001	30.355	0.047
S	–	0.009	0.178	0.015
K_2O	0.029	0.169	4.959	3.213
CaO	–	0.147	6.346	6.656
TiO_2	0.719	0.063	0.182	0.944
Cr_2O_3	0.029	0.008	0.004	–
MnO	0.047	0.132	0.132	0.257
FeO	100.856	69.327	44.880	4.247
CuO	0.020	0.020	0.001	0.029
V_2O_3	0.169	–	–	0.032
As_2O_5	–	0.023	0.009	–
Total	103.191	103.152	101.738	103.548

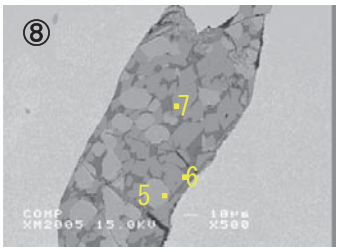
図Ⅵ－14　袋状鉄斧（オコ１－５）の顕微鏡組織・EPMA 調査結果

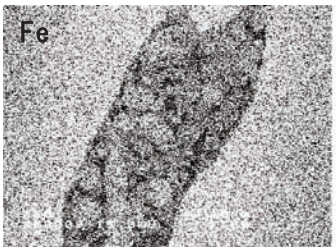
オコ1-7
鏨
①ﾏｸﾛ組織（片刃）
②③：左側、ﾌｪﾗｲﾄ単相、硬度：135Hv～148Hv（200ｇｆ）、
④⑤：右側、ﾌｪﾗｲﾄ・ﾊﾟｰﾗｲﾄ・ﾏﾙﾃﾝｻｲﾄ、硬度：187Hv～262Hv（200ｇｆ）、
⑥⑦刃先より（右側）、ﾌｪﾗｲﾄ・ﾊﾟｰﾗｲﾄ・ﾏﾙﾃﾝｻｲﾄ、硬度：323Hv、378Hv（200ｇｆ）

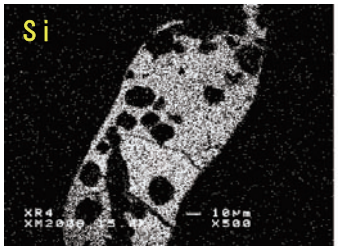
試料採取箇所

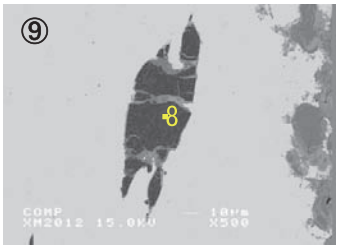


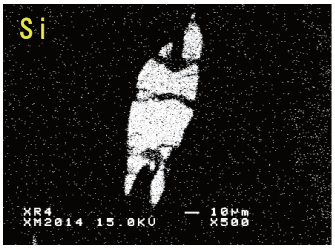












鉄中非金属介在物の反射電子像（COMP）・特性X線像

定量分析値

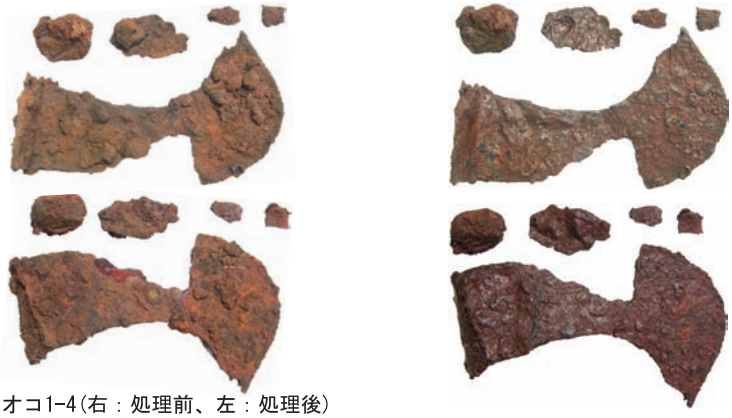
Element	5	6	7	8
Na_2O	–	0.038	3.353	1.285
MgO	0.032	2.007	0.050	1.546
Al_2O_3	0.474	0.180	21.013	13.877
SiO_2	0.289	31.159	34.948	59.528
P_2O_5	–	0.120	2.854	0.012
S	0.010	0.006	0.178	0.020
K_2O	0.022	–	5.551	2.650
CaO	–	0.161	6.084	3.582
TiO_2	0.570	–	0.198	1.103
Cr_2O_3	0.103	–	0.041	0.033
MnO	–	–	0.054	0.195
FeO	102.473	70.199	27.969	19.781
CuO	–	–	0.022	0.019
V_2O_3	0.025	0.054	–	0.092
As_2O_5	–	0.023	–	0.029
Total	103.998	103.947	102.315	103.752

図Ⅵ－15　鏨（オコ１－７）の顕微鏡組織・EPMA 調査結果

オコ1-1（右：処理前、左：処理後）

オコ1-2（右：処理前、左：処理後）

オコ1-3（右：処理前、左：処理後）



オコ1-4（右：処理前、左：処理後）

オコ1-5（処理前）

オコ1-8（処理前）

オコ1-5＋8（処理後）

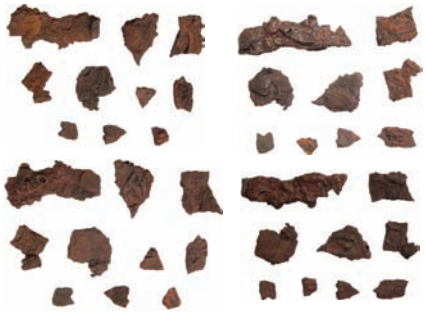
オコ1-6（右：処理前、左：処理後）

オコ1-7（右：処理前、左：処理後）

オコ1-9（右：処理前、左：処理後）

0　10cm

図Ⅵ－16　保存処理前・処理後遺物写真（1）



オコ1-10(右：処理前、左：処理後)

オコ1-11(右：処理前、左：処理後)

オコ1-12(右：処理前、左：処理後)

オコ1-13(右：処理前、左：処理後)

オコ1-14(右：処理前、左：処理後)

オコ1-15(右：処理前、左：処理後)

オコ1-16(右：処理前、左：処理後)

オコ1-17(右：処理前、左：処理後)

オコ1-18(右：処理前、左：処理後)

オコ1-19(右：処理前、左：処理後)

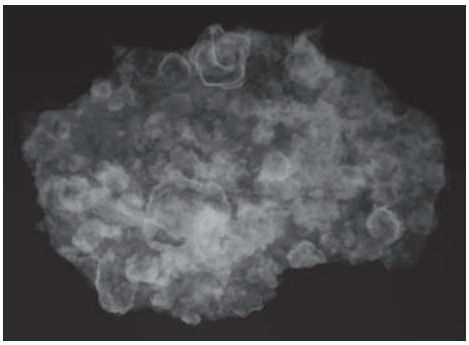
オコ1-20(右：処理前、左：処理後)

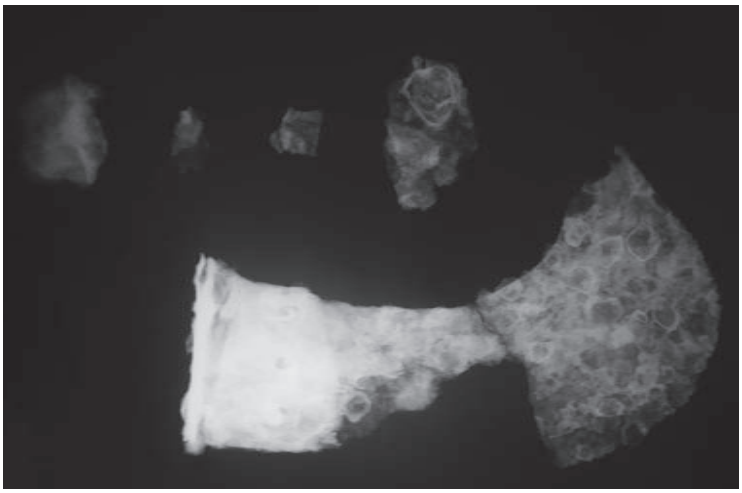
0　10cm

図Ⅵ－17　保存処理前・処理後遺物写真（２）

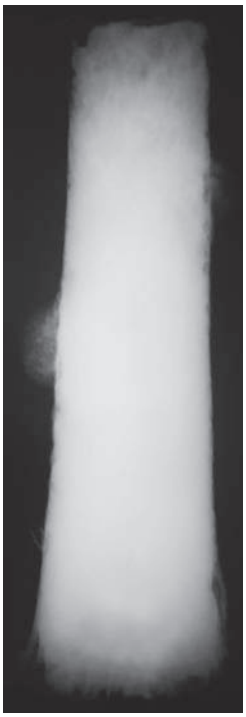
オコ1-1

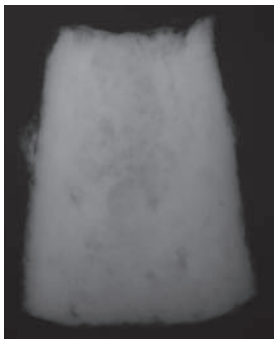
オコ1-2

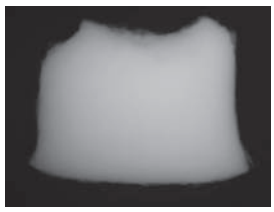

オコ1-3

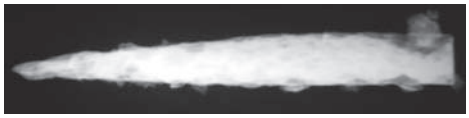

オコ1-4

オコ1-5


オコ1-7

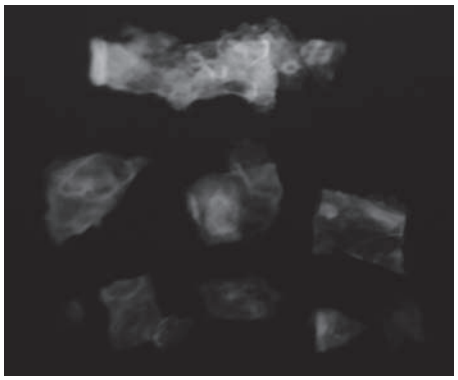

オコ1-8

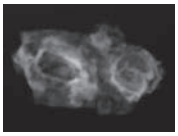

オコ1-9

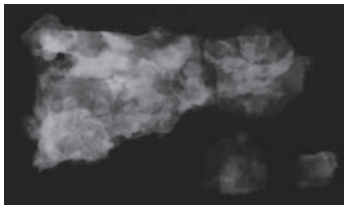

オコ1-6

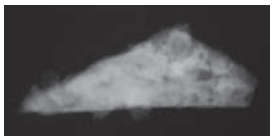
0　5㎝

図Ⅵ－18　Ｘ線写真（１）


オコ1-10


オコ1-11


オコ1-12


オコ1-13

オコ1-14

オコ1-15

オコ1-16

オコ1-17

オコ1-18

オコ1-19

オコ1-20

図Ⅵ－19　Ｘ線写真（２）

Ⅶ章　総　括

1　はじめに

本遺跡の調査成果から、遺構に関して二項目、擦文文化期の平地住居跡、縄文時代前期前半の盛土遺構について。遺物に関して三項目、Ⅱ群ａ類土器の胎土、石斧製作状況、北海道式石冠について、合わせて五つの項目について所見を述べる。

2　遺構

（1）擦文文化期の平地住居跡について

a）平地住居跡の類例

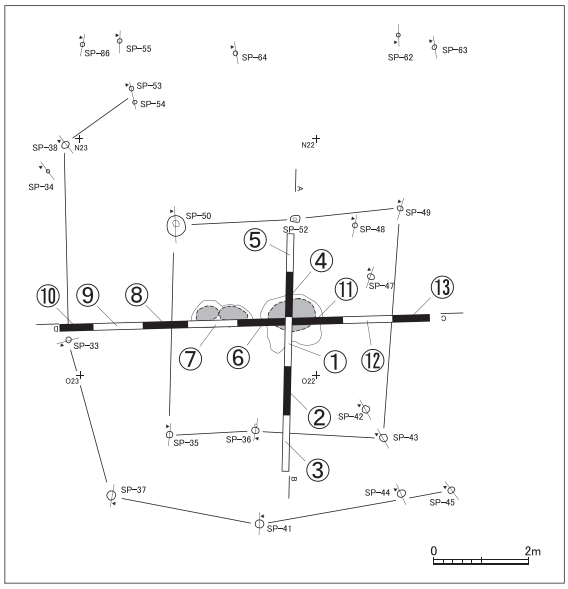
本遺跡の平地住居跡４軒（H-１～４）の時期は、伴う土器等から擦文後期とみられる。擦文文化期の平地住居跡様の遺構は、町内ではオニキシベ４・ショロマ４・ニタップナイ・上幌内３遺跡でも確認されている。オニキシベ４遺跡の報告では千歳市イヨマイ７・恵庭市茂漁４遺跡も紹介され、さらに札幌市 K528 遺跡・千歳市キウス５遺跡にもあり総数で 18 軒認めることができた。

一覧を下表にまとめた。最も古いのはキウス５遺跡の SH-１で、共伴土器から８世紀の前葉とされる。札幌市 K528 遺跡はやや時期が下る９世紀前半～10 世紀前半である。厚真町内の検出例はこれに続くもので、炭素年代測定結果は 10～13 世紀までの年代である。各遺跡にそれぞれ特色がある。ショロマ４は平面形に沿って全周しない溝を伴う。イヨマイ７・K528 遺跡は明らかな内傾（外踏ん張り）する柱がある。掘り込みは茂漁４で明瞭に、オニキシベ４・オコッコ１遺跡（H-４）でわずかに認められている。共通する点は、概ね長方形の平面形、炉跡は長軸線上中心を外して２か所となる例が多いことである。

表Ⅶ－１　擦文文化期とされる平地住居様遺構

市町村	遺跡名	遺構名	規模(m)	炉の長軸方位	特徴	時期推定の根拠	フローテーション(炉跡のサンプル)
恵庭市	茂漁4	4号住居跡	2	東西	炉跡よりサケ椎骨多数	出土土器	シカ・サケ・鳥類
厚真町	ショロマ	ⅢH－		南北	全周しない周溝あり	炭素年代 930±20yrBP yrBP	シカ・サケ・コイ・ウグイ キビ・クマシデ・コナラ・キハダ・エゴマ・アワ・オオムギ
厚真町	上幌内	ⅢH-	-	北西―南東	住居内に土坑あり	炭素年代 yrBP yrBP	哺乳綱・コイ・フナ・サケ目 キハダ
厚真町	オニキシベ	ⅢH－0	8	北東―南西	僅かな掘り込みありか 炉は2か所1対で 回付け 替え	炭素年代 850±20yrBP yrBP	シカ・サケ・コイ タデ・ササ・キハダ・モクレン・コナラ・キビ
厚真町	オニキシベ	ⅢH－02		北東―南西	僅かな掘り込みありか	炭素年代 880±20yrBP yrBP	シカ・サケ・コイ・イトウ？ ヒエ・キビ・シソ
厚真町	ニタップナイ	ⅢH-0		東西	南西角に集石を伴う	炭素年代 yrBP	サケ・コイ科 クルミ・ブドウ
千歳市	キウス5	SH-		東西	J字状の鉄製品を伴う 北埋調報	出土土器 8世紀前葉	シカ・サケ・コイ科 イネ・ヒエ・ブドウ属・クルミ属
千歳市	イヨマイ7	ⅠH-2		南北	4×2間・外踏ん張り 地床炉×2	炭素年代 yrBP	タデ科・ケシ科・クルミ
千歳市	イヨマイ7	ⅠH-	-	ほぼ南北	外踏ん張り 地床炉×2	炭素年代 yrBP	クルミ
千歳市	イヨマイ7	ⅠH-	-	ほぼ南北	外踏ん張り・地床炉　2 焼失家屋	炭素年代 yrBP yrBP	
札幌市	K528	第8号掘立柱建物跡	約4×3.5	北西―南東	外周する溝を確認 噴砂で壊され柱穴列はや や不明瞭	検出層位(4文化層) 9世紀後半～ 10世紀前半	ニワトコ・ブドウ・クルミ属
札幌市	K528	第4号掘立柱建物跡	約4.5×	東西	外踏ん張り・地床炉　2	出土土器 9世紀前半	サケ・チョウザメ・ニシン・鳥綱・動物骨 アワ・キビ・ブドウ・クルミ属
札幌市	K528	第6号掘立柱建物跡	約5.5×	東西	外踏ん張り・地床炉　2	出土土器 9世紀前半	アワ・キビ・クルミ属
札幌市	K528	第7号掘立柱建物跡	約4.5×4.5	北西―南東	正方形？・地床炉	出土土器 9世紀前半	アワ・キビ・クルミ属
厚真町	オコッコ1	H－		北東―南西	地床炉×2・集石×2	出土土器	シカ
厚真町	オコッコ1	H－2		東西	地床炉×3・集石×2 土器集中×1	検出状況	哺乳綱 イネ・キハダ・ブドウ・オニグルミ
厚真町	オコッコ	H－		南北	地床炉×3・集石×	出土土器	哺乳綱・サケ椎骨×1(炉跡F-1) ブドウ①、④、⑦区、イネ⑪区、ウコギ③、ミズキ④区、ウグイ⑤区
厚真町	オコッコ	H－		南北	地床炉×2・集石×2	出土土器	哺乳綱・サケ・ウグイ クルミ

炉跡土壌のフローテーション選別結果に着目する。本遺跡H-３の土壌採取にあたっては、床面の利用状況を検討するため、土層観察用のベルトの床面相当層を１ｍ間隔で採取した。図Ⅶ－１はその位置図である。図中の丸数字が表Ⅳ－７の発掘区に対応する。結果は表Ⅳ－１に示した。炉跡を中心として広く哺乳綱（多くがシカとみられる）の骨片が認められた。炉跡周辺の③、④区、⑪区、南東に接する集石S-６からはブドウ・イネ・ウコギ等の炭化種実が、魚骨は炉跡F-１からサケ椎骨１点のみ出土したが、SP-52覆土や⑤区を中心とした炉の北側に、ウグイ２点・サケ４点以上の椎骨が集中している。



図Ⅶ－１　H-３土壌採取位置図

炉の周囲に広く哺乳綱が、炉周辺からは炭化種実、獣骨が、炉の北側では魚骨と、それぞれ検出位置が若干異なるといえる。

本遺跡全体をみると、哺乳綱はH-１～４の全てで検出されるが、H-４でサケ・ウグイの魚骨、クルミの炭化種実の両者が認められ、H-１、２の炉跡は魚骨を欠き、H-２のみイネ・キハダ・クルミなどの炭化種実が検出されている。H-３は先述のように炉跡とその周辺からブドウ・イネ等の炭化種実が、サケやウグイの魚骨は炉跡よりも北に位置する場所から多く検出されている。これらの炉跡は規模の大小はあるが、灰層がないことなどは共通しており外観上の特徴に特段の差異はない。また土壌試料は全て同じ方法で処理されている。しかし結果として得られた遺存体種には若干の差異が認められた。

表Ⅶ－１の表を元に他遺跡例をみてみる。本遺跡例のように、遺跡内でも検出内容が異なる例が札幌市K528遺跡でも認められる。第４号掘立柱建物跡では、サケ・チョウザメ・ニシンの魚骨、鳥骨や不明動物骨のほか、アワ・キビ・ブドウ・クルミ属の炭化種実が得られているが、６・７号からはアワ・キビ・クルミ属の炭化種実のみである。

このほか、サケ椎骨が突出して検出される例がある。茂漁４遺跡である。この浅い掘り込みの住居は道東地方の擦文文化終末期の「B類竪穴」に類似する。出土遺物が少ないこと、炉跡から大量にサケの骨が出土していること、鮭漁に関わる建物が想定されることも一致している（前田1985）。時期は佐藤編年Ⅳ期後半（12世紀以降か）とされるものである。

まとめると、炉跡から魚骨、炭化種実、哺乳類の３種全てが検出される例、魚骨を欠く例、逆に魚骨が卓越する例などいくつかの種類がある。これは単に同定を行っていないことや、試料採取層位の差の可能性もあるが、炉跡の機能差を表しているのかもしれない。炉跡の灰層の有無による時期差（阿部2017）、廃用祭祀による削平（鈴木2000）が影響を与えている可能性も考慮しつつ、今後このような炉跡の機能差の解明を意図した調査・分析を行う必要があると考えている。

（２）縄文時代前期前半の盛土遺構について

a）本遺跡の特徴

本遺跡で確認した「盛土遺構」は以下のようなものである。

①盛土層であるＭ層は、自然堆積層であるＭⅠ層と、人為的再堆積層であるＭⅡ層に分かれる。出

土遺物からＭＩ層は縄文時代前期前半から晩期中葉までの堆積であり、ＭⅡ層は段丘頂部を削平することにより生じた堆積とみられ、前期前半に限定できる。盛土層は段丘の南北両斜面にあり、方位を冠して北盛土、南盛土とし、さらに削平された段丘頂部は削平部分とした。

②出土遺物の中で最も多いのは砂岩礫で総点数約 12 万点の内うち 10 万点を占める。南北盛土での主要な遺物の偏りをみると、土器は北盛土に偏在し、石器のうち、つまみ付きナイフ、北海道式石冠、石錘はやや南盛土に多いという傾向がある。

b）炭素年代測定結果との整合性

盛土遺構の形成過程を知るため、計 18 件の試料について放射性炭素年代測定を行っている。その内訳は盛土とその下位検出の遺構覆土の炭化材５件、盛土中のシカ四肢骨片４件、Ⅱ群ａ２Ｓ類土器付着炭化物１件、盛土中から出土した炭化クルミ核８件である。

結果、18 件中 15 件が補正炭素年代 5,600～5,050yrBP の間の値となり、前期前半として妥当な年代が得られた。外れた値となった３件、ベルトＣ⑦区、ベルトＤ⑥・⑬区について考察する。ベルトＣの値 3,430±25yrBP は、縄文時代後期中葉で、出土遺物からは手稲式の時期である。当区に遺構があったか、攪乱を受けた可能性がある。ベルトＤの２件は 1,980±20、1,935±20yrBP と、ともに続縄文時代の値を示している。関連する遺物としては、１個体の土器（図Ⅳ－17-９）や、アメリカ式石鏃（図Ⅴ－55-50）がある。しかし、南盛土でほぼ同一層のシカ四肢骨、炭化木片の分析結果は前期前半の値でまとまっており、層位の誤認や遺構の存在は考えがたい。原因は不明である。

その他の測定結果は、土器付着炭化物の 5,600 年がやや古く出ている以外は 5,300～5,000 年で、静内中野式～加茂川式の値として妥当である。これらの値の傾向を二つ指摘しておく。

一つに値は全て北盛土が古く、南盛土が新しいことである。これは土器の出土状況、Ⅱ群ａ２類（北盛土に多い）とⅡ群ａ３類（南盛土にやや多い）とも整合する。二つ目は北盛土の炭化クルミを対象とした測定結果（OK １-11～14）において、周縁から中心に向かい新しい値となったことである。竪穴住居 H-５・６の堆積状況でも確認できるように、北盛土斜面中位検出の遺構がより上位の削平部分を起源と想定されるＭⅡ層の堆積で覆われる事実と整合的である。

調査所見と炭素年代測定結果を総合すると、北斜面遺構の造営→削平による北盛土造営→削平による南盛土造営ということになる。しかし、年代測定試料は限られたものであり、調査結果と整合しない値もあることから、確実なことは言えない。

c）本遺跡と同時期の盛土遺構

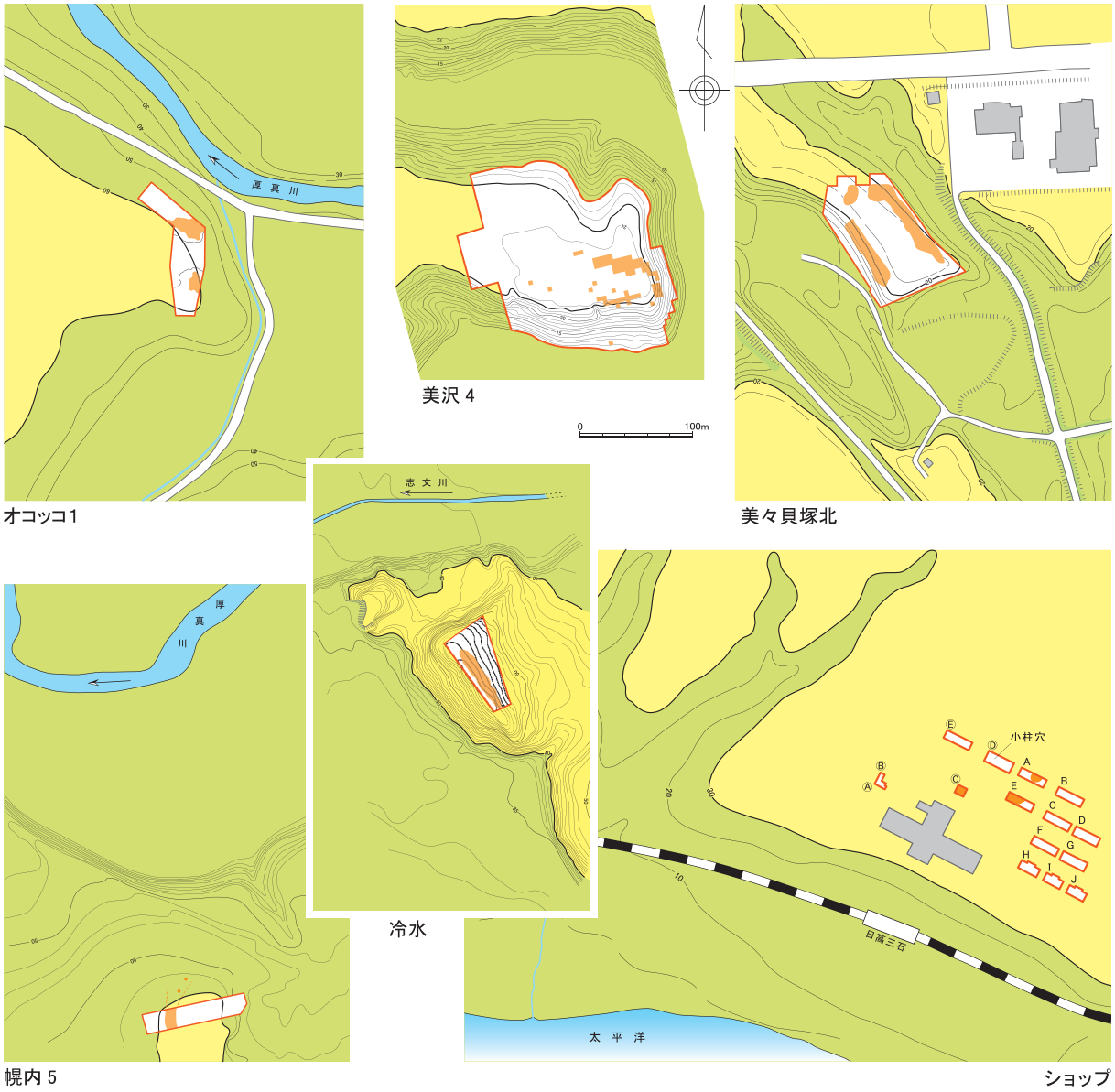
縄文時代前期前半の盛土遺構は、類似する遺構も含めると町内では幌内５遺跡、近隣では千歳市美々貝塚北遺跡、苫小牧市美沢４遺跡（報告書では貝塚のみ）、岩見沢市冷水遺跡（報告書では焼土層）、新ひだか町ショップ遺跡等がある。いずれも本遺跡と同様、静内中野式前後の時期を中心とする遺跡である。これらの遺跡について、地形利用と出土遺物の傾向をみてみたい。

①地形利用について

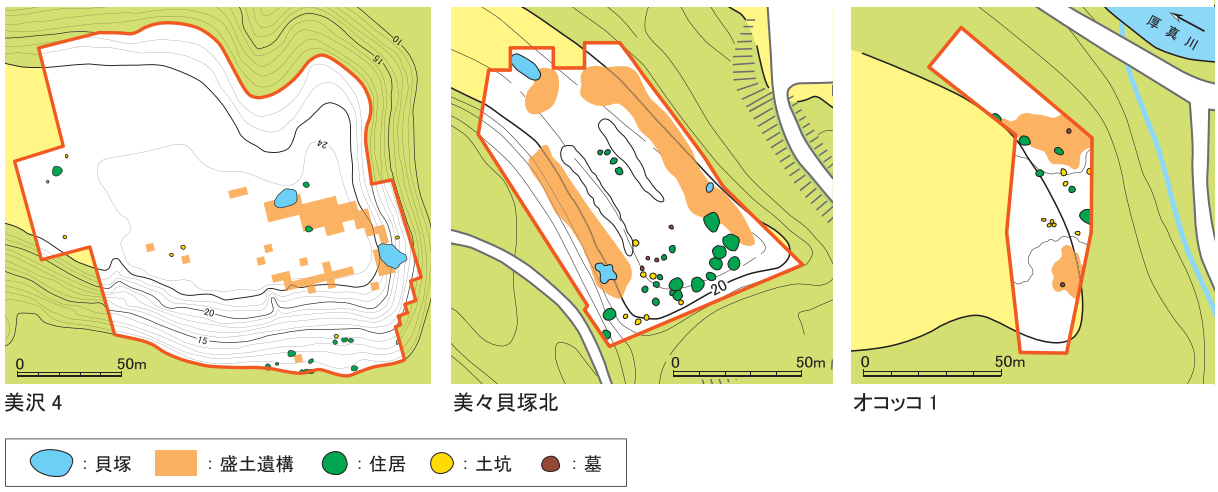
図Ⅶ－２はそれぞれの遺跡における地形と盛土遺構を比較した図である。地形を相対的な高所と低所に分け、遺構は種ごとに色分けした。報告書から作成し、スケール・方位を合わせた。

図Ⅶ－２下段に盛土の全容がわかる美々貝塚北遺跡、美沢４遺跡例を示した。美々貝塚北遺跡は平成５～10（1993～1998）年に調査が行われた。標高 20～21m の河岸段丘上、舌状に南側に突き出る地形。盛土遺構は帯状の東西盛土各１か所と小規模な北側盛土の計３か所で、舌状の台地を区分するように分布している。美沢４遺跡は昭和 54（1979）年に調査が行われた。標高 24m 前後の舌状台地に立地する。報告書に盛土の記載はないが、調査データから１㎡当り 10 点以上の遺物出土のある発

各遺跡の盛土遺構と地形



盛土遺構と他遺構の位置比較



図Ⅶ－２　各遺跡の地形と「盛土遺構」

掘区を盛土とみなしたものである。

この二遺跡の盛土遺構は、舌状台地の伸長方向を二分する形で伸び、両遺跡では方向が逆向きとはなるが、全体が「U」字に分布している。ともに貝塚がある点にも注目したい。U字に着目して全体を見ると、美沢４の東側第一貝塚と西側第二貝塚、美々貝塚北の北、西盛土に伴う貝塚の関係も相似の位置となる。さらに、形成時期の関係も同じである。美沢４遺跡は炭素年代測定から第二→第一、美々貝塚北遺跡は出土遺物から西→北の順となる。この最終的にU字を描く傾向は、本遺跡の盛土も台地端部が閉じる美沢４タイプと想定するなら当てはまる。遺跡が長期にわたって形成された結果、盛土がU字となったことを示すものである。

舌状の台地を分けて形成される盛土遺構の特徴は、本遺跡も含め断片的にしか調査されていない遺跡でも適応できる。幌内５遺跡はその典型である。ショップ遺跡は極めて断片的であるが、矛盾のない位置で盛土が確認されている。台地の縁に沿って盛土が検出される特殊な冷水遺跡の例は、報告書の記述に昭和35年の室蘭本線路線敷設工事に伴い南西斜面が切削されるとあり（岩見沢市教委1976）、明治44年の旧版図には工事で失われた西側に舌状に延びる地形が認められる。西側部分の存在を考慮すると冷水の例も該当する可能性がある。

このような台地の縁を囲み、概ね「U」字形を呈する盛土遺構の起源は、早期後葉の環状、弧状遺物分布にあると思われる。これは美々５遺跡の東釧路Ⅳ式土器の分布について確認されたもので、「台地上面に内径５～60m、外径100mのほぼ環状をなして、中央広場を取り囲むように分布する」と表現されている（越田・高橋1984）。地形を区分する意図は不明瞭であるが、地域的、時期的連続性の点からも関連がある可能性が高い。

また、このような特徴がある前期前半の道央部を中心とした盛土遺構は、立地においては丘先式のチャシのあり方に似ている。時期に隔たりがあるので関連があるとは言えないが、ともに性格に不明な点の多い遺構としては共通する。チャシの研究史上その機能の一つとされる、古代の祭場（知里1953）、内陸交通や海岸交通の接点（澤1985）等の役割は、前期盛土遺構が例外なく先行する早期後半の遺物が出土していること、河川の合流点や見晴らしの良い台地に位置していることから、同様な機能があった可能性がある。

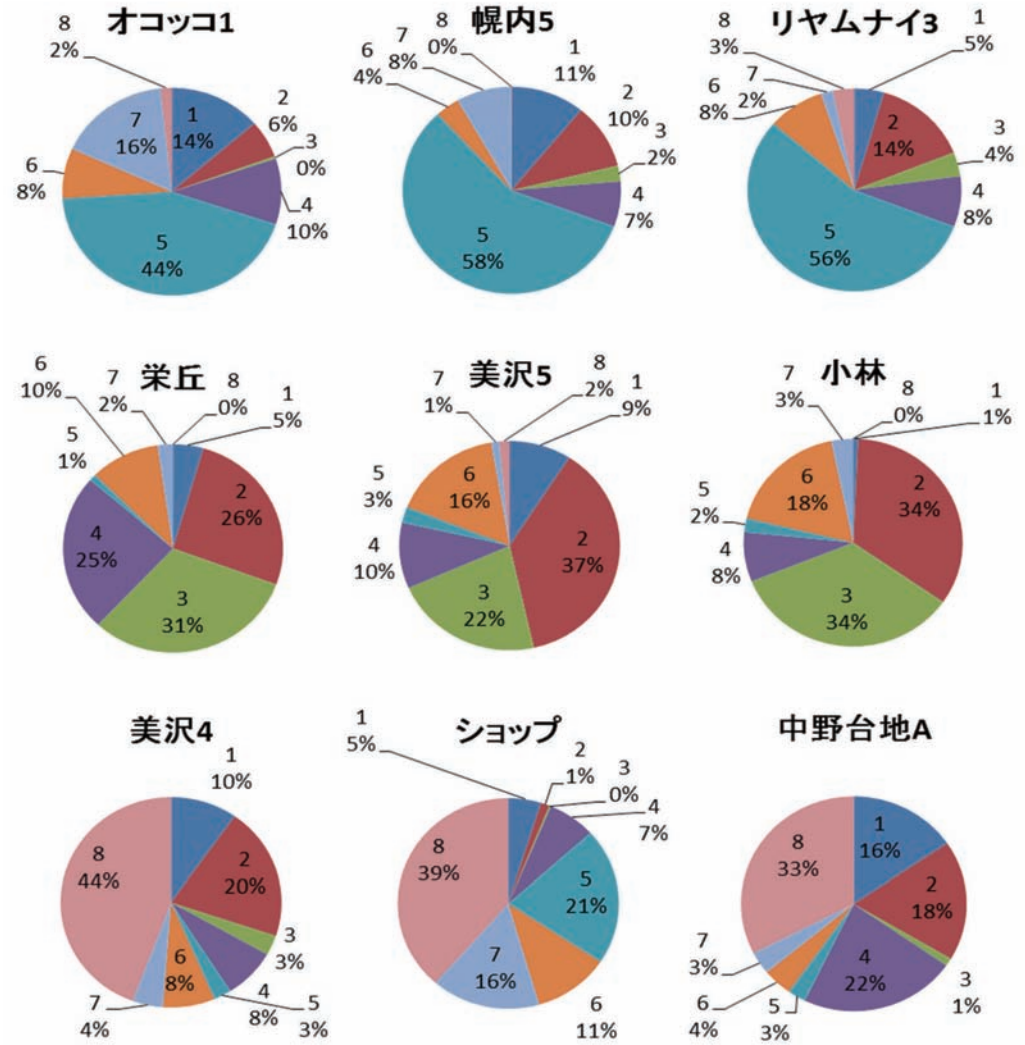
②出土遺物について

前期前半、主に静内中野式期の遺跡で出土する石器器種に、偏りがあることがこれまで何度か指摘されてきた。浦河町栄丘遺跡では、加茂川遺跡、西舎遺跡等と石器組成の比較を行い、石銛・石槍と石小刀（つまみ付きナイフ）の出土点数に顕著な差があることが確認されている。その理由については静内中野式から加茂川式に至る時期的な相違である可能性が推測されている（高橋・畑1976）。美沢４・５遺跡の報告では、石器は美沢４遺跡で石錘が多く、美沢５遺跡では非常に少ないことが指摘されている。石器群を比較してみると、美沢４では剥片石器が礫石器に比べ少ない。美沢５では礫石器が少なく、逆の傾向がみられるとされる（北海道埋文センター1980）。

また、厚真町幌内５・ニタップナイ遺跡においては、同時期の遺跡である美々貝塚北遺跡に比較して石錘が圧倒的に少ないことから、周辺環境や生活形態を反映しているという見解が示されている（乾哲也氏作成の町教委製作普及資料より）。

本遺跡の石器群も、乾の指摘通り石錘は129点とやや少ない。礫石器ではたたき石が4,409点と圧倒しており、剝片石器ではつまみ付きナイフが1,032点と、他に比較し非常に多い。当期の住居跡が５軒程度という遺跡規模からみても、不釣り合いに多い点数ではないだろうか。

このことを検討するため、石斧、石鏃、石錐、つまみ付きナイフ、たたき石、すり石（石冠・石



遺跡名			オコッコ1	幌内5	ショップ1988	栄丘	美沢4	美沢5	冷水	リヤムナイ3	柏原17A	柏原17B	芽室町小林	中野台地A
土器型式			中野	中野・春日町	トビノ	中野	トビノ	中野	トビノ	中野・春日町	中野・春日町	中野・春日町	綱文	中野
土器総数			9,403	1,143	8,787	12,000	12,394	5,819	10,000	36,806	1,704	5,125	49,674	30,526
うちⅡa点数			7,270（77%）	1,079（94%）	8,780（99%）	11,500以上（99%）	12,072（97%）	5,817（100%）	9,940（99%）	36,508（99%）	1,704（100%）	5,125（100%）	49,389（99%）	30,521（100%）
石器総数（剥片石器+礫石器）			22,447	2,386	2,362	2,234	11,996	2,594	2,676	28,769	251	519	93,233	3,326
1		石斧	1,368	203	112	55	616	98	474	111	51	71	32	349
2		石鏃	585	189	29	321	1,282	402	61	355	57	98	1,452	405
3		石錐	42	46	6	385	194	236	13	95	20	66	1,466	27
4		つまみ付きナイフ	1,026	130	162	300	486	109	99	197	28	56	328	504
5		たたき石	4,409	1,066	488	13	166	27	584	1,364	19	35	94	60
6		すり石・石冠	783	66	259	126	479	175	95	209	36	48	769	95
7		砥石	1,664	151	371	28	282	13	747	46	1	47	138	77
8		石錘	168	2	895	0	2,790	16	9	79	7	0	0	732
		礫片	248,016	6,532	61,647		25,800	3,256	―	14,117	386	2,770	12,054	―

図Ⅶ－３　各遺跡の器種別石器点数

杵）砥石、石錘の８種の石器で出土点数を比較した。対象はオコッコ１・幌内５・栄丘・美沢４・美沢５・ショップの各遺跡のほかに、共和町リヤムナイ３・芽室町小林遺跡を加えた。本遺跡以外はいずれも出土土器の 90％以上が前期前半の時期である。遺物点数は、報告書の包含層または遺跡出土総点数の記載から抽出した。円グラフは８種の遺物の総点数を 100％としそれぞれの占める割合を示した。突出して多く出土する石器の器種から三つのタイプに区分可能である。

①たたき石が多いタイプ

オコッコ１・幌内５・リヤムナイ３遺跡は、たたき石が５割近くを占める。全体の数量が不明であるため検討の対象外としたが、報告書の掲載遺物から冷水遺跡もここに含めることができる。

②石鏃・石錐が多いタイプ

石鏃と石錐を合わせると５割以上となる遺跡である。栄丘・美沢５・小林遺跡が該当する。やや点数が少ないが、柏原 17 遺跡もここに含めることができる。

③石錘が多いタイプ

石錘のみで４割近くを占める遺跡である。美沢４・ショップ・中野台地 A 遺跡が挙げられる。全体の点数が不明のためグラフにできないが、石錘が石器全体の 27％を占める美々貝塚北遺跡はここに含めることができる。

三つのタイプの違いについて、まず、時期差の可能性を考えてみる。②は綱文期の小林遺跡も含めやや古い傾向がある。しかし①、③との間には時期差を見出すことは困難で、①～③の全てが大きく縄文尖底土器期の傾向とみることが可能である。時期差以外には調査面積や遺物総点数の多寡が影響した可能性も残るが、やはり周辺環境、生活形態の差異と捉えたほうがよいかもしれない。ただし、②以外の遺跡に盛土遺構が比較的顕著で、三者の間に何らかの差異がある可能性は残る。

突出して多く出土する石器について考えてみる。それぞれの機能に着目すると、たたき石（木の実の採集）（立田 2018）、石鏃（動物狩猟）、石錘（漁猟）等、全てが狩猟、採集活動に関わるものである。取り上げた各遺跡は狩猟採集の活動拠点ではないだろうか。かつて美沢４遺跡の動物遺存体を検討した西本豊弘が、住居跡が少ないことと、貝塚出土動物の回遊性から春から秋にかけての季節的キャンプの可能性を指摘していた（西本 1984）。そうした「狩猟採集作業適地」として意識されていた場所なのかもしれない。

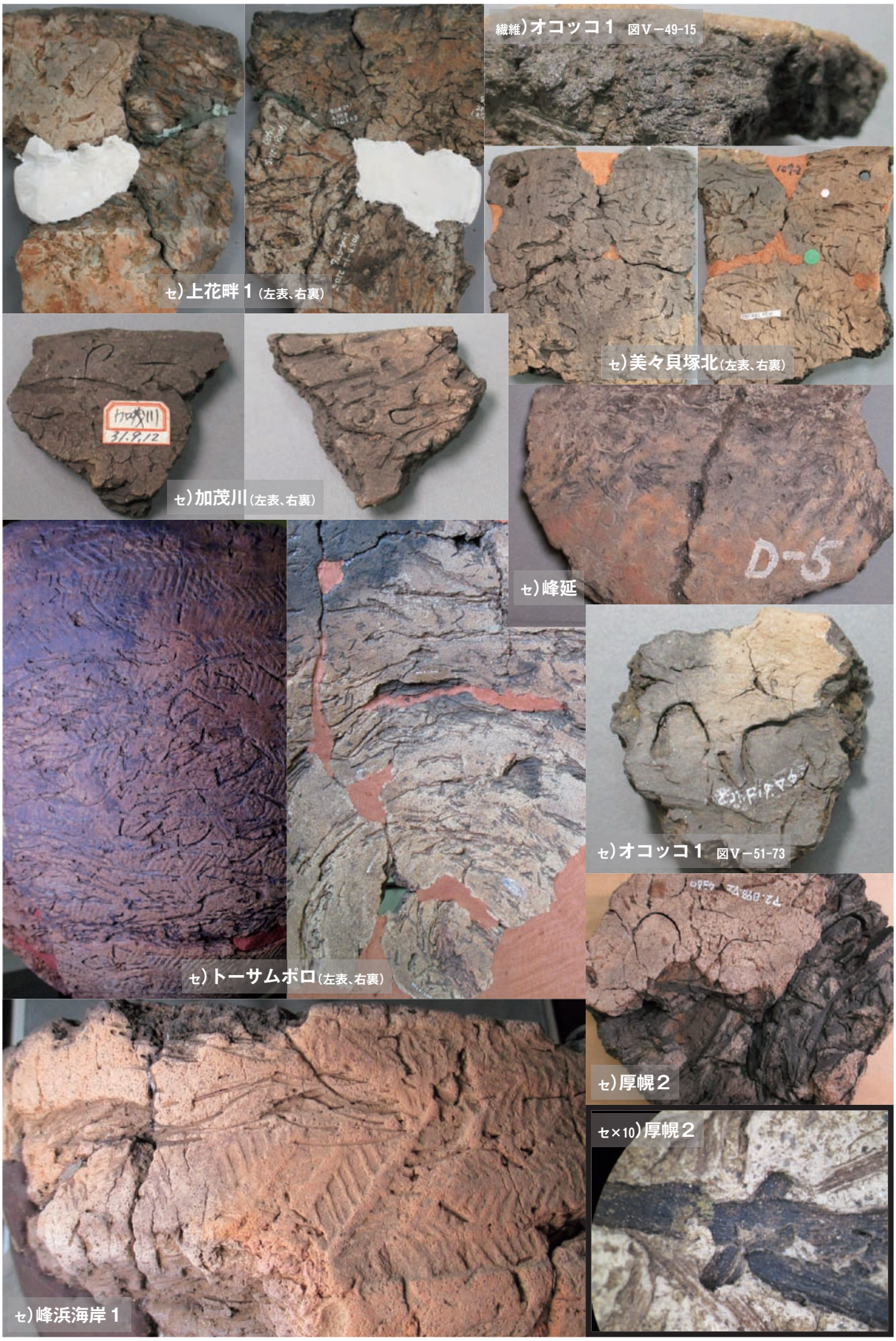
これまで「盛土遺構」と報告されてきたものは、時期を含め様々な状況のものが含まれている。今回挙げた縄文前期前半の遺構は、立地面や、盛土の供給源が削平に限定できること、その結果作成された遺構の形状、さらに出土遺物の偏りという点も含め斉一性が高い。研究上の混乱を避けるため「丘先式盛土遺構」と仮称し、時期は縄文前期前半尖底土器期に限定するものと考えておきたい。

３　遺物

（１）Ⅱ群ａ類土器の胎土について

縄文時代前期の北海道を含めた東日本の広汎な地域において、土器の胎土に繊維が混入されることは 1929 年に山内清男が「関東北の繊維土器」で明らかにし、現在でも東日本において早期末から前期前半の土器の指標となっている（山内 2008）。北海道では、繊維は前期前葉から、中期前半の円筒上層ｂ式ごろまで断続的に遺存している。前期前半には繊維に加え「蛇紋岩・滑石」や、撚糸本体を含むなど特筆すべき混和材が確認されている。だが、このような胎土の混和物は、実見しなければ比較が困難である上、注意しなければ顕著なものでない限り見逃してしまう。そこで本遺跡の資料に他遺跡の資料を加え、ａ蛇紋岩・滑石、ｂ撚糸、ｃ繊維に分け写真を用いて紹介し、研究史を踏まえ

図Ⅶ－４　胎土中の蛇紋石・撚糸


繊維）オコッコ１　図Ⅴ－49-15
セ）上花畔１（左表、右裏）
セ）美々貝塚北（左表、右裏）
セ）加茂川（左表、右裏）
セ）峰延
セ）オコッコ１　図Ⅴ－51-73
セ）トーサムポロ（左表、右裏）
セ）厚幌２
セ×10）厚幌２
セ）峰浜海岸１

図Ⅶ－５　胎土中の「センイ」

若干の傾向をまとめる。また、胎土に関連し本遺跡での胎土分析結果について考察する。

a）蛇紋岩・滑石

胎土に蛇紋岩・滑石が含まれる土器は、道内では前期と後期にある（西脇 2013）。前期前半の資料は旭川市神居古潭 15 遺跡の調査によりまとめられ、特徴は次のように報告されている（大倉 2000）。

・外観：光沢があり、すべすべ・色調：灰色、暗灰色・比重：軽い

・胎土：繊維、光沢のある黒色の岩片を多量に含む

本遺跡例も上記同様の特徴がある。西脇は加茂川遺跡の「銀色を呈し堅牢な土器」も同種と推測する（西脇 2013）。筆者が実見したものでは、中野台地 A 遺跡の二種の胎土の内の一つ、「黒色ないし灰黒色を呈し」ているもの、美々貝塚北遺跡で「黒化土器」とされるものも同種である。また美沢４遺跡の資料の中にも確認できた（図Ⅶ－２上）。図の右側に顕微鏡で 10 倍に拡大した写真を掲載した。本遺跡例は胎土分析で土器 No.2 としたものである。蛇紋石は黒色～帯緑黒色で樹脂状の光沢を呈する。旭川市の出土例を含め、中野台地 A 以外はよく似た外観をみせる。中野台地 A 遺跡の例は素地が黒色で滑石とみられる白色の岩片が目立つ。また、撚糸と蛇紋岩が同じ個体に認められる例は、本遺跡の１例以外見つけることができなかった。

b）撚糸

胎土中に撚糸を含む土器については、竹田輝夫により X 線分析を用いた検討が行われている。山内の繊維と明確な区別を行っていないが、札幌市発寒小学校裏・伊達市北黄金・静内マウタ・美々貝塚遺跡の資料について拡大写真を掲載し様相を説明している（竹田 1976）。その後、三石（現新ひだか）町ショップ遺跡において、名寄市北名・苫小牧市静川 30・様似町観音山台地遺跡に類例があること、全てが左撚１段の「L」であることなどが指摘されている（渡辺 1988）。

実見により上記遺跡以外に新ひだか町飛野台地と本遺跡の２点を確認している。実見した写真を掲載した（図Ⅶ－３下）。撚糸は全て一段「L」である。原体の幅はどれも 1 mm 程度で、太さは遺跡間でばらつきがない。混入方向は概ね器体に沿うものが多いが部分的で明らかにはしがたい。これらは全てショップ遺跡での指摘どおりである。撚糸に結び目のある発寒小学校裏遺跡と同様なものは本遺跡の１例以外には確認できなかった。

c）繊維

前期によくみられる繊維は図Ⅶ－５右上のようなものである（写真は綱文式）。その後の円筒土器期では繊維の量は少なくなるものの類似する状態で確認できる。この繊維の他に、石狩市上花畔１遺跡で確認された特殊なものがある。それは山内の言う繊維と異なり「植物の茎がそのままの形で残」り「壁土に混ぜられるスサのよう」であると強調され、カタカナで「センイ」と表現されている（石橋 1992）。この「センイ」は名寄市日進・紋別市福原遺跡の資料、さらに大沼忠春の見解から、別海町西春別・羅臼川南岸遺跡出土の押型文土器にも認められるとされる。実見により同様とみられる例を、根室市トーサムポロ・斜里町峰浜海岸１・岩見沢市加茂川・美唄市峰延遺跡、そして今年度報告となる厚真町厚幌２遺跡（北埋調報 357）で確認できた。

d）前期前半の胎土混和物について

a～c を踏まえ、以下のように指摘することができる。

蛇紋岩：蛇紋岩と撚糸の両者が混入する個体は、本遺跡の１例のみしか認められなかった。本遺跡と同じく蛇紋岩・滑石混入土器が多数を占める朝日町１遺跡で出土しておらず（滝川市教委 1997）、中野台地 A 遺跡でも撚糸が入る一群と、蛇紋岩・滑石混入土器（黒色ないし灰黒色を呈する土器）とは明確な違いが認められるとされることから、両者はほぼ排他的な傾向があるといえる。

センイ：大沼は綱文式期からこの「センイ」の存在を指摘している（別海町教委 1971）が、実見した限りでは上花畔２群、加茂川式、朱円式、温根沼式押型文に伴っている。苫小牧市美沢 11 遺跡においても、綱文式期と植苗式期の分類基準としていることも同種なことかとみられる（苫小牧市 1993）。

また、縄文尖底土器には繊維を含まない硬質に焼成した土器も存在する。これら胎土の特徴は型式差を示す可能性がある。ただし、特に「センイ」に関しては風化程度の差異で同じ胎土でも異なって見える場合も多い。X 線観察、薄片による胎土観察を行って確かめる必要がある。

e）蛇紋岩・滑石土器の分析結果から

厚真町のヲチャラセナイ遺跡では、蛇紋岩・滑石土器の分析にあたり、対照資料として新ひだか町の中野台地 A 遺跡の土器、同町シュンベツ川、芦別市新城町パンケ幌内川から採取された蛇紋岩を含んだ粘土を分析している（厚真町教委 2014c）。

本遺跡でもこの結果と比較するためⅡ群ａ２S 類土器の胎土と、出土した青灰色の塊状粘土について分析を行った（Ⅵ章３節）。結果土器はヲチャラセナイ遺跡の一部、中野台地 A 遺跡の「タルクを含む土器群」にどの指標も近く、同一起源の材料を使った可能性が指摘されている。また塊状粘土については成分上やや異なる部分があるが、蛇紋岩粘土から構成されることがわかった。

本遺跡の分析結果において、土器試料になくて粘土試料に含まれるものは、安山岩粒子と単斜輝石、斜方輝石である。その逆に、土器試料にあって粘土試料にないものは泥岩と柘榴石、植物遺体である。この差異を検討すると、粘土中の安山岩と輝石は、土壌中の樽前火山灰起源の噴出物（安山岩質）と接触して混入したもの。土器の繊維と泥岩は、土器の製作にあたってこの塊状粘土を素材として繊維を加え、泥岩の台石を使い整形して焼いた。さらに成分上の若干の違いを焼成の結果とすれば、差異をほぼ説明できる。

形を成さない土器（図Ⅴ－48-９）の存在、また胎土分析の結果想定される焼成温度が 300～400℃程度と低い点は、遺跡内に持ち込まれた粘土を整形し、繊維を混ぜて土器を即時的に製作した可能性を示唆するものである。

（２）石斧製作の状況について

本文中で触れることができなかった石斧接合資料の詳細と、そこから推定される石斧製作の状況、さらに長距離（20m 以上とした）接合資料について検討する。

a）接合資料の状況

本遺跡では、石斧製作に関わる遺物が多く出土している。分類名とその概略を述べると、石斧（小型の「石のみ」を含む）、石斧の原石、原石を打ち欠き製作途中の「石斧加工品」、研磨済みの石材に敲打や剥離加工を加えた「石斧再加工品」がある。また擦切痕跡の残る石材を擦切残片としている。さらに石斧は２分の１以下の破片を石斧片、４分の１以下の破片を石斧破片とした。石斧石材の剥片も多く出土し、それらは剥離痕が残るもの（A）、敲打痕が背面に残るもの（B）、擦切痕が残るもの（C）、研磨痕跡が認められるもの（D）を区別し記号を付した。接合作業の結果 118 点の資料が得られた。うち 40 点を掲載し、個々の状況はⅤ章に述べた（Ⅴ章３節（２））。

接合の詳細と石斧製作の状況について説明する。接合結果が石斧・石のみ、石斧加工品、石斧再加工品となった順に述べる。表Ⅴ－12 は接合資料の一覧である。表中「地区」の項に示した、北、上、南とは、M ライン以北を北、M～S ラインを上（主として削平部分）、S ライン以南を南としたものである。接合の大まかな分布をみる目的で記した。個々の資料の説明では表中の**接合番号**（下線＋ゴチック体）を用い、掲載図がある場合は番号のみ（　）で接合番号に続けて付した。以下に各分類

の接合件数、推定される破損原因、長距離接合（20m 以上）の有無を中心に説明する。

・石斧、石のみ（20 件：図Ⅴ－76～77-116～126）

20 件中完全な形状に接合できた 18 件について検討する。内７件は焼成しており、資料全体が焼けて赤変するもの６件、一部の破片のみ焼成するものが１件である。**接合番号 5**（図Ⅴ－77-121）、13 の２件は破損後の再加工が認められる。破損原因が推定できるものは、研磨中の破損が 12 件、使用による欠けが２件、被熱による破損が３件である。刃部が完全に研ぎ出されていない場合や刃部に刃こぼれ状の欠損が認めらない場合を研磨による破損と推定したが、使用による破損の可能性を完全には排除できない。20m 以上の距離を経て接合する例は８件認められた。距離はグリッドの中心から算出した。5（121）：37m、8（120）：30m、12：28m、14（126）：31m、15（124）：47m、16：19m、25（119）：58m、30（117）：26m となっている。15、25 の２例以外の接合線は北東- 南西方向で、5、15 の２例以外は刃部側の破片が北に位置する。

・石斧加工品（34 件：図Ⅴ－78～80-127～138）

石斧加工品のうち、接合の結果全体の形状がわかった 24 件について検討する。推察される破損原因は、短冊状に整形する途中とみられる「剥離折れ」が 13 件、またそれに類する敲打整形時の本体破損が５件、研磨作業中の破損が４件、被熱が１件、擦切技法が１件となっている。20m を超えて接合する例は８件、**接合番号 35**（図Ⅴ－80-138）：59m、41（129）：72m、42：22m、46（128）：54m、48（127）：57m、51（132）：26m、63：44m、68（134）：61m、接合方向に規則性はないが、刃部と基部の関係は石斧と逆転しており、基部が南となる例が６件、北が１件、不明１件である。特徴的な接合資料を１件挙げる。

接合資料 57（図Ⅴ－79-133）は、原石から剥離により短冊状に整形途中の石斧加工品である。加工品本体と調整剝片の２点が接合しているが、O21～24 の削平部分の範囲内で接合関係にあるものである。

・石斧再加工品（９件：図Ⅴ－81、82-139～148）

接合して石斧再加工品となったものは９件である。破片が細かいことや、再加工作業の影響なのか、南北盛土間で広範囲に接合する例がほぼ半数の４件ある。**接合番号 20**（図Ⅴ－80-141）：56m、26（139）：51m、47：53m、72（146）：65m である。また被熱例も５件と比較的多い。破損原因は被熱が２件、敲打剥離、整形が４件、剥離剥片が接合するものが２件である。特徴的な接合資料を１件挙げる。

接合資料 33（図Ⅴ－80-140）は、器体全体が研磨されるが刃部が作出されていない。研磨作業時に中心付近から折れたとみられるが、その後刃部を含む破片は破断面に敲打による再加工がなされるものである。両破片とも同一区同一層の出土である。

・石斧原材（20 件：図Ⅴ－81、82-149～155）

接合して石斧原材と判断されたものは 20 件ある。石斧原材から破損に至る過程がわかる 18 件を説明する。なお南北盛土間の長距離接合は９件で、最長は**接合番号 83**（153）の 68m である。推定される破損原因毎に説明する。

①擦切技法を原因とするもの（１件）

接合番号 76（図Ⅴ－82-150）は、部分的な資料であるが、周縁が打ち欠き加工された原石に擦切技法が加えられ、擦切中に節理により破損したとみられる。破損した１片は研磨による再加工が試みられている。

②敲打剥離、整形を原因とするもの（11 件）

接合番号 81（図Ⅴ－82-155）は、原石から敲打整形が行われており、節理割れを起こした後も破片が敲打されている。このほか 82、83（153）、84、86、87（152）、89 も類似する例である。また、素材の大きさから石斧ではなく、たたき石と考えられるものも３件ある。接合番号 94（154）、102、118。

③研磨作業を原因とするもの（１件）

接合番号 80 は、扁平短冊状の原石の端部を敲打して薄く仕上げた後、研磨作業を行っている。原石の中央で破断しているが、研磨により力がかかったものとみられる。図化していない。

④被熱を原因とするもの（２件）

接合番号 90、95 は、板状の原石であり、石斧石材ではない可能性がある。図化していない。

⑤剥片剥離が接合するもの（３件）

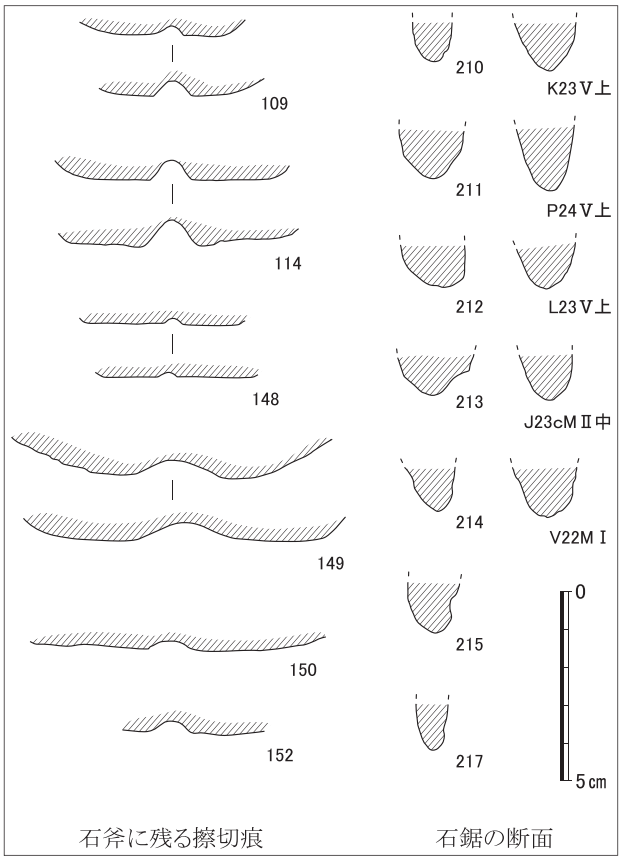
接合番号 88 は玄武岩製。92 は藍閃石片岩製。91 は緑色片岩製。打ち欠きを試みるが節理割れしている。図化していない。

b）石斧加工状況について

本遺跡出土の石斧関連遺物は、石斧製作遺跡である深川市納内３遺跡において指摘される、原石から石斧に至る製作工程すべての遺物が出土している。このことから本遺跡も「石斧製作遺跡」と解釈してよいかとみられる。納内３遺跡の石斧製作工程は、第Ⅰ工程（原材→素材採取）、第Ⅱ工程（側縁調整）第Ⅲ工程（細部調整）第Ⅳ工程（研磨）である。主として打ち欠き調整により短冊状に整形された石材が最後に研磨される。研磨は刃部および側縁が最初に行われるというものである（野中 1990）。本遺跡出土資料にはこの工程順序に当てはまらない資料が多く認められる。研磨痕、分類別の出土点数、擦切技法の３点について説明する。

①研磨痕について：本遺跡では製作工程全体を把握できなかったが、研磨は必ずしも最終工程とはならない。掲載した資料を基に説明する。刃部が研ぎだされていないため、石斧加工品とした図Ⅴ－72-78、81 は、全面研磨後に側縁に敲打調整がなされている。また、石斧原材から刃部のみ研ぎ出しを行った小型の個体がある（図Ⅴ－75-105、109、110）。さらにこの作業の完成品が２点（図Ⅴ－67-23、30）ある。敲打整形と研磨は必ずしも前者から後者の流れとはならず、また刃部のみを研ぎ出し簡便に石斧を製作することも行われるという、本遺跡での石斧製作状況の一端を示すものといえよう。

さらに研磨痕跡の残る剥片を検討する。石斧石材剝片 3,467 点中、研磨痕跡が認められるものは 734 点（21％）ある。原石面と研磨痕の両方を持つ剥片も 72 点（２％）あり、本遺跡で上記に示した小形の原石による簡便



図Ⅶ－６　擦切痕と石鋸断面

な石斧製作、剥離と研磨が混在する工程や、もしくは石斧の再加工が行われていた可能性を高める。
②分類別出土点数について：こうした作業内容の差異は、分類毎の遺物出土点数にも反映されるとみられる。未製品や破片等を含めた石斧関連遺物を大きく石斧類としてまとめ、対して剝片との点数比を比較する。

オコッコ１は1,397：3,467点、納内３は12,562：109,001点であり、剝片中の関連遺物率はオコッコ１が40％であるのに対し、納内３は11％の低率である。

このことは、作業内容の違い、すなわち、納内３においては打ち欠き加工、本遺跡は研磨を主とする作業を行っていた可能性を示す。
③擦切技法について：納内３遺跡では擦切技法はほとんど確認されていない。本遺跡は遺跡内での擦切作業を示唆する接合資料は２例ある（図Ⅴ－81-149、Ⅴ－82-150）。これらの擦切痕はともに幅広で浅い。このほか出土石斧に残る擦切痕と、石鋸の作業面の断面形を比較した（図Ⅶ－６）。本遺跡での擦切技法149、150の例に比較し、その他石斧に残る痕跡は明らかに幅が狭いことがわかる。また石鋸の断面形も217以外は幅広で、おそらく148や109の痕跡を残すことは不可能とみられる。石鋸217は小型で、石鋸として石斧を裁断するにはやや不十分である。また石鋸の断面形は左右非対称なものが半数以上を占め、砥石が結果として石鋸状を呈している可能性もうかがわれる。これらから擦切技法は本遺跡ではほとんど行われていないことは確実で、擦切技法が産地に近い地域ではあまり行われないという指摘（斉藤2006）に当てはまるものとみられる。

石鋸の幅に合わない細幅の擦切痕が存在する理由の一つは、擦切痕より研磨痕が新しい例（図Ⅴ－81-148）があることからすると、別の場所で加工された石斧を持ち込んでいるのかもしれない。

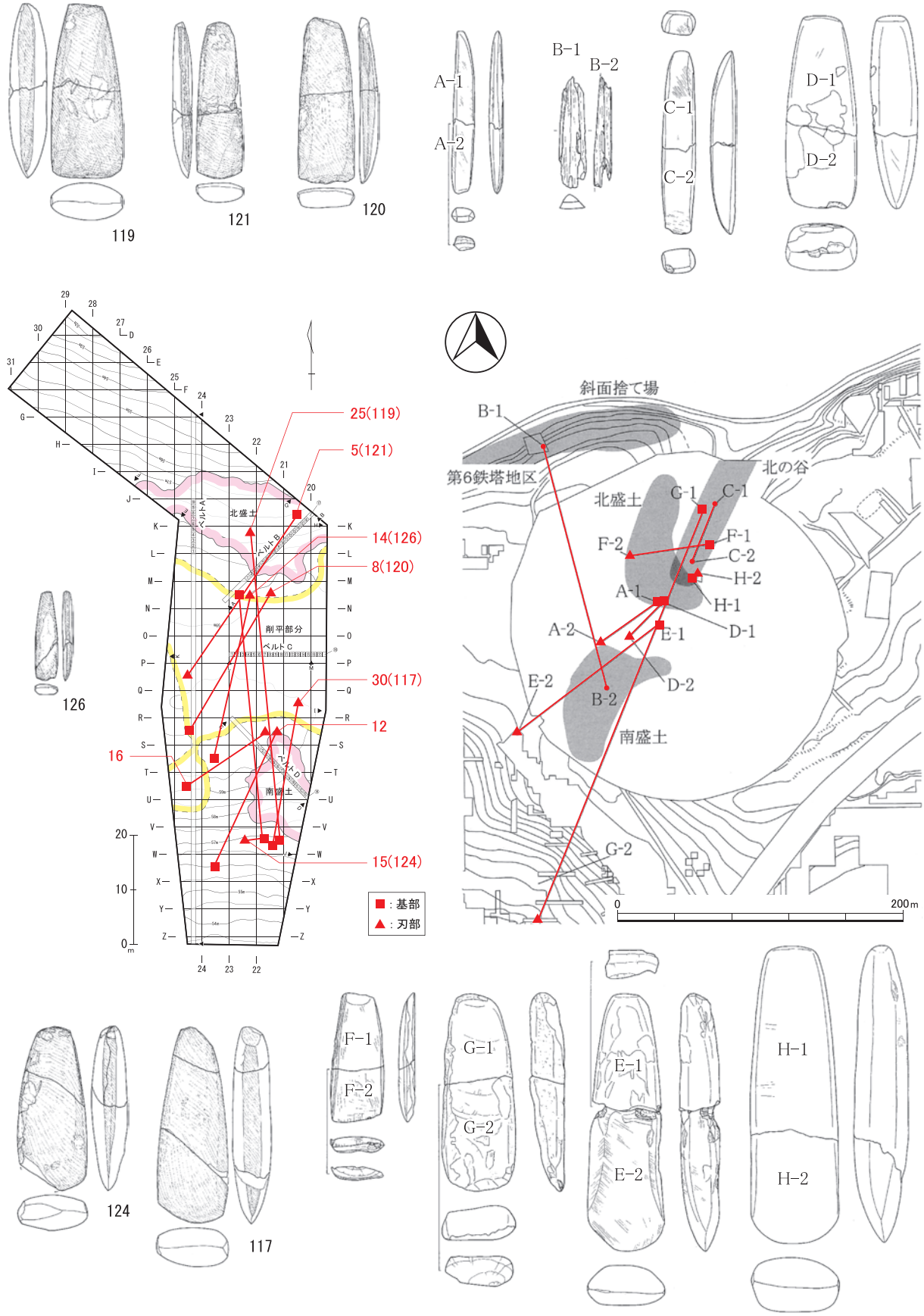
c）長距離間接合について

接合資料118件のうち、41件（34％）は20m以上の距離で接合している。同様に接合作業を行った土器、北海道式石冠、砥石、石皿の各石器では、土器は前期に限れば３例。Ⅱ群a1類土器（綱文）に35～40mの距離で接合するものが２例（図Ⅴ－49-15・16）。Ⅱ群ｂ類に25mほどの接合が１例（図Ⅴ－51-80）あるのみで、最も遺物を残したⅡ群a2類の接合のほとんどが同一グリッド内の接合である。石斧以外の石器で20m以上離れて接合した例は、北海道式石冠が31件中１件（３％）、砥石が39件中２件（５％）で、石皿にはない。

削平前の綱文期の土器が離れて接合しているのはむしろ当然であり、石皿、砥石が接合しないのは細片であることと、石皿の砕片が砥石として分類されていること等が影響しているとみられる。しかし、石斧よりも接合に多くの時間を費やした土器や、特殊な形状であることからより接合しやすかったとみられる北海道式石冠が高率ではなかったことと比較すると、石斧に限定されるやや特殊な現象と捉えることができる。

石斧が長距離に離れて接合する例は、青森県三内丸山遺跡で報告されている（斉藤2006）。齊藤岳によると接合作業の結果８点の接合資料が得られ、離れて接合するものが多く、5.6mの１点を除いては30m以上離れて接合しており、最大は303mになるという。

図Ⅶ－７は両遺跡の長距離接合の中から、接合して完全な石斧となった例の比較図である。接合破片が再加工されている場合、破片が長距離となるのは自然な現象といえるが、そうした例はともに１例ずつ含まれている。両遺跡とも多くの接合線が北東-南西方向にある。刃部片（△）と基部片（□）を示したが三内丸山遺跡は北東に、オコッコ１遺跡は南西に刃部が多い。２例のみの比較であるため、参考として報告する。



右図は齋藤 2006 を一部改変して使用した

図Ⅶ－７　石斧長距離接合例

d）本遺跡での石斧製作

これらの検討の結果、本遺跡では石斧原石、短冊状加工品、または石斧自体を遺跡内に持ち込んで、板状砂岩を用いて研磨し、石斧製作、また再加工のための研磨作業を主として行っていた可能性が高い。研ぎたてとした、擦痕を明瞭に残す石斧や、完全に刃部を研ぎ出していない個体が多いこと、研磨作業中で破損したと想定される接合資料の存在がその証左である。

納内３遺跡と差異の由来は・石材の違い（納内：片岩、オコッコ：アオトラ石）・石材産地との距離の差（納内：原産地、オコッコ：額平川から約 40km）・時期の違い（納内：中期、オコッコ：前期前半）などの可能性がある。時期差については、野中も製作技法の検討の中で後期との違いをすでに推測している（野中 1990）。

なお、遺跡周辺の軽舞層、川端層の砂岩が石斧製作に最適な石材であり、縄文時代の主な製作遺跡の分布と重なる可能性がある。このことについては別の機会に改めてまとめることにする。

（３）北海道式石冠について

a）研究史概略

北海道式石冠は、その特異な形状のため研究史上早くから注視されていた遺物である。河野広道は「御供餅形石器」の名称を与え（河野 1935）、八幡一郎は本州の石冠と異なり、研磨面を持つ実用的な石冠とし、特異な遺物であることを指摘した（八幡 1942）。扇谷昌康は八幡が分類した三種を八種に増やし、前期から中期円筒土器に至る形態的変遷を想定した（扇谷 1956）。その後、栗沢町（現岩見沢市）加茂川遺跡の調査で細分され（川野 1960）、それを踏まえた全道を対象とした分類（河野他 1966）や伊達市茶呑場遺跡での分類（名取・峰山 1963）が行われた。高橋正勝はこれらの分類を整備し、すり石から北海道式石冠に至る変遷を再確認して北海道式石冠の出現を静内中野式の時期と想定した（高橋 1971）。小嶋朋夏は高橋の分類、変遷を踏まえて出土例を集成し、その出現について静内中野式より新しい時期の道央部と時期、地域を限定している（小嶋 1999）。

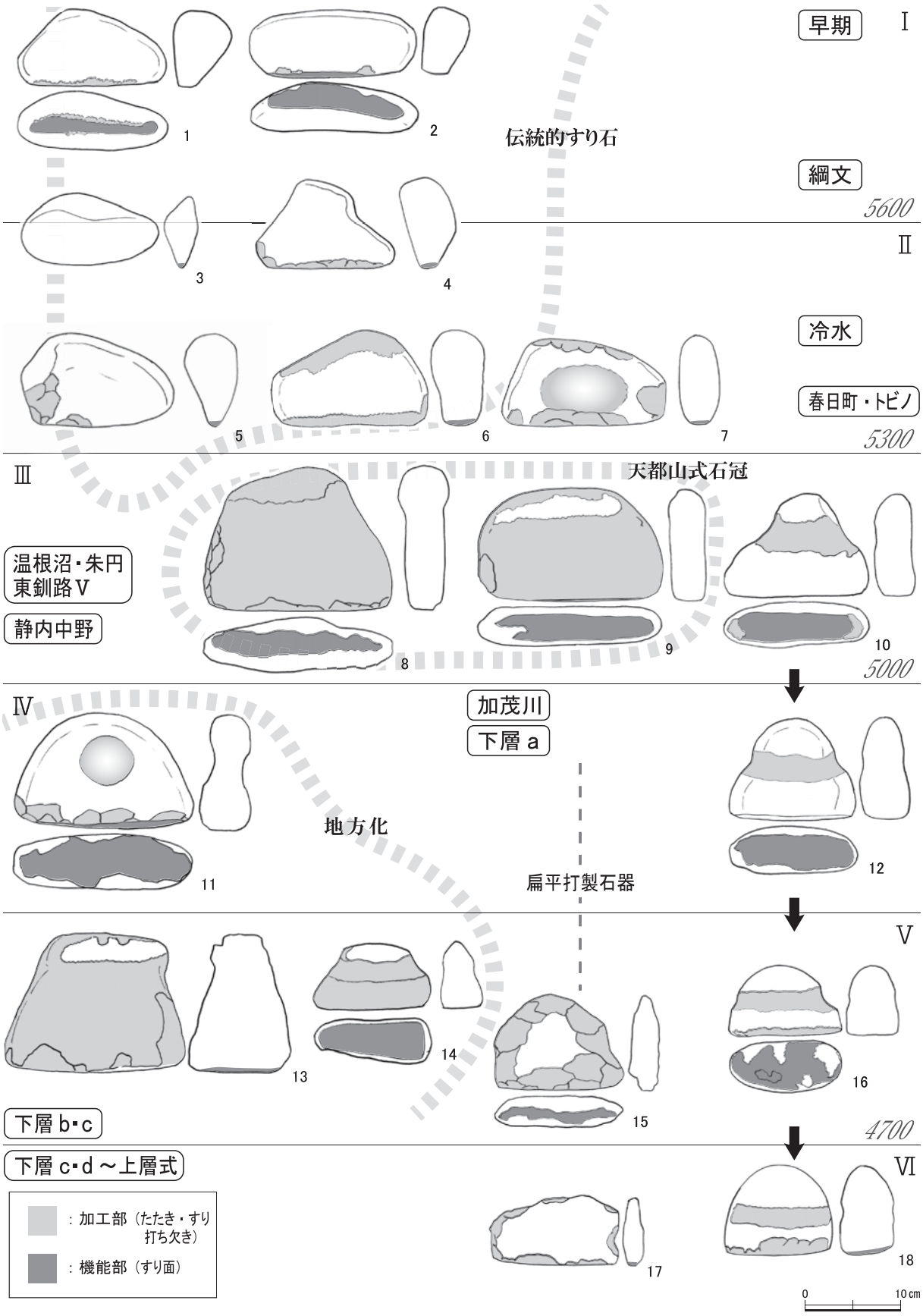
研究の進展により、出現の時期と変遷の大略はほぼ解明されている。しかし加茂川遺跡や名寄日進遺跡で認められた形態の多様性、オホーツク海周辺地域で比較的早い時期から確認されている天都山式横形石杵（河野 1935）、天都山式石冠（安部 1959）との関係については不明である。

b）本遺跡出土例の特徴

本遺跡は出現期とされる静内中野式相当期の北海道式石冠 796 点が出土し、未製品の存在から遺跡内で製作された可能性もある。主として出現期の様相について検討する。

本遺跡の北海道式石冠は「持ち手が作られたすり石」と幅広く解釈し、二つに大別した。全面が敲打整形されるものと上半に鉢巻状の帯状敲打痕が認められるものである。前者にはいわゆる「天都山式横形石杵・天都山式石冠」（以下天都山式石冠とする）に形態的に近いものもある。大きさは高さ 14cm前後で山形を呈するものと、11cm前後の扁平な形状とに分かれる。敲打整形に加え、擦り整形がなされるものもある。石材は全て砂岩である。後者の帯状敲打痕をもつものは、天都山式石冠の簡略化されたものとみられ、幅 10cm前後の小型が中心となる。石材は砂岩を主とするが、安山岩やアオトラ石を素材とするものもある。すり面の幅はともに３cm以下で、石冠としては狭い部類に区分されるものである。

天都山式石冠は、北海道式石冠と関連があるとされるものの、トコロチャシ南尾根・加茂川・日進遺跡の限られた出土例しかなく、供出土器が判明しておらず、詳細な時期は不明とされていた（小島 1999）。その具体的な形状は、網走市天都山遺跡で出土資料６点が紹介されている。器体の大部分が敲打整形され、断面は鍵穴型を呈する。石質は玄武岩とされるものである（安部 1959）。本遺跡の出



1. 函館市中野Ａ　2. 芦別市滝里４　3・4. 千歳市キウス５　5～7. 岩見沢市冷水　8～10. オコッコ１　11. 函館空港第四地点
12. 千歳市美々貝塚北　13. 伊達市北黄金　14. 帯広市宮本　15・16. 北斗市館野６　17・18. 余市町フゴッペ貝塚

図Ⅶ－８　北海道式石冠の変遷模式図

土例は、やや持ち手の膨らみが少ないが、持ち手の一部を除いてほぼ全面が敲打整形され、断面形は概ね鍵穴型で、大きさもよく似ている。

c）北海道式石冠変遷試案

図Ⅶ－８は他遺跡の出土例を加え変遷を示したものである。６期に区分したが、土器の特徴を大きくとらえ、Ⅰ：縄文丸底期、Ⅱ：縄文丸底・尖底混在期、Ⅲ：縄文尖底期、Ⅳ：縄文尖底・平底混在期、Ⅴ、Ⅵ：縄文平底期に分け、土器型式を補助的に示した。時期別に変遷を述べる。

Ⅰ・縄文丸底期：北海道式石冠が登場する以前のすり石は、早期以来存在する断面が三角形に近い細長の自然石の稜を利用するものである。素材の形状を活かしたものであることから前期前半綱文式期まであまり変化がない。Ⅱ期（丸底・尖底混在期）の冷水遺跡に使用面以外に敲打痕が広範囲に認められるものが現われる。

Ⅲ・縄文尖底期：天都山式石冠が出現する。天都山式石冠は網走市天都山遺跡で伴う土器が不明の遺物として紹介され、北見市トコロチャシ遺跡で出土するほか、斜里町大栄６遺跡では撚糸文尖底土器（朱円式・東釧路Ⅴ式）に伴い出土しているなど、オホーツク沿岸で多くみられる。他地域では名寄市日進・岩見沢市加茂川・新ひだか町中野台地遺跡・本遺跡に加え、厚真町イクバンドユクチセ３遺跡等、道央北、日高地方で出土している。伴う土器型式が不明なものが多いが、加茂川遺跡、本遺跡例から静内中野式かもしくは加茂川式の縄文尖底期が妥当である。

本遺跡で出土する小形の石冠は、最も古くに北海道式石冠的な外観を持つ石冠である。これは天都山式から敲打痕を簡略化した派生形態とみられる。前期前半に相当するものは現時点では日高・道央地区からのみ出土している。

本期の特徴は加茂川・名寄市日進遺跡でみられるように多くの種類のすり石が存在することである。この各種は早期からの伝統的なものも含め、すり面幅が形態間で差異がなく概ね３㎝以下となる。

Ⅴ・縄文平底期：円筒下層ａ式成立後、下層ｃ式までの時期を想定している。天都山式石冠は各地で地方型式に変化する。帯広市宮本遺跡や函館空港第四地点の例はこの典型である。すり面の幅が徐々に大きくなり、その変化に合わせて扁平打製石器が伴うようになる。Ⅲ期に誕生した北海道式石冠の祖形は徐々にすり面の幅を増して典型的な北海道式石冠となる。石狩低地帯以南の円筒土器文化の礫石器組成、北海道式石冠と扁平打製石器の組み合わせはこの時期に誕生したとみなされる。

天都山式石冠をⅢ期に当てはめることにより、北海道式石冠の変遷と扁平打製石器の出現が無理なく説明できる。扁平打製石器と天都山式石冠を関連付けた理由と天都山式石冠の出自について少し補足する。

北海道式石冠を集成した小島は、天都山式石冠については形態的類似があるものの、すり面の幅を減じる加工がみられることから北海道式石冠とは認めておらず、想定変遷から除外している。本遺跡出土例も側面を擦ることによりすり面の幅を減じる加工や、稜線を擦る等、細いすり幅を必要とした痕跡が認められる。小島も指摘するとおりそれ以降の石冠に認められない特徴である。Ⅳ期に相当する確実な出土例がないが、置き換わるように扁平打製石器が出土するようになることから、幅狭のすり面を必要とする機能を扁平打製石器が継承したと想定した。

天都山式石冠はどこで発生したのであろうか。土器型式からは先後を判断できないが、参考として挙げておきたいのは石材と形態の若干の相違である。オホーツク海沿岸の資料の多くが玄武岩を主とする火成岩で作られているのに対し、道央・日高の例は砂岩が多く使われている。整形後の耐久性は当然火成岩の方が優れており、本遺跡のような砂岩では、形状を長期間に保つことは困難であったとみられる。形状の上では、持ち手の作りこみはオホーツク海の資料の方がそのほかの砂岩製のものよ

り明瞭な鍵穴型につくられ、砂岩製は退化したものと考えられる。

この２点から、道央部の資料はオホーツク沿岸の資料を模倣したものである可能性を指摘しておきたい。底部に黒曜石を埋め込む技法や撚糸文の盛行といった、これまで指摘されている全道規模の製作技法上の共通点（大沼 1971）はこの想定に関連するものである。

d）最後に

北海道式石冠の祖形として天都山式石冠があること、使用面幅広化の過程で扁平打製石器が出現したことを指摘した。これらの背景には気候変動と植生が関係していることが十分に予想される。

土器型式名称では広域な比較に困難があるので、各画期に対比される補正炭素年代値を記した。小林遺跡（芽室町教委 2000）、リヤムナイ３遺跡（北埋調報 217）、根室市トーサムポロ湖周辺竪穴群（北埋調報 317）、白老町虎杖浜遺跡（北埋調報 158）、美々貝塚北遺跡（千歳市教委 2005）、八雲町山崎５遺跡（北埋調報 165）等の年代値を参考にした。非常に大まかなものに過ぎないが、近年研究が進む東北北部のすり石、自然環境変遷と比較するための参考として示した。

引用文献

阿部明義　2017 「Ⅵ　まとめ」『厚真町　上幌内３遺跡』北埋調報 335

安部三郎　1959 「天都山式石冠」ウタリ　No.69

石橋孝夫　1992 「考察」『石狩町上花畔地区宅地開発事業に伴う埋蔵文化財調査報告書』石狩町教育委員会

岩見沢市教育委員会　1976 『岩見沢市　冷水遺跡』

扇谷昌康　1956 『北海道の石冠についての二・三の観察』 先史時代　第三輯　先史学同好会

大沼忠春　1971 「第Ⅰ章　別海町の歴史的環境」『浜別海遺跡』

川野栄三郎　1960 『静内中野式に伴出する北海道式石冠について』 先史時代　第十一輯　先史学同好会

河野広道　1935 『北海道石器時代概要』「ドルメン」4-6

河野広道・岩崎隆人・宇田川　洋・本田栄作・河野本道　1966 『栗沢町加茂川遺跡』北海道発掘調査シリーズ No.1　北海道出版企画センター

小嶋朋夏　1999 『北海道式石冠の分布とその意義』北海道考古学　第 35 輯　北海道考古学学会

斉藤　岳　2006 『三内丸山遺跡の磨製石斧の全体像の解明に向けて』 特別史跡三内丸山遺跡年報 9　青森県教育委員会

澤　四郎　1985 『チャシの立地覚え書き』 釧路市立博物館紀要　第 10 輯

鈴木　信　2000 「Ⅵ　成果と問題点　2　H-13 の竈廃用祭祀について」『千歳市　ユカンボシ C15 遺跡』北埋調報 146

高橋稀一・越田賢一郎　1984 『美沢川流域の遺跡群―遺物分布と遺構分布の関係からみて―』 北海道の歴史　考古編 1

高橋正勝　1971 『北海道における擦石・石冠について』 北海道の文化　22　北海道文化財保護協会

高橋正勝・畑宏明　1976 『浦河町栄丘遺跡出土の石器―中野式土器に伴う石器群―』北海道考古学　第 12 輯

竹田輝夫　1976 『中野式土器―胎土に含む撚糸繊維の X 線投射の試みから』同上

立田　理　2018 「Ⅶ章　総括　1（2）たたき石について」北埋調報 341　公益財団法人北海道埋蔵文化財センター

塚本浩司　2002 「擦文土器の編年と地域差について」『東京大学考古学研究室研究紀要』17

野中一宏　1990 「石狩川中流域における縄文時代の石斧製作址について」北海道考古学　第 26 輯

西脇対名夫　2013 「北海道の滑石混和土器」『季刊　考古学』第 125 号

西本豊弘　1984 「狩猟・漁労の場と遺跡」『季刊　考古学』第 7 号

前田　潮　1985 「道東地方に見る擦文文化終末期住居様式の諸形態」『日本史の黎明』八幡一郎先生頌寿記念考古学論集

知里真志保　1953 「アイヌ宗教成立の史的背景」『和人は舟を食らう』所収

八幡一郎　1942 『北海道の石冠類』人類学雑誌　第 57 巻 4 号

山内幹夫　2008 「繊維土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション

渡辺俊一　1998 「第Ⅳ章 2　中野式土器について」『ショップ遺跡』三石町教育委員会・苫小牧市埋蔵文化財調査センター

鵡川町教育委員会　1977 『鵡川町遺跡分布報告』

厚真町教育委員会

2004 『厚幌 1 遺跡』

2006 『上幌内モイ遺跡（1）』

2007 『上幌内モイ遺跡（2）』

2009a 『上幌内モイ遺跡（3)』
2009b 『ニタップナイ遺跡（1)』
2010a 『厚幌１遺跡（2)・幌内７遺跡（1)』
2010b 『幌内５遺跡（1)・富里２遺跡・ニタップナイ遺跡（2)』
2011 『オニキシベ２遺跡』
2013a 『ヲチャラセナイチャシ跡・ヲチャラセナイ遺跡』
2013b 『オニキシベ５遺跡』
2013c 『ヲイカルマイ遺跡』
2014a 『厚幌１遺跡（3)』
2014b 『オニキシベ４遺跡』
2014c 『ヲチャラセナイ遺跡』
2014d 『オニキシベ６遺跡』
2014e 『ショロマ３遺跡』
2015a 『ショロマ１遺跡（1)』
2015b 『ショロマ２遺跡』
2016 『上幌内１遺跡』
2017a 『上幌内２遺跡』
2017b 『一里沢遺跡』
2018a 『ショロマ１遺跡（2)』
2018b 『上幌内１遺跡（2)』
財団法人北海道埋蔵文化財センター
1980 『フレペッ遺跡群』―新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書―
1997 『千歳市　キウス５遺跡（4）Ｂ地区・Ｃ地区』 北埋調報 116
1999 『八雲町　山崎５遺跡』北埋調報 165
公益財団法人北海道埋蔵文化財センター
2006 『共和町　上リヤムナイ遺跡・リヤムナイ３遺跡』 北埋調報 227
2015a 『厚真町　朝日遺跡』 北埋調報 313
2015b 『根室市　トーサムポロ湖周辺竪穴群』北埋調報 317
2015c 『厚真町　オニキシベ１遺跡』 北埋調報 318
2015d 『厚真町　イクバンドユクチセ２遺跡』 北埋調報 319
2016a 『厚真町　ショロマ４遺跡』 北埋調報 322
2016b 『厚真町　イクバンドユクチセ３遺跡』 北埋調報 325
2016c 『厚真町　富里３遺跡』 北埋調報 326
2017a 『厚真町　上幌内３遺跡』 北埋調報 335
2017b 『厚真町　厚幌１遺跡　幌内６遺跡　幌内７遺跡』 北埋調報 336
2017c 『厚真町　オコッコ１遺跡（1)』 北埋調報 338
2018a 『豊沢５遺跡　富里１遺跡　豊沢 10 遺跡　豊丘２遺跡』 北埋調報 341
2018b 『厚真町　上幌内４遺跡　上幌内５遺跡』 北埋調報 345
2018c 『厚真町　オニキシベ３遺跡』 北埋調報 346
2019a 『厚真町　厚幌２遺跡』 北埋調報 357
2019b 『厚真町　鯉沼２遺跡』 北埋調報 358
札幌市教育委員会　2008 『K528 遺跡』札幌市文化財調査報告書 86
滝川市教育委員会　1997 『朝日町１遺跡』
千歳市教育委員会　2005 『美々貝塚北遺跡における考古学的調査』 千歳市文化財調査報告書 32
2006 『イヨマイ７遺跡・イヨマイ８遺跡』 千歳市文化財調査報告書 33
別海町教育委員会　1971 『浜別海遺跡』
芽室町教育委員会　2000 『芽室町　小林遺跡』芽室町埋蔵文化財調査報告　第１輯

図Ⅶ-4・5 に写真を掲載した土器は、苫小牧市教育委員会（美沢 4)、千歳市埋蔵文化財センター（美々貝塚北)、岩見沢市教育委員会（加茂川)、美唄市郷土史料館（峰延)、斜里町教育委員会（峰浜海岸 1)、石狩市教育委員会（上花畔 1)、根室市歴史と自然の資料館（トーサムポロ)、新ひだか町教育委員会（中野台地 A、飛野台地、ショップ）が所蔵する。